

# ●夏期スクーリング開講講座一覧表

夏期スクーリング第1期(8/3~8/8)

講座コード	講座名	教員名	開講単位数	科目コード	充当科目名	併用	配当学年	実施方法	実施時期	受講者数制限	備考	
C0A1	歴史学	堀川 徹	2	B11100	歴史学		1			50名		
C0A2	法学(日本国憲法2単位を含む)	水野 正	2	B11500	法学(日本国憲法2単位を含む)		1					
C0A3	英語 A	マイケル ギルロイ	1	C10100	英語 I		1				75名	
				C10200	英語 II							
				C10300	英語 III		2					
				C10400	英語 IV							
C0A4	英語 B	賀美 真之介	1	C10100	英語 I		1					
				C10200	英語 II							
				C10300	英語 III		2					
				C10400	英語 IV							
C0A5	保健体育講義 I A	高橋 正則	1	H10100	保健体育講義 I	×	1		前半	75名	・8/3~8/5のみ開講。 ・スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。	
C0A6	憲法	名雪 健二	2	K20100	憲法		※			75名	・法学部のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。	
C0A7	民法Ⅳ A	加藤 雅之	2	K30300	民法Ⅳ		2					
C0A8	民法Ⅴ A	大杉 麻美	2	K30400	民法Ⅴ		2			50名		
C0A9	商法Ⅲ	大久保 拓也	2	K30700	商法Ⅲ		2					
C0AA	労働法	新谷 真人	2	K31300	労働法		2					
C0AB	行政学	山田 光矢	2	L30100	行政学		2					
C0AC	国文学講義Ⅱ(中古)	笹生 美貴子	2	M306S0	国文学講義Ⅱ(中古)	×	2					
C0AD	国文学講義Ⅵ(現代) A	尾形 大	2	M31000	国文学講義Ⅵ(現代)		2					
C0AE	英文法 A	真野 一雄	2	N20200	英文法		※				・文学専攻(英文学)のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。	
C0AF	英語学概説	山岡 洋	2	N30700	英語学概説		2					
C0AG	西洋古典	福島 昇	2	N308S0	西洋古典	×	2					
C0AH	英語学演習 A	小澤 賢司	1	N401S0	英語学演習Ⅰ	×	3	対面	後半	30名	・文学専攻(英文学)のみ申込可。	
				N402S0	英語学演習Ⅱ							
				N403S0	英語学演習Ⅲ							
C0AJ	倫理学基礎講読	関谷 雄磨	2	P30200	倫理学基礎講読		2					
C0AK	東洋史特講Ⅱ	高綱 博文	2	Q31100	東洋史特講Ⅱ		2	ZOOM	後半	30名		
C0AL	経済開発論	前野 高章	2	R31400	経済開発論		2					
C0AM	情報概論 A	中村 典裕	2	R32300	情報概論		2					
C0AN	広告論	雨宮 史卓	2	S30900	広告論		2			75名		
C0AP	教育原論/教育の思想 A	渡辺 典子	2	T10200	教育原論	×	2	対面	前半	30名	スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。	
				T10300	教育の思想							
C0AQ	国語科教育法Ⅰ	野澤 拓夫	2	T20300	国語科教育法Ⅰ	×	2	対面	後半	30名	スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。	
				T23500	国語科教育法Ⅰ							
C0AR	人文地理学概論	小倉 真	2	T22200	人文地理学概論		2			50名		
C0AS	漢字書法	徳泉 さち	2	T22400	漢字書法	×	2	対面	前半	30名	スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。	
C0AT	特別支援教育概論	田尻 由起	1	T23200	特別支援教育概論	×	2	対面	後半	30名	8/7, 8/8のみ開講。 スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。	
C0AU	英語科教育法Ⅲ	リチャード キャラカー	2	T30300	英語科教育法Ⅲ	×	2	対面	前半	30名	・文学専攻(英文学)のみ申込可。 ・スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。	
C0AW	博物館教育論	岡部 幹彦	2	Y20900	博物館教育論	×	2				スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。	

# ●夏期スクーリング開講講座一覧表

夏期スクーリング第2期(8/10～8/15)

講座コード	講座名	教員名	開講単位数	科目コード	充当科目名	併用	配当学年	実施方法	実施時期	受講者数制限	備考
C0B1	政治学	関根 二三夫	2	B11700	政治学		1				
C0B2	英語 C	和泉 周子	1	C10100	英語 I		1			50名	
				C10200	英語 II						
				C10300	英語 III		2				
				C10400	英語 IV						
C0B3	英語 D	アレックス ブラウン	1	C10100	英語 I		1				
				C10200	英語 II						
				C10300	英語 III		2				
				C10400	英語 IV						
C0B4	フランス語 I・II	大庭 克夫	1	E10100	フランス語 I		1				
				E10200	フランス語 II						
C0B5	体育実技 I・II	高橋 正則	1	J101S0	体育実技 I	×	1			200名	スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。
				J102S0	体育実技 II						
C0B6	民法IV B	清水 恵介	2	K30300	民法IV		2			100名	
C0B7	商法 I	宮崎 裕介	2	K30500	商法 I		2				
C0B8	民事訴訟法	吉田 純平	2	K31600	民事訴訟法		2				
C0B9	経済学原論/経済原論	陸 亦群	2	L20200	経済学原論		2	ZOOM	後半		・法学部のみ申込可。
				R20100	経済学原論						・文理/経済/商学部のみ申込可。
C0BA	国際政治学/国際政治論/国際政治学概論	大八木 時広	2	L30200	国際政治学		2				・法学部, 文理学部, 商学部のみ申込可。
				R32700	国際政治論						・経済学部のみ申込可。
				S33200	国際政治学概論						・商学部のみ申込可。
C0BB	地方自治論	山田 光矢	2	L30800	地方自治論		2				
C0BC	経済学説史/経済学史 A	塚本 隆夫	2	L31300	経済学説史		2				・法学部のみ申込可。
				R30100	経済学史						・文理学部, 経済学部, 商学部のみ申込可。
C0BD	国文法	阿久澤 忠	2	M30300	国文法		2				
C0BE	国語学講義	鈴木 功真	2	M30400	国語学講義		2			280名	
C0BF	国語音声学	林 直樹	2	M31400	国語音声学		2				
C0BG	国語学演習 I～III	杉山 俊一郎	1	M401S0	国語学演習 I	×	3	ZOOM	後半		・文学専攻(国文学)のみ申込可。
				M402S0	国語学演習 II						
				M403S0	国語学演習 III						
C0BH	国文学演習 A	高橋 優美穂	1	M404S0	国文学演習 I	×	3	ZOOM	前半	30名	・文学専攻(国文学)のみ申込可。
				M405S0	国文学演習 II						
				M406S0	国文学演習 III						
				M407S0	国文学演習 IV						
				M408S0	国文学演習 V						
				M409S0	国文学演習 VI						
C0BJ	イギリス文学史 I A	常名 朗央	2	N20100	イギリス文学史 I		※			50名	・文学専攻(英文学)のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。
C0BK	アメリカ文学史 A	北原 安治	2	N30200	アメリカ文学史		2			75名	
C0BL	スピーチコミュニケーション II	リチャード キャラカー	1	N31000	スピーチコミュニケーション II		2	ZOOM	前半	60名	
C0BM	英語学特殊講義 A	吉良 文孝	2	N311S0	英語学特殊講義	×	2	対面	前半	30名	
C0BN	英語学演習 B	真野 一雄	1	N401S0	英語学演習 I	×	3				・文学専攻(英文学)のみ申込可。
				N402S0	英語学演習 II						
				N403S0	英語学演習 III						
C0BP	英語学演習 C	田中 竹史	1	N401S0	英語学演習 I	×	3	対面	後半	30名	・文学専攻(英文学)のみ申込可。
				N402S0	英語学演習 II						
				N403S0	英語学演習 III						
C0BQ	英米文学演習 A	鈴木 ふさ子	1	N404S0	英米文学演習 I	×	3	対面	後半	30名	・文学専攻(英文学)のみ申込可。
				N405S0	英米文学演習 II						
				N406S0	英米文学演習 III						

# ●夏期スクーリング開講講座一覧表

夏期スクーリング第2期(8/10～8/15)

講座コード	講座名	教員名	開講単位数	科目コード	充当科目名	併用	配当学年	実施方法	実施時期	受講者数制限	備考
C0BR	哲学演習 A	長谷川 武雄	1	P401S0	哲学演習 I	×	3	対面	後半	30名	・哲学専攻のみ申込可。
				P402S0	哲学演習 II						
C0BS	日本史入門 A	関 幸彦	2	Q20100	日本史入門		※				・史学専攻のみ1学年以上申込可。 上記以外は2学年以上申込可。
C0BT	日本史演習 I・II	下川 雅弘	1	Q401S0	日本史演習 I	×	3	対面	前半	30名	・史学専攻のみ申込可。 ・在学年数2年以上の者を優先。
				Q402S0	日本史演習 II						
C0BU	地方財政論	斎藤 英明	2	R31600	地方財政論		2	ZOOM	前半	60名	
C0BW	貿易論	岡田 直己	2	S30400	貿易論		2	ZOOM	後半		
C0BY	証券市場論	佐藤 猛	2	S30800	証券市場論		2			60名	
C0BZ	社会科・公民科教育法 II	壽福 隆人	2	T20800	社会科・公民科教育法 II	×	2	対面	前半	30名	・スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。 ・法学部、哲学専攻、経済学部、商学部のみ申込可。
C0G1	英語科教育法 II B	市川 泰弘	2	T21000	英語科教育法 II	×	2	対面	前半	30名	・文学専攻(英文学)のみ申込可。 ・スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。
C0G2	法学通論/法律学概論(国際法を含む)	遠藤 清臣	2	T22600	法学通論		2				・哲学専攻、史学専攻のみ申込可。
				T22700	法律学概論(国際法を含む)						・経済学部、商学部のみ申込可。
C0G3	教育課程論	滝澤 雅彦	2	T23300	教育課程論	×	2				スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。
C0G4	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	今泉 朝雄	2	T23400	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	×	2				スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。
C0G5	英語科教育法IV	小林 和歌子	2	T30400	英語科教育法IV	×	2				スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。
C0G6	生徒指導・進路指導論	上野 昌之	2	T30500	生徒指導・進路指導論	×	2	対面	後半	30名	スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。
C0G7	博物館経営論	中野 照男	2	Y20400	博物館経営論	×	2				スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。

# ●夏期スクーリング開講講座一覧表

夏期スクーリング第3期(8/17~8/22)

講座コード	講座名	教員名	開講単位数	科目コード	充当科目名	併用	配当学年	実施方法	実施時期	受講者数制限	備考
C0C1	総合科目 A	根岸 良征	2	B101S0	総合科目 I	×	1			75名	スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。
				B102S0	総合科目 II						
				B103S0	総合科目 III						
				B104S0	総合科目 IV						
				B105S0	総合科目 V						
				B106S0	総合科目 VI						
C0C2	美術史	森下 和貴子	2	B11400	美術史		1				
C0C3	英語 E	小田井 勝彦	1	C10100	英語 I		1				
				C10200	英語 II		2				
				C10300	英語 III						
				C10400	英語 IV						
C0C4	英語 F	寒河江 融	1	C10100	英語 I		1			50名	
				C10200	英語 II		2				
				C10300	英語 III						
				C10400	英語 IV						
C0C5	英語 V A	島本 慎一郎	1	C10500	英語 V		2				
C0C6	ドイツ語 I・II	志田 慎	1	D10100	ドイツ語 I		1				
				D10200	ドイツ語 II						
C0C7	保健体育講義 I B	高橋 正則	1	H10100	保健体育講義 I	×	1		前半	75名	・8/17~8/19のみ開講。 ・スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。
C0C8	民法 III	田中 夏樹	2	K30200	民法 III		2			75名	
C0C9	知的財産権法	安田 和史	2	K31400	知的財産権法		2				
C0CA	政治学原論	吉野 篤	2	L20100	政治学原論		2				
C0CB	経済政策/経済政策総論	周藤 利一	2	L31500	経済政策		2				・法学部のみ申込可。
				R30700	経済政策総論						・文理/経済/商学部のみ申込可。
C0CC	イギリス文学史 I B	野呂 有子	2	N20100	イギリス文学史 I		※				・文学専攻(英文学)のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。
C0CD	英文法 B	山岡 洋	2	N20200	英文法		※				・文学専攻(英文学)のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。
C0CE	英作文 II	アレックス ブラウン	2	N30500	英作文 II		2				スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。
C0CF	英語音声学	森 晴代	2	N30600	英語音声学		2			75名	
C0CG	英米文学特殊講義	猪野 恵也	2	N31200	英米文学特殊講義		2			75名	
C0CH	異文化間コミュニケーション概論	大庭 香江	2	N31700	異文化間コミュニケーション概論	×	2				スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。
C0CJ	英語学演習 D	田中 竹史	1	N401S0	英語学演習 I	×	3	対面	前半	30名	・文学専攻(英文学)のみ申込可。
				N402S0	英語学演習 II						
				N403S0	英語学演習 III						
C0CK	哲学基礎講読	中澤 瞳	2	P20100	哲学基礎講読		※				・哲学専攻のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。
C0CL	古文書学	渡邊 浩史	2	Q31700	古文書学		2				
C0CM	租税論	鶴藤 俊英	2	R31700	租税論		2				
C0CN	金融論	谷川 孝美	2	R31800	金融論		2				
C0CP	経済地理学/経済地理	清水 和明	2	R32600	経済地理学		2			75名	法学部、文理学部、経済学部のみ申込可。
				S32200	経済地理						商学部のみ申込可。
C0CQ	簿記論 I	林 徳順	2	S20300	簿記論 I		※			50名	・商学部のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。
C0CR	商法 A	金澤 大祐	2	S30200	商法		2				
C0CS	現代教職論	杉森 知也	2	T10100	現代教職論	×	2	ZOOM	前半	30名	スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。

# ●夏期スクーリング開講講座一覧表

夏期スクーリング第3期(8/17～8/22)

講座コード	講座名	教員名	開講単位数	科目コード	充当科目名	併用	配当学年	実施方法	実施時期	受講者数制限	備考
C0CT	社会科・地理歴史科教育法Ⅰ	ト部 勝彦	2	T20500	社会科・地理歴史科教育法Ⅰ	×	2	ZOOM	後半	30名	・法学部、史学専攻、経済学部、商学部のみ申込可。 ・スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。 ・以下の履修条件を満たすこと。 ①自宅でのPC利用で定額制によるブロードバンドの通信環境が整っていること ②プリント出力・スキャン入力に即応できること ③ある程度PC操作に慣れていること ④事前課題を意欲的に取り組めること
				T23600	社会科・地理歴史科教育法Ⅰ						
C0CU	社会科・地理歴史科教育法Ⅱ	宇内 一文	2	T20600	社会科・地理歴史科教育法Ⅱ	×	2	※	前半	30名	・最終日(8/19)のみ対面授業。 ・法学部、史学専攻、経済学部、商学部のみ申込可。 ・スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。
C0CW	道徳教育の理論と方法/道徳教育の研究	李 吉魯	2	T21300	道徳教育の理論と方法	×	2	MEET	後半	50名	スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。
				T21400	道徳教育の研究						
C0CY	かな書法	山本 まり子	2	T22500	かな書法	×	2	ZOOM	前半		・文学専攻(国文学)のみ申込可。 ・スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。
C0CZ	国語科教育法Ⅲ	野澤 拓夫	2	T30100	国語科教育法Ⅲ	×	2	対面	前半	30名	スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。
C0G8	博物館情報・メディア論	小林 克	2	Y21000	博物館情報・メディア論	×	2	※	後半		・最終日(8/22)のみZOOM利用。 ・スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。

# ●夏期スクーリング開講講座一覧表

夏期スクーリング第4期(8/24~8/29)

講座コード	講座名	教員名	開講単位数	科目コード	充当科目名	併用	配当学年	実施方法	実施時期	受講者数制限	備考
C0D1	心理学	須永 範明	2	B12100	心理学		1				
C0D2	英語 G	佐藤 恵一	1	C10100	英語 I		1				
				C10200	英語 II						
				C10300	英語 III		2				
				C10400	英語 IV						
C0D3	TOEIC	八木 茂那子	1	C108S0	TOEIC	×	1				
C0D4	中国語 I・II	坂江 徹	1	F10100	中国語 I		1				
				F10200	中国語 II						
C0D5	民法 I	野中 貴弘	2	K20200	民法 I		※			100名	・法文学部のみ1学年以上申込可。 上記以外は2学年以上申込可。
C0D6	商法 II	大久保 拓也	2	K30600	商法 II		2				
C0D7	法哲学 A	高須 則行	2	K318S0	法哲学	×	2				
C0D8	日本史概論/日本史概説 A	鍋本 由徳	2	K32200	日本史概論		2				・法学部のみ申込可。
				Q30200	日本史概説						・文理/経済/商学部のみ申込可。
C0D9	財政学/財政学総論	金子 光	2	L31400	財政学		2	ZOOM	前半		・法学部のみ申込可。
				R31500	財政学総論						・文理/経済/商学部のみ申込可。
C0DA	国文学基礎講義	近藤 健史	2	M20100	国文学基礎講義		※				・文学専攻(国文学)のみ1学年以上申込可。 それ以外は2学年以上申込可。
C0DB	国文学概論 A	武藤 純子	2	M20200	国文学概論		※			50名	・文学専攻(国文学)のみ1学年以上申込可。 それ以外は2学年以上申込可。
C0DC	国文学講義Ⅳ(近世)	山崎 泉	2	M30800	国文学講義Ⅳ(近世)		2			50名	
C0DD	漢文学 I A	青木 隆	2	M31500	漢文学 I		2			50名	
C0DE	アメリカ文学史 B	鈴木 孝	2	N30200	アメリカ文学史		2				
C0DF	英語史	齊藤 雄介	2	N30300	英語史		2	ZOOM	後半		
C0DG	英語学演習 E	山岡 洋	1	N401S0	英語学演習 I	×	3	ZOOM	後半		・文学専攻(英文学)のみ申込可。
				N402S0	英語学演習 II						
				N403S0	英語学演習 III						
C0DH	英米文学演習 B	新井 英夫	1	N404S0	英米文学演習 I	×	3				・文学専攻(英文学)のみ申込可。
				N405S0	英米文学演習 II						
				N406S0	英米文学演習 III						
C0DJ	宗教学基礎講義	富田 真浩	2	P30100	宗教学基礎講義		2				
C0DK	哲学概論 A	齋藤 隆	2	P30300	哲学概論		2	ZOOM	前半		
C0DL	科学哲学	江川 晃	2	P31300	科学哲学		2			50名	
C0DM	史学概論	古川 隆久	2	Q30100	史学概論		2				
C0DN	東洋史特講 I	須江 隆	2	Q31000	東洋史特講 I		2				
C0DP	経済史総論	飯島 正義	2	R20200	経済史総論		※				・経済学部は1学年以上申込可。 上記以外は2学年以上申込可。
C0DQ	情報概論 B	荒関 仁志	2	R32300	情報概論		2				
C0DR	商品学	金崎 賢希	2	S30300	商品学		2			50名	
C0DS	国際金融論	谷川 孝美	2	S31200	国際金融論		2				
C0DT	発達と学習	野村 康治	2	T10500	発達と学習	×	2	対面	前半	30名	スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。
				T23100	発達と学習						
C0DU	社会科・公民科教育法 I	宇内 一文	2	T20700	社会科・公民科教育法 I	×	2	※	前半	30名	・法学部、哲学専攻、経済学部、商学部のみ申込可。 ・オンデマンド授業と対面授業を組み合わせ開講。 ・スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。
				T23700	社会科・公民科教育法 I						
C0DW	教育の方法・技術論	古賀 徹	2	T21700	教育の方法・技術論	×	2				スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。
C0DY	文化人類学	服部 慶亘	2	Y21300	文化人類学		2				

# ●夏期スクーリング開講講座一覧表

夏期スクーリング第5期(8/31~9/5)

講座コード	講座名	教員名	開講単位数	科目コード	充当科目名	併用	配当学年	実施方法	実施時期	受講者数制限	備考
C0E1	総合科目 B	鍋本 由徳	2	B101S0	総合科目 I	×	1	※	後半	50名	・6日間開講授業。最終日のみ対面実施。 ・パソコンで作業を行うため、スマホでの授業は不可。 ・スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。
				B102S0	総合科目 II						
				B103S0	総合科目 III						
				B104S0	総合科目 IV						
				B105S0	総合科目 V						
				B106S0	総合科目 VI						
C0E2	英語 H	山下 登子	1	C10100	英語 I		1			50名	
				C10200	英語 II		2				
				C10300	英語 III						
				C10400	英語 IV						
C0E3	英語 J	齊藤 雄介	1	C10100	英語 I		1	ZOOM	後半		
				C10200	英語 II		2				
				C10300	英語 III						
				C10400	英語 IV						
C0E4	民法 V B	矢田 尚子	2	K30400	民法 V		2		50名		
C0E5	行政法 I	西原 雄二	2	K30900	行政法 I		2		50名		
C0E6	税法	本村 大輔	2	K31500	税法		2				
C0E7	法哲学 B	高須 則行	2	K318S0	法哲学	※	2				
C0E8	西洋史概論/西洋史概説	馬淵 彰	2	K32400	西洋史概論		2				・法学部のみ申込可。
				Q30400	西洋史概説						・文理学部/経済学/商学部のみ申込可。
C0E9	西洋政治史	渡邊 容一郎	2	L30500	西洋政治史		2				
C0EA	経済学説史/経済学史 B	高橋 宏幸	2	L31300	経済学説史		2			50名	・法学部のみ申込可。
				R30100	経済学史						・文理学部, 経済学部, 商学部のみ申込可。
C0EB	国文学概論 B	近藤 健史	2	M20200	国文学概論		※				・文学専攻(国文学)のみ1学年以上申込可。 ・それ以外は2学年以上申込可。
C0EC	国文学講義Ⅲ(中世)	鹿野 しのぶ	2	M30700	国文学講義Ⅲ(中世)		2			50名	
C0ED	国文学講義Ⅵ(現代) B	竹田 志保	2	M31000	国文学講義Ⅵ(現代)		2			50名	
C0EE	イギリス文学史Ⅱ	鈴木 ふさ子	2	N30100	イギリス文学史Ⅱ		2				
C0EF	英語学特殊講義 B	山岡 洋	2	N311S0	英語学特殊講義	×	2	ZOOM	前半		
C0EG	新聞英語	桑山 啓子	2	N31400	新聞英語		2				スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。
C0EH	英語学演習 F	佐藤 健児	1	N401S0	英語学演習 I	×	3	対面	前半	30名	・文学専攻(英文学)のみ申込可。
				N402S0	英語学演習 II						
				N403S0	英語学演習 III						
C0EJ	英語学演習 G	黒滝 真理子	1	N401S0	英語学演習 I	×	3	ZOOM	前半	30名	・文学専攻(英文学)のみ申込可。 ・受講にあたって、classroomに提示される授業資料を印刷できる環境があり、PCを用いてZOOMが利用できること。
				N402S0	英語学演習 II						
				N403S0	英語学演習 III						
C0EK	英米文学演習 C	新井 英夫	1	N404S0	英米文学演習 I	×	3				・文学専攻(英文学)のみ申込可。
				N405S0	英米文学演習 II						
				N406S0	英米文学演習 III						
C0EL	英米文学演習 D	野口 肇	1	N404S0	英米文学演習 I	×	3	対面	後半	30名	・文学専攻(英文学)のみ申込可。
				N405S0	英米文学演習 II						
				N406S0	英米文学演習 III						
C0EM	倫理学概論	江川 晃	2	P30500	倫理学概論		2			50名	
C0EN	日本思想史 I	島田 健太郎	2	P30800	日本思想史 I		2				
C0EP	哲学演習 B	興津 香織	1	P401S0	哲学演習 I	×	3				・哲学専攻のみ申込可。
				P402S0	哲学演習 II						
C0EQ	日本史入門 B	小川 雄	2	Q20100	日本史入門		※			50名	・史学専攻のみ1学年以上申込可。 ・それ以外は2学年以上申込可。
C0ER	考古学概説	山本 孝文	2	Q30500	考古学概説		2				
C0ES	西洋史演習 I・II	伊藤 雅之	1	Q405S0	西洋史演習 I	×	3	ZOOM	前半	30名	・史学専攻のみ申込可。
				Q406S0	西洋史演習 II						
C0ET	西洋経済史	上村 能弘	2	R30600	西洋経済史		2			50名	

## ●夏期スクーリング開講講座一覧表

夏期スクーリング第5期(8/31～9/5)

講座コード	講座名	教員名	開講単位数	科目コード	充当科目名	併用	配当学年	実施方法	実施時期	受講者数制限	備考
C0EU	金融機関論	谷川 孝美	2	S311S0	金融機関論		2				
C0EW	中小企業論	山本 篤民	2	S32700	中小企業論		2			50名	
C0EY	教育原論/教育の思想 B	宮島 健次	2	T10200	教育原論	×	2	ZOOM	後半	60名	スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。
				T10300	教育の思想						
C0EZ	教育制度論	北野 秋男	2	T20200	教育制度論	×	2	対面	後半	30名	スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。



# ●夏期スクーリング開講講座一覧表

夏期スクーリング第6期(9/7~9/12)

講座コード	講座名	教員名	開講単位数	科目コード	充当科目名	併用	配当学年	実施方法	実施時期	受講者数制限	備考
C0F1	哲学	成田 正人	2	B10700	哲学		1			40名	
C0F2	経済学	大塚 友美	2	B11800	経済学		1			75名	
C0F3	英語 K	桑山 啓子	1	C10100	英語 I		1			50名	
				C10200	英語 II						
				C10300	英語 III		2				
				C10400	英語 IV						
C0F4	英語 V B	水野 隆之	1	C10500	英語 V		2	ZOOM	後半	50名	
C0F5	中国語Ⅲ・Ⅳ	稲葉 明子	1	F10300	中国語Ⅲ		2				
				F10400	中国語Ⅳ						
C0F6	刑法 I	西貝 吉晃	2	K20300	刑法 I		※			75名	・法律学科のみ1学年以上申込可。 ・それ以外は2学年以上申込可。
C0F7	国際法	渡部 茂己	2	K31100	国際法		2				
C0F8	日本史概論/日本史概説 B	千葉 篤志	2	K32200	日本史概論		2			20名	・法学部のみ申込可。
				Q30200	日本史概説						・文理/経済/商学部のみ申込可。
C0F9	日本政治史	石川 徳幸	2	L30400	日本政治史		2			100名	
C0FA	国文学史 I	加藤 清	2	M30100	国文学史 I		2				
C0FB	国文学講義 I (上代)	鈴木 雅裕	2	M30500	国文学講義 I (上代)		2				
C0FC	漢文学 I B	本間 直人	2	M31500	漢文学 I		2				
C0FD	国文学演習 B	長谷川 正江	1	M404S0	国文学演習 I	×	3	対面	前半	30名	・文学専攻(国文学)のみ申込可。
				M405S0	国文学演習 II						
				M406S0	国文学演習 III						
				M407S0	国文学演習 IV						
				M408S0	国文学演習 V						
				M409S0	国文学演習 VI						
C0FE	英米文学概説/英語文学概説	新井 英夫	2	N20300	英米文学概説		※				・文学専攻(英文学)のみ1学年以上申込可。それ以外は2学年以上申込可。 ・平成30年度以前入学生のみ履修可。
				N20400	英語文学概説						・文学専攻(英文学)のみ1学年以上申込可。それ以外は2学年以上申込可。 ・令和元年度以降入学生のみ履修可。
C0FF	放送英語	マイケル ギルロイ	2	N31300	放送英語		2	ZOOM	後半	100名	スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。
C0FG	英語学演習 H	吉良 文孝	1	N401S0	英語学演習 I	×	3	対面	前半	30名	・文学専攻(英文学)のみ申込可。
				N402S0	英語学演習 II						
				N403S0	英語学演習 III						
C0FH	英米文学演習 E	堀切 大史	1	N404S0	英米文学演習 I	×	3	対面	後半	30名	・文学専攻(英文学)のみ申込可。
				N405S0	英米文学演習 II						
				N406S0	英米文学演習 III						
C0FJ	哲学概論 B	江川 晃	2	P30300	哲学概論		2			50名	
C0FK	東洋思想史 II	梅川 純代	2	P30700	東洋思想史 II		2				
C0FL	倫理学特殊講義	金子 佳司	2	P312S0	倫理学特殊講義	×	2				
C0FM	哲学演習 C	小山 英一	1	P401S0	哲学演習 I	×	3	対面	後半	30名	・哲学専攻のみ申込可。
				P402S0	哲学演習 II						
C0FN	西洋史特講 II	山本 興一郎	2	Q313S0	西洋史特講 II	×	2			50名	
C0FP	考古学演習 I・II	山本 孝文	1	Q407S0	考古学演習 I	×	3				・史学専攻のみ申込可。
				Q408S0	考古学演習 II						
C0FQ	経済学概論	続橋 孝行	2	R20300	経済学概論		※				・経済学部は1学年以上申込可。 ・それ以外は2学年以上申込可。
C0FR	日本経済史	飯島 正義	2	R30500	日本経済史		2				
C0FS	商法 B	酒巻 俊之	2	S30200	商法		2				
C0FT	保険総論	岡田 太	2	S30600	保険総論		2	ZOOM	前半	75名	
C0FU	会計学	青木 隆	2	S32800	会計学		2				
C0FW	英語科教育法 II A	隅田 朗彦	2	T21000	英語科教育法 II	×	2	対面	前半	30名	・文学専攻(英文学)のみ申込可。 ・スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。
C0FY	地誌学/地誌学概論/地理学概論(地誌を含む)	羽田 麻美	2	T21900	地誌学		2	対面	後半	30名	
				T22000	地誌学概論						
				T22100	地理学概論(地誌を含む)						

## ●夏期スクーリング開講講座一覧表

夏期スクーリング第6期(9/7~9/12)

講座コード	講座名	教員名	開講単位数	科目コード	充当科目名	併用	配当学年	実施方法	実施時期	受講者数制限	備考
C0FZ	生涯学習論	上原 義正	2	Y20100	生涯学習論	×	2				スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。

# 講座内容（シラバス）

## 〔歴史学〕

堀川 徹

◆**授業概要** 本講義では、歴史学の目的や特徴などを解説し、具体例として奈良時代までの日本古代史を中心とした講義を行う。様々な論点を取り上げ、多面的に考察し、それらの因果関係を明らかにしていく。主に基本となる政治史、そこから派生する女帝論、それらを支えた社会の3つをテーマとして講義を行う。本講義を通じて、日本古代史に関する知識、歴史学の意義を把握し、物事を論理的かつ多面的に捉える力を獲得することを目標とする。

◆**学修到達目標** 1. 学問として歴史学を捉えることができる。  
2. 論理的に物事を説明できる。  
3. 様々な史料を用いて、自分の考えを表現することができる。  
4. 日本古代史の流れを多面的に捉え、説明することができる。  
5. 日本の古代国家・社会の構造を理解し、説明することができる。  
6. 日本古代の女帝について説明することができる。

◆**授業方法** 音声付きパワーポイントを使用したオンデマンド方式。  
本授業の事前学修・事後学習の時間は各2時間を目安としています。

### ◆履修条件

### ◆授業計画〔各90分〕

1回	授業内容：歴史学とは何か 歴史学とはどのような学問なのかを考える。 事前学修：自分なりに歴史学とはどのような特徴をもつ学問なのか、他の学問と比較しながら考えておく。 事後学修：配布資料を完成させ、要点をまとめておく。
2回	授業内容：古代政治史(1)3世紀の社会 事前学修：邪馬台国について調べておく。 事後学修：配布資料を完成させ、要点をまとめておく。
3回	授業内容：古代政治史(2)倭の五王の時代 事前学修：倭の五王について調べておく。 事後学修：配布資料を完成させ、要点をまとめておく。
4回	授業内容：古代政治史(3)継体天皇の出現と王権構造 事前学修：継体天皇について調べておく。 事後学修：配布資料を完成させ、要点をまとめておく。
5回	授業内容：古代政治史(4)大化改新 事前学修：推古天皇と大化改新について調べておく。 事後学修：配布資料を完成させ、要点をまとめておく。
6回	授業内容：古代政治史(5)天智天皇と天武天皇 事前学修：天智天皇と天武天皇について調べておく。 事後学修：配布資料を完成させ、要点をまとめておく。
7回	授業内容：古代政治史(6)平城京の時代 事前学修：奈良時代の政争について調べておく。 事後学修：配布資料を完成させ、要点をまとめておく。
8回	授業内容：古代の女帝(1)近年の女帝研究の特徴 事前学修：女帝研究の特徴について調べておく。 事後学修：配布資料を完成させ、要点をまとめておく。
9回	授業内容：古代の女帝(2)古代史の中の女帝 事前学修：女帝とは何か調べておく。 事後学修：配布資料を完成させ、要点をまとめておく。
10回	授業内容：古代の女帝(3)古代女帝の成立 事前学修：推古天皇について調べておく。 事後学修：配布資料を完成させ、要点をまとめておく。
11回	授業内容：古代の女帝(4)持統天皇の歴史的意義 事前学修：持統天皇について調べておく。 事後学修：配布資料を完成させ、要点をまとめておく。
12回	授業内容：古代の社会(1)奈良時代の国家を支えたもの 事前学修：律令と日本書紀について調べておく。 事後学修：配布資料を完成させ、要点をまとめておく。
13回	授業内容：古代の社会(2)古代の戸籍と税制 事前学修：古代の戸籍について調べておく。 事後学修：配布資料を完成させ、要点をまとめておく。
14回	授業内容：古代の社会(3)地方の民衆の社会と生活 事前学修：出雲国風土記に見える地方の人々の暮らしについて調べておく。 事後学修：配布資料を完成させ、要点をまとめておく。
15回	授業内容：古代の社会(4)古代の「移動」 事前学修：古代の人々・モノ・情報の移動についてその諸相を調べておく。 事後学修：配布資料を完成させ、要点をまとめておく。

◆**教科書** 〔当日資料配布〕 配布資料・動画ともに google classroom からダウンロードすること。

### ◆参考書

◆**成績評価基準** レポート100%（政治史分野，女帝論分野，社会史分野の3通を予定している）

◆**授業相談（連絡先）**：t\_horikawa@seisa.ac.jp

注意

# 講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔法学〕

水野 正

◆**授業概要** 複数の人が存在するとお互いの求めるものの違いにより、そこに問題が生ずる。そこで、人の社会生活上の問題を解決するための基礎となる基本的な価値観（=法）を理解し、互いの権利を尊重し、義務を果たすことの重要性を学ぶ。

◆**学修到達目標** ある人々の間に生じた問題は、法律を基に互いの考えを示し、法律を基に相手の考えを理解し、互いが納得することにより解決される。そのような解決ができるよう、法律を正しく理解する為の方法を理解し、法律に基づいた自分の考えを示すことができるようになることを目標とする。また、インターネットに関する法律を知り、自己の権利を守り、相手の権利を侵害しないよう行動できるようになる事を目標とする。

◆**授業方法** いわゆる講義形式で行う。まず、テキストに沿った内容で広義の法律について、正しく解釈する為の規則や手段について説明します。その知識に基づいてコンピュータ、インターネットに関わる諸問題について、どのような問題点があるかを説明し、その解決を現行法でできるのか否かを考えていくことにします。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回	授業内容：ガイダンス 法とは何かを考える。 事前学修：法学を学ぶことの意味を考え、法という言葉から何を連想するかを確かめておくこと。 事後学修：論理的思考と説明を理解し、法は社会生活を営む人により作られることを理解する。
2 回	授業内容：日本の法制度 継受法 固有法 事前学修：日本の法制度を日本史から考えてみる。 事後学修：他国との関係から日本の法制度がどのように変化してきたかを理解する。
3 回	授業内容：法と他の社会規範 1 法と道徳の違い 事前学修：人の生活を律する法以外のものは？テキスト「法と他の社会規範」部分を読むこと。 事後学修：法と道徳の区別ができるように理解すること。
4 回	授業内容：法と他の社会規範 2 法と宗教、法と慣習（習俗）との違い 事前学修：法と他の社会規範との違い。テキスト「法と他の社会規範」部分を読んでおくこと。 事後学修：法と宗教、慣習（習俗）との区別ができるように理解すること。
5 回	授業内容：法の目的 法と正義 事前学修：法は何を実現しようとするのか。テキスト「法の目的」部分を読んでおくこと。 事後学修：法のいうところの正義とはどのようなものかを理解すること。
6 回	授業内容：法源 1 法源とは何か 成文法と不文法の特徴 成文法 事前学修：法を知る手がかりとなるものは何であるか。テキスト「法源」部分を読んでおくこと。 事後学修：現代は成文法が中心的役割を担っていること。成文法の種類と特徴を理解すること。
7 回	授業内容：法源 2 法源としての不文法 事前学修：不文法について、テキスト「不文法」部分を読んでおくこと。 事後学修：裁判所の判決は、不文法であることを理解すること。
8 回	授業内容：法の分類 普通法（一般法）と特別法、強行法と任意法、公法、私法、社会経済法 等 事前学修：法の適用には順番があることを確認する。テキスト「法の分類」部分を読んでおくこと。 事後学修：法の適用には順番があること、どの法（条文）が優先するのか正しく理解する。
9 回	授業内容：法の効力範囲 時間的効力範囲、地理的効力範囲、人的効力範囲 事前学修：日本の法律の効力が及ぶ範囲を考える。テキスト「法の効力範囲」部分を読んでおくこと。 事後学修：国境のないインターネットの世界では、どこの国の法律が適用されるのか考えてみる。
10 回	授業内容：法の解釈と適用 1 事実認定 推定、擬制 事前学修：脳死と判定されたドナーの心臓にナイフを刺して心停止にすると何罪になるのか。 事後学修：どの条文が推定の規定か、犠牲の規定か確認しておく。
11 回	授業内容：法の解釈と適用 2 有権解釈 学理解釈 論理解釈 事前学修：テキスト「法の解釈と適用」部分を読んでおくこと。 事後学修：解釈のそれぞれの分類の意味を正しく理解すること。
12 回	授業内容：デジタル万引きと犯罪の成否 事前学修：「いわゆるデジタル万引きと犯罪の成否」水野正 国士館法学 45 号を読んでおくこと。 事後学修：法の解釈と適用について具体的に考え、様々な場合を考える。
13 回	授業内容：不正アクセス行為とウイルスの作成と供用 事前学修：「不正指令電磁的記録に関する罪の一考察」水野正 国士館法学 46 号を読んでおくこと。 事後学修：ネット社会を保護するための法律について、その解釈と適用の難しさを理解する。
14 回	授業内容：グーグルストリートビューとプライバシーの保護 事前学修：「道路周辺映像サービスの問題点」水野正 日本法学 81 巻 2 号を読んでおくこと。 事後学修：利便性とプライバシーの保護と公開される者の意思との関係を考えてみる。
15 回	授業内容：インターネットと忘れられる権利 事前学修：「個人情報保護の為の検索結果に対する削除権」水野正 日本法学 82 巻 1 号を読む。 事後学修：様々なシーンでの個人情報の保護の重要性を考えてみる。

◆**教科書** 国語『法学 B11500』通信教育教材（教材コード 000515）

◆**参考書** 国語『インターネット法』松井他編 有斐閣

国語 小型の六法 但し、定額制でインターネットに接続できる機器（スマホやタブレット PC）を使用できる学生は、それらの機器を持参すれば六法は不要。

授業計画記載の国士館法学は（<https://kokushikan.repo.nii.ac.jp>）、日本法学は（<http://www.law.nihon-u.ac.jp/publication/law.html>）から無料でダウンロード可

◆**成績評価基準** 論述式の筆記試験で評価する。問題は講義の範囲内から複数問出題し、その中から 1 問選択して回答する形式とする。

### 注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

# 講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔英語 I～IV〕

マイケル ギルロイ

- ◆**授業概要** To enhance students' reading, listening comprehension, writing skills, grammar, enlarge vocabulary and boost self confidence.
- ◆**学修到達目標** Help students' develop aural and oral fluency through engaging content and practical practices. Units are thematically structured, including topics which appear in daily conversations.
- ◆**授業方法** Students will work individually, in pairs and in groups to complete in class exercises. Activities include reading, writing, listening, role-plays and discussions.
- ◆**履修条件** 令和元年度昼間スクーリング (前期) 「英語A」「英語M」(マイケルギルロイ) とは積み重ね不可。令和2年度昼間スクーリング (前期) 「英語」(マイケルギルロイ) とは積み重ね不可。
- ◆**授業計画** (各 90 分)

1 回	授業内容: Introductions - Greeting to know each other. 事前学修: Enthusiasm, dictionary, paper and pencil. 事後学修: Will be decided. (W. B. D.)
2 回	授業内容: Family and Friends. 事前学修: Homework (H/W), think about "Family" 事後学修: W. B. D.
3 回	授業内容: Friends. 事前学修: H/W, think about "Customs" 事後学修: W. B. D.
4 回	授業内容: Customs - Japan. 事前学修: H/W 事後学修: W. B. D.
5 回	授業内容: Custom - Global. 事前学修: H/W review 事後学修: W. B. D.
6 回	授業内容: Education. 事前学修: H/W review 事後学修: W. B. D.
7 回	授業内容: Sports 1. 事前学修: H/W review 事後学修: W. B. D.
8 回	授業内容: Sports 2. 事前学修: H/W review 事後学修: W. B. D.
9 回	授業内容: Work. 事前学修: H/W review 事後学修: W. B. D.
10 回	授業内容: Food 1. 事前学修: H/W review 事後学修: W. B. D.
11 回	授業内容: Food 2. 事前学修: H/W review 事後学修: W. B. D.
12 回	授業内容: Studying English 事前学修: H/W review 事後学修: W. B. D.
13 回	授業内容: Health 事前学修: H/W review 事後学修: W. B. D., and course review.
14 回	授業内容: Review / Warm up / Test. 事前学修: Study of all topics covered. 事後学修: Brainstorm summer.
15 回	授業内容: Summer Topic. 事前学修: Last week's H / W. 事後学修: Have a wonderful summer vacation.

- ◆**教科書** 〔丸〕 "English Listening and Speaking Patterns 2" Andrew E. Bennett, NAN' UN-DO  
〔当〕資料配布) Supplementary handouts. Interactive games.
- ◆**参考書** なし
- ◆**成績評価基準** Grades will be allocated based on attendance, participation, completed assignments and a final exam.

### 注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例: 「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談 (連絡先) に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

# 講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔英語 I～IV〕

賀美 真之介

- ◆**授業概要** 基礎的な英文法を確認し、練習問題の解説を速くして、知識の定着を図る。できる限り網羅的に英文法を確認し、文法項目ごとの関連性をも理解できるように、テキストとそれを補完する配布資料を用いて説明する。
- ◆**学修到達目標** テキストの練習問題には、知識の定着を確認する、基本的な英作文の問題も用意されている。この問題の例文を基礎として、それに修飾する要素を付加すれば、より高度な英文が完成する。この前段階として、まずは、修飾要素が最小限の基礎的な英文を書けるようになることを第一目標とする。
- ◆**授業方法** 各項目 (Part I) について、解説、演習 (練習問題) を行う。
- ◆**履修条件** 令和元年度夜間スクーリング (秋季) 『英語 H』 (賀美真之介) とは積み重ね不可。
- ◆**授業計画** [各 90 分]

1 回	授業内容: 1. 文の種類 ~ 5. 文の種類とその特徴 事前学修: テキストの該当箇所を読んでおくこと。 事後学修: テキスト及び配布プリントの要点を復習すること。理解できない点は、e-mail 等で質問すること。
2 回	授業内容: 1. 文の種類 ~ 5. 文の種類とその特徴 事前学修: テキストの該当箇所を読んでおくこと。 事後学修: テキスト及び配布プリントの要点を復習すること。理解できない点は、e-mail 等で質問すること。
3 回	授業内容: 6. 文を構成する要素(1) ~ 10. 進行形 事前学修: テキストの該当箇所を読んでおくこと。 事後学修: テキスト及び配布プリントの要点を復習すること。理解できない点は、e-mail 等で質問すること。
4 回	授業内容: 6. 文を構成する要素(1) ~ 10. 進行形 事前学修: テキストの該当箇所を読んでおくこと。 事後学修: テキスト及び配布プリントの要点を復習すること。理解できない点は、e-mail 等で質問すること。
5 回	授業内容: 11. 完了形(1) ~ 15. 助動詞(3) 事前学修: テキストの該当箇所を読んでおくこと。 事後学修: テキスト及び配布プリントの要点を復習すること。理解できない点は、e-mail 等で質問すること。
6 回	授業内容: 11. 完了形(1) ~ 15. 助動詞(3) 事前学修: テキストの該当箇所を読んでおくこと。 事後学修: テキスト及び配布プリントの要点を復習すること。理解できない点は、e-mail 等で質問すること。
7 回	授業内容: 16. 受動態(1) ~ 20. 不定詞(2) 事前学修: テキストの該当箇所を読んでおくこと。 事後学修: テキスト及び配布プリントの要点を復習すること。理解できない点は、e-mail 等で質問すること。
8 回	授業内容: 16. 受動態(1) ~ 20. 不定詞(2) 事前学修: テキストの該当箇所を読んでおくこと。 事後学修: テキスト及び配布プリントの要点を復習すること。理解できない点は、e-mail 等で質問すること。
9 回	授業内容: 21. 不定詞(3) ~ 25. 動名詞(1) 事前学修: テキストの該当箇所を読んでおくこと。 事後学修: テキスト及び配布プリントの要点を復習すること。理解できない点は、e-mail 等で質問すること。
10 回	授業内容: 21. 不定詞(3) ~ 25. 動名詞(1) 事前学修: テキストの該当箇所を読んでおくこと。 事後学修: テキスト及び配布プリントの要点を復習すること。理解できない点は、e-mail 等で質問すること。
11 回	授業内容: 26. 動名詞(2) ~ 30. 関係詞(2) 事前学修: テキストの該当箇所を読んでおくこと。 事後学修: テキスト及び配布プリントの要点を復習すること。理解できない点は、e-mail 等で質問すること。
12 回	授業内容: 26. 動名詞(2) ~ 30. 関係詞(2) 事前学修: テキストの該当箇所を読んでおくこと。 事後学修: テキスト及び配布プリントの要点を復習すること。理解できない点は、e-mail 等で質問すること。
13 回	授業内容: 31. 関係詞(3) ~ 35. 仮定法(2) 事前学修: テキストの該当箇所を読んでおくこと。 事後学修: テキスト及び配布プリントの要点を復習すること。理解できない点は、e-mail 等で質問すること。
14 回	授業内容: 31. 関係詞(3) ~ 35. 仮定法(2) 事前学修: テキストの該当箇所を読んでおくこと。 事後学修: テキスト及び配布プリントの要点を復習すること。理解できない点は、e-mail 等で質問すること。
15 回	授業内容: 総復習と期末試験 事前学修: 試験範囲の学習をしておくこと。 事後学修: 授業を通じて、理解できない点があった場合は、e-mail 等で質問すること。

◆**教科書** 関関『新版英文法の総復習とワンクラス上の英作文』野村忠夫・菅野悟・野村美由紀・外池滋生 DTP 出版  
2017

◆**参考書** なし

◆**成績評価基準** 期末試験 6 割 授業への参画度 4 割

### 注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例: 「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談 (連絡先) に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

# 講座内容（シラバス）

〔保健体育講義Ⅰ〕 オープン受講：不可

高橋 正則／水落 文夫

◆**授業概要** 近年、超高齢社会を向かえているわが国の平均寿命は、年々上昇しているものの、健康寿命との差は依然として縮まらない傾向が続いています。平均寿命と健康寿命の差は約10年前後であり、その差を埋めるためには、自立して生活できる健康な身体を積極的に獲得する必要があります。そこで、健康・体力に関する様々な情報に日頃から関心を向け、自身の健康維持・増進を目指す運動数館のある生活習慣を考えていきます。特に、トレーニングコーチ（日本オリンピック委員会強化スタッフ・医科学）として体力トレーニングやメンタルトレーニングの指導実績を生かし、実践的で効果的な健康教育に関する知識を授業に反映させています。

◆**学修到達目標** 生涯を通じて最も大切な健康とは何か、また、健康・体力の維持増進のために何が必要かについて、基本的な知識を習得することで、自らの生活習慣に結びつけることができるようになる。

◆**授業方法** この授業は、パワーポイントによって資料をスクリーンに提示しながら、講義形式で授業を進めます。また、必要に応じて、配布資料を準備し、各授業前に配布する予定です。なお、授業では講義内容からレポート等の課題を出す場合があります。

◆**履修条件**

◆**授業計画**〔各90分〕

1回	授業内容 事前学修 事後学修	ガイダンス（授業のスケジュールおよび受講上の注意事項等の説明）、現代社会と健康：現代社会と健康の関連を説明する。 事前に新聞やニュースなどのメディアを通して、関連情報を得ておくこと。 配布資料をまとめ、理解しておくこと。
2回	授業内容 事前学修 事後学修	コミュニケーションスキル：現代社会におけるコミュニケーションスキルの重要性を解説する。 事前に新聞やニュースなどのメディアを通して、関連情報を得ておくこと。 配布資料をまとめ、理解しておくこと。
3回	授業内容 事前学修 事後学修	体力の概念：体力の構成を行動体力と防衛体力の観点から説明する。 事前に新聞やニュースなどのメディアを通して、関連情報を得ておくこと。 配布資料をまとめ、理解しておくこと。
4回	授業内容 事前学修 事後学修	オリンピズム：オリンピックに対する考え方やオリンピック教育の具体的内容を説明する。 事前に新聞やニュースなどのメディアを通して、関連情報を得ておくこと。 配布資料をまとめ、理解しておくこと。
5回	授業内容 事前学修 事後学修	運動・スポーツの効果：運動やスポーツが心身に及ぼす影響を解説する。 事前に新聞やニュースなどのメディアを通して、関連情報を得ておくこと。 配布資料をまとめ、理解しておくこと。
6回	授業内容 事前学修 事後学修	運動による疲労：身体活動が与える疲労を様々な指標で捉え、その影響を説明する。 事前に新聞やニュースなどのメディアを通して、関連情報を得ておくこと。 配布資料をまとめ、理解しておくこと。
7回	授業内容 事前学修 事後学修	休養の実態と意義：休養の必要性や効果的な取り方を解説する。 事前に新聞やニュースなどのメディアを通して、関連情報を得ておくこと。 配布資料をまとめ、理解しておくこと。
8回	授業内容 事前学修 事後学修	運動学習：運動を効果的に学習するための理論を説明する。また計8回の授業内容を範囲とする試験を実施する。 事前に新聞やニュースなどのメディアを通して、関連情報を得ておくこと。また試験対策として、各授業の復習をしておくこと。 配布資料をまとめ、講義全体の内容を整理し、理解しておくこと。
9回	授業内容 事前学修 事後学修	
10回	授業内容 事前学修 事後学修	
11回	授業内容 事前学修 事後学修	
12回	授業内容 事前学修 事後学修	
13回	授業内容 事前学修 事後学修	
14回	授業内容 事前学修 事後学修	
15回	授業内容 事前学修 事後学修	

◆**教科書** 〔当日資料配布〕 当日、授業時にプリントを配布します。

◆**参考書** 〔丸〕『健康・スポーツ教育論』 日本大学文理学部体育学研究室編、八千代出版

◆**成績評価基準** 授業への取り組み（貢献度）およびレポート・テストによって、総合的に評価します。

◆**授業相談**（連絡先）：初回の授業時、受講学生に直接伝えます。

注意

# 講座内容（シラバス）

〔憲法〕 オープン受講：不可

名雪 健二

◆**授業概要** 本スクーリングでは、憲法の内容、憲法の種類、日本国憲法の構造といった基礎概念や基本原理、また、天皇をみていくが、人権総論（人権享有の主体、法の下での平等など）と精神的自由、経済的自由、人身の自由および統治機構としての国会・内閣・裁判所についても見ていく。

◆**学修到達目標** 憲法は、国家の在り方を規定した基本法である。したがって、われわれが国家生活をしていく上で憲法を知ることが、極めて重要である。憲法を学ぶことで、憲法とは何かを知ることができ、また、憲法判例をみることで、生きた憲法を理解することができ、さらに、憲法の規範論理的構造を理解することで、現代の複雑な憲法現象を統一的に、かつ、原理的にとらえることができる。

◆**授業方法** 憲法の解釈論が中心となる。また、生きた憲法を理解するために、判例を取り上げる。そのための資料として、授業に関連する判例を配布する。

◆**履修条件**

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容：ガイダンス、憲法の学び方、憲法の内容、憲法の種類、日本国憲法制定の法理 事前学修：講義の該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修：講義でノートしたことを確認し、整理しておくこと。とくに、日本国憲法制定の法理についてよく理解しておくこと。
2 回	授業内容：日本国憲法の構造、日本国憲法の基本原理 事前学修：講義の該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修：講義でノートしたことを確認し、整理しておくこと。とくに、憲法前文の性質と前文が裁判規範となるかどうかについて理解しておくこと。また、国民主権の原理が、憲法上、いかに具現化されているかについても理解しておくこと。
3 回	授業内容：天皇（地位・皇位継承・天皇の権能の代行） 事前学修：講義の該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修：講義でノートしたことを確認し、整理しておくこと。とくに、天皇の行為と天皇の権能の行使の要件について理解しておくこと。
4 回	授業内容：人権総論 事前学修：講義の該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修：講義でノートしたことを確認し、整理しておくこと。とくに、人権の制約、違憲審査基準について理解しておくこと。また、人権享有の主体、特に、外国人の人権についてよく理解しておくこと。
5 回	授業内容：人権総論 事前学修：講義の該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修：講義でノートしたことを確認し、整理しておくこと。とくに、法の下での平等の意味と不合理な差別の禁止について、判例を含めて理解しておくこと。また、私人間効力とは何かを理解し、どのような判例があるのかをまとめておくこと。
6 回	授業内容：精神的自由 事前学修：講義の該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修：講義でノートしたことを確認し、整理しておくこと。とくに、内心の自由の保障の内容についてまとめておくこと。また、信教の自由と政教分離の原則を理解しておくこと。あわせて、判例の立場をまとめておくこと。
7 回	授業内容：精神的自由、国会の憲法上の地位 事前学修：講義の該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修：講義でノートしたことを確認し、整理しておくこと。とくに、報道の自由と取材の自由、また、憲法が、学問の自由を保障した意義と大学の自治をよく理解し、あわせて、判例の立場をまとめておくこと。さらに、国会が最高機関であることと立法機関であることの意味をよく理解しておくこと。
8 回	授業内容：衆議院の解散、議院の権能（自律権、国政調査権） 事前学修：講義の該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修：講義でノートしたことを確認し、整理しておくこと。とくに、衆議院の解散では、解散権の主体と根拠規定、解散の原因についてよく理解しておくこと。また、議院の自律権の意味を踏まえて、自律的事項についてよく理解しておくこと。さらに、国政調査権の性格・範囲・限界についてよく理解しておくこと。
9 回	授業内容：内閣総理大臣の憲法上の地位・憲法 事前学修：講義の該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修：講義でノートしたことを確認し、整理しておくこと。とくに、内閣総理大臣が憲法上いかなる地位にあるのか、また、その権能として、国務大臣の任免権をはじめとして、内閣の代表権、法律・政令への連署権、国務大臣訴追同意権について、それぞれ問題点があるので、よくまとめておくこと。
10 回	授業内容：違憲審査権 事前学修：講義の該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修：講義でノートしたことを確認し、整理しておくこと。とくに、違憲審査権の意義を踏まえて、違憲審査権の性格・違憲審査の対象について、それぞれ学説が対立しているのを、それを整理し、判例もあわせてまとめておくこと。
11 回	授業内容：経済的自由 事前学修：講義の該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修：講義でノートしたことを確認し、整理しておくこと。とくに、財産権の保障・内容・財産権の制限と保障について理解しておくこと。
12 回	授業内容：人身の自由 事前学修：講義の該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修：講義でノートしたことを確認し、整理しておくこと。とくに、適法手続の保障、不法に逮捕されない権利、刑罰法の不遡及と一事不再理について理解しておくこと。
13 回	授業内容：社会権 事前学修：講義の該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修：講義でノートしたことを確認し、整理しておくこと。とくに、生存権の法的性格をいかに解するかについて学説と判例をまとめておくこと。また、労働基本権については、公務員の労働基本権に関する判例の動向をよく理解しておくこと。
14 回	授業内容：憲法改正 事前学修：講義の該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修：講義でノートしたことを確認し、整理しておくこと。憲法改正とは、いかなる行為であるのかを、憲法の廃棄、憲法の廃止などと区別して理解しておくこと。また、憲法改正手続において、内閣が憲法改正案を提出することができるかどうか、理解しておくこと。さらに、憲法改正に限界があるのかどうかについても、まとめておくこと。
15 回	授業内容：内閣の総辞職、総括 事前学修：講義の該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修：講義でノートしたことを確認し、整理しておくこと。内閣の総辞職の意義、内閣が総辞職しなければならない場合をよくまとめておくこと。なお、総括の中で、講義した内容について、どこに問題点があるのかをよく整理しておくこと。

◆**教科書** 丸沼『日本国憲法』 名雪健二 有信堂  
〔当日資料配布〕

◆**参考書** 丸沼 参考書を希望する者は、『憲法第7版』 芦部信喜・高橋和之補訂 岩波書店を購入されたい。

◆**成績評価基準** スクーリング（3日間）の授業を聴講したかどうかを確認し、それと併せて、スクーリングの最終試験を中心に総合的に評価する。

◆**授業相談（連絡先）**：初回の授業時に案内する。

注意



# 講座内容（シラバス）

## 〔民法Ⅳ〕

加藤 雅之

◆**授業概要** 本講義は民法のうち、講義上「債権各論」と呼ばれる分野（契約、事務管理、不当利得および不法行為）を対象とする。もっとも、対象分野について網羅的に取り上げることはせず、いくつかの現代的問題について、民法の規定の理解を基礎として、判例や立法の動向を踏まえて検討することを主たる内容とする。なお、本講義を受講するにあたっては、事前に民法Ⅰを受講しておくことが望ましい。

◆**学修到達目標** (1)債権各論に関する基本的概念や諸規定を理解し、制度・規定が設けられた趣旨を理解し説明できる。  
(2)解釈上の問題について、基本的な最上級審の立場（判例）を理解し、説明できる。  
(3)上記(1)および(2)を踏まえて、具体的問題について、法律の規定に基づいて論理的に解答できる。

◆**授業方法** オンデマンド講義形式

◆**履修条件**

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1回	授業内容：ガイダンス、債権各論の全体像 事前学修：事前配布資料を参考に、①六法で条文を確認し、②専門用語の意味を理解する。 事後学修：確認問題（Google Classroom）に回答し、間違った問題の解きなおし等により理解を深める。
2回	授業内容：契約法総論①契約の成立 事前学修：事前配布資料を参考に、①六法で条文を確認し、②専門用語の意味を理解する。 事後学修：確認問題（Google Classroom）に回答し、間違った問題の解きなおし等により理解を深める。
3回	授業内容：契約法総論②契約の効力、契約の解除 事前学修：事前配布資料を参考に、①六法で条文を確認し、②専門用語の意味を理解する。 事後学修：確認問題（Google Classroom）に回答し、間違った問題の解きなおし等により理解を深める。
4回	授業内容：契約法各論①売買契約総説 事前学修：事前配布資料を参考に、①六法で条文を確認し、②専門用語の意味を理解する。 事後学修：確認問題（Google Classroom）に回答し、間違った問題の解きなおし等により理解を深める。
5回	授業内容：契約法各論② 売買契約の効力—契約不適合について 事前学修：事前配布資料を参考に、①六法で条文を確認し、②専門用語の意味を理解する。 事後学修：確認問題（Google Classroom）に回答し、間違った問題の解きなおし等により理解を深める。
6回	授業内容：契約法各論③ 無償契約論 事前学修：事前配布資料を参考に、①六法で条文を確認し、②専門用語の意味を理解する。 事後学修：確認問題（Google Classroom）に回答し、間違った問題の解きなおし等により理解を深める。
7回	授業内容：小括 事前学修：事例問題について、民法の規定や判例等を参考にし、自分なりの解答を準備する。 事後学修：事例問題の解説を参照して、自分の答案を見直す。
8回	授業内容：契約法各論④ 貸借型契約 事前学修：事前配布資料を参考に、①六法で条文を確認し、②専門用語の意味を理解する。 事後学修：確認問題（Google Classroom）に回答し、間違った問題の解きなおし等により理解を深める。
9回	授業内容：契約法各論⑤ 役務提供型契約 事前学修：事前配布資料を参考に、①六法で条文を確認し、②専門用語の意味を理解する。 事後学修：確認問題（Google Classroom）に回答し、間違った問題の解きなおし等により理解を深める。
10回	授業内容：契約法各論⑥ その他の契約 事前学修：事前配布資料を参考に、①六法で条文を確認し、②専門用語の意味を理解する。 事後学修：確認問題（Google Classroom）に回答し、間違った問題の解きなおし等により理解を深める。
11回	授業内容：不法行為① 不法行為総説、不法行為の要件 事前学修：事前配布資料を参考に、①六法で条文を確認し、②専門用語の意味を理解する。 事後学修：確認問題（Google Classroom）に回答し、間違った問題の解きなおし等により理解を深める。
12回	授業内容：不法行為② 不法行為の効果 事前学修：事前配布資料を参考に、①六法で条文を確認し、②専門用語の意味を理解する。 事後学修：確認問題（Google Classroom）に回答し、間違った問題の解きなおし等により理解を深める。
13回	授業内容：不法行為③ 特殊の不法行為 事前学修：事前配布資料を参考に、①六法で条文を確認し、②専門用語の意味を理解する。 事後学修：確認問題（Google Classroom）に回答し、間違った問題の解きなおし等により理解を深める。
14回	授業内容：小括 事前学修：事例問題の解説を参照して、自分の答案を見直す。 事後学修：事例問題の解説を参照して、自分の答案を見直す。
15回	授業内容：総括 事前学修：これまでの授業内容を整理し、不明な点を参考書等で補っておく。 事後学修：講義内容および試験の解説などを通じて、講義全体について再確認する。

◆**教科書** 事前資料送付

◆**参考書** 丸沼『契約法』中田裕康 有斐閣 2017年  
丸沼『不法行為法—民法を学ぶ 第2版』窪田 充見 有斐閣 2018年

◆**成績評価基準** 授業内課題 60%  
レポート 40%

◆**授業相談（連絡先）：**

注意

# 講座内容（シラバス）

## 〔民法V〕

大杉 麻美

◆**授業概要** 家族は時代の発展とともに、様々に変容し発展を続けている。また家族を取り巻く社会事象も複雑になり、家族にかかわるルールを理解することは、家族間の紛争を未然に防止する役割も担っている。本講義では、民法第4編・第5編の「家族法」と呼ばれる分野につき、社会現象を理解するとともに、条文の構造を理解し、個別の紛争に条文がどのように適用され、どのような結果が導き出されているかにつき学ぶ。講義中では、新聞などでも取り上げられる現代的課題も取り上げ、多角的視点から家族にかかわる問題を理解することができることを目指す。

◆**学修到達目標** ・新聞等で取り上げられる家族にかかわる問題を理解し、説明することができる。  
 ・民法第4編、第5編に規定されている条文に書かれている言葉を理解し、説明することができる。  
 ・民法第4編、第5編に規定されている条文の内容を簡単に説明することができる。  
 ・判例にあげられる具体的な事例の事実関係及び結論を知り、理解することができる。

◆**授業方法** 講義では、家族法に関する基礎的な事柄を説明する。小レポートにおいては、自ら具体的紛争に関する事例をまとめ、自らの考えを小レポートとして作成する機会を設ける。小レポートについてはClassroomを通して全体にフィードバックをする(なお受講人数によっては授業方法が変更されることもある)。本授業の事前学修・事後学修の時間は各2時間を目安とする。

### ◆履修条件

### ◆授業計画〔各90分〕

1回	授業内容：婚約、婚姻の形式的要件、婚姻の実質的要件、婚姻の効果 事前学修：教科書の該当箇所を事前に読んで、分からない単語の意味を調べておく。 事後学修：教科書の該当箇所を読みなおし、分からない点も含めてノートにまとめておく。
2回	授業内容：夫婦の財産関係、婚姻費用の分担、日常家事債務の連帯責任 事前学修：教科書の該当箇所を事前に読んで、分からない単語の意味を調べておく。 事後学修：教科書の該当箇所を読みなおし、分からない点も含めてノートにまとめておく。
3回	授業内容：親子関係、認知 事前学修：教科書の該当箇所を事前に読んで、分からない単語の意味を調べておく。 事後学修：教科書の該当箇所を読みなおし、分からない点も含めてノートにまとめておく。
4回	授業内容：親子の権利義務、親権 事前学修：教科書の該当箇所を事前に読んで、分からない単語の意味を調べておく。 事後学修：教科書の該当箇所を読みなおし、分からない点も含めてノートにまとめておく。
5回	授業内容：離婚届と離婚原因 事前学修：教科書の該当箇所を事前に読んで、分からない単語の意味を調べておく。 事後学修：教科書の該当箇所を読みなおし、分からない点も含めてノートにまとめておく。
6回	授業内容：財産分与 事前学修：教科書の該当箇所を事前に読んで、分からない単語の意味を調べておく。 事後学修：教科書の該当箇所を読みなおし、分からない点も含めてノートにまとめておく。
7回	授業内容：親権、面会交流、養育費 事前学修：教科書の該当箇所を事前に読んで、分からない単語の意味を調べておく。 事後学修：教科書の該当箇所を読みなおし、分からない点も含めてノートにまとめておく。
8回	授業内容：小レポート（2題）解説：有責配偶者による離婚請求（最判昭和62年9月2日）、預貯金債権の共同相続（最大決平成28年12月19日） 事前学修：教科書の該当箇所を事前に読んで、分からない単語の意味を調べておく。 事後学修：教科書の該当箇所を読みなおし、分からない点も含めてノートにまとめておく。
9回	授業内容：扶養と後見 事前学修：教科書の該当箇所を事前に読んで、分からない単語の意味を調べておく。 事後学修：教科書の該当箇所を読みなおし、分からない点も含めてノートにまとめておく。
10回	授業内容：相続のしくみ、子どもの相続分 事前学修：教科書の該当箇所を事前に読んで、分からない単語の意味を調べておく。 事後学修：教科書の該当箇所を読みなおし、分からない点も含めてノートにまとめておく。
11回	授業内容：相続財産 事前学修：教科書の該当箇所を事前に読んで、分からない単語の意味を調べておく。 事後学修：教科書の該当箇所を読みなおし、分からない点も含めてノートにまとめておく。
12回	授業内容：遺言の種類と性質 事前学修：教科書の該当箇所を事前に読んで、分からない単語の意味を調べておく。 事後学修：教科書の該当箇所を読みなおし、分からない点も含めてノートにまとめておく。
13回	授業内容：相続の承認と放棄 事前学修：教科書の該当箇所を事前に読んで、分からない単語の意味を調べておく。 事後学修：教科書の該当箇所を読みなおし、分からない点も含めてノートにまとめておく。
14回	授業内容：特別受益と寄与分 事前学修：教科書の該当箇所を事前に読んで、分からない単語の意味を調べておく。 事後学修：教科書の該当箇所を読みなおし、分からない点も含めてノートにまとめておく。
15回	授業内容：遺産分割の種類と方法 事前学修：教科書の該当箇所を事前に読んで、分からない単語の意味を調べておく。 事後学修：教科書の該当箇所を読みなおし、分からない点も含めてノートにまとめておく。

◆**教科書** 関潤『よくわかる家族法』本澤巳代子・大杉麻美・高橋大輔・付月 ミネルヴァ書房 2014年

◆**参考書** 特になし

◆**成績評価基準** 毎回出席することを前提に小レポート（2回実施：各50点満点）により成績評価する。

◆**授業相談（連絡先）**：osugi.mami@nihon-u.ac.jp

注意

◆**授業概要** 個人や企業が売買代金の支払いを行う際、現金で支払う、銀行振込を利用する、手形・小切手を利用する等さまざまな方法が考えられる。支払決済の中心に位置するのが、銀行をはじめとする金融機関である。本講義では、企業取引の決済手段に関する法知識の理解を目指す。古くからある手形・小切手に限らず、電子記録債権等新しい決済方法についても学ぶことで、企業取引の決済手段が理解できることを心がける。

◆**学修到達目標** 個人や企業が契約を結び、代金の支払いをする。支払をすることで代金を支払うという義務（債務）が消滅する。これを支払決済というが、どのような場合に債務が消滅するのか。代金を現金で支払った場合と銀行振込による場合とどう違うのか。企業取引で使われる手形・小切手による決済はどういう仕組みか。このようなことについて詳しく知り、説明することができるようになる。

◆**授業方法** オンデマンド形式で行う。授業では、約束手形等従来から利用されている決済手段と、電子マネー、電子記録債権等の最新の法制度まで幅広く取り扱うこととする。事前に予習し、講義動画を視聴してから、テキストと六法をもとに講義ノートを作成することが必要である。また、ただ漫然と授業を視聴しているだけでは知識が身につかないと思うので、講義後に小テスト等により理解度をチェックする。

◆**授業計画**

1回	授業内容	講義の進度に合わせて、以下の内容には変更がありうる。 支払決済の基礎について学ぶ。授業のテーマや内容の紹介を含めて学習方法について解説する。
	事前学修	日刊新聞紙の経済面を読んでおくこと。教科書「第1編 総論」を予習する。
	事後学修	教科書の該当部分を読んで授業で取り扱われた事項をノートにまとめる。
2回	授業内容	決済の全体像、電子マネーについて学ぶ。電子マネーの特色、法的機能について解説する。
	事前学修	日刊新聞紙の経済面を読んでおくこと。教科書「第2章 電子マネーと仮想通貨（暗号資産）」を予習する。
	事後学修	教科書の該当部分を読んで授業で取り扱われた事項をノートにまとめる。
3回	授業内容	仮想通貨（暗号資産）とはどのような制度であるかについて学ぶ。仮想通貨（暗号資産）の法的機能について解説する。
	事前学修	日刊新聞紙の経済面を読んでおくこと。教科書「第2章 電子マネーと仮想通貨（暗号資産）」を予習する。
	事後学修	教科書の該当部分を読んで授業で取り扱われた事項をノートにまとめる。
4回	授業内容	銀行振込とはどのような制度であるかについて学ぶ。銀行振込の法的機能、法的問題点等について解説する。
	事前学修	日刊新聞紙の経済面を読んでおくこと。教科書「第3章 銀行振込・資金移動業等」を予習する。
	事後学修	教科書の該当部分を読んで授業で取り扱われた事項をノートにまとめる。
5回	授業内容	小切手とはどのような制度であるかについて学ぶ。小切手の仕組み、振出等について解説する。
	事前学修	日刊新聞紙の経済面を読んでおくこと。教科書「第4章 小切手」を予習する。
	事後学修	教科書の該当部分を読んで授業で取り扱われた事項をノートにまとめる。
6回	授業内容	線引小切手とはどのような制度であるかについて学ぶ。小切手と線引制度等について解説する。
	事前学修	日刊新聞紙の経済面を読んでおくこと。教科書「第4章 小切手」を予習する。
	事後学修	教科書の該当部分を読んで授業で取り扱われた事項をノートにまとめる。
7回	授業内容	為替手形について学ぶ。為替手形の仕組みについて解説する。
	事前学修	日刊新聞紙の経済面を読んでおくこと。教科書「第5章 為替手形」を予習する。
	事後学修	教科書の該当部分を読んで授業で取り扱われた事項をノートにまとめる。
8回	授業内容	有価証券とはどのような制度であるかについて学ぶ。有価証券の法的機能や仕組みについて解説する。
	事前学修	日刊新聞紙の経済面を読んでおくこと。教科書「第9章 有価証券理論」を予習する。
	事後学修	教科書の該当部分を読んで授業で取り扱われた事項をノートにまとめる。
9回	授業内容	約束手形とはどのような制度であるかについて学ぶ。約束手形の仕組みについて解説する。
	事前学修	日刊新聞紙の経済面を読んでおくこと。教科書「第6章 約束手形」「第1節」を予習する。
	事後学修	教科書の該当部分を読んで授業で取り扱われた事項をノートにまとめる。
10回	授業内容	約束手形とはどのような制度であるかについて学ぶ。約束手形の振出について解説する。
	事前学修	日刊新聞紙の経済面を読んでおくこと。教科書「第4章 小切手」「第2節」、「第6章 約束手形」「第2節」を予習する。
	事後学修	教科書の該当部分を読んで授業で取り扱われた事項をノートにまとめる。
11回	授業内容	約束手形とはどのような制度であるかについて学ぶ。約束手形の振出、手形理論について解説する。
	事前学修	日刊新聞紙の経済面を読んでおくこと。教科書「第4章 小切手」「第2節」「第3節」、「第6章 約束手形」「第2節」を予習する。
	事後学修	教科書の該当部分を読んで授業で取り扱われた事項をノートにまとめる。
12回	授業内容	約束手形とはどのような制度であるかについて学ぶ。約束手形の振出、裏書について解説する。
	事前学修	日刊新聞紙の経済面を読んでおくこと。教科書「第4章 小切手」「第3節」、「第6章 約束手形」「第2節」「第3節」を予習する。
	事後学修	教科書の該当部分を読んで授業で取り扱われた事項をノートにまとめる。
13回	授業内容	約束手形とはどのような制度であるかについて学ぶ。約束手形の裏書・抗弁について解説する。
	事前学修	日刊新聞紙の経済面を読んでおくこと。教科書「第6章 約束手形」「第3節」を予習する。
	事後学修	教科書の該当部分を読んで授業で取り扱われた事項をノートにまとめる。
14回	授業内容	約束手形とはどのような制度であるかについて学ぶ。約束手形の抗弁・支払について解説する。
	事前学修	日刊新聞紙の経済面を読んでおくこと。教科書「第6章 約束手形」「第3節」「第4節」を予習する。
	事後学修	教科書の該当部分を読んで授業で取り扱われた事項をノートにまとめる。
15回	授業内容	手形の電子的支払とはどのような制度であるかについて学ぶ。でんさい、電子記録債権等について解説する。
	事前学修	日刊新聞紙の経済面を読んでおくこと。教科書「第7章 電子記録債権」を予習する。
	事後学修	教科書の該当部分を読んで授業で取り扱われた事項をノートにまとめる。

◆**教科書** 『支払決済法—手形小切手から電子マネーまで—（第3版）』小塚莊一郎＝森田果（商事法務、2018年）2500円  
六法（民法（債権関係、相続関係）改正が成立したため、最新版（2020（令和2）年版）が望ましい）

◆**参考書（参考文献等）** 『手形小切手判例百選（第7版）』別冊ジュリスト222号、神田秀樹＝神作裕之編（有斐閣、2014年）

◆**成績評価基準** 試験（70%）、平常評価（レポート・小テスト等の提出物）（30%）  
講義動画を視聴することを前提とする。

# 講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔労働法〕

新谷 真人

◆**授業概要** 労働法は、生まれながらにして労働者保護を目的とした法律である。しかし、現実の労使関係においては、賃金未払い、長時間労働、不当な解雇などのトラブルが絶えない。本講義では、労働法の基礎を学ぶことによって、労使双方が守るべき労働法のルールを理解できるように心掛ける。

◆**学修到達目標** 労働法の体系における労働組合の役割を理解する。労働契約の重要私性を理解し、労働条件は対等な立場での合意に基づき決定すべきことを学ぶ。

◆**授業方法** 教科書とシラバスに従い、講義形式で授業を行う。本年度は、教科書の後半から始める。随時 DVD 等の映像資料を用いる。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回	授業内容：(確証は教科書に対応。) 第 11 章 団結権保障と労働組合法 事前学修：教科書の該当箇所を読んでおく。 事後学修：スライド資料等により授業内容を確認する。
2 回	授業内容：第 12 章 不当労働行為制度 事前学修：教科書の該当箇所を読んでおく。 事後学修：スライド資料等により授業内容を確認する。
3 回	授業内容：第 13 章 団体交渉と労働協約 (第 14 章は省略) 事前学修：教科書の該当箇所を読んでおく。 事後学修：スライド資料等により授業内容を確認する。
4 回	授業内容：第 1 章 労働法の原理 事前学修：教科書の該当箇所を読んでおく。 事後学修：スライド資料等により授業内容を確認する。
5 回	授業内容：第 2 章 労働基準法の理念と労働契約 事前学修：教科書の該当箇所を読んでおく。 事後学修：スライド資料等により授業内容を確認する。
6 回	授業内容：第 3 章 就業規則と労働契約 事前学修：教科書の該当箇所を読んでおく。 事後学修：スライド資料等により授業内容を確認する。
7 回	授業内容：第 4 章 配転・出向・転籍 事前学修：教科書の該当箇所を読んでおく。 事後学修：スライド資料等により授業内容を確認する。
8 回	授業内容：第 5 章 賃金の保護 事前学修：教科書の該当箇所を読んでおく。 事後学修：スライド資料等により授業内容を確認する。
9 回	授業内容：第 6 章 労働時間の規制 事前学修：教科書の該当箇所を読んでおく。 事後学修：スライド資料等により授業内容を確認する。
10 回	授業内容：第 7 章 休憩・休日・年次有給休暇 事前学修：教科書の該当箇所を読んでおく。 事後学修：スライド資料等により授業内容を確認する。
11 回	授業内容：第 8 章 労働災害の予防と災害補償 事前学修：教科書の該当箇所を読んでおく。 事後学修：スライド資料等により授業内容を確認する。
12 回	授業内容：第 9 章 女性・非正規労働者と労働法 事前学修：教科書の該当箇所を読んでおく。 事後学修：スライド資料等により授業内容を確認する。
13 回	授業内容：第 10 章 雇用の終了 事前学修：教科書の該当箇所を読んでおく。 事後学修：スライド資料等により授業内容を確認する。
14 回	授業内容：全体の復習、補足。 事前学修：教科書の該当箇所を読んでおく。 事後学修：スライド資料等により授業内容を確認する。
15 回	授業内容：試験。 事前学修：試験範囲を復習する。 事後学修：自己採点してみる。

◆**教科書** 丸沼『労働法・第 12 版』新谷真人編著 弘文堂 2019 年  
[当日資料配布]

◆**参考書** 丸沼『労働判例百選・第 9 版』ジュリスト 有斐閣 2016 年

◆**成績評価基準** 最終授業時の論述試験 (100%)。

### 注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

# 講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔行政学〕 変更予定

山田 光矢

- ◆**授業概要** 人類社会の時代的な変化と、各時代の国家や地方公共団体の役割の変質を、W.W. ロストローの「take off の原理」手がかりに分析し、近世からポスト・モダンまでの国家変質と、行政需要の拡大がもたらして行政機構の肥大化と財政赤字の増大に対して、そして今後どのように対応すべきかを、行（財）政改革の実態やあるべき方向性について、行政機構改革や財政改革の実際の例を手がかりに分析していく。
- ◆**学修到達目標** 日本の行（財）政が抱える問題点と、そうした事由が発生した理由やそれへの対応策の適否を分析し、日本の行（財）政改革のあるべき方向性について自分の考えを述べられるようにする。
- ◆**授業方法** 講義形式を中心に基礎的な事項の理解を高めるとともに、項目ごとに討論や質疑応答を行い、各自の考えを確立できるように進めていく。
- ◆**履修条件** やる気さえあればその他の条件は特にありません。
- ◆**授業計画**〔各 90 分〕

1 回	授業内容：行政とはどのようなものなのかを、法律学（三権分立）と政治学（五権分立）から説明する 事前学修：行政や国家や政治といったものがどのようなものなのかを考えてくる 事後学修：政治学と法律学における行政に対する考え方の相違について理解する
2 回	授業内容：人類の歴史と文化や文明の変化と国家・政治・行政の変質を説明する 事前学修：教科書の第 1 章を読んで、W.W. ロストローの「take off の原理」を軸に、人類の歴史について考えてくる 事後学修：人類の歴史と文化や文明、国家・政治・行政の時代的な変質を理解する
3 回	授業内容：絶対主義王政下の政治と行政 事前学修：配布資料の関係する部分を読んでくる 事後学修：イギリス、フランスの絶対主義的特質と、イギリスのエリザベス教養法を理解する
4 回	授業内容：行政学前史：三十年戦争と官房学・警察学、資本主義の萌芽とシュタイン行政学 事前学修：教科書第 1 章と配布資料の関係する部分を読んでくる 事後学修：官房学・警察学・シュタイン行政学の特徴を理解する
5 回	授業内容：アメリカ行政学誕生の背景：アメリカ建国とジャクソニアンデモクラシー 事前学修：配布資料の関係する部分を読んでくる 事後学修：アメリカの独立後の歴史とアメリカ政治の特徴を理解する
6 回	授業内容：アメリカ行政学の誕生と発展：W. ウィルソンとアメリカ行政学 事前学修：配布資料の関係する部分を読んでくる 事後学修：W. ウィルソンの行政学の特徴を整理する
7 回	授業内容：アメリカ行政学の展開：官僚制擁護論と行政学 事前学修：配布資料の関係する部分を読んでくる 事後学修：M. ウェーバー、フェイスール、テーラー、ギューリックらの理論を整理する
8 回	授業内容：アメリカ行政学の変質：行政管理論・ホーソン実験と人間関係論 事前学修：配布資料の関係する部分を読んでくる 事後学修：ホーソン実験がアメリカ行政学やアメリカ社会に与えた影響を整理する
9 回	授業内容：世界大恐慌とニューディール政策とケインズ革命 事前学修：配布資料の関係する部分を読んでくる 事後学修：修正資本主義が政治と行政の関係に与えた影響を整理する
10 回	授業内容：行政国家と行財政改革：新自由主義・新保守主義 事前学修：配布資料の関係する部分を読んでくる 事後学修：大きな政府と小さな政府の特徴と問題点を理解する
11 回	授業内容：明治維新と大日本帝国憲法下の日本の行政改革の特色と流れ 事前学修：教科書第 14 章の関係する部分を読んでくる 事後学修：戦前の日本の行政改革の流れを理解する
12 回	授業内容：日本国憲法制定と新しい行政制度の特徴 事前学修：教科書第 14 章の関係する部分を読んでくる 事後学修：戦後日本の行政改革の流れを理解する
13 回	授業内容：橋本行革・小泉改革・安倍内閣の行（財）政改革の特徴 事前学修：教科書第 14 章の関係する部分を読んでくる 事後学修：平成の行（財）政改革の特色と目的について理解する
14 回	授業内容：年金制度から見えてくる日本の行（財）政の改革の実態と問題点 事前学修：現在の日本における年金制度の問題点を調べてくる 事後学修：年金問題から見えてくる日本の行（財）政の問題点と改革のあるべき方向性を理解する
15 回	授業内容：これまでの講義内容の整理 事前学修：これまでの講義の内容を整理してくる 事後学修：行政学と行政改革の関係を理解する

- ◆**教科書** 丸沼『政治学』吉野篤編・山田光矢他著 弘文堂  
〔当百資料配布〕山田光矢著「行政改革の理論と実態」日本大学法学会編『政経研究』（41- 1）
- ◆**参考書** なし
- ◆**成績評価基準** 試験を 60%、平常点を 20%、小テストやレポート等を 20%程度で評価する。

**注意** E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

# 講座内容（シラバス）

## 〔国文学講義Ⅱ（中古）〕

笹生 美貴子

◆**授業概要** 当該授業は、オンライン授業（オンデマンド型）で進めます。『竹取物語』『源氏物語』を吟味することによって、物語の読みの広がりや解釈を学びます。また、周辺作品との関連にも触れながら、『源氏物語』の文学的位置についても考えていきます。とりわけ、『竹取物語』での和歌や月の俗信、『源氏物語』『夕顔』巻における和歌や俗信、モチーフなどに眼目を置きます。最終日に小論文（授業内容を踏まえた上での論述）を書いてもらい、試験の代わりとします。なお、教職課程教育において、自身が教職免許を得るまでの具体例や教育の現場で経験したことを用いて、教員になることについての実感等を授業にも反映します。

◆**学修到達目標** 古典文学作品を通じて、日本の伝統文化を知ることができます。文学作品に触れることにより、心の豊かさや、物語作品に込められたメッセージを読み取る力を養うことを目標とします。

◆**授業方法** 事前に「夕顔」巻（教科書）全体に目を通し、内容を把握しておきましょう。また、難解な語については古語辞典を用いて予習をしてください。登場人物が多く複雑なため、教科書に載っている人物系図等を参考にしつつ把握しておいてください。

◆**履修条件**

◆**授業計画（各 90 分）**

1回	授業内容：授業の進め方・オリエンテーション・『竹取物語』の読解①—かぐや姫の誕生と成長 事前学修：竹取物語の登場人物・かぐや姫の生い立ちについて確認しておくこと。 事後学修：授業内容をノートに整理し、当該場面についてよく理解しておくこと。
2回	授業内容：『竹取物語』の読解②—求婚難題譚 事前学修：求婚難題譚について調べておくこと。 事後学修：授業内容をノートに整理し、当該場面について理解しておくこと。
3回	授業内容：『竹取物語』の読解③—かぐや姫の昇天場面を中心に 事前学修：学習予定の作品本文に目を通しておくこと。 事後学修：授業内容をノートに整理し、当該場面について整理しておくこと。
4回	授業内容：『源氏物語』『夕顔』巻の読解①—冒頭場面を中心に 事前学修：教科書を読み、「六条のわたり」に住む女性の解釈・乳母について考えておくこと。 事後学修：授業内容をノートに整理し、冒頭場面について整理しておくこと。
5回	授業内容：『源氏物語』『夕顔』巻の読解②—光源氏が扇に書かれた和歌に興味を抱く場面について学ぶ 事前学修：和歌の意味についてよく調べておくこと。 事後学修：授業内容をノートに整理し、扇に書かれた和歌について整理しておくこと。
6回	授業内容：『源氏物語』『夕顔』巻の読解③—惟光に夕顔の素性を調べさせる場面について学ぶ 事前学修：前回授業に配付したプリントに目を通しておくこと。 事後学修：授業内容をノートに整理し、当該場面について整理しておくこと。
7回	授業内容：『源氏物語』『夕顔』巻の読解④—光源氏、伊予介の訪問を受ける場面について学ぶ 事前学修：雨夜の品定めについて調べておくこと。 事後学修：授業内容をノートに整理し、当該場面について整理しておくこと。
8回	授業内容：『源氏物語』『夕顔』巻の読解⑤—源氏と夕顔の恋愛場面について学ぶ（三輪山神話のモチーフ） 事前学修：当該場面について書いてある教科書をよく読んでおくこと。 事後学修：授業内容をノートに整理し、三輪山神話について整理しておくこと。
9回	授業内容：『源氏物語』『夕顔』巻の読解⑥—源氏と夕顔の恋愛場面について学ぶ（異類婚姻譚のモチーフ） 事前学修：当該場面について書いてある教科書をよく読んでおくこと。 事後学修：授業内容をノートに整理し、異類婚姻譚について整理しておくこと。
10回	授業内容：『源氏物語』『夕顔』巻の読解⑦—物の怪が出現し夕顔を取り殺す場面について学ぶ 事前学修：当該場面について書いてある教科書をよく読んでおくこと。 事後学修：授業内容をノートに整理し、当該場面について理解しておくこと。
11回	授業内容：『源氏物語』『夕顔』巻の読解⑧—源氏、右近に夕顔の素性を聞く場面について学ぶ 事前学修：当該場面について書いてある教科書をよく読んでおくこと。 事後学修：授業内容をノートに整理し、当該場面について整理しておくこと。
12回	授業内容：『源氏物語』『夕顔』巻の読解⑨—源氏、夕顔の夢を見る場面について学ぶ 事前学修：当該場面について書いてある教科書をよく読んでおくこと。 事後学修：授業内容をノートに整理し、当該場面について理解しておくこと。
13回	授業内容：『源氏物語』『夕顔』巻以降の内容について学ぶ①—夕顔の娘玉鬘・筑紫での生活 事前学修：玉鬘の筑紫での生活について調べておくこと。 事後学修：授業内容をノートに整理し、当該場面について理解しておくこと。
14回	授業内容：『源氏物語』『夕顔』巻以降の内容について学ぶ②—夕顔の娘玉鬘・六条院での生活と結婚 事前学修：玉鬘の六条院での生活について調べておくこと。 事後学修：授業内容をノートに整理し、当該場面について理解しておくこと。
15回	授業内容：試験及び解説 事前学修：ノートや今まで授業で配付したプリント、教科書によく目を通しておくこと。 事後学修：授業内容を整理して、自身の見解が適切であったかどうか確認すること。

◆**教科書** 丸沼『源氏物語—付現代語訳』（第1巻 桐壺～若紫）（角川ソフィア文庫）玉上琢彌訳注 角川書店  
〔当日資料配布〕

◆**参考書**

◆**成績評価基準** 「授業後提出の感想・意見・授業態度」40%、「試験（小論文）」60%

◆**授業相談（連絡先）**：初回授業時に案内します。

注意

# 講座内容 (シラバス)

## 〔国文学講義Ⅵ (現代)〕

尾形 大

◆**授業概要** 本講義は、日本人で最初のノーベル文学賞作家である川端康成の代表的な小説群を通史的に読み進めることを通じて、大正後半から戦後までの川端文学の変遷とその特徴を整理していくものです。当然のことですが、文学とは作家個人によってのみ作り出されるものではなく、同時代の社会的・文化的・歴史的な背景との結びつきの中で形成されるものです。川端文学が生み出される背景に関する理解を深めつつ、その世界を押し広げていきましょう。

◆**学修到達目標** 1. 文学を専門的に学ぶための姿勢や方法や概念について学び、文学を〈読む〉ための多様な視点の獲得と分析方法を理解し説明することができる。  
2. 川端文学に組み込まれた同時代性を意識しながら、個別のテキストの位置付けと特徴について説明することができる。

◆**授業方法** 基本的に講義形式で行いますが、定期的な小レポートを課して授業内容の理解度を測り、同時に各人の考えを言葉に表してもらいます。受講生は指定されたテキストを通読した上で問題意識を持って授業に臨んでください。毎時リアクションペーパーを記入してもらい、次の時間に回答することで双方向的な授業を作っていきたいと思います。

### ◆履修条件

### ◆授業計画 (各 90 分)

1回	授業内容：ガイダンス／川端康成に関する基礎的な情報の解説 事前学修：川端康成について調べておくこと。 事後学修：授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。
2回	授業内容：『掌の小説』を読む 事前学修：『掌の小説』から1篇を選んで読んでおくこと。 事後学修：授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。
3回	授業内容：『伊豆の踊子』を読む①―『私』とは誰か 事前学修：『伊豆の踊子』前半を読んでおくこと。 事後学修：授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。
4回	授業内容：『伊豆の踊子』を読む②―『名作』化するプロセス 事前学修：『伊豆の踊子』後半を読んでおくこと。 事後学修：授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。
5回	授業内容：『伊豆の踊子』を読む③―同時代性と階級差 事前学修：『伊豆の踊子』について、自分の考えをノートに整理しておくこと。 事後学修：授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。
6回	授業内容：『禽獣』を読む①―人間と〈動物〉 事前学修：『禽獣』を読んでおくこと。 事後学修：授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。
7回	授業内容：『禽獣』を読む②―『雪国』への展開 事前学修：『禽獣』について自分の考えをノートに整理しておくこと。 事後学修：授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。
8回	授業内容：『雪国』を読む①―物語構造と文体 事前学修：『雪国』前半を読んでおくこと。 事後学修：授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。
9回	授業内容：『雪国』を読む②―同時代の〈日本回帰〉との応答 事前学修：『雪国』後半を読んでおくこと。 事後学修：授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。
10回	授業内容：『雪国』を読む③―映画版との比較 事前学修：『雪国』について、自分の考えをノートに整理しておくこと。 事後学修：授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられた文学テキストを実際に読む。
11回	授業内容：『水月』を読む①―時間とメタファー 事前学修：『水月』前半を読んでおくこと。 事後学修：授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。
12回	授業内容：『水月』を読む②―語り手の位置 事前学修：『水月』後半を読んでおくこと。 事後学修：授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。
13回	授業内容：『水月』を読む③―同時代との応答 事前学修：1950年前後の川端康成の活動について調べておくこと。 事後学修：授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。
14回	授業内容：『水月』を読む④―戦争とチャタレイ裁判への眼差し 事前学修：『水月』について、自分の考えをノートに整理しておくこと。 事後学修：授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。
15回	授業内容：試験 事前学修：これまでの授業内容をノートにまとめ、全体を見直しておく。試験では授業で扱った以外の川端文学をひとつ選び分析を行ってもらうので、事前に候補を考えてメモをとりながら読んでおくこと。 事後学修：これまでの授業内容を確認した上で、自身が選んだ川端文学の特徴について同時代状況と重ね合わせながらもう一度読み直しておく。

◆**教科書** 丸沼『雪国』 川端康成 新潮文庫  
丸沼『教科書で読む名作 伊豆の踊子・禽獣ほか』 ちくま文庫

### ◆参考書

◆**成績評価基準** 授業内で実施するレビューシートおよび小レポート (40%)、第 15 回目に実施するレポート形式の試験 (60%)。毎回出席することを前提として評価する。試験に関しては初回に指示するが、一応授業計画の第 15 回を参照しておくこと。

◆**授業相談 (連絡先)**：初回授業時に案内します。

**注意**

# 講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔英文法〕

真野 一雄

- ◆**授業概要** 準動詞 形容詞 名詞句と文構造の多様性 代用表現 関係詞 特殊構文 について、テキストの解説、練習問題を通して英文構造を深く理解する。
- ◆**学修到達目標** 英文学専攻の学生として必要な英文法知識を基礎的及び全般的に修得し、正確な英語の文法解釈ができるようになる。
- ◆**授業方法** テキスト本文の解説、補足説明を行います。設問、練習問題も行います。必要に応じて別途、練習問題を行うこともあります。章末の応用問題は時間の関係で割愛します（解答はポータルに掲載します）。
- ◆**授業計画（各90分）**

1回	授業内容 テキスト本文の解説、補足説明を行います。設問、練習問題も行います。必要に応じて別途、練習問題を行うこともあります。章末の応用問題は時間の関係で割愛します（解答はポータルに掲載します）。
	事前学修 テキスト p. 105-p. 111 の問題点を整理し、練習問題の解答を用意しておく。
	事後学修 学修内容をまとめ、理解を深めておく。
2回	授業内容 第7章 準動詞 7.4 準動詞の意味上の主語 7.5 準動詞の表す「時」
	事前学修 テキスト p. 111-p. 117 の問題点を整理し、練習問題の解答を用意しておく。
	事後学修 学修内容をまとめ、理解を深めておく。
3回	授業内容 第7章 準動詞 7.6 準動詞の形容詞的用法 7.7 不定詞と動名詞の意味の相違
	事前学修 テキスト p. 117-p. 122 の問題点を整理し、練習問題の解答を用意しておく。
	事後学修 学修内容をまとめ、理解を深めておく。
4回	授業内容 第8章 形容詞 8.1 形容詞の定義 8.2-3 形容詞の意味的特性
	事前学修 テキスト p. 124-p. 132 の問題点を整理し、練習問題の解答を用意しておく。
	事後学修 学修内容をまとめ、理解を深めておく。
5回	授業内容 第8章 形容詞 8.4 形容詞を含む複雑な構造 8.5 比較構文
	事前学修 テキスト p. 132-p. 137 の問題点を整理し、練習問題の解答を用意しておく。
	事後学修 学修内容をまとめ、理解を深めておく。
6回	授業内容 第8章 形容詞 8.6 形容詞に相当する表現 8.7 「形容詞」の全体像
	事前学修 テキスト p. 137-p. 138 の問題点を整理し、練習問題の解答を用意しておく。
	事後学修 学修内容をまとめ、理解を深めておく。
7回	授業内容 第9章 名詞句と文構造の多様性 9.1 名詞句の主要部 9.2 同格 9.3 文名詞句
	事前学修 テキスト p. 140-p. 144 の問題点を整理し、練習問題の解答を用意しておく。
	事後学修 学修内容をまとめ、理解を深めておく。
8回	授業内容 第9章 名詞句と文構造の多様性 9.4 間接疑問と潜伏疑問 9.5 語法 9.6 句読法
	事前学修 テキスト p. 145-p. 150 の問題点を整理し、練習問題の解答を用意しておく。
	事後学修 学修内容をまとめ、理解を深めておく。
9回	授業内容 第10章 代用表現 10.1 代名詞 10.2 代用形
	事前学修 テキスト p. 151-p. 160 の問題点を整理し、練習問題の解答を用意しておく。
	事後学修 学修内容をまとめ、理解を深めておく。
10回	授業内容 第10章 代用表現 10.3 省略
	事前学修 テキスト p. 160-p. 162 の問題点を整理し、練習問題の解答を用意しておく。
	事後学修 学修内容をまとめ、理解を深めておく。
11回	授業内容 第11章 関係詞 11.1-5 関係詞の機能と種類 など
	事前学修 テキスト p. 164-p. 172 の問題点を整理し、練習問題の解答を用意しておく。
	事後学修 学修内容をまとめ、理解を深めておく。
12回	授業内容 第11章 関係詞 11.6-10 独立関係節など
	事前学修 テキスト p. 172-p. 179 の問題点を整理し、練習問題の解答を用意しておく。
	事後学修 学修内容をまとめ、理解を深めておく。
13回	授業内容 第12章 特殊構文 12.1 特殊構文とは 12.2 文法的な仕組みとしての特殊構文
	事前学修 テキスト p. 181-p. 189 の問題点を整理し、練習問題の解答を用意しておく。
	事後学修 学修内容をまとめ、理解を深めておく。
14回	授業内容 第12章 特殊構文 12.3 音声的な仕組み 12.4 特殊構文の存在理由
	事前学修 テキスト p. 189-p. 190 の問題点を整理し、練習問題の解答を用意しておく。
	事後学修 学修内容をまとめ、理解を深めておく。
15回	授業内容 試験とその解説
	事前学修 第7～12章の総復習をし、重要事項を正確に理解しておく。
	事後学修 第7～12章の総まとめをし、英文構造の理解を徹底させる。

- ◆**教科書** 『大学生のための現代英文法』『大学生のための現代英文法』 開拓社 開拓社
- ◆**参考書** 『現代英文法講義』 安藤貞雄 開拓社  
『英文法解説』 江川泰一郎 金子書房  
『ジーニアス総合英語』 大修館書店
- ◆**成績評価基準** 全出席を前提に、試験100%で評価の予定。（試験は途中退場なしです）

### 注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。



◆**授業概要** 言語学の下位分類である英語学という学問分野の概略を理解した上で、今回は特に音声学・音韻論に焦点を当てて説明をしていく。人間の用いる言語は、音声-文法-意味の3要素から成るが、言語学はそれぞれの側面に応じた音声学・音韻論・形態論・統語論・意味論・語用論などに分類される。中でも、この講義では音声学と音韻論がどのように異なるのかを説明する。音韻論については、音素と音節までを扱う。

◆**学修到達目標** 言語学の下位分類である英語学という学問分野の概略を理解した上で、今回は特に音声学・音韻論の概要を理解することを目標とする。

◆**授業方法** 指定教科書を読みながら、理解困難な箇所をオンディマンドのコンテンツで補いながら理解を深める。オンディマンドのコンテンツはメディア授業「英語学概説 MA」の第1章から第6章までを用いる。今回は音韻論については、音素と音節の内容を十分に理解してほしい。「英語学概説 MA」のコンテンツの一部は活用するが、試験はこの授業独自の試験を作成してことばの仕組み・音声学・音韻論の理解度を測るため、この授業と「英語学概説 MA」の単位は別のもとなる。

◆**授業計画**

	<b>授業内容</b>	<b>「ことば」とは何か?・ことばの知識</b>
1回	事前学修	教科書の pp. 2-5 を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを、教科書 pp. 2-5 を見ながら再確認する。
	<b>授業内容</b>	<b>言語学と英語学の諸分野</b>
2回	事前学修	教科書の pp. 2-5 を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを、教科書 pp. 2-5 を見ながら再確認する。
	<b>授業内容</b>	<b>音の研究分野・音声学と音韻論</b>
3回	事前学修	教科書 pp. 5-8 を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを、教科書 pp. 5-8 を見ながら再確認する。
	<b>授業内容</b>	<b>ことばの音はどのように作られるか (始動・発声・調音)</b>
4回	事前学修	教科書 pp. 12-15 を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを、教科書 pp. 12-15 を見ながら再確認する。
	<b>授業内容</b>	<b>ことばの音の種類</b>
5回	事前学修	教科書 pp. 15-16 を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを、教科書 pp. 15-16 を見ながら再確認する。
	<b>授業内容</b>	<b>母音</b>
6回	事前学修	教科書 pp. 17-21 を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを、教科書 pp. 17-21 を見ながら再確認する。
	<b>授業内容</b>	<b>子音</b>
7回	事前学修	教科書 pp. 21-29 を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを、教科書 pp. 21-29 を見ながら再確認する。
	<b>授業内容</b>	<b>音素</b>
8回	事前学修	教科書 pp. 32-40 を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを、教科書 pp. 32-40 を見ながら再確認する。
	<b>授業内容</b>	<b>音声素性</b>
9回	事前学修	教科書 pp. 40-44 を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを、教科書 pp. 40-44 を見ながら再確認する。
	<b>授業内容</b>	<b>音節・音節とモーラ</b>
10回	事前学修	教科書 pp. 48-65 を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを、教科書 pp. 48-65 を見ながら再確認する。
	<b>授業内容</b>	<b>閉音節言語と開音節言語</b>
11回	事前学修	教科書 pp. 65-72 を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを、教科書 pp. 65-72 を見ながら再確認する。
	<b>授業内容</b>	<b>音節量</b>
12回	事前学修	教科書 pp. 102-105 を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを、教科書 pp. 102-105 を見ながら再確認する。
	<b>授業内容</b>	<b>理解度確認</b>
13回	事前学修	これまでの授業の内容を改めて見直し、特に英文分析を確認する。
	事後学修	試験に備えて、例文における英文分析を確認する。
	<b>授業内容</b>	<b>最終試験とその解説</b>
14回	事前学修	前回の理解度確認を改めて読み直し、新たな英文で自分の理解度を再度確認する。
	事後学修	自分の試験の答案を確認し、教科書の該当箇所と照合する。
	<b>授業内容</b>	<b>最終試験の解説</b>
15回	事前学修	自分の試験の答案を確認し、教科書の該当箇所と照合する。
	事後学修	授業内容を確認して、自分の単文の構造に関する理解が適切かどうかを再確認する。

◆**教科書** 窪菌晴夫 (1998) 『音声学・音韻論』 日英語対照による英語学演習シリーズ 1, くろしお出版。

◆**参考書(参考文献等)**

- 『日英語対照による英語学概論』 西光義弘 編 くろしお出版
- 窪菌晴夫 (1998) 『音声学・音韻論』 日英語対照による英語学演習シリーズ 1, くろしお出版。
- 窪菌晴夫・溝越彰 (1991) 『英語の発音と英詩の韻律』 英語学入門講座 7, 英潮社。
- 佐藤寧・佐藤努 (1997) 『現代の英語音声学』 金星堂。
- 窪菌晴夫 (1995) 『語形成と音韻構造』 日英語対照研究シリーズ3, くろしお出版。

◆**成績評価基準** 授業参加度：20% (視聴回数など)

最終試験：80% (教科書・参考図書・ノート・電子辞書など、インターネット通信によるもの以外参照可)

# 講座内容（シラバス）

## 〔西洋古典〕【オンデマンド型】

福島 昇

◆**授業概要** シェイクスピアの悲劇『オセロー』を読む。シェイクスピアの英語は英文学、米文学、言語学の基礎です。シェイクスピアの英語を通して、『オセロー』の奥深さを少しでも理解し、『オセロー』のテーマである、嫉妬、真実の愛について学ぶ。また『オセロー』がいかにトニ・モンスンの『デズデモーナ』に影響を与えたか理解させる。

◆**学修到達目標** 英文学専攻の学生として必要な英文法の知識とシェイクスピアの英語を修得する。シェイクスピアは世界の演劇、小説、音楽、美術等に深い影響を与え続けている。授業では、『オセロー』だけでなく、その他のシェイクスピアの主要なテキスト、西洋演劇、日本演劇（歌舞伎、文楽、能・狂言、新派、大衆演劇）、トニ・モンスンなども理解させる。

◆**授業方法** 毎回40行ぐらい精読し、シェイクスピアの文法に慣れるようにする。シェイクスピアと『オセロー』の諸問題について議論し、批評/批評的感想を述べる習慣を身につける。ギリシア悲劇、現代劇、黒人演劇、日本演劇、日本文学、トニ・モンスン『デズデモーナ』（『オセロー』の翻案）などと比較しながら話題を広げる。レポート提出（2回）、リアクションペーパーの提出（毎回提出、率直な質問や感想などを書く、字数は自由）。リアクションペーパーには、私からパワーポイントに動画や音声を吹き込んでお答えします。

◆**履修条件**

◆**授業計画（各90分）**

1回	授業内容：ガイダンス【オンデマンド型】 事前学修：『オセロー』の翻訳を読んでおくこと。 事後学修：授業の方針、到達目標確認試験（レポート提出）について再確認すること。
2回	授業内容：Othello 1.1.1-1.1.40【オンデマンド型】 事前学修：Othello 1.1.1-1.1.40を精読すること。 事後学修：授業内容をノートに整理し、確認しておくこと。
3回	授業内容：Othello 1.1.41-1.1.82【オンデマンド型】 事前学修：Othello 1.1.41-1.1.82を精読すること。 事後学修：授業内容をノートに整理し、確認しておくこと。
4回	授業内容：Othello 1.1.83-1.1.118【オンデマンド型】 事前学修：Othello 1.1.83-1.1.118を精読すること。 事後学修：授業内容をノートに整理し、確認しておくこと。
5回	授業内容：Othello 1.1.119-1.1.158【オンデマンド型】 事前学修：Othello 1.1.119-1.1.158を精読すること。 事後学修：授業内容をノートに整理し、確認しておくこと。
6回	授業内容：Othello 1.1.159-1.2.17【オンデマンド型】 事前学修：Othello 1.1.159-1.2.17を精読すること。 事後学修：授業内容をノートに整理し、確認しておくこと。
7回	授業内容：Othello 1.2.18-1.2.61【オンデマンド型】 事前学修：Othello 1.2.18-1.2.61を精読すること。 事後学修：授業内容をノートに整理し、確認しておくこと。
8回	授業内容：中間試験（レポート提出、1,500字以上）『オセロー』に関するものであればテーマは自由） Othello 1.2.62-1.2.99【オンデマンド型】 事前学修：レポートのテーマを決めて準備しておくこと。Othello 1.2.62-1.2.99を精読すること。 事後学修：授業内容をノートに整理し、確認しておくこと。
9回	授業内容：Othello 5.2.120-5.2.160【オンデマンド型】 事前学修：Othello 5.2.120-5.2.160を精読すること。 事後学修：授業内容をノートに整理し、確認しておくこと。
10回	授業内容：Othello 5.2.160-5.2.199【オンデマンド型】 事前学修：Othello 5.2.160-5.2.199を精読すること。 事後学修：授業内容をノートに整理し、確認しておくこと。
11回	授業内容：Othello 5.2.199-5.2.241【オンデマンド型】 事前学修：Othello 5.2.199-5.2.241を精読すること。 事後学修：授業内容をノートに整理し、確認しておくこと。
12回	授業内容：Othello 5.2.241-5.2.279【オンデマンド型】 事前学修：Othello 5.2.241-5.2.279を精読すること。 事後学修：授業内容をノートに整理し、確認しておくこと。
13回	授業内容：Othello 5.2.280-5.2.319【オンデマンド型】 事前学修：Othello 5.2.280-5.2.319を精読すること。 事後学修：授業内容をノートに整理し、確認しておくこと。
14回	授業内容：Othello 5.2.320-5.2.367【オンデマンド型】 事前学修：Othello 5.2.320-5.2.367を精読すること。 事後学修：授業内容をノートに整理し、確認しておくこと。
15回	授業内容：到達目標確認試験（レポート提出、1,500字以上）『オセロー』に関するものであればテーマは自由） 【オンデマンド型】 事前学修：レポートのテーマを決めて準備しておくこと。 事後学修：授業内容（1～15回）を総復習すること。

◆**教科書** Norman Sanders 編『オセロー』Othello, The New Cambridge Shakespeare (Cambridge UP, 3版, 2018). AMAZON 等で入手できます。

■事前資料送付 教科書のプリントも用意します。

◆**参考書** 授業中に随時紹介する。

◆**成績評価基準** 学修到達目標確認試験（レポート50%、授業参画度50%）

◆**授業相談（連絡先）**：第1回目に案内します。

注意

# 講座内容（シラバス）

## 〔英語学演習〕

小澤 賢司

◆**授業概要** 本授業では、「卒業論文」作成の一助となるよう、以下の項目を扱います。④は時間的な余裕があれば行ないます。

- ① 論文とは何かを知る。
- ② 各種文献を精読する。
- ③ 実際に論文を読む（体験する）。
- ④ 受講者同士で意見を交わし合う。

◆**学修到達目標** 本授業では、以下の到達目標を設定します。④は時間的な余裕があった場合の到達目標となります。

- ① 論文の構成を理解し、説明することができる。
- ② 文献を正確に読み解き、まとめることができる。
- ③ 疑問を捻出することができる。
- ④ 協働作業（グループワーク）を通して、解決策（案）を創出することができる。

◆**授業方法** 本授業では、当日配布プリントおよび事前配布プリントを輪読形式で読み進めていきます。適宜、受講者を指名します。事前配布資料を配っていますので、授業までに精読および自然な日本語に訳しておいてください。音読はとても重要ですので、既知の単語でも発音とアクセント（特にアクセント）はしっかり調べ、発音できるようにしておいてください。3日間のスクーリングですので、全15回の「授業計画」は1日約5回分進むとお考えください。ただし、受講者の様子（理解度）を見ながら授業を進めていきますので、全15回の「授業計画」はあくまで「目安」です。

◆**履修条件**

◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容 論文の進め方について、論文について、辞書について 論文を読む その1 序論：{Will / Can / Would / Could} you ~? の知識の確認	事前学修 本授業のシラバスを熟読しておくこと	事後学修 授業内容を復習しておくこと
2回	授業内容 論文を読む その1 柏野（2002）「ボライトネスの側面」（3節「疑問文の検討」まで）	事前学修 論全体の構成、話の流れ（論理的過程）、主張の展開方法、客観性の有無など、第1回目まで伝えたことを意識しながら文献を読むこと	事後学修 授業内容を復習しておくこと
3回	授業内容 論文を読む その1 柏野（2002）「ボライトネスの側面」（6節「結語」まで）	事前学修 論全体の構成、話の流れ（論理的過程）、主張の展開方法、客観性の有無など、第1回目まで伝えたことを意識しながら文献を読むこと	事後学修 授業内容を復習しておくこと
4回	授業内容 論文を読む その2（序論） 比較構文 as ... as の知識の確認 論文を読む その2 澤田（2018）「“x as ... as y” 構文の意味解釈をめぐって」（3節「“x as ... as y” 構文の意味」まで）	事前学修 論全体の構成、話の流れ（論理的過程）、主張の展開方法、客観性の有無など、第1回目まで伝えたことを意識しながら文献を読むこと	事後学修 授業内容を復習しておくこと
5回	授業内容 論文を読む その2 澤田（2018）「“x as ... as y” 構文の意味解釈をめぐって」（5節「おわりに」まで）	事前学修 論全体の構成、話の流れ（論理的過程）、主張の展開方法、客観性の有無など、第1回目まで伝えたことを意識しながら文献を読むこと	事後学修 授業内容を復習しておくこと
6回	授業内容 文献を読む 序論：法助動詞 Can と May の知識の確認 文献を読む Leech（2004）Can と May（事前配布資料1ページ目）	事前学修 事前配布プリント（A4版縦）の1ページ目を精読し、日本語訳を用意しておくこと	事後学修 授業内容を復習しておくこと
7回	授業内容 文献を読む Leech（2004）Can と May（事前配布資料2ページ目）	事前学修 事前配布プリント（A4版縦）の2ページ目を精読し、日本語訳を用意しておくこと	事後学修 授業内容を復習しておくこと
8回	授業内容 文献を読む Leech（2004）Can と May（事前配布資料3ページ目）	事前学修 事前配布プリント（A4版縦）の3ページ目を精読し、日本語訳を用意しておくこと	事後学修 授業内容を復習しておくこと
9回	授業内容 文献を読む Leech（2004）Can と May（事前配布資料4ページ目）	事前学修 事前配布プリント（A4版縦）の4ページ目を精読し、日本語訳を用意しておくこと	事後学修 授業内容を復習しておくこと
10回	授業内容 論文を読む その3 柏野（2002）「可能性を表す can と may」	事前学修 論全体の構成、話の流れ（論理的過程）、主張の展開方法、客観性の有無など、第1回目まで伝えたことを意識しながら文献を読むこと	事後学修 授業内容を復習しておくこと
11回	授業内容 論文を読む その4 Altman “Getting the Subtle Distinctions: Should Verbus Had Better”（IDENTIFYING THE PROBLEM まで）	事前学修 事前配布プリント（A4版横）の文献を精読し、日本語訳を用意しておくこと	事後学修 授業内容を復習しておくこと
12回	授業内容 論文を読む その4 Altman “Getting the Subtle Distinctions: Should Verbus Had Better”（MODAL TEST ITEMS まで）	事前学修 事前配布プリント（A4版横）の文献を精読し、日本語訳を用意しておくこと	事後学修 授業内容を復習しておくこと
13回	授業内容 論文を読む その4 Altman “Getting the Subtle Distinctions: Should Verbus Had Better”（DISCUSSION まで）	事前学修 事前配布プリント（A4版横）の文献を精読し、日本語訳を用意しておくこと	事後学修 授業内容を復習しておくこと
14回	授業内容 これまでの復習（予備回）	事前学修 これまでの授業で不足と感じるものについて質問を考えておくこと	事後学修 テストに備えて勉強しておくこと
15回	授業内容 総括テストおよびまとめ	事前学修 テストに備えて勉強しておくこと	事後学修 本授業で学んだことを今後の学修に活かすこと

◆**教科書** **事前資料送付** A4版「縦」（Can と May について）の資料を配布します。

**事前資料送付** A4版「横」（Had better について）の資料を配布します。

◆**参考書** 大学生・社会人向けの辞書を必ず持参してください。2003年以降に発行された辞書が望ましいです。新しい辞書の購入をお考えの方には授業中にいくつかご紹介いたします。

◆**成績評価基準** 試験（60%）、授業参加度（40%）  
※3日間すべての回に出席していることを前提に評価します。

◆**授業相談（連絡先）**：授業の前後ないし授業中に（用紙に書いていただいて）質問を受け付けます。

注意

# 講座内容（シラバス）

## 〔倫理学基礎講読〕

関谷 雄磨

◆**授業概要** 「倫理学基礎講読」は、倫理学上のさまざまな問題をテーマに書かれた作品を精読する科目です。本年は、プラトンの初期作品から『ソクラテスの弁明』を扱います。この作品においては、例えば、人間にとって最も大切なものは「命」なのか、それとも、「命」以上に大切にすべきものがあるのか、もしあるとしたらそれは一体何なのか、といった問いかけがなされており、それらを手掛かりとして、「われわれは一体どのような生き片をすればよいのか」という根本的な問題について、本講座でみなさんと一緒に考えたいと思います。

◆**学修到達目標** プラトンの作品と一緒に読みながら、倫理学（哲学）書を深く理解するための読み方を習得します。具体的には、1) まず、作品の中でどのような問題が提起されているのかを理解し、2) そして、その問題に対して著者（あるいは登場人物）がどのような主張をしているのかを読み解きます。3) その上で、読み手であるわれわれ自身がその問題について主体的に考察・評価する、というものです。

◆**授業方法** 授業は、ソクラテスやその時代状況について少し講義をした後に、『ソクラテスの弁明』を読みます。今年度は関谷がテキストを音読し、そこにどのような問題が隠れているのかを掘り起こして解説しながら読み進めるというスタイルで行います。なお、学修効果を高めるため、必ず事前に『ソクラテスの弁明』を読んでから授業に臨んで下さい。（『授業計画』におけるページの割り振りは便宜的なものです。）

### ◆履修条件

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回	授業内容：ガイダンス、ソクラテスおよびその時代状況についての一般的説明 事前学修：『ソクラテスの弁明』（前半）を読んでおくこと 事後学修：ソクラテスおよびその時代状況について、配布プリントを基に復習すること
2 回	授業内容：ソクラテスおよびその時代状況についての一般的説明（つづき） 事前学修：『ソクラテスの弁明』（後半）を読んでおくこと 事後学修：ソクラテスおよびその時代状況について、配布プリントを基に復習すること
3 回	授業内容：『ソクラテスの弁明』講読（1-2章） 事前学修：『ソクラテスの弁明』該当箇所を精読し、疑問点を整理しておくこと 事後学修：『ソクラテスの弁明』該当箇所を振り返り、内容をよく理解しておくこと
4 回	授業内容：『ソクラテスの弁明』講読（3-5章） 事前学修：『ソクラテスの弁明』該当箇所を精読し、疑問点を整理しておくこと 事後学修：『ソクラテスの弁明』該当箇所を振り返り、内容をよく理解しておくこと
5 回	授業内容：『ソクラテスの弁明』講読（6-7章） 事前学修：『ソクラテスの弁明』該当箇所を精読し、疑問点を整理しておくこと 事後学修：『ソクラテスの弁明』該当箇所を振り返り、内容をよく理解しておくこと
6 回	授業内容：『ソクラテスの弁明』講読（8-10章） 事前学修：『ソクラテスの弁明』該当箇所を精読し、疑問点を整理しておくこと 事後学修：『ソクラテスの弁明』該当箇所を振り返り、内容をよく理解しておくこと
7 回	授業内容：『ソクラテスの弁明』講読（11-12章） 事前学修：『ソクラテスの弁明』該当箇所を精読し、疑問点を整理しておくこと 事後学修：『ソクラテスの弁明』該当箇所を振り返り、内容をよく理解しておくこと
8 回	授業内容：『ソクラテスの弁明』講読（13-15章） 事前学修：『ソクラテスの弁明』該当箇所を精読し、疑問点を整理しておくこと 事後学修：『ソクラテスの弁明』該当箇所を振り返り、内容をよく理解しておくこと
9 回	授業内容：『ソクラテスの弁明』講読（16-17章） 事前学修：『ソクラテスの弁明』該当箇所を精読し、疑問点を整理しておくこと 事後学修：『ソクラテスの弁明』該当箇所を振り返り、内容をよく理解しておくこと
10 回	授業内容：『ソクラテスの弁明』講読（18-20章） 事前学修：『ソクラテスの弁明』該当箇所を精読し、疑問点を整理しておくこと 事後学修：『ソクラテスの弁明』該当箇所を振り返り、内容をよく理解しておくこと
11 回	授業内容：『ソクラテスの弁明』講読（21-22章） 事前学修：『ソクラテスの弁明』該当箇所を精読し、疑問点を整理しておくこと 事後学修：『ソクラテスの弁明』該当箇所を振り返り、内容をよく理解しておくこと
12 回	授業内容：『ソクラテスの弁明』講読（23-25章） 事前学修：『ソクラテスの弁明』該当箇所を精読し、疑問点を整理しておくこと 事後学修：『ソクラテスの弁明』該当箇所を振り返り、内容をよく理解しておくこと
13 回	授業内容：『ソクラテスの弁明』講読（26-27章） 事前学修：『ソクラテスの弁明』該当箇所を精読し、疑問点を整理しておくこと 事後学修：『ソクラテスの弁明』該当箇所を振り返り、内容をよく理解しておくこと
14 回	授業内容：『ソクラテスの弁明』講読（28-30章） 事前学修：『ソクラテスの弁明』該当箇所を精読し、疑問点を整理しておくこと 事後学修：『ソクラテスの弁明』該当箇所を振り返り、内容をよく理解しておくこと
15 回	授業内容：『ソクラテスの弁明』講読（31-33章） 事前学修：『ソクラテスの弁明』該当箇所を精読し、疑問点を整理しておくこと 事後学修：『ソクラテスの弁明』該当箇所を振り返り、内容をよく理解しておくこと

◆**教科書** 教材『倫理学基礎講読 P 30200』（通信教育教材 教材コード 000337）

◆**参考書** 教材『西洋思想史 I P20200』通信教育教材（教材コード 000569）  
丸沼『増補ソクラテス』岩田靖夫（ちくま学芸文庫）

◆**成績評価基準** 期間中に課すレポート（10%）および、終講レポート（90%）で評価します。

◆**授業相談（連絡先）**：philosophy\_gr\_sekiya@yahoo.co.jp

注意

# 講座内容（シラバス）

〔東洋史特講Ⅱ〕 オープン受講：不可

高綱 博文

- ◆**授業概要** 孫文の「大アジア主義」について
- ◆**学修到達目標** 近代中国を代表する革命政治家・孫文は、1924年11月最後の訪日において有名な「大アジア主義」講演を行った。本講義では同講演を彼の対外戦略論の視点から読み解き、複雑な近代日中関係史を理解する。
- ◆**授業方法** テキストを講読するとともに、孫文関係の映像資料を視聴し近代日中関係史への理解を深める。
- ◆**準備学修** テキスト『東洋史特講Ⅱ』を通読しておくこと。
- ◆**履修条件**
- ◆**授業計画**〔1日目：450分、2日目：450分、3日目：450分〕

1日目	テキストの第1章・第2章及び史料を講読する。 孫文と中国革命（映像視聴・講義）
2日目	テキストの第3章・第4章及び史料を講読する。 孫文と中国革命（映像視聴・講義）
3日目	テキストの第5章・第6章及び史料を講読する。 孫文の中国革命を支援した日本人（映像視聴・講義） まとめ・試験

- ◆**教科書** 『東洋史特講Ⅱ』（通信教育部教材）
- ◆**参考書** ●
- ◆**成績評価基準** 試験（70%）、レポート（30%）。
- ◆**授業相談（連絡先）**：takatsuna.hirofumi@nihon-u.ac.jp（連絡する際には学科・学生番号・氏名を明記）

注意

# 講座内容（シラバス）

## 〔経済開発論〕

前野 高章

◆**授業概要** 新興国や途上国の経済発展はいまや世界経済に強い影響を与えており、先進国と新興国や途上国との経済的結びつきは深まっている。本講義では経済発展の基礎理論と経済発展の源泉に関する主要論点を学ぶことから、新興国および途上国の経済発展を歴史的側面、理論的側面、政策的側面から理解し、グローバル化による経済的影響について考えていく。

◆**学修到達目標** 発展途上国の経済開発がどのように変遷してきたのか、という点を歴史的側面、理論的側面、政策的側面から学ぶことにより、アジア地域の新興国や発展途上国の経済開発の現状や直面している課題について理解・説明できるようになることを目的とする。

◆**授業方法** 授業は講義形式を基本とする。教科書および配布資料にもとづき、板書とパワーポイントで講義を行う。教科書は事前に読んでおくこと。また、講義内で課題を設ける場合、その解説は講義内で行うようにする。

◆**履修条件**

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容 開発経済論とは何かについて 講義の進め方について確認し、経済発展とは何かなどについて学修する。	事前学修 教科書、参考書などから経済発展とは何かを把握する。	事後学修 講義の内容を整理し、配布資料を読んで、講義内容を理解する。
2 回	授業内容 国際経済学と経済開発論 経済開発の歴史的展開（戦前から戦後 1950 年代）について学修する。	事前学修 前回の配布資料の要点を確認する。	事後学修 配布資料をもとに講義内容をまとめる。
3 回	授業内容 国際経済学と経済開発論 経済開発の歴史的展開（1960 年代から 1970 年代）について学修する。	事前学修 教科書、参考書、配布資料などから南北問題の意味について確認する。	事後学修 講義内容をもとに南北問題の発生経緯について整理する。
4 回	授業内容 国際経済学と経済開発論 経済開発の歴史的展開（1980 年代以降）について学修する。	事前学修 教科書、参考書、配布資料などから途上国と新興国の格差問題について確認する。	事後学修 講義内容をもとに南北問題の変容と新興国の台頭について整理する。
5 回	授業内容 経済開発の基本問題と開発理論の展開 途上国の経済成長と貧困問題について学修する。	事前学修 教科書、参考書、配布資料などから経済発展と貿易の関係について確認する。	事後学修 講義内容をもとにローレンツ曲線やクズネッツの逆 U 字仮説について確認し、経済成長と貧困問題について整理する。
6 回	授業内容 経済開発の基本問題と開発理論の展開 開発経済理論の展開について学修する。	事前学修 教科書、参考書、配布資料などから経済発展と海外直接投資の関係について確認する。	事後学修 講義内容をもとに経済開発の理論展開について整理する。
7 回	授業内容 経済発展と貿易の役割 国際貿易の役割について学修する。	事前学修 教科書、参考書、配布資料などから経済発展と開発戦略の関係について確認する。	事後学修 講義内容をもとに経済開発における国際貿易の役割について整理する。
8 回	授業内容 経済発展と貿易の役割 国際貿易理論の進展について学修する。	事前学修 教科書、参考書、配布資料などから経済発展と工業化戦略の関係について確認する。	事後学修 講義内容をもとに国際貿易の理論展開について整理する。
9 回	授業内容 経済発展と貿易の役割 経済発展における貿易政策の役割について学修する。	事前学修 教科書、参考書、配布資料などから経済発展における人口問題について確認する。	事後学修 講義内容をもとに貿易政策の役割について整理する。
10 回	授業内容 開発戦略の展開とキャッチアップ 経済開発のキャッチアップ・プロセスについて学修する。	事前学修 教科書、参考書、配布資料などから途上国の農村問題や貧困問題について確認する。	事後学修 講義内容をもとに開発戦略の時代的推移について整理する。
11 回	授業内容 経済発展と人口問題 経済発展における人口増加と経済成長の関係性について学修する。	事前学修 教科書、参考書、配布資料などから途上国の都市化政策について確認する。	事後学修 講義内容をもとに経済発展における人口転換モデルと人口政策の在り方について整理する。
12 回	授業内容 経済発展と農村開発・都市化政策 経済発展における農村開発と都市化政策について学修する。	事前学修 教科書、参考書、配布資料などから東アジア地域の経験の要因について確認する。	事後学修 講義内容をもとに農村開発・都市化政策の特徴と問題点を整理する。
13 回	授業内容 経済発展と東アジアの経験 貿易と投資による東アジア地域の経済発展について学修する。	事前学修 教科書、参考書、配布資料などから経済発展における先進国の役割について確認する。	事後学修 講義内容をもとに東アジアの経済発展プロセスの特徴について整理する。
14 回	授業内容 経済発展と開発援助政策 開発援助の意義について学修する。	事前学修 これまで配布した資料を熟読し、要点をノートにまとめる。	事後学修 講義内容をもとに世界の開発援助の特徴と課題について整理する。
15 回	授業内容 試験および総まとめ 講義で学修した内容の総確認を行う。	事前学修 全配布資料から講義の要点をまとめる。	事後学修 講義および試験をふまえ、新興国・途上国の経済発展について再確認する。

◆**教科書** 丸沼『現代開発経済入門』陸亦群 他 文真堂 2020 年  
〔当日資料配布〕講義資料は当日に配布する。

◆**参考書** 丸沼『アジア開発経済論』セイジ・F・ナヤ著 文真堂 2013 年  
〔通材〕『経済開発のエッセンス』辻忠博 創成社 2015 年  
丸沼

◆**成績評価基準** 試験（70%）、および、課題などの平常点（30%）から評価する。毎回出席することを前提として成績をつける。

◆**授業相談（連絡先）：**

注意

# 講座内容（シラバス）

## 〔情報概論〕

中村 典裕

◆**授業概要** 現代社会において知的活動を行うためには、コンピュータの活用は必須である。その中でも特にオフィスソフトと呼ばれる、ワープロ・表計算・プレゼンソフトを使いこなす技術は極めて重用である。本講義では、民間企業で情報システムの構築に関わった経験のある教員が、文書などの文字情報を扱うワープロソフト、数字やデータなどの表計算ソフト、研究成果や地域情報の発信などを行うプレゼンソフトの基本と応用面を教育する。

◆**学修到達目標** 本講義を通じてオフィスソフトの概要と特徴を把握し、情報の種類に応じて適切なソフトウェアを選択して利用できる技術を習得する。最終的に次の内容を習得することを目標とする。

1. オフィスソフトの概要を習得する。
2. 情報の種類に応じて、ワープロ・表計算・プレゼンソフトの使い分けが可能になる。
3. 最終的にオフィスソフトを活用して、ある程度まとまった課題を完成する事ができる。

◆**授業方法** 本スクーリングの中では講義形式と演習の両方を行う。講義形式ではコンピュータの構造、歴史、コンピュータセキュリティ、情報倫理などについて学ぶ。演習ではコンピュータを実際に操作しながら、必要な技術の習得を目指す。授業の折々に小課題を課し提出する。

◆**履修条件**

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1回	授業内容：ガイダンス、PC 操作の基礎とウェブの原理と閲覧 事前学修：日頃から情報通信技術（ICT）に関わるテレビ報道や新聞記事などに興味や関心を持って接する態度を期待する。 事後学修：授業の内容をノートに整理する。授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。
2回	授業内容：ワードの基礎：タイピング、各種記号や特殊文字の入力、コピー & ペースト 事前学修：授業 Web の内容を事前に関覧し、授業内容への理解を深めておく。 事後学修：授業の内容をノートに整理する。授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。
3回	授業内容：ワードの応用：表、図形の作成、ビジネス文書（社内文書、社外文書）の作成 事前学修：授業 Web の内容を事前に関覧し、授業内容への理解を深めておく。 事後学修：授業の内容をノートに整理する。授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。
4回	授業内容：コンピュータの基本原則・コンピュータ技術の基礎に関する学習 事前学修：授業 Web の内容を事前に関覧し、授業内容への理解を深めておく。 事後学修：授業の内容をノートに整理する。授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。
5回	授業内容：ワードの総合演習：表現力のある文書の作成 事前学修：授業 Web の内容を事前に関覧し、授業内容への理解を深めておく。 事後学修：授業の内容をノートに整理する。また、自宅でも授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。
6回	授業内容：表計算ソフトの概要とエクセルの基礎 事前学修：授業 Web の内容を事前に関覧し、授業内容への理解を深めておく。 事後学修：授業の内容をノートに整理する。授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。
7回	授業内容：エクセル入門：表計算ソフトの基礎、合計と平均を使った表の作成 事前学修：授業 Web の内容を事前に関覧し、授業内容への理解を深めておく。 事後学修：授業の内容をノートに整理する。授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。
8回	授業内容：エクセル活用：四則演算、グラフ基礎、IF 関数、条件付き書式 事前学修：授業 Web の内容を事前に関覧し、授業内容への理解を深めておく。 事後学修：授業の内容をノートに整理する。授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。
9回	授業内容：エクセル応用：オートフィルタ、データベース機能、ピボットテーブル 事前学修：授業 Web の内容を事前に関覧し、授業内容への理解を深めておく。 事後学修：授業の内容をノートに整理する。授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。
10回	授業内容：情報化社会の発達と進展 事前学修：授業 Web の内容を事前に関覧し、授業内容への理解を深めておく。 事後学修：授業の内容をノートに整理する。また、自宅でも授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。
11回	授業内容：HTML の基礎・ホームページ記述言語の基礎について学ぶ 事前学修：授業 Web の内容を事前に関覧し、授業内容への理解を深めておく。 事後学修：授業の内容をノートに整理する。また、自宅でも授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。
12回	授業内容：インターネットセキュリティ：コンピュータ犯罪などについて学ぶ 事前学修：授業 Web の内容を事前に関覧し、授業内容への理解を深めておく。 事後学修：授業の内容をノートに整理する。授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。
13回	授業内容：パワーポイント入門：プレゼンテーションの基礎 事前学修：授業 Web の内容を事前に関覧し、授業内容への理解を深めておく。 事後学修：授業の内容をノートに整理する。授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。
14回	授業内容：パワーポイント演習：プレゼンテーションの実践演習 事前学修：授業 Web の内容を事前に関覧し、授業内容への理解を深めておく。 事後学修：授業の内容をノートに整理する。授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。
15回	授業内容：最終課題：これまでに学習した内容を駆使して課題に取り組む。 事前学修：前回までの授業内容を確認し、最終課題に備える。 事後学修：最終課題の結果を整理し、結果について再確認する。

◆**教科書** 〔当日資料配布〕

◆**参考書**

◆**成績評価基準** 平常点（20%）、小課題（30%）、最終課題レポート（50%）。全時間受講する事を前提として評価する。

◆**授業相談（連絡先）**：

注意

# 講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔広告論〕

雨宮 史卓

- ◆**授業概要** 広告及び宣伝、PR、プロモーション等の意義を理解し、マーケティング戦略の中でいかにこれらが機能しているかを学ぶ。また、広告戦略についても考察し、広告が様々な企業組織や生活者の間に存在するコミュニケーション活動であることを理解する。できるだけ身近な事例を用いて理論を解説するように心掛け、実務経験から得た知識を具体例として挙げる。
- ◆**学修到達目標**
  - 1 プロモーション活動における広告の基本的機能と役割が理解できる。
  - 2 広告及び宣伝、PR、プロモーション等の意義を理解し、マーケティング戦略の中でこれらが、どのように機能しているかを説明できる。
  - 3 市場動向や時代背景を見極めながら、広告コンセプトがどのように立案されていくかが理解できる。
- ◆**授業方法** ターン前半はテキストに沿いながら広告の基本機能を解説し、後半は必要に応じて資料を配布して企業の広告戦略を解説する。また、各授業の後半で、その日の主要なテーマに関するリアクション・ペーパー（小論文）の提出を求める。
- ◆**履修条件** 昼間スクーリング（前期）受講者は受講不可。
- ◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容：授業の進め方 オリエンテーション 広告とは何か？ 事前学修：テキスト20～21頁の広告の基本的な考え方をよく読んでおくこと。 事後学修：授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分と配布資料を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
2回	授業内容：広告の基本的機能と役割 事前学修：テキスト32～36頁の広告コミュニケーションの基本的考え方をよく読んでおくこと。 事後学修：配布資料をノートにまとめ、テキストの第1章を要約しておくこと。
3回	授業内容：マーケティング戦略とプロモーション戦略 事前学修：テキスト第1章の要約を読み返し、15頁の図を見て、マーケティングとプロモーションの関係を把握しておくこと。 事後学修：テキストの図と配布資料の図表を見比べて、その内容をノートに整理しておくこと。
4回	授業内容：プロモーション戦略と広告 事前学修：前回の授業のノートと配布資料を確認し、テキスト19頁の表をノートに書き写しておくこと。 事後学修：授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分と配布資料を読んで、プロモーション戦略の種類とその内容を確認しておくこと。
5回	授業内容：高価格製品の広告戦略 事前学修：前回の授業のノートを確認し、テキスト36～41頁をよく読んでおくこと。 事後学修：授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
6回	授業内容：コモディティ製品の広告戦略 事前学修：前回の授業のノートを確認し、テキスト41～50頁をよく読んでおくこと。 事後学修：授業の内容をノートに整理し、コモディティ製品の特徴を理解し、配布資料の事例を確認しておくこと。
7回	授業内容：広告コンセプトの考え方 事前学修：前回の授業のノートを確認し、テキスト57～63頁をよく読んでおくこと。 事後学修：授業の内容をノートに整理し、「広告コンセプトの考え方」「広告の3Bの法則」「色彩マーケティング」の内容をノートに要約しておくこと。
8回	授業内容：データ分析と広告露出 事前学修：前回の授業のノートを確認し、テキスト63～67頁をよく読んでおくこと。また、配布資料に目を通しておくこと。 事後学修：授業の内容をノートに整理し、定量データと定性データの違いや、ポストモダン・マーケティングの内容を理解しておくこと。
9回	授業内容：時間の概念と広告戦略 事前学修：前回の授業のノートを確認し、テキスト67～80頁をよく読んでおくこと。また、配布資料に目を通しておくこと。 事後学修：授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
10回	授業内容：広告コンセプトとタイム・マーケット 事前学修：前回の授業のノートを確認し、テキスト83～88頁をよく読んで、タイム・マーケットの現状を理解しておくこと。 事後学修：授業の内容をノートに整理し、テキスト85頁の表をノートに書き写しておくこと。
11回	授業内容：タイム・マーケットの新たな視点と広告コンセプト 事前学修：前回の授業のノートを確認し、テキスト88～103頁をよく読んでおくこと。 事後学修：授業の内容をノートに整理し、テキスト103頁の表をノートに書き写しておくこと。
12回	授業内容：消費者行動と商品ベネフィット 事前学修：前回の授業のノートを確認し、テキスト105～116頁をよく読んでおくこと。 事後学修：授業の内容をノートに整理し、「消費者シグナル」の概念を理解しておくこと。
13回	授業内容：サービスに対する広告・プロモーションの考え方 事前学修：前回の授業のノートを確認し、テキスト120～131頁をよく読んでおくこと。 事後学修：授業の内容をノートに整理し、テキスト120頁、128～129頁の図表をノートに書き写しておくこと。
14回	授業内容：前期授業の総まとめ 事前学修：予め配布された資料を熟読し、テキスト該当箇所を事前にノートにまとめておくこと。 事後学修：要点項目として配布資料に挙げたものを、再確認し授業内容をノートに整理しておくこと。
15回	授業内容：テストと解説 事前学修：前回の授業内で指摘した広告戦略の事例を、前もって調べておくこと。 事後学修：授業内容を確認し、自身が調べた広告戦略の事例が適切かどうかを再確認すること。

- ◆**教科書** 教材「広告論 S30900」  
〔当日資料配布〕必要に応じて資料を配布する
- ◆**参考書** なし
- ◆**成績評価基準** テスト（40%）、小論文（40%）、平常点（20%） 授業の取り組み、小論文、テストにより総合的に評価します。

**注意** E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。



# 講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔教育原論 / 教育の思想 B〕

渡辺 典子

◆**授業概要** 過去から現在に至るまでの学校の変遷とそれを支えている教育理念を理解し、歴史認識を培うことで、現在の教育に対する視点を持つことを目的とする。

◆**学修到達目標** ①近代の教育を支えている理念や思想に関する基礎的な知識を身につけることができる。  
②現代社会における教育課題を考える際の歴史的視点を身につけることができる。  
③人間の育ちとジェンダーとのかかわりを理解することができる。

◆**授業方法** 主な授業方法は教科書に沿った講義形式であるが、できるだけ視聴覚教材を用い、またグループワークも取り入れる予定である。

### ◆授業計画〔各90分〕

1回	授業内容: イントロダクションー教育の本質・目標ー 事前学修: テキスト p. 1-2 を読んでおくこと。 事後学修: 授業内容を確認し理解しておくこと。
2回	授業内容: 近世の子どもと教育 事前学修: テキスト p.41-55 の太字の項目内容に目を通すこと。 事後学修: 授業内容を確認し理解しておくこと。
3回	授業内容: 近代教育の成立 事前学修: テキスト p.64-68 の太字の項目内容に目を通すこと。 事後学修: 授業内容を確認し理解しておくこと。
4回	授業内容: 天皇制教育体制の確立と展開 事前学修: テキスト p.85-88 を読んでおくこと。 事後学修: 授業内容を確認し理解しておくこと。
5回	授業内容: 良妻賢母教育の成立 事前学修: テキスト p.99, 101-102 を読んでおくこと。 事後学修: 授業内容を確認し理解しておくこと。
6回	授業内容: 教員養成と教科書 事前学修: テキスト p.70, 103-104 を読んでおくこと。 事後学修: 授業内容を確認し理解しておくこと。
7回	授業内容: 大正デモクラシー期における社会と教育の再編 事前学修: テキスト p.115 - 120 の太字の項目内容に目を通すこと。 事後学修: 授業内容を確認し理解しておくこと。
8回	授業内容: 児童中心主義の教育 事前学修: テキスト p.127-128, 130-131 を読んでおくこと。 事後学修: 授業内容を確認し理解しておくこと。
9回	授業内容: 教育を受ける権利 事前学修: テキスト p.128-129 を読んでおくこと。 事後学修: 授業内容を確認し理解しておくこと。
10回	授業内容: 大正期の女性と教育 事前学修: テキスト p.106-107 を読んでおくこと。 事後学修: 授業内容を確認し理解しておくこと。
11回	授業内容: 大正期の社会教育 事前学修: テキスト p.115-116 を読んでおくこと。 事後学修: 授業内容を確認し理解しておくこと。
12回	授業内容: 昭和前期の教育と子ども 事前学修: テキスト p.138, p.141-142, p.149-153 の太字の項目内容に目を通すこと。 事後学修: 授業内容を確認し理解しておくこと。
13回	授業内容: 昭和前期の女性の教育 事前学修: テキスト p.150 を読んでおくこと。 事後学修: 授業内容を確認し理解しておくこと。
14回	授業内容: 昭和前期の男性の教育 事前学修: テキスト p.151 を読んでおくこと。 事後学修: 授業内容を確認し理解しておくこと。
15回	授業内容: まとめ 事前学修: これまでの授業内容を確認しておくこと。 事後学修: これまで学んだことを現在の教育に対する視点につなげること。

◆**教科書** 丸沼『教育から見る日本の社会と歴史』第2版 片桐芳雄他 八千代出版 2017.3

◆**参考書** 丸沼『図説教育の歴史』横須賀薫監修 河出書房新社 2008.10

◆**成績評価基準** 試験（50%）、適宜課す感想文などの課題（30%）、授業参加における発言や貢献度（20%）

### 注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

# 講座内容（シラバス）

## 〔国語科教育法Ⅰ〕

野澤 拓夫

◆**授業概要** 「学習指導要領」の趣旨や構造について学ぶことを通して、国語科教育の意義と内容を理解する。また、カリキュラム・マネジメントについても理解する。それらの理論をふまえ、どのような教材にしたならそれを具現化できるか、具体的な教材に即して検討する。具体的事例としては高校1年生を対象とした『国語総合』を教材にして、現代文・古文・漢文の模擬授業を演習形式で行い、その適否について質疑と討論を重ねて考察・評価できるようにする。

◆**学習到達目標** 「学習指導要領」が求める新しい時代における国語科教育の在り方について、具体的事例を基に考察・討論することと、その理解を自分のものにすることができる。グループによる模擬授業によって擬似トレーニングを積むことで、教育現場で用いられているさまざまな指導法について知ることができる。また、教育実習を想定した具体的な取り組みについても取り上げるので、教育実習に臨む準備ができる。

◆**授業方法** 初日の理論を基に2日目からグループごとに効果的な授業方法を検討・選択して模擬授業を実施する。その具体的な展開例から全体で討論を重ね、指導法の適否についての考察・評価を行う。ディベート・学習ゲームなどの教育実践例（DVD）を紹介し、これらについても検討を行う。模擬授業・教育実践例に対して、個人に評価シートの提出を求める。

### ◆履修条件

### ◆授業計画（各90分）

1回	授業内容 事前学修 事後学修	ガイダンスとして授業の進め方を説明する。グループを編成し、本シラバスに提示した現代文・古文・漢文の3分野8教材を用いた模擬授業の分担（グループ・発表者）を決める。よい模擬授業の実現に向けて、「授業評価」の観点を参照しつつ、その条件について討議する。 本シラバスに提示した現代文・古文・漢文の3分野8教材を読んでおくこと。また「よい授業」の条件について考えておくこと。「評価」の意味について考えておくこと。 討議内容を整理するとともに、授業内容と配布資料とを確認し、理解を深めておくこと。
2回	授業内容 事前学修 事後学修	教育実践例「伝統的な言語文化を授業する」（DVD）を紹介、解説し、あわせて模擬授業展開上の留意点等について解説する。 伝統的な言語文化について、あらかじめ調べておくこと。 授業内容と配布資料を確認し、国語科教育に求められているさまざまな事項を理解する。
3回	授業内容 事前学修 事後学修	「国語科教育法Ⅰ」のテキストにより、国語科教育の意義と内容について解説する。また、「学習指導要領解説」の内容を確認し、新しい時代の国語科教育の在り方とカリキュラム・マネジメントについて解説する。 テキストと「学習指導要領解説」に目を通しておくこと。 授業内容を確認・整理して、国語科教員が果たすべき役割について理解を深めておくこと。
4回	授業内容 事前学修 事後学修	アクティブラーニングのひとつである「学習ゲーム」（作文に関するもの）をDVDで紹介し、アクティブラーニングを国語科教育に活用する必要性と意義について解説、討議する。 アクティブラーニングおよび「学習ゲーム」とは何かについて調べ、それが必要な理由について考えておくこと。 授業内容をふまえアクティブラーニングおよび「学習ゲーム」をどのように授業に活かしたらよいかについて考えておくこと。
5回	授業内容 事前学修 事後学修	現代文・古文・漢文の授業それぞれの模擬授業展開上の留意点と、指導案作成上の注意点を説明し、質疑に答える。その後、グループごとに担当する教材の性格を分析し、模擬授業の準備に入る。配布された指導案のフォームを用いて、「よい指導案」づくりに取り組む。 指導案を作成するうえでの留意点をインターネット等であらかじめ調べておくこと。 授業内容をふまえ、各グループごとに担当する模擬授業の指導方法について検討、決定しておくこと。
6回	授業内容 事前学修 事後学修	現代文 詩「わたしが一番きれいだったとき」（75～77頁）の模擬授業を演習形式で行い、その指導方法等の適否について、質疑と討論を重ねて考察・評価する。 当該教材を読んで、適切と思われる指導方法を考え、授業プランを立てておくこと。 ※当該教材による模擬授業を担当するグループについては、発表者を中心に協働して教材のジャンルや性格に適した指導方法・授業形態を選択し、意欲的な授業プランを立てること。それに基づいた学習指導案を作成し、必要に応じてワークシートなどを用意すること。 授業内容を確認し、詩教材の扱い方について整理し、教育現場で求められる指導力について把握しておくこと。 ※模擬授業を担当したグループについては、授業内容をふまえて、ふりかえりを行い、その成果を共有しておくこと。
7回	授業内容 事前学修 事後学修	漢文 故事「蛇足」（308～309頁）の模擬授業を演習形式で行い、その指導方法等の適否について、質疑と討論を重ねて考察・評価する。 当該教材を読んで、漢文：故事という性格をふまえた授業プランを立てておくこと。 授業内容を確認し、漢文教材の扱い方を整理し、自らの授業プランを評価しておくこと。
8回	授業内容 事前学修 事後学修	現代文 小説「羅生門」（156～172頁）の模擬授業を演習形式で行い、その指導方法等の適否について、質疑と討論を重ねて考察・評価する。 当該教材を読んで、小説という教材の性格をふまえた授業プランを立てておくこと。 授業内容を確認し、小説の扱い方について整理し、自らの授業プランを評価しておくこと。
9回	授業内容 事前学修 事後学修	古文 俳諧紀行文・奥の細道「旅立ち」（276～277頁）の模擬授業を演習形式で行い、その指導方法等の適否について、質疑と討論を重ねて考察・評価する。 当該教材を読んで、古文：俳諧紀行文という性格をふまえた授業プランを立てておくこと。 授業内容を確認し、事前学習で立てた授業プランが当を得ていたかを評価しておくこと。
10回	授業内容 事前学修 事後学修	漢文 史伝「晏子の御者」（314～315頁）の模擬授業を演習形式で行い、その指導方法等の適否について、質疑と討論を重ねて考察・評価する。 当該教材を読んで、前の漢文で学んだ留意点を活かした授業プランを立てておくこと。 授業内容を確認し、事前学習で立てた授業プランが当を得ていたかを評価しておくこと。
11回	授業内容 事前学修 事後学修	現代文 評論「水の東西」（126～132頁）の模擬授業を演習形式で行い、その指導方法等の適否について、質疑と討論を重ねて考察・評価する。 当該教材を読んで、評論という性格をふまえた授業プランを立てておくこと。 授業内容を確認し、評論教材の扱い方について整理し、自らの授業プランを評価しておくこと。
12回	授業内容 事前学修 事後学修	古文 伊勢物語「芥川」（288～289頁）の模擬授業を演習形式で行い、その指導方法等の適否について、質疑と討論を重ねて考察・評価する。 当該教材を読んで、古文：物語という性格をふまえた授業プランを立てておくこと。 授業内容を確認し、事前学習で立てた授業プランが当を得ていたかを評価しておくこと。
13回	授業内容 事前学修 事後学修	漢文 唐詩「江雪・涼洲詩」（321～322頁）の模擬授業を演習形式で行い、その指導方法等の適否について、質疑と討論を重ねて考察・評価する。 当該教材を読んで、漢詩という教材の性格をふまえた授業プランを立てておくこと。 授業内容を確認し、事前学習で立てた授業プランが当を得ていたかを評価しておくこと。
14回	授業内容 事前学修 事後学修	教育実践例として「ディベートの授業」をDVDで紹介し、解説する。また、「ディベート教育」が日本で進まない理由と現状とを解説し、それが本当に必要な授業形態なのか、また日本に根づいていくものなのかについて検討する。 ディベートとは何かについて調べ、ディスカッションとの違いについて考えておくこと。 授業内容をふまえ、「ディベート」をどのようにしたら授業に活かせるのかを考えておくこと。
15回	授業内容 事前学修 事後学修	試験 14回の授業のふりかえりを行い、試験のための準備をしておくこと。 試験問題（課題）について、正しい理解と適切な解答ができたかを確認しておくこと。

◆**教科書** 『新版 中学校 高等学校国語科教育法』 野路潤家・湊吉正（おうふう）  
『新編 国語総合』 高校1年教科書（教育出版） 17 教出 国総 343  
『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』（文部科学省）  
『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 国語編』（文部科学省）

◆**参考書** 国語・古語・漢和の各辞書  
『国語科 重要用語事典』 高木まささ他（明治図書）

◆**成績評価基準** 授業参画度（30%）、提出物（30%）、試験（40%）により総合的に評価します。

◆**授業相談（連絡先）**：nozaseimei22@gmail.com

### 注意

# 講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔人文地理学概論〕

小倉 眞

◆**授業概要** 地理学は自然環境と社会との関係について分析・整理する学問であることを念頭に置き、環境条件としての気候、地域社会の自然的特徴、人口の偏在性と食料との関係、農村の地域的展開過程、工業発展と地域条件、都市化と都市構造などについて、地理学的視点から理解・整理できるように心掛ける。また、本年度は地形図の読図や地図作業も取り入れて学修する。

◆**学修到達目標** 環境（自然・社会）の地域的特徴や変動と、これに対応しながら展開する世界や日本の地域社会の多様性と社会発展について分析・整理し、地域が持つ特質を位置づけることによって、地理学の基本的視角について学修することができる。同時に教科としての教育視点について修得することができる。

◆**授業方法** 配布するレジュメおよび資料（地図・統計・写真等）を用いて授業を進める。授業は基本的には講義形式で行うが、特定テーマについては発表・討議の時間を設定する。

\*色鉛筆（赤・橙・黄・緑等）を準備すること

### ◆授業計画〔各90分〕

1回	授業内容 事前学修 事後学修	人文地理学はどのような学問か — 地理学における位置づけを中心として — 地理学の構成（自然地理学・人文地理学）について事前に調べる。 レジュメに基づいて系統地理学の位置づけや「地域」の関係について整理する。
2回	授業内容 事前学修 事後学修	なぜ赤道地域が熱帯なのか？ 気候分布のメカニズムとその特徴について解説する — 世界の気候と自然環境の特徴 — レジュメを見て世界の大気候区について整理する。 気候区分図に基づいて、サバケ気候区や西岸海洋性気候区の分布と気候の特徴についてまとめ、レポートを作成する。
3回	授業内容 事前学修 事後学修	アジアに人口が集中する要因について農業との関係で考える — 世界の人口と分布の偏在性について — 事前に世界人口の現況や人口構成の特徴、及びアジアとヨーロッパで展開する農業の基本構造について調べてみる。 食料と人口収容力との関係について、ノート・レジュメ等により整理する。
4回	授業内容 事前学修 事後学修	日本の農村の成立とその特質について考察する — 律令国家成立時の条里水田村の例 — 条里制農村成立の意味やその特質について調べてみる。 配布資料の地形図を利用して、条里地割の特徴、分布構造などについて整理する。地形図に水田区割りを色分けして分析する。
5回	授業内容 事前学修 事後学修	日本農村の発展過程に関して「自然と社会との関係」の視点で考察する — 扇状地地形の特色と地域 — 地形図の読図を学修する 扇状地地形の特色や土地利用について、三角州と対比して整理してみる。 授業で学修した内容に基づいて、地形図の読図作業をし、その特徴について整理する。（レポート作成の準備をする）
6回	授業内容 事前学修 事後学修	黒部川扇状地地域を事例に近世・近代の農村開発について考察する。 近世における藩政村の対応・特色について事前に調べてみる。 日本海側に位置する地域に関して、自然的特徴（気候等）や社会的位置づけについて整理する。
7回	授業内容 事前学修 事後学修	近代から現代に至る農村の展開過程について、自然条件の足かせやその条件故の利点について分析・考察する（発表・討議あり） 地形的特徴と社会の発展、技術の進歩などの関係について考えてみる。（レポート提出のための作業をする） 社会の状況変化や社会発展と地域の展開について、討論内容を整理しながら整理する。
8回	授業内容 事前学修 事後学修	資源の偏在と工業立地・立地移動について検証する レジュメを見て資源産出量の特に多い地域・国を整理してみる。 とくにレアメタル等の工業的利用と産出国についてまとめる。
9回	授業内容 事前学修 事後学修	産業革命早期のイギリスにおける工業立地と自然的・社会的関係について考察する。 イギリス西海岸地域における綿織物工業の立地要因について調べてみる。 イギリスの資源分布と工業立地の関係、とくに立地移動について整理する。
10回	授業内容 事前学修 事後学修	日本における高度経済成長の牽引力となった鉄鋼業の立地移動と、現在の工業立地について考察する 配布資料の「日本の工業」の立地状況及びその特色について検証する。 日本における資源賦存状況と高度経済成長下の工業立地の特色について整理する。
11回	授業内容 事前学修 事後学修	アメリカ合衆国における資源の賦存と鉱業・工業の立地、及び現代の工業立地移動と工業地域の特色を考察する 五大湖沿岸地域の工業立地の内容と、サンベルト地帯への立地移動について調べてみる。 アメリカ合衆国におけるハイテク産業地域の発展についての要因と展開状況を整理する。
12回	授業内容 事前学修 事後学修	オーストラリアの資源と産業立地、経済構造の特色について考察する。 オーストラリアの資源分布と鉱業立地について調べる。 ノート・レジュメを見て、オーストラリアの産業立地・都市の配置と経済の基本構造について整理する。
13回	授業内容 事前学修 事後学修	都市化の定義と都市化過程について考察する — 日本の都市化と都市問題 — レジュメを見て、都市の高度化・拡大と、都市化との関係について調べてみる。 日本における急速な都市化と土地利用規制策・促進策などについて整理し、その問題点についてまとめる。
14回	授業内容 事前学修 事後学修	都市中心部の展開過程について「都市内部構造論」の観点から考察する 都心地域周辺にスラム地区がなぜ形成されるか資料を調べ、考えてみる。 各「都市内部構造論」の提起内容を整理し、理論的特徴と問題点についてまとめる。
15回	授業内容 事前学修 事後学修	試験及び解説 試験範囲を中心にまとめる。 地域の諸現象と地理学の関係について確認する。

◆**教科書** 〔当日資料配布〕 当日資料等のプリントを配布する。

〔丸函〕 地図帳（高等学校等で使用の地図帳）

◆**参考書** 〔丸函〕 『人文地理学概論 T22200』 通信教育教材（教材コード000422）

◆**成績評価基準** テスト75%、レポート15%、授業の参画度（10%）により総合的に評価する。

### 注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

# 講座内容（シラバス）

## 〔漢字書法〕

徳泉 さち

◆**授業概要** 中国における漢字のおこりからはじまり、時代とともにその造形がどのように変遷していったのか、下記の教科書や当日配布するプリント、さらにプロジェクターで写す画像などを通して理解を深めます。そうした書の歴史を知った上で、実際に日本、中国の古典作品を鑑賞し、篆書、隸書、草書、行書、楷書の書体を実際に筆で書きながら、技法やその特徴を学びます。

◆**学修到達目標** 中学校国語科「書写」を指導するための基本的な事項の理解とその技法の習得を目指しつつ、身の回りの多様な文字に関心をもち、効果的に文字を書くことを学びます。あわせて教科書と当日配布のプリントによって、中国をはじめ日本の各時代における文字の変遷と歴史的背景について発展的な理解を深めることを目指します。

◆**授業方法** 書道実技が主体となる授業です。各自、半紙、下敷き（フェルト状のもの）、中筆（4号筆程度）、小筆、固形墨、硯、文鎮、古新聞を持参ください。特に高価な道具を準備する必要はありませんが、硯はプラスチック製のものではなく、固形墨を磨ることができるものを準備してください。

◆**履修条件**

◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容	ガイダンス（授業の進め方、概要を説明。また、書道実技に使用する文房具について説明し、その適切な使い方をレクチャーします）
	事前学修	各自、書道実技に必要な道具（半紙、下敷き（フェルト状のもの）、中筆（4号筆程度）、小筆、固形墨、硯、文鎮、古新聞）をご準備ください。
	事後学修	文房四宝と呼ばれる筆、墨、硯、紙の製造法や特質を理解し、その正しい使い方や手入れのしかたを確認する。
2回	授業内容	中学校国語科書写を指導するための知識、技能を学ぶ①書教育の歴史、学習指導要領での位置付け
	事前学修	中学校国語科学習指導要領、解説に記されている書写に関する事項に目を通しておいてください。
	事後学修	江戸時代の寺子屋にはじまり、文字がどのように教えられてきたのか。現代に至るまでの歴史を確認する。
3回	授業内容	中学校国語科書写を指導するための知識、技能を学ぶ② 授業実践例を確認しながら
	事前学修	もし、身の回りに書写の授業を担当する先生、あるいは書道教室を運営されている方がいらっしゃれば、現在の書写教育の状況をインタビューしてみてください。
	事後学修	現行の中学校国語科書写で使用されている教科書を参照し、授業の内容やその目的を理解する。
4回	授業内容	中学校国語科書写を指導するための知識、技能を学ぶ③ 実際に書写の実技指導をするために必要な技法を学ぶ。
	事前学修	お手持ちの書道セットで、筆と墨を使って、ご自身のお名前を半紙に書いてみてください。
	事後学修	直線、曲線、はねやはらいなど基本的な文字のパーツの筆使いを反復練習してください。
5回	授業内容	中学校国語科書写を指導するための知識、技能を学ぶ④ 実際に書写の実技指導をするために必要な技法を学ぶ。
	事前学修	お手持ちの書道セットで、楷書、行書の漢字を何枚か試し書きしてみてください。
	事後学修	楷書と行書の連筆について、授業で配布した手本を参考に反復練習してください。
6回	授業内容	漢字のはじまり 甲骨文について
	事前学修	『書の古典と理論』の該当ページを読んでください。
	事後学修	甲骨文がどのような文字か、その発見から解説にいたるまでの経緯を理解する。
7回	授業内容	漢字のはじまり 金文について
	事前学修	『書の古典と理論』の該当ページを読んでください。
	事後学修	青銅器とは何か、またそこに鑄込まれた金文の特徴について理解する。
8回	授業内容	秦の始皇帝と篆書
	事前学修	『書の古典と理論』の該当ページを読んでください。
	事後学修	篆書とはどのような文字か、秦の時代の作品から理解する。
9回	授業内容	漢代の墓碑、隸書について
	事前学修	『書の古典と理論』の該当ページを読んでください。
	事後学修	隸書とはどのような文字か、代表的な漢碑のなりたち、碑文の内容もあわせて理解する。
10回	授業内容	王羲之の書について1
	事前学修	『書の古典と理論』の該当ページを読んでください。
	事後学修	王羲之の代表的な作品である蘭亭序について、その作品の概要、書法史上の位置付けを理解する。
11回	授業内容	王羲之の書について2
	事前学修	『書の古典と理論』の該当ページを読んでください。
	事後学修	王羲之の書が、後世どのように伝来してきたのか。日本書道史に与えた影響を理解する。
12回	授業内容	蘭亭序偽作説をめぐって 中国南北朝時代の書について
	事前学修	『書の古典と理論』の該当ページを読んでください。
	事後学修	蘭亭序偽作説とは、どのような論争だったのか理解する。
13回	授業内容	初唐の三大家について1
	事前学修	『書の古典と理論』の該当ページを読んでください。
	事後学修	欧陽詢、虞世南、褚遂良のそれぞれの書の個性を理解する。
14回	授業内容	初唐の三大家について2
	事前学修	『書の古典と理論』の該当ページを読んでください。
	事後学修	欧陽詢、虞世南、褚遂良のそれぞれの書の個性を理解する。
15回	授業内容	まとめ
	事前学修	近隣の美術館、博物館のコレクションなどをHPで閲覧し、どのような書作品があるか調べてみてください。
	事後学修	この授業で扱った内容について復習し、近隣の美術館、博物館にでかけてさまざまな書作品を鑑賞してください。

◆**教科書** 丸沼『書の古典と理論』全国大学書道学会編 光村図書 2020年

◆**参考書** 特になし

◆**成績評価基準** 授業への取り組み・態度（60パーセント）と提出作品（40パーセント）によって、総合的に評価します。

◆**授業相談（連絡先）**：初回授業時に案内します。

注意

# 講座内容（シラバス）

〔特別支援教育概論〕 オープン受講：不可

田尻 由起

◆**授業概要** 教員養成課程の中で、特別支援教育に関する最も基本となる科目である。障害児教育に関する制度・歴史をはじめ、様々な障害やその他、教育的支援ニーズを持つ、児童、生徒の教育・心理・生理・指導法について概説する。また障害のある児童、生徒にとどまらず、個々の違いを認識しつつ、様々な人々が活躍できる共生社会の形成の基礎となる特別支援教育について、理解を深める。

◆**学修到達目標** 通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害を持つ児童・生徒や、障害はないが支援を必要とする児童、生徒が学校生活、および学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学んでいけるよう、①児童、生徒の学習上、生活上の困難を理解し、②指導の方法を身につけ、③個別の教育的ニーズに対して、他教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を身につける。

◆**授業方法** 基本的にはテキストに沿って講義形式で行われるが、講義中、簡単な疑似体験、支援の実態についてのVTR視聴、事例検討等を含み、その後リアクションペーパーを作成し提出。

◆**履修条件**

◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容	オリエンテーション、特別支援教育の理念と制度、歴史を知る
	事前学修	教科書3-56頁を読んで理解しておくこと。また今、ニュースや新聞等で話題になっている特別支援教育に関する話題について、理解し、自分なりの意見を持っておく。
	事後学修	授業内容について整理し、ノートにまとめておく。初日の授業を聞いて、自分のイメージしていた特別支援教育との差異について考えをまとめる。
2回	授業内容	障害の状態像の理解と指導・支援Ⅰ：聴覚障害、視覚障害、肢体不自由、知的障害、病弱児及び教育上の医療的配慮
	事前学修	教科書59-118頁を読んで理解しておくこと。
	事後学修	それぞれの障害像を整理するとともに、それぞれの教育的支援ニーズ、指導、支援についてまとめる。
3回	授業内容	障害の状態像の理解と指導・支援Ⅱ：発達障害の概要とDSM-5
	事前学修	教科書119-166頁まで読んでおくこと。また発達障害に関する今日的話題について、新聞、ニュース等から学んでおく。
	事後学修	多様な発達障害の障害像について整理し、理解しておくこと。
4回	授業内容	就学前の早期支援と就学前後の移行支援： 乳幼児期、学齢期の子どもの発達を理解するとともに、スクリーニングや早期支援の実態を学ぶ。また就学前後や小学校から中学校への移行時の移行支援について学ぶ。
	事前学修	乳幼児期から青年期にかけての発達について理解しておく。
	事後学修	学齢期前の子どもたちの姿の理解を深めるとともに、幼児期から小学校へ、また小学校から中学校への移行支援のポイントについて、まとめておく。
5回	授業内容	特別支援教育に関する教育課程、教育制度の理解Ⅰ： 普通学級、通級、特別支援学級等における教育課程について学ぶ。また各教科の指導法や自立活動の指導法について学ぶ。
	事前学修	特別支援教育における様々な授業実践について、インターネットや本などを通して学んでおく。
	事後学修	授業で学んだことについて、使用テキスト以外の書籍にも目を通し、自らの実践の際の参考となるよう、復習する。
6回	授業内容	特別支援教育に関する教育課程、教育制度の理解Ⅱ： 学校教育における目標と各種「計画」、及びカリキュラムマネジメント
	事前学修	インターネット等で学校教育、特別支援教育にかかわる各種「計画」について内容やその書式に目を通しておく。
	事後学修	授業で学んだことについて、使用テキスト以外の書籍にも目を通し、自らの実践の際の参考となるよう、復習する。
7回	授業内容	1.インクルーシブな学校と特別な支援の必要な障害のない幼児児童生徒 2.関係機関との連携：①地域の支援体制と特別支援教育コーディネータ、②教育と福祉・医療・労働機関との連携
	事前学修	教科書17-31頁を再読しておくこと。また169-109頁を読んで理解しておくこと。
	事後学修	特別支援教育にかかわる「学校」以外の多様な資源についても興味を持ち、理解を深めること。
8回	授業内容	特別支援教育の視点を取り入れたクラスづくり・授業づくり・学校づくり
	事前学修	これまでの学習の復習をしておくこと。また実際に担任としてクラス運営をしていくことを意識しながら授業の望むこと。
	事後学修	授業で学んだことについて、使用テキスト以外の書籍にも目を通し、自らの実践の際の参考となるよう、復習しておく。
9回	授業内容	
	事前学修	
	事後学修	
10回	授業内容	
	事前学修	
	事後学修	
11回	授業内容	
	事前学修	
	事後学修	
12回	授業内容	
	事前学修	
	事後学修	
13回	授業内容	
	事前学修	
	事後学修	
14回	授業内容	
	事前学修	
	事後学修	
15回	授業内容	
	事前学修	
	事後学修	

◆**教科書** 〔汎〕MINERVA 初めて学ぶ教職⑨ 特別支援教育—共生社会の実現に向けて— 小林秀之 米田宏樹 安藤隆男  
〔当日資料配布〕

◆**参考書**

◆**成績評価基準** 疑似体験や模擬授業、グループ討議、等を実施するため、授業への参加度を重視する（リアクションペーパーを含む）（40%）、定期試験（60%）

◆**授業相談（連絡先）**：基本的には授業時間に受け付ける。その他の時間帯については初回授業の際に案内する。

**注意**

# 講座内容 (シラバス)

## 〔英語科教育法Ⅲ〕

リチャード・キャラカー

- ◆**授業概要** This class focuses on how different teaching methods are influenced by the various schools of educational psychology theories of language, as well as the influence of individual differences among language learners.
- ◆**学習到達目標** Students will be able to understand the educational theories of behaviorism, constructivism, and social interactionism, as well as aspects of communicative competence. Students will then be expected to understand how these theories influence teaching methods in the language classroom, especially audiolingualism, cognitive academic language learning approach, task-based language teaching, and communicative language teaching.
- ◆**授業方法** Students will engage with the content of the course through various readings, listening exercises, vocabulary exercises, reading comprehension questions, discussions and videos. Furthermore, students will be required to apply some of the theories and methods in mini teaching activities in small groups.
- ◆**履修条件**
- ◆**授業計画 (各 90 分)**

1 回	授業内容 事前学修 事後学修	Introduction to the course and going over the syllabus A-3-2 Read page 5 Confirm understanding of syllabus
2 回	授業内容 事前学修 事後学修	Questions Surrounding SLA Discussion and vocabulary Comprehension A-3-2 Read pages 6-9 Confirm understanding of Questions Surrounding SLA
3 回	授業内容 事前学修 事後学修	Educational Psychology Behaviorism, constructivism, and social interactionism Reading, discussion, and vocabulary A-3-2 Read pages 38-41 Confirm understanding of behaviorism, constructivism, and social interactionism
4 回	授業内容 事前学修 事後学修	Educational Psychology: theory to method CALLA and ALM Comprehension and CALLA teaching activities A-3-2 Read page 42-43 Confirm understanding of CALLA, ALM, and learner strategy training activities
5 回	授業内容 事前学修 事後学修	Educational Psychology: theory to method Audiolingual lesson observation and role play A-3-2 Read page 46 Confirm understanding of Audiolingual drills
6 回	授業内容 事前学修 事後学修	Communicative Competence Discussion, and vocabulary A-3-2 Read page 20-21 Confirm understanding Janani anecdote
7 回	授業内容 事前学修 事後学修	Communicative Competence Reading comprehension and discussion A-3-2 Read pages 22-24 Confirm understanding of communicative competence
8 回	授業内容 事前学修 事後学修	Communicative Competence: Task-based Language Teaching (TBLT) Reading comprehension and discussion A-3-2 Read pages 25-26 Confirm understanding of TBLT
9 回	授業内容 事前学修 事後学修	Communicative Competence: Task-based Language Teaching (TBLT) TBLT lesson observation A-3-2 Read page 27 Confirm understanding of Communicative Language Teaching and Task-based Language Teaching
10 回	授業内容 事前学修 事後学修	Individual Differences in Language Learning Discussion and vocabulary A-3-2 Read page 29-30 Confirm understanding of unique study methods
11 回	授業内容 事前学修 事後学修	Individual Differences in Language Learning Listening to an interview Post-listening discussion: information gap activity A-3-2 Read page 31-32 Confirm understanding of individual differences
12 回	授業内容 事前学修 事後学修	Individual Differences in Language Learning Lecture on motivation Post-listening activity: discussing motivation Read pages 34-35 Confirm understanding of motivation
13 回	授業内容 事前学修 事後学修	Individual Differences in Language Learning Consolidation Activity A-3-2 Read page 36 Confirm understanding of individual differences
14 回	授業内容 事前学修 事後学修	Review for test A-3-2 Read pages 5-10, 19-34, and 37-42 Confirm understanding of all themes
15 回	授業内容 事前学修 事後学修	Exam Teacher evaluations A-3-2 Consider the impact of pedagogy on classroom dynamics Confirm understanding the connection between educational psychology and pedagogy

- ◆**教科書** [Linguistic Soup: Recipes for Success] 2020 [Richard Caraker] [Perceptia Press] code number: order #212821
- ◆**参考書**
- ◆**成績評価基準** Exam 60% Microteaching activity 15% Homework 10% Participation 15%  
Student participation will be measured by discussions during every class.  
"In-class examination" will be measured by a term-end exam.
- ◆**授業相談 (連絡先)** : richardcaraker@gmail.com

注意

# 講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔博物館教育論〕 オープン受講：不可

岡部 幹彦

◆**授業概要** 博物館教育の目的とその特性を理解し、基本となる理論と実践方法に関する知識と方法を修得する。これにより博物館の教育機能に関する基礎能力を養い、《学びの契機の提供》《学びのサポート》《学びのサイクルの創出》に必要な知識・能力を身につける。また、博物館教育と学校教育との関係を理解し連携事業を推進する能力を養う。博物館学芸員としての経験を活かし、内外の優れた事例を紹介するとともに博物館教育に必要なコミュニケーション能力について学び、博物館教育事業の企画力・実践力を身につける。

◆**学修到達目標** 1. 博物館教育に携わる学芸員として多様で魅力的な教育事業を企画・実践する基礎能力を身につけるとともに、あらゆる博物館事業を教育的視点から捉えることができる。2. 市民の学びをサポートするために必要なコミュニケーション能力について理解し育むことができる。3. 他の機関や組織、市民グループ等と連携して地域の学びをサポートすることを説明できる。

◆**授業方法** 毎回の授業時に資料を配付し、スライドを用いて講義形式で進行することを基本とするが、積極的な学修姿勢と理解を促すため、事前学習課題ほか適宜テーマを設けて発言を求める。博物館教育に係る映像資料や実物資料を用いて多様な視点を提供するとともに、教育事業の企画書の作成を体験する。また、各授業終了時に必要に応じ要点確認レポートの提出を求める。

### ◆授業計画〔各90分〕

1回	<b>授業内容</b> ：〈ガイダンス〉授業の進め方と留意点、博物館の定義・機能と博物館教育 <b>事前学修</b> ：博物館の教育事業についてどのような事業が実施されているか種類の異なる館について調べておくこと <b>事後学修</b> ：博物館法・ICOMの定義を理解し、博物館教育の目的等について整理しておくこと
2回	<b>授業内容</b> ：博物館教育の特質、博物館ならではの教育とは、教育・学習と自由な学び <b>事前学修</b> ：博物館以外の社会教育施設について調べ理解しておくこと <b>事後学修</b> ：博物館ならではの教育事業の事例を調べ、その概要をまとめておくこと
3回	<b>授業内容</b> ：モノから学ぶこと モノの意味、歴史的価値・学術的価値・芸術的価値、観察と鑑賞 <b>事前学修</b> ：観察という行為と認識について調べておくこと <b>事後学修</b> ：1点の有形の文化遺産を例として、これに係るモノ・コト・ヒト・環境などの要素を書き出して理解を深めること
4回	<b>授業内容</b> ：展示と教育 展示テーマと学び、展示と資料情報の提供—内外の事例から <b>事前学修</b> ：博物館の展示を観覧しどのようななかたちで資料情報が提供されているか調べておくこと <b>事後学修</b> ：1点の資料・作品を選び、講義内容を踏まえた解説を作成すること
5回	<b>授業内容</b> ：学びの契機の提供と学びのサポートから学びのサイクルの創出へ <b>事前学修</b> ：博物館と良好な関係を保ち活動する自主的な学習団体について調べ、その概要をノートに整理しておくこと <b>事後学修</b> ：事前学修で調べた学習団体について当該博物館が行うサポートを整理すること
6回	<b>授業内容</b> ：学びの手法 ワークショップ本来の意味から学びの手法を考える、主体的な学びとファシリテーターの役割、気づきと気づきの共有を通じて学ぶ <b>事前学修</b> ：ワークショップの歴史と本来の意味を調べ理解しておくこと <b>事後学修</b> ：ワークショップを企画・立案し、企画書を作成すること
7回	<b>授業内容</b> ：事例に学ぶ(1) 教育事業の企画と実践 <b>事前学修</b> ：博物館の子ども向け教育事業について調べておくこと <b>事後学修</b> ：教育事業を企画する際に考慮すべき点について整理して理解すること
8回	<b>授業内容</b> ：事例に学ぶ(2) 多様な博物館教育、ICTツールと博物館教育 <b>事前学修</b> ：博物館のウェブ上の学習コンテンツを調べ利用すること <b>事後学修</b> ：事前学修で調べた学習コンテンツについて講義を踏まえて評価すること
9回	<b>授業内容</b> ：博物館を学ぶ 博物館を学ぶプログラム、博物館リテラシー、人材育成 <b>事前学修</b> ：博物館リテラシーについて調べておくこと <b>事後学修</b> ：博物館を学ぶプログラムの事例を調べ博物館機能との関係を整理し理解すること
10回	<b>授業内容</b> ：学びとコミュニケーション、知識・情報の伝達から理解の共有へ <b>事前学修</b> ：「コミュニケーション能力」とは一般にどのようなものとされているか調べておくこと <b>事後学修</b> ：興味・関心の深化を促すためのコミュニケーションについて整理しておくこと
11回	<b>授業内容</b> ：博物館と学校教育(1) 学校教育と博物館教育、総合的な学習の時間と博学連携 <b>事前学修</b> ：総合的な学習の時間について各自の体験を整理し、評価しておくこと <b>事後学修</b> ：博物館教育と学校教育との関係を整理しておくこと
12回	<b>授業内容</b> ：博物館と学校教育(2) 博学連携事業の現状と課題、授業科目と博物館利用 <b>事前学修</b> ：博学連携事業について各自の経験を整理し、評価しておくこと <b>事後学修</b> ：講義で取り上げた事例以外の優れた博学連携事業を調べ評価すること
13回	<b>授業内容</b> ：市民の学習活動と博物館、生涯学習と博物館、ボランティアと学び <b>事前学修</b> ：生涯学習の本質と意義について整理しておくこと <b>事後学修</b> ：学習に係わるボランティア活動の事例を調べその概要を整理し、評価すること
14回	<b>授業内容</b> ：内外の博物館教育 社会の課題と博物館教育 <b>事前学修</b> ：ESD（持続可能な開発のための教育）について調べておくこと <b>事後学修</b> ：博物館に係る1960年のユネスコ勧告について要点を整理しておくこと
15回	<b>授業内容</b> ：まとめ 博物館教育の可能性と学芸員の果たすべき役割 【試験】 <b>事前学修</b> ：博物館の各種事業における教育・学習要素を整理しておくこと <b>事後学修</b> ：講義を踏まえ博物館教育に求められる学芸員像を整理しておくこと

◆**教科書** 当日資料配布

◆**参考書** 図録『博物館概論 Y20300』（教材コード00092）

◆**成績評価基準** 授業への取り組み（20%）、要点確認レポート（20%）、試験（60%）

**注意** E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」

※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

# 講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔総合科目〕

根岸 良征

◆**授業概要** 最初のコンピュータから現代のパソコンまでの変遷を通して、コンピュータの仕組み、インターネットの仕組みを講義する。また、近年対策が強く求められている情報セキュリティの基礎知識を講義する。IT 企業における IT 基礎教育の実務経験、IT システムの開発、運用経験を踏まえて、近年の実務的な動向を取り入れた講義を行う。

◆**学修到達目標** ・情報技術について基礎的な知識を習得し、パソコンを有意義に利用できるようになる。  
 ・メディア授業を受講するためにはどのような機器を用意すればよいのかを自らで情報収集でき、判断できる。  
 ・情報セキュリティの基本とその対策について理解し、実践することができる。

◆**授業方法** 授業は適宜映像資料を用いながら、講義中心に行う。また、パソコンを操作してケーススタディも行う。情報セキュリティについては、自らで情報を収集して、内容をまとめる。毎回授業中に小課題を出題する。教科書は講義で利用するので必ず持参すること。参考書に示した文献は受講前に目を通しておくことが好ましい。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回	授業内容：パソコン開発史① 計算機の開発、電話網の開発とコンピュータ 事前学修：計算する道具はいつの時代から存在していたのかを調べる 事後学修：講義と資料の内容をノートにまとめ、年表を作成する
2 回	授業内容：パソコン開発史② 計算機から情報処理装置への変遷 事前学修：ホストコンピュータとはなにかを調べる 事後学修：講義と資料内容をノートにまとめ、年表を作成する
3 回	授業内容：パソコン開発史③ 電卓開発とマイクロコンピュータの登場 事前学修：真空管、トランジスタ、リレーについて、役割を中心に調べる 事後学修：電卓の開発競争でなにが起きたのかをまとめる
4 回	授業内容：パソコン開発史④ パソコンの登場とインターネット 事前学修：1980 年ごろのパソコンについて、どのようなメーカーが、どのような機器を販売していたのかを調べる 事後学修：パソコンの普及のきっかけをまとめる
5 回	授業内容：コンピュータにおける情報表現、データの種類について 事前学修：パソコンで扱えるデータには、どのような種類があるのかを調べる 事後学修：文字、画像、音声のデータ表現についてまとめる
6 回	授業内容：パソコンのハードウェア（CPU、メモリ、補助記憶装置、入出力）の種類と役割 事前学修：自宅で利用しているパソコンのスペック（仕様）を調べる 事後学修：パソコンのハードウェアの種類と役割をノートに整理する
7 回	授業内容：ソフトウェアの種類と役割（OS、アプリケーションソフトウェア） 事前学修：自分で利用しているパソコンやスマートフォンの OS の名称を調べる。 事後学修：OS とアプリケーションの違いをわかりやすくノートにまとめる
8 回	授業内容：ファイル管理入門、フォルダを利用した分類、圧縮・伸張 事前学修：パソコンの基本的な操作（キーボード、マウス操作など）を習得しておく 事後学修：自分の PC に保存してあるファイルを整理する
9 回	授業内容：インターネットの仕組み（TCP/IP、ルーター）、インターネットの利用 事前学修：インターネットの始まりを調べる 事後学修：インターネットの発展と普及の流れを、インターネットのサービスとともにまとめる
10 回	授業内容：情報セキュリティ① 情報セキュリティとはなにか 事前学修：教科書第 1 章、第 2 章（p. 2～24）を読む。参考書に指定した Web サイトの冊子を大雑把に通読し、キーワードを拾い上げる。 事後学修：授業中に配布したプリント資料を完成させ、情報セキュリティの意味を理解する
11 回	授業内容：情報セキュリティ② 「様々な脅威」～ウイルス、標的型攻撃～ 事前学修：教科書第 3 章（p. 26～62）を読む 事後学修：授業中に配布したプリント資料を完成させ、具体的なウイルスの種類を知る
12 回	授業内容：情報セキュリティ③ 「セキュリティ対策」～ウイルス対策、ファイアウォール～ 事前学修：教科書第 3 章（p. 90～94）を読む 事後学修：授業中に配布したプリント資料を完成させ、具体的な対策法を知る
13 回	授業内容：情報セキュリティ④ 「スマートフォンのセキュリティ」「組織的な取り組み（ISMS）」 事前学修：教科書第 4 章（p. 64～76）を読む 事後学修：授業中に配布したプリント資料を完成させ、組織としての対策を理解する
14 回	授業内容：情報技術についての総まとめとレポート作成 事前学修：第 1 回から第 9 回までの資料の内容を見直す 事後学修：情報の表現方法について確実に理解する
15 回	授業内容：情報セキュリティについての総まとめとレポート作成 事前学修：第 10 回から第 13 回までの資料の内容を見直す 事後学修：標的型攻撃の特徴と対策法について確実に理解する

◆**教科書** 丸沼『情報セキュリティ読本「IT 時代の危機管理入門」』情報処理推進機構（IPA）著 五訂版 実教出版（ISBN978-4407347753）

◆**参考書** ネットワークビギナーのための情報セキュリティハンドブック  
<https://www.nisc.go.jp/security-site/handbook/index.html>

◆**成績評価基準** 授業への参加度（各回の小課題の評価）による評価が 40%、最終課題の内容による評価が 60%。  
 なお、最終課題は最終試験の位置づけとする。最終課題を提出しない場合には成績評価をつけない。

### 注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
 ※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。



# 講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔美術史〕

森下 和貴子

- ◆**授業概要** 日本美術史について学びます。仏教美術を中心に古代から近世まで、各時代を代表するような彫刻や絵画の名品を取り上げ、作品の技法や様式、作品が生まれ出された時代背景などを学ぶことにより、日本美術史の流れを理解することを目的とします。
- ◆**学修到達目標** 日本美術の基礎知識を学び、美術作品が制作された歴史や背景を知ることによって、実際に博物館や美術館などへ行って実作品を鑑賞するときに、自分が楽しむだけでなく、ほかの人にも説明できるようになる。
- ◆**授業方法** 講義形式で行います。取り上げた作品が作られた時代の歴史を概説した上で、スクリーンに作品を映写しながら鑑賞のポイントを解説します。各自、作品を注意深く観察することにより、講義で指摘したポイントを自分の目で確認し理解することが重要です。

### ◆授業計画 (各90分)

1回	授業内容：オリエンテーション① 仏像鑑賞のための基礎知識を学ぶ。 事前学修：教科書の付録212～213、228～241ページを読んでおくこと。 事後学修：配布プリントを読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
2回	授業内容：オリエンテーション② インドにおける仏像の誕生について学ぶ。 事前学修：教科書の学習指導書を読んで、全体を把握しておくこと。 事後学修：配布プリントを読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
3回	授業内容：飛鳥時代の美術① 飛鳥時代の歴史と美術について学ぶ。 事前学修：教科書22～28ページを読んでおくこと。 事後学修：配布プリントを読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
4回	授業内容：飛鳥時代の美術② 白鳳時代の歴史と美術について学ぶ。 事前学修：教科書28～36ページを読んでおくこと。 事後学修：配布プリントを読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
5回	授業内容：奈良時代の美術① 天平前期の歴史と美術について学ぶ。 事前学修：教科書38～41ページを読んでおくこと。 事後学修：配布プリントを読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
6回	授業内容：奈良時代の美術② 天平盛期の歴史と美術について学ぶ。 事前学修：教科書41～44、49～52ページを読んでおくこと。 事後学修：配布プリントを読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
7回	授業内容：奈良時代の美術③ 天平後期の歴史と美術について学ぶ。 事前学修：教科書44～45ページを読んでおくこと。 事後学修：配布プリントを読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
8回	授業内容：平安時代の美術① 平安前期の歴史と美術について学ぶ。 事前学修：教科書54～65ページを読んでおくこと。 事後学修：配布プリントを読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
9回	授業内容：平安時代の美術② 平安後期の歴史と彫刻作品について学ぶ。 事前学修：教科書70～75ページを読んでおくこと。 事後学修：配布プリントを読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
10回	授業内容：平安時代の美術③ 平安後期の歴史と絵画作品について学ぶ。 事前学修：教科書75～84ページを読んでおくこと。 事後学修：配布プリントを読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
11回	授業内容：鎌倉時代の美術① 鎌倉時代の歴史と彫刻作品について学ぶ。 事前学修：教科書86～90ページを読んでおくこと。 事後学修：配布プリントを読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
12回	授業内容：鎌倉時代の美術② 鎌倉時代の絵画作品について学ぶ。 事前学修：教科書90～100ページを読んでおくこと。 事後学修：配布プリントを読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
13回	授業内容：南北朝時代と室町時代の美術 事前学修：教科書102～116ページを読んでおくこと。 事後学修：配布プリントを読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
14回	授業内容：江戸時代の美術 事前学修：教科書118～127ページを読んでおくこと。 事後学修：配布プリントを読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
15回	授業内容：総まとめ 事前学修：配布プリントを読んで、これまでに受けた授業内容を確認し理解しておくこと。 事後学修：教科書を一読し、日本美術史の流れをつかむこと。

### ◆教科書 [当日資料配布] 当日プリント配布

【図7】『美術史 B11400』通信教育教材(教材コード000310)

(この教材は市販の『カラー版 日本美術史』辻惟雄監修(美術出版社)と同一です)

### ◆参考書 なし

### ◆成績評価基準 4日間を通じて出席することを前提とし、平常点と筆記試験により総合的に評価します。

### 注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けません。

# 講座内容（シラバス）

〔英語〕

小田井 勝彦

◆**授業概要** 英語はヨーロッパの多くの言語や中国語などアジアの多くの言語が属する「インド・ヨーロッパ語族」の言語のひとつであるが、日本語はその語族には属していない。それゆえ英語と日本語では言語構造が大きく異なることとなり、日本人が英語を習得するためには文法知識をしっかりと身につけることが必須のこととなる。担当教員は翻訳実務経験があり、この授業ではその経験を伝えながら、学生が英文法をしっかりと習得し、英文を正確に理解できるようになることを目標とする。

◆**学修到達目標** ・英語でのコミュニケーションに必要な語彙、表現を習得する  
 ・体系的に英文法を理解し、正確に英語の文章を理解できるようになる  
 ・英文におけるニュアンスを的確にとらえ、日本語に翻訳することができる  
 ・日本語と英語の違いについて理解する  
 ・英語圏の文化を知る

◆**授業方法** 学生は事前に各章の文法説明を読み、知らない語句は辞書を引きながら、各章の例文を読み疑問点を整理しておく。授業では各章の重要な文法事項の解説、例文のポイントを解説します。授業における解説を参考に教科書の例文の和訳に取り組み、リアクションペーパーを提出していただきます。提出の締め切り後、模範解答・解説を提示します。

◆**履修条件** 同講師による昼間スクーリングとの積み重ね不可

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容：Chapter 1 品詞と文 事前学修：教科書の説明と例文に目を通し、英語の品詞にはどのようなものがあるか、文構造はどうなっているかを考える 事後学修：品詞と5文型、文構造を意識しながら、リアクションペーパーを作成・提出する
2 回	授業内容：Chapter 2 時制と時制の一致 事前学修：教科書の説明と例文に目を通し、時制にはどのような種類があるかを把握する 事後学修：各文の時制の違いを意識しながら、リアクションペーパーを作成・提出する
3 回	授業内容：Chapter 3 助動詞 事前学修：教科書の説明と例文に目を通し、助動詞にはどのような種類があるのかを確認する 事後学修：助動詞それぞれに複数ある意味を考えながら、リアクションペーパーを作成・提出する
4 回	授業内容：Chapter 4 態 事前学修：教科書の説明と例文に目を通し、能動態と受動態の違いについて考える 事後学修：様々な形の受動態があることを意識しながら、リアクションペーパーを作成・提出する
5 回	授業内容：Chapter 5 不定詞 事前学修：教科書の説明と例文に目を通し、不定詞の用法について考える 事後学修：不定詞の様々な用法を考えながら、リアクションペーパーを作成・提出する
6 回	授業内容：Chapter 6 動名詞 事前学修：教科書の説明と例文に目を通し、動詞が名詞のように使われる動名詞の特徴を捉える 事後学修：動名詞の様々な使われ方を意識しながら、リアクションペーパーを作成・提出する
7 回	授業内容：Chapter 7 分詞 事前学修：教科書の説明と例文に目を通し、分詞には様々な用法があることを概観する 事後学修：分詞の様々な用法を確認し、リアクションペーパーを作成・提出する
8 回	授業内容：Chapter 8 比較 事前学修：教科書の説明と例文に目を通し、原級・比較級・最上級について考える 事後学修：比較の表現をしっかりと理解し、リアクションペーパーを作成・提出する
9 回	授業内容：Chapter 9 関係詞 事前学修：教科書の説明と例文に目を通し、関係代名詞・関係副詞にはどのような種類があるのかを確認する 事後学修：修飾・非修飾の関係をしっかり捉え、リアクションペーパーを作成・提出する
10 回	授業内容：Chapter 10 仮定法 事前学修：教科書の説明と例文に目を通し、仮定法とは何かについて考える 事後学修：仮定法が使われた様々な表現を理解して、リアクションペーパーを作成・提出する
11 回	授業内容：Chapter 11 否定 事前学修：教科書の説明と例文に目を通し、否定の表現にはどのようなものがあるのかを知る 事後学修：否定表現のニュアンスの違いを意識しながら、リアクションペーパーを作成・提出する
12 回	授業内容：Chapter 12 強調・倒置・同格・挿入・省略・名詞構文・無生物主語等 事前学修：教科書の説明と例文に目を通し、様々な特殊な表現があることを認識する 事後学修：様々な特殊表現の特徴を認識し、リアクションペーパーを作成・提出する
13 回	授業内容：Chapter 13 名詞と冠詞 事前学修：教科書の説明と例文に目を通し、名詞に様々な種類があることを知る 事後学修：文脈の中での名詞の使われ方を意識し、リアクションペーパーを作成・提出する
14 回	授業内容：Chapter 14 代名詞 事前学修：教科書の説明と例文に目を通し、様々な代名詞があることを知る 事後学修：代名詞が何を指しているのかを考え、リアクションペーパーを作成・提出する
15 回	授業内容：Chapter 15 形容詞と副詞 事前学修：教科書の説明と例文に目を通し、形容詞と副詞の違いを考える 事後学修：形容詞と副詞の様々な用法を確認し、リアクションペーパーを作成・提出する

◆**教科書** 『読む力を伸ばす英文法－実践的例文を中心に－』（朝日出版社、2013）

◆**参考書**

◆**成績評価基準** 各日の課題（計6回）60%、最終レポート40%

◆**授業相談（連絡先）**：

注意

◆**授業概要** 英語の小説というと非常に難解なもの、という印象を持ちます。実際にベストセラーになっている長編小説や、名作と呼ばれる古典作品などは、生半かな知識では読み切れないものです。しかしながら、中学・高校で学んだ知識と辞書があれば、大体の短編小説は読むことができます。本授業では、わかりやすい文章の超短編推理小説を読み、わからない文に解説を加えて、より良く作品を理解し楽しむことを心掛ける。高校生に英語を教えていることをこの授業にも反映している。

◆**学修到達目標**

- ・わからない文章に対して文法的に解説をし、これまでに学んできた英文法の知識を再確認することで、文法知識を身に付けることができる。
- ・本授業でおさらいした文法知識で正確に英文を読むことができる。
- ・辞書があれば英文が読める事を実感し、英文を読む自信をつけることができる。
- ・謎を解く事で、文化や知識を深めることができる。

◆**授業方法** 動画による授業となります。動画内の解説を聞き、文法事項のおさらいをしつつ、文書を正確に把握してもらい、その確認を踏まえて物語の謎解きをしていきます。情景描写や表現などの、英文ならではの面白さも説明します。まず自分で意味を考えて下さい。その際、間違えることは問題ないです。解説を聞いて、なぜ間違ったかを確認します。わからないところを見つけるのも学習の一つです。なぜそのような意味になるのかはしっかりと説明しますので、きちんと理解するようにしてください。また、テキストについている問題を通して、文法知識の定着も目標とします。内容を把握した段階で謎解きをします。動画内での解説や、謎解きの考え方などをしっかりと理解しないと、最終レポートの問題が解けなくなります。身につくようにきちんとノートを取り、レポート作成の参考にできるようにしてください。

◆**授業計画**

1回	授業内容	教科書ガイダンス。Unit 11から読み進めます。文章の精読。文法説明。
	事前学修	わからない単語・熟語は全て調べておく。自分でなるべく意味を把握するようにする。
	事後学修	授業で説明された文法事項を復習し、正確な内容理解に努める。
2回	授業内容	Unit 11を引き続き読み進めます。文章の精読。文法説明。Unit 11終了。Unit 12の導入。
	事前学修	わからない単語・熟語は全て調べておく。自分でなるべく意味を把握するようにする。
	事後学修	授業で説明された文法事項を復習し、正確な内容理解に努める。Unit 11の謎解きをReaction Paperに書く。
3回	授業内容	Unit 12を引き続き読み進めます。文章の精読。文法説明。Unit 12終了。Unit 13の導入。
	事前学修	わからない単語・熟語は全て調べておく。自分でなるべく意味を把握するようにする。
	事後学修	授業で説明された文法事項を復習し、正確な内容理解に努める。Unit 12の謎解きをReaction Paperに書く。
4回	授業内容	Unit 13を引き続き読み進めます。文章の精読。文法説明。Unit 13終了。Unit 14の導入。
	事前学修	わからない単語・熟語は全て調べておく。自分でなるべく意味を把握するようにする。
	事後学修	授業で説明された文法事項を復習し、正確な内容理解に努める。Unit 13の謎解きをReaction Paperに書く。
5回	授業内容	Unit 14を引き続き読み進めます。文章の精読。文法説明。Unit 14終了。Unit 15の導入。
	事前学修	わからない単語・熟語は全て調べておく。自分でなるべく意味を把握するようにする。
	事後学修	授業で説明された文法事項を復習し、正確な内容理解に努める。Unit 14の謎解きをReaction Paperに書く。
6回	授業内容	Unit 15を引き続き読み進めます。文章の精読。文法説明。Unit 15終了。Unit 16の導入。
	事前学修	わからない単語・熟語は全て調べておく。自分でなるべく意味を把握するようにする。
	事後学修	授業で説明された文法事項を復習し、正確な内容理解に努める。Unit 15の謎解きをReaction Paperに書く。
7回	授業内容	Unit 16を引き続き読み進めます。文章の精読。文法説明。Unit 16終了。Unit 17の導入。
	事前学修	わからない単語・熟語は全て調べておく。自分でなるべく意味を把握するようにする。
	事後学修	授業で説明された文法事項を復習し、正確な内容理解に努める。Unit 16の謎解きをReaction Paperに書く。
8回	授業内容	Unit 17を引き続き読み進めます。文章の精読。文法説明。Unit 17終了。Unit 18の導入。
	事前学修	わからない単語・熟語は全て調べておく。自分でなるべく意味を把握するようにする。
	事後学修	授業で説明された文法事項を復習し、正確な内容理解に努める。Unit 17の謎解きを

		Reaction Paper に書く。
9回	授業内容	Unit 18を引き続き読み進めます。文章の精読。文法説明。Unit 18 終了。Unit 19 の導入。
	事前学修	わからない単語・熟語は全て調べておく。自分でなるべく意味を把握するようにする。
	事後学修	授業で説明された文法事項を復習し、正確な内容理解に努める。Unit 18 の謎解きを Reaction Paper に書く。
10回	授業内容	Unit 19を引き続き読み進めます。文章の精読。文法説明。Unit 19 終了。Unit 20 の導入。
	事前学修	わからない単語・熟語は全て調べておく。自分でなるべく意味を把握するようにする。
	事後学修	授業で説明された文法事項を復習し、正確な内容理解に努める。Unit 19 の謎解きを Reaction Paper に書く。
11回	授業内容	Unit 20を引き続き読み進めます。文章の精読。文法説明。Unit 20 終了。Unit 21 の導入。
	事前学修	わからない単語・熟語は全て調べておく。自分でなるべく意味を把握するようにする。
	事後学修	授業で説明された文法事項を復習し、正確な内容理解に努める。Unit 20 の謎解きを Reaction Paper に書く。
12回	授業内容	Unit 21を引き続き読み進めます。文章の精読。文法説明。Unit 21 終了。Unit 22 の導入。
	事前学修	わからない単語・熟語は全て調べておく。自分でなるべく意味を把握するようにする。
	事後学修	授業で説明された文法事項を復習し、正確な内容理解に努める。Unit 21 の謎解きを Reaction Paper に書く。
13回	授業内容	Unit 22を引き続き読み進めます。文章の精読。文法説明。Unit 22 終了。Unit 23 の導入。
	事前学修	わからない単語・熟語は全て調べておく。自分でなるべく意味を把握するようにする。
	事後学修	授業で説明された文法事項を復習し、正確な内容理解に努める。Unit 22 の謎解きを Reaction Paper に書く。
14回	授業内容	Unit 23を引き続き読み進めます。文章の精読。文法説明。Unit 23 終了。Unit 24 の導入。
	事前学修	わからない単語・熟語は全て調べておく。自分でなるべく意味を把握するようにする。
	事後学修	授業で説明された文法事項を復習し、正確な内容理解に努める。Unit 23 の謎解きを Reaction Paper に書く。
15回	授業内容	Unit 24を引き続き読み進めます。文章の精読。文法説明。Unit 24 終了。Report の説明。
	事前学修	わからない単語・熟語は全て調べておく。自分でなるべく意味を把握するようにする。
	事後学修	試験を含めたスクリーニング全体で学んだことをおさらいし、Report を作成する。

◆教科書 Solve the Mystery and Improve Your English Reading Skills ミステリーを読んで英語のスキルアップ  
Donald J. Sobol 著英宝社 1,800円+税

◆参考書(参考文献等) 指定しない。

◆成績評価基準 Reaction paper の提出 (およそ40%)・最終レポート(およそ60%)により総合的に評価します。動画を全て視聴することが前提となります。そこで課される Reaction Paper を出さないことは、授業を受けていないことを意味しますので、単位認定から外れることとなります。

# 講座内容 (シラバス)

## [英語V]

島本 慎一郎

◆**授業概要** Bilingual に憧れることは誰もが一度経験することだろう。しかし、Bilingual とは一体どのような人のことを指すのだろうか。Bilingual と呼ばれる人のバックグラウンドや環境は意外にも知る機会が少ないように思える。Reading Strategies の実践と Reading Fluency の向上を目指しながら、Bilingual の定義から Monolingual との相違点まで網羅的に学ぶ。

◆**学修到達目標** 1. 目的や用途に応じて Reading Strategies を使用できる。  
2. Bilingual の定義について例を交えて説明できる。  
3. Reading Fluency 向上の仕組みを踏まえて、Rapid Reading を実践できる。

◆**授業方法** 指定した範囲を各自読んでくることを前提とする。部分的に内容の解説や読解についてクラス全体で取り扱うが、基本的には読んできたものを Peer Reading や Small Group Reading の形式で内容の再構築やディスカッション、ポイントの整理を行う。同時に Reading Strategies の導入と実践を全体で行い実践する。また、その日学んだことをまとめるリアクションペーパーの提出を求める。

◆**履修条件**

◆**授業計画 (各 90 分)**

1回	授業内容	授業の進め方, オリエンテーション, Schema Building 「バイリンガルとは何か?」
	事前学修	「Bilingual」というキーワードについて Web や文献を調べ、定義を考える。また、参照元ごとに、バイリンガルの定義にどのような違いがあるのかをまとめる。
	事後学修	事前学習、授業内容を踏まえて、テキストの内容の要点を確認し、テキスト英文の文法・語彙を理解しておくこと。
2回	授業内容	授業の進め方, オリエンテーション, バイリンガルとは何か?
	事前学修	テキスト1章を読んでおくこと。
	事後学修	事前学習、授業内容を踏まえて、テキストの内容の要点を確認し、テキスト英文の文法・語彙を理解しておくこと。
3回	授業内容	バイリンガルを取り巻く環境, Reading における流暢さ, Chunking の実践
	事前学修	テキスト2章を読んでおくこと。
	事後学修	事前学習、授業内容を踏まえて、テキストの内容の要点を確認し、テキスト英文の文法・語彙を理解しておくこと。
4回	授業内容	ことばの働きと役割①機能からみたことば, Reading Strategies 概要の導入
	事前学修	テキスト3章を読んでおくこと。
	事後学修	事前学習、授業内容を踏まえて、テキストの内容の要点を確認し、テキスト英文の文法・語彙を理解しておくこと。
5回	授業内容	ことばの働きと役割②役割からみたことば, Inferring の実践, リアクションペーパー①作成
	事前学修	テキスト3章を読んでおくこと。リアクションペーパー作成のため、第1章～第3章の内容と自らの経験をどのように結びつけるか考える。
	事後学修	事前学習、授業内容を踏まえて、テキストの内容の要点を確認し、テキスト英文の文法・語彙を理解しておくこと。
6回	授業内容	言語の選択, Scanning の実践
	事前学修	テキスト4章を読んでおくこと。
	事後学修	事前学習、授業内容を踏まえて、テキストの内容の要点を確認し、テキスト英文の文法・語彙を理解しておくこと。
7回	授業内容	Code-Switching と Code-Mixing
	事前学修	テキスト5章を読んでおくこと。(※6章は割愛します。)
	事後学修	事前学習、授業内容を踏まえて、テキストの内容の要点を確認し、テキスト英文の文法・語彙を理解しておくこと。
8回	授業内容	ことばの訛り, Skimming の実践
	事前学修	テキスト7章を読んでおくこと。
	事後学修	事前学習、授業内容を踏まえて、テキストの内容の要点を確認し、テキスト英文の文法・語彙を理解しておくこと。
9回	授業内容	複数言語の習得過程とバックグラウンド, Reading における未知語への対処
	事前学修	テキスト8章を読んでおくこと。
	事後学修	事前学習、授業内容を踏まえて、テキストの内容の要点を確認し、テキスト英文の文法・語彙を理解しておくこと。
10回	授業内容	バイリンガルであることの利便性と悩み, リアクションペーパー②作成
	事前学修	テキスト9章を読んでおくこと。(※10章は割愛します。)リアクションペーパー作成のため、第4章～第9章の内容と自らの経験をどのように結びつけるか考える。
	事後学修	事前学習、授業内容を踏まえて、テキストの内容の要点を確認し、テキスト英文の文法・語彙を理解しておくこと。
11回	授業内容	バイリンガルの思考, バイリンガルの種類
	事前学修	テキスト11章を読んでおくこと。(※12, 13, 14章は割愛します。)
	事後学修	事前学習、授業内容を踏まえて、テキストの内容の要点を確認し、テキスト英文の文法・語彙を理解しておくこと。
12回	授業内容	子どもがバイリンガルになる過程
	事前学修	テキスト15章を読んでおくこと。(※16章は割愛します。)
	事後学修	事前学習、授業内容を踏まえて、テキストの内容の要点を確認し、テキスト英文の文法・語彙を理解しておくこと。
13回	授業内容	子どもをバイリンガルにするには, Schema-building の実践
	事前学修	テキスト17章を読んでおくこと。
	事後学修	事前学習、授業内容を踏まえて、テキストの内容の要点を確認し、テキスト英文の文法・語彙を理解しておくこと。
14回	授業内容	テキスト第1章～17章の再構築 (復習)
	事前学修	テキスト第1章～17章のまとめプリントを見返し、それぞれの要点について他者に説明できるようにする。
	事後学修	事前学習、授業内容を踏まえて、テキストの内容の要点を確認し、テキスト英文の文法・語彙を理解しておくこと。
15回	授業内容	実体験に基づくバイリンガル経験談の共有, 試験及び解説
	事前学修	第1回～第14回の内容の復習とテキストの英文を読むようにしておくこと。
	事後学修	事前学習、授業内容を踏まえて、テキストの内容の要点を確認し、テキスト英文の文法・語彙を理解しておくこと。

◆**教科書** 汎用 [Bilingual: Life and Reality] François Grosjean Harvard University Press. 2012年  
ISBN: 978-0674066137

◆**参考書** 特になし

◆**成績評価基準** テスト (40%), リアクションペーパー (20%), 授業参画度 (40%)

◆**授業相談 (連絡先)**: メール: ss81@hawaii.edu

**注意**

# 講座内容（シラバス）

## 〔ドイツ語Ⅰ・Ⅱ〕

志田 慎

◆**授業概要** 「聴く」、「読む」、「話す」、「書く」の四つの基本能力をバランスよく磨いて、ドイツ語技能検定5級から4級レベルの総合的なドイツ語力を身につけます。

◆**学修到達目標** 「聴く」、「読む」、「話す」、「書く」の四つの基本能力をバランスよく身につける。ドイツ語技能検定5級から4級レベルの総合的なドイツ語力を身につける。

◆**授業方法** 1. 各課のダイアログをCDで聴き、みなで真似て発音練習します。これを数回繰り返します。  
2. 教科書の例文を用いて文法事項を解説します。  
3. 練習問題をみなさんに解いてもらい、担当教員が添削します。  
本授業の事前学修・事後学修の時間は各0.5時間を目安としています。

◆**履修条件**

◆**授業計画（各90分）**

1回	授業内容：アルファベット／発音のポイント 事前学修：付録CDを聴いてみること。 事後学修：付録CDを聴いて発音練習すること。
2回	授業内容：発音のポイント／Lektion 1（動詞の現在人称変化） 事前学修：付録CDを聴いてみること。教科書の該当部分を読み、問題を解いてみること。 事後学修：付録CDを聴いて発音練習すること。授業で学習した部分を読みなおすこと。
3回	授業内容：Lektion 1（動詞の現在人称変化） 事前学修：教科書の該当部分を読み、問題を解いてみること。 事後学修：授業で学習した部分を読みなおすこと。
4回	授業内容：Lektion 2（seinとhabenの現在人称変化） 事前学修：教科書の該当部分を読み、問題を解いてみること。 事後学修：授業で学習した部分を読みなおすこと。
5回	授業内容：Lektion 2（seinとhabenの現在人称変化）／小テスト 事前学修：教科書の該当部分を読み、問題を解いてみること。 事後学修：授業で学習した部分を読みなおすこと。
6回	授業内容：小テストの解説／Lektion 3（wissenの現在人称変化） 事前学修：教科書の該当部分を読み、問題を解いてみること。 事後学修：授業で学習した部分を読みなおすこと。
7回	授業内容：Lektion 3（wissenの現在人称変化）／Lektion 4（fahrenの現在人称変化） 事前学修：教科書の該当部分を読み、問題を解いてみること。 事後学修：授業で学習した部分を読みなおすこと。
8回	授業内容：Lektion 4（fahrenの現在人称変化）／Lektion 5（動詞の語幹の中の母音がeからiに変わる動詞） 事前学修：教科書の該当部分を読み、問題を解いてみること。 事後学修：授業で学習した部分を読みなおすこと。
9回	授業内容：Lektion 5（動詞の語幹の中の母音がeからiに変わる動詞）／復習 事前学修：教科書の該当部分を読み、問題を解いてみること。 事後学修：授業で学習した部分を読みなおすこと。
10回	授業内容：復習／小テスト 事前学修：教科書の該当部分を読み、問題を解いてみること。 事後学修：授業で学習した部分を読みなおすこと。
11回	授業内容：小テストの解説／Lektion 6（助動詞könnenの現在人称変化） 事前学修：教科書の該当部分を読み、問題を解いてみること。 事後学修：授業で学習した部分を読みなおすこと。
12回	授業内容：Lektion 6（助動詞könnenの現在人称変化）／Lektion 7（分離動詞の仕組み） 事前学修：教科書の該当部分を読み、問題を解いてみること。 事後学修：授業で学習した部分を読みなおすこと。
13回	授業内容：Lektion 7（分離動詞の仕組み） 事前学修：教科書の該当部分を読み、問題を解いてみること。 事後学修：授業で学習した部分を読みなおすこと。
14回	授業内容：復習／理解度の確認 事前学修：教科書の該当部分を読んでおくこと。 事後学修：これまでに学習した内容を確認すること。
15回	授業内容：試験及び解説 事前学修：教科書の該当部分を読んでおくこと。 事後学修：これまでに学習した内容を確認すること。

◆**教科書** 丸岡『ドイツ・サラダ [DVD付]』保阪良子著 朝日出版社 2010年

◆**参考書** 丸岡 独和辞典を必ず持参してください。推奨は『クラウン独和辞典』三省堂

◆**成績評価基準** 最終試験 50%、平常点（練習問題、小テストなど）50%により総合的に評価します。

◆**授業相談（連絡先）：**

注意

## 講座内容（シラバス）

〔保健体育講義Ⅰ〕 オープン受講：不可

高橋 正則／水落 文夫

◆**授業概要** 近年、超高齢社会を向かえているわが国の平均寿命は、年々上昇しているものの、健康寿命との差は依然として縮まらない傾向が続いています。平均寿命と健康寿命の差は約10年前後であり、その差を埋めるためには、自立して生活できる健康な身体を積極的に獲得する必要があります。そこで、健康・体力に関する様々な情報に日頃から関心に向け、自身の健康維持・増進を目指す運動数館のある生活習慣を考えていきます。特に、トレーニングコーチ（日本オリンピック委員会強化スタッフ・医学）として体力トレーニングやメンタルトレーニングの指導実績を生かし、実践的で効果的な健康教育に関する知識を授業に反映させています。

◆**学修到達目標** 生涯を通じて最も大切な健康とは何か、また、健康・体力の維持増進のために何が必要かについて、基本的な知識を習得することで、自らの生活習慣に結びつけることができるようになる。

◆**授業方法** この授業は、パワーポイントによって資料をスクリーンに提示しながら、講義形式で授業を進めます。また、必要に応じて、配布資料を準備し、各授業前に配布する予定です。なお、授業では講義内容からレポート等の課題を出す場合があります。

◆**履修条件**

◆**授業計画（各90分）**

1回	授業内容 事前学修 事後学修	ガイダンス（授業のスケジュールおよび受講上の注意事項等の説明）、現代社会と健康：現代社会と健康の関連を説明する。 事前に新聞やニュースなどのメディアを通して、関連情報を得ておくこと。 配布資料をまとめ、理解しておくこと。
2回	授業内容 事前学修 事後学修	コミュニケーションスキル：現代社会におけるコミュニケーションスキルの重要性を解説する。 事前に新聞やニュースなどのメディアを通して、関連情報を得ておくこと。 配布資料をまとめ、理解しておくこと。
3回	授業内容 事前学修 事後学修	体力の概念：体力の構成を行動体力と防衛体力の観点から説明する。 事前に新聞やニュースなどのメディアを通して、関連情報を得ておくこと。 配布資料をまとめ、理解しておくこと。
4回	授業内容 事前学修 事後学修	オリビズム：オリンピックに対する考え方やオリンピック教育の具体的内容を説明する。 事前に新聞やニュースなどのメディアを通して、関連情報を得ておくこと。 配布資料をまとめ、理解しておくこと。
5回	授業内容 事前学修 事後学修	運動・スポーツの効果：運動やスポーツが心身に及ぼす影響を解説する。 事前に新聞やニュースなどのメディアを通して、関連情報を得ておくこと。 配布資料をまとめ、理解しておくこと。
6回	授業内容 事前学修 事後学修	運動による疲労：身体活動が与える疲労を様々な指標で捉え、その影響を説明する。 事前に新聞やニュースなどのメディアを通して、関連情報を得ておくこと。 配布資料をまとめ、理解しておくこと。
7回	授業内容 事前学修 事後学修	休養の実態と意義：休養の必要性や効果的な取り方を解説する。 事前に新聞やニュースなどのメディアを通して、関連情報を得ておくこと。 配布資料をまとめ、理解しておくこと。
8回	授業内容 事前学修 事後学修	運動学習：運動を効果的に学習するための理論を説明する。また計8回の授業内容を範囲とする試験を実施する。 事前に新聞やニュースなどのメディアを通して、関連情報を得ておくこと。また試験対策として、各授業の復習をしておくこと。 配布資料をまとめ、講義全体の内容を整理し、理解しておくこと。
9回	授業内容 事前学修 事後学修	
10回	授業内容 事前学修 事後学修	
11回	授業内容 事前学修 事後学修	
12回	授業内容 事前学修 事後学修	
13回	授業内容 事前学修 事後学修	
14回	授業内容 事前学修 事後学修	
15回	授業内容 事前学修 事後学修	

◆**教科書** 〔当日資料配布〕 当日、授業時にプリントを配布します。

◆**参考書** 〔丸沼〕『健康・スポーツ教育論』 日本大学文理学部体育学研究室編、八千代出版

◆**成績評価基準** 授業への取り組み（貢献度）およびレポート・テストによって、総合的に評価します。

◆**授業相談（連絡先）**：初回の授業時、受講学生に直接伝えます。

注意

# 講座内容 (シラバス)

## 〔民法Ⅲ〕

田中 夏樹

◆**授業概要** 本授業では、民法の債権総論を取り扱う。人からお金を借りた場合（消費貸借契約）や人と物の売買を行った場合（売買契約）のような人に対する権利（債権）について、具体的な契約類型に関する規律（債権各論の分野）ではなく、債権に共通した事柄を扱うものである。担当教員は元弁護士であり、実務上の取り扱いや具体的な事例等の言及を交えながら解説を行う。

◆**学習到達目標** 債権の発生、効果、消滅に至るまでのプロセスを中心とした判例や学説の解説を通じて、債権法の位置づけや債権法の機能について学び、債権法の位置づけや債権が発生してから消滅するまでの各段階についての基本的な知識を習得し、自らの言葉で説明できるようにすることを目的とするが、演習問題を行うことで、実際に身に付けた知識を活用し、物事を論理的、合理的かつ批判的に考察できるようにすることを目標とする。

◆**授業方法** 基本的に講義形式にて債権法の解説を行うが、実際に身に付けた知識を活用できるようにするため、単元ごとに演習問題を行うことを想定している。試験によって成績評価を行うため、試験後に授業内にて試験の解説等を行う。また、本授業の事前学修・事後学修の時間は各2時間を目安としている。

◆**履修条件**

◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容 事前学修 事後学修	授業の内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含め、債権総論の授業進行方法や学習方法について説明し、受講生の今後の学習準備を行う。成績評価等の質問も受け付ける。 シラバスを確認するとともに、教科書の債権総論の導入部分を読み、債権総論の民法上の位置づけを理解する。(2時間) 授業内容で言及した学習方法を再確認し、到達度を踏まえた学習計画を検討する。(2時間)
2回	授業内容 事前学修 事後学修	民法の体系と債権法の位置づけ 債権法は民法の一分野であり、債権法が民法上どのような位置づけにあり、どのような性質を有しているかを物権法等と比較しながら学習する。 教科書の該当箇所を確認し、債権法が同じ財産法である物権法と位置づけがどのように異なっているかを確認し、不明点を明らかにする。(2時間) 特に物権法とどのように役割や機能が違うかについて、何故違うのか、何故そのような役割が与えられているかを自分なりに検討し、事前学習の疑問点を解消できたか確認する。(2時間)
3回	授業内容 事前学修 事後学修	債権の種類 債権の中にも種類物債権や特定物債権など様々な種類の債権が存在し、それぞれ性質が異なっている。これらの債権の分類と性質について解説を行う。 教科書の該当箇所を確認し、債権の中でどのような種類の債権が存在し、どのような性質を有しているかを理解し、教科書の該当範囲に目を通しておく。(2時間) 何故そのような分類をする必要があるか、分類にはどのような意味があるのかについて具体的な債権と関連付けて説明ができるようにする。(2時間)
4回	授業内容 事前学修 事後学修	債務不履行1 債務不履行について、なぜそのような制度が必要であるか、制度が機能するのはどのような場面かについて解説し、債務不履行制度の概要について理解することを目的とする。 教科書の該当箇所を確認し、債務不履行について制度の目的や要件を理解し、教科書の該当範囲に目を通し、授業前不明点を明らかにしておく。(2時間) 債務不履行制度はいくつかの類型に分類されるが、何故そのような必要があるのか、制度趣旨等と関連付けて説明ができるようにする。(2時間)
5回	授業内容 事前学修 事後学修	債務不履行2 債務不履行について、前回の授業で扱った類型に応じて異なる要件が求められており、類型ごとの性質を踏まえてなぜそのような要件が必要となるのかを解説する。 教科書の該当箇所を確認し、債務不履行制度について、制度の目的を踏まえ、どのような法律上の要件が求められているか、分類によって要件がどう異なるのかを確認する。(2時間) 債務不履行の要件について、何故そのような理解となるのか、制度趣旨や債務不履行の類型ごとの性質と関連させて説明ができるようにする。(2時間)
6回	授業内容 事前学修 事後学修	債務不履行3 債務不履行について、債務不履行はその効果として契約そのものを溯及的に無効にする手段や契約が存在することを前提として損害賠償請求を行う手段など複数の手段が存在しており、各手段の性質を比較しながら説明する。 教科書の該当箇所を確認し、前回までに扱った類型や要件についての理解を確認するとともに、債務不履行の効果について、なぜそのような効果が認められるのかを検討する。(2時間) 債務不履行の効果について、そのような効果がなぜ認められるのか、複数の効果を選択できる場合には、どのような目的の違いが認められるのかを説明できるようにする。(2時間)
7回	授業内容 事前学修 事後学修	受領遅滞 受領遅滞は、債権者側の責任の問題であり、一般的な債務不履行が債務者の責任であることと区別される。債務不履行制度との比較を通じて受領遅滞制度を解説する。 教科書の該当箇所を確認し、一般的な債務不履行制度と受領遅滞制度がどのように異なるか、制度趣旨や目的について確認をする。(2時間) 受領遅滞という概念の必要性や法的性質について、債務不履行制度との相違を説明できるか確認し、何故そのような理解が求められるのか確認する。(2時間)
8回	授業内容 事前学修 事後学修	責任財産の保全1 債務者から資金を回収する際に、債務者に財産がなければ空振りしてしまうため、民法上どのような債務者の責任財産を保つ仕組みが用意されているのかを解説する。 教科書の該当箇所を確認し、責任財産とは何か、責任財産を保全する目的は何かといった概要を確認しておく。(2時間) 責任財産を保全する必要性と債権者代位権の制度趣旨や機能について具体的な事例を念頭に説明ができるようにする。(2時間)
9回	授業内容 事前学修 事後学修	責任財産の保全2 責任財産の保全には、債権者代位権と詐害行為取消権とが民法上存在しており、それぞれ適用場面が異なっており、どのような事情があればいずれの手段を選択するべきであるのかを解説する。 教科書の該当箇所を確認し、債権者代位権と詐害行為取消権の機能や目的の違いを予め確認し、どのような場面で機能するのかを考えてみる。(2時間) 責任財産の保全について、債権者代位権と詐害行為取消権を念頭に置き、法的な手段の区分と要件及び効果を制度趣旨と関連させて説明ができるようにする。(2時間)
10回	授業内容 事前学修 事後学修	連帯債務 多数当事者の中で最も重要な概念の一つである連帯債務について、債務者が複数人存在し、かつ、連帯して債務を負っている場合にどのような影響関係があるかを解説する。 教科書の該当箇所を確認し、連帯債務とはどのような当事者が登場し、どのような債権関係に立っているか概要を確認する。(2時間) 連帯債務は、債権者にとってどういったメリットのある制度であり、どのような制度設計が念頭に置かれているかを理解し、債権者の権利の拡充を説明できるようにする。(2時間)
11回	授業内容 事前学修 事後学修	保証債務 保証制度は主として債権者の債権を強化する目的で利用されるが、他方で保証人が不当に害されることを防ぐ必要がある。民法が各当事者の利害関係にどのような配慮をした制度を用意しているかを解説する。 教科書の該当箇所を確認し、保証債務の場合に、連帯債務とどのように異なるかを意識して、保証制度の機能や目的を確認しておく。(2時間) 保証債務について、制度趣旨の違いを踏まえ、連帯債務者の場合と比較してどのような立法的な保護がなされているかを理解し、説明ができるようにする。(2時間)
12回	授業内容 事前学修 事後学修	債権譲渡 債権譲渡はかつては否定されていた制度であるが、近代に近づくにつれて積極的に活用されるようになった制度であり、債権譲渡を活用することの利点と不都合性としてどのようなものがあるかを解説する。 教科書の該当箇所を確認し、債権譲渡の制度について、どのような目的の制度であるか、どのような場面で活用される制度であるかを確認する。(2時間) 債権譲渡がどのような目的で行われる制度であるか、債権譲渡のやり方にはどのような類型があるのかを理解し、債務者・債権者・第三者の状況に応じてどのような手法が妥当であるかを考えられるようにする。(2時間)
13回	授業内容 事前学修 事後学修	債務消滅 発生した債権がどのようにして消滅するのかについて、総論的な解説を行う。債権の消滅に関しては、債権者と債務者の利害関係が対立するため、どのような調整がなされるのかといった観点から解説を行う。 教科書の該当箇所を確認し、債務が消滅するのはどういった類型が存在するか確認し、弁済についての該当箇所を確認する。(2時間) 債務が消滅する法制度間の差異を理解し、各制度ごとの論点や特徴としてどのようなものがあるか、なぜそのような問題が生じるのかといったことを順序立てて説明できるようにする。(2時間)
14回	授業内容 事前学修 事後学修	債権総論まとめ 債権法総論の授業のまとめとなる解説を合わせて行う。 これまでの授業内容を復習する。(2時間) 授業内容のまとめを踏まえ、不明点を整理して次回の授業までに質問事項を整理しておく。(2時間)
15回	授業内容 事前学修 事後学修	最終試験としてレポート試験を課す。また、債権法と他の法領域についての関係性にも言及し、履修計画の一助にもらいたい。 前までの授業の復習を行い、理解できているところとできていないところを分け、不明点を復習し、試験に向けて準備する。(2時間) 債権法と他の法領域との関係を考え、債権法の役割について検討する。(2時間)

◆**教科書** 『民法Ⅲ K30200』 通信教育教材（教材コード 000354）

◆**参考書**

◆**成績評価基準** レポート試験 80%、授業への参画度（毎日のリアクションペーパー）20%

◆**授業相談（連絡先）**：教員のメールアドレス：tanaka.natsuki@nihon-u.ac.jp までご連絡ください。

### 注意



# 講座内容（シラバス）

〔知的財産法〕 オープン受講：不可

安田 和史

- ◆**授業概要** 著作権制度は、著作物を生み出す著作者の労苦に報い、文化の発展に寄与できるよう著作物の利用を促し著作物を保護することを目的としている。著作権制度は、著作者による創作や実演家などの準創作行為の保護を中心としつつ、適正な利用の均衡点を模索しつつ毎年のように改正がされている。講義では、基本的な著作権法に関する理解を判例等を用いて行うとともに、近年の改正などについても改正のきっかけとなったケースなどを含め解説を加える。
- ◆**学修到達目標** 講義では、テキストと判例を用いて著作権法の基礎理論について解説を行う。著作権法に関する入門的な知識を習得することを目的とする。
- ◆**授業方法** 講義形式による授業を行う。講義では、図などを用いて視覚的な理解が高まるように工夫をする。質問を受け付けられるよう、フォームなどを活用したいと考えている。
- ◆**履修条件** なし
- ◆**授業計画（各 90 分）**

1 回	授業内容：オリエンテーション。講義の概要、著作権法の目的、遠隔。著作権法と条約 事前学修：教科書 265 頁～270 頁を読んでおくこと。 事後学修：教科書及び配布資料を読み込み、理解を深める。
2 回	授業内容：著作権法の保護対象 その1 事前学修：教科書 271 頁以下を読んでおくこと。 事後学修：教科書及び配布資料を読み込み、理解を深める。
3 回	授業内容：著作権法の保護対象 その2 事前学修：教科書 271 頁以下を読んでおくこと。 事後学修：教科書及び配布資料を読み込み、理解を深める。
4 回	授業内容：著作者および著作者の権利 その1 事前学修：教科書 280 頁以下を読んでおくこと 事後学修：教科書及び配布資料を読み込み、理解を深める。
5 回	授業内容：著作者および著作者の権利 その2 事前学修：教科書 280 頁以下を読んでおくこと 事後学修：教科書及び配布資料を読み込み、理解を深める。
6 回	授業内容：著作権の制限その1 事前学修：教科書 294 頁以下を読んでおくこと 事後学修：教科書及び配布資料を読み込み、理解を深める。
7 回	授業内容：著作権の制限その2 事前学修：教科書 294 頁以下を読んでおくこと 事後学修：教科書及び配布資料を読み込み、理解を深める。
8 回	授業内容：著作権の制限その3 事前学修：教科書 294 頁以下を読んでおくこと 事後学修：教科書及び配布資料を読み込み、理解を深める。
9 回	授業内容：出版・著作隣接権 事前学修：教科書 307 頁以下を読んでおくこと 事後学修：教科書及び配布資料を読み込み、理解を深める。
10 回	授業内容：集中権利処理機関 事前学修：教科書 326 頁以下を読んでおくこと 事後学修：教科書及び配布資料を読み込み、理解を深める。
11 回	授業内容：権利侵害（民事上の救済） 事前学修：教科書 329 頁以下を読んでおくこと 事後学修：教科書及び配布資料を読み込み、理解を深める。
12 回	授業内容：権利侵害（刑事上の救済） 事前学修：教科書 330 頁以下を読んでおくこと 事後学修：教科書及び配布資料を読み込み、理解を深める。
13 回	授業内容：最近の法改正等について（デジタル化・ネットワーク化の進展に対応した柔軟な権利制限規定の整備、アーカイブの利活用促進に関する権利制限規定の整備等） 事前学修：事前学習資料を第 12 回までに配布する。 事後学修：教科書及び配布資料を読み込み、理解を深める。
14 回	授業内容：最近の法改正等について（教育の情報化に対応した権利制限規定等の整備、障害者の情報アクセス機会の充実に係る権利制限規定の整備） 事前学修：事前学習資料を第 12 回までに配布する。 事後学修：教科書及び配布資料を読み込み、理解を深める。
15 回	授業内容：今後の法改正等について（海賊版対策関係） 事前学修：事前学習資料を第 12 回までに配布する。 事後学修：教科書及び配布資料を読み込み、理解を深める。

- ◆**教科書** 丸沼 土肥一史『知的財産法入門（第 16 版）』中央経済社（2019 年）3500 円（+税）  
ISBN-13: 978-4502293313  
〔当日資料配布〕 当日資料を配布します。
- ◆**参考書**
- ◆**成績評価基準** 毎回出席することを前提に、試験（60%）、授業への参加や貢献による平常点（40%）により行う。
- ◆**授業相談（連絡先）**：初回授業時に案内します。

注意

# 講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔政治学原論〕

吉野 篤

- ◆**授業概要** 政治概念の歴史の変容を概観することを通じて、政治という現象の特質を把握する。
- ◆**学修到達目標** 政治とはどのような営みなのかを過去の学問的営為を振り返ることで把握できるようにする。
- ◆**授業方法** 基本的に講義形式で行う。また、ジャーナルな政治問題を考えるために主として新聞報道を素材としてコピーを配布し、授業の材料としたい。
- ◆**履修条件** 昼間スクーリング（前期）「政治学原論」（吉野篤）とは積み重ね不可。
- ◆**授業計画**〔各 90 分〕

1回	授業内容：オリエンテーションとして前期の全体像を示す 事前学修：テキストに目を通すこと 事後学修：内容を確認すること
2回	授業内容：古典古代の政治概念：プラトン 事前学修：テキストの該当箇所をチェックすること 事後学修：ノートを整理し、論点を確認すること
3回	授業内容：古典古代の政治概念：アリストテレス 事前学修：テキストで内容を事前にチェックすること 事後学修：ノートを整理して論点を確認すること
4回	授業内容：中世の政治像 事前学修：中世の政治状況について事前に概要を把握すること 事後学修：ノートを整理するとともに論点を確認すること
5回	授業内容：マキャベリの画期的概念 事前学修：ルネサンスの意義について学習しておくこと 事後学修：ノートを改めて整理して論点を明確化すること
6回	授業内容：社会契約説の歴史的意義 事前学修：該当箇所をチェックすること 事後学修：ノートを改めて整理し論点を明確化すること
7回	授業内容：古典的自由主義の政治概念 事前学修：市民革命の概要を学習すること 事後学修：論点を改めて整理すること
8回	授業内容：市民革命の政治過程：イギリス革命 事前学修：17世紀のイギリスの状況を事前にチェックすること 事後学修：改めて論点を整理すること
9回	授業内容：アメリカ独立革命の意義 事前学修：18世紀のアメリカ植民地の状況を調べること 事後学修：論点を改めて整理すること
10回	授業内容：フランス革命の政治過程 事前学修：革命の位置づけについて事前に調べておくこと 事後学修：論点を改めて整理すること
11回	授業内容：保守主義の歴史的意義 事前学修：保守という概念について事前に確認すること 事後学修：論点を改めて整理すること
12回	授業内容：19世紀の政治概念 マルクスの政治理論 事前学修：テキストで事前にチェックすること 事後学修：論点を改めて整理すること
13回	授業内容：20世紀の政治概念 国家像の変遷 事前学修：大衆社会の政治状況について事前に学習すること 事後学修：論点を改めて整理すること
14回	授業内容：丸山眞男の政治概念 事前学修：丸山について事前に調べること 事後学修：論点を再整理すること
15回	授業内容：1980年代の政治潮流、最終試験 事前学修：1980年代の政治的特質について事前に調べておくこと 事後学修：改めて論点を確認・整理すること

- ◆**教科書** 〔汎用〕吉野篤編『政治学 第2版』弘文堂 2018年
- ◆**参考書** 講義の際に指示する。
- ◆**成績評価基準** 授業への取り組み・最終試験により総合的に評価する。

**注意** E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けません。

# 講座内容 (シラバス)

## 〔経済政策総論 / 経済政策〕

周藤 利一

◆**授業概要** 日本における現在及び将来にわたる公共経済政策の重要な課題について、景気循環、対外経済、財政、金融、租税、雇用・労働、社会福祉、社会保障、資源・エネルギーといった政策分野ごとに、現状と将来の課題、過去の政策とその効果、今後の政策のあり方について、データや実例を示しながら、分かりやすく解説します。

◆**学修到達目標** 現在の日本における公共経済政策の重要な課題に対して、どのような政策認識がなされ、政策の立案、形成、決定過程を経て、どのように実施され、その効果はどのようなものであったかを実証的に分析し、評価することにより、日本の経済政策の現状と課題、今後のあるべき方向を理解することを目標とします。

◆**授業方法** 講義形式で行います。経済政策の意義、経済体制の選択、経済の成長と安定、国際収支と対外関係等の基礎的理論を理解するとともに、金融政策、財政政策、租税政策、産業政策、貿易政策、企業政策、雇用・労働政策、社会保障政策等の主要な経済政策の内容を学びます。

◆**履修条件**

◆**授業計画 (各 90 分)**

1 回	授業内容: 経済政策序論: 経済政策の意義, 財の性質, 経済主体, 資源の配分と所得の配分など 事前学修: 新聞やインターネットなどで関連情報を読んでおくこと。 事後学修: 授業の内容を配布資料やノートで再確認し, 自分の理解度を確認しておくこと。
2 回	授業内容: 国民経済論・経済成長論: 国民経済の意義と原理, 生産・支出・所得の計測方法など 事前学修: 新聞やインターネットなどで関連情報を読んでおくこと。 事後学修: 授業の内容を配布資料やノートで再確認し, 自分の理解度を確認しておくこと。
3 回	授業内容: 国際収支と対外関係: 国際収支の構造, 外国為替市場と為替レートなど 事前学修: 新聞やインターネットなどで関連情報を読んでおくこと。 事後学修: 授業の内容を配布資料やノートで再確認し, 自分の理解度を確認しておくこと。
4 回	授業内容: 金融政策論①: 管理通貨制度, 金融システムの意義, マネーサプライなど 事前学修: 新聞やインターネットなどで関連情報を読んでおくこと。 事後学修: 授業の内容を配布資料やノートで再確認し, 自分の理解度を確認しておくこと。
5 回	授業内容: 金融政策論②: 金融政策の限界, 資産価格の安定化, 金融の異次元緩和など 事前学修: 新聞やインターネットなどで関連情報を読んでおくこと。 事後学修: 授業の内容を配布資料やノートで再確認し, 自分の理解度を確認しておくこと。
6 回	授業内容: 財政政策論①: 財政制度の意義, 国の財政の構造, 財政投融资など 事前学修: 新聞やインターネットなどで関連情報を読んでおくこと。 事後学修: 授業の内容を配布資料やノートで再確認し, 自分の理解度を確認しておくこと。
7 回	授業内容: 財政政策論②: 裁量の財政政策, 減税政策, 日本の財政赤字, 財政再建など 事前学修: 新聞やインターネットなどで関連情報を読んでおくこと。 事後学修: 授業の内容を配布資料やノートで再確認し, 自分の理解度を確認しておくこと。
8 回	授業内容: 租税政策論①: 租税の基礎理論, 租税の機能と効果, 租税の基本原則, 租税の分類など 事前学修: 新聞やインターネットなどで関連情報を読んでおくこと。 事後学修: 授業の内容を配布資料やノートで再確認し, 自分の理解度を確認しておくこと。
9 回	授業内容: 租税政策論②: 日本の租税の現状, 景気対策としての租税, 税制の問題等 事前学修: 新聞やインターネットなどで関連情報を読んでおくこと。 事後学修: 授業の内容を配布資料やノートで再確認し, 自分の理解度を確認しておくこと。
10 回	授業内容: 貿易政策論, 比較生産費モデル, 垂直分業と水平分業, WTO ルール, EPA, TPP など 事前学修: 新聞やインターネットなどで関連情報を読んでおくこと。 事後学修: 授業の内容を配布資料やノートで再確認し, 自分の理解度を確認しておくこと。
11 回	授業内容: 雇用政策論・労働政策論: 労働力及び労働の需要と供給の構造, 労働条件の改善など 事前学修: 新聞やインターネットなどで関連情報を読んでおくこと。 事後学修: 授業の内容を配布資料やノートで再確認し, 自分の理解度を確認しておくこと。
12 回	授業内容: 社会保障政策論: 私的保障と公的保障, 財源の調達, 社会保険と公的扶助など 事前学修: 新聞やインターネットなどで関連情報を読んでおくこと。 事後学修: 授業の内容を配布資料やノートで再確認し, 自分の理解度を確認しておくこと。
13 回	授業内容: 社会福祉政策論: 社会福祉の供給体制, 政府の役割, 経済政策と社会政策の関係など 事前学修: 新聞やインターネットなどで関連情報を読んでおくこと。 事後学修: 授業の内容を配布資料やノートで再確認し, 自分の理解度を確認しておくこと。
14 回	授業内容: 資源・エネルギー政策論①: 世界のエネルギー事情, 日本のエネルギー事情, 省エネ政策など 事前学修: 新聞やインターネットなどで関連情報を読んでおくこと。 事後学修: 授業の内容を配布資料やノートで再確認し, 自分の理解度を確認しておくこと。
15 回	授業内容: 資源・エネルギー政策論②: 再生エネルギー, 福島原発事故以後のエネルギー政策など 事前学修: 新聞やインターネットなどで関連情報を読んでおくこと。 事後学修: 授業の内容を配布資料やノートで再確認し, 自分の理解度を確認しておくこと。

◆**教科書** 当日資料配布

◆**参考書** 特になし

◆**成績評価基準** 試験 70%, 平常点 30%

◆**授業相談 (連絡先)**: suto@meikai.ac.jp

注意

# 講座内容 (シラバス)

## 〔イギリス文学史Ⅰ〕

野呂 有子

◆**授業概要** 指定テキストおよび配付資料を基にした上、教師が個々の作家と作品について、伝統と作家個人の独自性について説明する。特に、個々の作家の機微的な部分を具体的に提示し、吟味しながら理解を深める。単に著名な作家と作品リストの羅列としてではなく、生きた作家と、生きた時代から「生命」を与えられて誕生した作品として捉え、その生命的躍動の流れを追うことを主眼とする。

◆**学修到達目標** 1. 受講生が、「ペイオウルフ」から始まり18世紀前半に至る大きな流れの中で、伝統と作家個人の独自性および文学作品の独自性という観点から、個々の作家と作品について鑑賞し、理解することによって、英文学の全体像を把握し、英文学を学ぶ意義を理解し、それについて説明できる。2. 受講生自身が興味を持つ作家や作品が英文学史全体の中でどのような位置にあるかを理解し、それについて説明できる。3. 国際共通語としての英語の母語についての見解を深め、取得した知識と技能を運用して、中学校・高等学校における英語の授業で教鞭を取るとき、学習者が正確な発音、リズム、抑揚を身に付けるように配慮しながら指導するとともに、文学の楽しさ、英語の語法に親しむ基本的技能が取得できる。

◆**授業方法** ターン前半はテキストに沿いながら広く英文学の歴史の基本的知識を解説する。ターン後半は必要に応じて資料を提示して、個々の英文学作品の具体的な内容を部分的に鑑賞する。各授業の後半では、当該授業の主要テーマに関する「リアクティブ」の提出を求める場合がある。またその内容について後続の授業で、本人の許可を得た上で、一部公開し、疑問点などに具体的に応答するなど、フィードバックを行う場合がある。

◆**履修条件**

◆**授業計画 (各90分)**

回数	授業内容	事前学修 事後学修
1回	授業の進め方、オリエンテーション、英文学と英文学史の意義を説明し、その背景を解説する。導入を行う。たとえば、「アーサー王の死」において重要な役割を果たした魔剣エクスカリバーが、「ハリー・ポッター」作品に継承されていること、「楽園の喪失」最終場面のアダムとイブの姿が多くの恋愛作品や映画に継承されていることを明らかにして、「英文学史Ⅰ」で扱われる文学作品が現代のわれわれにいかほどの大きな影響を与えているかを理解してもらおう。	事前学修 事後学修
2回	授業内容	事前学修 事後学修
3回	授業内容	事前学修 事後学修
4回	授業内容	事前学修 事後学修
5回	授業内容	事前学修 事後学修
6回	授業内容	事前学修 事後学修
7回	授業内容	事前学修 事後学修
8回	授業内容	事前学修 事後学修
9回	授業内容	事前学修 事後学修
10回	授業内容	事前学修 事後学修
11回	授業内容	事前学修 事後学修
12回	授業内容	事前学修 事後学修
13回	授業内容	事前学修 事後学修
14回	授業内容	事前学修 事後学修
15回	授業内容	事前学修 事後学修

◆**教科書** 関西「映画で楽しむイギリスの歴史」吉田徹夫他 金星堂 2400 (税別)  
 ◆**参考書** 関西「英文学史」野呂有子 授業の進度や受講生の興味のある項目に従って、適宜授業担当教師が適切だと判断した資料を提示する  
 関西 新井明訳『楽園の喪失』、『楽園の回復』／翻訳社サムソン 大塚館書店  
 関西 新井明・野呂有子訳『イングリッシュランド国民のための第一弁論』、『聖学院大学出版会  
 関西』詩篇翻訳から『楽園の喪失』へ』野呂有子著 富山房インターナショナル

◆**成績評価基準** 授業参加意識の高さ (20%)、授業時に行うミニレポート (20%)、最終日に行う本試験 (受講生自身による書き下しみのみ) のみで評価。ミニレポートは、授業の三点を基にして総合的に評価する。ノートは授業終了直後に各自、通信教育部まで郵送することを義務づける。

◆**授業相談 (連絡先)** E-mail : yuko.kanakubo.noro@gmail.com 宛てに送付されたメールには、授業内容等についての質問に限り応答する。※参考書はあくまで参考書なので、購入する必要はない。しかし、教科書は授業時に指導教師と受講生が一緒に読みながら授業を進める上、内容をノートに転記してもらうので必ず購入しておくこと。

注意

# 講座内容（シラバス）

## 【英文法】

山岡 洋

- ◆**授業概要** 本講義では、英文法の中でも、特に「助動詞 (auxiliary verbs)」に焦点を当てて講義をすすめていく。ただ、助動詞と一言に言っても、狭い意味では、can, may, will などの法助動詞を指すが、広い意味では一般動詞の否定文や疑問文に用いられる do や、完了形・進行形・受動態に用いられる have や be も含まれる。本講義では、法 (mood)・法助動詞 (modal auxiliaries)・時制 (tense)・アスペクト (aspect)・完了形 (perfect)・進行形 (progressive)・態 (voice) を含めた、広い意味での助動詞の全体像を紹介していく。
- ◆**学修到達目標** 英文法全体における助動詞の位置付けを理解した上で、そもそも助動詞とはどのように定義付けられるものなのか、本動詞と助動詞の違いは何なのかを理解した上で、助動詞の中身として、法 (mood)・法助動詞 (modal auxiliaries)・時制 (tense)・アスペクト (aspect)・完了形 (perfect)・進行形 (progressive)・態 (voice) を含めた、広い意味での助動詞の実態を理解できるようにする。
- ◆**授業方法** この授業では、『新英文法概説』を教科書として用い、第5章第1節「動詞類」の内容を、メディア授業「英文法 MB」の第1章から第5章のコンテンツを利用して、助動詞の概略を理解してもらう。しかし試験はこの授業独自の試験を作成して助動詞の理解度を測るため、この授業と「英文法 MB」の単位は別のものとなる。
- ◆**履修条件**
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1回	授業内容: Course Introduction: What is a verb? 事前学修: 教科書 pp. 210-220 を読んでおく。 事後学修: 授業中にとったノートを、教科書 pp. 210-220 を見ながら再確認する。
2回	授業内容: 法 (mood)・直説法 (indicative mood) 事前学修: 教科書 pp. 228-31 を読んでおく。 事後学修: 授業中にとったノートを、教科書 pp. 228-31 を見ながら再確認する。
3回	授業内容: 仮定法 (subjunctive mood)・命令法 (imperative mood) 事前学修: 教科書 pp. 231-34 を読んでおく。 事後学修: 授業中にとったノートを、教科書 pp. 231-34 を見ながら再確認する。
4回	授業内容: 法助動詞 (modal auxiliaries) 事前学修: 教科書 pp. 235-37 を読んでおく。 事後学修: 授業中にとったノートを、教科書 pp. 235-37 を見ながら再確認する。
5回	授業内容: can, could [能力・可能] [許可] [可能性] 事前学修: 教科書 pp. 237-42 を読んでおく。 事後学修: 授業中にとったノートを、教科書 pp. 237-42 を見ながら再確認する。
6回	授業内容: may, might [許可] [可能性] [祈願] [目的節・譲歩節の中で]・must と have (to-inf.) [義務] [推量] 事前学修: 教科書 pp. 242-47 を読んでおく。 事後学修: 授業中にとったノートを、教科書 pp. 242-47 を見ながら再確認する。
7回	授業内容: その他 (need, dare, had better, ought, used) 事前学修: 教科書 pp. 247-52 を読んでおく。 事後学修: 授業中にとったノートを、教科書 pp. 247-52 を見ながら再確認する。
8回	授業内容: アスペクト (aspect) と時制 (tense) 事前学修: 教科書 pp. 252-54 を読んでおく。 事後学修: 授業中にとったノートを、教科書 pp. 252-54 を見ながら再確認する。
9回	授業内容: 未来を表す表現 (future expressions) 事前学修: 教科書 pp. 257-266 を読んでおく。 事後学修: 授業中にとったノートを、教科書 pp. 257-266 を見ながら再確認する。
10回	授業内容: 完了形 (perfect) 事前学修: 教科書 pp. 266-70 を読んでおく。 事後学修: 授業中にとったノートを、教科書 pp. 266-70 を見ながら再確認する。
11回	授業内容: 進行形 (progressive) 事前学修: 教科書 pp. 270-72 を読んでおく。 事後学修: 授業中にとったノートを、教科書 pp. 270-72 を見ながら再確認する。
12回	授業内容: 受動態 (passive voice) 事前学修: 教科書 pp. 272-77 を読んでおく。 事後学修: 授業中にとったノートを、教科書 pp. 270-72 を見ながら再確認する。
13回	授業内容: 理解度確認 事前学修: これまでの授業の内容を改めて見直し、特に英文分析を確認する。 事後学修: 試験に備えて、例文における英文分析を確認する。
14回	授業内容: 最終試験とその解説 事前学修: 前回の理解度確認を改めて読み直し、新たな英文で自分の理解度を再度確認する。 事後学修: 自分の試験の答案を確認し、教科書の該当箇所と照合する。
15回	授業内容: 最終試験の解説 事前学修: 自分の試験の答案を確認し、教科書の該当箇所と照合する。 事後学修: 授業内容を確認して、自分の単文の構造に関する理解が適切かどうかを再確認する。

- ◆**教科書** 丸沼 山岡洋 (2014) 『新英文法概説』 開拓社  
[当日資料配布] 当日配付資料なし
- ◆**参考書** 丸沼 江川泰一郎 (1991) 『英文法解説』 金子書房  
丸沼 綿貫陽・宮川幸久・須貝猛敏・高松尚弘・マークピーターセン (2001) 『ロイヤル英文法』 改訂新版 旺文社  
丸沼 中邑光男・山岡憲史・柏野健次 (2017) 『ジーニアス総合英語』 大修館  
丸沼 安井稔 (1996) 『英文法総覧』 改訂版 開拓社
- ◆**成績評価基準** 授業参加度: 20% (視聴回数など)  
最終試験: 80% (教科書・参考図書・ノート・電子辞書など、インターネット通信によるもの以外参照可)
- ◆**授業相談 (連絡先):** yamaokah@cbirin.ac.jp

注意

## 講座内容 (シラバス)

〔英作文Ⅱ〕 オープン受講：不可

アレックス ブラウン

- ◆**授業概要** This is a short, intensive writing course that requires students to work together in groups to generate ideas and edit student's essays. The teacher will review notes on the writing process and guide you through various writing activities such as grammar revision and persuasive writing techniques.
- ◆**学修到達目標** This course focuses on the writing process of a five-paragraph essay. It's a step by step process in which we'll build two essays that have a sound Introduction, Body and Conclusion. Students will work together in a work-shop like manner and will have the chance to explore writing narratives and comparative essays.
- ◆**授業方法** Students will work on developing ideas, arguments and opinions based on supporting sentences within a five-step process. Generating ideas in groups along with editing various pieces is an important part of the course.
- ◆**履修条件** This course is an introduction to academic writing. You will be responsible for writing individual essays, however, group work is an important part of the course.
- ◆**授業計画 (各 90 分)**

1回	授業内容: Prepare a written self-introduction. 事前学修: Orientation and writing survey. 事後学修: Read over the writing process.
2回	授業内容: Study the notes on topic sentences. 事前学修: Topic sentence activities. 事後学修: Research your topic for Essay 1.
3回	授業内容: Present your essay topic to the group. 事前学修: Brainstorm topic ideas. List ideas accordingly. 事後学修: Finish the activity on supporting sentences.
4回	授業内容: Prepare to present answers regarding supporting sentences. 事前学修: Paragraph construction. Follow the rules of the process. 事後学修: Complete the grammar editing exercise.
5回	授業内容: Prepare your answers for presentation in a small group. 事前学修: Finish the rough draft for Essay 1. 事後学修: Use the editing checklist and make corrections accordingly.
6回	授業内容: Prepare some comments and questions for your partner's essay. 事前学修: Essay analysis of students' essays. 事後学修: Prepare your final draft for submission.
7回	授業内容: Pass in Essay 1 at the beginning of class. 事前学修: Lecture on Compare and Contrast essays. 事後学修: Research ideas for Essay 2.
8回	授業内容: List 3 ideas for Essay 2. 事前学修: Brainstorm ideas for Essay 2 in groups. 事後学修: Complete your free writing activity.
9回	授業内容: Summarize your free-writing activity. 事前学修: Construct supporting ideas for your main points of Essay 2. 事後学修: Read through your paragraphs for Essay 2.
10回	授業内容: Present rough draft for Essay 2. 事前学修: Editing and Revision of Essay 2. Fill out your partner's checklist and comment sheet. 事後学修: Edit your essay with attention to grammar and sentence structure.
11回	授業内容: Prepare Essay 2 for submission. 事前学修: Fill out two grading forms for each essay. 事後学修: Review notes for plot-driven essays.
12回	授業内容: Explain the plot of your favorite story (movie or literary) . 事前学修: Unscramble the beginnings of three stories in a group. 事後学修: Complete your designated story.
13回	授業内容: Revise your designated story. 事前学修: Creation and presentation of dialogue. 事後学修: # minute writing activity for homework.
14回	授業内容: Prepare a discussion of the key points of your free-writing piece. 事前学修: Character-driven stories and character generation. 事後学修: Improve the focus of your three characters.
15回	授業内容: Present your characters in a group. 事前学修: Use your characters in a story board and work on their expansion. 事後学修: Thank you for your efforts in this course.

◆**教科書** 当日資料配布

◆**参考書** 当日資料配布

◆**成績評価基準** Students will be graded on two essays (60%). Strong consideration is placed on participation and group contributions (40%).

◆**授業相談 (連絡先)** : downtownalbrowna@hotmail.com

注意

# 講座内容（シラバス）

【英語音声学】 オープン受講：不可

森 晴代

◆**授業概要** 発声器官の説明から始めて、母音、子音については細かい音声現象の説明、日本語と英語の違い、英米の違いの理解の徹底及び発音練習を行います。プロソディでは語強勢と文強勢に触れ、総合的な発音練習を行います。最終目的は発音記号を正確に読める力をつけることです。辞典を引くとき発音記号を意識して見るようにしておきましょう。授業には必ず辞典を準備してください。

◆**学修到達目標** 1.日本語との違いを意識し、英語の発音の特徴及び発音記号を理解することができる。  
2.英語のスペルと発音のずれに意識を置き、正確な発音をすることができる。  
3.発音記号からスペルに変換することができる。

◆**授業方法** 動画による授業進行となります。一日に30～40分前後の動画を3本配信します。動画の終わりにリアクションペーパーの提出をお願いしています。授業を視聴したという証拠として必ず提出してください。授業内容は、母音、子音、語強勢、文強勢を扱います。事前に配布するプリントには専門用語が数多く出てくるので、前もって読んでおいてください。テキスト用プリントや練習問題はコピーして手元に置いた状態で、視聴してください。提出されたリアクションペーパーはこちらで成績を処理し、限定コメント欄でフィードバックいたします。

◆**履修条件** 令和元年度夏期スクーリング「英語音声学」（森晴代）とは積み重ね不可。

◆**授業計画**〔各90分〕

1回	授業内容：音声学とは？発声器官の名称説明 事前学修：音声学の学問領域について、参考書を読んで各自調べておくこと 事後学修：学問分野、発声器官の名称を覚えること
2回	授業内容：発音記号に慣れよう！（練習問題配布）及び解答、発音記号の見方 事前学修：発声器官のそれぞれの役割を見返しておくこと、発音記号を書けるようにしておくこと 事後学修：解答したプリントの発音記号を理解しておくこと
3回	授業内容：基本母音の説明、英語の母音の分類基準の説明 事前学修：基本母音について、参考書を各自調べておくこと 事後学修：基本母音について、整理しておくこと
4回	授業内容：前舌母音、後舌母音の説明及び発音練習 事前学修：前舌母音、後舌母音について、配布されたプリントを読んでおくこと 事後学修：前舌母音、後舌母音の発音練習をしておくこと、日本語との違いを意識すること
5回	授業内容：中舌母音、二重母音の説明及び発音練習 事前学修：中舌母音、二重母音について、配布されたプリントを読んでおくこと 事後学修：中舌母音、二重母音の発音練習をしておくこと。英語と日本語の二重母音に対する認識の違いを理解しておくこと。二重母音の発音記号が書けるようにしておくこと
6回	授業内容：母音、二重母音の演習問題配布及び解答 事前学修：英語の母音、二重母音の理論及び発音を理解しておくこと 事後学修：解答したプリントの復習をしておくこと
7回	授業内容：子音の分類基準の説明、閉鎖音の説明及び発音練習 事前学修：閉鎖音について、配布されたプリントを読んでおくこと 事後学修：閉鎖音の理論、日本語との違いの理解及び発音練習をしておくこと
8回	授業内容：摩擦音、破擦音の説明及び発音練習 事前学修：摩擦音、破擦音について、配布されたプリントを読んでおくこと 事後学修：摩擦音、破擦音の理論、日本語との違いの理解及び発音練習をしておくこと
9回	授業内容：鼻音の説明及び発音練習 事前学修：鼻音について、配布されたプリントを読んでおくこと 事後学修：鼻音の理論、日本語との違いの理解及び発音練習をしておくこと
10回	授業内容：流音、半母音の説明及び発音練習 事前学修：流音、半母音について、配布されたプリントを読んでおくこと 事後学修：流音、半母音の理論、日本語との違いの理解及び発音練習をしておくこと
11回	授業内容：子音連続の発音練習 事前学修：子音連続について、配布されたプリントを読んでおくこと 事後学修：英語の子音連続の発音練習をしておくこと、母語干渉を理解しておくこと
12回	授業内容：子音の演習問題配布及び解答 事前学修：英語と日本語の子音の違いを理解しておくこと 事後学修：解答したプリントの復習をしておくこと
13回	授業内容：語強勢、句強勢の説明、演習 事前学修：強勢、句強勢とは何か、配布されたプリントを読んでおくこと 事後学修：語強勢、句強勢を正確に理解できたか復習すること
14回	授業内容：文強勢の説明、演習 事前学修：文強勢とは何か、配布されたプリントを読んでおくこと 事後学修：文強勢規則、通常強勢、対比強勢について正確に理解できたか復習すること
15回	授業内容：レポート作成 提出 事前学修：レポートに備え、理論の総復習をしておくこと 事後学修：英語音声学における諸事象を理解できたか復習すること

◆**教科書** **事前資料送付** プリント使用

◆**参考書** 丸沼『英語の音声を科学する』新装版 CD付 川越いつえ著 大修館書店

◆**成績評価基準** 平常点（リアクションペーパー）⇒30%、課題プリント（Practice 1～4）⇒20%、レポート課題⇒50%

◆**授業相談（連絡先）**：Google classroomの限定コメントにて受けつけます

注意

# 講座内容（シラバス）

## 〔英米文学特殊講義〕

猪野 恵也

◆**授業概要** イギリス文学やアメリカ文学よりもあまり知られていないアイルランド文学にフォーカスを当てる。アイルランドにおいて英語で書かれた文学はアングロ・アイリッシュ文学と呼ばれるが、特に18世紀以降のアングロ・アイリッシュ文学の理解を目指す。日本においてあまりなじみがないアイルランド文学の入門的知識を学びながら、アイルランド文学はイギリス文学の補完的存在ではないということを知り、説明することができる。林景一著『アイルランドを知れば日本がわかる』を予め読んでおくこと。

◆**学修到達目標** ・アングロ・アイリッシュ文学とは何かを知り、説明することができる。・英語圏文学とは何か、考えられるようになる。

◆**授業方法** 主にプリントによる講義形式。学んだことを確認するためのリアクションペーパーに記入。授業計画は目安としたい。

◆**履修条件**

◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容：シラバスの確認、日本とアイルランド及びアイルランド史概観 事前学修：シラバスの確認、アイルランド史について調べておく 事後学修：アイルランド史を年表にまとめ、人物と出来事を理解する
2回	授業内容：アイルランド史概観の続き及び初期アイルランド文学について 事前学修：ゲール語について調べておく 事後学修：授業で読んだ作品を再読する
3回	授業内容：Jonathan Swift (1667-1754) を中心に 事前学修：文学史において Swift の生涯と作品を調べておく 事後学修：授業で読んだ作品を再読する
4回	授業内容：Maria Edgeworth (1767-1849) を中心に 事前学修：文学史において Maria Edgeworth の生涯と作品について調べておく 事後学修：授業で読んだ作品を再読する
5回	授業内容：アイルランド文芸復興の概観 事前学修：アイルランド文芸復興について調べておく 事後学修：アイルランド史との関係からアイルランド文芸復興運動についてまとめる
6回	授業内容：W.B.Yeats (1865-1939) を中心に 事前学修：文学史において W.B.Yeats の生涯と作品について調べておく 事後学修：授業で読んだ作品を再読する
7回	授業内容：John Millington Synge (1871-1909) を中心に 事前学修：文学史において John Millington Synge の生涯と作品について調べておく 事後学修：授業で読んだ作品を再読する
8回	授業内容：Oscar Wilde (1854-1900) について 事前学修：文学史において Oscar Wilde の生涯と作品について調べておく 事後学修：授業で読んだ作品を再読する
9回	授業内容：James Joyce (1882-1941) について 事前学修：文学史において James Joyce の生涯と作品について調べておく 事後学修：授業で読んだ作品を再読する
10回	授業内容：James Joyce の続き 事前学修：文学史において James Joyce の生涯と作品について調べておく 事後学修：授業で読んだ作品を再読する
11回	授業内容：Samuel Beckett (1906-89) について 事前学修：文学史において Samuel Beckett の生涯と作品について調べておく 事後学修：授業で読んだ作品を再読する
12回	授業内容：現代アイルランド文学 (John Banville を中心に) 事前学修：文学史において John Banville の作品について調べておく 事後学修：授業で扱った作品を再読する
13回	授業内容：現代アイルランド文学 (Seamus Heaney を中心に) 事前学修：Seamus Heaney について調べておく 事後学修：授業で読んだ作品を再読する
14回	授業内容：現代アイルランド文学 (John McGahern を中心に) 事前学修：John McGahern について調べておく 事後学修：授業で読んだ作品を再読する
15回	授業内容：現代アイルランド文学 (Frank McCourt を中心に) 事前学修：Frank McCourt について調べておく 事後学修：授業で扱った作品を再読する。映画「アンジェラの灰」を観る。

◆**教科書** 〔当日資料配布〕

◆**参考書**  
 〔汎用〕『アイルランド文学史』尾島庄太郎・鈴木弘 北星堂書店 1993年 3刷発行  
 〔汎用〕『アイルランド文学小史』シェイマス・ディーン 北山克彦・佐藤亭訳 国文社 2011年発行  
 〔汎用〕『異界へのまなざし アイルランド文学入門』山田久美子 鷹書房弓プレス 2005年発行  
 〔汎用〕『アイルランドを知れば日本がわかる』林景一 角川書店 2009年発行

◆**成績評価基準** 試験(70%)リアクションペーパー(30%)3日間のスクーリングなので皆出席を前提とします。

◆**授業相談(連絡先)**: ino0703@hotmail.co.jp (平日のみ受け付ける)

注意



# 講座内容（シラバス）

## 〔異文化間コミュニケーション概論〕

大庭 香江

- ◆**授業概要** 1. テキストで異文化間コミュニケーションについての解説を読み、例題を通して問題を掘り下げます。  
2. 英語論文を読み、異文化間コミュニケーションの実際について考察を行います。  
3. 日本とそれ以外の国についてディスカッションを行います。

- ◆**学修到達目標** 異文化間コミュニケーションとは文化的背景の異なる人同士のコミュニケーションですが、国籍の同じ日本人同士でも文化的背景が一緒であるとは限りません。出身地、男女、世代によっても文化的背景は異なります。私たちは日常的にも異文化間コミュニケーションを経験しているのです。  
本授業では、異文化間コミュニケーションについて述べられた英語論文や、エクササイズを通して、英語が使われている国や地域の文化を理解し、多様な文化的背景を持った人々との交流を通しての文化の多様性及び異文化交流の意義について考え、異文化間コミュニケーションの現状と課題を学び、実践していきます。  
また、SNSを利用した異文化交流を行い、日本大学に在籍している留学生と日本とそれ以外の国の文化についてのディスカッションする機会を設けます。  
テキストの解説と、アクティビティを行います。

- ◆**授業方法** テキストの内容の詳しい解説と、異文化間コミュニケーションのワークシートやアクティビティを行います。

- ◆**履修条件**

- ◆**授業計画（各 90 分）**

1回	授業内容: 異文化間コミュニケーションとは何かについての考察 事前学修: テキストを予習し、提起された問題について、考えをまとめておくこと 事後学修: 考察をレポートにまとめ、次回授業時のディスカッションの準備を行う
2回	授業内容: ミュニケーションの定義 事前学修: テキストを予習し、提起された問題について、考えをまとめておくこと 事後学修: 考察をレポートにまとめ、次回授業時のディスカッションの準備を行う
3回	授業内容: ステレオタイプ 事前学修: テキストを予習し、提起された問題について、考えをまとめておくこと 事後学修: 考察をレポートにまとめ、次回授業時のディスカッションの準備を行う
4回	授業内容: 言語コミュニケーション 事前学修: テキストを予習し、提起された問題について、考えをまとめておくこと 事後学修: 考察をレポートにまとめ、次回授業時のディスカッションの準備を行う
5回	授業内容: 非言語コミュニケーション 事前学修: テキストを予習し、提起された問題について、考えをまとめておくこと 事後学修: 考察をレポートにまとめ、次回授業時のディスカッションの準備を行う
6回	授業内容: ジェスチャー 事前学修: テキストを予習し、提起された問題について、考えをまとめておくこと 事後学修: 考察をレポートにまとめ、次回授業時のディスカッションの準備を行う
7回	授業内容: 時間の感覚 事前学修: テキストを予習し、提起された問題について、考えをまとめておくこと 事後学修: 考察をレポートにまとめ、次回授業時のディスカッションの準備を行う
8回	授業内容: 空間の感覚 事前学修: テキストを予習し、提起された問題について、考えをまとめておくこと 事後学修: 考察をレポートにまとめ、次回授業時のディスカッションの準備を行う
9回	授業内容: コミュニケーションスタイルとスキルの分析 事前学修: テキストを予習し、提起された問題について、考えをまとめておくこと 事後学修: 考察をレポートにまとめ、次回授業時のディスカッションの準備を行う
10回	授業内容: 双方向コミュニケーション 事前学修: テキストを予習し、提起された問題について、考えをまとめておくこと 事後学修: 考察をレポートにまとめ、次回授業時のディスカッションの準備を行う
11回	授業内容: アサーティブ・コミュニケーション 事前学修: テキストを予習し、提起された問題について、考えをまとめておくこと 事後学修: 考察をレポートにまとめ、次回授業時のディスカッションの準備を行う
12回	授業内容: 異文化間コミュニケーション・シミュレーションの実践 事前学修: テキストを予習し、提起された問題について、考えをまとめておくこと 事後学修: 考察をレポートにまとめ、次回授業時のディスカッションの準備を行う
13回	授業内容: 日本文化を紹介する：SNSを利用した異文化交流 事前学修: 日本文化を代表するものは何か、具体例を挙げ準備を行うこと 事後学修: 考察をレポートにまとめ、次回授業時のディスカッションの準備を行う
14回	授業内容: 日本とそれ以外の国における文化的行動規範の違いについて：日本大学に在籍している留学生とのディスカッション 事前学修: テキストを予習し、提起された問題について、考えをまとめておくこと 事後学修: 考察をレポートにまとめ、次回授業時のディスカッションの準備を行う
15回	授業内容: 英語圏の文化についての考察 まとめ、及び試験 事前学修: テキストを予習し、提起された問題について、考えをまとめておくこと 事後学修: 授業の内容を整理し、レポートにまとめる

- ◆**教科書** 『異文化コミュニケーション・ワークブック』八代京子著 三修社

- ◆**参考書**

- ◆**成績評価基準** 試験及びレポート 50%、授業参画度 50%

- ◆**授業相談（連絡先）:**

注意

# 講座内容 (シラバス)

## 〔英語学演習〕

田中 竹史

◆**授業概要** ヒトは誰でも母語を獲得することができますが、その獲得は特別な勉強や訓練なしに子供の頃にいつの間にか当たり前のようになされてしまいます。これは、たとえば計算の仕方や交通規則を身につけるためには勉強しなければならないということや、ピアノやバイオリンを弾いたりあるいは泳いだり車を運転したりするためには特別な訓練が必要になる、といったことは対照的です。また、通常大人が外国語を身につけるのには意識的な努力が必要であるということも対照的です。それでは、なぜ子供は特別な勉強や訓練をせずとも母語を身につけられるのでしょうか。なぜ大人は勉強や訓練なしには外国語を身につけることができないのでしょうか。そもそもヒトは一体どのような仕組みにより、極めて複雑で豊かな内容を持つ言語を身につけているのでしょうか。本講座では、上記のような事柄を通じて生物種としてのヒトの特徴について考えます。

◆**学修到達目標** 全ての生物種の中でヒト科ヒト属のみが持つと考えられている特殊な知識体系であることばに内在する性質、そして幼児による言語獲得の過程に触れることにより、ことばの分析方法や言語学・英語学の方法論を学ぶことを目標とします。

◆**授業方法** はじめにヒトのことばに関する基礎的知識(母語話者の持つ言語知識、言語獲得の過程、言語障害、類人猿などヒト以外の生物のコミュニケーション体系など)を講義形式により確認します。その後、テキストを題材に、受講者による担当部分の内容説明・質疑応答(その過程でアクティブラーニング、グループディスカッションなどを含みます)、教員による補足説明(その過程で課題に対するフィードバックを含みます)、という演習形式で授業を進めます。

◆**履修条件**

◆**授業計画 (各 90 分)**

1回	授業内容: 母語と外国語(1) 事前学修: 参考書に挙げられている大津(2004, 2008)を読んでおくこと。 事後学修: 授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。
2回	授業内容: 母語と外国語(2) 事前学修: 配布された資料をよく読んでおくこと。 事後学修: 授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。
3回	授業内容: 言語の研究(1) 事前学修: 配布された資料をよく読んでおくこと。 事後学修: 授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。
4回	授業内容: 言語の研究(2) 事前学修: 配布された資料をよく読んでおくこと。 事後学修: 授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。
5回	授業内容: ヒトの言語獲得(1) 事前学修: 配布された資料をよく読んでおくこと。 事後学修: 授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。
6回	授業内容: ヒトの言語獲得(2) 事前学修: 配布された資料をよく読んでおくこと。 事後学修: 授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。
7回	授業内容: Part III Transformational Syntax 事前学修: 配布された資料を読み、和訳をしておくこと。わからない語彙がある場合には、辞書で調べておくこと。 事後学修: 授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。難しいと感じた英文の解析を復習すること。
8回	授業内容: Introduction 事前学修: 配布された資料を読み、和訳をしておくこと。わからない語彙がある場合には、辞書で調べておくこと。 事後学修: 授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。難しいと感じた英文の解析を復習すること。
9回	授業内容: 16 A Transformation Generating Yes/No Questions 事前学修: 配布された資料を読み、和訳をしておくこと。わからない語彙がある場合には、辞書で調べておくこと。 事後学修: 授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。難しいと感じた英文の解析を復習すること。
10回	授業内容: Introduction, 1 Yes/No Questions 事前学修: 配布された資料を読み、和訳をしておくこと。わからない語彙がある場合には、辞書で調べておくこと。 事後学修: 授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。難しいと感じた英文の解析を復習すること。
11回	授業内容: 2 Affix-Hopping and Do-Support 事前学修: 配布された資料を読み、和訳をしておくこと。わからない語彙がある場合には、辞書で調べておくこと。 事後学修: 授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。難しいと感じた英文の解析を復習すること。
12回	授業内容: Conclusion 事前学修: 配布された資料を読み、和訳をしておくこと。わからない語彙がある場合には、辞書で調べておくこと。 事後学修: 授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。難しいと感じた英文の解析を復習すること。
13回	授業内容: 17 Children's Adherence to Structure Dependence 事前学修: 配布された資料を読み、和訳をしておくこと。わからない語彙がある場合には、辞書で調べておくこと。 事後学修: 授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。難しいと感じた英文の解析を復習すること。
14回	授業内容: 1 Structure Dependence and Yes/No Questions 事前学修: 配布された資料を読み、和訳をしておくこと。わからない語彙がある場合には、辞書で調べておくこと。 事後学修: 授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。難しいと感じた英文の解析を復習すること。
15回	授業内容: Conclusion 事前学修: 配布された資料を読み、和訳をしておくこと。わからない語彙がある場合には、辞書で調べておくこと。 事後学修: 授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。難しいと感じた英文の解析を復習すること。

◆**教科書** 丸沼『An Introduction to Linguistic Theory and Language Acquisition』Crain & Lillo-Martin Blackwell 1999年(該当箇所 pp.167-187 を配布します)

◆**参考書** 丸沼『探検!ことばの世界』大津 由紀雄著 ひつじ書房 2004年  
丸沼『ことばに魅せられて 対話編』大津 由紀雄著 ひつじ書房 2008年  
丸沼『ファンダメンタル英語学 改訂版』中島 平三著 ひつじ書房 2011年  
丸沼『英語学概説 N30700』通信教育教材(教材コード000567)

◆**成績評価基準** 毎回出席することを前提として、発表や質疑応答などの授業に対する取り組み(50%)と授業終了後に提出のレポート(50%)により総合的に評価します。

◆**授業相談(連絡先)**: tanaka.cont.english@gmail.com

**注意**

# 講座内容（シラバス）

## 〔哲学基礎講読〕

中澤 隆

◆**授業概要** 本授業は、文献の読み方、要約の方法を理解しながら、哲学者の文献を読む授業である。また、文献読解をふまえて自分の考えをまとめ、提示することも行う授業である。課題文献は、シモーヌ・ド・ボーヴォワール『第二の性』で、主に第2巻第1部第1章を講読する。

なお、分量のある文献を短期間で読むため、全体像が崩れない限りで、適宜割愛して読んでいく。省いた箇所は、それぞれ事後学習において目を通して欲しい。授業の進行具合によっては、授業回と講読する箇所がシラバスとはずれる場合がある。その場合は、授業において訂正し、事前事後学習については改めて指示する。

◆**学修到達目標** 本授業の目標は、文献の精読ができるようになること、要約ができるようになることである。また文献の内容を理解し、文献が提起する問題について自分でも考えることができるようになることも目標である。

◆**授業方法** 基本的に、次のような手順で授業を進めていく。まず、学生のみなさん一人一人に文献を音読していただく。一回の音読量は、基本的には1パラグラフである。次に、パラグラフの分析を行う。その次に、それぞれのパラグラフの分析を踏まえながら説明を加える。内容の要約をみなさんが作成し、文献の理解を深め、文献が提起する問題についてみなさん一人一人でも考えてもらう。

◆**履修条件**

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1回	授業内容 事前学修 事後学修	ガイダンスとして授業の方法、計画などを説明する。また、課題文献の著者の紹介を行う。 シラバスをよく読む。これまで、自分がどのような本をどのようなやり方で読んできたか、考えをまとめておく。ボーヴォワールについて検索しておく。 授業の内容を改めて把握する。興味があれば、映画『サルトルとボーヴォワール 哲学と愛』の視聴を行っても良い。
2回	授業内容 事前学修 事後学修	文献の精読と要約について（授業内でプリントを配布、使用） 要約とはなにかについて簡単に調べておく。 文献の精読の仕方、要約の仕方について理解する。
3回	授業内容 事前学修 事後学修	ボーヴォワールの思想の概要と、『第二の性』の哲学的な位置づけ、および『第二の性 I 事実と神話』を説明する。 『第二の性』という書物の概要について調べる。『第二の性 II 体験（上）』の目次に目を通す。 ボーヴォワールの思想の概要と、『第二の性』の哲学的な位置づけを説明できるようにする。
4回	授業内容 事前学修 事後学修	『第二の性 II 体験（上）』序文、第1部第1章（pp.12-16）を読む。 授業で取り上げる予定のページを特に読んでおく。 授業で取り上げた箇所をもう一度読み、要約したものを確認する。
5回	授業内容 事前学修 事後学修	『第二の性 II 体験（上）』第1部第1章（pp.16-29）を読む。 授業で取り上げる予定のページを特に読んでおく。 授業で取り上げた箇所をもう一度読み、要約したものを確認する。
6回	授業内容 事前学修 事後学修	『第二の性 II 体験（上）』第1部第1章（pp.29-46）を読む。 授業で取り上げる予定のページを特に読んでおく。 授業で取り上げた箇所をもう一度読み、要約したものを確認する。
7回	授業内容 事前学修 事後学修	『第二の性 II 体験（上）』第1部第1章（pp.46-54）を読む。 授業で取り上げる予定のページを特に読んでおく。 授業で取り上げた箇所をもう一度読み、要約したものを確認する。
8回	授業内容 事前学修 事後学修	『第二の性 II 体験（上）』第1部第1章（pp.55-66）を読む。 授業で取り上げる予定のページを特に読んでおく。 授業で取り上げた箇所をもう一度読み、要約したものを確認する。
9回	授業内容 事前学修 事後学修	『第二の性 II 体験（上）』第1部第1章（pp.66-79）を読む。 授業で取り上げる予定のページを特に読んでおく。 授業で取り上げた箇所をもう一度読み、要約したものを確認する。
10回	授業内容 事前学修 事後学修	『第二の性 II 体験（上）』第1部第1章（pp.79-91）を読む。 授業で取り上げる予定のページを特に読んでおく。 授業で取り上げた箇所をもう一度読み、要約したものを確認する。
11回	授業内容 事前学修 事後学修	『第二の性 II 体験（上）』第1部第1章（pp.91-104）を読む。 授業で取り上げる予定のページを特に読んでおく。 授業で取り上げた箇所をもう一度読み、要約したものを確認する。
12回	授業内容 事前学修 事後学修	『第二の性 II 体験（上）』第1部第1章（pp.104-113）を読む。 授業で取り上げる予定のページを特に読んでおく。 授業で取り上げた箇所をもう一度読み、要約したものを確認する。
13回	授業内容 事前学修 事後学修	『第二の性 II 体験（上）』第1部第1章（pp.113-124）を読む。 授業で取り上げる予定のページを特に読んでおく。 授業で取り上げた箇所をもう一度読み、要約したものを確認する。
14回	授業内容 事前学修 事後学修	『第二の性 II 体験（上）』序文、第1部第1章を振りかえる。 『第二の性 II 体験（上）』序文、第1部第1章（pp.12-124）を読み直す。 授業で取り上げた箇所をもう一度読み、要約したものを確認する。
15回	授業内容 事前学修 事後学修	授業内試験と解説 これまで読んできた教科書の箇所を読み直し、要約も読み直し、自分の考えをまとめる。 授業の続きとして、『第二の性 II 体験（上）』第2部第5章、『第二の性 II 体験（下）』を読む。また、身体や性差に関する、関心が持てそうな別の文献を読んでみる。

◆**教科書** **〔当日資料配布〕**

**〔事前資料送付〕**

事前に資料は配布するが、さらに前もって文献に目を通したい人は、ボーヴォワール（『第二の性』を原文で読みなす会 訳）『決定版 第二の性 II 体験（上）』新潮社、2001年の第1部第1章に目を通すこと。ただし、この本は現在絶版のため入手は難しいので、図書館などで探して欲しい。なお『第二の性』の邦訳書は他にもあるが、訳語や章立てなどに違いがあるので、なるべく記載の文献に目を通すこと。詳細は授業で説明する。

◆**参考書**

◆**成績評価基準** 授業への参加、貢献（50%）、各日の最後の時間に実施する授業内レポート（50%）により総合的に評価する。なお、毎回出席することを前提として評価する。

◆**授業相談（連絡先）**：授業終了後、教室で行う。

**注意**

# 講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔古文書学〕

渡邊 浩史

- ◆**授業概要** 歴史学において必要な広く史料論について講義した上で古文書の様式と機能について講義する。また古文書の写真や web 上で利用できる古文書を使用して古文書の機能の実際を学ぶ。
- ◆**学修到達目標** 古文書の様式や機能を理解する事で、古文書読解の基礎力を習得する。また、複数の文書がどのように機能するかも学び、卒業論文作成の基本的な能力を身につける。
- ◆**授業方法** 講義方式で行う。前半ではプリントを中心に講義する。後半ではテキストを指定するが、適宜 web 上で利用できる古文書のデジタルデータを利用する。
- ◆**授業計画**〔各 90 分〕

1 回	授業内容：はじめに 史料論 事前学修：事前にプリントの当該部分を読んでおくこと 事後学修：授業で学習したことを自分で整理しておくこと
2 回	授業内容：史料論 事前学修：事前にプリントの当該部分を読んでおくこと 事後学修：授業で学習したことを自分で整理しておくこと
3 回	授業内容：1. 古文書の様式(1)様式の分類 事前学修：事前にプリントの当該部分を読んでおくこと 事後学修：授業で学習したことを自分で整理しておくこと
4 回	授業内容：(2)公式様文書（詔書・勅旨を中心に） 事前学修：事前にプリントの当該部分を読んでおくこと 事後学修：授業で学習したことを自分で整理しておくこと
5 回	授業内容：(2)公式様文書（その他の公式様文書） 事前学修：事前にプリントの当該部分を読んでおくこと 事後学修：授業で学習したことを自分で整理しておくこと
6 回	授業内容：(3)公家様文書（官旨・官宣旨を中心に） 事前学修：事前にプリントの当該部分を読んでおくこと 事後学修：授業で学習したことを自分で整理しておくこと
7 回	授業内容：(3)公家様文書（御教書を中心に） 事前学修：事前にプリントの当該部分を読んでおくこと 事後学修：授業で学習したことを自分で整理しておくこと
8 回	授業内容：(4)武家様文書（下文を中心に） 事前学修：事前にプリントの当該部分を読んでおくこと 事後学修：授業で学習したことを自分で整理しておくこと
9 回	授業内容：(4)武家様文書（下知状を中心に） 事前学修：事前にプリントの当該部分を読んでおくこと 事後学修：授業で学習したことを自分で整理しておくこと
10 回	授業内容：(4)武家様文書（その他の武家様文書） 事前学修：事前にプリントの当該部分を読んでおくこと 事後学修：授業で学習したことを自分で整理しておくこと
11 回	授業内容：2. 古文書の実際 東寺百合文書に見る古文書の発給過程とその機能（矢野荘の悪党事件） 事前学修：事前にプリントの当該部分を読んでおくこと 事後学修：授業で学習したことを自分で整理しておくこと
12 回	授業内容：桜井家文書とは 事前学修：事前にテキストの当該部分を読んでおくこと 事後学修：授業で学習したことを自分で整理しておくこと
13 回	授業内容：桜井家文書の中世 事前学修：事前にテキストの当該部分を読んでおくこと 事後学修：授業で学習したことを自分で整理しておくこと
14 回	授業内容：桜井家文書の近世 事前学修：事前にテキストの当該部分を読んでおくこと 事後学修：授業で学習したことを自分で整理しておくこと
15 回	授業内容：まとめと試験 事前学修：1～14 回の内容をよく復習すること 事後学修：試験の内容を含めてよく復習し理解を深めること

- ◆**教科書** 〔図〕「桜井家文書－戦国武士がみた戦争と平和－」 神奈川県立歴史博物館コレクション展図録 神奈川県立博物館 2019 年  
〔事前資料送付〕プリント資料・史料
- ◆**参考書** 〔図〕「古文書学入門」 佐藤進一 法政大学出版会 2003 年  
「古文書入門ハンドブック」 飯倉晴武 吉川弘文館 1993 年
- ◆**成績評価基準** 平常点 20% 試験 80%

### 注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

# 講座内容（シラバス）

## 〔租税論〕

鵜藤 俊英

- ◆**授業概要** 日本の国家財政の収入源は、概ね税金である。国の財政状態の現状を把握・理解し、そこにある問題点を解決する方法を検討するのが、本講座の目的である。本講座では、税理士の実務経験を踏まえ、実際に施行されている租税制度を基に研究していく。初学者にも理解できるようにわかり易い補助教材・資料を用いて、具体的なテーマを設定の上、実社会でも問題とされている内容を基に授業を進めていくアクティブラーニング型講座である。
- ◆**学修到達目標** まず、日本の財政の現状が今後の国の在り方にどのように影響するのかを理解し、そこにある問題点を指摘・説明できる。次に、その問題点を解決するために必要と考えられる租税制度を提案し、その問題点を解決するために現行の租税制度をどのように改善すべきかを指摘できるようになる。さらに、あるべき租税制度を創案することができるようになる。
- ◆**授業方法** 各講義でのテーマについて、必要に応じて補助教材等を使用しながら解説する。各授業の最後に、そのテーマについてのリアクションペーパー（小論文等）を記述し、提出を求める。
- ◆**履修条件**
- ◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容：日本の財政状態の現状を把握する。 事前学修：ネットニュースなどで、事前に調べておくこと。 事後学修：当日配布資料で復習すること。
2回	授業内容：財政再建には何をすべきかを検討する。 事前学修：税金と国債について事前に調べておくこと。 事後学修：国債（借金）について再考すること。
3回	授業内容：税の基本的考え方（公平・中立・簡素）について説明する。 事前学修：身近な税金にはどんな税があるのかを事前に調べておくこと。 事後学修：「社会の会費」とは何を意味するのかを再考すること。
4回	授業内容：現在の日本の租税体系について説明する。 事前学修：所得税、消費税について事前に調べておくこと。 事後学修：予算編成が意味するところを再考すること。
5回	授業内容：財政民主主義（租税法律主義）について説明する。 事前学修：税金を国民が負担しているということの意味を事前に調べておくこと。 事後学修：誰がどうやって税負担を決めたのかを再考すること。
6回	授業内容：「パナマ文書」事件について説明する。 事前学修：ネットで「パナマ文書」を検索し、概要を調べておくこと。 事後学修：「パナマ文書」が抱える社会問題について再考すること。
7回	授業内容：租税回避行為について説明する。 事前学修：節税、脱税について事前に調べておくこと。 事後学修：脱税と租税回避行為の境界について再考すること。
8回	授業内容：格差が社会にもたらす影響について説明する。 事前学修：現実にある格差について事前に調べておくこと。 事後学修：不公平社会における課税の公平について再考すること。
9回	授業内容：低所得者に対する課税と「生活保護」について説明する。 事前学修：「生活保護」について事前に調べておくこと。 事後学修：課税最低限について再考すること。
10回	授業内容：少子高齢化社会について説明する。 事前学修：日本の未来について考えてみること。 事後学修：少子高齢化社会で担う「税」について再考すること。
11回	授業内容：「税と社会保障の一体改革」について説明する。 事前学修：政府が主張した説明を事前に調べておくこと。 事後学修：政府の取組（特に「税」）について再考すること。
12回	授業内容：社会保障制度（年金）を概観する。 事前学修：基礎年金と厚生年金について事前に調べておくこと。 事後学修：年金制度について再考するとともに、そこに充てられる税について再考すること。
13回	授業内容：社会保障制度（年金以外）を概観する。 事前学修：健康保険、介護保険、雇用保険について事前に調べておくこと。 事後学修：各種保険制度について、および税について再考すること。
14回	授業内容：理解度の確認。 事前学修：リアクションペーパーに記した自分の考えをまとめておくこと。 事後学修：再考すべき問題点を再確認し、まとめておくこと。
15回	授業内容：試験および解説。 事前学修：前回の授業後にまとめたものと、教科書とを読み比べておくこと。 事後学修：本講座で指摘した問題点を再確認すること。

- ◆**教科書** 丸沼『よくわかる税法入門 最新版』三木義一編著 有斐閣
- ◆**参考書** 特になし
- ◆**成績評価基準** 試験 70% 小論文 20% 授業参画度 10%
- ◆**授業相談（連絡先）**：初回授業時に案内する。

注意

# 講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔金融論〕

谷川 孝美

◆**授業概要** 金融取引が行われる場を金融市場と言います。また、金融取引では銀行などの金融機関が重要な役割を果たしています。この講義では、金融に関する基本的な知識、理論を学び、多様な金融市場、金融機関の機能を理解し、また、戦後日本の金融制度の変遷を知ることで、現代の金融問題を考える基礎を養うことを目的とします。

◆**学修到達目標** この講義では、わが国の金融制度を理解することを目指し、具体的には以下のことを目標とする。

1. 貨幣の定義、金利の決定などの基礎的な事柄を学び、説明できるようになる。
2. 情報の非対称性、エージェンシー理論などを理解し、銀行などの金融仲介機関を説明できるようになる。
3. 多様な金融市場を理解し、説明できるようになる。
4. 日本における戦後の金融制度の変遷を理解し、説明できるようになる。

◆**授業方法** 授業計画にそって、パワーポイントを利用した講義形式で行います。講義では、基本的な事柄を中心に、全体的かつ平易な解説をする予定です。授業計画を開講日数にあわせて分けますが、講義の進行状況によっては前後することもあります。また、理解度を確認するための小テストを実施する予定です。なお、この講義では中央銀行、金融政策は取り扱いません。

◆**履修条件** 令和元年東京スクーリング(10月期)『金融論』との積み重ね不可とはしませんが、同様の講義となります。

### ◆授業計画 (各90分)

回数	授業内容	授業の進め方・オリエンテーション・金融、金融市場とは何か
1回	事前学修: 事前配布資料、シラバスおよびテキストの「はじめに」をよく読んでおくこと。 事後学修: 授業内で用いられた専門用語や説明を確認し、理解すること。	
2回	事前学修: 事前配布資料およびテキスト第1章、第1、2節をよく読んでおくこと。 事後学修: 配布資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。	授業内容: 貨幣の歴史、貨幣の定義
3回	事前学修: テキスト第1章、第3節貨幣の定義をよく読み、確認しておくこと。 事後学修: 配布資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。また、講義時紹介する資料を確認すること。	授業内容: 貨幣供給と貨幣需要
4回	事前学修: テキスト第2章、第2、3節をよく読むこと。 事後学修: 配布資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。また、実際に金利計算をして理解を深めること。	授業内容: 金利の基本概念
5回	事前学修: テキスト第3章、第3、4節をよく読み、情報生産、フリーライド、重複問題を確認すること。 事後学修: 配布資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。	授業内容: 金融における情報の非対称問題 (情報生産、フリーライド、重複問題)
6回	事前学修: テキスト第6章、第2節をよく読むこと。 事後学修: 配布資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。また、講義時に紹介する資料を確認し理解を深めること。	授業内容: 資金循環から見た日本の金融制度の特徴
7回	事前学修: テキスト第7章、第1節銀行をよく読み、確認しておくこと。 事後学修: 配布資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。	授業内容: 銀行の機能と役割
8回	事前学修: テキスト第7章、第1節銀行をよく読むこと。また、第2回、第5回の講義内容を良く確認し理解しておくこと。 事後学修: 配布資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。また、実際に信用乗数を計算して理解を深めること。	授業内容: 信用創造とは何か
9回	事前学修: テキスト第5章、第1、2節をよく読むこと。 事後学修: 配布資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。また、講義時に紹介する資料を確認し理解を深めること。	授業内容: 日本の金融市場1 (インターバンク市場、短期金融市場)
10回	事前学修: テキスト第5章、第1、2節をよく読むこと。 事後学修: 配布資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。また、講義時に紹介する資料を確認し理解を深めること。	授業内容: 日本の金融市場2 (長期金融市場)
11回	事前学修: テキスト第5章、第1、2節をよく読むこと。 事後学修: 配布資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。また、講義時に紹介する資料を確認し理解を深めること。	授業内容: 日本の金融市場3 (金融派生商品市場、外国為替市場)
12回	事前学修: テキスト第6章、第3節日本の金融システムの歴史をよく読むこと。 事後学修: 配布資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。	授業内容: 金融制度の戦後史1 (競争制限的規制)
13回	事前学修: テキスト第6章、第3節日本の金融システムの歴史をよく読むこと。 事後学修: 配布資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。	授業内容: 金融制度の戦後史2 (金融の自由化、規制緩和、日本版ビッグバン)
14回	事前学修: 配布された資料を熟読し、内容を確認しておくこと。 事後学修: 配布資料やテキスト、参考書などで、講義内容をよく確認し理解すること。	授業内容: 理解度の確認
15回	事前学修: 前回の講義時に説明した内容を良く確認し理解しておくこと。 事後学修: 今回の授業内容を再確認し、理解を深めること。	授業内容: 試験および解説

### ◆教科書

【事前資料送付】  
【当日資料配布】 必要に応じてプリント配布予定  
【教材】『金融論 R31800』 通信教育教材 (教材コード 000540)

◆**参考書** 丸沼『ベーシックプラス 金融論 第2版』 家森信善 中央経済社 2018年  
丸沼『日本の金融制度 第3版』 鹿野嘉昭 東洋経済新報社 2013年  
講義時に適宜紹介します。

◆**成績評価基準** 毎回出席することを前提として、最終試験を中心に授業への取り組み、平常点などにより総合的に評価します。

### 注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談 (連絡先) に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

# 講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## (経済地理学 / 経済地理)

清水 和明

◆**授業概要** 経済地理学は、地表面上のあらゆる経済現象の地理的な広がりを対象とする学問である。本授業では、経済地理学の研究領域の中でも産業立地に関する領域を扱う。とくに、古典的な立地論を取り上げ、その特徴について理解を深めるとともに、現実世界への適用可能性について検討していく。また、特定の産業や地域を事例に、経済現象の地理的な差異が生じる要因について解説する。

◆**学修到達目標** 経済地理学の研究領域について理解を深め、その学問的な意義を専門用語を駆使して説明できるようになる。古典的な立地論の特徴について、自らの言葉で説明できるようになる。産業立地に関わる理論を応用して、現実の産業立地の要因を考察できるようになる。

◆**授業方法** 教科書の内容に基づいて、講義形式で進める。パソコンのプレゼンテーションソフトを利用する。随時、受講者に質問を行うとともに、理解度を確認するための小テストを実施する。

### ◆授業計画 (各 90 分)

1回	授業内容 経済地理学とはどのような学問か 授業の進め方を説明する。近代地理学の歴史を説明し、経済地理学が登場した背景を解説する。合わせて、各時代の経済地理学の潮流についても解説する。
事前学修	テキストを一読し、経済地理学が対象とする領域について大まかな知識を得ておくこと。
事後学修	授業の内容をノートに整理するとともに、配布資料を読み直し、経済地理学が対象とする領域を理解しておくこと。
2回	授業内容 農業立地の理論と実際(1)チューネンの農業立地論の概要 産業立地論の基礎をなすチューネンの農業立地論の概要について、「経済地帯」の概念を中心に解説する。
事前学修	テキストの該当箇所を読み、チューネンの農業立地論が登場する背景(特にヨーロッパ農業の展開過程)を把握しておくこと。
事後学修	テキストと配布資料を利用して、チューネンの農業立地論の特徴を整理しておくこと。
3回	授業内容 農業立地の理論と実際(2)チューネンの農業立地論の意義と応用 チューネンの農業立地論の学問的な意義について解説する。合わせて、現実の農業立地を理解するにあたっての有効性と限界についても説明する。
事前学修	前回の授業のノートを確認し、いわゆる「チューネン圏」の成立に関わる要点を整理しておくこと。
事後学修	テキストと配布資料を利用して、農業立地に関する理論の長所と短所を整理しておくこと。
4回	授業内容 農業立地の理論と実際(3)日本の農業の地域的な展開 第二次大戦後の日本農業がいかに展開してきたのか農業政策の変遷を踏まえて説明する。また、具体的な事例として、特定の農産物産地を取り上げ、近年の動向および課題を解説する。
事前学修	日本の農業に関する最近の動向について情報収集しておくこと。
事後学修	任意の農産物産地を対象に、その現状と課題を調べる。
5回	授業内容 農業立地の理論と実際(4)アグリビジネスと地域(小テスト含む) アグリビジネスの特徴について説明する。その上で、特定の企業の行動が地域に及ぼす影響を与えたのかを解説する。
事前学修	農業立地の理論および農産物産地に関する小テストを行う。
事後学修	「食」や「農」に関わる企業について情報収集しておくこと。任意のアグリビジネスを対象に、その地理的な展開を調べる。
6回	授業内容 工業立地の理論と実際(1)ウェーバーの工業立地論の概要とその意義 ウェーバーの工業立地論について、「輸送費指向論」、「労働費指向論」、「工業集積論」を中心に解説する。
事前学修	チューネンの農業立地論の概要を整理するとともに、農業と工業の違いを整理しておくこと。
事後学修	テキストと配布資料を利用して、ウェーバーの工業立地論の特徴を整理しておくこと。
7回	授業内容 工業立地の理論と実際(2)ウェーバーの工業立地論の適用事例 ウェーバーの工業立地論の現実への適用事例について解説する。
事前学修	前回の授業のノートを確認し、ウェーバーの工業立地論の特徴を整理しておくこと。
事後学修	テキストと配布資料を利用して、ウェーバーの工業立地論の長所と短所を整理しておくこと。
8回	授業内容 工業立地の理論と実際(3)日本の工業立地の変化 第二次大戦後の日本工業がいかに展開してきたのか、具体的な工業地域を事例に解説する。
事前学修	日本の主要な工業地域についてその位置および各地域の特徴的な部門を調べておくこと。
事後学修	テキストと配布資料を利用して、日本の主要な工業地域の特徴を整理しておくこと。
9回	授業内容 工業立地の理論と実際(4)企業内地域間分業構造の展開 企業内の分業構造について解説した上で、地域への影響を具体的な事例を交えて説明する。
事前学修	高度経済成長期を通じてみられた地域問題(都市・農村に関わる問題)について情報収集しておくこと。
事後学修	大企業の工場が進出した任意の地域を対象に、工場の進出によって生じた効果および問題を調べておくこと。
10回	授業内容 産業立地に関する理論と実際(5)立地調整と地域(小テスト含む) 企業が事業展開を行って行く上で行う施設・機能の新設または再編がいかなる理由の下で展開しているのか、具体的な事例を踏まえて解説する。
事前学修	工業立地に関する授業で取り上げた諸概念について整理しておくこと。
事後学修	任意の企業を対象に、1980年代から今日に至るまでの立地調整の展開を調べておくこと。
11回	授業内容 中心地の立地理論とその応用(1)クリスタラーの中心地理論の概要とその意義 中心地理論の概要について「財の到達範囲」の概念を中心に解説する。都市の立地や階層性についても解説する。
事前学修	テキストの該当箇所を読み、中心地理論に関わるキーワードを整理しておくこと。
事後学修	テキストと配布資料の内容を確認し、中心地理論の特徴を整理しておくこと。
12回	授業内容 中心地の立地理論とその応用(2)中心地理論に関する実証的研究 中心地理論が現実の経済活動を説明できることを小売業・サービス業を事例に解説する。
事前学修	中心地理論の重要なポイントをノートに要約しておくこと。
事後学修	任意の小売業・サービス業を対象に、店舗立地の特徴を調べておくこと。
13回	授業内容 オフィス立地の理論と実際 オフィス立地に関する理論について説明する。企業の本社立地が特定の地域に集中する理由について解説する。
事前学修	テキストの該当箇所を読んでおくこと。授業の終了が近いので、これまでの授業内容を再確認しておくこと。
事後学修	テキストと配布資料の内容を確認し、オフィス立地の特徴を整理しておくこと。
14回	授業内容 授業のまとめと理解度の確認 これまでの授業で扱った内容を熟読し、重要な点をノートに要約しておくこと。
事前学修	これまでの授業で扱った内容を熟読し、重要な点をノートに要約しておくこと。
事後学修	テキストと配布資料を利用して、授業で扱った内容を整理しておくこと。
15回	授業内容 試験および解説 これまでの授業で扱った内容を熟読し、重要な点をノートに要約しておくこと。
事前学修	これまでの授業で扱った内容を熟読し、重要な点をノートに要約しておくこと。
事後学修	授業の内容を確認し、理解し、経済地理学とはどのような学問か、再確認すること。

◆**教科書** 丸沼『新版 地域と産業—経済地理学の基礎—』富田和暁著 原書房 2006年

【当日資料配布】必要に応じて配布する。

◆**参考書** 丸沼『日本経済地理読本 第9版』竹内淳彦・小田宏信編著 東洋経済新報社 2014年

丸沼『新版 経済地理学入門—地域の経済発展—』山本健児著 原書房 2005年

丸沼『現代の立地論』松原宏編著 古今書院 2013年

丸沼『キーワードで読む経済地理学』経済地理学会編 原書房 2018年

丸沼『経済地理学キーコンセプト』青山裕子・ジェームズ・T・マーフィー・スーザン・ハンソン著 小田宏信・加藤秋人・遠藤真美子・小室謙訳 古今書院 2014年

◆**成績評価基準** 試験の結果(70%)、授業内を行う課題の結果(30%)。毎時間出席することを前提として評価する。

### 注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相殺(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

# 講座内容（シラバス）

## 〔簿記論Ⅰ〕

林 徳順

- ◆**授業概要** 簿記は「帳簿記入」の略語であります。企業の経済活動及びその結果について、企業の経理担当者は一定なルールに従って、種々の帳簿に記入し、それらの帳簿を基に計算書を作成して関係者に報告します。本講義では、①企業の経済活動及びその結果に関する記録ルールが学修でき、②報告に必要な主たる計算書の作成方法について理論的に学修できます。
- ◆**学修到達目標** 本講義の学修到達目標は、初心者が①簿記の基礎理論（簿記の種類、簿記上の取引、複式簿記の構造及びその一巡の手続き）について理解でき、②現金・預金、売掛金・買掛金、三分法による商品売買記録に関する具体的な簿記上の会計処理が理解できていることでもあります。受講生の理解度に応じて、授業進度を調整する場合があります。
- ◆**授業方法** 本講義では、教員がパワーポイントを利用しながら授業内容についてわかりやすく解説し、受講生の皆さんが授業内容に関する練習問題を解いていただきます。練習問題を解くとき、電卓が必要であります。受講生の理解度の考慮し、授業進捗度を調節する場合があります。積極的に授業に参加し、予習復習を取り組むことが必要です。毎回の授業中、小テスト実施し、翌日に前日授業中小テストについての振り返りを行います。
- ◆**履修条件** なし。
- ◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容：簿記の意義としくみ 事前学修：簿記の意義としくみ（テキストP1～P18）について予習し、専門用語の意味を調べておく。 事後学修：簿記の基礎、簿記要素等について練習問題を解きながら理解を深める。
2回	授業内容：仕訳と転記 事前学修：仕訳と転記（テキストP19～P36）について事前に学習する。 事後学修：仕訳と転記の方法について、テキストの該当箇所を熟読しながら理解を深める。
3回	授業内容：仕訳帳と元帳 事前学修：仕訳帳と総勘定元帳の関係等（テキストP37～P43）について事前に学習する。 事後学修：主要簿と補助簿に関するテキストの該当箇所を読みながら理解を深める。
4回	授業内容：決算(1)～試算表の作成～ 事前学修：試算表の作成（テキストP44～P51）について事前に学習する。 事後学修：試算表作成に関するテキストの該当箇所を読みながら理解を深める。
5回	授業内容：決算(2)～帳簿締切りと財務諸表の作成～ 事前学修：帳簿締切りと財務諸表の作成（テキストP51～P60）について事前に学習する。 事後学修：帳簿締切りと財務諸表の作成に関するテキストの該当箇所を読みながら理解を深める。
6回	授業内容：決算(3)～精算表の作成～ 事前学修：6桁精算表の作成等（テキストP60～P63）について事前に学習する。 事後学修：6桁精算表の作成等に関するテキストの該当箇所を読みながら理解を深める。
7回	授業内容：現金・預金の意義及びその簿記上の会計処理 事前学修：現金・預金の意義等（テキストP64～P70）について事前に学習する。 事後学修：現金・預金の意義等に関するテキストの該当箇所を読みながら理解を深める。
8回	授業内容：当座預金と当座借越、小口現金の会計処理 事前学修：当座預金等の会計処理（テキストP70～P83）について事前に学習する。 事後学修：当座預金等に関するテキストの該当箇所を読みながら理解を深める。
9回	授業内容：三分法による商品売買の会計処理 事前学修：商品売買の会計処理（テキストP84～P90）について事前に学習する。 事後学修：商品売買に関するテキストの該当箇所を読みながら理解を深める。
10回	授業内容：諸掛と返品に係る会計処理等 事前学修：諸掛と返品に係る会計処理等（テキストP90～P104）について事前に学習する。 事後学修：諸掛と返品等に関するテキストの該当箇所を読みながら理解を深める。
11回	授業内容：売掛金・買掛金の意義及びその簿記上の会計処理 事前学修：売掛金・買掛金の意義等（テキストP105～P120）について事前に学習する。 事後学修：売掛金・買掛金に関するテキストの該当箇所を読みながら理解を深める。
12回	授業内容：貸付金、借入金、未収入金、未払金、立替金、預り金に関する会計処理 事前学修：貸付金の意義等（テキストP121～P130）について事前に学習する。 事後学修：貸付金等に関するテキストの該当箇所を読みながら理解を深める。
13回	授業内容：仮払金、仮受金、受取商品券、差入保証金に関する会計処理 事前学修：仮払金等（テキストP130～P137）について事前に学習する。 事後学修：仮払金等に関するテキストの該当箇所を読みながら理解を深める。
14回	授業内容：受取手形と支払手形 事前学修：受取手形と支払手形（テキストP138～P148）について事前に学習する。 事後学修：受取手形と支払手形に関するテキストの該当箇所を読みながら理解を深める。
15回	授業内容：有形固定資産 事前学修：有形固定資産の意義等（テキストP149～P164）について事前に学習する。 事後学修：有形固定資産に関するテキストの該当箇所を読みながら理解を深める。

- ◆**教科書** 四国『検定簿記講義3級商業簿記〔2020年度版〕』渡部裕巨・片山寛・北村敬子、中央経済社、2020年。  
『検定簿記ワークブック〔3級/商業簿記〕』渡部裕巨・片山寛・北村敬子、中央経済社、2020年。
- ◆**参考書**
- ◆**成績評価基準** 授業中小テスト100%、毎回出席することを前提として成績評価します。
- ◆**授業相談（連絡先）**：初回の講義時に受講生に直接伝えます。

注意



# 講座内容（シラバス）

## 〔商法〕

金澤 大祐

◆**授業概要** 現代社会においては、多くの事業が株式会社形態で営まれており、会社経営を行う者のみならず、日常生活を営む上でも、株式会社の基本的な仕組みを知っていることが望まれる。そこで、本授業では、商法のうち、会社法について、株式会社を中心に、設立から、資金調達、機関、企業買収についての基礎的な事項を講義し、その際には、受講者が具体的なイメージを持ちやすいように、会社法が関係する具体的な事例について取り扱うこととする。  
本授業では、現役弁護士が、専門分野に関する実務経験を講義に反映させている。

◆**学修到達目標** 会社法上の基礎的な条文を六法で引くことができる。  
会社法上の基礎的な制度について、その概要や制度趣旨を説明することができる。  
会社法上の基礎的な判例について、事案、争点及び裁判所の判断について説明することができる。

◆**授業方法** 講義形式が基本であるため、予習と復習が必須であるが、漫然と講義を受講しても知識が定着しないため、講義内での質疑応答（人数が多い場合にはリアクションペーパー）及び小テストを実施することによって知識の定着を図る。

◆**履修条件** 民法を履修していることが望ましい。

### ◆授業計画（各 90 分）

1回	授業内容：株式会社の設立手続と会社の能力 事前学修：授業内容の該当箇所をテキスト又は事前配布資料で一読し、関係条文を六法で引くこと。 事後学修：授業で取り扱った具体的な事案について、理解しておくこと。
2回	授業内容：株主の地位と株主間の利害調整 事前学修：授業内容の該当箇所をテキスト又は事前配布資料で一読し、関係条文を六法で引くこと。 事後学修：授業で取り扱った具体的な事案について、理解しておくこと。
3回	授業内容：株式の内容と株式の流通 事前学修：授業内容の該当箇所をテキスト又は事前配布資料で一読し、関係条文を六法で引くこと。 事後学修：授業で取り扱った具体的な事案について、理解しておくこと。
4回	授業内容：会社の資金調達方法 事前学修：授業内容の該当箇所をテキスト又は事前配布資料で一読し、関係条文を六法で引くこと。 事後学修：授業で取り扱った具体的な事案について、理解しておくこと。
5回	授業内容：株主総会の意義と招集手続 事前学修：授業内容の該当箇所をテキスト又は事前配布資料で一読し、関係条文を六法で引くこと。 事後学修：授業で取り扱った具体的な事案について、理解しておくこと。
6回	授業内容：株主総会の運営 事前学修：授業内容の該当箇所をテキスト又は事前配布資料で一読し、関係条文を六法で引くこと。 事後学修：授業で取り扱った具体的な事案について、理解しておくこと。
7回	授業内容：株主総会決議の瑕疵 事前学修：授業内容の該当箇所をテキスト又は事前配布資料で一読し、関係条文を六法で引くこと。 事後学修：授業で取り扱った具体的な事案について、理解しておくこと。
8回	授業内容：取締役の選解任と取締役会 事前学修：授業内容の該当箇所をテキスト又は事前配布資料で一読し、関係条文を六法で引くこと。 事後学修：授業で取り扱った具体的な事案について、理解しておくこと。
9回	授業内容：取締役の義務、取締役の報酬 事前学修：授業内容の該当箇所をテキスト又は事前配布資料で一読し、関係条文を六法で引くこと。 事後学修：授業で取り扱った具体的な事案について、理解しておくこと。
10回	授業内容：企業会計と監査役、指名委員会等設置会社と監査等委員会設置会社 事前学修：授業内容の該当箇所をテキスト又は事前配布資料で一読し、関係条文を六法で引くこと。 事後学修：授業で取り扱った具体的な事案について、理解しておくこと。
11回	授業内容：役員等の対会社責任と対第三者責任 事前学修：授業内容の該当箇所をテキスト又は事前配布資料で一読し、関係条文を六法で引くこと。 事後学修：授業で取り扱った具体的な事案について、理解しておくこと。
12回	授業内容：組織再編の意義と手続 事前学修：授業内容の該当箇所をテキスト又は事前配布資料で一読し、関係条文を六法で引くこと。 事後学修：授業で取り扱った具体的な事案について、理解しておくこと。
13回	授業内容：組織再編における救済手段 事前学修：授業内容の該当箇所をテキスト又は事前配布資料で一読し、関係条文を六法で引くこと。 事後学修：授業で取り扱った具体的な事案について、理解しておくこと。
14回	授業内容：事業譲渡とキャッシュアウト 事前学修：授業内容の該当箇所をテキスト又は事前配布資料で一読し、関係条文を六法で引くこと。 事後学修：授業で取り扱った具体的な事案について、理解しておくこと。
15回	授業内容：総復習 事前学修：1回～14回までの講義内容を確認すること。 事後学修：解説を参考に十分に理解していなかった箇所について、復習すること。

◆**教科書** **〔当日資料配布〕** Google classroom 上にてレジュメを配信する予定である。

**〔丸沼〕** 最新版の六法

**〔丸沼〕** 酒巻俊之『会社法講義 令和元年改正対応版』（桜門書房、2019年）

◆**参考書** **〔丸沼〕** 岩原紳作ほか編『会社法判例百選〔第3版〕』（有斐閣、2016年）

**〔丸沼〕** 石山卓磨『現代会社法講義〔第3版〕』（成文堂、2016年）

◆**成績評価基準** 全5回の小テスト100%

◆**授業相談（連絡先）**：kanazawa.daisuke@nihon-u.ac.jp

注意

# 講座内容（シラバス）

〔現代教職論〕 オープン受講：不可

杉森 知也

◆**授業概要** 「教師の成長」をキーワードに、養成・採用・研修を通して見通すとともに、教職のもつ特性と課題を歴史的・国際的な視点を含めて把握する。さらに、学校・教師を巡る現代的な課題などに迫るとともに、採用段階および入職後に求められることに関することなど、講義を通して得られる知見を総合しながら自らの教職観を考える。以上のことを、高校での教員や学校関係者評価委員長等の経験を踏まえて授業内容に反映させる。

◆**学修到達目標** 1. 近年の学校・教員を巡る状況の変化（チーム学校を含む）について、国際的な動向を踏まえて説明することができる。  
2. 教職の意義、教員の役割と職務内容、研修、服務上・身分上の義務と身分保障、教職の専門性などについて総合的に理解し、それらを含めて求められる役割・資質能力について説明することができる。  
3. 講義内容とグループ・個人ワークを合わせて、教職の職業的特徴と自己の教職観を説明することができる。

◆**授業方法** PowerPointに音声を入れたmp4ファイル動画の視聴を基本とする。初日と二日目の16:30～17:30は、Zoomによる質問・相談を実施する（質問・相談がある場合のみ参加。参加の有無は、成績に反映しない）。指定教科書を読んで動画を視聴し、復習の上、確認テストや課題を提出してもらう。三日目は、Zoomによる説明と個人作業・グループ活動をおこなう。詳しくは、初回の授業時に指示する。

◆**履修条件**

◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容：ガイダンス：本講の説明＋教師との出会いを振り返る 事前学修：これまでに会った教師、受けた授業を振り返り、特徴的な点を洗い出して簡単なメモを作成する。 事後学修：「良い」教師、「良い」授業の要件」をノートにまとめておく。
2回	授業内容：教員の職務内容とその意義 事前学修：教科書第3章を読み、教員の職務内容についてノートに整理する。 事後学修：授業を振り返った上で、確認テストをおこなう。
3回	授業内容：教員の地位と身分①：教員の地位と身分保障 事前学修：教科書第5章1を読み、その内容についてノートに整理する。 事後学修：教育公務員の身分保障の意味と指摘されている問題について、自分の言葉で説明できるように準備する。課題を提出する。
4回	授業内容：教員の地位と身分②：教員の服務 事前学修：教科書第5章2,3を読み、その内容についてノートに整理し、扱われている法令の判例と解説を『解説教育六法』で調べる。 事後学修：地方公務員法第32条、第36条・教育公務員特例法第18条1について授業で扱った以外の事例を検索し、その判例の内容と時期的な背景を踏まえて授業で扱った判例と比較するレポートをまとめておく。授業を振り返った上で、確認テストをおこなう。
5回	授業内容：教員の地位と身分③：教員の待遇 事前学修：教科書第5章4,5を読み、その内容についてノートに整理する。 事後学修：授業を振り返った上で、確認テストをおこなう。
6回	授業内容：教員研修の意義と種類 事前学修：教科書第4章1,2と第6章を読み、その内容についてノートに整理する。 事後学修：自身の居住地にある教育センターと教職員支援機構のウェブを閲覧して、どのような研修が実施されているかノートにまとめる。授業を振り返った上で、確認テストをおこなう。
7回	授業内容：教員の免許制度①：日本の教員免許制度 事前学修：教科書第2章を読み、その内容についてノートに整理する。 事後学修：相当免許主義の例外措置の拡大について、その理由と問題性について人の言葉で説明できるように準備する。課題を提出する。
8回	授業内容：教員の免許制度②：世界の教員免許制度と日本の改革動向 事前学修：「教員養成6年制」がなぜ議論されたのかについてインターネット等で調べ、ノートにまとめる。 事後学修：教員免許が教員の質の維持・向上に寄与しているのか、また寄与するために必要な要件は何かについてまとめる。授業を振り返った上で、確認テストをおこなう。
9回	授業内容：教員のやりがいとバーンアウト 事前学修：教科書第7章1,2,3,5を読んで、その内容についてノートに整理する。 事後学修：「教員のやりがいとバーンアウトの関係」について、ノートにまとめる。授業を振り返った上で、確認テストをおこなう。
10回	授業内容：価値多様化社会の中の専門職 事前学修：「教員の権威」は低下しているかについて、自分なりの考えをメモとしてまとめる。 事後学修：「教員の権威性」を歴史的な視点でとらえ、その大きな変化のポイントをノートにまとめる。授業を振り返った上で、確認テストをおこなう。
11回	授業内容：新しい教師の力量 事前学修：教科書第4章4を読んで、その内容についてノートに整理し、質問事項をまとめる。 事後学修：授業を踏まえて、ノートを完成させる。授業を振り返った上で、確認テストをおこなう。
12回	授業内容：チーム学校、3日目のワークの説明 事前学修：出身小学校または中学校のホームページを閲覧し、チーム学校としてどのような活動をしているか調査し、その内容をノートにまとめる。 事後学修：現在の日本で「チーム学校」が必要とされている理由をノートにまとめる。
13回	授業内容：教職観ワーク① 事前学修：自らの授業観（教科を通して身に付けさせたいこと、そのために必要な具体的な方法）を考え、保護者に説明し理解を得られる程度にまでプレゼンテーションできるよう準備してくる。また、自身が赴任したいと考える自治体の教育委員会HPを閲覧して、当該自治体が求める教師像を調べる。 事後学修：自らの授業観（教科を通して身に付けさせたいこと、そのために必要な具体的な方法）を、事前学習で調べた教育委員会の求める教師像の一部にマッチングさせてみる。
14回	授業内容：養成・採用・研修の一体化②：教職観ワーク 事前学修：自らのクラス運営（担当クラスの1年を通しての成長期待と生徒・保護者への関わり方・指導・協力を要請する内容など具体的な方法）について、事前学習で調べた教育委員会の求める教師像の一部にマッチングさせてみる。 事後学修：自らのクラス運営方針を整理し、「学級新聞」（担任を持った初日に配布するものを想定）の案を考える。
15回	授業内容：「学級新聞」プレゼンテーション 事前学修：授業時に配布する「学級新聞」フォーマットを使用・または参考にして、（できれば手書きで→スキャン。スキャナーがない場合は、画像またはWordで作成も認める）学級新聞を作成する。保護者・生徒に理解してもらうことを意識して記述すること。 事後学修：授業でおこなったグループワークで指摘されたこと、他者のプレゼンテーションを見て共感できたことなどを踏まえて、再度、自身の教職観・教科指導観を見直し、それぞれについて90秒以内でプレゼンテーションできるようにしておくこと。また、学級新聞についても、それを踏まえて書き直すこと。

◆**教科書** 通称『現代教職論 T10100』通信教教材（教材コード000541）3,100円（送料込）＜この教材は市販の『現代教職論』羽田積男・関川悦雄編著（弘文堂）と同一です。＞

※**凡例**『解説教育六法 2020』解説教育六法編修委員会 三省堂

◆**参考書**

◆**成績評価基準** 授業後に実施する課題（40%）、同確認テスト（30%）、Zoomによる最終日の活動における積極的な姿勢と提出課題（30%）で総合的に評価する。

◆**授業相談（連絡先）**：初日・二日目はZoomで授業相談を実施する。最終日も、最後に相談の時間を設ける。

注意

# 講座内容 (シラバス)

## 〔社会科・地理歴史科教育法Ⅰ〕 オープン受講：不可

ト部 勝彦

◆**授業概要** 本授業は、文部科学省初等中等教育局での官職経験を踏まえ、中学校社会科及び高等学校地理歴史科における次期学習指導要領の諸内容と背後の学問分野との関係、および授業設計や学習評価などを説明する。

◆**学修到達目標** 本授業では次の1)～3)を到達目標としている。1)中学校社会科及び高等学校地理歴史科の学習指導要領の目標・内容を理解し説明できる。2)地理教育と関係する地理学をはじめとする学問分野を踏まえた教材研究ができる。3)地図などの地理的機能を駆使した授業の設計とその指導、学習評価などができる。

◆**授業方法** 本授業は、次期学習指導要領における地理教育の即戦力的な指導者養成を目的とした教科教育法の特徴を踏まえ、講義形式および情報機器活用やアクティブ・ラーニングでの模擬授業、地図実習も予定している。

◆**履修条件**

◆**授業計画 (各90分)**

1回	授業内容 事前学修 事後学修	中教審答申と学習指導要領改訂からみた中学校社会科・高等学校地理歴史科 文部科学省HPから次期学習指導要領のねらいを確認した上で、中学・高校の学習経験を振り返り、その相違点を発表できるようにしておくこと。 授業内容を振り返って整理し、今後の学修内容につなげること。
2回	授業内容 事前学修 事後学修	中学校社会科地理的分野における学習指導要領の内容A「世界と日本の地域構成」の特色と指導上の留意点～情報機器活用とアクティブ・ラーニングを取り入れた授業設計の検討【その1】～ 学習指導要領解説の当該箇所をよく読んで、中学校社会科地理的分野の現行教科書から具体的な教材イメージをつかんでおくこと。 授業内容を振り返って整理し、当該単元での適切な教材研究と指導法ができるようにしておくこと。
3回	授業内容 事前学修 事後学修	中学校社会科地理的分野における学習指導要領の内容B「世界の様々な地域」の特色と指導上の留意点～情報機器活用とアクティブ・ラーニングを取り入れた授業設計の検討【その2】～ 学習指導要領解説の当該箇所をよく読んで、中学校社会科地理的分野の現行教科書から具体的な教材イメージをつかんでおくこと。 授業内容を振り返って整理し、当該単元での適切な教材研究と指導法ができるようにしておくこと。
4回	授業内容 事前学修 事後学修	中学校社会科地理的分野における学習指導要領の内容C「日本の様々な地域」の特色と指導上の留意点～情報機器活用とアクティブ・ラーニングを取り入れた授業設計の検討【その3】～ 学習指導要領解説の当該箇所をよく読んで、中学校社会科地理的分野の現行教科書から具体的な教材イメージをつかんでおくこと。 授業内容を振り返って整理し、当該単元での適切な教材研究と指導法ができるようにしておくこと。
5回	授業内容 事前学修 事後学修	高等学校地理歴史科「地理総合」における学習指導要領の内容A「地図や地理情報システムで捉える現代世界」の特色と指導上の留意点～情報機器活用とアクティブ・ラーニングを取り入れた授業設計の検討【その4】～ 学習指導要領解説の当該箇所をよく読んで、高等学校地理歴史科「地理A」の現行教科書から具体的な教材イメージをつかんでおくこと。 授業内容を振り返って整理し、当該単元での適切な教材研究と指導法ができるようにしておくこと。
6回	授業内容 事前学修 事後学修	高等学校地理歴史科「地理総合」における学習指導要領の内容B「国際理解と国際協力」の特色と指導上の留意点～情報機器活用とアクティブ・ラーニングを取り入れた授業設計の検討【その5】～ 学習指導要領解説の当該箇所をよく読んで、高等学校地理歴史科「地理A」の現行教科書から具体的な教材イメージをつかんでおくこと。 授業内容を振り返って整理し、当該単元での適切な教材研究と指導法ができるようにしておくこと。
7回	授業内容 事前学修 事後学修	高等学校地理歴史科「地理総合」における学習指導要領の内容C「持続可能な地域づくりと私たち」の特色と指導上の留意点～情報機器活用とアクティブ・ラーニングを取り入れた授業設計の検討【その6】～ 学習指導要領解説の当該箇所をよく読んで、高等学校地理歴史科「地理A」の現行教科書から具体的な教材イメージをつかんでおくこと。 授業内容を振り返って整理し、当該単元での適切な教材研究と指導法ができるようにしておくこと。
8回	授業内容 事前学修 事後学修	高等学校地理歴史科「地理探究」における学習指導要領の内容A「現代世界の系統地理的考察」の特色と指導上の留意点～情報機器活用とアクティブ・ラーニングを取り入れた授業設計の検討【その7】～ 学習指導要領解説の当該箇所をよく読んで、高等学校地理歴史科「地理B」の現行教科書から具体的な教材イメージをつかんでおくこと。 授業内容を振り返って整理し、当該単元での適切な教材研究と指導法ができるようにしておくこと。
9回	授業内容 事前学修 事後学修	高等学校地理歴史科「地理探究」における学習指導要領の内容B「現代世界の地誌的考察」の特色と指導上の留意点～情報機器活用とアクティブ・ラーニングを取り入れた授業設計の検討【その8】～ 学習指導要領解説の当該箇所をよく読んで、高等学校地理歴史科「地理B」の現行教科書から具体的な教材イメージをつかんでおくこと。 授業内容を振り返って整理し、当該単元での適切な教材研究と指導法ができるようにしておくこと。
10回	授業内容 事前学修 事後学修	高等学校地理歴史科「地理探究」における学習指導要領の内容C「現代世界におけるこれからの日本の国土像」と指導上の留意点～情報機器活用とアクティブ・ラーニングを取り入れた授業設計の検討【その9】～ 学習指導要領解説の当該箇所をよく読んで、高等学校地理歴史科「地理B」の現行教科書から具体的な教材イメージをつかんでおくこと。 授業内容を振り返って整理し、当該単元での適切な教材研究と指導法ができるようにしておくこと。
11回	授業内容 事前学修 事後学修	中学校社会科地理的分野の学習指導案作成と模擬授業および学習評価～授業実践とその改善の模索【その1】～ 指定された単元1時間分の教材研究を徹底するとともに、各自が学習指導案を作成して模擬授業に備えておくこと。 授業内容を振り返って整理し、改善すべきポイントや課題の確認を行いながら今後の教育実習に備えておくこと。
12回	授業内容 事前学修 事後学修	高等学校地理歴史科「地理総合」の学習指導案作成と模擬授業および学習評価～授業実践とその改善の模索【その2】～ 指定された単元1時間分の教材研究を徹底するとともに、各自が学習指導案を作成して模擬授業に備えておくこと。 授業内容を振り返って整理し、改善すべきポイントや課題の確認を行いながら今後の教育実習に備えておくこと。
13回	授業内容 事前学修 事後学修	高等学校地理歴史科「地理探究」の学習指導案作成と模擬授業および学習評価～授業実践とその改善の模索【その3】～ 指定された単元1時間分の教材研究を徹底するとともに、各自が学習指導案を作成して模擬授業に備えておくこと。 授業内容を振り返って整理し、改善すべきポイントや課題の確認を行いながら今後の教育実習に備えておくこと。
14回	授業内容 事前学修 事後学修	近年における地理教育の動向～中学校の事例～ 指定された近年における地理教育のトピックについて予習しておくこと。 これまでの授業内容を振り返って整理し、新たなる中学校社会科地理的分野の教科教育の特色を再確認しておくこと。
15回	授業内容 事前学修 事後学修	近年における地理教育の動向～高等学校の事例～ 指定された近年における地理教育のトピックについて予習しておくこと。 これまでの授業内容を振り返って整理し、新たなる高等学校地理歴史科「地理総合」「地理探究」の教科教育の特色を再確認しておくこと。

◆**教科書** Ⅱ-1 『社会科・地理歴史科教育法Ⅰ T23600』 通信教育教材(教材コード000587/000589)  
(この教材は市販の『中学校学習指導要領解説社会編/高等学校学習指導要領解説地理歴史編』文部科学省(東洋館出版社)と同一です。)文部科学省のHPよりダウンロード可能です。

◆**参考書** Ⅱ-1 『文部科学省検定教科書 中学校社会科地図』 帝国書院編集部編(2018) 帝国書院  
Ⅱ-2 現行版の「中学校社会科地理的分野」の文部科学省検定教科書(出版社は任意)  
Ⅱ-3 現行版の高等学校「地理歴史科地理Aおよび地理B」の文部科学省検定教科書(出版社は任意)

◆**成績評価基準** 成績は授業内容の理解などを確認する小テスト、模擬授業に向けた学習指導案や地図実習の提出物、授業の参画度等をもとにして、総合的に評価する。

◆**授業相談(連絡先)**：初回授業時に指示する。

**注意**

# 講座内容 (シラバス)

## 〔社会科・地理歴史科教育法Ⅱ〕

宇内 一文

◆**授業概要** 中学校社会科及び高等学校地理歴史科の授業（とくに歴史）の実際について、最新の教育動向を踏まえて学んでいく。中学校・高等学校教員として、自分が授業を担当する際、どのように教材研究をするのか、また生徒に対してどの学習方法をもって授業を展開していくのかについて学習する。実践に必要な知識・指導方法・指導技術について、具体的な討議や様々なグループワーク、模擬授業などを通して身につけることを目標にする。

◆**学修到達目標** 1. 学習指導要領に示された中学校社会科及び高等学校地理歴史科の目標と内容を理解できる。  
2. 社会科・地理歴史科の背景となる学問領域との関係を理解し教材研究に活用できるとともに発展的な学習内容について探究し、それを学習指導に生かすことができる。  
3. 社会科・地理歴史科の基礎的な学習指導理論を理解するとともに、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につけている。  
4. 社会科・地理歴史科の実践研究の動向を知り、授業設計の向上に主体的に取り組むことができる。

◆**授業方法** 授業の2/3はオンラインにて実施し、社会科・地理歴史科における教育目標、育成を目指す資質・能力などの内容についての社会科教育原理を解説する。1/3は対面で実施し、社会科・地理歴史科の学習指導と授業設計の方法を修得し、主体的に取り組むことができるようになるために、受講者による模擬授業を行う。なお、模擬授業はグループによる20分程度を予定している。模擬授業の教科書には、『中学社会 歴史 未来をひらく』（教育出版、2019年）を指定する。

◆**履修条件**

◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容 事前学修 事後学修	社会科の学びが変わる：社会科・地理歴史科をめぐる現代的課題 指定した学習指導要領をよく読んでおくこと。 授業の内容をノートに整理し、授業にかかわる課題に取り組むことを通して、「社会科・地理歴史科をめぐる現代的課題」についての理解を深めていくこと。
2回	授業内容 事前学修 事後学修	社会科の目標：「公民的資質・能力」主体的に社会に参画する個人として必要な資質・能力の育成 前回の授業のノートと配布資料を確認し、指定した箇所をよく読んでおくこと。 授業の内容をノートに整理し、授業にかかわる課題に取り組むことを通して、「社会科の目標」についての理解を深めていくこと。
3回	授業内容 事前学修 事後学修	社会科の内容：「社会的な見方・考え方」を活用した社会科授業の構造化 前回の授業のノートと配布資料を確認し、指定した箇所をよく読んでおくこと。 授業の内容をノートに整理し、授業にかかわる課題に取り組むことを通して、「社会科の内容」についての理解を深めていくこと。
4回	授業内容 事前学修 事後学修	社会科の成り立ちとその歩み①戦後から1970年代半ばまで「経験主義から系統主義へ」 前回の授業のノートと配布資料を確認し、指定した箇所をよく読んでおくこと。 授業の内容をノートに整理し、授業にかかわる課題に取り組むことを通して、「戦後から1970年代半ばまでの社会科の変遷」について「経験主義から系統主義へ」をキーワードにして理解を深めていくこと。
5回	授業内容 事前学修 事後学修	社会科の成り立ちとその歩み②1970年代後半から現在まで「ゆとり・生きる力」 前回の授業のノートと配布資料を確認し、指定した箇所をよく読んでおくこと。 授業の内容をノートに整理し、授業にかかわる課題に取り組むことを通して、「1970年代後半から現在までの社会科の変遷」について「ゆとり・生きる力」をキーワードにして理解を深めていくこと。
6回	授業内容 事前学修 事後学修	社会科の教育課程：学習指導要領と社会科・地理歴史科のカリキュラム・マネジメント 前回の授業のノートと配布資料を確認し、指定した箇所をよく読んでおくこと。 授業の内容をノートに整理し、授業にかかわる課題に取り組むことを通して、「社会科の教育課程」について「カリキュラム・マネジメント」をキーワードにして理解を深めていくこと。
7回	授業内容 事前学修 事後学修	教科書はどのようにつくられているか：学習指導要領と教科書 前回の授業のノートと配布資料を確認し、指定した箇所をよく読んでおくこと。 授業の内容をノートに整理し、授業にかかわる課題に取り組むことを通して、「学習指導要領と教科書」についての理解を深めていくこと。
8回	授業内容 事前学修 事後学修	社会科の授業をどうやればいいのか（社会科の授業技術）：「どのように学ぶか」と「何ができるようにするか」、新聞・情報機器の活用仕方・掲示物等の作成 前回の授業のノートと配布資料を確認し、指定した箇所をよく読んでおくこと。 授業の内容をノートに整理し、授業にかかわる課題に取り組むことを通して、「社会科の授業技術」についての理解を深めていくこと。
9回	授業内容 事前学修 事後学修	社会科の学習指導と評価：「真正の学び」と「バックワード・デザイン」 前回の授業のノートと配布資料を確認し、指定した箇所をよく読んでおくこと。 授業の内容をノートに整理し、授業にかかわる課題に取り組むことを通して、「社会科の学習指導と評価」についての理解を深めていくこと。
10回	授業内容 事前学修 事後学修	授業をデザインしよう：アクティブな社会科授業づくりのための学習指導案の作成方法 前回の授業のノートと配布資料を確認し、指定した箇所をよく読んでおくこと。 授業の内容をノートに整理し、授業にかかわる課題に取り組むことを通して、「アクティブな社会科授業づくりのための学習指導案の作成方法」についての理解を深めていくこと。
11回	授業内容 事前学修 事後学修	歴史的分野（日本史）の教材研究・授業・実践例①近代以前（古代）の日本の歴史／学習指導案の作成 中学校社会科歴史的分野の目標③をねらいとした、「B 近世までの日本とアジア①古代までの日本 アー（イ）日本列島における国家形成」の内容に関係する授業計画を構想し、その第1時限目の【学習指導案】と【板書案】を作成すること。 PDCAサイクルにもとづく学習指導案および模擬授業のふり返り①
12回	授業内容 事前学修 事後学修	歴史的分野（日本史）の教材研究・授業・実践例②近現代の日本の歴史／模擬授業 中学校社会科歴史的分野の目標①をねらいとした、「C 近現代の日本と世界①近代の日本と世界 アー（カ）第二次世界大戦と人類への惨禍」の内容に関係する授業計画を構想し、その最終時限（まとめの1時間）の【学習指導案】と【板書案】を作成すること。 PDCAサイクルにもとづく学習指導案および模擬授業のふり返り②
13回	授業内容 事前学修 事後学修	歴史的分野（世界史）の教材研究・授業・実践例①近代以前の世界の歴史／学習指導案の作成 中学校社会科歴史的分野の目標②をねらいとした、「B 近世までの日本とアジア①古代までの日本 アー（ア）世界の古代文明や宗教のおこり」の内容に関係する授業計画を構想し、その第1時限目の【学習指導案】と【板書案】を作成すること。
14回	授業内容 事前学修 事後学修	PDCAサイクルにもとづく学習指導案および模擬授業のふり返り③ 歴史的分野（世界史）の教材研究・授業・実践例②近現代の世界の歴史／模擬授業 中学校社会科歴史的分野の目標③をねらいとした、「C 近現代の日本と世界①近代の日本と世界 アー（ア）欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動き」の内容に関係する授業計画を構想し、その最終時限（まとめの1時間）の【学習指導案】と【板書案】を作成すること。
15回	授業内容 事前学修 事後学修	PDCAサイクルにもとづく学習指導案および模擬授業のふり返り④ これからの社会科・地理歴史科について考える 前回の授業のノートと配布資料を確認し、指定した箇所をよく読んでおくこと。

◆**教科書** 教材『社会科・地理歴史科教育法Ⅱ』通信教育教材（教材コード●●●●●）

◆**参考書** 図説『中学社会 歴史 未来をひらく』深谷克己ほか 教育出版 平成31年（平成27年度検定済み、平成28年度採用）  
事前資料送付

『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編』東洋館出版 平成30年

『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 地理歴史編』東洋館出版 平成31年

◆**成績評価基準** オンライン授業の課題への取り組み（40%）、模擬授業及び学習指導案（40%）、期末レポート（30%）。これらを総合的に判断し、評価する。

◆**授業相談（連絡先）**：unai.kazufumi@nihon-u.ac.jp

注意

# 講座内容 (シラバス)

## 〔道德教育の理論と方法 / 道德教育の研究〕 オープン受講：不可

李 吉魯

◆**授業概要** この授業では、道德の意義や原理などを踏まえ、学校における道德教育の目標や内容を理解する。また、学校の教育活動全体を通じて行う道德教育及びその要となる道德科における指導計画や指導方法などを幅広く理解する。さらに、授業中に配布する資料や各種のデータ・映像などを用いて教育の問題に対する理解を深めるとともに、受講生どうしの「話し合い」を通じて、多様な考え方を共有する場としたい。

◆**学修到達目標** 1. 道德及び道德教育、道德性、道德科の指導、評価等の意義を理解し、学校教育の中でこれらが、どのように位置づけられているのかを説明できる。  
2. 学習指導要領に基づいて道德に関する諸概念の検討、道德教育の歴史的背景、道德教育の指導計画など、道德の授業実践に役立つ基本的な事項について知り、説明することができる。  
3. 学習指導案の作成を通して、教師としての求められる資質・能力を養うことができる。

◆**授業方法** 授業は同時双方向型と課題研究型を併用して行う。その際、オンライン配信は、Google Meetを用いて、リアルタイムで授業を進める。また、授業に関する受講生への対応（出席確認・質疑応答・設問回答・確認テスト等）については、Google Classroomを通じて行う（受講生同士の意見交換も同様）。これらの授業方法に対応できるように、主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）の手法を取り入れ、受講生の能動的な学習への参加を促す。なお、提出された課題に対しては、採点をし、点数を入力して受講生に「返却」するとともに、限定公開のコメントを通じてフィードバックを行う。

◆**履修条件** オンライン授業を行うにあたって、授業は原則、時間割に基づく授業時間を行う。その際、大学の学習支援システムより、Google Classroomのクラスコード及びGoogle Meetのリンク（URL）を入力して登録を済ませてください。また、授業関連の資料はGoogle Classroomよりダウンロードして事前に目を通してください。  
\*クラスコード（doodxsu）\*

### ◆授業計画〔各90分〕

1回	授業内容 事前学修 事後学修	道德とは何か 学校における道德教育の重要性、授業の課題や進め方、評価、教職の学習方法等について説明する。 シラバスに沿って授業の目的や内容、方法などについて確認しておくこと。 授業の復習。授業内容を要約し、重要だと理解した点をまとめておくこと。
2回	授業内容 事前学修 事後学修	道德教育の必要性 教育の役割を踏まえて、道德性とは何か、人間が道德性の涵養によって何ができるか、どう生きるべきかを考える。 道德と学校教育との関係について把握しておくこと。 授業の復習。道德性と人間性との関連性について整理しておくこと。
3回	授業内容 事前学修 事後学修	道德性の発達理論 ピアジェ（Piaget, Jean 1896-1980）とコールバーグ（Kohlberg, Lawrence 1927-1987）道德性発達理論等について学修する。 道德性の発達理論について、その意義と内容を把握しておくこと。 授業の復習。コールバーグと日本の道德教育との関係について整理しておくこと。
4回	授業内容 事前学修 事後学修	道德教育の指導計画と実践 教育基本法と学校教育法に基づく道德教育の役割を説明するとともに、道德教育の全体計画と年間指導計画等について学修する。 道德教育と関連する教育基本法と学校教育法の条文内容を把握しておくこと。 授業の復習。学校教育における道德教育の意義及び位置づけについて整理しておくこと。
5回	授業内容 事前学修 事後学修	戦前の道德教育 教育道德教育を担った「修身」が天皇制国家主義にもとづいた戦前の教育を根底から支えるに至った過程について学修する。 特設された「道德の時間」の内容を把握しておくこと。 授業の復習。天皇制公教育と修身との関係について理解しておくこと。
6回	授業内容 事前学修 事後学修	戦後の道德教育 「道德の時間」が特設された経緯や、道德教育を積極的に推進することをめぐる見解の対立等について学修する。 学習指導要領の変遷と道德教育の位置づけについて把握しておくこと。 授業の復習。道德教育の改革と「道德の時間」の設置との関連について整理しておくこと。
7回	授業内容 事前学修 事後学修	「道德の時間」から「特別の教科 道德」へ 道德教育は日本国憲法や教育基本法の理念に基づく新しいあり方が模索され、「道德の時間」から「特別の教科 道德」へと変更される。その背景と経緯、そして内容について学修する。 道德教育と関連する学習指導要領の改正点について把握しておくこと。 授業の復習。「特別の教科 道德」の意義について整理しておくこと。
8回	授業内容 事前学修 事後学修	道德科の学習指導案づくり① 学習指導案の構成と作成、その留意事項などについて学修する。 道德科の学習指導案の作成例について参考資料等をよく読んで、確認しておくこと。 授業の復習。道德科の学習指導案作成にあたって、その基本的な枠組みと要点を整理しておくこと。
9回	授業内容 事前学修 事後学修	道德科の学習指導案づくり② 道德科とは何をやる時間なのか、作成された学習指導案の見直し、指導方法の問題点などについて学修する。 道德科の指導方法と改善点について把握しておくこと。 授業の復習。道德科と他の教育活動との関連等について理解しておくこと。
10回	授業内容 事前学修 事後学修	道德科の評価のための具体的な工夫 ①道德科における評価の意義と基本的な考え方（数値による評価ではなく、記述式であること等）、②評価の方法（ポートフォリオ評価、パフォーマンス評価、エビソード評価等）。 道德授業改善の方向性について、一部改正の学習指導要領及び解説における評価の内容を確認しておくこと。 授業の復習。学校教育における道德科の位置づけについて整理しておくこと。
11回	授業内容 事前学修 事後学修	道德教育の実践① 模擬授業と検討会（グループによる発表及び質疑応答） どうしたら良い授業ができるかについて受講生同士で意見交換をすること。 授業の復習。模擬授業の感想及び評価について、自分なりにまとめておくこと。
12回	授業内容 事前学修 事後学修	道德教育の実践② 模擬授業と検討会（グループによる発表及び質疑応答） 前回の模擬授業の内容を確認し、学習指導案に目を通しておくこと。 授業の復習。模擬授業の感想及び評価について、自分なりにまとめておくこと。
13回	授業内容 事前学修 事後学修	道德教育の実践③ 模擬授業と検討会（グループによる発表及び質疑応答） 前回の模擬授業の内容を確認し、学習指導案に目を通しておくこと。 授業の復習。模擬授業の感想及び評価について、自分なりにまとめておくこと。
14回	授業内容 事前学修 事後学修	授業のまとめ 本当に「道德に答えはない」のか、教師はどのように道德教育をすべきか。これまでの学習内容を確認し、道德科の評価のあり方等を含む道德教育の具体的な授業改善の方向性について総括する。 配布資料や参考資料などを熟読し、該当する内容を事前に整理しておくこと。 授業の復習。要点項目として配布された資料などを、再確認し授業内容を整理しておくこと。
15回	授業内容 事前学修 事後学修	授業の振り返りと理解度チェック 授業全体の振り返りと学習内容について復習しておくこと。 学習の成果を見直し、教師はどのように道德教育をすべきかを、自分なりにまとめておくこと。

- ◆**教科書** 〔汎用〕『小学校学習指導要領解説 道德編』文部科学省 東洋館出版 2008年  
〔汎用〕『中学校学習指導要領解説 道德編』文部科学省 日本文教出版 2008年  
〔汎用〕『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説「特別の教科 道德編」』文部科学省 教育出版 2017年
- ◆**参考書** 〔汎用〕『道德教育の理論と方法 / 道德教育の研究 T21300 / T21400』通信教育教材（教材コード000543）  
この教材は市販の『道德教育の理論と方法』羽田精男・関川悦雄編 弘文堂（2016年）と同様。  
〔汎用〕『教科化された道德への向き合い方』碓井敏正著 かがわ出版 2017年  
〔汎用〕『考える道德教育「道德科」の授業づくり』笹田博通・山口匡・相澤伸幸編 福村出版 2018年  
〔汎用〕『私たちの道德 中学校』廣済堂あかつき 2014年

◆**成績評価基準** オンライン授業による総合的な評価  
①毎回の確認テスト、中間及び学期末テスト等（70%）  
②提出課題及び授業への参加度（30%）

◆**授業相談（連絡先）**：授業に関するお問い合わせ先  
メールアドレス1：cdgl20019@g.nihon-u.ac.jp（大学）  
メールアドレス2：onkochishin6@hotmail.com（個人）  
いつでもお気軽にご利用ください。

### 注意

# 講座内容（シラバス）

## 〔かな書法〕

山本 まり子

◆**授業概要** 書・文字に関する歴史的・文化的事項について理解を深める。芸術性のみならず、実社会・実生活において活かせる書についても学び、毛筆・硬筆による実践を通して書写力の向上を図る。  
中学校（国語科）の学習内容において「正しい」とされている字形・筆遣い等の確認を行った上で学校教育現場で「書写」を指導するために必要な基礎的知識・技能を学び、基礎固めを行う。

◆**学修到達目標** 1) 授業中取り上げる書・文字に関する歴史的・文化的事項、基礎知識の習得

① 文字・書体の誕生とその変遷

② 平安時代の名筆

2) 毛筆・硬筆による表現技術の習得

① 仮名のいわゆる単体・連綿

② 漢字

③ 漢字仮名交じり

3) 学校教育現場で「書写」を指導するために必要な基礎的知識、技能の習得

① 中学校の学習内容において「正しい」とされている字形・筆遣いについて

② 書きにくい（不安定な字形になりがちな）漢字について

◆**授業方法** 規範とされる書のいくつかを取り上げ、それを中心に講義・実践を行う。各自、指定の「提出作品」を制作する（「提出作品」の内容は担当者作成のプリントに記載）。課題の中には受講生自作の俳句の毛筆による作品化もある（自作俳句は原則、事前に＜開講前＞メールにて回収する）。画像・映像の鑑賞も行う。分析的、感覚的鑑賞を行い、受講生自らの言葉でそれについて説明・表現する時間も設ける。

◆**履修条件**

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容：ガイダンス 事前学修：資料 A「ガイダンスプリント」・資料 C No 25 に目を通す。 事後学修：資料 A「ガイダンスプリント」・資料 C No 25 再読
2 回	授業内容：文房四宝（筆・墨・硯・料紙）に関する基礎知識 事前学修：資料 A No 1 ①に目を通す。 事後学修：資料 A No 1 ①再読
3 回	授業内容：仮名の「単体」 事前学修：資料 A No 1 ②をもとに各自、毛筆による書写を行う。 事後学修：授業中、指摘した平安時代の書の特徴について復習を行う。
4 回	授業内容：仮名の「単体」。 事前学修：資料 A No 1 ②をもとに毛筆による書写を行う。 事後学修：授業中、指摘した平安時代の仮名の書の特徴についてノートに整理し、各自定着を図る。
5 回	授業内容：熨斗袋の表書き、資料 A No 8（当該内容は授業中、指示する）。 事前学修：資料 A No 3 を手本とし、毛筆による学習を行う。 事後学修：授業中指摘した個々の字形、筆遣いの特徴について言葉で説明できるようにノートに纏め、整理する。
6 回	授業内容：仮名の「連綿」 事前学修：資料 A No 2（両面 2 枚）に目を通し、字母の確認を行う。 事後学修：授業中の解説内容（「右寄法」「省略法」、それに伴う変体仮名の書き方）について確認を行う。
7 回	授業内容：和歌を書く（資料 A No 5）。 事前学修：資料 A No 5 の筆路について確認を行う。 事後学修：資料 A No 5 の筆路について復習を行い、要点をノートに纏める。
8 回	授業内容：資料 A No 5 の清書を行う。資料 A No 8：「正しい」字形・筆遣いについて考える。 事前学修：資料 A No 5 の筆路について再度復習を行う。資料 B No 18 に目を通す。 事後学修：資料 A No 5 の筆路についての復習、資料 A No 8 記載の「正しい」字形・筆遣いについての復習を行う。
9 回	授業内容：小テスト（20 分間）の実施。 事前学修：第 1 日目に予告する小テストに関する必要事項について確認を行う。 事後学修：授業中の指摘事項についてノートに纏める。
10 回	授業内容：「散らし書き」の基礎 事前学修：自作俳句を漢字仮名交じりで書す。 事後学修：漢字仮名交じりで書した自作俳句の散らし方について再検討を行う。
11 回	授業内容：漢字の書体の変遷 事前学修：資料 B No 11・14 に目を通す。 事後学修：授業中指摘した漢字の書体に関する基礎知識をノートに纏める。
12 回	授業内容：平安時代の古筆に見られる筆遣い、上下に位置する文字の関係について。 事前学修：資料 B No 17 裏に目を通す。その他、粘葉本和漢朗詠集に関する基礎知識を各自得ておく。 事後学修：映像の書を指摘事項を踏まえ、再度、毛筆にて表現する。
13 回	授業内容：映像の書を指摘事項を踏まえ、再度、毛筆にて表現する。 事前学修：資料 B No 13 に目を通す。 事後学修：資料 B No 13 の再読。主に「万葉仮名」「草仮名」「変体仮名」に関する説明事項を纏める。
14 回	授業内容：寸松庵色紙の鑑賞と臨書 事前学修：資料 A No 9、資料 B No 10・No 12 に目を通す。 事後学修：資料 A No 9、資料 B No 10・No 12 の再読、及び復習。
15 回	授業内容：寸松庵色紙に関する基礎知識、及び総括。 事前学修：再度、資料 A No 9 の筆路・作品構成、及び資料 B No 10・No 12 について復習を行う。 事後学修：資料 B No 10・No 12 の再読。

◆**教科書** **■事前資料送付** 事前にプリント送付（資料 A・B・C の束に分かれている）。  
書道用具一式、各自用意のこと。それが不可能な場合は事前送付資料記載のアドレス宛に期日までにメールにて相談のこと。

◆**参考書** 夙沼 名児耶明監修『別冊太陽』191（小学館）

◆**成績評価基準** 受講状況（授業中の課題への取り組み方・積極性等）50%、授業成果 30%、授業内テスト 20%

◆**授業相談（連絡先）**：事前送付資料に記載

**注意**

# 講座内容 (シラバス)

## 〔国語科教育法Ⅲ〕

野澤 拓夫

- ◆**授業概要** 新たな時代が要請する国語学力「思考力・判断力・表現力」の養成・伸長を目指した教育とはどのようなものなのかについて考え、理解する。また、その実現に必要な「よい授業」とそれを旨とした「よい指導案」づくりを、グループごとに検討する。具体的には、高校1年生対象の『国語総合』の教材により現代文・古文・漢文の各分野で、どのようにしたら学習者を主体とした授業が展開できるかをグループごとに検討し、模擬授業を通して確認・評価していく。
- ◆**学修到達目標** 具体的な教材に即した模擬授業を経験することにより、「よい指導案」を作成するための基本的な知識を得ることができ、さらに意識的・計画的に作成していく意味を体得することができる。また、グループごとに話し合い、検討し合っ意欲的な模擬授業を展開することを通して、確かな授業力を身に付ける準備ができる。模擬授業後に全体で展開例について議論・評価していく過程を通じて、全体でその成果物を共有することができる。
- ◆**授業方法** 初日の理論を基に2日目からグループごとに「よい指導案」づくりと「よい授業」の実現を目指し、協働してさまざまな検討を加え、意欲的な模擬授業を実践する。その具体的な展開例から全体で議論を重ね、指導案・指導法の適否についての考察・評価を行う。教育実践例 (DVD) を紹介し、これらについても分析・検討を行う。模擬授業・教育実践例とも個人に評価シートの提出を求める。

◆**履修条件**

◆**授業計画 (各 90 分)**

1回	授業内容 ガイダンスとして授業の進め方を説明する。グループを編成し、本シラバスに提示した現代文・古文・漢文の3分野8教材を用いた模擬授業の分担 (グループ・発表者) を決める。よい模擬授業の実現に向けて、「授業評価」の観点を参照しつつ、その条件について討議する。
事前学修	本シラバスに提示した現代文・古文・漢文の3分野8教材を読んでおくこと。また「よい授業」の条件には何が挙げられるかを考えておくこと。「評価」の意味について考えておくこと。
事後学修	討議内容を整理するとともに、授業内容と配布資料とを確認し、理解を深めておくこと。
2回	授業内容 教育実践例「言語活動を活かす読むことの授業」をDVDで紹介し、解説する。また、指導技術に関するプリントを配布し、「思考力・判断力・表現力を伸ばすための授業」とはどのような授業なのかについて検討する。
事前学修	「思考力・判断力・表現力」を伸ばすためには、何が必要かについて考えておくこと。
事後学修	授業内容と配布資料を確認し、国語科教育に求められている事項を理解しておくこと。
3回	授業内容 『国語科教育法Ⅲ』のテキストにより、国語科教育に求められている「国語学力」の内実について解説する。それをふまえて「学習指導要領解説」を参照しつつ、新しい時代に求められている学習者を主体とした国語科教育の内容、国語科教員が果たすべき役割について解説する。
事前学修	テキストと「学習指導要領解説」に目を通しておくこと。
事後学修	授業内容を確認し、整理して、国語科教員が果たすべき役割について理解を深めておくこと。
4回	授業内容 新しい時代が要請する能力と「2020年度以降の大学入試改革」との関わりについて解説し、併せてそれを受けてさまざまな教育機関がどのような動きをみせているかについても解説する。
事前学修	「2020年度以降の大学入試改革」について調べておくこと。
事後学修	授業内容を確認し、整理して、国語科教育を取り巻く環境についての理解を深めておくこと。
5回	授業内容 現代文・古文・漢文の授業それぞれの模擬授業展開上の留意点と、指導案作成上の注意点を説明し、質疑に答える。その後、グループごとに担当する教材の性格を分析し、模擬授業の準備に入る。配布された指導案のフォームを用いて、「よい指導案」づくりに取り組む。
事前学修	指導案を作成するうえでの留意点をインターネット等であらかじめ調べておくこと。
事後学修	授業内容をふまえて、各グループごとに担当する模擬授業の指導方法・授業形態について検討し、決定しておくこと。
6回	授業内容 現代文 評論「彼らがそれを学ばなければならない理由」(65～69頁)の模擬授業を演習形式で行い、その指導方法等の適否について、質疑と討論を重ねて考察・評価する。
事前学修	当該教材を読んで、適切と思われる指導方法を考え、授業プランを立てておくこと。
事後学修	当該教材による模擬授業を担当するグループについては、発表者を中心に協働して教材のジャンルや性格に適した指導方法・授業形態を選択し、意欲的な授業プランを立てること。それに基づいた学習指導案を作成し、必要に応じてワークシートなども用意すること。授業内容を確認し、評論教材の扱い方について整理し、教育現場で求められる指導力について把握しておくこと。※模擬授業を担当したグループについては、授業内容をふまえて、ふりかえりを行い、その成果を共有しておくこと。
7回	授業内容 古文 伊勢物語「さらぬ別れ」(290頁)の模擬授業を演習形式で行い、その指導方法等の適否について、質疑と討論を重ねて考察・評価する。
事前学修	当該教材を読んで、古文・物語という性格をふまえた授業プランを立てておくこと。
事後学修	授業内容を確認し、古文教材の扱い方について整理し、自らの授業プランを評価しておくこと。
8回	授業内容 漢文 唐詩「登鶴鸛樓・春望」(320～325頁)の模擬授業を演習形式で行い、その指導方法等の適否について、質疑と討論を重ねて考察・評価する。
事前学修	当該教材を読んで、漢詩という教材の性格をふまえた授業プランを立てておくこと。
事後学修	授業内容を確認し、漢文教材の扱い方を整理し、自らの授業プランを評価しておくこと。
9回	授業内容 現代文 随筆「赤毛のアン」との出会い」(16～21頁)の模擬授業を演習形式で行い、その指導方法等の適否について、質疑と討論を重ねて考察・評価する。
事前学修	当該教材を読んで、随筆という性格をふまえた授業プランを立てておくこと。
事後学修	授業内容を確認し、随筆教材の扱い方を整理し、自らの授業プランを評価しておくこと。
10回	授業内容 古文 俳諧紀行文・奥の細道「平泉」(279～280頁)の模擬授業を演習形式で行い、その指導方法等の適否について、質疑と討論を重ねて考察・評価する。
事前学修	当該教材を読んで、前の古文で学んだ留意点を活かした授業プランを立てておくこと。
事後学修	授業内容を確認し、事前学習で立てた授業プランが当を得ていたかを評価しておくこと。
11回	授業内容 古文 随筆・徒然草「仁和寺にある法師」(246～247頁)の模擬授業を演習形式で行い、その指導方法等の適否について、質疑と討論を重ねて考察・評価する。
事前学修	当該教材を読んで、古文・随筆という性格をふまえた授業プランを立てておくこと。
事後学修	授業内容を確認し、事前学習で立てた授業プランが当を得ていたかを評価しておくこと。
12回	授業内容 漢文 史伝「管鮑の交わり」(312～313頁)の模擬授業を演習形式で行い、その指導方法等の適否について、質疑と討論を重ねて考察・評価する。
事前学修	当該教材を読んで、前の漢文で学んだ留意点を活かした授業プランを立てておくこと。
事後学修	授業内容を確認し、事前学習で立てた授業プランが当を得ていたかを評価しておくこと。
13回	授業内容 現代文 小説「デューク」(29～39頁)の模擬授業を演習形式で行い、その指導方法等の適否について、質疑と討論を重ねて考察・評価する。
事前学修	当該教材を読んで、小説という教材の性格をふまえた授業プランを立てておくこと。
事後学修	授業内容を確認し、小説の扱い方について整理し、自らの授業プランを評価しておくこと。
14回	授業内容 教育実践例として、アクティブ・ラーニングを用いた2例 (作文と漢字)の「学習ゲーム」をDVDで紹介し、その教育的な意図と効果について分析・検討する。
事前学修	アクティブ・ラーニングについて調べておくこと。
事後学修	授業内容を確認し、アクティブ・ラーニングをどのようにしたら、授業に取り入れられるのかについて考えておくこと。
15回	授業内容 試験
事前学修	14回の授業のふりかえりを行い、試験のための準備をしておくこと。
事後学修	試験問題 (課題) について、正しい理解と適切な解答ができたかを確認すること。

◆**教科書**

『中学校 高等学校 国語科教育法』 益地憲一編著 (建邦社)  
 『新編 国語総合』 高校1年教科書 (教育出版) 17 教出 国総 343  
 『中学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 国語編』 (文部科学省)  
 『高等学校学習指導要領 (平成 30 年告示) 解説 国語編』 (文部科学省)  
 国語・古語・漢和の各辞書  
 『国語科 重要用語事典』 高木まさき他 (明治図書)

◆**参考書**

◆**成績評価基準**

◆**授業相談 (連絡先) :**

**注意**

# 講座内容（シラバス）

## 〔博物館情報・メディア論〕

小林 克

◆**授業概要** 博物館は膨大な知識・資料の集積所である。博物館における情報の意義と活用方法を理解し、収蔵品のデジタル化の方法とメディアへの保存、デジタル化した情報の発信と保守について理解する。著作権法等の内容と意義を理解し、収蔵資料のデータベース化を行うことで応用を図り、調査研究・情報管理・公開についての知識の習得を目指す。

◆**学習到達目標** (1)博物館における情報・視聴覚資料提供の基本的考え方と、用いられる情報機器の概要について説明できる。  
(2)博物館の情報の提供と活用に関する基礎的能力を得る。

◆**授業方法** 実際に博物館で配布されている案内やホームページなどで公開・発信されている情報をもとにして、①博物館における情報・メディアの意義とその理論、②博物館における情報公開と発信、③博物館と知的財産の3項目について考え、学習目標の理解を深めます。また公開・発信されている情報を実際に確認して体験するために都内の博物館の見学（2日目午後）とその検討会（3日目午前）を予定しています。

◆**履修条件**

◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容 事前学修 事後学修	現代の生活と映像・音声メディア 現代の暮らしの中では、建物の内外を問わず交通機関の内部でも音楽・映像として情報が溢れている。これらの観点に立ち、博物館情報・メディア論の授業の進め方について説明する。 シラバスの内容を確認しておく。 身近にある様々なメディアを意識し、記録化する。
2回	授業内容 事前学修 事後学修	情報とは何か 氾濫する情報のなかで、情報の混濁が起きている。必要情報とは何かを考える。 自分自身の情報の取り方について、説明できるようにしておく。 不要な情報について考え発表できるようにする。
3回	授業内容 事前学修 事後学修	博物館と情報 大局的に見れば博物館そのものが一種のメディアである。博物館での一次資料と二次資料について考え、資料のドキュメンテーションとは何か理解し、博物館における情報の意義について学ぶ。 一次資料と二次資料、ドキュメンテーションについて調べておく。 それぞれの収蔵先は何処か考える。
4回	授業内容 事前学修 事後学修	アナログ記録とデジタル記録 各種メディアにおけるアナログ記録とデジタル記録との基本的な違いを理解する。 アナログ記録再生装置について、どのようなものがあるか調べしておく。 講義中で解説する各種メディアの違いについて、一覧表の作成を行う。
5回	授業内容 事前学修 事後学修	資料のデータベース化と応用 コンピュータを用いたデータベースの管理システムの紹介と、画像を含むデータベースの意義について学ぶ。 インターネットで見られる画像データベースに触れてみる。 データベース化された情報の応用例を考える。
6回	授業内容 事前学修 事後学修	情報提供と広報活動 博物館活動の中で、どのように情報発信し、特に広報活動として情報発信を行うのか示す。 インターネットや新聞雑誌から受け取る博物館情報の相違について考える。 メディアの特性について理解する。
7回	授業内容 事前学修 事後学修	開かれた博物館 発信される博物館情報 グローバルネットワークと博物館から発信される教育・普及情報について学ぶ。新型コロナウイルス禍に伴った、「おうちでミュージアム」等の活動や展示の動画配信についてその必要性和効果について学ぶ。 博物館から発信されるチラシやHP等様々な媒体を見ておくこと。「おうちでミュージアム」等の活動や展示の動画配信について、実際にインターネットで確認しておく。 配布資料を基に授業内容を復習・確認する。
8回	授業内容 事前学修 事後学修	デジタルアーカイブとデジタルミュージアム 博物館で新たに試みられた、情報提供方法と教育効果について学ぶ。 デジタルミュージアム、デジタルアーカイブについて調べておく。 デジタル技術を生かした新しい展示法を考えてみる。
9回	授業内容 事前学修 事後学修	インターネットと情報端末の利用 博物館でのインターネット利用の実態と、情報発信としてのSNS等の利用や問題点等を明らかにする。その上でスマートフォン等の情報端末の展示・教育普及等の利用について確認する。10回～12回（翌日）の博物館見学のポイントについて確認する。 最新のスマートフォン等を利用した展示や展示情報発信等についてネットで検索し確認する。 実際にスマートフォン等を活用した展示情報の獲得を行う。
10回	授業内容 事前学修 事後学修	博物館見学① 実際に博物館で公開・発信されている情報を視察する。見学する博物館は各自で選ぶが、原則は都道府県立の博物館（美術館）とし、大規模な市立等も可とする。判断に迷う場合は、前日までに小林までメールを送り確認すること。 事前に見学する博物館について、HP等から情報を得ておく。 見学内容のメモを再確認する。
11回	授業内容 事前学修 事後学修	博物館見学② 博物館展示室でのメディア活用 展示室や教育普及活動等で情報メディアが如何に活用されているか理解する。理解するのに必要なチラシ等の配布物を集める。 展示室での情報を自分はどうに得ていたか確認しておく。 博物館展示について、入館者の立場で触れてみることで流れを理解する。
12回	授業内容 事前学修 事後学修	博物館見学③ 実際に博物館で公開・発信されている情報を見学し、内容を再確認し、レポートを作成する。その際は、情報に対する具体的アクセス方法や内容を明示し、その評価も記入すること。 博物館見学の内容を整理しておく。 レポートの加筆・校正を行う。
13回	授業内容 事前学修 事後学修	ZOOM 授業。博物館活動の情報化 博物館における調査研究活動や、展示・教育普及活動の情報化について、前日の見学の内容について意見を述べる。その為、ZOOM又はMEETを用いた授業とする予定。 レポート内容の確認と疑問点、感想を発表出来るように纏めておく。 他人の意見を再確認し、評価する。
14回	授業内容 事前学修 事後学修	博物館運営と情報メディア利用の実際 前日の見学について、意見交換を元として、纏めて講義を行う。 意見交換の内容を再確認する。 講義内容ノートを再確認する。
15回	授業内容 事前学修 事後学修	授業内テストおよび総括 授業の総括と質疑応答。 今までの授業内容を再確認する。 事後学修 全体的な流れと体系を理解する。

◆**教科書** 西岡『博物館情報・メディア論』西岡貞一・篠田謙一 一般財団法人放送大学教育振興会

◆**参考書**

◆**成績評価基準** レポート（20%）、授業参画度（発表や発言、受講態度等 20%）、テスト（60%）により総合的に評価。毎回の出席を前提として評価します。

◆**授業相談（連絡先）**：初回授業時に案内します。

注意



# 講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔政治学〕

関根 二三夫

- ◆**授業概要** 基礎教育としての講義を行います。政治学の変遷、政治の概念や本質、政治権力、国家と国家機関、議会政治、立法部と行政部、大統領拒否権や議会拒否権など、主に政治に関する思想的側面や制度面について学びます。
- ◆**学修到達目標** 議会や大統領もしくは内閣の動きを見ますと、政治が難しい現象のように思われます。しかし、法律や予算の制定や執行は、国家や社会及び個人の発展に寄与するために役立ちます。この講義においては、政治が我々の生活に大きな影響を及ぼすと同時に、我々にとって身近な現象であることを理解できるようにします。
- ◆**授業方法** 講義形式で行います。講義においては、政治に関する受講生の問題意識を高め、それに対する解決能力を啓発するように進めて行きます。講義で知り得た内容が、如何なる意義を有するのか、それが個人や社会や国家にとってどのように関係しているかを客観的に理解しなければなりません。講義中に理解度チェックを行い、講義内容に関する受講生の理解度を高めて行きます。受講に際しては、予習及び復習が必要になります。

### ◆授業計画〔各90分〕

1回	授業内容：講義全体の概要の説明 事前学修：テキストを熟読し、概要を理解すること。 事後学修：講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
2回	授業内容：政治学の変遷 事前学修：参考書の第1章第2節を熟読すること。 事後学修：講義で知り得た内容を整理し、時代区分毎にノートにまとめること。
3回	授業内容：政治の概念 事前学修：参考書の第1章第1節を熟読すること。 事後学修：講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
4回	授業内容：政治の本質 事前学修：テキストの第1章第1節を熟読すること。 事後学修：講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
5回	授業内容：政治権力—概念及び構造 事前学修：テキストの第1章第2節を熟読すること。 事後学修：講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
6回	授業内容：政治権力—支配の手段 事前学修：参考書の第2章第4節を熟読すること。 事後学修：講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
7回	授業内容：国家成立の要素 事前学修：参考書の第3章を熟読すること。 事後学修：講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
8回	授業内容：国家の分類 事前学修：参考書の第3章を熟読すること。 事後学修：講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
9回	授業内容：国家機関 事前学修：参考書の第3章を熟読すること。 事後学修：講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
10回	授業内容：議会政治の原理 事前学修：参考書の第4章第1節を熟読すること。 事後学修：講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
11回	授業内容：議会の構成 事前学修：テキストの第5章及び参考書の第4章第1節を熟読すること。 事後学修：講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
12回	授業内容：議院内閣制 事前学修：テキストの第5章及び参考書の第4章第1節を熟読すること。 事後学修：講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
13回	授業内容：大統領制 事前学修：テキストの第5章及び参考書の第4章第1節を熟読すること。 事後学修：講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
14回	授業内容：大統領拒否権 事前学修：テキストの第5章及び参考書の第4章第1節を熟読すること。 事後学修：講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
15回	授業内容：議会拒否権 事前学修：テキストの第5章及び参考書の第4章第1節を熟読すること。 事後学修：講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。

- ◆**教科書** 逄野『政治学 B11700』通信教育教材（教材コード000279）
- ◆**参考書** 逄野『教養政治学』岩井奉信・黒川貢三郎・関根二三夫他 改訂 南窓社 2012年
- ◆**成績評価基準** 試験70%、平常点30%、※試験同様、質問や理解度チェック等の平常点も重視しますので、受講に際しては欠席をしないように注意して下さい。

### 注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

# 講座内容 (シラバス)

## [英語 I ~ IV]

和泉 周子

◆**授業概要** 本授業では英文の読解の仕方を学びます。文法や語彙の理解に重点を置き、辞書を丁寧に引きながら、英文を正確に読むことができるようになることを目指します。

◆**学修到達目標** 1. 文法や文構造、語彙を理解し、運用して英文を和訳できるようになる。  
2. 英文の内容を正確に把握することができるようになる。

◆**授業方法** Microsoft Word で作成した解答ファイルを期限までに指定された場所に提出してもらいます。READING は一文ずつ和訳し、VOCABULARY PREVIEW・COMPREHENSION・PRACTICE は設問に答えてください。SUMMARY は括弧に適切な語を入れた上で全訳してもらいます。授業計画通りに進めますが、進度はあくまでの目安であり、授業計画通りの進度では進まない場合があります。本授業の事前学修・事後学修の時間は各2時間を目安としています。

◆**履修条件** 令和2年度昼間スクーリング (前期) 『英語 J・英語 U』 (和泉周子) とは積み重ね不可

◆**授業計画 (各 90 分)**

1回	授業内容 事前学修 事後学修	ガイダンス：授業内容や進め方、成績評価基準等の説明と Unit 1 The Hungry Cat：現在時制・現在進行形の文法確認及び演習 ①シラバスを確認する。② GRAMMAR & USAGE (TEXT HIGHLIGHT! は除く) の説明を読み、PRACTICE の問題を解く。 現在時制・現在進行形の内容をノート等に整理し、間違えた問題は整理した内容と照らし合わせて復習する。
2回	授業内容 事前学修 事後学修	Unit 1 The Hungry Cat：READING の読解と内容把握問題 ① VOCABULARY PREVIEW の問題を解く。② READING の英文を読み、COMPREHENSION と SUMMARY の問題を解く。 ① VOCABULARY PREVIEW の間違えた問題を復習する。② READING の各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら READING 全体の内容を理解し、間違えた問題は該当箇所と照らし合わせて復習する。
3回	授業内容 事前学修 事後学修	Unit 2 The Chocolate Chip Cookie：過去時制・過去進行形の文法確認及び演習と READING の読解 ① GRAMMAR & USAGE (TEXT HIGHLIGHT! は除く) の説明を読み、PRACTICE の問題を解く。 ② VOCABULARY PREVIEW の問題を解く。③ READING の英文を読む。 ①過去時制・過去進行形の内容をノート等に整理し、PRACTICE の間違えた問題は整理した内容と照らし合わせて復習する。② VOCABULARY PREVIEW の間違えた問題を復習する。③ READING の各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら READING 全体の内容を理解する。
4回	授業内容 事前学修 事後学修	Unit 2 The Chocolate Chip Cookie：READING の内容把握問題 READING の英文の内容を確認後、COMPREHENSION と SUMMARY の問題を解く。 間違えた問題を READING の英文の該当箇所と照らし合わせて復習する。
5回	授業内容 事前学修 事後学修	Unit 3 Hollywood's Hero：現在完了・現在完了進行形の文法確認及び演習と READING の読解 ① GRAMMAR & USAGE (TEXT HIGHLIGHT! は除く) の説明を読み、PRACTICE の問題を解く。 ② VOCABULARY PREVIEW の問題を解く。③ READING の英文を読む。 ①現在完了・現在完了進行形の内容をノート等に整理し、PRACTICE の間違えた問題は整理した内容と照らし合わせて復習する。② VOCABULARY PREVIEW の間違えた問題を復習する。③ READING の各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら READING 全体の内容を理解する。
6回	授業内容 事前学修 事後学修	Unit 3 Hollywood's Hero：READING の内容把握問題 READING の英文の内容を確認後、COMPREHENSION と SUMMARY の問題を解く。 間違えた問題を READING の英文の該当箇所と照らし合わせて復習する。
7回	授業内容 事前学修 事後学修	Unit 4 Miscommunication：未来の文法確認及び演習と READING の読解 ① GRAMMAR & USAGE (TEXT HIGHLIGHT! は除く) の説明を読み、PRACTICE の問題を解く。 ② VOCABULARY PREVIEW の問題を解く。③ READING の英文を読む。 ①未来の内容をノート等に整理し、PRACTICE の間違えた問題は整理した内容と照らし合わせて復習する。② VOCABULARY PREVIEW の間違えた問題を復習する。③ READING の各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら READING 全体の内容を理解する。
8回	授業内容 事前学修 事後学修	Unit 4 Miscommunication：READING の内容把握問題 READING の英文の内容を確認後、COMPREHENSION と SUMMARY の問題を解く。 間違えた問題を READING の英文の該当箇所と照らし合わせて復習する。
9回	授業内容 事前学修 事後学修	Unit 5 The Lucky Ride：過去完了の文法確認及び演習と READING の読解 ① GRAMMAR & USAGE (TEXT HIGHLIGHT! は除く) の説明を読み、PRACTICE の問題を解く。 ② VOCABULARY PREVIEW の問題を解く。③ READING の英文を読む。 ①過去完了の内容をノート等に整理し、PRACTICE の間違えた問題は整理した内容と照らし合わせて復習する。② VOCABULARY PREVIEW の間違えた問題を復習する。③ READING の各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら READING 全体の内容を理解する。
10回	授業内容 事前学修 事後学修	Unit 5 The Lucky Ride：READING の内容把握問題 READING の英文の内容を確認後、COMPREHENSION と SUMMARY の問題を解く。 間違えた問題を READING の英文の該当箇所と照らし合わせて復習する。
11回	授業内容 事前学修 事後学修	Unit 6 A Real Monster：受け身の文法確認及び演習と READING の読解 ① GRAMMAR & USAGE (TEXT HIGHLIGHT! は除く) の説明を読み、PRACTICE の問題を解く。 ② VOCABULARY PREVIEW の問題を解く。③ READING の英文を読む。 ①受け身の内容をノート等に整理し、PRACTICE の間違えた問題は整理した内容と照らし合わせて復習する。② VOCABULARY PREVIEW の間違えた問題を復習する。③ READING の各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら READING 全体の内容を理解する。
12回	授業内容 事前学修 事後学修	Unit 6 A Real Monster：READING の内容把握問題 READING の英文の内容を確認後、COMPREHENSION と SUMMARY の問題を解く。 間違えた問題を READING の英文の該当箇所と照らし合わせて復習する。
13回	授業内容 事前学修 事後学修	Unit 7 Lunchbox Revolution：助動詞の文法確認及び演習と READING の読解 ① GRAMMAR & USAGE (TEXT HIGHLIGHT! は除く) の説明を読み、PRACTICE の問題を解く。 ② VOCABULARY PREVIEW の問題を解く。③ READING の英文を読む。 ①助動詞の内容をノート等に整理し、PRACTICE の間違えた問題は整理した内容と照らし合わせて復習する。② VOCABULARY PREVIEW の間違えた問題を復習する。③ READING の各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら READING 全体の内容を理解する。
14回	授業内容 事前学修 事後学修	Unit 7 Lunchbox Revolution：READING の内容把握問題 READING の英文の内容を確認後、COMPREHENSION と SUMMARY の問題を解く。 間違えた問題を READING の英文の該当箇所と照らし合わせて復習する。
15回	授業内容 事前学修 事後学修	最終課題の提出及びその解説 14回目までの授業内容を確認し、理解する。 全授業内容を整理し、ノート等にまとめる。

◆**教科書** 『Premium Reader Elementary 英語リーディングとの出会い：初級編』 Robert Juppe・馬場幸雄 金星堂 2019年

◆**参考書** 指定しない

◆**成績評価基準** 最終課題 (80%)、授業への参画度 (20%)  
毎回出席することを前提とします。また、授業への参画度には解答ファイルの提出状況やその取り組み度が含まれます。

◆**授業相談 (連絡先) :**

注意

## 講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

(英語)

アレックス ブラウン

◆**授業概要** Students will learn authentic English by studying the dialogue in the scenes from the movie *Big Fish* by Tim Burton, starring Ewan MacGregor. Each class will involve answering comprehension questions and group discussion on various themes in the movie. Students will be asked to hand in their work to be reviewed by the teacher periodically.

◆**学修到達目標** This course gives students the opportunity to improve listening comprehension and discussion skills in a group setting. This movie offers a wide range of challenging topics for discussion. Students are expected to participate actively.

◆**授業方法** Students will be given daily worksheets to complete. The tasks will vary from day to day but actively listening and follow up discussion questions will be the norm. Role plays of the movie script will take place from time to time.

◆**履修条件** There are no pre-requisites for this course so it is open to everyone. Students must be prepared with a folder to keep handouts in and be ready to take notes.

### ◆授業計画 (各 90 分)

1回	授業内容: Class orientation. 事前学修: Ice breakers and student profiles. 事後学修: Search Big Fish on IMBD and browse this info.
2回	授業内容: Scene 1 viewing and worksheets. 事前学修: List the movie's characters. 事後学修: Predict the next scene.
3回	授業内容: Scene 2 viewing and worksheets. 事前学修: Complete the discussion questions. 事後学修: Read over scene 1 - 3 scripts.
4回	授業内容: Scene 3 viewing and worksheets 事前学修: Complete discussion questions 事後学修: Finish the vocabulary matching activity.
5回	授業内容: Review the 1st quarter of the film 事前学修: Character discussion 事後学修: Complete character descriptions.
6回	授業内容: Scene 4 viewing and comprehension. 事前学修: Vocabulary review. 事後学修: Prepare your script reading parts.
7回	授業内容: Scene 5 viewing and questions 事前学修: Introduction to mid-term report. 事後学修: Research your mid-term report.
8回	授業内容: Report presentations 事前学修: Post report discussions. 事後学修: Prepare for Scene 6
9回	授業内容: Scene 6 viewing and discussions 事前学修: Check answers in groups 事後学修: Review scenes 4, 5, 6
10回	授業内容: Complete the Review Worksheet. 事前学修: Scene 7 viewing and questions. 事後学修: Practice the vocabulary for scene 7.
11回	授業内容: Scene 8 viewing. 事前学修: Practice role plays in the script. 事後学修: Complete the geographical worksheet.
12回	授業内容: Scene 9 viewing and discussion 事前学修: Pronunciation practice. 事後学修: Read notes for character development.
13回	授業内容: Final scene viewing. 事前学修: Review scenes 7 - 10. 事後学修: Review all discussion questions and character profiles.
14回	授業内容: Test review questions 事前学修: Replay key scenes from the film 事後学修: Study for the test.
15回	授業内容: Multiple choice and True/False test 事前学修: Complete the essay question. 事後学修: Congratulations on course completion.

◆**教科書** 当日資料配布

◆**参考書** 当日資料配布

◆**成績評価基準** Class participation and class work submission is part of the grade (60%) A report will be graded at midterm. (10%) A test will be given on the last day (30%).

**注意** E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談 (連絡先) に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆**授業概要** 本年度は新型コロナウイルスの感染拡大により、従来の3日間の対面授業から、6日間のオンデマンド授業へと変更になりました。ただし授業期間が6日間に拡大されたことで、初学者の方であっても『報告課題』に真剣に取り組まれた方であれば、かなりの高い学習効果が期待できると思います。もちろん面接授業とは異なり「質疑応答」は直接にはできませんが、疑問・質問は「Google classroom」の「クラスのコメント」欄を通じてどしどし尋ねてください：可能な限り丁寧に・分かりやすくお答えするつもりです。

◆**学修到達目標** 英語にすれば中学1年レベルの内容が、フランス語でも言えて・書けて・聞き取れるようにするのが目標です。また『報告課題』や『科目修得試験』の「フランス語Ⅰ」のみならず、「フランス語Ⅱ」以降の学習をする上でもその大切なベースとなる、フランス語の持つルール＝規則性を徹底して身に付けます。

◆**授業方法** 「Google classroom」に upload する 2 種類のプリントに基づき、ビデオ動画 15 回分を 6 日間に分けて配信していきます(14回目と15回目は試験とその解説)。ビデオを視聴すること自体は履修でも何でもありません：ビデオの内容を理解したなら、今度はそれを覚えることが本当の履修です(外国語は「分かる」と「覚える」は完璧にイコールです)。なお配信する動画は(試験問題を除き)「昼間スクーリング前期」の内容と同一です：途中「昼間スクーリング云々」といった言い方もできますが、その点をご容赦ください。

◆**授業計画**

1回	授業内容 事前学修 事後学修	フランス語のアルファベ、綴り字と発音との関係の説明(1) (オレンジプリント)使用 フランス語のアルファベを言えるようにしておくこと オレンジプリント1枚目の内容[母音の発音はアルファベ対応, etc]をマスターする。
2回	授業内容 事前学修 事後学修	綴り字と発音との関係の説明(2)：「複合母音」(=母音と母音の特別な組み合わせ)5種類について、オレンジプリント2枚目を使って説明します。 「複合母音」5種類をよく頭に入れてくること。 「複合母音」5種類をその具体例とともにしっかり覚えること。
3回	授業内容 事前学修 事後学修	綴り字と発音との関係の説明(3)：母音と<n>との特別な組み合わせ(=鼻母音)は2種類、これをオレンジプリント2枚目を使って説明します。 「鼻母音」2種類をよく頭に入れてくること。 「鼻母音」2種類をその具体例とともにしっかり覚えること。
4回	授業内容 事前学修 事後学修	メインの10枚つづりのプリントの1P~2P目を説明します。 uploadしたCDを聞きながら、1メインプリントの1P~2P目に目を通してくること。 メインプリント1P~2P目に具体例として挙げた名詞の「発音」「綴り」「意味」「性別」を覚えること。
5回	授業内容 事前学修 事後学修	メインプリント3P目：3種類の「冠詞」の使い分けをその具体例とともに説明します。 メインプリント3P目(「不定冠詞」「部分冠詞」「定冠詞」)に目を通してくること。 メインプリント3P目に具体例として挙げた飯詩を、「冠詞」とともに覚えること。
6回	授業内容 事前学修 事後学修	メインプリント4P目：「数詞」(1~10)と「前置形容詞」「後置形容詞」の用法を具体例とともに説明。 メインプリント4P目(「数詞メイン」と「前置形容詞」「後置形容詞」)に目を通してくること。 メインプリント4P目に具体例として挙げた単語・表現をしっかりと身に付けること。
7回	授業内容 事前学修 事後学修	メインプリント5P目：「指示形容詞」と「所有形容詞」、3種類の「提示の仕方」を配布したCDを使いながら説明します。 メインプリント5P目(「指示形容詞」と「所有形容詞」、3種類の「提示の仕方」)に目を通してくること。 メインプリント5P目の内容を、その具体的な用例・例文とともに覚えること。
8回	授業内容 事前学修 事後学修	単語および表現の聞き取り・書き取り演習 1回目~7回目のビデオ配信で習った単語や表現をしっかりと覚えて「演習」に臨むこと 「演習」で出来なかった単語や表現をしっかりとフォローしておくこと。
9回	授業内容 事前学修 事後学修	メインプリント6P目：「動詞」<être>(=be 動詞)の活用と用法を説明します。 uploadしたCDを聞きながら、プリント7P目の<être>の活用に目を通すこと。 「動詞」<être>の活用(「肯定形」と「否定形」)と用例を徹底して覚えること。
10回	授業内容 事前学修 事後学修	メインプリント7P目：「動詞」<avoir>(=have)の活用と用法を説明 uploadしたCDを聞きながら、プリント7P目の<avoir>の活用に目を通すこと。 「動詞」<avoir>の活用(「肯定形」と「否定形」)と用例を徹底して覚えること。
11回	授業内容 事前学修 事後学修	メインプリント7P目下段~8P目前半：「第1群規則動詞」の活用と用例(前半部分)を説明します。 uploadしたCDを聞きながら、「第1群規則動詞」の活用と用例に目を通すこと。 「第1群規則動詞」の活用と用例(前半部分)をしっかり覚えること。
12回	授業内容 事前学修 事後学修	メインプリント8P目後半~9P目：「第1群規則動詞」の活用と用例(後半部分)と「基本的な前置詞」を説明します。 uploadしたCDを聞きながら、「第1群規則動詞」の活用と用例に目を通すこと。 「第1群規則動詞」の活用と用例(後半部分)をしっかり覚えること。
13回	授業内容 事前学修 事後学修	メインプリント10P目：「ヒヤリング演習15題」 メインプリント10P目の<ヒヤリング演習>用の15題を、uploadしたCDを事前に何度も聞いて書き取ってくること。 <ヒヤリング演習>の中で、間違えた箇所を徹底してフォローすること。
14回	授業内容 事前学修 事後学修	最終試験 メインプリントの後半部分の内容(とりわけ3種類の動詞の活用と用例)をきちんとマスターすること。 1週間後に試験の「解答」を配信するので、間違えた箇所を各自チェックしておくこと。
15回	授業内容 事前学修 事後学修	試験の解説と、今後の「フランス語Ⅱ」以降の学習事項について簡単に説明します。 試験で自分ができなかった箇所・間違えた箇所をしっかりフォローしておくこと。

- ◆**教科書** 1. <発音と綴り字との関係>をまとめたプリント2枚：授業用資料として<Google classroom>にupload  
2. 授業でメインに使用する10枚つづりのプリント：同じく授業用資料として<Google classroom>にupload  
3. 上述のプリント中の単語や例文を収録したCD: これも音声資料として<Google classroom>にupload  
履修には仏和辞典を必ず1冊用意してください；そもそも『報告課題』に取り組む段階で辞書は絶対に必要です。

◆**参考書(参考文献等)** 『フランス語Ⅰ E10100』 通信教育教材(教材コード000372) ※この教材は市販の『新・ゼフィール』 EEFLEUK(早美出版社)と同一です。スクーリングの授業レベルを超えて<仏検4級>以上を目指そうとする人には文法面でお勧めです。

『フランス語Ⅱ E10200』 通信教育教材(教材コード000373) ※この教材は市販の『フランス語基本500語』(財)フランス語教育振興協会(朝日出版社)と同一です。同じく<仏検4級>以上を目指そうとする人には単語面で非常に有用な参考書です[添えられたイラストがとても可愛い]。

◆**成績評価基準** 最終日の試験の結果で判定します。なお試験は「和文仏訳」と「ヒヤリング形式」(原文を仏語で書き取ったのち和訳する)で出題します。安直な和訳・穴埋め・択一等は一切出題しません

# 講座内容 (シラバス)

〔体育実技〕 オープン受講：不可

高橋 正則

◆**授業概要** 現代の高齢社会において、健康を維持・増進するためには、適度な運動習慣を生活習慣に取り込むことが求められます。そこで、まず自己の体力の現状を把握し、身体運動の継続的な必要性について認識を高めます。そして、年齢や体力レベルに応じた運動参加への具体的方法を理解し、スポーツ実践に取り組むとともに、それらを通して、他者とコミュニケーションを活発に図ることで社会的スキルも養います。そのためにも、日頃より1日20分以上の連続歩行や軽い柔軟運動の実施を心がけ、コンディションの維持が大切となります。特に、トレーニングコーチ（日本オリンピック委員会強化スタッフ・医科学）として体カトレーニングやメンタルトレーニングの指導実績を生かし、実践的で効果的な方法論を実技に反映させています。

◆**学修到達目標** 多くの運動やスポーツの実践を通して、その楽しさや具体的方法を他者とともに学び、自らが身体活動を継続して実施することの重要性を認識できるようになる。また、スポーツを通して、他者とのコミュニケーションを深め、社会的スキルを向上させることができるようになる。

◆**授業方法** 原則、天候に左右されない体育館内（アリーナおよび卓球場）での授業とし、いくつかの小グループに分かれ、体力測定をはじめとする様々な運動や、ネット型スポーツやニュースポーツを中心としたスポーツを体験します。体力測定結果については、性や年齢に応じた基準値と比較照合して、自己評価を実施します。また、各グループでのネット型スポーツやニュースポーツでは、学生個々の年齢や体力レベルに配慮するとともに、入念なウォーミングアップとクールダウンを徹底して行います。なお、本授業の事前学修・事後学修の時間は各2時間を目安としています。

◆**履修条件**

◆**授業計画**〔各90分〕

1回	授業内容 ガイダンス：集中授業における運動の効果とリスク・施設の使用法・注意事項の説明、グループ分けと準備体操の実施。 事前学修 前日までに各自で体力の維持・向上を図り、コンディションの維持に留意しておくこと。 事後学修 運動実施後は、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
2回	授業内容 体力測定の実施と評価：5種目（閉眼片足立ち、握力、長座体前屈、上体起こし、反復横跳び）、具体的な説明の実施。測定後、各測定項目の基準値と比較照合し、自己評価する。 事前学修 前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。 事後学修 運動実施後は、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
3回	授業内容 卓球：用具の理解、フォアハンドとバックハンド、サーブ、ボールの回転とショットとの関係、ラリー（施設等の事情により、スポーツ競技が変更となる場合があります）。 事前学修 前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。 事後学修 運動実施後は、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
4回	授業内容 卓球：ダブルスにおけるペアとのコンビネーション（施設等の事情により、スポーツ競技が変更となる場合があります）。 事前学修 前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。 事後学修 運動実施後は、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
5回	授業内容 卓球：ルール理解、ダブルスの試合（施設等の事情により、スポーツ競技が変更となる場合があります）。 事前学修 前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。 事後学修 運動実施後は、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
6回	授業内容 バドミントン：用具の理解、フォアハンドとバックハンド、ラリー（施設等の事情により、スポーツ競技が変更となる場合があります）。 事前学修 前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。 事後学修 運動実施後は、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
7回	授業内容 バドミントン：サーブ、ハイクリアー、ダブルスにおけるペアとのコンビネーション（施設等の事情により、スポーツ競技が変更となる場合があります）。 事前学修 前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。 事後学修 運動実施後は、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
8回	授業内容 バドミントン：ルール理解、ダブルスの試合（施設等の事情により、スポーツ競技が変更となる場合があります）。 事前学修 前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。 事後学修 運動実施後は、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
9回	授業内容 ミニテニス：用具の理解、フォアハンドとバックハンド、ボールの回転とショットとの関係、ラリー（施設等の事情により、スポーツ競技が変更となる場合があります）。 事前学修 前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。 事後学修 運動実施後は、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
10回	授業内容 ミニテニス：サーブ、ダブルスにおけるペアとのコンビネーション（施設等の事情により、スポーツ競技が変更となる場合があります）。 事前学修 前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。 事後学修 運動実施後は、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
11回	授業内容 ミニテニス：ルール理解、ダブルスの試合（施設等の事情により、スポーツ競技が変更となる場合があります）。 事前学修 前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。 事後学修 運動実施後は、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
12回	授業内容 バレーボール：用具の理解、アンダーハンドおよびオーバーハンドパス、レシーブ、ラリー（施設等の事情により、スポーツ競技が変更となる場合があります）。 事前学修 前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。 事後学修 運動実施後は、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
13回	授業内容 バレーボール：ルール理解、パスワーク、チームビルディング、試合（施設等の事情により、スポーツ競技が変更となる場合があります）。 事前学修 前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。 事後学修 運動実施後は、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
14回	授業内容 ソフトバレーボール：ルール理解、パス、サーブ、チームビルディング、試合（施設等の事情により、スポーツ競技が変更となる場合があります）。 事前学修 前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。 事後学修 運動実施後は、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
15回	授業内容 グループ別対抗ソフトバレーボール大会：4コートに分かれ、各コート内でグループ別に総当たり戦を行う（施設等の事情により、スポーツ競技が変更となる場合があります）。 事前学修 前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。 事後学修 運動実施後は、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。

◆**教科書** 特になし

◆**参考書** 〔図説〕健康・スポーツ教育論 日本大学文理学部体育学研究室編、八千代出版

◆**成績評価基準** 授業への取り組み（貢献度）および自己の体力に合った運動への理解と遂行の程度によって、総合的に評価します。

◆**授業相談（連絡先）**：初回の授業時、受講学生に直接伝えます。

注意

◆**授業概要** 債権法各論は、契約や不法行為など、民法・財産法の具体的な規律を知る上で極めて有益な内容となっている。民法第3編「債権」のうち第2章の「契約」以下に規定された民法第521条から第724条の2までの対象条文やこれに関連する借地借家法などの特別法規について、近時の債権法改正や最新判例に即した解説を行う。

◆**学修到達目標** 授業概要に記した法領域中の各概念や各制度を理解し、説明できる力を修得する。

◆**授業方法** **配信された動画による**講義形式で行う。本授業の事前学修・事後学修の時間は各2時間を目安としている。

◆**授業計画**

1回	授業内容	シラバスに沿って授業概要や授業目的・到達目標、授業方法、成績評価の基準、教科書・参考書について説明し、次回以降、受講生が授業に参加できるよう、その準備や心構えを促すとともに、本講義の前提としての債権法改正について説明し、理解させる。
	事前学修	シラバスを確認し、授業概要を踏まえつつ、各回の授業内容を読み込む。
	事後学修	授業での説明内容を確認し、教科書・参考書・六法・ノートの購入等、受講に向けた具体的準備を行う。
2回	授業内容	債権各論の概要について説明し、理解させる。
	事前学修	教科書の序、1～4頁をよく読んでおく。
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。
3回	授業内容	契約の概念、契約の成立、契約の効力のうち同時履行の抗弁権について説明し、理解させる。
	事前学修	教科書第1章のうち5～29頁を読み、契約の基本的仕組みについて考察する。
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。
4回	授業内容	契約の効力のうち、危険負担、第三者のためにする契約、契約上の地位の移転、契約の解除、定型約款について説明し、理解させる。
	事前学修	教科書第1章のうち29～50頁を読み、特に同時履行の抗弁権、危険負担、契約の解除、定型約款について考察する。
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。
5回	授業内容	売買のうち、売買の成立、契約の効力中の主に契約不適合責任について説明し、理解させる。
	事前学修	教科書第1章のうち52～83頁を読み、売買の基本的仕組みについて考察する。
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。
6回	授業内容	売買のうち、買戻し、特殊な売買について解説するとともに、贈与、交換について説明し、理解させる。
	事前学修	教科書第2章のうち83～100頁を読み、特に特殊な売買、贈与について考察する。
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。
7回	授業内容	消費貸借について説明するとともに、賃貸借のうち、主に当事者間の効力について説明し、理解させる。
	事前学修	教科書第3章のうち101～123頁を読み、消費貸借、賃貸借の基本的仕組みについて考察する。
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。
8回	授業内容	賃貸借のうち、第三者に対する効力、当事者の変更、特殊な賃貸借について説明するとともに、使用貸借、雇用、請負について説明し、理解させる。
	事前学修	教科書第3章のうち123～139頁と、第4章のうち140～149頁を読み、特に賃貸借、請負について考察する。
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。
9回	授業内容	委任、寄託、組合、終身定期金、和解、事務管理について説明し、理解させる。
	事前学修	教科書第4章のうち149～165頁と、第5章のうち168～177頁を読み、特に委任、組合、和解、事務管理について考察する。
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。
10回	授業内容	不当利得のうち、一般的な要件・効果、給付利得一般について説明し、理解させる。
	事前学修	教科書第5章のうち177～196頁を読み、不当利得の基本的仕組みについて考察する。
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。
11回	授業内容	不当利得のうち、特殊な給付利得、侵害利得、支出利得、多数当事者間の不当利得について説明し、理解させる。
	事前学修	教科書第5章のうち196～225頁を読み、不当利得の諸問題について考察する。
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。
12回	授業内容	不法行為のうち、主に一般的不法行為の要件について説明し、理解させる。
	事前学修	教科書第6章のうち226～248頁を読み、一般的不法行為の要件について考察する。
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。
13回	授業内容	不法行為のうち、不法行為の効果について説明し、理解させる。
	事前学修	教科書第6章のうち248～265頁を読み、不法行為の効果について考察する。
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。
14回	授業内容	不法行為のうち、加害者側の反論、責任無能力者の監督者責任、使用者責任について説明し、理解させる。
	事前学修	教科書第6章のうち265～278頁と、第7章のうち279～295頁を読み、特に責任無能力者監督者責任、使用者責任について考察する。
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。

15回	授業内容	不法行為のうち、土地工作物責任、製造物責任、動物占有者の責任、自動車損害賠償責任、共同不法行為について説明し、理解させる。
	事前学修	教科書第7章のうち295～318頁を読み、他の特殊的不法行為について考察する。
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。

◆教科書 『新ハイブリッド民法4 債権各論』 滝沢昌彦ほか 法律文化社 2018年  
授業レジュメ配布

◆参考書(参考文献等) 指定しない。

◆成績評価基準 小テスト(75%)、最終テスト(25%)。授業内容を踏まえて出題される設問を解答させ、その内容により理解度をはかる。



# 講座内容（シラバス）

## 〔商法Ⅰ〕

宮崎 裕介

◆**授業概要** 本授業では、商法のうち商法総則・商行為法に関する分野を取り上げながら、企業取引と法律との関係について勉強していきます。具体的には、商業登記制度、商人・会社の名称（商号）、企業取引の補助者（商業使用人・代理商等）、営業譲渡、商事売買、運送取引、施設取引（場屋・倉庫営業）、消費者取引等について取り上げていきます。

◆**学修到達目標** 経済社会で日常的に行われている商取引について法的な知識を修得するために、商法総則及び商行為法の基礎的な知識及びそこから生じ得る法的諸問題について従来の判例や学説を手がかりに考察する能力を修得する。

◆**授業方法** オンデマンドで行う。事業資料はパワーポイントで作成したものをを用いる。

◆**履修条件**

◆**授業計画（各90分）**

1回	授業内容：商法とはどのような法体系を有する法分野であるのかについて、その概要を説明する。 事前学修：日本経済新聞などを読んで商取引に関する現代的問題を知っておくこと 事後学修：授業資料を見直すこと
2回	授業内容：商法の意義と商法の法源について講義する。 事前学修：授業資料に予め目を通すこと 事後学修：授業資料を見直すこと
3回	授業内容：商法の基本概念について講義する。 事前学修：授業資料に予め目を通すこと 事後学修：授業資料を見直すこと
4回	授業内容：商業登記について講義する 事前学修：授業資料に予め目を通すこと 事後学修：授業資料を見直すこと
5回	授業内容：商号の意義、法規制の必要性、商号選定自由の原則、商号自由の制限、商号単一の原則を講義する。 事前学修：授業資料に予め目を通すこと 事後学修：授業資料を見直すこと
6回	授業内容：名板貸、商号の譲渡、商号の廃止、商号の登記、商号権を講義する。 事前学修：授業資料に予め目を通すこと 事後学修：授業資料を見直すこと
7回	授業内容：商業帳簿を講義する 事前学修：授業資料に予め目を通すこと 事後学修：授業資料を見直すこと
8回	授業内容：商業使用人を講義する 事前学修：授業資料に予め目を通すこと 事後学修：授業資料を見直すこと
9回	授業内容：代理商を講義する 事前学修：授業資料に予め目を通すこと 事後学修：授業資料を見直すこと
10回	授業内容：営業を講義する 事前学修：授業資料に予め目を通すこと 事後学修：授業資料を見直すこと
11回	授業内容：商行為法総則を講義する。 事前学修：授業資料に予め目を通すこと 事後学修：授業資料を見直すこと
12回	授業内容：商事売買および消費者売買を講義する。 事前学修：授業資料に予め目を通すこと 事後学修：授業資料を見直すこと
13回	授業内容：交互計算を講義する。 事前学修：授業資料に予め目を通すこと 事後学修：授業資料を見直すこと
14回	授業内容：匿名組合、仲介営業を講義し、講義全体を振り返る。 事前学修：授業資料に予め目を通すこと 事後学修：授業資料を見直すこと
15回	授業内容：試験 事前学修：試験に備え、配布されたプリントをすべて見直すこと。 事後学修：試験内容についてどこまで解答できたかを各自で確認してみましょう。

◆**教科書** **〔当日資料配布〕** Google Classroom を通じて配布する

**〔汎用〕**『商法総則・商行為法』近藤光男、第8版、有斐閣、2019年・『商法判例百選』神作裕之＝藤田友敬、有斐閣、2019年・最新版の六法

◆**参考書** **〔汎用〕**『商法総則・商行為法講義』松嶋隆弘＝大久保拓也編、中央経済社、2020年

◆**成績評価基準** オンデマンド講義となったことを考慮し、中間レポート（40パーセント）および期末レポート（60パーセント）で評価する

◆**授業相談（連絡先）：**

注意

## 講座内容（シラバス）

### 〔民事訴訟法〕

吉田 純平

- ◆**授業概要** 民事訴訟法は、私人間の紛争を解決するための訴訟を規律する法律である。本講義では、民事訴訟の基本的な流れやルールを概観しながら、民事訴訟法における基本的な概念を説明し、同法における重要な論点について学説や判例の検討を行う。
- ◆**学修到達目標** 民事訴訟法における基本的な概念の意味を理解し、説明することができる。また、民事訴訟に関する簡単な事例について、関連する法規を適用するとともに、論点を見つけて学説や判例を参考に議論することができる。
- ◆**授業方法** 基本的には講義形式で行う。毎回授業内容に関する小テストを行い、知識の修得度を確認する。小テストについては、次回授業の冒頭で解説する。
- ◆**履修条件**
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容：民事手続の種類・民事訴訟法の法源 事前学修：教科書の該当部分を読む。 事後学修：教科書の「確認しよう」の問題を解く。
2 回	授業内容：民事訴訟の目的・司法権の限界 事前学修：教科書の該当部分を読む。 事後学修：教科書の「確認しよう」の問題を解く。
3 回	授業内容：裁判所 事前学修：教科書の該当部分を読む。 事後学修：教科書の「確認しよう」の問題を解く。
4 回	授業内容：当事者 事前学修：教科書の該当部分を読む。 事後学修：教科書の「確認しよう」の問題を解く。
5 回	授業内容：訴えの利益 事前学修：教科書の該当部分を読む。 事後学修：教科書の「確認しよう」の問題を解く。
6 回	授業内容：訴訟物・二重起訴の禁止 事前学修：教科書の該当部分を読む。 事後学修：教科書の「確認しよう」の問題を解く。
7 回	授業内容：訴訟行為 事前学修：教科書の該当部分を読む。 事後学修：教科書の「確認しよう」の問題を解く。
8 回	授業内容：証拠調べ 事前学修：教科書の該当部分を読む。 事後学修：教科書の「確認しよう」の問題を解く。
9 回	授業内容：自白 事前学修：教科書の該当部分を読む。 事後学修：教科書の「確認しよう」の問題を解く。
10 回	授業内容：訴訟の終了 事前学修：教科書の該当部分を読む。 事後学修：教科書の「確認しよう」の問題を解く。
11 回	授業内容：既判力の主観的範囲・客観的範囲 事前学修：教科書の該当部分を読む。 事後学修：教科書の「確認しよう」の問題を解く。
12 回	授業内容：複数請求訴訟 事前学修：教科書の該当部分を読む。 事後学修：教科書の「確認しよう」の問題を解く。
13 回	授業内容：複数当事者訴訟 事前学修：教科書の該当部分を読む。 事後学修：教科書の「確認しよう」の問題を解く。
14 回	授業内容：参加 事前学修：教科書の該当部分を読む。 事後学修：教科書の「確認しよう」の問題を解く。
15 回	授業内容：上訴・再審 事前学修：教科書の該当部分を読む。 事後学修：教科書の「確認しよう」を解く。民事訴訟の全体的な流れを確認する。

- ◆**教科書** 関沼 [(Next シリーズ) 民事訴訟法〔第2版〕] 小田司編 弘文堂
- ◆**参考書** 特になし
- ◆**成績評価基準** 小テストの点数 (60 点満点) と期末試験の点数 (40 点満点) を合計して評価する。民事訴訟法の基本概念の確認と事例への民事訴訟法の適用能力を問う問題とする。
- ◆**授業相談 (連絡先)**：授業前後のほか、メールで受け付けます。yosida.junpei@nihon-u.ac.jp

注意

# 講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔経済原論 / 経済学原論〕

陸 亦群

- ◆**授業概要** 本講義は現代マクロ経済学入門として位置づける。本講義において、ケインズ経済学の基礎である有効需要原理、流動性選好利率論を説明したうえで、IS=LM 分析とマンデル=フレミング・モデルを中心とするオープンエコノミーを展開し、短期モデルと長期モデルの比較を踏まえて、新古典派経済学の視点から物価水準の決定、インフレとデフレに関する問題を主として学修し、応用・展開科目を学ぶ土台を築く。
- ◆**学修到達目標** マクロ経済学において、有効需要原理、流動性選好利率論、IS=LM 分析、国際マクロ経済学、短期モデルと長期モデルの比較、物価水準の決定、インフレとデフレを中心に講義を進める。この講義を通じて、マクロ経済学全般の「基礎知識」を習得し、現実のマクロ経済現象に対して「経済学的な考え方」を理解し、「分析手法」を身につけることができる。
- ◆**授業方法** 本講義は教材の内容を中心にパワーポイントと板書で授業を進める。経済学の理論を理解することを目的とし、経済学とはどのような学問であるのかという点を中心に授業を進める。現実の経済の動きを把握するために、必要に応じて時事経済関連の新聞・雑誌記事等を資料として配布・解説する。また、講義内で課題を設ける場合、その解説は講義内で行うようにする。
- ◆**授業計画 (各 90 分)**

1 回	授業内容: マクロ経済学では何を学ぶか、特に現代マクロ経済学の学習内容を概説する 事前学修: 教科書の第 1 章を熟読すること 事後学修: 講義レジュメを参照し、講義ノートを整理すること講義の内容を整理し、配布資料を読んで、重要なポイントを整理する
2 回	授業内容: 国民所得の決定について 事前学修: 教科書第 4 章 (P.75-82) を予め読んでおくこと 事後学修: 消費関数、投資関数、45 度線モデルと財市場の均衡調整を復習すること
3 回	授業内容: 有効需要原理 事前学修: 教科書第 4 章 (P.83-98) を予め読んでおくこと 事後学修: 財政政策、総需要管理、乗数効果を復習すること
4 回	授業内容: 流動性選好利率立論 事前学修: 教科書第 5 章 (P.99-130) を予め読んでおくこと 事後学修: 流動性選好利率立論、貨幣の需要とマネーサプライの基礎知識を復習すること
5 回	授業内容: 財市場・貨幣市場の均衡と IS=LM 分析 事前学修: 教科書第 6 章 (P.131-152) を予め読んでおくこと 事後学修: 財市場と IS 曲線、貨幣市場均衡 LM 曲線、そして IS=LM 同時均衡の基礎的分析手法を復習すること
6 回	授業内容: 国際収支表の構造、国際通貨制度、IS バランスと資本勘定 事前学修: 教科書第 7 章 (P.153-162) を予め読んでおくこと 事後学修: 国際通貨制度を理解し、国際収支表の構造と IS バランスと資本勘定の基礎概念を確認すること
7 回	授業内容: マンデル=フレミング・モデル 事前学修: 教科書第 7 章 (P.162-167) を予め読んでおくこと 事後学修: 開放経済体系における財市場の均衡と IS 曲線の導出、貨幣市場の均衡と LM 曲線の導出、資本移動と利率の決定の講義内容を復習すること
8 回	授業内容: 固定相場制のもとでの経済政策の効果 事前学修: 教科書第 7 章 (P.167-172) を予め読んでおくこと 事後学修: 固定相場制のもとでの財政政策の効果、金融政策の効果、為替レート変更の効果、保護主義的な貿易政策の効果について復習すること
9 回	授業内容: 変動相場制のもとでの経済政策の効果 事前学修: 教科書第 7 章 (P.172-178) を予め読んでおくこと 事後学修: 変動相場制のもとでの財政政策の効果、金融政策の効果、為替レート変更の効果、保護主義的な貿易政策の効果について復習すること
10 回	授業内容: マクロ経済分析の基本的な枠組み、短期のケインズモデル、長期の新古典派モデル 事前学修: 教科書第 3 章 (P.52-66) および第 8 章 (P.183-192) を予め読んでおくこと 事後学修: 長期均衡モデルにおける労働市場の均衡と産出量の決定、財市場の均衡と利率の決定、貨幣市場の役割、貨幣数量説を復習すること
11 回	授業内容: 供給サイドを考慮した長期モデルの分析 事前学修: 教科書第 8 章 (P.193-203) を予め読んでおくこと 事後学修: マネーサプライと名目 GDP 及びインフレーションの関係、期待物価上昇率、「名目」利率と「実質」利率について復習すること
12 回	授業内容: 物価水準はどのように決まるのか / IS・LM モデルの拡張① 事前学修: 教科書第 9 章 (P.208-213) を予め読んでおくこと 事後学修: ケインジアンと古典派の総供給曲線、現実的な短期の総供給曲線、労働者錯覚モデル、総供給関数における長期と短期について確認し講義内容を復習すること
13 回	授業内容: 物価水準はどのように決まるのか / IS・LM モデルの拡張② 事前学修: 教科書第 9 章 (P.214-222) を予め読んでおくこと 事後学修: 物価水準の決定、名目賃金率の伸縮性、労働市場と完全雇用、ヒグー効果、AD/AS 分析と財政・金融政策の効果、価格の調整速度について復習すること
14 回	授業内容: インフレとデフレ 事前学修: 教科書第 10 章を熟読しておくこと 事後学修: フィリップス曲線とインフレーション、合理的期待形成と自然失業率仮説、インフレとデフレの社会的費用の概念を整理し復習すること
15 回	授業内容: 第 2 回から第 14 回までの要点まとめ 事前学修: 教科書第 2 章から 10 章までの各章を読み、各章のポイントを確認すること 事後学修: 各章の講義レジュメを参照し、講義ノートを整理し、全体復習すること

◆**教科書** 〔函沼〕「入門マクロ経済学」中谷巖 第 5 版 日本評論社

◆**参考書** なし

◆**成績評価基準** 試験 (70%)、講義内課題 (30%)。毎回出席することを前提として評価し、基礎理論を身に付けているかを判定する。

### 注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談 (連絡先) に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

# 講座内容 (シラバス)

## 〔国際政治学 / 国際政治論 / 国際政治学概論〕

大八木 時広

◆**授業概要** グローバル化が進展する国際社会においては、人権、人種・民族問題、核兵器の拡散と軍縮問題、安全保障と国際貢献、経済における相互依存関係の深まり、地域経済統合、国際社会における貧困や格差、国際協調の推進などの問題が生じている。それらの問題や課題を理解させるとともに、国際社会における日本の果たすべき役割について認識させる。以上の点について、本講義では国際政治史の視点から授業をおこなう。

◆**学修到達目標** 授業概要で述べられているような項目について、国際政治上の出来事、とりわけ 20 世紀の国際政治史の出来事に関して説明することができるようになる。具体的には、戦後の新たな国際秩序とは何か、冷戦はどのようにして始まり、進展していったのか、多極化世界とは何かについて述べるようになる。またそうした国際政治史上の知識を、現代の国際政治上の課題と結びつけて説明できるようになる。

◆**授業方法** 受講者にはあらかじめテキストで予習してもらい、授業当日はレジュメ形式のプリントを配布する。そのレジュメの内容に従い、レジュメ内の年表、写真、地図を参照しつつ、そしてパワーポイントなども用いて受講者の理解の手助けとしつつ講義を進める。なおスクーリング中、適時リアクションペーパーの記入と提出を求め、受講者の理解度をチェックする。リアクションペーパーについては授業内で解説を行い、受講者の理解度をさらに深めていく。

◆**履修条件**

◆**授業計画 (各 90 分)**

1 回	授業内容 事前学修 事後学修	授業ガイダンスをおこない、授業の進め方、成績評価などについて説明する。また 20 世紀前半の国際政治について概説する。 テキストのまえがき、および 24 ~ 42 項を読んで 20 世紀前半の国際政治について理解しておくこと。 配布プリントと自分のノートを整理して、授業内容を理解しておくこと。
2 回	授業内容 事前学修 事後学修	新たな国際秩序 第二次世界大戦終了後、ヤルタ体制とブレトンウッズ体制がどのように形成され、新たな戦後国際秩序が形成されたか説明する。 テキスト 44 ~ 60 項を読んで、ヤルタ体制とブレトンウッズ体制が形成された背景について理解しておくこと。 配布プリントと自分のノートを整理して、とくにヤルタ体制とブレトンウッズ体制の担い手の違いについて確認し、授業内容を理解しておくこと。
3 回	授業内容 事前学修 事後学修	ソ連脅威論と封じ込め政策 ソ連脅威論がどのようなものであったのか、またそれに対してアメリカは対ソ封じ込め政策をどのように展開したのか説明する。 テキスト 50 ~ 71 項を読んで、ソ連脅威論が登場する国際情勢について理解しておくこと。 配布プリントと自分のノートを整理して、とくに封じ込め政策の性格についてまとめ、授業内容を理解しておくこと。
4 回	授業内容 事前学修 事後学修	アジアの独立 アジア、とくに中国や東南アジアにおける独立運動がどのように展開されて、どのような国々が誕生したのか説明する。 テキスト 98 ~ 112 項、および 134 ~ 150 項を読んで、アジア独立の背景となった国際情勢について理解しておくこと。 配布プリントと自分のノートを整理して、とくにアジア独立運動の性格についてまとめ、授業内容を理解しておくこと。
5 回	授業内容 事前学修 事後学修	戦後日本～占領から独立へ アメリカによってどのような占領政策が展開されたか、また日本がどのように独立を回復したか説明する。 テキスト 152 ~ 167 項を読んで、占領政策の背景となる国際情勢について理解しておくこと。 配布プリントと自分のノートを整理して、とくに日本占領がなぜ早期に終了したのかについてまとめ、授業内容を理解しておくこと。
6 回	授業内容 事前学修 事後学修	冷戦下の国際危機(1) 冷戦下で発生したベルリン危機と台湾海峡危機について、どのような国際的背景の下でなぜ発生したか説明する。 テキスト 86 ~ 92 項、および 254 ~ 257 項を読んで、危機発生時の背景となる国際情勢について理解しておくこと。 配布プリントと自分のノートを整理して、とくに危機の収束の仕方についてまとめ、授業内容を理解しておくこと。
7 回	授業内容 事前学修 事後学修	冷戦下の国際危機(2) 冷戦下で発生したキューバ危機について、どのような国際的背景の下でなぜ発生したか説明する。 テキスト 287 ~ 297 項を読んで、ベルリン危機発生時の背景となる国際情勢について理解しておくこと。 配布プリントと自分のノートを整理して、とくにベルリン危機の収束の仕方についてまとめ、授業内容を理解しておくこと。
8 回	授業内容 事前学修 事後学修	多極化世界(1) スターリンの死後、ソ連陣営がどのように動揺し、その中で中ソがどのように対立に至ったのか、そのことが冷戦下の国際政治にどのような影響を及ぼしたのか説明する。 テキスト 226 ~ 242 項を読んで、中ソ対立の背景となる国際情勢について理解しておくこと。 配布プリントと自分のノートを整理して、とくに中ソ対立の国際的影響についてまとめ、授業内容を理解しておくこと。
9 回	授業内容 事前学修 事後学修	多極化世界(2) 第三世界における民族独立運動がどのように展開されたのか、また独立した新興諸国がどのようにして結果を固めたのかについて、非同盟運動などを取り上げつつ説明する。 テキスト 271 ~ 280 項を読んで、第三世界における民族独立運動の背景となる国際情勢について理解しておくこと。 配布プリントと自分のノートを整理して、とくに非同盟運動についてまとめ、授業内容を理解しておくこと。
10 回	授業内容 事前学修 事後学修	デタント(1) 旧西ドイツによる緊張緩和のための外交(東方外交)がどのように展開されたのか、また CSCE(全欧安全保障協力会議)がどのように開かれたのかについて説明する。 テキスト 320 ~ 327 項を読んで、東方外交と CSCE の背景について理解しておくこと。 配布プリントと自分のノートを整理して、とくに CSC の意義についてまとめ、授業内容を理解しておくこと。
11 回	授業内容 事前学修 事後学修	デタント(2) ます米ソによるデタントの試み、とりわけ米ソの核軍備管理交渉がどのように展開されたのか、またデタントがなぜ揺らいだのかについて説明する。 テキスト 327 ~ 336 項を読んで、米ソデタント外交の背景について理解しておくこと。 配布プリントと自分のノートを整理して、とくに米ソの軍備管理の成果と課題についてまとめ、授業内容を理解しておくこと。
12 回	授業内容 事前学修 事後学修	冷戦終結(1) ソ連のゴルバチョフによって、ペレストロイカと新思考外交という内政・外交の改革がなぜ行われ、どのように進展したのか、これらはどのような国際的影響を及ぼしたか説明する。 テキスト 358 ~ 370 項を読んで、ペレストロイカの影響について理解しておくこと。 配布プリントと自分のノートを整理して、とくに新思考外交が及ぼした影響についてまとめ、授業内容を理解しておくこと。
13 回	授業内容 事前学修 事後学修	冷戦終結(2) ポーランドやハンガリーといった東欧の社会主義諸国がどのようにして社会主義体制から脱却したのか(東欧市民革命)、ベルリンの壁はいかにして崩壊したのか説明する。 テキスト 371 ~ 374 項を読んで、東欧市民革命の背景について理解しておくこと。 配布プリントと自分のノートを整理して、とくに東欧市民革命が及ぼした影響についてまとめ、授業内容を理解しておくこと。
14 回	授業内容 事前学修 事後学修	冷戦終結(3) ドイツ統一とソ連邦解体について、それぞれどのようなプロセスをたどり、また冷戦の終結にどのような影響をおよぼしたのか説明する。 テキスト 372 ~ 374 項、および 388 ~ 390 項を読んで、ドイツ統一とソ連邦解体の背景について理解しておくこと。 配布プリントと自分のノートを整理して、ドイツ統一とソ連邦解体が及ぼした影響についてまとめ、授業内容を理解しておくこと。
15 回	授業内容 事前学修 事後学修	グローバル化世界の課題 冷戦終結後の現代世界が抱える諸問題を、グローバル・イシューの観点から説明する。 テキスト 390 ~ 402 項を読んで、グローバル化世界の諸問題について理解しておくこと。 配布プリントと自分のノートを整理して、とりわけ緊急性の高いグローバル・イシューについてまとめ、授業内容を理解しておくこと。

◆**教科書** 〔瓦河〕『20 世紀の国際政治 (第 3 版)』松岡完 同文館出版

◆**参考書** 〔瓦河〕『アメリカとヨーロッパ』渡邊啓貴 中公新書

◆**成績評価基準** 授業内テスト (60%)、リアクションペーパー (40%) を総合して評価します。授業内テストはスクーリング最終日に実施します。リアクションペーパーはスクーリング期間内に 4 回程度書いてもらう予定です。

◆**授業相談 (連絡先)**: 初回授業時に案内します。

**注意**

# 講座内容（シラバス）

## 〔地方自治論〕

山田 光矢

- ◆**授業概要** 人類の歴史から、家族や集落や地域組織や国家の誕生と発展、地方自治制度の歴史と現状などを、ヨーロッパ諸国と日本の比較や、主権と自治権と人権の関係と地方自治制度の本質の分析を通じて、明治維新から現在までの日本の地方自治制度の確立と変遷を理解してもらい、日本の地方自治制度改革の歴史、目的、政策の特徴などの分析を通じて、日本の地方分権改革の現状と今後のあり方を解説する。
- ◆**学修到達目標** 日本の地方自治制度の現状を、明治維新以降の日本の地方自治制度改革の歴史から理解し、現状を維持すべきとするならその理由を、改革すべきとするならどこをどのように改革すべきかについて、自分の考えを確立する。
- ◆**授業方法** 講義形式を中心に基礎的な事項の理解を高めるとともに、項目ごとに討論や質疑応答を行い、各自の考えを確立できるように進めていく。
- ◆**履修条件** やる気さえあればその他の条件は特にありません。
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容：地方自治制度を国と地方の関係から解説する 事前学修：国家とはどのようなものか、地方公共団体とはどのようなものなのかを考えてくる 事後学修：国家と地方の関係に関する自分の考えを確認する
2 回	授業内容：自治権の理論を解説する 事前学修：教科書の関連した部分を読んでくる 事後学修：固有権説、伝來說、制度的保障説、団体主権論の相違を理解する
3 回	授業内容：日本とヨーロッパ主要国の地方自治制度の相違を解説する 事前学修：教科書の関連した部分を読んでくる 事後学修：日本の地方自治制度の特色をヨーロッパ諸国との比較から理解する
4 回	授業内容：地方政府の形態を解説する 事前学修：教科書の関連した部分を読んでくる 事後学修：委員会制、首長制、議院内閣制、市支配人制の相違を理解する
5 回	授業内容：明治維新・大日本帝国憲法と日本の地方自治制度を解説する 事前学修：教科書の関連した部分を読んでくる 事後学修：明治維新後の廃藩置県と行政村等、三新法下の自治制度、明治の大合併後の地方自治制度を理解する
6 回	授業内容：日本国憲法と地方自治制度（制限列举方式、概括例示方式） 事前学修：教科書の関連した部分を読んでくる。日本国憲法第 8 章の内容を考えてくる 事後学修：地方自治の本旨に関する自分の考えを確立する。自治権の種類や独立規制（行政）委員会制度等を再確認する
7 回	授業内容：戦後の地方自治制度改革の歴史と特徴を解説する 事前学修：ドッジ・ラインやシャープ勧告、地方公共団体の種類等を中心に、教科書の関連した部分を読んでくる 事後学修：戦後の地方自治制度改革の内容・普通地方公共団体・特別地方公共団体の種類や特徴を理解する
8 回	授業内容：昭和の大合併とその後の第一次から第七次までの全国総合開発計画と広域行政の展開 事前学修：教科書の関連した部分を読んでくる 事後学修：広域市町村圏、地方生活圏、一部事務組合、広域連合等について理解する
9 回	授業内容：平成の大合併と国土形成計画・新国土形成計画および定住自立圏・地域自治組織・連携中枢都市圏等を解説する 事前学修：教科書の関連した部分を読んでくる 事後学修：広域行政（定住自立圏、連携中枢都市圏等）と身近な行政（地域自治組織等）の特徴と望ましいあり方について理解する
10 回	授業内容：地方財政制度の特徴と問題点を解説する 事前学修：教科書の関連した部分を読んでくる 事後学修：地方交付税交付金と国庫支出金（補助金）と三位一体の改革等の目的と内容等について理解する
11 回	授業内容：イギリスと日本の地方自治制度の共通点と異質点について、歴史を踏まえて解説する 事前学修：『政経研究』第 56 巻第 3 号にアクセスして論文を入手し関連部分に目を通してくる 事後学修：両国の広域行政と身近な行政に関する考え方と改革の特徴について理解する
12 回	授業内容：イギリスの地方自治制度改革の方向性について解説する 事前学修：『政経研究』第 56 巻第 3 号にアクセスして論文を入手し関連部分に目を通してくる 事後学修：イギリスの四地域の広域自治体、原則一層制の基礎自治体、パリッシュやコミュニティによる身近な準自治体について理解する
13 回	授業内容：日本の地方自治制度改革の方向性について解説する 事前学修：『政経研究』第 56 巻第 3 号にアクセスして論文を入手し関連部分に目を通してくる 事後学修：日本の広域行政制度の種類と特徴と、身近な行政の不十分さ等について理解する
14 回	授業内容：日本とイギリスの地方自治制度改革の共通性と相違点等について解説する 事前学修：『政経研究』第 56 巻第 3 号にアクセスして論文を入手し関連部分に目を通してくる 事後学修：日本の身近な行政の望ましい方向性について、地域自治組織や地域運営組織等を中心に理解する
15 回	授業内容：これまでの講義の総括 事前学修：これまでの講義の内容を整理してくる 事後学修：日本の地方自治制度改革の歴史と特徴等をイギリスと比較して理解する

- ◆**教科書** 丸沼『地方自治論』福島康仁編・山田光矢他著 弘文堂 2,000 円（税別）  
〔当日資料配布〕山田光矢著「日本とイギリスの冷戦終焉期以降の地方自治改革の歴史と日本の今後」日本大学法学部『政経研究』（第 56 巻第 3 号）2019 年 9 月。法学部にアクセスして論文を入手してください。
- ◆**参考書**
- ◆**成績評価基準** 試験を 60%、平常点を 20%、小テストやレポート等を 20%程度で評価する。
- ◆**授業相談（連絡先）**：講義の日の空いている時間を使います。時間がない場合にはメール等で対応します。

注意

# 講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔経済学史 / 経済学説史〕 オープン受講：不可

塚本 隆夫

◆**授業概要** 17 世紀のイギリスで展開された「重商主義」から、19 世紀の「古典派経済学」までの経済学の歴史的展開過程を考察する。「経済学」は、一見すると時代や地域を超越した普遍性があるよう思われる。しかし経済学には、それが構築された時代や地域から有形・無形の制約を被っている。このことが経済学に様々な「学派」を産み出す大きな理由の一つである。本講では、経済学が構築された 17 世紀から 19 世紀前半までのイギリスとフランスを中心に、経済学と時代との関係を解き明かす。経済学者たちがどのように時代の問題に取り組み、「経済学」を構築してきたのかを考察する。

◆**学習到達目標** 経済学の歴史を辿ることで受講生は、経済学者たちが自分の時代の「経済問題」に取り組み、その知的格闘の成果として「経済学」が結実したものであることを、理解できるようになる。換言すれば、経済学と時代との関係を説明できることを目標とする。これを通して、経済学の「科学性」とはどのような意味なのか、を受講生が考察できることを目指す。

◆**授業方法** 授業の進行に応じ、受講生との討議を行う。この討議を通じて受講生は、自ら考察し、講義内容の理解を深めることができる。講義資料を配布する。毎回、「課題」等を課す。なお受講生の理解度に応じて、授業の進行を調整する。

◆**履修条件** 令和元年東京スクーリング (6 月期 1 期)「経済学史 / 経済学説史」との積み重ねは不可。ミクロ・マクロ経済理論の基礎を学習していること。

### ◆授業計画 (各 90 分)

1 回	<p>授業内容：経済学が成立するための条件とは：市場経済体制の形成とその特質</p> <p>事前学修：テキストを読了しておく。テキスト 288～295 ページの国民所得決定論を予習しておくこと。市場経済の特質、貨幣の役割、社会的分業について調べる。</p> <p>事後学修：配布された講義資料とノートを整理し、「課題」に答える。</p>
2 回	<p>授業内容：重商主義が成立する条件とは：貨幣の機能と 17～18 世紀のイギリスの時代背景</p> <p>事前学修：テキスト 1～42 ページを再読しておく。貨幣の役割を予習する。</p> <p>事後学修：配布された講義資料とノートを整理し、「課題」に答える。</p>
3 回	<p>授業内容：重商主義の貿易理論：3 つの「貿易差額説」</p> <p>事前学修：テキスト 43～65 ページを再読。参考文献等で関連事項を研究する。</p> <p>事後学修：配布された講義資料とノートを整理し、「課題」に答える。</p>
4 回	<p>授業内容：重商主義の貿易差額説への批判と反批判</p> <p>事前学修：参考文献等で「重商主義」を研究しておくこと。「貨幣数量説」を調べる。</p> <p>事後学修：配布された講義資料とノートを整理し、「課題」に答える。</p>
5 回	<p>授業内容：フランス重商主義：コルベール政策の功罪</p> <p>事前学修：テキスト 66～71 ページを再読。参考文献等で関連事項を研究する。</p> <p>事後学修：配布された講義資料とノートを整理し、「課題」に答える。</p>
6 回	<p>授業内容：フランス啓蒙思想のインパクト：自然法と自然秩序の思想</p> <p>事前学修：テキスト 71～74 ページを再読。参考文献等で関連事項を研究する。</p> <p>事後学修：配布された講義資料とノートを整理し、「課題」に答える。</p>
7 回	<p>授業内容：フランス重農主義：ケネーの「経済表」を読み解く</p> <p>事前学修：テキスト 75～84 ページを再読。参考文献等で関連事項を研究する。</p> <p>事後学修：配布された講義資料とノートを整理し、「課題」に答える。</p>
8 回	<p>授業内容：アダム・スミスの時代背景：18 世紀のイギリスの社会経済問題とは</p> <p>事前学修：テキスト 86～89 ページを再読。参考文献等で関連事項を研究する。</p> <p>事後学修：配布された講義資料とノートを整理し、「課題」に答える。</p>
9 回	<p>授業内容：スミスの富とは：分業論と交換論</p> <p>事前学修：テキスト 89～93 ページを再読。参考書で関連事項を研究する。ミクロ経済学の消費者行動分析を確認しておく。</p> <p>事後学修：配布された講義資料とノートを整理し、「課題」に答える。</p>
10 回	<p>授業内容：スミスの労働価値説と価格論</p> <p>事前学修：テキスト 93～98 ページを再読。参考文献等で関連事項を研究する。</p> <p>事後学修：配布された講義資料とノートを整理し、「課題」に答える。</p>
11 回	<p>授業内容：スミスの経済成長論</p> <p>事前学修：テキスト 98～106 ページを再読。参考文献等で関連事項を研究する。</p> <p>事後学修：配布された講義資料とノートを整理し、「課題」に答える。</p>
12 回	<p>授業内容：マルサスの「人口原理」</p> <p>事前学修：テキスト 106～115 ページを再読。参考文献等で関連事項を研究する。PPF (生産可能性境界線) 曲線の分析を予習する。</p> <p>事後学修：配布された講義資料とノートを整理し、「課題」に答える。</p>
13 回	<p>授業内容：マルサスとリカードの「穀物法論争」</p> <p>事前学修：テキスト 115～121 ページを再読。参考文献等で関連事項を研究する。マクロ経済学 AS・AD 分析を予習する。</p> <p>事後学修：配布された講義資料とノートを整理し、「課題」に答える。</p>
14 回	<p>授業内容：リカードの「差額地代」と経済成長論</p> <p>事前学修：テキスト 121～133 ページを再読。参考文献等で関連事項を研究する。</p> <p>事後学修：配布された講義資料とノートを整理し、「課題」に答える。</p>
15 回	<p>授業内容：最終試験を実施し、受講生の授業理解度を把握する。</p> <p>事前学修：これまでの授業内容を整理し、不明な点を授業時質問できるようにしておくこと。</p> <p>事後学修：4 日間の授業内容を整理・確認し、経済学と時代との関係を理解できるようにする。</p>

◆**教科書** 〔選〕「経済学史 R30100/ 経済学説史 L31300」通信教材 (教材コード 000160)  
〔当日資料配布〕授業時に講義資料・課題等を配布します

◆**参考書** 〔汎用〕「コアテキスト 経済学史」井上義朗 新世社 2004 年刊行  
〔汎用〕「入門 経済思想史 世俗の思想家たち」ハイルブローナー ちくま学芸文庫 2001 年刊  
〔汎用〕「反・経済学入門：経済学は生き残れるのか—経済思想史からの警告—」有江大介 創風社 2019 年刊  
〔汎用〕「やりなおす経済史」蔭山克秀 ダイアモンド社 2014 年刊

◆**成績評価基準** 授業時の小テスト・課題および最終試験を総合的に判断し、成績を評価します。

**注意** E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談 (連絡先) に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

# 講座内容 (シラバス)

## 〔国文法〕

阿久澤 忠

◆**授業概要** 日本語学 (国語学) では、言葉のどの面に焦点を当てるかによって音韻論、語彙論、文字論などの分野があるが文法論もその一つであり、本授業ではその中で品詞分類の手順と、品詞の中の動詞を中心とした用言のしくみと働きについて学ぶ。

◆**学修到達目標** 日本の古典作品 (古今和歌集や徒然草) の言葉を対象として、そこに内在する文法的な法則を体系的に学び、その上で動詞を中心とした用言に対する認識を深め、古典を読解する力を養うことができる。さらには現代語の用言と比較してその違いや共通性を理解する。

◆**授業方法** 講義によって授業を進めてゆく。さらには各項目ごとに設けてある課題 (問題) も解いてゆく。質問もその都度受け、こちらからの問いかけもできるだけ多く行いたい。

◆**履修条件**

◆**授業計画 (各 90 分)**

1回	授業内容: ガイダンス・「文法」は言葉のどういう面を考察するのか。平安時代の日本語について—現代語との関係— 事前学修: シラバスによって授業内容を確認しておくこと。 事後学修: 授業の内容をノートし、整理しておくこと。
2回	授業内容: 文法論の単位—文・文節・単語—。「文章」について解説する。 事前学修: 配布資料の当該部分を読んでおくこと。 事後学修: 配布資料の当該部分の内容を確認し、整理しておくこと。
3回	授業内容: 文節の相互関係の3つの関係について解説する。 事前学修: 配布資料の当該部分の内容を読んでおくこと。 事後学修: 配布資料の当該部分の内容を確認し、整理しておくこと。
4回	授業内容: 文節の相互関係の残る3つの関係について解説する。 事前学修: 配布資料の当該部分の内容を読んでおくこと。 事後学修: 配布資料の当該部分の内容を確認し、整理しておくこと。
5回	授業内容: 文節と単語に関する「課題」を解く。 事前学修: 配布資料にある「課題」の部分をおらかじめ解いておくこと。 事後学修: 「課題」の答えを確認し、その「課題」を通してこれまでの学習を整理しておくこと。
6回	授業内容: 「連文節」について解説する。 事前学修: 配布資料の NO 4, 5 の「連文節」の項目を読んでおくこと。 事後学修: 配布資料の当該部分の内容を確認し、整理しておくこと。
7回	授業内容: 配布資料の NO 5 の「連文節」についての「課題」を解く。 事前学修: 配布資料にある「課題」の部分をおらかじめ解いておくこと。 事後学修: 「課題」の答えを確認し、その「課題」を通してこれまでの学習を整理しておくこと。
8回	授業内容: 品詞分類に至るプロセス (その1) を解説する。 事前学修: 配布資料の NO 6, 7 の「詞と辞」と「活用の有無」の項目を読んでおくこと。 事後学修: 配布資料の当該部分の内容を確認し、整理しておくこと。
9回	授業内容: 品詞分類に至るプロセス (その2) を解説する。 事前学修: 配布資料の NO 7 の「品詞分類の手続」の項目を読んでおくこと。 事後学修: 配布資料の当該部分の内容を確認し、整理しておくこと。
10回	授業内容: 品詞分類に関する「課題」を解く。 事前学修: 配布資料にある「課題」の部分をおらかじめ解いておくこと。 事後学修: 「課題」の答えを確認し、その「課題」を通してこれまでの学習を整理しておくこと。
11回	授業内容: 動詞の活用の種類とその活用形について (その1) 事前学修: 配布資料の NO 13 の項目を読んでおくこと。 事後学修: 配布資料の当該部分の内容を確認し、整理しておくこと。
12回	授業内容: 動詞の活用の種類とその活用形について (その2) 事前学修: 配布資料の NO 14 「それぞれの活用の種類の具体的な動詞」を読んでおくこと。 事後学修: 配布資料の当該部分の内容を確認し、整理しておくこと。
13回	授業内容: 動詞に関する「課題」を解く。 事前学修: 配布資料の NO 17 の「課題 (一)」をおらかじめ解いておくこと。 事後学修: 「課題」の答えを確認し、その「課題」を通してこれまでの学習を整理しておくこと。
14回	授業内容: 動詞の研究について説明し、その資料を読む—本居宣長『御国詞活用少』など 事前学修: 配布資料の最後にある『御国詞活用抄』などに目を通しておくこと。 事後学修: 動詞の研究の歴史、その歩みについて整理しておくこと。
15回	授業内容: 形容詞と形容動詞の活用と種類について—主に動詞との比較において。質疑応答 事前学修: 配布資料の NO 15 「形容詞の活用と種類」 NO 16 「形容動詞の活用と種類」に目を通しておくこと。 事後学修: 形容詞、形容動詞の活用と種類について整理すること。

◆**教科書** (当日資料配布)

◆**参考書** (当日資料配布)

◆**成績評価基準** 試験 (90%)、授業の取り組み (10%) 毎回出席することを前提として評価します。

◆**授業相談 (連絡先)**: 初回授業時に案内します。

注意

# 講座内容（シラバス）

## 〔国語学講義〕

鈴木 功眞

- ◆**授業概要** 日本語は歴史的に変化している。それをまとめたものが日本語史である。そこで、本スクーリングでは日本語史の分野のうち、特に語彙史・文体史・日本語学史を中心に講義する。日本語の語彙は語種の点で特徴があり、文体は日本語の表記体系の特徴を踏まえた特徴があり、日本語を学問として考究した先学の蓄積により学史がある。それらを具体的な資料等を参照しながら講義する。
- ◆**学修到達目標** 日本語の歴史のうち、語彙史・文体史・日本語学史について、資料論・文字史・音韻史・文法史・敬語史を踏まえながら具体的に説明することができる。特にさまざまな日本語の歴史的資料に対したときにその資料にどのような特徴があるのかを必要な参考文献を引用しながら説明できるようにすることを目標とする。それは日本語史的学問への入門になる。
- ◆**授業方法** 日本語史は具体的な資料を離れて抽象的な記述を行うことも可能であるが、本スクーリングでは可能な限り具体的な資料の影印等を参照しながら講義を進める計画である。積極的に解読や用例採集等の作業に参加してほしい。そうすることによって、学問として蓄積されている日本語史に対しても具体的な理解が深まるであろう。本授業の事前学修・事後学修の時間は各2時間を目安としている。

### ◆履修条件

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1回	授業内容：ガイダンス、日本語学・日本語史とは 事前学修：テキスト序論を見しておくこと 事後学修：テキスト表記史・音韻史・文法史・敬語史の概要を把握しておくこと
2回	授業内容：語彙史1、日本語の語彙の特徴 事前学修：テキスト71～79ページを読んでおくこと 事後学修：日本語史の観点でとらえた日本語の語彙の特徴をまとめておくこと
3回	授業内容：語彙史2、語種・語構成・位相語 事前学修：テキスト79～84ページを読んでおくこと 事後学修：日本語史の観点でとらえた語種・語構成・位相語をまとめておくこと
4回	授業内容：語彙史3、中古までの語彙 事前学修：テキスト85～91ページを読んでおくこと 事後学修：中古までの語彙史をまとめておくこと
5回	授業内容：語彙史4、中世以降の語彙 事前学修：テキスト91～97ページを読んでおくこと 事後学修：中世以降の語彙史をまとめておくこと
6回	授業内容：文体史1、仮名文以前 事前学修：テキスト215～225ページを読んでおくこと 事後学修：仮名文以前の文体史をまとめておくこと
7回	授業内容：文体史2、仮名文 事前学修：テキスト225～230ページを読んでおくこと 事後学修：仮名文を文体史の中に位置づけること
8回	授業内容：文体史3、和漢混濁文 事前学修：テキスト231～245ページを読んでおくこと 事後学修：和漢混濁文の文体史をまとめておくこと
9回	授業内容：文体史4、口語再現の萌芽 事前学修：テキスト245～253ページを読んでおくこと 事後学修：中世・近世の文体史をまとめておくこと
10回	授業内容：文体史5、言文一致体・文体の分析 事前学修：テキスト253～258ページを読んでおくこと 事後学修：言文一致体の文体史と、文体の分析についてまとめておくこと
11回	授業内容：学史1、歌学と国学 事前学修：テキスト261～267ページを読んでおくこと 事後学修：歌学と国学を日本語学史の中で位置づけること
12回	授業内容：学史2、てにをはと品詞の研究史 事前学修：テキスト268～275ページを読んでおくこと 事後学修：てにをはと品詞の研究史をまとめておくこと
13回	授業内容：学史3、活用と係り結びの研究史 事前学修：テキスト275～278ページを読んでおくこと 事後学修：活用と係り結びの研究史をまとめておくこと
14回	授業内容：学史4、音韻と仮名遣いの研究史 事前学修：テキスト278～285ページを読んでおくこと 事後学修：音韻と仮名遣いの研究史をまとめておくこと
15回	授業内容：まとめ、これからの日本語 事前学修：ここまでの授業を改めて復習し、日本語史を把握しておくこと 事後学修：ここまでの講義を踏まえ身の回りの日本語の中から歴史の変遷を自身で蒐集すること

◆**教科書** 丸沼『国語史を学ぶ人のために』木田章義編 世界思想社 2013年

◆**参考書** 丸沼『緑の日本語学教本』藤田保幸著 和泉書院 2010年

丸沼『日本語史概説』沖森卓也編 朝倉書店 2010年

◆**成績評価基準** 毎回の課題への取り組み・最終レポートにより総合的に評価します。

◆**授業相談（連絡先）**：szk@sun.main.jp

## 注意



## 講座内容（シラバス）

### 〔国語音声学〕

林 直樹

- ◆**授業概要** 日本語の音声・音韻・リズム・アクセント・イントネーションについて概説する。
- ◆**学修到達目標** ・日本語の音声・アクセント・イントネーション等についての基礎的な知識を習得するとともに、その研究方法を学ぶ
  - ・音声学、日本語音韻論を学ぶことにより、国際音声記号での音声表記ができるようになる。
  - ・音声を音韻に抽象化していく方法を知り、各自の音韻体系が明示できるようになる。
- ◆**授業方法** ・パワーポイントなどによる講義形式。ただし、授業中受講者に発音などを求める。
- ◆**履修条件** なし
- ◆**授業計画（各90分）**

1回	授業内容：はじめに・音声学とは何か 事前学修：音声学とはどのような学問か、理解してくる 事後学修：授業内容を復習し、理解を深める
2回	授業内容：国際音声記号 事前学修：国際音声記号について予習してくる 事後学修：授業内容を復習し、理解を深める
3回	授業内容：音声器官、発音の仕組み 事前学修：音声器官について予習してくる 事後学修：授業内容を復習し、理解を深める
4回	授業内容：母音(1) 事前学修：母音の特徴について予習してくる 事後学修：授業内容を復習し、理解を深める
5回	授業内容：母音(2) 事前学修：母音の調音について予習してくる 事後学修：授業内容を復習し、理解を深める
6回	授業内容：母音(3) 事前学修：母音の多様性について予習してくる 事後学修：授業内容を復習し、理解を深める
7回	授業内容：子音(1) 事前学修：子音の特徴について予習してくる 事後学修：授業内容を復習し、理解を深める
8回	授業内容：子音(2) 事前学修：子音の調音について予習してくる 事後学修：授業内容を復習し、理解を深める
9回	授業内容：子音(3) 事前学修：子音の多様性について予習してくる 事後学修：授業内容を復習し、理解を深める
10回	授業内容：異音 事前学修：異音について予習してくる 事後学修：授業内容を復習し、理解を深める
11回	授業内容：日本語のリズム（拍・音節・フット） 事前学修：日本語のリズムについて予習してくる 事後学修：授業内容を復習し、理解を深める
12回	授業内容：日本語のアクセント 事前学修：日本語のアクセントについて予習してくる 事後学修：授業内容を復習し、理解を深める
13回	授業内容：日本語のイントネーション 事前学修：日本語のイントネーションについて予習してくる 事後学修：授業内容を復習し、理解を深める
14回	授業内容：13回までの内容の総合的な復習 事前学修：13回までの内容の復習 事後学修：13回までのないようにおいて理解の及んでいないところの確認と復習
15回	授業内容：定着度の確認（教場試験）と解説 事前学修：14回までの内容の総合的な復習 事後学修：定着度の確認と解説を踏まえた各自課題の理解

- ◆**教科書** 教材『国語音声学 M31400』通信教育教材（教材コード000266）
- ◆**参考書**
  - 〔国語〕『現代言語学入門 2 日本語の音声』窪園晴夫（岩波書店 1999）
  - 〔国語〕『朝倉日本語講座 3 音声・音韻』上野善道編（朝倉書店 2003）
  - 〔国語〕『新明解アクセント辞典 第2版 CD付き』秋永一枝編（三省堂 2014）
  - 〔国語〕『日本のことばシリーズ』平山輝男監修（明治書院）※都道府県別、刊行中
  - 〔国語〕『日本語アクセント入門』松森晶子・新田哲夫・木部暢子・中井幸比古編著（三省堂 2012）
- ◆**成績評価基準** 試験（80%）、授業への参画度（20%）※全日程出席が試験受験資格となる
- ◆**授業相談（連絡先）**：初回授業時に案内します。

注意

# 講座内容 (シラバス)

〔国語学演習〕 オープン受講：不可

杉山 俊一郎

◆**授業概要** 『源氏物語』を取り上げ、そこに見られる国語史的特色について研究する。授業は演習形式で行う。本文の解説、調査、考察等の作業を通して、国語史研究の実際を学ぶとともに、各自の興味・関心をかたちにするにはどのようなアプローチが有効であるかについても考える。なお、本授業は言語史研究の対象として当該資料を取り扱うものであり、文学的鑑賞を目的とするものでない点、注意が必要である。

◆**学修到達目標** 本演習における学修到達目標は次の三点である。  
 ①調査文献に見られる言語事象について、国語学的な視座で考え、説明できるようになる。  
 ②言語史研究に必要な文献資料やツールの探し方、取り扱い方が理解できるようになる。  
 ③学術研究として成り立たせるためにはどのような手続きが必要なのか理解できるようになる。

◆**授業方法** 演習科目なので、全員が発表を行う。発表は一人二回を予定している。第一回が翻字・語釈・現代語訳（逐語訳）等の基礎的調査、第二回が任意の言語事象に絞ったより深い調査である。なお、報告時の討議で明らかになった追加課題についてレポートを課すことがある。

◆**履修条件**

◆**授業計画 (各 90 分)**

1回	授業内容 イントロダクション 授業の概要や進め方を説明する。また、本授業の対象である平安時代の国語史上における位置づけについて解説する。 事前学修 通信教育教材などを読んで、平安時代の国語史上における位置づけについて理解しておくこと。 事後学修 授業の内容をノートに整理し、配布資料や授業中に紹介する参考文献にあたって国語史の全体的な流れをおさえること。
2回	授業内容 資料概説 『源氏物語』の国語史上の位置づけについて解説する。 事前学修 事前配布資料や参考書を読んで、当該資料の概要についておさえておくこと。 事後学修 授業の内容をノートに整理し、配布資料や授業中に紹介する参考文献にあたって当該資料の国語史上における位置づけについて理解すること。
3回	授業内容 翻字作業の実際、受講者による発表と討議 具体例に基づきながら、翻字の際の注意点について説明する。あわせて、翻字の限界についても考える。 事前学修 くずし字辞典などを参照しながら予め担当箇所の翻字を行っておくこと。 事後学修 授業内容を確認しながら改めて担当箇所の翻字に修正点がないか確認すること。
4回	授業内容 漢字表記語の読み方の推定、受講者による発表と討議 ふりがなのない漢字表記語が、当時どのように読まれていたのかを推定する方法や、そのために用いる工具書にはどのようなものかについて解説する。 事前学修 国語辞典、古語辞典、漢和辞典などを参照しながら担当箇所に出現する漢字表記語の読み方を推定しておくこと。 事後学修 漢字表記語の読み方を推定する方法を整理すること。また、授業中に紹介する工具書の使用方法や注意点についても確認しておくこと。
5回	授業内容 清濁の推定、受講者による発表と討議 清濁を推定する方法や、そのために用いる工具書にはどのようなものがあるのかについて解説する。 事前学修 国語辞典、古語辞典、漢和辞典などを参照しながら担当箇所の清濁について推定しておくこと。 事後学修 清濁を推定する方法を整理すること。また、授業中に紹介する工具書の使用方法や注意点についても確認しておくこと。
6回	授業内容 歴史的仮名遣いととの比較、受講者による発表と討議 調査資料に見られる仮名表記語が歴史的仮名遣いと異なっている場合の注意点を解説する。 事前学修 担当箇所に歴史的仮名遣いと異なっている箇所がないか確認しておくこと。 事後学修 授業の内容を整理・確認した上で、当該資料中の仮名遣いの傾向について調べること。
7回	授業内容 句読点の付与、受講者による発表と討議 古典注釈書における全体的な傾向性を確認しつつ、句読点や鈎括弧の付け方について検討する。 事前学修 予め担当部分について句読点や鈎括弧を付けておくこと。 事後学修 全体の討議を踏まえて担当箇所に修正点がないか確認すること。
8回	授業内容 構文解析、受講者による発表と討議 古典文の構造について解説する。語の係り受けを中心としつつ、古典文の解析に特に注意が必要な構文についても説明を加える。 事前学修 文法書や古語辞典を参照して、予め担当部分の係り受けや構文などについて検討しておくこと。 事後学修 授業の内容をノートに整理し、配布資料や授業中に紹介する参考文献にあたって古典文の構造に習熟すること。
9回	授業内容 語の意味・用法の調査①—語義の分析—、受講者による発表と討議 語の意味・用法を特定するための着眼点について解説する。 事前学修 国語辞典、古語辞典などを参照して、担当箇所の単語のそれぞれがどのような意味・用法に該当するのかが検討しておくこと。 事後学修 語義記述のための着眼点について整理しておくこと。また、国語辞典や古語辞典の見方、情報の引き出し方についてもおさえること。
10回	授業内容 語の意味・用法の調査②—時代性からの分析—、受講者による発表と討議 語の意味・用法の時代性について検討する。また、或る語が当該資料中に存在する（存在しない）ということ为国語史上どのように位置付けるかについても考える。 事前学修 『日本国語大辞典（第二版）』『古語大鑑』をはじめとする国語辞典、古語辞典を参照しながら担当箇所に出現する語の意味・用法と時代性について確認しておくこと。 事後学修 国語辞典や古語辞典の見方、情報の引き出し方についておさえること。
11回	授業内容 語の意味・用法の調査③—位相的観点による分析—、受講者による発表と討議 語の意味・用法と位相の関係について検討する。また、それを踏まえた用例分類の方法について解説する。 事前学修 『日本国語大辞典（第二版）』『古語大鑑』をはじめとする国語辞典、古語辞典を参照しながら担当箇所に出現する語の意味・用法と位相の問題について確認しておくこと。 事後学修 国語辞典や古語辞典の見方、情報の引き出し方についておさえること。
12回	授業内容 用例収集の方法、受講者による発表と討議 用例収集のためのツールや方法について、実例を挙げて解説する。 事前学修 事前配布資料や参考書を読んで、用例収集にはどのようなツールや方法があるか確認しておくこと。 事後学修 用例収集のためのツールや方法には、それぞれどのようなメリット・デメリットがあるかをおさえ、自身の調査に適したものを選択できるようにすること。
13回	授業内容 文章論的解析の実際、受講者による発表と討議 『源氏物語』の文章構造について、特に文の切れ続き（長さ）、接続詞の使用、文末表現の諸点に注目して検討する。 事前学修 参考書などを参照して、担当箇所だけでなく、当該資料全体がどのような構成・構造で書かれているのか検討しておくこと。 事後学修 授業の内容を踏まえ、他の文献資料ではどのようになっているのかを確認すること。
14回	授業内容 文体史的観点による分析、受講者による発表と討議 『源氏物語』に見られる言語事象、または当該資料全体が、文体史的に見てどのように位置付けられるのかについて検討する。 事前学修 通信教育教材や参考書を読んで、「文体」「和文」「漢文訓読文」などの用語について理解を深めておくこと。 事後学修 授業中に紹介する参考文献にあたって当該資料の文体史上の位置づけについて、各自でさらに検討を加えてみる。
15回	授業内容 まとめ 授業のまとめを行う。各発表の講評も行い、本授業の到達点と課題をまとめる。 事前学修 各自で発表中に指摘された問題点や討議の内容などをまとめ、今後の課題について述べられるようにしておくこと。 事後学修 授業全体の振り返りを行い、国語史研究の基本的な手続きの取り方、各種ツールの取り扱い方、用例分析の方法などをおさえること。

◆**教科書** **【前記】**

- 【教材】『国語学講義 M30400』通信教育教材（教材コード 000088）
- 【教材】『国文法 M30300』通信教育教材（教材コード 000101）
- 【図説】『証本 源氏物語 橋姫（完）』三條西公正校注 武蔵野書院

◆**参考書**

- 【図説】『日本語学大辞典』日本語学会編 東京堂出版 2018年
- 【図説】『日本語学研究事典』飛田良文他編 明治書院 2007年
- 【図説】『ガイドブック 日本語学調査法』大木一夫編 ひつじ書房 2019年
- 【図説】『ガイドブック 日本語史』大木一夫編 ひつじ書房 2013年
- 【図説】『日本語調査法【古代語編】』青葉ことばの会編 1998年

◆**成績評価基準** 授業内での発表及び質疑応答への参加 100%。場合によっては出席態度を加味し、レポートを課す。

◆**授業相談 (連絡先)** : shun.sugi1984@gmail.com

**注意**

# 講座内容（シラバス）

〔国文学演習〕 オープン受講：不可

高橋 優美穂

- ◆**授業概要** 藤原定家撰の「百人一首」は、カルタや漫画などで親しまれている作品であるが、成立当時はカルタの形をとっていなかった。むしろ室町時代に『応永抄』や『宗祇抄』といった注釈書が成立して以来、古典作品として享受されてきたことに注目したい。この授業では「百人一首」の中から、各自一首ずつ好きな和歌を選び、古注釈書の内容を踏まえて口頭発表を行い、和歌の読解方法を学ぶ。
- ◆**学修到達目標** 「百人一首」の成立事情や、古注釈書の展開を説明することができるようになる。
  - ・平安時代から鎌倉時代までの和歌を学ぶことで、当時の風習や恋愛事情、歴史的背景との関わりなどの、古典文学の基礎知識を修得する。
  - ・口頭発表の方法を修得し、ディスカッションができるようになる。

- ◆**授業方法** 事前送付の資料に基づき、演習開始前に各自で発表資料を作成し、受講者と高橋に配布できるよう、準備をしておくこと。口頭発表は、個々の学生の発表と質疑による演習形式で行う。どうしても人前で発表することが難しい場合は、高橋に相談をすること。本授業の事前学修・事後学修の時間は各2時間を目安とする。

◆履修条件

◆授業計画（各90分）

1回	授業内容 事前学修 事後学修	ガイダンス：授業のテーマや到達目標および授業の方法について説明する 講義①「百人一首」の成立と撰者について 事前配布資料に基づき、各自発表資料を準備する。
2回	授業内容 事前学修 事後学修	講義② 作品の構成と撰歌基準について 教科書422ページ～447ページ「三、百人一首の内容と選歌意識」に目を通す。 教科書やノートなどを見直し、授業内容を整理すること。
3回	授業内容 事前学修 事後学修	講義③「百人一首」の注釈書について・発表順の決定 日本大学の図書館OPACで、「百人一首」の注釈書がどれくらいあるか調べておく。 教科書やノートなどを見直し、授業内容を整理すること。
4回	授業内容 事前学修 事後学修	口頭発表① 学生発表と質疑応答 発表者：発表資料の作成、資料を人数分用意する 発表者以外：教科書の該当部分を熟読し、疑問点をまとめ、質問の準備をする 発表者：質疑応答の内容を整理し、口頭発表の反省点をまとめる。担当した歌の追加調査を行い、歌の理解を深める。 発表者以外：質疑応答の内容を整理し、自分の口頭発表に備える。
5回	授業内容 事前学修 事後学修	口頭発表② 学生発表と質疑応答 発表者：発表資料の作成、資料を人数分用意する 発表者以外：教科書の該当部分を熟読し、疑問点をまとめておく 発表者：質疑応答の内容を整理し、口頭発表の反省点をまとめる。担当した歌の追加調査を行い、歌の理解を深める。 発表者以外：質疑応答の内容を整理し、自分の口頭発表に備える。
6回	授業内容 事前学修 事後学修	口頭発表③ 学生発表と質疑応答 発表者：発表資料の作成、資料を人数分用意する 発表者以外：教科書の該当部分を熟読し、疑問点をまとめ、質問の準備をする 発表者：質疑応答の内容を整理し、口頭発表の反省点をまとめる。担当した歌の追加調査を行い、歌の理解を深める。 発表者以外：質疑応答の内容を整理し、自分の口頭発表に備える。
7回	授業内容 事前学修 事後学修	口頭発表④ 学生発表と質疑応答 発表者：発表資料の作成、資料を人数分用意する 発表者以外：教科書の該当部分を熟読し、疑問点をまとめ、質問の準備をする 発表者：質疑応答の内容を整理し、口頭発表の反省点をまとめる。担当した歌の追加調査を行い、歌の理解を深める。 発表者以外：質疑応答の内容を整理し、自分の口頭発表に備える。
8回	授業内容 事前学修 事後学修	口頭発表⑤ 学生発表と質疑応答 発表者：発表資料の作成、資料を人数分用意する 発表者以外：教科書の該当部分を熟読し、疑問点をまとめ、質問の準備をする 発表者：質疑応答の内容を整理し、口頭発表の反省点をまとめる。担当した歌の追加調査を行い、歌の理解を深める。 発表者以外：質疑応答の内容を整理し、自分の口頭発表に備える。
9回	授業内容 事前学修 事後学修	口頭発表⑥ 学生発表と質疑応答 発表者：発表資料の作成、資料を人数分用意する 発表者以外：教科書の該当部分を熟読し、疑問点をまとめ、質問の準備をする 発表者：質疑応答の内容を整理し、口頭発表の反省点をまとめる。担当した歌の追加調査を行い、歌の理解を深める。 発表者以外：質疑応答の内容を整理し、自分の口頭発表に備える。
10回	授業内容 事前学修 事後学修	口頭発表⑦ 学生発表と質疑応答 発表者：発表資料の作成、資料を人数分用意する 発表者以外：教科書の該当部分を熟読し、疑問点をまとめ、質問の準備をする 発表者：質疑応答の内容を整理し、口頭発表の反省点をまとめる。担当した歌の追加調査を行い、歌の理解を深める。 発表者以外：質疑応答の内容を整理し、自分の口頭発表に備える。
11回	授業内容 事前学修 事後学修	口頭発表⑧ 学生発表と質疑応答 発表者：発表資料の作成、資料を人数分用意する 発表者以外：教科書の該当部分を熟読し、疑問点をまとめておく 発表者：質疑応答の内容を整理し、口頭発表の反省点をまとめる。担当した歌の追加調査を行い、歌の理解を深める。 発表者以外：質疑応答の内容を整理し、自分の口頭発表に備える。
12回	授業内容 事前学修 事後学修	口頭発表⑨ 学生発表と質疑応答 発表者：発表資料の作成、資料を人数分用意する 発表者以外：教科書の該当部分を熟読し、疑問点をまとめ、質問の準備をする 発表者：質疑応答の内容を整理し、口頭発表の反省点をまとめる。担当した歌の追加調査を行い、歌の理解を深める。 発表者以外：質疑応答の内容を整理し、自分の口頭発表に備える。
13回	授業内容 事前学修 事後学修	口頭発表⑩ 学生発表と質疑応答 発表者：発表資料の作成、資料を人数分用意する 発表者以外：教科書の該当部分を熟読し、疑問点をまとめ、質問の準備をする 発表者：質疑応答の内容を整理し、口頭発表の反省点をまとめる。担当した歌の追加調査を行い、歌の理解を深める。 発表者以外：質疑応答の内容を整理し、自分の口頭発表に備える。
14回	授業内容 事前学修 事後学修	口頭発表⑪ 学生発表と質疑応答 発表者：発表資料の作成、資料を人数分用意する 発表者以外：教科書の該当部分を熟読し、疑問点をまとめ、質問の準備をする 発表者：質疑応答の内容を整理し、口頭発表の反省点をまとめる。担当した歌の追加調査を行い、歌の理解を深める。 発表者以外：質疑応答の内容を整理し、自分の口頭発表に備える。
15回	授業内容 事前学修 事後学修	本授業のまとめと修得事項の確認 これまでの授業内容や発表内容を振り返り、修得した事項について整理しておく。 自分の発表資料と他の受講生の発表資料を見比べて、質疑を振り返り、修得事項の再確認を行う。

◆**教科書** 丸沼「百人一首」有吉保 講談社学術文庫 1983年

◆**参考書** 丸沼「百人一首」鳥津忠夫 角川書店 1999年  
丸沼「百人一首の作者たち—王朝文化論への試み」目崎徳衛 角川書店 2005年  
丸沼「百人一首の歴史学」関幸彦 日本放送出版協会 2009年  
丸沼「和歌とは何か」渡部泰明 岩波書店 2009年

◆**成績評価基準** 口頭発表60%、授業への参加度40%。  
口頭発表は、発表資料や内容の充実度で評価をする。授業への参加度は、質疑への積極的な参加について評価する。

◆**授業相談（連絡先）**：メールアドレス takahashi.yumih@nihon-u.ac.jp  
※「60」は数字。  
※件名に「通信夏期スクーリング」と記載してください。

注意

# 講座内容（シラバス）

〔イギリス文学史Ⅰ〕 オープン受講：不可

常名 朗央

◆**授業概要** 毎回配布するプリントを使い、各時代の政治・文化的状況とその時代の文学作品を時系列ごとに学んでいきます。各講義の終わりに次回取り扱うテキストの説明をします。指定したテキスト（作品）を図書館などで見つけて熟読しておくことが望ましいのですが（購入の必要はありません）、内容を把握しておくだけでも充分です。興味を持った作品は是非翻訳本で読むようにしてください。

◆**学修到達目標** シェイクスピア、ミルトン、オースティン、ペトラルカ（イタリア作品）、ラブレール（フランス作品）などの作品（翻訳）を抜粋して読むことで、18世紀までのイギリス文学史を欧州文学史的視点から時系列で理解できるようになる。さらに、各時代の主要作品を原文と日本語訳数点を対訳、考察することによって、各文学作品を時代背景や小説技法の観点から解釈、評価が出来るようになる。

◆**授業方法** 授業前半は各時代の特徴を政治的文化的アプローチから解説します。イギリス文学を理解するためには、ヨーロッパ史という観点から簡単な政治史と文化史の理解が不可欠なので併せて説明します。授業後半は、各時代の作品を抜粋して読んでいきます。それぞれの時代の特徴には違いがありますのでそれを理解してください。英語作品以外も読んでいきますが、全て翻訳本です。

◆**履修条件**

◆**授業計画（各90分）**

1回	<p>授業内容 古英語の時代 ローマのブリタニア侵入によるラテン語の導入、キリスト教の布教、アングロ・サクソン族の建国などイギリス文学の黎明期に起きた出来事を解説します。</p> <p>事前学修 ギリシャ・ローマ時代の関心ある作品を考えておいてください。</p> <p>事後学修 プリントで紹介した古代イングランドの歴史（ノルマンコンクエストまで）を各自まとめおいてください。</p>
2回	<p>授業内容 『ガリア戦記』 ブリタニア侵入の箇所を抜粋して読みます。カエサルと平明で簡潔な文章を感じ取ってください。</p> <p>事前学修 ローマ時代の作品と作者を調べておきましょう。</p> <p>事後学修 『ガリア戦記』の第四巻と第五巻を読んでおきましょう。</p>
3回	<p>授業内容 『カンタベリー物語』 イギリス文学の誕生ともいえるこの時代に登場した『宮廷風恋愛』を学びます。</p> <p>事前学修 『カンタベリー物語』の挿話の一つを読んでおいてください。</p> <p>事後学修 宮廷風恋愛についてまとめておきましょう。</p>
4回	<p>授業内容 『アーサー王の死』 この作品は騎士道物語の集大成といえます。ランスロット卿と王妃グイネヴィアとの逢瀬の箇所から、典型的な宮廷風恋愛を学んでいきます。</p> <p>事前学修 『ガウェイン卿と緑の騎士』（トールキン）について調べてきてください。</p> <p>事後学修 アーサー王の人物関係図を理解してください。</p>
5回	<p>授業内容 『カンツォネーレ』 宮廷風恋愛を下地に、独自の愛のソネットを生み出し中世ヨーロッパの規範となったペトラルカ風ソネットから数点を読みます。</p> <p>事前学修 ボッカチオの『デカメロン』について調べてきてください。</p> <p>事後学修 イタリアルネサンスの文人について確認しておきましょう。</p>
6回	<p>授業内容 ルネサンスとは？ ダンテの登場に端を発すイタリアルネサンス同様、イングランドでもルネサンス運動がありました。その定義を学びます。</p> <p>事前学修 各自が考える『ルネサンス』とは何でしょうか。調べてみましょう。</p> <p>事後学修 エリザベス朝時代の文芸運動についてまとめておきましょう。</p>
7回	<p>授業内容 小説の誕生① 16世紀に入りこれまでの劇詩・韻文に加えて新たな文学ジャンルとして『小説』が誕生しました。今回は小説の定義について学びます。</p> <p>事前学修 『ガルガンチュアとパンタグリユエル』について調べておきましょう。</p> <p>事後学修 小説の定義についてまとめ、内容を確認してください。</p>
8回	<p>授業内容 『ロミオとジュリエット』 扱うテーマは限りなくありますが、ここでは時代背景、中世の恋愛をテーマに作品解説をします。</p> <p>事前学修 『ロミオとジュリエット』を読んでおくようにしてください。</p> <p>事後学修 この作品の悲劇性・喜劇性についてまとめておいてください。</p>
9回	<p>授業内容 『リシダス』 このジョン・ミルトンの牧歌的哀歌を精読して、牧歌の定義について学びます。</p> <p>事前学修 ミルトンの生涯について調べておきましょう。</p> <p>事後学修 ヨーロッパ文学がいかにギリシャ・ローマの作品から影響を受けているかを理解してください。</p>
10回	<p>授業内容 小説の誕生② 他の欧州諸国に遅れること百年、イングランドでも韻文に代わって散文学（小説）が発展します。小説という『ジャンル』について学びます。</p> <p>事前学修 18世紀のイングランド小説について調べておきましょう。</p> <p>事後学修 小説とジャーナリズムの関係についてまとめてください。</p>
11回	<p>授業内容 『ロビンソン・クルソー』 イングランド小説の祖と言われる本作品から、小説とジャーナリズムについて学びます。</p> <p>事前学修 18世紀のイングランドの政治・経済状況を調べておきましょう。</p> <p>事後学修 散文と韻文の違いを理解してください。</p>
12回	<p>授業内容 『高慢と偏見』 イングランド小説の完成形と言われるジェーン・オースティンを読みます。</p> <p>事前学修 オースティン作品について調べておきましょう。</p> <p>事後学修 作中の人物関係図を整理しましょう。</p>
13回	<p>授業内容 『不思議の国のアリス』 18世紀から19世紀には児童文学というジャンルが登場します。本作品を抜粋して精読しましょう。</p> <p>事前学修 本作品を読んでおいてください。</p> <p>事後学修 この作品を児童文学とみるか、あるいは風刺かパロディかなどを各自がジャンル化してまとめてください。</p>
14回	<p>授業内容 『デビッド・カパーフィールド』 小説がエンタテイメントとして確立した時代のディケンズの本作品を吟味します。</p> <p>事前学修 内容だけでも調べておきましょう。</p> <p>事後学修 本作が『教養小説』になっているかをまとめてください。</p>
15回	<p>授業内容 全体のまとめと試験</p> <p>事前学修 指定された箇所をまとめて試験対策とするように。</p> <p>事後学修 これまで扱った作品を出来るだけ多く読んでください。</p>

◆**教科書** 〔当日資料配布〕 当日プリントを配布します。

◆**参考書** 〔丸沼〕『イギリス名詩選』 平井正穂編 岩波文庫  
〔丸沼〕『イギリス文学史』 川崎寿彦著 成美堂

◆**成績評価基準** 試験とレポートにより総合的に判断します。

◆**授業相談（連絡先）**：初回授業時に案内します。

**注意**

# 講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## (アメリカ文学史)

北原 安治

◆**授業概要** アメリカの建国から 20 世紀までのアメリカ文学の流れを学び、各作家の特徴を理解できるようになる。

◆**学修到達目標** テキストを最初から読んで行きます。文法構造を把握して、英文がしっかり読めるようになる。映像資料を活用などして米文学史の全体的な流れを把握できるようになる。村上春樹の新訳のフィッツジェラルドの『華麗なるギャツビー』の DVD など事前に見ておけば良い。28 章のヘミングウェイまでは行きたい。

◆**授業方法** 予習テストと予習ノート検査(教科書の書き込みだけでは不可)をする場合がある。テキストの英文を手書きでノートに写す。手書き以外は不可。理想として 28 章まで予習。40 人すべて予習してもよい。和訳を付ける。テキストの最後に参考文献があるので予習の参考に。抜き打ちの実力テストをやる場合があるので辞書必携。試験は持ち込み無し。毎回テキストを間違えう学生がいるので注意。薄手のテキスト。本授業の事前学修・事後学修の時間は各 2 時間を目安としています。

### ◆授業計画 (各 90 分)

1 回	授業内容: 映像資料, アメリカ先住民の文学およびジョン・スミス 事前学修: 「アメリカ・インディアン」の詩 (1977 年) (中公新書) 金関寿夫著参照 事後学修: 講義での英文の和訳と予習の和訳を比べて間違いを確認。
2 回	授業内容: 映像資料, 「プリマス植民地」のブラッドフォードとアメリカ最初の詩人のブラッドストリート 事前学修: 英文の自分なりの和訳をしておく。テキスト 47 ページの文献にあたっておく。 事後学修: 講義での英文の和訳と予習の和訳を比べて間違いを確認。
3 回	授業内容: 映像資料, 「大いなる目覚め」のエドワーズと「ヤンキーズム」のフランクリン 事前学修: 英文の自分なりの和訳をしておく。テキスト 47 ページの文献にあたっておく。 事後学修: 講義での英文の和訳と予習の和訳を比べて間違いを確認。
4 回	授業内容: 映像資料, ゴシック小説の先駆者のブロックデン・ブラウンと「リップ・ヴァン・ウィンクル」のアーヴィング 事前学修: 英文の自分なりの和訳をしておく。アーヴィングの映画「スリーピー・ホロウ」を見ておく。テキスト 47 ページの文献にあたっておく。 事後学修: 講義での英文の和訳と予習の和訳を比べて間違いを確認。
5 回	授業内容: 映像資料, 歴史ロマンスのクーバーとロマン派の詩人ブライアント 事前学修: 英文の自分なりの和訳をしておく。クーバーの映画「モヒカン族の最後」を見ておく。テキスト 47 ページの文献にあたっておく。 事後学修: 講義での英文の和訳と予習の和訳を比べて間違いを確認。
6 回	授業内容: 映像資料, 怪奇・推理小説のボウと「超絶主義」のエマーソン 事前学修: 英文の自分なりの和訳をしておく。ボウの怪奇短編映画「世にも奇妙な物語」などを見ておく。テキスト 47 ページの文献にあたっておく。 事後学修: 講義での英文の和訳と予習の和訳を比べて間違いを確認。
7 回	授業内容: 映像資料, 「ウォールデン」のソローとピューリタニズム批判のホーソン 事前学修: 英文の自分なりの和訳をしておく。ホーソンの映画「緑文字」を見ておく。テキスト 47 ページの文献にあたっておく。 事後学修: 講義での英文の和訳と予習の和訳を比べて間違いを確認。
8 回	授業内容: 映像資料, 「白鯨」のメルヴィルと米代表詩人のホイットマン 事前学修: 英文の自分なりの和訳をしておく。映画「白鯨」を見ておく。テキスト 47 ページの文献にあたっておく。 事後学修: 講義での英文の和訳と予習の和訳を比べて間違いを確認。
9 回	授業内容: 映像資料, 孤独な心境を詠ったディッキンソンとリアリズムのトウエイン 事前学修: 英文の自分なりの和訳をしておく。テキスト 47 ページの文献にあたっておく。 事後学修: 講義での英文の和訳と予習の和訳を比べて間違いを確認。
10 回	授業内容: 映像資料, 心理主義のジェイムズと自然主義のクレイン 事前学修: 英文の自分なりの和訳をしておく。ジェイムズの映画「ある買婦人の肖像」を見ておく。テキスト 47 ページの文献にあたっておく。 事後学修: 講義での英文の和訳と予習の和訳を比べて間違いを確認。
11 回	授業内容: 映像資料, 環境決定論のドライサーとシカゴ・グループのサンドバーグ 事前学修: 英文の自分なりの和訳をしておく。ドライサーの映画テキスト「陽の当たる場所」を見ておく。47 ページの文献にあたっておく。 事後学修: 講義での英文の和訳と予習の和訳を比べて間違いを確認。
12 回	授業内容: 映像資料, 深層心理のアンダソンと自然を詠ったフロスト 事前学修: 英文の自分なりの和訳をしておく。テキスト 47 ページの文献にあたっておく。 事後学修: 講義での英文の和訳と予習の和訳を比べて間違いを確認。
13 回	授業内容: 映像資料, ハーレム・ルネッサンスのヒュースと「バターソン」のウィリアムズ 事前学修: 英文の自分なりの和訳をしておく。テキスト 47 ページの文献にあたっておく。 事後学修: 講義での英文の和訳と予習の和訳を比べて間違いを確認。
14 回	授業内容: 映像資料, 「偉大なギャツビー」のフィッツジェラルドとノーベル賞作家ヘミングウェイ 事前学修: 英文の自分なりの和訳をしておく。映画「偉大なギャツビー」を見ておく。ヘミングウェイの映画「老人と海」など見ておく。テキスト 47 ページの文献にあたっておく。 事後学修: 講義での英文の和訳と予習の和訳を比べて間違いを確認。
15 回	授業内容: アメリカ文学史の全体的まとめと試験 事前学修: 講義の復習。正しい和訳と小論文の準備。 事後学修: アメリカ文学史の全体的な復習。

◆**教科書** 丸沼 [An Outline of American Literature (アメリカ文学概観)] セメスターシリーズ 井上謙治編著 南雲堂 全 48 ページの薄いテキスト

◆**参考書** 丸沼 [アメリカ小説入門] 井上謙治著 研究社 1995 年  
この本は講義では使いません。図書館で参照。

◆**成績評価基準** 小テスト、試験などによる総合評価。手書きノート検査あり。必ず手書き。テキスト間違いや不携帯は不可。試験はテキストの和訳(テキスト全体からだ分量が多いので、講義中に指定する限定個所の和訳)と小論文(和訳がある程度できないと、小論文がいくらできても不可とする)。試験用紙裏面すべてに小論文を当てる。1000 字以上書くこと。試験時間は 100 分ほどの予定。小論文タイトルは「ポーとメルヴィルのふたりの特徴と作品を論じる」。この 2 作家以外のことを書いてはいけない。書き方として全体論でも作品論でもよい。全体論は上の参考書の「アメリカ小説入門」にあるような 2 作家の全体的特徴と複数の代表作の説明を 1,000 字以上使い、浅く広く書くものである。作品論は二人の作品からひとつずつ選び(短編でも長編でもよい)、例えばポーの短編とメルヴィルの『白鯨』の 2 冊に集中して深く論ずるものである(500 字以上ずつ合計 1,000 字以上)。どちらの論じ方でもよい。事前にまとめおくこと。辞書やノートなどの持ち込みなし。2 作家の作品名や登場人物名は日本語でよい。作品名はヒントとして試験の問題文に印刷しておく。無遅刻、皆出席を望む。

**注意** E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆**授業概要** Students will learn the fundamental rules of crafting and delivering an English oral presentation. Topics to be covered will be how to organize a presentation into a speech that incorporates three aspects: a verbal message, a vocal message and a visual message. The students will gain practice reviewing their classmates' written and spoken texts and commenting on them.

◆**学修到達目標** Lectures will include warmup discussions and conversations, learning the fundamentals of presentations, watching examples of presentations, practicing each aspect of a presentation, writing and evaluating each other's presentations, and finally delivering the presentations.

◆**授業方法** Each class will begin with a discussion of one of the messages necessary for delivering an effective oral presentation. Then examples of presentations which incorporate that message will be observed and commented upon. After that, students will practice the message in a controlled environment. Finally the students will give a presentation on each of the three topics to be covered in the course.

◆**授業計画**

1回	授業内容	Introduction to the Course
	事前学修	Read about the Three Vs of an effective oral presentation pages 2-3
	事後学修	Review the model speech from The Film The Candidate.
2回	授業内容	Discuss the most important aspect of an effective oral presentation – The audience
	事前学修	Read about the Curse of Knowledge, S-U-C-C-E-S and the Vocal Message pages 2-3.
	事後学修	Review the Vocal Message in preparation for the Introduction Speeches.
3回	授業内容	Students deliver Introduction Speeches
	事前学修	Read about the Verbal Message page 5.
	事後学修	Review The Verbal Message pages 5-7.
4回	授業内容	Discuss Unexpected beginnings and hooking the audience.
	事前学修	Read about the Hook as a discourse device page 6.
	事後学修	Review the different devices to get the audience's attention page 3.
5回	授業内容	Learn about the Visual Message
	事前学修	Read about para-linguistics page 4.
	事後学修	Review the Clinton-Bush Debate video and effective para-linguistics.
6回	授業内容	Understand the importance of Concrete examples within the Verbal Message
	事前学修	Read about how to incorporate supporting details into the Verbal Message pages 3 & 6.
	事後学修	Review the model speech from the TED Talk "Start with Why."
7回	授業内容	Students Deliver Hobby Speeches
	事前学修	Complete the Hobby Speech outline on page 23
	事後学修	Review the Hobby speech and complete the self-evaluation form (Supplementary handout).
8回	授業内容	Building personal Credibility with your audience
	事前学修	Read about the second C in S-U-C-C-E-S why the audience should listen to you. pages 6
	事後学修	Review Building Credibility page 6.
9回	授業内容	Discuss finding a benefit for the audience
	事前学修	Read about different techniques to benefit the audience page 16.
	事後学修	Review how the Microsoft advertisement benefits the audience page 16.
10回	授業内容	Brainstorming topics and supporting information for job speeches.
	事前学修	Read about the Job speech page 25.
	事後学修	Review the job speech topics and decide main points for outline on page 26.
11回	授業内容	Telling stories to make presentations more concrete
	事前学修	Read about storytelling page 3.
	事後学修	Review Connecting with your audience through stories page 3.
12回	授業内容	Discuss Call to Action, Using Visuals, and Questions and Answers
	事前学修	Read about how to use slides, and answering questions effectively page 8.
	事後学修	Review The Brain Lady Video, "6 Things Everyone needs to know about Oral Presentations".
13回	授業内容	Students Deliver Job Speeches
	事前学修	Read about the Vocal Message page 7.
	事後学修	Watch and critically evaluate job speeches using worksheet on page 25

1 4回	授業内容	Go over all the information covered in the class until now.
	事前学修	Read about the Three Vs of public speaking pages 2-26
	事後学修	Review the Three Vs of an effective oral presentation.
1 5回	授業内容	Final Examination
	事前学修	Read about the three Vs of an effective oral presentation pages 2-26
	事後学修	Review your speeches on video

◆教科書 The text will be provided by the instructor.

◆参考書(参考文献等) Made to Stick, Heath

◆成績評価基準 Evaluation will be based on the following: an in class examination (40%); Introduction Speech (10%); A Hobby Speech (20%); A Job Speech (30%); and class participation.

## 講座内容（シラバス）

### 〔英語学特殊講義〕

吉良 文孝

- ◆**授業概要** 「英語未来表現」についての講義です。当該領域に関する基本的な知識を身につけ、そこからさらに一歩踏み込んだ内容について講じます。本講座の講義内容を通して、ことばの世界に存在する大原則、すなわち、Bolingerのいう「意味とかたちの一対一の対応関係」を実感することになります。
- ◆**学修到達目標** 英語学の専攻学生が当然身につけていなければならない「英語未来表現」の基本的な知識、ならびにその関連領域についての素養・知識を学修するとともに、英語の文献をしっかりと読みこなす力を養成することを本講座の学修到達目標とします。それにより、個々の「英語未来表現」について十分に理解し、（人）に説明することができます。
- ◆**授業方法** 講義形式ですが、「時制」に関する重要な論文・著書の原書（の一部）を演習形式で受講者の皆さんも読むこととなります。
- ◆**履修条件**
- ◆**授業計画**〔各90分〕

1回	授業内容：授業の進め方・オリエンテーション。 事前学修：教科書の「はしがき」にある「ことばの世界の大原則」について、その意味するところは何かを具体的に考えておくこと。 事後学修：講義内容を整理し、「意味とかたちの一対一の対応関係」の意味合いについて理解する。
2回	授業内容：「時制」と「相」の関係について。 事前学修：教科書の第1章（2頁から11頁まで）を熟読しておくこと。 事後学修：講義内容を整理し、自らのことばでそれを説明解説できるようにする。
3回	授業内容：「未来性」について。 事前学修：教科書の第1章（2頁から11頁まで）を熟読しておくこと。 事後学修：講義内容を整理し、自らのことばでそれを説明解説できるようにする。
4回	授業内容：「時制」と「相」の関係についての輪読(1)。 事前学修：配付プリントの熟読（§4.2）。 事後学修：講義内容を整理し、自らのことばでそれを説明解説できるようにする。
5回	授業内容：「時制」と「相」の関係についての輪読(2)。 事前学修：配付プリントの熟読（§4.3）。 事後学修：講義内容を整理し、自らのことばでそれを説明解説できるようにする。
6回	授業内容：英語未来表現(1)－単純現在時制について（その中核的意味と典型例）について。 事前学修：教科書 §4.1.1 と §4.1.2 の熟読。 事後学修：講義内容を整理し、自らのことばでそれを説明解説できるようにする。
7回	授業内容：英語未来表現(2)－単純現在時制について（状態性）。 事前学修：教科書 §4.1.4 の熟読。 事後学修：講義内容を整理し、自らのことばでそれを説明解説できるようにする。
8回	授業内容：英語未来表現(3)－現在進行形について。 事前学修：教科書 §4.2 の熟読。 事後学修：講義内容を整理し、自らのことばでそれを説明解説できるようにする。
9回	授業内容：英語未来表現(4)－will 事前学修：教科書 §4.3 の熟読。 事後学修：講義内容を整理し、自らのことばでそれを説明解説できるようにする。
10回	授業内容：英語未来表現(5)－be going to 事前学修：教科書 §4.3 の熟読。 事後学修：講義内容を整理し、自らのことばでそれを説明解説できるようにする。
11回	授業内容：英語未来表現(5)－未来進行形の3つのタイプについて。 事前学修：教科書 §4.4.1 の熟読。 事後学修：講義内容を整理し、自らのことばでそれを説明解説できるようにする。
12回	授業内容：英語未来表現(6)－「FMC 構文」としての未来進行形について。 事前学修：教科書 §4.4.2 の熟読。 事後学修：講義内容を整理し、自らのことばでそれを説明解説できるようにする。
13回	授業内容：英語未来表現(7)－「FMC 構文」としての2つの意味とその典型例について。 事前学修：教科書 §4.4.5 の熟読。 事後学修：講義内容を整理し、自らのことばでそれを説明解説できるようにする。
14回	授業内容：英語未来表現(8)－「FMC 構文」のその他の意味特徴について。 事前学修：教科書 §4.4.6.5 の熟読。 事後学修：講義内容を整理し、自らのことばでそれを説明解説できるようにする。
15回	授業内容：試験、およびその解説。 事前学修：講義内容全体を整理・暗記し、私見に備える。 事後学修：試験解説による自身の学修度の再確認。

- ◆**教科書** 「ことばを彩る1 テンス・アスペクト」 吉良文孝著 研究社 2018年
- ◆**参考書** 「英文法解説（改訂3版）」 江川泰一郎著 金子書房 1991年
- ◆**成績評価基準** 試験（70%）、授業への参画度（30%）により総合的に判断します。
- ◆**授業相談**（連絡先）：

注意



# 講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔英語学演習〕

真野 一雄

◆**授業概要** 英語学の根幹をなす音韻論・形態論・統語論について基礎的・一般的な分野から専門的な事項まで幅広く概観します。毎回、テキストを読み、理解できるところ、できないところを自覚しておいてください。練習問題の解答も用意しておいてください。

◆**学修到達目標** 「ことば」について、すなわち英語学・言語学（・日本語学）の基礎的知識を修得し、言語について自ら考察できるようにする。

◆**授業方法** テキスト本文の解説、補足説明を行います。必要に応じて担当講師が用意する練習問題を行います。

### ◆授業計画 [各 90 分]

1回	授業内容: 序章 ことばの世界を鳥瞰する 事前学修: テキスト p.3 - p.8 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修: 学修内容をまとめ、理解を深めておく。
2回	授業内容: 第1章 世界のことば(1) 分類と特徴 事前学修: テキスト p.9 - p.17 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修: 学修内容をまとめ、理解を深めておく。
3回	授業内容: 第1章 世界のことば(2) 日本語と英語の比較 事前学修: テキスト p.17 - p.19 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修: 学修内容をまとめ、理解を深めておく。
4回	授業内容: 第2章 ことばと音声(1) 英語の音と日本語の音 事前学修: テキスト p.21 - p.27 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修: 学修内容をまとめ、理解を深めておく。
5回	授業内容: 第2章 ことばと音声(2) リズム、連結、同化 事前学修: テキスト p.27 - p.32 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修: 学修内容をまとめ、理解を深めておく。
6回	授業内容: 第3章 ことばと語(1) 複合 事前学修: テキスト p.33 - p.38 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修: 学修内容をまとめ、理解を深めておく。
7回	授業内容: 第3章 ことばと語(2) 派生 事前学修: テキスト p.38 - p.43 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修: 学修内容をまとめ、理解を深めておく。
8回	授業内容: 第4章 ことばと文法(1) 統語構造 事前学修: テキスト p.44 - p.50 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修: 学修内容をまとめ、理解を深めておく。
9回	授業内容: 第4章 ことばと文法(2) 日本語の節構造 事前学修: テキスト p.50 - p.55 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修: 学修内容をまとめ、理解を深めておく。
10回	授業内容: 第5章 ことばと意味(1) 語の意味 事前学修: テキスト p.56 - p.62 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修: 学修内容をまとめ、理解を深めておく。
11回	授業内容: 第5章 ことばと意味(2) 文の意味 事前学修: テキスト p.62 - p.65 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修: 学修内容をまとめ、理解を深めておく。
12回	授業内容: 第6章 ことばの変化(1) 音韻変化 事前学修: テキスト p.66 - p.71 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修: 学修内容をまとめ、理解を深めておく。
13回	授業内容: 第6章 ことばの変化(2) 形態変化、統語変化 事前学修: テキスト p.71 - p.78 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修: 学修内容をまとめ、理解を深めておく。
14回	授業内容: 第7章 ことばと社会 様々な英語、ことばの性差 事前学修: テキスト p.79 - p.87 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修: 学修内容をまとめ、理解を深めておく。
15回	授業内容: 試験とその解説 事前学修: 1章～7章の総復習しておく。 事後学修: 1章～7章のまとめをし、理解を完璧にする。

◆**教科書** 『[入門] ことばの世界』 大修館書店

◆**参考書** 図説『英語学概説 N30700』(教材コード 000567)  
『日英対照 英語学の基礎』くろしお出版  
その他の英語学入門書、概説書なら何でも結構です。

◆**成績評価基準** 全出席を前提に、試験 100% で評価の予定。(試験は途中退出なしです)

### 注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

# 講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔英語学演習〕

田中 竹史

◆**授業概要** ヒトは誰でも母語を獲得することができますが、その獲得は特別な勉強や訓練なしに子供の頃いつの間にか当たり前のようになされてしまいます。これは、たとえば計算の仕方や交通規則を身につけるためには勉強しなければならないということや、ピアノやバイオリンを弾いたりあるいは泳いだり車を運転したりするためには特別な訓練が必要になる、といったことは対照的です。また、通常大人が外国語を身につけるのには意識的な努力が必要であるということも対照的です。それでは、なぜ子供は特別な勉強や訓練をせずとも母語を身につけられるのでしょうか。なぜ大人は勉強や訓練なしには外国語を身につけることができないのでしょうか。そもそもヒトは一体どのような仕組みにより、極めて複雑で豊かな内容を持つ言語を身につけているのでしょうか。本講座では、上記のような事柄を通じて生物種としてのヒトの特徴について考えます。

◆**学修到達目標** 全ての生物種の中でヒト科ヒト属のみが持つと考えられている特殊な知識体系であることばに内在する性質、そして幼児による言語獲得の過程に触れることにより、ことばの分析方法や言語学・英語学の方法論を学ぶことを目標とします。

◆**授業方法** はじめにヒトのことばに関する基礎的知識（母語話者の持つ言語知識、言語獲得の過程、言語障害、類人猿などヒト以外の生物のコミュニケーション体系など）を講義形式により確認します。その後、テキストを題材に、受講者による担当部分の内容説明・質疑応答（その過程でアクティブラーニング、グループディスカッションなどを含みます）、教員による補足説明（その過程で課題に対するフィードバックを含みます）、という演習形式で授業を進めます。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回	授業内容：母語と外国語(1) 事前学修：参考書に挙げられている大津 (2004, 2008) を読んでおくこと。 事後学修：授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。
2 回	授業内容：母語と外国語(2) 事前学修：配布された資料をよく読んでおくこと。 事後学修：授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。
3 回	授業内容：言語の研究(1) 事前学修：配布された資料をよく読んでおくこと。 事後学修：授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。
4 回	授業内容：言語の研究(2) 事前学修：配布された資料をよく読んでおくこと。 事後学修：授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。
5 回	授業内容：ヒトの言語獲得(1) 事前学修：配布された資料をよく読んでおくこと。 事後学修：授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。
6 回	授業内容：ヒトの言語獲得(2) 事前学修：配布された資料をよく読んでおくこと。 事後学修：授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。
7 回	授業内容：14. Constraints on Reference 事前学修：配布された資料を読み、和訳をしておくこと。わからない語彙がある場合には、辞書で調べておくこと。 事後学修：授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。難しいと感じた英文の解析を復習すること。
8 回	授業内容：Introduction, 1 The Interpretation of Pronouns 事前学修：配布された資料を読み、和訳をしておくこと。わからない語彙がある場合には、辞書で調べておくこと。 事後学修：授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。難しいと感じた英文の解析を復習すること。
9 回	授業内容：2 C-Command 事前学修：配布された資料を読み、和訳をしておくこと。わからない語彙がある場合には、辞書で調べておくこと。 事後学修：授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。難しいと感じた英文の解析を復習すること。
10 回	授業内容：3 Principle C 事前学修：配布された資料を読み、和訳をしておくこと。わからない語彙がある場合には、辞書で調べておくこと。 事後学修：授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。難しいと感じた英文の解析を復習すること。
11 回	授業内容：Conclusion 事前学修：配布された資料を読み、和訳をしておくこと。わからない語彙がある場合には、辞書で調べておくこと。 事後学修：授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。難しいと感じた英文の解析を復習すること。
12 回	授業内容：15 Children's Knowledge of Constraints: Backwards Anaphora 事前学修：配布された資料を読み、和訳をしておくこと。わからない語彙がある場合には、辞書で調べておくこと。 事後学修：授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。難しいと感じた英文の解析を復習すること。
13 回	授業内容：Introduction, 1 Knowledge of Principle C: Previous Research 事前学修：配布された資料を読み、和訳をしておくこと。わからない語彙がある場合には、辞書で調べておくこと。 事後学修：授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。難しいと感じた英文の解析を復習すること。
14 回	授業内容：2 When They Should, Children Accept Backwards Anaphora 事前学修：配布された資料を読み、和訳をしておくこと。わからない語彙がある場合には、辞書で調べておくこと。 事後学修：授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。難しいと感じた英文の解析を復習すること。
15 回	授業内容：3 Research Design, Conclusion 事前学修：配布された資料を読み、和訳をしておくこと。わからない語彙がある場合には、辞書で調べておくこと。 事後学修：授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。難しいと感じた英文の解析を復習すること。

◆**教科書** **【事前資料送付】** An Introduction to Linguistic Theory and Language Acquisition. Crain & Lillo-Martin Blackwell 1999 (該当箇所 pp.145-163 を配布します)

◆**参考書** **【因習】** 探検！ことばの世界 大津由紀雄著 ひつじ書房 2004 年  
**【因習】** ことばに魅せられて 対話編 大津由紀雄著 ひつじ書房 2008 年  
**【因習】** ファンダメンタル英語学 改訂版 中島平三著 ひつじ書房 2011 年  
**【因習】** 英語学概説 N30700 通信教育教材 (教材コード 000567)

◆**成績評価基準** 毎回出席することを前提として、発表や質疑応答などの授業に対する取り組み (50%) と授業終了後に提出のレポート (50%) により総合的に評価します。

### 注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
 ※授業相談 (連絡先) に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

# 講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔英米文学演習〕

鈴木 ふさ子

- ◆**授業概要** イギリス 19 世紀末を代表するオスカー・ワイルドの *The Picture of Dorian Gray* を味わいながら、作者の生涯及びこの時代の背景や思潮についての知識を習得する。さらに、作者ワイルドが追求した <美> が作品の中でどのような形で表れているのか、グループでのディスカッションなどを通して分析・批評する。
- ◆**学修到達目標** イギリス 19 世紀末を代表するオスカー・ワイルドの *The Picture of Dorian Gray* を味わいながら、作者の生涯及びこの時代の背景や思潮についての知り、作者ワイルドが追求した <美> が作品の中でどのような形で表れているのか、分析・批評できる。
- ◆**授業方法** オスカー・ワイルドの *The Picture of Dorian Gray* を原文で味わい、翻訳、作品解釈、発表と批評文のまとめをしていただきます。基本的には下記授業計画に沿ってテキストの和訳、音読、作品解釈を行います。その上で、グループ発表、フロアとの議論を展開していただきます。最終的に、ワイルドという人物、19 世紀末という時代背景や唯美主義、キリスト教の問題と作品の関連性についてまとめます。
- ◆**授業計画 (各 90 分)**

1 回	授業内容 事前学修 事後学修	ガイダンス (授業の進め方・成績評価の方法の確認・発表のためのグループ分け・オスカー・ワイルドについて) オスカー・ワイルドについて調べる。 授業時にとったノートを見直し、オスカー・ワイルドについての知識を整理する。
2 回	授業内容 事前学修 事後学修	イントロダクション (オスカー・ワイルドと 19 世紀末について映像やプリントを用いて解説)。 イギリスの 19 世紀末について調べてくる。 授業時にとったノートを見直し、19 世紀末についての知識を整理する。
3 回	授業内容 事前学修 事後学修	<i>The Picture of Dorian Gray</i> の "Prefais," Chapter1 について指名された方々に音読・翻訳・作品解釈をしていただく。 <i>The Picture of Dorian Gray</i> の "Prefais," Chapter1 について辞書をひいて訳す。内容の概要を説明できるようにする。 <i>The Picture of Dorian Gray</i> の "Prefais," Chapter1 について授業時にとったノートを見直し、復習する。
4 回	授業内容 事前学修 事後学修	<i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter2 について指名された方々に音読・翻訳・作品解釈をしていただく。 グループ発表準備 (グループごとに分かれ、作品について議論をし、発表の手順などの打ち合わせを行います。) <i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter2 について辞書をひいて訳す。内容の概要を説明できるようにする。 <i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter2 について授業時にとったノートを見直し、復習する。
5 回	授業内容 事前学修 事後学修	<i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter3, 4 について指名された方々に音読・翻訳・作品解釈をしていただく。グループ発表。 <i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter3, 4 について辞書をひいて訳す。内容の概要を説明できるようにする。グループ発表の準備。 <i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter3, 4 について授業時にとったノートを見直し、復習する。
6 回	授業内容 事前学修 事後学修	<i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter5, 6 について指名された方々に音読・翻訳・作品解釈をしていただく。グループ発表。 <i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter5, 6 について辞書をひいて訳す。内容の概要を説明できるようにする。グループ発表の準備。 <i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter5, 6 について授業時にとったノートを見直し、復習する。
7 回	授業内容 事前学修 事後学修	<i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter7, 8 について指名された方々に音読・翻訳・作品解釈をしていただく。グループ発表。 <i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter7, 8 について辞書をひいて訳す。内容の概要を説明できるようにする。グループ発表の準備。 <i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter7, 8 について授業時にとったノートを見直し、復習する。
8 回	授業内容 事前学修 事後学修	<i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter9, 10 について指名された方々に音読・翻訳・作品解釈をしていただく。グループ発表。 <i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter9, 10 について辞書をひいて訳す。内容の概要を説明できるようにする。グループ発表の準備。 <i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter9, 10 について授業時にとったノートを見直し、復習する。
9 回	授業内容 事前学修 事後学修	<i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter11 について指名された方々に音読・翻訳・作品解釈をしていただく。グループ発表。 <i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter11 について辞書をひいて訳す。内容の概要を説明できるようにする。グループ発表の準備。 <i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter11 について授業時にとったノートを見直し、復習する。
10 回	授業内容 事前学修 事後学修	<i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter12, 13 について指名された方々に音読・翻訳・作品解釈をしていただく。グループ発表。 <i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter12, 13 について辞書をひいて訳す。内容の概要を説明できるようにする。グループ発表の準備。 <i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter12, 13 について授業時にとったノートを見直し、復習する。
11 回	授業内容 事前学修 事後学修	<i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter14, 15 について指名された方々に音読・翻訳・作品解釈をしていただく。グループ発表。 <i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter14, 15 について辞書をひいて訳す。内容の概要を説明できるようにする。グループ発表の準備。 <i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter14, 15 について授業時にとったノートを見直し、復習する。
12 回	授業内容 事前学修 事後学修	<i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter16, 17 について指名された方々に音読・翻訳・作品解釈をしていただく。グループ発表。 <i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter16, 17 について辞書をひいて訳す。内容の概要を説明できるようにする。グループ発表の準備。 <i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter16, 17 について授業時にとったノートを見直し、復習する。
13 回	授業内容 事前学修 事後学修	<i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter18, 19 について指名された方々に音読・翻訳・作品解釈をしていただく。グループ発表。 <i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter18, 19 について辞書をひいて訳す。内容の概要を説明できるようにする。グループ発表の準備。 <i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter18, 19 について授業時にとったノートを見直し、復習する。
14 回	授業内容 事前学修 事後学修	<i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter20 について指名された方々に音読・翻訳・作品解釈をしていただく。グループ発表。作品全体について考える。全体のまとめ。 <i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter20 について辞書をひいて訳す。内容の概要を説明できるようにする。作品全体について考える。グループ発表の準備。 <i>The Picture of Dorian Gray</i> の Chapter20 について授業時にとったノートを見直し、復習する。作品全体についてクラスメイトの意見を参考に、自分の考えをまとめる。
15 回	授業内容 事前学修 事後学修	試験と解説 スクーリング中で学んだことを総復習し、作品全体を貫く美やキリスト教の問題について自分の意見をまとめる。 試験でできなかったところを確認し、作品全体をもう一度振り返り、今後の英文学とのつながりになるように周辺の文学を読む。

- ◆**教科書** 『The Picture of Dorian Gray』 Oscar Wilde Penguin
- ◆**参考書** 『オスカー・ワイルドの曖昧性』 鈴木ふさ子著 開文社
- ◆**成績評価基準** 予習・積極性 (20%)、グループ発表・ディスカッション (20%) 筆記試験 (60%)

### 注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談 (連絡先) に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

# 講座内容（シラバス）

## 〔哲学演習〕

長谷川 武雄

◆**授業概要** 哲学ではなく古典文献学から哲学的・芸術的考察を始め、それまでの哲学の王道（形而上学や認識論）を批判したニーチェの多面性を概観する。ニーチェと深い関わりのある思想家、芸術家を手引きにニーチェ解釈を試みると同時に、逆に彼等自身の思想を、ニーチェの言葉を手がかりに解釈する。いわゆる双方向的にお互いの思想的立場等を比較考察する。

◆**学修到達目標** 世界には、いわゆる「流行」というものがある。特にファッション界でよく見られる。哲学界（思想界）にもそれがある（哲学史を見れば明らかのように）。「流行」自体決して否定されるものではないが、その時、他の思想へ、他の分野へ目を向けることは、哲学自体にとって必要なことではないか。ニーチェ思想が「多方向性」への一步を踏み出す意識のきっかけを与えることを目標とする。

◆**授業方法** 「一定頁についての発表（分析・批判）」と、それに対する「質疑応答」を中心とする。授業の中では、様々な「問い・答え」の組合せ（いわゆる「対話」）方法を通して、「分析」に加え、「探求」をも実践する。同時にその要点・妥当性を「記述（論述）」することにより、整理を行ってもらう。尚教科書の一部は省略（「授業計画」で確認）、また「発表方法・時間配分・論述」等、受講者数により変更がある。

◆**履修条件**

◆**授業計画（各90分）**

1回	授業内容 事前学修 事後学修	・これからの講義について全体的説明（主に授業内容、講義方法、成績など）。 ・この授業における論述文の書き方について。 シラバスの内容を確認しておく。 これからの自分の勉強方法（授業への臨み方、特に「発表」方法について）を確認しておくこと。
2回	授業内容 事前学修 事後学修	発表（第1章イサドラ・ダンカンのニーチェ：1アメリカから来た舞踏家／2ダンカンの見たニーチェのギリシア／3踊りと青春）、質疑応答。 イサドラ・ダンカンという人物について（特に舞踏家としての）調べておくこと。 特にダンカンの見たニーチェをまとめてみる。
3回	授業内容 事前学修 事後学修	発表（第1章（続き）：4アルカイズムとモダニズムの出会い／5踊りと自由精神）、質疑応答。 舞踏家としてのダンカンの思想をまとめておくこと。 舞踏家の思想と思想家の思想の関係性についてまとめてみる。
4回	授業内容 事前学修 事後学修	・「第1章 イサドラ・ダンカンのニーチェ」まとめ。 ・それについての課題：論述文（論題は当時間に発表）。 分野の相異と思想の関連性をどのように捉えることができるか、整理しておくこと。 「領域・分野・専門」の相異とは何であるのか、具体的に考えてみる。
5回	授業内容 事前学修 事後学修	発表（第3章フーコーのニーチェ：1人間に関する基礎概念の再検討／2知の考古学——哲学的時代診断）、質疑応答。 フーコーという人物について（特に構造主義について）調べておくこと。 「知」の歴史を、フーコーに従って自分で再検討してみる。
6回	授業内容 事前学修 事後学修	発表（第3章フーコーのニーチェ（続き）：3系譜学的思考——力の偶然的配置の偶然的変動／4認識という実験——謀反的知性と連帯の問題）、質疑応答。 ニーチェの「系譜学」（著書「道徳の系譜」）などを参考に、考え方を調べておくこと。 「知」や「認識」の確実性の根拠とは何か、再考してみる。
7回	授業内容 事前学修 事後学修	・「第3章 フーコーのニーチェ」まとめ。 ・それについての課題：論述文（論題は当時間に発表）。 フーコーの考古学とニーチェの系譜学を比較してみる。 「知」の誕生、それ以後の「歴史」について再考してみる。
8回	授業内容 事前学修 事後学修	発表（第4章ジョルジュ・バタイユのニーチェ：1ファシズムと共産主義への距離——至高性の追求／2禁欲主義の快楽への批判——神の死）、質疑応答。 ジョルジュ・バタイユという人物（特に無神論との関係について）調べておくこと。 一般的に有神論と無神論の違いはなにか、なぜこのような対立的現象が同じ人間の中に生じたのか、その理由（原因）を考えてみる。
9回	授業内容 事前学修 事後学修	発表（第4章ジョルジュ・バタイユのニーチェ（続き）：3キリスト教的誠実性によるキリスト教批判／4神の死と新たな希望）、質疑応答。 キリスト教一般（特に「神」、「三位一体論」など）について調べておくこと。 ニーチェの「神の死」とバタイユの無神論を比較してみる。
10回	授業内容 事前学修 事後学修	発表（第4章ジョルジュ・バタイユのニーチェ（続き）：5孤独・笑い・道化）。 ・「第4章」まとめ。 ・それについての課題：論述文（論題は当時間に発表）。 両者のキリスト教批判を比較整理しておくこと。 「無神論」の意味・意義について考えてみる。
11回	授業内容 事前学修 事後学修	発表（第6章リチャード・ローティのニーチェ：1ニーチェ好きのレフトリベラル／2メタファーとしての真理）、質疑応答。 リチャード・ローティという人物（特に彼の社会理論）を調べておくこと。 「レフトリベラル」の本質を確認しておく。
12回	授業内容 事前学修 事後学修	発表（第6章リチャード・ローティのニーチェ（続き）：3真理の多神教／4ニーチェの民主主義の将来）、質疑応答。 一神教と多神教について調べておくこと。 一神教・多神教と民主主義の関係性をまとめてみる。
13回	授業内容 事前学修 事後学修	発表（第6章リチャード・ローティのニーチェ（続き）：5エスノセントリズムを自覚したエスノセントリズム）、質疑応答。 「エスノセントリズム」の歴史について調べておくこと。 ローティのニーチェ解釈の根本について整理してみる。
14回	授業内容 事前学修 事後学修	・「第6章 リチャード・ローティのニーチェ」まとめ。 ・それについての課題：論述文（論題は当時間に発表）。 ニーチェの思想をローティはどのように受容しているか整理しておくこと。 ニーチェとローティを参考に、社会思想と哲学との関係を考察する。
15回	授業内容 事前学修 事後学修	課題（論述）：ニーチェ思想の多様性を批判的に論述。 哲学に限らず、ある学問と他の学問の関係とはどのようなものか、具体的に考え、まとめてみる。 哲学史上で哲学以外の分野にも大きな影響を与えた人物、その思想内容を整理してみる。

◆**教科書** 〔四選〕「ニーチェかく語りき」三島憲一、岩波書店（岩波現代文庫）、2016年

◆**参考書** 〔四選〕「ニーチェ全集」筑摩書房（ちくま学芸文庫）（訳註が多く参考になる）  
〔四選〕「ニーチェ全集 第Ⅰ期・第Ⅱ期」白水社（遺稿が含まれている）  
教科書内の「参考文献一覧」および各章の「注」を参照し、適宜参照してください。

◆**成績評価基準** 発表・質疑応答（60%）、授業時課題（主に論述）（30%）、その他（10%）。最終的には、以上の全体を見わたして「総合的に評価」する。

◆**授業相談（連絡先）**：講師室

**注意**

## 講座内容（シラバス）

### 〔日本史入門〕

関 幸彦

- ◆**授業概要** 本科目では、わが国の歴史の根底にある「国史」について、その成立から確立のプロセスや課題について知るために、前近代ならびに近現代の論書や史論を紹介しつつ、わが国の歴史学の発達を概観する。
- ◆**学修到達目標** 日本史の時代区分、歴史学とは何かなど、日本史学修の上で必要な基礎的知識の獲得と、学修姿勢の修得を目標とする。
- ◆**授業方法** テキスト『国史の誕生』を、章・節ごとに解説しつつ、テキストの内容を肉付けする。
- ◆**履修条件**
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1回	授業内容：歴史とは何か。学問としての歴史学 事前学修：テキスト全般の流れと、序章を熟読しておく。 事後学修：授業の内容を復習しておくこと。
2回	授業内容：日本史の時代区分 事前学修：日本史における時代区分の問題点（時代区分論争など）を調べておく。 事後学修：授業の内容を復習しておくこと。
3回	授業内容：江戸期における史論あれこれ 事前学修：テキストの1章1節を熟読しておく。 事後学修：授業の内容を復習しておくこと。
4回	授業内容：江戸期における学問の流れを探る 事前学修：テキストの1章2節を熟読しておく。 事後学修：授業の内容を復習しておくこと。
5回	授業内容：江戸から明治期におけるわが国の歴史学の流れ 事前学修：テキストの1章3節を熟読し、2～4章の概要を把握しておく。 事後学修：授業の内容を復習しておくこと。
6回	授業内容：近代史学の成立 一明治期の学問事情(1)ー 開化期の史学 事前学修：テキストの2章を熟読しておく。 事後学修：授業の内容を復習しておくこと。
7回	授業内容：近代史学の成立 一明治期の学問事情(2)ー 「欧羅巴」史学・リース 事前学修：テキストの3章を熟読しておく。 事後学修：授業の内容を復習しておくこと。
8回	授業内容：近代史学の成立 一明治期の学問事情(3)ー 久米邦武筆禍事件 事前学修：テキストの4章を熟読しておく。 事後学修：授業の内容を復習しておくこと。
9回	授業内容：近代史学の展開 一大正期の学問事情(1)ー 南北朝正閏論争 事前学修：テキストの5章1節を熟読しておく。 事後学修：授業の内容を復習しておくこと。
10回	授業内容：近代史学の展開 一大正期の学問事情(2)ー 近代の論理 事前学修：テキストの5章2節を熟読し、3節を読んでおく。 事後学修：授業の内容を復習しておくこと。
11回	授業内容：近代史学の確立 一昭和戦前期と実証主義(1)ー 喜田貞吉 事前学修：テキスト5章3節を熟読しておく。 事後学修：授業の内容を復習しておくこと。
12回	授業内容：近代史学の確立 一昭和戦前期と実証主義(2)ー 史観の転換 事前学修：テキスト5章全体を読み、戦前期の史観や歴史の研究方法について調べる。 事後学修：授業の内容を復習しておくこと。
13回	授業内容：近代史学の確立 一マルクス主義歴史学(1)ー 唯物史観 事前学修：唯物史観（史的唯物論）についてその概要を調べておく。 事後学修：授業の内容を復習しておくこと。
14回	授業内容：近代史学の確立 一マルクス主義歴史学(2)ー 社会経済史学 事前学修：昭和期日における社会経済史のあゆみについて調べておく。 事後学修：授業の内容を復習しておくこと。
15回	授業内容：再び歴史学とは何か 事前学修：これまでの講義の内容を振り返っておく。 事後学修：授業の内容を復習しておくこと。

- ◆**教科書** 関沼『国史の誕生』（関幸彦）講談社学術文庫
- ◆**参考書** 講義のなかで適宜指示する。
- ◆**成績評価基準** 試験 80%、平常点（授業参画度）20%で評価する。なお、評価は全日出席を前提とする。
- ◆**授業相談（連絡先）**：授業終了時、あるいは昼休み

注意

# 講座内容（シラバス）

〔日本史演習Ⅰ・Ⅱ〕 オープン受講：不可

下川 雅弘

◆**授業概要** 日本史の研究に必要な史料の読解力を養うため、応仁の乱に関連する中世の代表的な古記録・古文書を精読・発表し、受講生同士の対話や教員の講評を通じて、史料から読み取れる歴史的事象について考察していく。

◆**学修到達目標** ①日本中世の翻刻された史料を読解することができる。  
②読解した史料を用いて、歴史を研究することができる。  
③史料の読解から得た知見を、自らの考えに基づいて再構成し、その成果を発表することができる。

◆**授業方法** テキストとして配付した史料について、①受講生が予習として語句調べをし、②教員が語句を解説し、③受講生が書き下し、④教員が書き下しを解説し、⑤受講生が現代語訳し、⑥教員が現代語訳を解説し、⑦受講生が史料から読み取れる歴史的事象を考察・発表し、⑧受講生が各発表に対してコメントを寄せ、⑨教員がそれらに対する講評を行う。

◆**履修条件**

◆**授業計画（各 90 分）**

1回	授業内容：歴史資料とは 事前学修：別テキスト1「歴史資料とは」に目を通しておくこと 事後学修：別テキスト1「歴史資料とは」の学習内容を再確認すること
2回	授業内容：初級史料の読解練習、歴史資料を読解するための基礎知識、テキスト「見本史料」の書き下し・現代語訳解説 事前学修：別テキスト2「足利義政と応仁の乱」・テキスト「見本史料」に目を通しておくこと 事後学修：テキスト「見本史料」の書き下し・現代語訳を再確認すること
3回	授業内容：テキスト「見本史料」の考察解説、テキスト「史料1」の語句調べ解説・書き下し演習 事前学修：テキスト「史料1」の語句調べに取り組んでおくこと 事後学修：テキスト「史料1」の語句調べの解説を再確認すること
4回	授業内容：テキスト「史料1」の書き下し解説・現代語訳演習 事前学修：テキスト「史料1」の語句調べに取り組んでおくこと 事後学修：テキスト「史料1」の書き下しの解説を再確認すること
5回	授業内容：テキスト「史料1」の現代語訳解説・考察演習 事前学修：テキスト「史料1」の語句調べに取り組むこと 事後学修：テキスト「史料1」の現代語訳の解説を再確認すること
6回	授業内容：テキスト「史料1」の考察発表・解説 事前学修：テキスト「史料1」の語句調べに取り組むこと 事後学修：テキスト「史料1」の考察の解説を再確認すること
7回	授業内容：テキスト「史料2」の語句調べ解説・書き下し演習 事前学修：テキスト「史料2」の語句調べに取り組んでおくこと 事後学修：テキスト「史料2」の語句調べの解説を再確認すること
8回	授業内容：テキスト「史料2」の書き下し解説・現代語訳演習 事前学修：テキスト「史料2」の語句調べに取り組んでおくこと 事後学修：テキスト「史料2」の書き下しの解説を再確認すること
9回	授業内容：テキスト「史料2」の現代語訳解説・考察演習 事前学修：テキスト「史料2」の語句調べに取り組んでおくこと 事後学修：テキスト「史料2」の現代語訳の解説を再確認すること
10回	授業内容：テキスト「史料2」の考察発表・解説 事前学修：テキスト「史料2」の語句調べに取り組んでおくこと 事後学修：テキスト「史料2」の考察の解説を再確認すること
11回	授業内容：テキスト「史料3」の語句調べ解説・書き下し演習 事前学修：テキスト「史料3」の語句調べに取り組んでおくこと 事後学修：テキスト「史料3」の語句調べの解説を再確認すること
12回	授業内容：テキスト「史料3」の書き下し解説・現代語訳演習 事前学修：テキスト「史料3」の語句調べに取り組んでおくこと 事後学修：テキスト「史料3」の書き下しの解説を再確認すること
13回	授業内容：テキスト「史料3」の現代語訳解説・考察演習 事前学修：テキスト「史料3」の語句調べに取り組んでおくこと 事後学修：テキスト「史料3」の現代語訳の解説を再確認すること
14回	授業内容：テキスト「史料3」考察発表・解説 事前学修：テキスト「史料3」の語句調べに取り組んでおくこと 事後学修：テキスト「史料3」の考察の解説を再確認すること
15回	授業内容：テキスト「予備史料」の書き下し・現代語訳解説、総括テスト 事前学修：テキスト「予備史料」の語句調べにできれば取り組んでおくこと 事後学修：テキスト「予備史料」の書き下し・現代語訳の解説を再確認すること

◆**教科書** **事前資料送付**

◆**参考書** 丸沼『日本史を学ぶための古文書・古記録訓読法』 刈米一志 吉川弘文館 2015年  
丸沼

◆**成績評価基準** 課題提出 75%、総括テスト 25%

◆**授業相談（連絡先）**：

注意

# 講座内容（シラバス）

## 〔地方財政論〕

齋藤 英明

◆**授業概要** 私たちが日々享受している公共サービスの多くは地方自治体が供給しています。本講義は地方自治体の歳入の柱である地方交付税を中心に学びます。そして、歳出が膨張し自治体の財政が悪化することを防ぐ自治体財政健全化法の制度について学びます。これらの制度により地方自治体の歳入面と歳出面がどのようにバランスをとっているのか理解することを旨とします。

◆**学修到達目標** 1. 国と地方自治体の財政関係の要である地方財政計画について理解し、お金の流れを説明できるようにする。  
2. 地方自治体の歳入の柱である地方交付税制度について理解し、地方財政計画との関係を説明できるようにする。  
3. 財政悪化を防ぐために制定された自治体財政健全化法について理解し、健全化版大比率がどのような意味・効果を持っているのかを説明できるようにする。

◆**授業方法** スクリーンに資料を提示し、その内容を説明しながら進めます。受講者は重要であると思われる内容をノートや配布されたプリントに記入しながら授業を受けることを期待します。授業内容の理解度を確認するために1日目と2日目の最後の授業時間に確認テストを実施します。

◆**履修条件**

◆**授業計画〔各90分〕**

1回	<p>授業内容 ガイダンス ・履修上の注意。授業では何か学ぶのか。 地方財政の歴史</p> <p>事前学修 ・シラバスを読み、授業の全体像を整理しておきましょう。 ・新聞やニュースで地方財政について触れてみましょう。</p> <p>事後学修 ・シラバスを読み返し、履修すべきか否かをしっかりと考えましょう。また、単位習得のための心構えをしましょう。 ・全国総合開発計画を整理しておきましょう。</p>
2回	<p>授業内容 財政の3機能。 公共財と地方公共財の違い。</p> <p>事前学修 ・財政の機能を調べましょう。</p> <p>事後学修 ・公共財と地方公共財の違いを復習しましょう。</p>
3回	<p>授業内容 中央政府と地方自治体の財政状況について知りましょう。</p> <p>事前学修 ・基礎的財政収支を調べておきましょう。</p> <p>事後学修 ・地方財政の現状を復習しておきましょう。</p>
4回	<p>授業内容 地方財政計画とは何か。 地方交付税の原資は何か。</p> <p>事前学修 ・地方財政計画とは何か調べてみましょう。</p> <p>事後学修 ・地方交付税の原資を確認しましょう。</p>
5回	<p>授業内容 地方自治体の国への依存。 第1回～第5回の確認テスト。</p> <p>事前学修 ・国から地方自治体へのお金の流れを調べましょう。</p> <p>事後学修 ・地方財政計画の各項目を復習しましょう。</p>
6回	<p>授業内容 確認テストの解説。 ・地方交付税制度の概略。地方財政計画との関係。</p> <p>事前学修 地方交付税の性質を調べておきましょう。</p> <p>事後学修 地方財政計画での地方交付税の役割を復習しておきましょう。</p>
7回	<p>授業内容 地方交付税の算定に重要な役割を果たす基準財政需要額について学びましょう。</p> <p>事前学修 ・基準財政需要額とは何か調べておきましょう。</p> <p>事後学修 ・基準財政需要額が表している経費を復習しておきましょう。</p>
8回	<p>授業内容 地方交付税の算定に重要な役割を果たす基準財政収入額について学びましょう。</p> <p>事前学修 ・基準財政収入額とは何か調べておきましょう。</p> <p>事後学修 ・留保財源が機能を復習しておきましょう。</p>
9回	<p>授業内容 地方交付税に対して指摘されやすい誤解を紹介し、それらが誤りである理由を学びましょう。</p> <p>事前学修 ・あらためて地方交付税の推移を調べてみましょう。</p> <p>事後学修 ・地方交付税への誤解とそれに対する解答を考えてみましょう。</p>
10回	<p>授業内容 第6回～第10回の確認テスト。</p> <p>事前学修 ・基準財政需要額と地方財政収入額を中心に地方交付税について制度を整理しておきましょう。</p> <p>事後学修 ・地方交付税の制度を復習しておきましょう。</p>
11回	<p>授業内容 確認テストの解説。 自治体財政健全化法制定の背景、制度の概要を学びましょう。</p> <p>事前学修 ・自治体財政健全化法とは何か調べておきましょう。</p> <p>事後学修 ・自治体財政健全化法の制度を整理しましょう。</p>
12回	<p>授業内容 健全化判断比率の1つである実質公債費比率と連結実質赤字比率について学びましょう。</p> <p>事前学修 ・実質公債費比率と連結実質赤字比率とは何か調べておきましょう。</p> <p>事後学修 ・実地公債費比率と連結実質赤字比率の会計での対象範囲と健全化判断比率を整理しましょう。</p>
13回	<p>授業内容 健全化判断比率の1つである将来負担比率と実質赤字比率について学びましょう。</p> <p>事前学修 ・将来負担比率と実質赤字比率とは何か調べておきましょう。</p> <p>事後学修 ・将来負担比率と実質赤字比率の会計での対象範囲と健全化判断比率を整理しましょう。</p>
14回	<p>授業内容 自治体財政健全化法の課題について学びましょう。</p> <p>事前学修 ・4つの健全化判断比率を整理しておきましょう。</p> <p>事後学修 ・自治体財政健全化法の課題を復習しておきましょう。</p>
15回	<p>授業内容 最終試験</p> <p>事前学修 ・これまでの授業内容を整理し、試験の準備をしましょう。</p> <p>事後学修 ・授業全体を振り返り、自分の居住する自治体の財政状況を調べてみましょう。</p>

◆**教科書** 〔当日資料配布〕

◆**参考書** 〔五選〕『新版 基本から学ぶ地方財政』小西砂千夫 学陽書房 2018年  
〔五選〕『地方財政健全化法とガバナンスの経済学』赤井伸郎・石川達哉 有斐閣 2019年

◆**成績評価基準** ・1日目の確認テスト：30%  
・2日目の確認テスト：30%  
・3日目の最終試験：40%

◆**授業相談（連絡先）**：初回授業時に案内します。

**注意**

# 講座内容（シラバス）

## 〔貿易論〕

岡田 直己

◆**授業概要** 「貿易」は国・地域を越境して行われる主に企業間の経済活動であり、モノの輸出入が想起されたり、国家・企業間の政治経済の問題（国益の対立と交渉）として捉えられることが多い。しかし、「貿易」の対象はモノだけではなく、すべての貿易活動は「法」（条約や関連国内法）に基づいて行われており、利害対立をめぐる交渉・解決も「法」に基づいて行われる。本科目は、そのような「法」の基礎的領域の理論と実際を扱うものである。

◆**学修到達目標** 米中通商交渉など貿易分野にとどまらない国家間の経済対立、TPP 11、日欧 EPA（経済連携協定）及び日米物品貿易協定の発効、世界各国による貿易制限措置の相次ぐ発動と WTO（世界貿易機関）に対する紛争解決の要請等、貿易・国際投資の動向の変容は目まぐるしい。本科目では、貿易・国際投資のルールに関する基礎的理解を習得するとともに、貿易・国際投資をめぐる諸課題や貿易紛争に関する基礎知識を身につける。

◆**授業方法** 教科書の内容を中心に貿易・投資のルールについて解説するとともに、貿易・投資関係の各種資料を参照しながら、貿易・投資のルールが現実の貿易・投資にどのような影響を与えているのかを説明する。また、「現実」をルールに則して考えることが重要であるため、受講者との Q&A やディスカッションを可能な限り行う。

### ◆履修条件

### ◆授業計画（各 90 分）

1 回	授業内容：総論（データでみる貿易・投資の動向） 事前学修：教科書の当該部分を一読しておくこと。 事後学修：教科書等を再読し、関連条約の該当箇所を参照しつつ授業内容を整理し理解しておくこと。
2 回	授業内容：グローバル貿易体制の成立と展開・全体像（GATT/WTO 体制の歴史的展開） 事前学修：教科書の当該部分を一読しておくこと。 事後学修：教科書等を再読し、関連条約の該当箇所を参照しつつ授業内容を整理し理解しておくこと。
3 回	授業内容：基本原則（最恵国待遇、内国民待遇、数量制限禁止など。ケーススタディを含む） 事前学修：教科書の当該部分を一読しておくこと。 事後学修：教科書等を再読し、関連条約の該当箇所を参照しつつ授業内容を整理し理解しておくこと。
4 回	授業内容：一般的例外と非貿易的関心事項（「貿易と環境」問題を中心に） 事前学修：教科書の当該部分を一読しておくこと。 事後学修：教科書等を再読し、関連条約の該当箇所を参照しつつ授業内容を整理し理解しておくこと。
5 回	授業内容：1 日目のまとめ（時間が許せば、受講者によるディスカッション） 事前学修：第 1 回～第 4 回授業内容の復習 事後学修：1 日目（第 1 回～第 5 回授業）に関する不明点があれば、担当者に質問すること。
6 回	授業内容：衛生植物検疫措置／貿易の技術的障害（ケーススタディを含む） 事前学修：教科書の当該部分を一読しておくこと。 事後学修：教科書等を再読し、関連条約の該当箇所を参照しつつ授業内容を整理し理解しておくこと。
7 回	授業内容：貿易救済措置①（セーフガード。ケーススタディを含む） 事前学修：教科書の当該部分を一読しておくこと。 事後学修：教科書等を再読し、関連条約の該当箇所を参照しつつ授業内容を整理し理解しておくこと。
8 回	授業内容：貿易救済措置②（アンチダンピング。ケーススタディを含む） 事前学修：教科書の当該部分を一読しておくこと。 事後学修：教科書等を再読し、関連条約の該当箇所を参照しつつ授業内容を整理し理解しておくこと。
9 回	授業内容：貿易救済措置③（補助金・相殺措置。ケーススタディを含む） 事前学修：教科書の当該部分を一読しておくこと。 事後学修：教科書等を再読し、関連条約の該当箇所を参照しつつ授業内容を整理し理解しておくこと。
10 回	授業内容：2 日目のまとめ（時間が許せば、受講者によるディスカッション） 事前学修：第 6 回～第 9 回授業内容の復習 事後学修：2 日目（第 6 回～第 10 回授業）に関する不明点があれば、担当者に質問すること。
11 回	授業内容：農産品貿易・サービス貿易の自由化（ケーススタディを含む） 事前学修：教科書の当該部分を一読しておくこと。 事後学修：教科書等を再読し、関連条約の該当箇所を参照しつつ授業内容を整理し理解しておくこと。
12 回	授業内容：地域経済統合・原産地規則（FTA/EPA、関税同盟。ケーススタディを含む） 事前学修：教科書の当該部分を一読しておくこと。 事後学修：教科書等を再読し、関連条約の該当箇所を参照しつつ授業内容を整理し理解しておくこと。
13 回	授業内容：貿易・投資紛争処理制度（WTO 紛争解決手続を中心に。ケーススタディを含む） 事前学修：教科書の当該部分を一読しておくこと。 事後学修：教科書等を再読し、関連条約の該当箇所を参照しつつ授業内容を整理し理解しておくこと。
14 回	授業内容：3 日目のまとめ（時間が許せば、受講者によるディスカッション） 事前学修：第 11 回～第 13 回授業内容の復習 事後学修：試験（第 15 回授業）の準備
15 回	授業内容：総括（30 分）、試験（60 分） 事前学修：3 日間の授業内容の復習 事後学修：試験内容に関する特段の不明点があれば、担当者に質問することが望ましい。

◆**教科書** 四濶 [WTO FTA CPTPP - 国際貿易・投資のルールを比較で学ぶ-] 飯野文著 弘文堂 2019 年

◆**参考書** 四濶 [WTO・FTA 法入門] 小林友彦ほか著 法律文化社 2016 年

四濶 [講義 国際経済法] 柳赫秀ほか編 東信堂 2018 年

四濶 [ケースブック WTO 法] 松下満雄ほか編 有斐閣 2009 年

◆**成績評価基準** 授業の出席を前提として、試験の評点（+ディスカッション実施の場合はその参加度）で評価を行います。試験のみとなれば 100 点満点、上記の合算方式となれば試験 80%+ディスカッション 20%を予定します。

◆**授業相談（連絡先）**：本科目の履修前相談については、担当者へメール（n\_okada@als.aoyama.ac.jp）でお問合せください。スクーリング期間における授業内容に関する相談は、各日の昼休みなど休憩時間に応じます。

注意



# 講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔証券市場論〕

佐藤 猛

- ◆**授業概要** 授業は証券市場の金融プレーヤー（家計、政府（国債）、企業）を視点に、各プレーヤーの証券理論と証券市場の状況を説明する。家計ではポートフォリオ、政府では債券と為替、企業ではエージェンシー理論を中心に講義する。特に上場制度は実務観点から講義する。
- ◆**学修到達目標** 日本経済新聞及び週刊経済誌（週刊エコノミスト、週刊ダイヤモンド、週刊東洋経済）内容を各プレーヤーの立場から理解できるようにする。また投資判断（特に企業価値＝株価）として会社四季報が理解できるようにする。
- ◆**授業方法** パワーポイントで授業を行う。必要に応じて練習問題を行う。また大きなテーマ（または各日の）終了時にはコメントを提出してもらいます。事前学修では教科書または参考書を利用してください。
- ◆**授業計画（各 90 分）**

1 回	授業内容：総論：証券市場－発行市場と金融プレーヤー 事前学修：教科書：43－58 頁、113－115 頁を事前に読んでおくこと 事後学修：金融プレーヤーについて図で整理しよう。
2 回	授業内容：総論：リスクとリターン 事前学修：教科書：107－109 頁を事前に読んでおくこと 事後学修：リスクとリターンの 3 つの類型で復習しよう
3 回	授業内容：総論：証券の種類 事前学修：教科書：29－38 頁、86－87 頁を事前に読んでおくこと 事後学修：各証券の特徴を整理しよう
4 回	授業内容：家計：日米のポートフォリオ比較 事前学修：教科書：123－125 頁を事前に読んでおくこと 事後学修：日米のポートフォリオを比較してまとめよう
5 回	授業内容：家計：運用委託 ファンド（ヘッジ+ベンション） 事前学修：教科書：39－42 頁、63－67 頁を事前に読んでおくこと 事後学修：証券市場のファンドの位置づけを整理しよう
6 回	授業内容：政府：債券（国債）のファンダメンタルズ 事前学修：教科書：91－95 頁、116－117 頁、121－123 頁を事前に読んでおくこと 事後学修：債券の格付けを理解しよう
7 回	授業内容：政府：国債（財政）とユーロ問題 事前学修：EU の歴史を調べておこう 事後学修：ユーロ問題の要点を整理しよう
8 回	授業内容：企業：上場企業 事前学修：企業の歴史を事前に調べておこう 事後学修：ダウ工業株 30 種の上場企業名を調べよう。
9 回	授業内容：企業：上場システム（+コーポレート・ガバナンス） 事前学修：教科書：83－85 頁を事前に読んでおくこと 事後学修：コーポレート・ガバナンス・コードの事例を調べよう
10 回	授業内容：企業：ベンチャー企業（IPO-リクルート問題） 事前学修：具体的なベンチャー企業について調べておこう 事後学修：最近上場した IPO を調べよう
11 回	授業内容：企業：株価指数（最適ポートフォリオ）CAPM 事前学修：教科書：155－158 頁を事前に読んでおくこと 事後学修：CAPM の計算問題を解こう
12 回	授業内容：企業：株式のファンダメンタルズ 事前学修：教科書：88－90 頁、95－98 頁を事前に読んでおくこと 事後学修：理論株価の計算問題を解こう
13 回	授業内容：企業：企業価値の増殖（財務戦略） 事前学修：教科書：113－115 頁を事前に読んでおくこと 事後学修：CAR についてその構造を復習しよう
14 回	授業内容：企業：企業価値の増殖（経営戦略） 事前学修：ペブレンの隠蔽とシュンペーターのイノベーションの概念を調べておこう 事後学修：企業価値の増殖の経営戦略を体系化しよう
15 回	授業内容：総復習 事前学修：いままでの配布資料から不明の点をピックアップしておこう 事後学修：発行市場と金融プレーヤーから日本の証券市場の特徴を整理しよう

- ◆**教科書** 図説『証券市場論 0829』通信教育教材（教材コード 000185）
- ◆**参考書** 図説『証券理論の新体系』税務経理協会（授業中は使用しないが事前学修には参考になる。キンドル版利用可能）。その他の参考書でも可。
- ◆**成績評価基準** 授業内小テスト（コメント）4 回（各 25 点）

**注意** E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

## 講座内容（シラバス）

### 〔社会科・公民科教育法Ⅱ〕

壽福 隆人

- ◆**授業概要** 中学校社会科・高等学校公民科の倫理的分野を中心に、学習指導要領が掲げる指導目標を踏まえて、学習の意義を理解し、教育機器を用いた授業を設計・実施できる能力を育てる。
- ◆**学修到達目標** 世界には様々な価値観が存在することを前提として、それぞれの思想や倫理観がそれぞれの民族や社会の歴史や文化を踏まえて成立していることを、授業を通じて理解し考えることができる中学生や高校生を育てるための教材開発能力を身につける。とくに、教育機器を用いた教材収集力と授業展開能力を身につけることを目標として、学習指導案を作成し、模擬授業を実施して教員としての資質育てる。
- ◆**授業方法** 講義形式を中心に進められるが、並行して学習指導案作成のための教材研究を行い、適宜研究発表を行い、議論を通してよりよい学習指導案の作成方法を考える。さらに、模擬授業を実施して討議を通してよりよい倫理分野の授業を考える。
- ◆**履修条件**
- ◆**授業計画（各 90 分）**

1回	授業内容：資料検索の方法(1)NDL を利用した資料収集の方法 事前学修：インターネットを用いた資料収集の体験 事後学修：国立国会図書館を利用してみる
2回	授業内容：資料検索の方法(2)Research map を用いた資料収集の方法 事前学修：インターネットを用いた資料収集の体験 事後学修：研究者検索をやってみる
3回	授業内容：資料集と知的持参具について考える 事前学修：インターネットを用いた資料収集の体験 事後学修：研究者の著作物を検索する
4回	授業内容：中学生と高校生の倫理分野の知識について理解する 事前学修：中学校学習指導要領を読んで、中学生の倫理的分野の学習状況を調べる 事後学修：中学校学習指導要領を読んで、中学生の倫理的分野の学習状況を確認する
5回	授業内容：中学生と高校生の倫理分野の知識について理解する 事前学修：高等学校学習指導要領を読んで、高校生の倫理的分野の学習状況を調べる 事後学修：高等学校学習指導要領を読んで、高校生の倫理的分野の学習状況を確認する
6回	授業内容：倫理の学習指導案を作成する(1)古代ギリシャ思想を題材として 事前学修：インターネットで倫理学習指導案例を探す 事後学修：倫理学習指導案例の良い部分や問題点についてまとめる
7回	授業内容：倫理の学習指導案を作成する(2)世界の宗教を題材として 事前学修：倫理の資料について考える 事後学修：倫理で用いられている資料の価値について考える
8回	授業内容：倫理の学習指導案を作成する(3)アジアの思想を題材として 事前学修：高校生が議論できる討論議題について考える 事後学修：高校生が議論できる討論の議題としてよい議題と悪い議題について整理する
9回	授業内容：倫理におけるディベートについて考える(1)近代ヨーロッパ思想を題材として 事前学修：ディベートの題字を考える 事後学修：倫理学習におけるディベートの成果について考える
10回	授業内容：倫理におけるディベートについて考える(2)アメリカの思想を大事として 事前学修：ディベートの題字を考える 事後学修：倫理学習におけるディベートの成果について考える
11回	授業内容：倫理模擬授業のための模擬授業(1)民主主義をだいたいとして 事前学修：文字資料を用いた指導案を作成する 事後学修：文字授業を用いた指導案の良い点と悪い点を整理する
12回	授業内容：倫理模擬授業のための模擬授業(2)平和主義を題材として 事前学修：討論を用いた授業案を作成してみる 事後学修：討論を用いた授業の良い点と悪い点を整理する
13回	授業内容：倫理模擬授業のための模擬授業(3)資本主義の思想を題材として 事前学修：グループ発表を用いる授業案を作成する 事後学修：グループ発表を用いた授業案の良い点と悪い点を整理する
14回	授業内容：倫理模擬授業のための模擬授業(4)社会主義の思想を題材として 事前学修：作業を用いる授業案を作成してみる 事後学修：作業を用いる授業の良い点と悪い点を整理する
15回	授業内容：倫理の学習の意義についてまとめる 事前学修：これまで検討してきた倫理の授業案をまとめる 事後学修：倫理の授業を作成する場合の留意点についてまとめる

- ◆**教科書** 中学校学習指導要領  
高等学校学習指導要領  
[四函]『新編歴史教育の課題と教育の方法・技術』 壽福隆人著 DTP 出版

#### ◆参考書

- ◆**成績評価基準** 出席と提出物で総合評価する。また、党議中の発言も評価の重要な材料とする。
- ◆**授業相談（連絡先）**：初回授業時に案内します。

注意

# 講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔英語科教育法Ⅱ〕

市川 泰弘

- ◆**授業概要** 本講義では英語を教える目的を見据え、日本の英語教育の現状を踏まえながら5つの領域 (Reading, Listening, Writing, Speaking, Debating) をどのように指導していくかを実際の現場の状況をとらえながら理解し、また新たに築き上げるための能力を身につけ、さらに今後の英語教育のあり方について対象となる生徒・学生の能力・取り組み意識を心にとめながら考察していく。
- ◆**学修到達目標** 本講義の目標は、1) 5つの領域 (Reading, Listening, Writing, Speaking, Debating) についてそれぞれの具体的なポイントを理解し、2) 各領域の指導方法を理解し、3) 今求められている英語教育の具体的な内容を把握することである。さらに個々の内容は当然学生・生徒のモチベーション・能力の違いによって変化していくものであるから、その変化に対応できる能力および対応の基盤となる英語力を修得し、様々な教えるための方策を作成できるようにすることを目指す。
- ◆**授業方法** テーマを設定し、グループディスカッションを行い、発表をしてもらいます。テーマに関する資料は事前あるいは当日配布し、決められた時間で内容をまとめ、議論を進めていきます。各テーマごとにその日の最後にレポートを作成、提出してもらいます。
- ◆**授業計画 (各 90 分)**

1回	授業内容	オリエンテーション、5つの領域 (Speaking, Listening, Writing, Reading, Presentation) とこれまでの英語教育、従来どのような教育方法を行ってきたかを概観し、長所・短所を明らかにする。テーマディスカッションを行い、最後にレポートを作成し、提出する。
	事前学修	参考文献の授業内容に関わる部分を読む。
	事後学修	配付資料を復習する。
2回	授業内容	Inputとしての領域 (Listeningとその指導概要) について、教える対象 (小学校) に関して具体的に考え、テーマディスカッションを行う。最後にレポートを作成し、提出する。
	事前学修	参考文献の授業内容に関わる部分を読む。
	事後学修	配付資料を復習する。
3回	授業内容	Inputとしての領域 (Listeningとその指導概要) について、教える対象 (中学校) に関して具体的に考え、テーマディスカッションを行う。最後にレポートを作成し、提出する。
	事前学修	参考文献の授業内容に関わる部分を読む。
	事後学修	配付資料を復習する。
4回	授業内容	Inputとしての領域 (Listeningとその指導概要) について、教える対象 (高等学校) に関して具体的に考え、テーマディスカッションを行う。最後にレポートを作成し、提出する。
	事前学修	参考文献の授業内容に関わる部分を読む。
	事後学修	配付資料を復習する。
5回	授業内容	Inputとしての領域 (Readingとその指導概要) について、教える対象 (小学校) に関して具体的に考え、テーマディスカッションを行う。最後にレポートを作成し、提出する。
	事前学修	参考文献の授業内容に関わる部分を読む。
	事後学修	配付資料を復習する。
6回	授業内容	Inputとしての領域 (Readingとその指導概要) について、教える対象 (中学校) に関して具体的に考え、テーマディスカッションを行う。最後にレポートを作成し、提出する。
	事前学修	参考文献の授業内容に関わる部分を読む。
	事後学修	配付資料を復習する。
7回	授業内容	Inputとしての領域 (Readingとその指導概要) について、教える対象 (高等学校) に関して具体的に考え、テーマディスカッションを行う。最後にレポートを作成し、提出する。
	事前学修	参考文献の授業内容に関わる部分を読む。
	事後学修	配付資料を復習する。
8回	授業内容	Outputとしての領域 (Writingとその指導概要) について教える対象 (小学校) に関して具体的に考え、テーマディスカッションを行う。最後にレポートを作成し、提出する。
	事前学修	参考文献の授業内容に関わる部分を読む。
	事後学修	配付資料を復習する。
9回	授業内容	Outputとしての領域 (Writingとその指導概要) について教える対象 (中学校) に関して具体的に考え、テーマディスカッションを行う。最後にレポートを作成し、提出する。
	事前学修	参考文献の授業内容に関わる部分を読む。
	事後学修	配付資料を復習する。
10回	授業内容	Outputとしての領域 (Paragraph Writingとその指導概要) について教える対象 (中学校) に関して具体的に考え、テーマディスカッションを行う。最後にレポートを作成し、提出する。
	事前学修	参考文献の授業内容に関わる部分を読む。
	事後学修	配付資料を復習する。
11回	授業内容	Outputとしての領域 (Writingとその指導概要) について教える対象 (高等学校) に関して具体的に考え、テーマディスカッションを行う。最後にレポートを作成し、提出する。
	事前学修	参考文献の授業内容に関わる部分を読む。
	事後学修	配付資料を復習する。
12回	授業内容	Outputとしての領域 (Paragraph Writingとその指導概要) について教える対象 (高等学校) に関して具体的に考え、テーマディスカッションを行う。最後にレポートを作成し、提出する。
	事前学修	参考文献の授業内容に関わる部分を読む。
	事後学修	配付資料を復習する。
13回	授業内容	Outputとしての領域 (Speakingとその指導概要, Presentationとその指導概要) について教える対象 (小学校) に関して具体的に考え、テーマディスカッションを行う。最後にレポートを作成し、提出する。
	事前学修	参考文献の授業内容に関わる部分を読む。
	事後学修	配付資料を復習する。
14回	授業内容	Outputとしての領域 (Speakingとその指導概要, Presentationとその指導概要) について教える対象 (中学校) に関して具体的に考え、テーマディスカッションを行う。最後にレポートを作成し、提出する。
	事前学修	参考文献の授業内容に関わる部分を読む。
	事後学修	配付資料を復習する。
15回	授業内容	Outputとしての領域 (Speakingとその指導概要, Presentationとその指導概要) について教える対象 (高等学校) に関して具体的に考え、テーマディスカッションを行う。最後にレポートを作成し、提出する。
	事前学修	参考文献の授業内容に関わる部分を読む。
	事後学修	配付資料を復習する。

- ◆**教科書** 資料を作成し、配布するか、使用する資料がダウンロードできるサイトを示します。
- ◆**参考書** 『行動志向の英語科教育の基礎と実践—教師は成長する—』JACET 教育問題研究会編 三修社 2017年  
『英語授業改善のための処方箋：マクロに考えミクロに対処する』金谷憲著 大修館書店  
Brown, H.D. *Teaching by Principles - An Interactive Approach to Language Pedagogy (4th Edition)* Longman
- ◆**成績評価基準** 講義内でのディスカッション・発表 (30%)、レポートなど (70%) で総合的に判断します。詳細は第1回目の講義で説明します。特にディスカッションでの Participation は重要となります。

**注意** E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談 (連絡先) に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

# 講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔法学通論 / 法律学概論（国際法を含む）〕

遠藤 清臣

◆**授業概要** 憲法改正の論議が進んでいる。この論議に参加するには、日本国憲法に対する最低限の理解が必要である。法学＝法に対する基本的理解、を下載きにして、国際社会と日本国憲法の関係、日本国憲法の歴史的意義、日本国憲法の解釈について、改めて考察してみたい。受講者は、授業前にこれまでの憲法に対する知識や考え方を整理しておくとともに、授業後、改めて憲法について再考してもらいたい。

◆**学修到達目標** 授業概要で述べた通り、日本国憲法を素材としてはいるが、あくまでも法学・法律学についての講座であるから、法の意義、解釈などの方の一般理論を理解してもらいたい。とりわけ、法の存在形式や法の解釈を身に付けることは、憲法議論その他の法律上の考え方について、受講者の役に立つものと思う。

◆**授業方法** 科目の性質上、原則として、講師が一方向的に講義する形式にならざるを得ない。受講者の人数や、講義の進捗状況をみながら、可能な限り、受講者との質疑や簡単な討論を含めたいと考えている。

### ◆授業計画（各90分）

1回	授業内容：簡単なガイダンス、法の本質と性格、法における平等の概念 事前学修：不要、当日の講義に集中すること。 事後学修：プリントによる講義内容の復習、確認
2回	授業内容：法の基礎にある社会正義、日本国の法の沿革 事前学修：不要、当日の講義に集中すること。 事後学修：プリントによる講義内容の復習、確認
3回	授業内容：日本国における近代憲法の成立 事前学修：不要、当日の講義に集中すること。 事後学修：プリントによる講義内容の復習、確認
4回	授業内容：社会のなかで成立する法と、国家の定める法、成文法と不文法 事前学修：不要、当日の講義に集中すること。 事後学修：プリントによる講義内容の復習、確認
5回	授業内容：法の解釈の役割、法の解釈方法 事前学修：不要、当日の講義に集中すること。 事後学修：プリントによる講義内容の復習、確認
6回	授業内容：国際法の形式と成立、国際法の解釈、国際法の効力、国際私法 事前学修：不要、当日の講義に集中すること。 事後学修：プリントによる講義内容の復習、確認
7回	授業内容：権利の意義、権利と義務、権利と義務の関係 事前学修：不要、当日の講義に集中すること。 事後学修：プリントによる講義内容の復習、確認
8回	授業内容：権利の社会的制限 事前学修：不要、当日の講義に集中すること。 事後学修：プリントによる講義内容の復習、確認
9回	授業内容：権利の主体と客体 事前学修：不要、当日の講義に集中すること。 事後学修：プリントによる講義内容の復習、確認
10回	授業内容：日本国憲法の基本的人権、基本的人権の総論規定 事前学修：不要、当日の講義に集中すること。 事後学修：プリントによる講義内容の復習、確認
11回	授業内容：日本国民の定義、外国人の人権、社会権の意義、日本国憲法の定める社会権規定の解釈 事前学修：不要、当日の講義に集中すること。 事後学修：プリントによる講義内容の復習、確認
12回	授業内容：議会制民主主義の課題と選挙制度、二院制の問題点 事前学修：不要、当日の講義に集中すること。 事後学修：プリントによる講義内容の復習、確認
13回	授業内容：行政の形式、大統領制と議院内閣制の課題 事前学修：不要、当日の講義に集中すること。 事後学修：プリントによる講義内容の復習、確認
14回	授業内容：現行裁判制度の概要と、その問題点 事前学修：不要、当日の講義に集中すること。 事後学修：プリントによる講義内容の復習、確認
15回	授業内容：筆記試験 事前学修：プリント、配布物により講義の重要ポイントの総復習 事後学修：法の役割と、日本国憲法のあり方について、講義を受けて感じたことや、疑問点を整理し再考すること。

◆**教科書** **〔当日資料配布〕** 教科書は特に指定しない。講義当日プリントを配布する。

◆**参考書** **〔選〕** 『法学 B11500』 通信教育部教材（教材コード000515）

〔選〕 『現代法学入門』 三浦隆・石川信編著 北樹出版

〔選〕 『ポケット六法』 その他の簡易な六法（参考書はいずれも必要があれば入手すればよく、講義当初に持参する必要はない。）

◆**成績評価基準** 筆記試験の成績による。場合により講義中の課題、質疑内容を評価に加えることがある。

### 注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

# 講座内容（シラバス）

## 〔教育課程論〕

滝澤 雅彦

- ◆**授業概要** 各学校の教育活動・指導内容の土台となっている学習指導要領について学ぶ。各学校・園種の連続性や全体的理解のために、幼稚園・こども園の幼稚園要領から小学校、中学校、高等学校に至る長期的な視野から各校種の学習指導要領のポイントを理解し、各学校・園における具体的な教育課程を参考に、カリキュラム・マネジメントの実践について多角的に学ぶ。以上のことを、公立中学校長、全日本中学校長会生徒指導部長、及び文部科学省中央教育審議会専門委員等の経験を踏まえて、授業内容に反映させる。
- ◆**学修到達目標**
  1. 学習指導要領の変遷と、それらとの比較における新学習指導要領の特色について理解し説明することができる。
  2. 学校教育における教育課程の役割と、教育課程編成の実践について理解し説明することができる。
  3. 学校教育におけるマネジメントの意義・重要性和カリキュラム・マネジメントについて理解し説明することができる。
- ◆**授業方法**
  1. 本時の授業テーマに関連する話題についてグループ・ディスカッションを行い意見交換する。
  2. レジュメに基づいて解説する。
  3. 解説の中で行う発問についてグループ・ディスカッションを行い意見交換・指導する。
  4. 最後に、本時または次回テーマに関する授業レポートを作成し提出する。
- ◆**履修条件** 令和2年度夜間スクーリング（春期）「教育課程論」との積み重ね不可。
- ◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容：カリキュラムとは何か 事前学修：直近の教育関係の話題やニュースについて情報を収集しておくこと。 事後学修：配布レジュメの読み返しとノート整理をしておくこと。
2回	授業内容：学習指導要領とは何か 事前学修：前時の配布レジュメ、配布資料およびノートを読み返しておくこと。 事後学修：本時の配布レジュメ、資料およびノートを読み返しておくこと。
3回	授業内容：学習指導要領の変遷と新学習指導要領の特色 事前学修：前時の配布レジュメ、配布資料およびノートを読み返しておくこと。 事後学修：本時の配布レジュメ、資料およびノートを読み返しておくこと。
4回	授業内容：学習指導要領の内容と各学校の教育課程 事前学修：前時の配布レジュメ、配布資料およびノートを読み返しておくこと。 事後学修：本時の配布レジュメ、資料およびノートを読み返しておくこと。
5回	授業内容：教育課程編成の実践 事前学修：前時の配布レジュメ、配布資料およびノートを読み返しておくこと。 事後学修：第1回から第5回までの配布レジュメ、資料およびノートを読み返しておくこと。
6回	授業内容：児童生徒や地域の実態を踏まえた教育課程編成 事前学修：直近の教育関係の話題やニュースについて情報を収集しておくこと。 事後学修：返却された授業レポートを読み返しておくこと。
7回	授業内容：幼小、小中、中高といった校・園種間の円滑な接続 事前学修：前時の配布レジュメ、配布資料およびノートを読み返しておくこと。 事後学修：本時の配布レジュメ、資料およびノートを読み返しておくこと。
8回	授業内容：学校における2種類のマネジメントとは何か 事前学修：前時の配布レジュメ、配布資料およびノートを読み返しておくこと。 事後学修：本時の配布レジュメ、資料およびノートを読み返しておくこと。
9回	授業内容：カリキュラムをマネジメントするとはどういうことか 事前学修：前時の配布レジュメ、配布資料およびノートを読み返しておくこと。 事後学修：本時の配布レジュメ、資料およびノートを読み返しておくこと。
10回	授業内容：各教科のカリキュラム・マネジメント 事前学修：前時の配布レジュメ、配布資料およびノートを読み返しておくこと。 事後学修：第6回から第10回までの配布レジュメ、資料およびノートを読み返しておくこと。
11回	授業内容：特別の教科 道徳のカリキュラム・マネジメント 事前学修：直近の教育関係の話題やニュースについて情報を収集しておくこと。 事後学修：返却された授業レポートを読み返しておくこと。
12回	授業内容：総合的な学習の時間のカリキュラム・マネジメント 事前学修：前時の配布レジュメ、配布資料およびノートを読み返しておくこと。 事後学修：本時の配布レジュメ、資料およびノートを読み返しておくこと。
13回	授業内容：特別活動のカリキュラム・マネジメント 事前学修：前時の配布レジュメ、配布資料およびノートを読み返しておくこと。 事後学修：本時の配布レジュメ、資料およびノートを読み返しておくこと。
14回	授業内容：カリキュラム評価の意義と重要性 事前学修：前時の配布レジュメ、配布資料およびノートを読み返しておくこと。 事後学修：本時の配布レジュメ、資料およびノートを読み返しておくこと。
15回	授業内容：カリキュラム評価の実践 事前学修：前時の配布レジュメ、配布資料およびノートを読み返しておくこと。 事後学修：返却された授業レポートと第11回から第15回までのレジュメ、配布資料およびノートを読み返しておくこと。

- ◆**教科書** **〔当日資料配布〕**
  1. 教科書は指定しない。
  2. 当日配布レジュメ
  3. 当日配布資料
- ◆**参考書**
  - 〔丸沼〕中学校学習指導要領（平成29年告示 文部科学省）
  - 〔丸沼〕高等学校学習指導要領（平成30年告示 文部科学省）
- ◆**成績評価基準** 授業内小テストおよび授業レポート（80%）、グループ・ディスカッションおよび発表内容（20%）。毎回出席することを前提として評価する。
- ◆**授業相談（連絡先）**：初回の授業時に伝達する。

### 注意

# 講座内容 (シラバス)

〔特別活動・総合的な学習の時間の指導法〕 オープン受講：不可

今泉 朝雄

◆**授業概要** 学校教育における重要な教育活動である特別活動・総合的な学習の時間について、教育課程上の位置づけや教育的意義、計画や指導の方法等について学習する。また、それら基礎的知識をもとに、主体的、対話的で深い学びを基盤とした集団活動、探究的な学習に関わる計画、指導の実践的な資質能力を身につける。

◆**学習到達目標** ① 特別活動・総合的な学習の時間の教育的意義、教育課程における位置付け、各領域の特徴、学習指導要領における目標・内容について理解する。  
② それぞれの実践に関する年間指導計画各、活動の指導計画、指導方法、評価方法について実践的な視点から検討することが出来る。

◆**授業方法** 講義だけではなく、特別活動・総合的な学習に関する様々な活動、指導方法や実践に関する学生同士の討議、分析などを採り入れ、実践的な学習を行う。

◆**履修条件**

◆**授業計画 (各 90 分)**

1回	<p>授業内容 インTRODクッション～本時で何を学ぶのか～ 特別活動と総合的な学習の定義を理解する。そしてそれらの指導のために学ぶべき内容について把握する。</p> <p>事前学修 自身の特別活動と総合的な学習の経験について振り返る。</p> <p>事後学修 それぞれの言葉の定義を自身なりに明確にする。</p>
2回	<p>授業内容 特別活動の教育的意義と学習指導要領上の位置付け 教科との比較において特別活動の特徴と教育的意義を考察し、学習指導要領における特別活動の目標、内容を踏まえてその理解を深める。</p> <p>事前学修 自身の特別活動の経験が教育的にどのように意味を持っていたのか、振り返る。</p> <p>事後学修 自身の経験が学習指導要領の目標とどのように関わっていたかを自身なりに整理する。</p>
3回	<p>授業内容 教育課程における特別活動、総合的な学習の位置付け 特別活動・総合的な学習が各教科や道徳教育など他の教育課程領域とどのように関連を持つのか理解する。</p> <p>事前学修 学校の教育課程にはどのような領域があったかを振り返る。</p> <p>事後学修 特別活動、総合的な学習が他の領域とどのような関係にあるのかを整理する。</p>
4回	<p>授業内容 集団活動と特別活動 特別活動の基盤となる学校に於ける集団活動のあり方についてその基礎理論を学ぶ。</p> <p>事前学修 学校に於ける集団活動について、よかった点、悪かった点を振り返る。</p> <p>事後学修 本時の理論を踏まえながら、よりよい集団のあり方について自身なりに検討する。</p>
5回	<p>授業内容 学級活動の計画と指導 特別活動の一領域である学級活動・ホームルーム活動の目標、内容を理解し、それらをどのように計画を立て指導したらよいかについて事例的に学ぶ。</p> <p>事前学修 学級活動でどのような取り組みを行ったかについて振り返る。</p> <p>事後学修 学級活動の目標を整理し、よりよい学級活動を実施するために必要なことについて過去の経験から検討する。</p>
6回	<p>授業内容 話し合い活動の実践 学級活動のみならず学校教育のあらゆる場面で必要となる合意形成や話し合い活動の指導方法について実践的な取組を行う。</p> <p>事前学修 小学校～大学、社会人経験も踏まえ、どのような話し合いがよいかを考えておく。</p> <p>事後学修 本時の実践に於ける良かった点、悪かった点を整理する。</p>
7回	<p>授業内容 話し合い活動の指導理論 前回の取組を踏まえながら、話し合いの基本的な考え方とその指導方法について多面的に理解する。</p> <p>事前学修 前回の内容について、指導する側から振り返る。</p> <p>事後学修 本時の指導方法を実践の場でどのように生かすかを検討する。</p>
8回	<p>授業内容 学校行事の計画と指導 学校行事の目標・内容を理解し、学校教育のあり方をより豊かにするため、諸行事をどう教育課程に位置付け、計画を立て、指導実践すればよいか事例的に学ぶ。</p> <p>事前学修 運動会とはどのような意義があったかについて、経験から考察する。</p> <p>事後学修 運動会を事例に、学校教育をどのように変えていくことが可能なかについて検討する。</p>
9回	<p>授業内容 生徒会活動の計画と指導 生徒会活動の目標、内容を理解し、生徒の自発的・自治的な取組を高めるために必要な指導を検討する。</p> <p>事前学修 自身の生徒会活動への取組がどのようなものだったか、振り返る。</p> <p>事後学修 目標を踏まえながら、生徒の自発性と教師の指導性との関係について検討する。</p>
10回	<p>授業内容 総合的な学習の時間について、学習指導要領における目標・内容を理解し、それが現代の教育政策においてどのような意義をもつのかについて理解する。</p> <p>事前学修 どのような総合的な学習の経験があるかについて振り返る。</p> <p>事後学修 目標に照らしながら、自身のこれまでの経験がその目標に合ったのかを分析する。</p>
11回	<p>授業内容 総合的な学習で育てるべき資質について 前回の内容を踏まえながら、総合的な学習において具体的にどのような資質・能力を育てるべきなのか、教科を越えて必要となる資質・能力とは何かについて学ぶ。</p> <p>事前学修 総合的な学習の経験において得られた知識・能力について振り返る。</p> <p>事後学修 総合的な学習において求められる資質・能力について現代の教育策との関連で整理する。</p>
12回	<p>授業内容 総合的な学習の年間指導計画 総合的な学習の年間指導計画がどのような考え方のもとに構成されるのか、それがどのように行われるか、事例的に検討する。</p> <p>事前学修 ネット上から年間指導計画例を一つ探し、その全体のあり方を把握しておく。</p> <p>事後学修 他の領域との関係も踏まえた年間指導計画の意義を自身なりに整理する。</p>
13回	<p>授業内容 主体的、対話的で深い学びを実現する単元計画 主体的、対話的で深い学びの意味を理解し、それを表現するための探究的な課題設定について、事例的に検討する。</p> <p>事前学修 主体的、対話的で深い学びの意味について事前に学習しておく。</p> <p>事後学修 主体的、対話的で深い学びを実現する探究のプロセスを整理する。</p>
14回	<p>授業内容 家庭や地域住民、関係機関との連携のあり方／両領域の評価の方法について 特別活動・総合的な学習の取組を豊かにするために様々な関係機関との連携方法と、教育目標を実現するために必要な評価の考え方について事例的に学ぶ。</p> <p>事前学修 「チームとしての学校」という考え方について基礎概念を調べる。</p> <p>事後学修 連携のあり方を整理し、どのように具体化するべきかについて検討する。</p>
15回	<p>授業内容 授業全体のまとめ、自信の学習の振り返り これまでの学習内容のポイントを整理し、これからの新しい時代における両領域の方向性について検討する。</p> <p>事前学修 これまでの学習内容について総復習しておく。</p> <p>事後学修 これからの特別活動、総合的な学習がどうあるべきかを自身なりに検討する。</p>

◆**教科書** 〔国語〕『特別活動・総合的な学習の理論と指導法』関川悦雄・今泉朝雄 弘文堂

◆**参考書** 〔国語〕『中学校学習指導要領解説 特別活動編 (平成 29 年告示)』文部科学省  
〔国語〕『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 (平成 29 年告示)』文部科学省

◆**成績評価基準** 授業内課題 30%  
最終レポート 70%

◆**授業相談 (連絡先)**：初回授業時に案内します。

**注意**

# 講座内容（シラバス）

〔英語科教育法Ⅳ〕 オープン受講：不可

小林 和歌子

◆**授業概要** 本講義では、英語及び英語科目の指導法に関して教授法の観点から、また第二言語習得理論の観点から総合的に学習する。主に4技能を如何に効率的に教えたら良いのか、学習動機、自律的な学習者の育成、またCEFRとCan-Doリストを使用した英語教育法に関して考察を深める。

◆**学修到達目標** 英語学習の過程、英語教授法・第二言語習得理論の具体的な歴史・概要を知りそれらを現在の英語学習者のニーズや学習環境に応じて実行できるようになる技術を身に付ける。第二言語習得理論研究の過去・現在を知ることにより、今後の英語教育界における山積する問題についても考察し、より良い「行動志向の進化する英語教師」となることを目標とする。

◆**授業方法** 講義に加えてグループワークによるマイクロ・ティーチングも適宜取り入れる。また各教授法・第二言語習得理論・評価法についての省察（リフレクションペーパー）を書いたり発表したりすることにより、英語学習・英語教育における振り返りの習慣を構築する。中間テストと期末テストを実施する予定である。

◆**履修条件**

◆**授業計画（各90分）**

1回	授業内容：オリエンテーション・EFLとESLの違い・英語教育の目的 講義とディスカッション 事前学修：該当するテキストをよく読んで基本用語を学習すること。 事後学修：授業内容をノートに整理して、良く確認しておくこと。
2回	授業内容：各英語教授法の概観 講義とディスカッション 事前学修：該当するテキストの箇所をよく読んで、ざっと理解しておくこと。 事後学修：授業の内容をノートに整理して良く確認しておくこと。
3回	授業内容：各英語教授法の概観 講義とディスカッション 事前学修：該当するテキストの箇所をよく読んで、ざっと理解しておくこと。 事後学修：授業の内容をノートに整理して良く確認しておくこと。
4回	授業内容：小中高で如何に連携は可能か CEFRの紹介 講義とディスカッション 事前学修：CEFRに関してテキストの該当箇所をよく読んで理解しておくこと。 事後学修：授業内容をノートに整理して、良く確認しておくこと。中間テストに備え始めよう。
5回	授業内容：第二言語習得理論に関する研究の紹介 講義とディスカッション 事前学修：第二言語習得理論に関するテキストの該当箇所を良く読んでおくこと。 事後学修：授業内容をノートに整理して良く確認しておくこと。
6回	授業内容：インプットアウトプットそしてインタラクション 講義とディスカッション 事前学修：該当するテキストの章をよく読んで理解しておくこと。 事後学修：授業内容を確認して中間テストの準備をすること。
7回	授業内容：インプットアウトプットそしてインタラクション 講義とディスカッション 事前学修：該当するテキストの箇所をよく読んで、ざっと理解しておくこと。 事後学修：授業内容を確認して中間テストに備えること。
8回	授業内容：中間テストと解説 事前学修：今までの学習を振り返り想定問答を作る等して試験に備えること。 事後学修：テストに出た問題に対して自分が如何に答えたのかノートを見ながら確認すること。
9回	授業内容：Vygotskyの発達最近接領域と足場架け 講義とディスカッション 事前学修：Vygotskyの理論の基本用語を該当するテキストの箇所をよく読み理解に努めること。 事後学修：授業のノートを整理しつつ、授業内容を良く理解しようと努めること。
10回	授業内容：英語能力をどのように評価するのか 講義とディスカッション 事前学修：該当するテキストの箇所をよく読んで評価に関してざっと理解しておくこと。 事後学修：授業中のスライドをノートに纏めて理解を深めること。
11回	授業内容：CEFRとCan-Doリスト 観点別評価 講義とディスカッション 事前学修：該当するテキストの箇所をよく読んでCEFRの基本理念について考えること。 事後学修：授業中のスライドをノートに纏めてCEFR及びCan-Doリストに関して理解を深めること。
12回	授業内容：自律的な学習者育成のために 講義とディスカッション 事前学修：該当するテキストの箇所をよく読んで自律的とは何か考えてみること。 事後学修：授業中に取ったノートを纏めながら、ディスカッションの内容を振り返ること。
13回	授業内容：学習動機・個人差・学習ストラテジー 事前学修：該当するテキストの箇所をよく読んでモチベーション、自己効力感について考えること。 事後学修：授業中のスライドをノートに纏めながら、口頭発表や期末テストに備えること。
14回	授業内容：口頭発表及び総括まとめ 事前学修：授業中に扱ったテーマを参考にして良い教師とはどのような教師か考える。 事後学修：クラスメートの口頭発表を振り返り、これまでの学習に関して考察を深め期末テストに備えること。
15回	授業内容：期末テストと解説 事前学修：中間テスト以降の学習を振り返り期末テストに備えること。 事後学修：授業内容を確認、理解してこの英語教授法Ⅳの講義全体を振り返ること。

◆**教科書** 図説【英語科教育法Ⅰ T23800】通信教育教材（教材コード000580）（この教材は市販の『行動志向の英語科教育の基礎と実践—教師は成長する』JACET教育問題研究会編（三修社）と同一です）

【丸沼】『国際語としての英語・進化する英語教育法』岩本夏美・今井由美子・大塚朝美・杉森直樹著 松柏社

◆**参考書** 【丸沼】『Structural Equation Modeling of Writing Proficiency Using Can-Do Questionnaires』Wakako Kobayashi 著 文眞堂

◆**成績評価基準** リフレクションペーパー（30%）発表・参加（30%）中間・期末テスト（40%）

◆**授業相談（連絡先）**：初回授業時に案内します。

注意

## 講座内容（シラバス）

〔生徒指導・進路指導論〕 オープン受講：不可

上野 昌之

◆**授業概要** 学校教育における生徒指導・進路指導の理念、意義を考え、個の伸張と社会性の育成を目指している観点に立ち、どのように進められるものかを考える。教員経験をもとに実際の学校現場や子どもを取り巻く環境で生じる諸問題を検討する。また、進路指導はキャリア教育に包含されるものであり、将来の進路を選択・計画していくために必要な組織的な人間形成のあり方や学校と社会との接続を意識した職場体験（インターンシップ）などについても考える。

◆**学修到達目標** 生徒指導が社会性を促し自己存在の確立を考えさせる指導であることを理解できる。子どもを取り巻く社会の諸相に目を向け、子どもの置かれた状況を理解した上で、実践的な生徒指導ができるように個々の事例について問題点を整理できる。そして、生徒が自己確立と社会的協働の重要性を理解していくためにはどのような働きかけが必要と考えられる。生徒が自らで自己実現に向かう目標を考え進められるようにするには、どのような指導・援助が必要かを考えられる。

◆**授業方法** 主な授業方法はパワーポイントを使用した講義とするが、適宜ティーチャー・アズ・ファシリテーターとして振る舞い、主体的で対話的な深い学びを学生諸君に促す。具体的には、テーマを与え、小グループによるディスカッションや全体への報告を織り込む。個人的にもレビューシート等を記入してもらい、課題への考察や授業の整理を行ってもらう。

◆**履修条件** 教務課宛「昨年は（2019年度昼間・土曜スクーリング「生徒指導・進路指導論」との積み重ね不可）」という記載を付けていただいていた。積み重ねについてはわからないので、この欄の記載はお任せします。

◆**授業計画（各90分）**

1回	授業内容：教育課程における生徒指導の位置づけ：生徒指導とはどのような指導か。 事前学修：これまでの学校生活での生徒指導の体験をまとめておく。 事後学修：生徒指導の意味をまとめて理解すること。
2回	授業内容：生徒指導の意義と目的：学校教育における生徒指導の重要性を考える。 事前学修：教科書の第1章第1節を読んでおくこと。 事後学修：本時の要点をまとめておくこと。
3回	授業内容：生徒指導の法的な位置づけ：教育基本法・学校教育法・子どもの権利条約他。 事前学修：教育基本法の前文および第1条を調べ、記録しておくこと。 事後学修：生徒指導が法的に位置づけられている指導であることを理解すること。
4回	授業内容：生徒指導における生徒理解：集団指導と個別指導、教員の生徒理解。 事前学修：教科書第1章第4節を読んでおくこと。 事後学修：本時のそれぞれの指導により何を育成しようとしているのかまとめて理解しておく。
5回	授業内容：学校教育の諸問題1：外的問題行動（非行）の実態と対応指導。 事前学修：教科書第6章第1節を読んでおくこと。 事後学修：外的問題行動への対応をまとめて理解しておく。
6回	授業内容：学校教育の諸問題2：内的問題行動の実態と対応指導（教育相談）。 事前学修：教科書第5章第1節を読んでおくこと。 事後学修：内的問題行動への対応をまとめて理解しておくこと。
7回	授業内容：学校教育の諸問題3：生徒指導と体罰。 事前学修：これまでの学校生活で体罰を見聞きした経験を思い出ししておくこと。 事後学修：体罰の排除について必要なことは何か考えをまとめておくこと。
8回	授業内容：学校教育の諸問題4：不登校・ひきこもりの実態と対応指導。 事前学修：教科書第6章第12節を読んでおくこと。 事後学修：不登校のもたらす意味、不登校への対応をまとめて理解しておくこと。
9回	授業内容：学校教育の諸問題5：いじめの実態と対応指導。 事前学修：教科書第6章第6節を読んでおくこと。 事後学修：いじめが起きないようにするにはどうしたらよいか考えをまとめておくこと。
10回	授業内容：学校教育の諸問題6：発達障害・身体的障害生徒の実態と対応指導 事前学修：教科書第6章第2節を読んでおくこと。 事後学修：発達障害についてまとめて理解しておくこと。
11回	授業内容：キャリア教育1：進路指導の位置づけ。キャリア教育への展開。 事前学修：自分自身の高等学校時代の進路指導を振り返っておくこと。 事後学修：キャリア教育の目的、方法を理解すること。
12回	授業内容：キャリア教育2：フリーターとニート問題。 事前学修：フリーター、ニートとはどのようなものか調べること。 事後学修：フリーター、ニート問題が現代社会に及ぼす影響を確認し整理すること。
13回	授業内容：キャリア教育3：キャリア教育の実践。 事前学修：自分自身のキャリア形成に関し考えをまとめておくこと。 事後学修：本時の内容をもとに、今後の自己のキャリア形成を考えること。
14回	授業内容：理解度の確認 事前学修：これまでの講義を振り返っておくこと。 事後学修：生徒指導と進路指導（キャリア教育）の要点をまとめ、整理すること。
15回	授業内容：試験及び解説 事前学修：これまでの講義をまとめ、要点を整理しておくこと。 事後学修：解説のポイントを整理し、生徒指導・進路指導に求められる観点を理解すること。

◆**教科書** 通団『生徒指導・進路指導論T30500』通信教育教材（教材コード000581）文部科学省、教育図書、2011年当日資料配布  
ハンドアウトのプリントを配布する。

◆**参考書** 矢野『高等学校 キャリア教育の手引き』文部科学省、教育出版、2012年

◆**成績評価基準** 試験（70%）、授業内課題への回答またはレビューシート等（30%）

◆**授業相談（連絡先）**：講義時間の前後。

注意



# 講座内容（シラバス）

〔博物館経営論〕 オープン受講：不可

中野 照男

◆**授業概要** 本講義は、博物館の適切な管理と運営について理解し、ミュージアム・マネージメントの基礎能力を養うことを目指す。博物館の設置状況により、さまざまな管理運営形態があることを理解し、各運営形態によって、どのような問題が存在するかを個別に把握し、ミュージアム・マネージメントに関わる柔軟な発想と実践的な能力を身に着ける。

◆**学修到達目標** 博物館の最も気品な仕事、すなわち博物館資料の収集、保管、展示、研究、教育、普及広報に関する実践的な行動量を獲得することができる。博物館を取り巻く、過去と現在の状況をつづさに把握することによって、学芸員になった時に役立つミュージアム・マネージメントの修法を獲得し、博物館運営に関わる明晰な展望を持つことができる。

◆**授業方法** 講義形式で進める。講師の現場経験に基づき、博物館の現場をできる限り、具体的に説明することによって、博物館運営の現況を身近に感じられるように工夫する。その際、講義に必要な画像や映像を、適宜上映する。

◆**履修条件**

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容：ガイダンス ―博物館経営論で何を学ぶのか 事前学修：好きな博物館、美術館を訪問し、その運営形態、展示企画、広報普及活動、教育プログラク等を観察すること 事後学修：渡された資料に基づき、復習し、ノートを整理する
2 回	授業内容：現在の博物館制度が抱える諸問題 事前学修：事前に渡された資料の該当部分を確認し、あらかじめ質問を用意する 事後学修：渡された資料に基づき、復習し、ノートを整理する
3 回	授業内容：展示・運営の観点から見た欧米の博物館の歴史 ―古代から 19 世紀まで 事前学修：事前に渡された資料の該当部分を確認し、あらかじめ質問を用意する 事後学修：渡された資料に基づき、復習し、ノートを整理する
4 回	授業内容：展示・運営の観点から見た日本の博物館の歴史 ―東京国立博物館の 150 年 事前学修：事前に渡された資料の該当部分を確認し、あらかじめ質問を用意する 事後学修：渡された資料に基づき、復習し、ノートを整理する
5 回	授業内容：国立西洋美術館の設立と運営に関わった学芸員たちの証言 事前学修：事前に渡された資料の該当部分を確認し、あらかじめ質問を用意する 事後学修：渡された資料に基づき、復習し、ノートを整理する
6 回	授業内容：国立歴史民俗博物館が開館までに考えたこと、準備したこと 事前学修：事前に渡された資料の該当部分を確認し、あらかじめ質問を用意する 事後学修：渡された資料に基づき、復習し、ノートを整理する
7 回	授業内容：国立博物館の独立行政法人化 事前学修：事前に渡された資料の該当部分を確認し、あらかじめ質問を用意する 事後学修：渡された資料に基づき、復習し、ノートを整理する
8 回	授業内容：博物館の機構改革 ―組織と機能の変革 事前学修：事前に渡された資料の該当部分を確認し、あらかじめ質問を用意する 事後学修：渡された資料に基づき、復習し、ノートを整理する
9 回	授業内容：博物館の財政制度と予算 事前学修：事前に渡された資料の該当部分を確認し、あらかじめ質問を用意する 事後学修：渡された資料に基づき、復習し、ノートを整理する
10 回	授業内容：博物館設備の管理と保全 事前学修：事前に渡された資料の該当部分を確認し、あらかじめ質問を用意する 事後学修：渡された資料に基づき、復習し、ノートを整理する
11 回	授業内容：博物館のマーケティング ―東京国立博物館 140 周年事業の前に 事前学修：事前に渡された資料の該当部分を確認し、あらかじめ質問を用意する 事後学修：渡された資料に基づき、復習し、ノートを整理する
12 回	授業内容：博物館の危機管理はいかにあるべきか 事前学修：事前に渡された資料の該当部分を確認し、あらかじめ質問を用意する 事後学修：渡された資料に基づき、復習し、ノートを整理する
13 回	授業内容：博物館と博物館職員の倫理規定 事前学修：事前に渡された資料の該当部分を確認し、あらかじめ質問を用意する 事後学修：渡された資料に基づき、復習し、ノートを整理する
14 回	授業内容：博物館の教育・普及・広報 ―コミュニティとの絆 事前学修：事前に渡された資料の該当部分を確認し、あらかじめ質問を用意する 事後学修：渡された資料に基づき、復習し、ノートを整理する
15 回	授業内容：博物館における運営計画の策定と自己点検評価 事前学修：事前に渡された資料の該当部分を確認し、あらかじめ質問を用意する 事後学修：渡された資料に基づき、復習し、ノートを整理する

◆**教科書** 教科書は使用しない。講義資料を、初回の講義の折にデータの形で渡すので、USB を持参すること

◆**参考書** 〔教材〕『博物館経営論 Y20400』通信教育教材（教材コード000475）  
〔凡例〕この教材は市販の『新博物館 これからの博物館経営論』小林克著（同成社）と同じです。>  
『美術館の舞台裏 ―魅せる展覧会を作るには』高橋明也 筑摩書房 2015 年

◆**成績評価基準** 講義の最終回に試験を行う。試験を 70%、講義への参加・貢献度を 30%として、総合的に評価する。試験は、回答が明解な論理的構造を持っているかどうか、講義への参加・貢献度は、講義中に積極的に発言し、議論に参加したかどうかを評価する。

◆**授業相談（連絡先）**：諮問、意見は次のメールアドレスに送っていただきたい。spgu75x 9@eco.ocn.ne.jp

注意

# 講座内容（シラバス）

## 〔心理学〕

須永 範明

◆**授業概要** 心理学は、人間の心の働きを科学的に研究する学問である。この講義では脳と心の関わりをテーマとする。心の働きは脳によって担われている。心の働きには、感覚・知覚、記憶、感情、動機づけなどがあるが、脳がこれらの機能をどのように実現しているか解説していく。学生の皆さんにはこれらの知見を学ぶことを通じて、人間の心とはどのようなものか、理解を深めていただきたい。

◆**学修到達目標** 1. 神経系の構造について基礎的知識をいくつか説明できる。  
2. 感覚・知覚、記憶、感情、動機づけなど代表的な心の働きが脳によってどのように支えられているか、おおまかに述べることができる。  
3. 高次脳機能障害および心理障害と脳との関係についていくつか説明できる。

◆**授業方法** 授業はオンデマンド型の遠隔授業で行なう。毎回の授業は、動画視聴と課題からなる。動画と課題は Google Classroom に置かれている。動画は、その回の授業内容を解説するものとなっている。課題は、授業内容をどの程度理解したか確認する問題からなる。履修生は毎回の授業内容について、教科書と Google Classroom で公開する資料等で予習する。次に、Google Classroom 上で動画を視聴し、課題に取り組む。課題への解答は即座に採点され、正答数などのフィードバックを受け取ることができる。不正解となった箇所については復習すべき内容をフィードバックのなかで指示する。質問等は Classroom 上での投稿あるいはメールで随時受け付ける。

◆**履修条件**

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容 事前学修 事後学修	脳と心の関わりを研究する生理心理学についておおまかに解説する。 教科書や配付資料、インターネットなどで、生理心理学について学ぶ。 動画の授業内容をノートに整理し、配布資料の該当部分を復習して、理解した内容を確認する。
2 回	授業内容 事前学修 事後学修	心と体の関係 心と体の関係は哲学ではどのように捉えてきたかを述べて、現代の神経科学ではどのような立場をとるのか解説する。 心と体に関する哲学者たちの考えについて、教科書や配付資料、インターネットなどで学ぶ。 動画の授業内容をノートに整理し、配布資料の該当部分を復習して、心と体に関する哲学的議論と現代の神経科学者の立場を確認する。
3 回	授業内容 事前学修 事後学修	脳の動作のしくみ 脳を構成する基本要素である、神経細胞の働きについて解説する。 神経細胞について、教科書や配付資料、インターネットなどで学ぶ。 動画の授業内容をノートに整理し、配布資料の該当部分を復習して、神経細胞とその働きについて確認する。
4 回	授業内容 事前学修 事後学修	脳と知覚 おもに視覚を取り上げて感覚・知覚の脳機構を解説する。 視覚、眼球、視神経、視野について、教科書や配付資料、インターネットなどで学ぶ。 動画の授業内容をノートに整理し、配布資料の該当部分を復習して、視覚の神経系について確認する。
5 回	授業内容 事前学修 事後学修	脳と記憶 側頭葉内側部の働きを中心にして記憶の脳機構を解説する。 記憶と関係の深い脳部位について、教科書や配付資料、インターネットなどで学ぶ。 動画の授業内容をノートに整理し、配布資料の該当部分を復習して、海馬など側頭葉内側部と記憶との関係について確認する。
6 回	授業内容 事前学修 事後学修	脳と学習 学習の基礎と考えられている脳の可塑性と長期増強について解説する。 脳の可塑性と長期増強について、教科書や配付資料、インターネットなどで学ぶ。 動画の授業内容をノートに整理し、配布資料の該当部分を復習して、学習と関係の深い脳の現象について確認する。
7 回	授業内容 事前学修 事後学修	脳と情動 情動と関係の深い脳部位について解説する。 情動と脳の関係について教科書や配付資料、インターネットなどで学ぶ。 動画の授業内容をノートに整理し、配布資料の該当部分を復習して、扁桃体や前頭眼窩野の働きを確認する。
8 回	授業内容 事前学修 事後学修	脳と動機づけ(1) 摂食行動と関わる脳の機構について、報酬系に焦点をあてながら解説する。 食欲と関係の深い脳部位について教科書や配付資料、インターネットなどで学ぶ。 動画の授業内容をノートに整理し、配布資料の該当部分を復習して、視床下部、報酬系の働きについて確認する。
9 回	授業内容 事前学修 事後学修	脳と動機づけ(2) 達成動機、親和動機と関係の深い脳部位について教科書や配付資料、インターネットなどで学ぶ。 動画の授業内容をノートに整理し、配布資料の該当部分を復習して、テストステロンとオキシトジンの働きについて確認する。
10 回	授業内容 事前学修 事後学修	大脳半球機能の左右差 言語等を題材に大脳半球機能の左右差について解説する。 言語と関係の深い脳部位について教科書や配付資料、インターネットなどで学ぶ。 動画の授業内容をノートに整理し、配布資料の該当部分を復習して、言語野の位置と働きについて確認する。
11 回	授業内容 事前学修 事後学修	脳と生体リズム、意識 睡眠・覚醒などの生体リズム現象をつくる脳機構および夢や瞑想時の意識変化を反映する脳機構について解説する。 睡眠および意識と関係の深い脳機能について教科書や配付資料、インターネットなどで学ぶ。 動画の授業内容をノートに整理し、配布資料の該当部分を復習して、生体リズムおよび意識と関わる脳の働きについて確認する。
12 回	授業内容 事前学修 事後学修	脳の発達と障害 脳の発達と知的障害や学習障害などとの関係について解説する。 加齢に伴う脳の変化および知的障害・学習障害と脳の関係について教科書や配付資料、インターネットなどで学ぶ。 動画の授業内容をノートに整理し、配布資料の該当部分を復習して、脳の発達および知的障害・学習障害と関わる脳の働きについて確認する。
13 回	授業内容 事前学修 事後学修	発達障害と脳 自閉スペクトラム症、注意欠如多動症といった発達障害と脳との関係について解説する。 発達障害およびそれと脳との関係について教科書や配付資料、インターネットなどで学ぶ。 動画の授業内容をノートに整理し、配布資料の該当部分を復習して、発達障害と脳の働きとの関係について確認する。
14 回	授業内容 事前学修 事後学修	心の病気と脳 心の病と脳の働きとの関係について解説する。 いわゆる「心の病」と脳との関係について教科書や配付資料、インターネットなどで学ぶ。 動画の授業内容をノートに整理し、配布資料の該当部分を復習して、精神障害と脳機能との関係について確認する。
15 回	授業内容 事前学修 事後学修	心の病気の治療法と脳 心の病の治療法の基礎にある脳の働きについて解説する。 精神障害の治療法と脳との関係について教科書や配付資料、インターネットなどで学ぶ。 動画の授業内容をノートに整理し、配布資料の該当部分を復習して、精神障害の治療法と脳機能との関係について確認する。

◆**教科書** 丸沼『生理心理学』第2版 岡田隆・廣中直行・宮森孝史 サイエンス社 2015年

◆**参考書** 丸沼『ビジュアル版 新・脳と心の地形図』リタ・カーター 原書店 2012年

丸沼『ブレインブック みえる脳』リタ・カーター 南江堂 2012年

丸沼『神経科学―脳の探求』M. ベアー、B. W. コノーズ、M. A. パラディーソ 西村書店 2007年

丸沼『バイオサイコロジー 脳一心と行動の神経科学』J. ピネル 西村書店 2005年

◆**成績評価基準** 課題（50%）と試験（50%）に基づいて評価する。課題は Google Classroom に置かれ、毎回の授業内容ごとに課す。試験は客観式の問題数十問からなり、Google Classroom 上で実施する。

◆**授業相談（連絡先）**：Google Classroom への投稿あるいはメールで質問・相談等にお答えする。

注意

# 講座内容（シラバス）

〔英語〕 オープン受講：不可

佐藤 恵一

- ◆**授業概要** アメリカからの留学生の日本での生活を中心に日常場面に必要な英語コミュニケーション力を高めるためのスキルを培います。またそれらの表現をアウトプットに繋げる言語活動を実践することで日常会話における基礎力も高めていきます。
- ◆**学修到達目標** コミュニケーション力をいかに高め、状況に応じた必要な表現力をどうマスターするかという点と、アウトプットに繋げるためのノウハウを音声を通じた練習から学び取ることを目標にします。
- ◆**授業方法** リスニングで大意を把握し、簡単な重要表現を口頭練習で学びます。その後再度DVDで詳細に内容理解を図り、ペア又はグループで記憶・模倣・応用の順に進め繰り返し練習をしていきます。
- ◆**履修条件**
- ◆**授業計画**〔各 90 分〕

1回	授業内容	シラバスに基づき講義内容を理解する	Unit 1 Giving Directions and Helping	Words and Expressions Summary
	事前学修	Watching the Video Clip	道案内で使える表現	
	事後学修	Video Clip の確認	要約	Useful Expressions
2回	授業内容	Unit 2 Talking about Yourself	Words and Expressions	Summary
	事前学修	自己紹介で使える英語表現		
	事後学修	Video Clip の確認	要約	Useful Expressions
3回	授業内容	Unit 3 Host Family	Words and Expressions	summary
	事前学修	留学生などを迎える時に使える表現		
	事後学修	Video Clip の確認	要約	Useful Expressions
4回	授業内容	Unit 4 Commuting by Train	Words and expressions	summary
	事前学修	電車の乗り換え説明に使える英語表現		
	事後学修	Video Clip の確認	要約	Useful Expressions
5回	授業内容	Unit 5 Taking Glasses	Words and Expressions	Summary
	事前学修	留学生などを迎える時に使える英語表現		
	事後学修	Video Clip の確認	要約	Useful Expressions
6回	授業内容	Unit 6 Talking with a Teacher	Words and Expressions	summary
	事前学修	ほめる時に使える英語表現		
	事後学修	Video Clip の確認	要約	Useful Expressions
7回	授業内容	Unit 7 Finding Friends	Words and Expressions	Summary
	事前学修	自分の趣味や好みを伝える英語表現		
	事後学修	Video Clip の確認	要約	Useful Expressions
8回	授業内容	Unit 8 Potluck	Words and Expressions	Summary
	事前学修	パーティーの集まりで使える英語表現		
	事後学修	Video Clip の確認	要約	Useful Expressions
9回	授業内容	Unit 9 Sumo	Words and Expressions	Summary
	事前学修	物事の描写に使える英語表現 (2)		
	事後学修	Video Clip の確認	要約	Useful Expressions
10回	授業内容	Unit 10 Four Seasons	Words and Expressions	Summary
	事前学修	好きな季節の説明に使える英語表現		
	事後学修	Video Clip の確認	要約	Useful Expressions
11回	授業内容	Unit 11 Green Tea	Words and Expressions	summary
	事前学修	物事の描写に使える英語表現 (3)		
	事後学修	Video Clip の確認	要約	Useful Expressions
12回	授業内容	Unit 12 Japanese Food	Words and Expressions	summary
	事前学修	料理の説明に使える英語表現		
	事後学修	Video Clip の確認	要約	Useful Expressions
13回	授業内容	Unit 13 Part-time Jobs	Words and Expressions	Summary
	事前学修	アルバイト先で使える英語表現		
	事後学修	Video Clip の確認	要約	Useful Expressions
14回	授業内容	Unit 14 Shopping at a Clothing shop	Words and Expressions	Summary
	事前学修	買い物で使える英語表現		
	事後学修	Video Clip の確認	要約	Useful Expressions
15回	授業内容	まとめとテスト		
	事前学修	各ユニットの整理とテスト対策		
	事後学修	誤り箇所の確認		

- ◆**教科書** 〔凡訳〕〔WELCOME TO NIPPON〕 Asahi Press 2018年
- ◆**参考書**
- ◆**成績評価基準** 学習への意欲及び参加度・課題や小テスト等 40% 最終日のまとめテストで 60%
- ◆**授業相談**（連絡先）：授業中及び授業前後及び昼食時に相談いたします。

注意

# 講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## (TOEIC)

八木 茂那子

◆**授業概要** TOEIC L&R は初級レベルから上級レベルに至るまでの英語運用能力を一度に global な基準で測ることのできる「ものさし」である。Listening Section 45 分 100 問、Reading Section 75 分 100 問の問題を休憩なしで解くのは容易なことではないように思われる。が、高等学校 1 年修了レベルの文法力と中学～高等学校 2 年レベルの語力、速読のスキルがあれば初級レベルの力でも正答が得られる問題の数は多くある。本講座では敢えて中級者向けのテキストを使用する。本講座には長年 TOEIC セミナーの講師をしてきた実務経験を授業概要に反映している。初級者向けのテキストでは本試験とのギャップが大きすぎるためである。初級者でも対応可能な Listening Section を中心に英語 4 技能のスキルアップを図るのに効果的な種々のトレーニング方法を紹介、体得していく。

◆**学習到達目標** 講座修了後 TOEIC L&R test で 395 点突破できる基本的な英語の理解運用能力を身に付けることができる。また更に長期的な展望に立ち、4 技能 (読む・聴く・話す・書く) の skill up に効果的な種々の training 方法を身に付けることできる。Half test や mini practice test を解くことにより、より実践的な力をつけることができる。

◆**授業方法** CD・OHC・黒板を使った対面形式の一斉授業の形態をとるが演習中心の授業を行う。テキストの全 12 Units の各 1 Unit を 2 回ずつに分け(1)では Listening Section、(2)では Reading Section を Listening Section と Reading Section 交互に扱う。授業の前半では Vocabulary building を行う。次に問題の解答・解説をします。更に sill up するために self-work, pair-work, group activity を取り入れた色々な activity を行います。尚学期中に 6 回の単語テストと TOEIC Half test を予定しています。課題に対するフィードバックは原則授業中に行います。

### ◆授業計画 (各 90 分)

1 回	授業内容 ガイダンス (自己紹介、TOEIC L&R test とは? 学習目標の立て方、授業の進め方、教科書について、成績評価について 他) 現在地を知る - pre-test 解答と解説 事前学修 事前にシラバスをよく読んでおくこと。 事後学修 講義内容の確認
2 回	授業内容 UNIT 1 (1) テスト形式を知る写真描写問題の攻略ポイントを知ろう! 応答問題の攻略ポイントを知ろう Listening Section (Part 1~4) 事前学修 UNIT 1 に出てくる単語・熟語の意味を調べる。Listening Section (Part 1~4) の問題を 2 回解く。(1 回目は参照物なしで、2 回目はペンの色を変え、辞書などの参照可。) 事後学修 授業内容の確認と quiz 1 (DataBase 3000 level 1) の準備
3 回	授業内容 UNIT 1 (2) Reading Section (Part 5~7) quiz 1 事前学修 UNIT 1 (Part 5~7) の問題を 2 回解く。(1 回目は時間を計り、参照物なしで、2 回目はペンの色を変え、文法書や辞書などを参照しながら解く。) 事後学修 授業内容の確認と quiz 2 (DataBase 3000 level 2) の準備
4 回	授業内容 UNIT 2 (1) 基本戦略① <人> <風景> のチェックポイント「最初の音のかたまり」をキャッチ! Listening Section (Part 1~4) 事前学修 UNIT 2 に出てくる単語・熟語の意味を調べる。Listening Section (Part 1~4) の問題を 2 回解く。(1 回目は参照物なしで、2 回目はペンの色を変え、辞書などの参照可。) 事後学修 授業内容の確認と quiz 2 の準備
5 回	授業内容 UNIT 2 (2) Reading Section (Part 5~7) quiz 2 事前学修 UNIT 2 に出てくる単語・熟語の意味を調べる。Reading Section (Part 5~7) の問題を 2 回解く。(1 回目は参照物なしで、2 回目はペンの色を変え、辞書などの参照可。) 事後学修 授業内容の確認と quiz 3 (DataBase 3000 level 3) の準備
6 回	授業内容 UNIT 3 (1) 基本戦略② 聞いてわかる生活語彙を増やす! 場面をイメージしながら聞こう! Listening Section (Part 1~4) 事前学修 UNIT 3 に出てくる単語・熟語の意味を調べる。Listening Section (Part 1~4) の問題を 2 回解く。(1 回目は参照物なしで、2 回目はペンの色を変え、辞書などの参照可。) 事後学修 授業内容の確認とこれまでに学修したことの見直しをする。
7 回	授業内容 UNIT 3 (2) Reading Section (Part 5~7) quiz 3 事前学修 UNIT 3 (Part 5~7) の問題を 2 回解く。(1 回目は時間を計り、参照物なしで、2 回目はペンの色を変え、文法書や辞書などを参照しながら解く。) Review & Drills 事後学修 中間試験の準備
8 回	授業内容 中間試験と授業 (解答解説) 事前学修 これまでに学修したことの見直しをする。 事後学修 授業内容の確認と quiz 4 (DataBase 3000 level 4) の準備
9 回	授業内容 UNIT 4 (1) 文の基本構造を見抜く <現在進行形> を聞き取ろう! <音トラップ> と <連想トラップ> を知ろう! Listening Section (Part 1~4) quiz 4 事前学修 UNIT 4 に出てくる単語・熟語の意味を調べる。Listening Section (Part 1~4) の問題を 2 回解く。(1 回目は参照物なしで、2 回目はペンの色を変え、辞書などの参照可。) 事後学修 授業内容の確認と quiz 6 (DataBase 3000 level 6) の準備
10 回	授業内容 UNIT 4 (2) Reading Section (Part 5~7) 事前学修 UNIT 4 (Part 5~7) の問題を 2 回解く。(1 回目は時間を計り、参照物なしで、2 回目はペンの色を変え、文法書や辞書などを参照しながら解く。) 事後学修 授業内容の確認と quiz 5 (DataBase 3000 level 5) の準備
11 回	授業内容 UNIT 5 (1) 答根拠の登場順 さまざまな主語を聞き取ろう! <Wh 疑問文> を聞き取ろう! Listening Section (Part 1~4) quiz 5 事前学修 UNIT 5 に出てくる単語・熟語の意味を調べる。Listening Section (Part 1~4) の問題を 2 回解く。(1 回目は参照物なしで、2 回目はペンの色を変え、辞書などの参照可。) 事後学修 授業内容の確認と quiz 6 (DataBase 3000 level 6) の準備
12 回	授業内容 UNIT 5 (2) Reading Section (Part 5~7) 事前学修 UNIT 5 Reading Section (Part 5~7) の問題を 2 回解く。(1 回目は時間を計り、参照物なしで、2 回目はペンの色を変え、文法書や辞書などを参照しながら解く。) 事後学修 授業内容の確認と quiz 6 (DataBase 3000 level 2) の準備
13 回	授業内容 UNIT 6 (1) 正解の言い換えパターンを知る <前置詞> を聞き取ろう! <Yes/No 疑問文> を聞き取ろう! Listening Section (Part 1~4) quiz 6 事前学修 UNIT 6 に出てくる単語・熟語の意味を調べる。Listening Section (Part 1~4) の問題を 2 回解く。(1 回目は参照物なしで、2 回目はペンの色を変え、辞書などの参照可。) 事後学修 講義内容の確認
14 回	授業内容 UNIT 6 (2) Reading Section (Part 5~7) 事前学修 UNIT 6 (Part 5~7) の問題を 2 回解く。(1 回目は時間を計り、参照物なしで、2 回目はペンの色を変え、文法書や辞書などを参照しながら解く。) 事後学修 講義内容の確認
15 回	授業内容 期末試験と授業 (解答・解説) 事前学修 これまでに学修したことの見直しをする。 事後学修 これまでに学修したことの見直しをする。

◆**教科書** 丸沼 『LEVEL-UP TRAINER FOR THE TOEIC TEST』改訂版 横川 綾子 Tony Cook センゲージラーニング (株) 2016

丸沼 『DataBase 3000』第 5 版桐原書店編集部編 桐原書店 2016

◆**参考書** 丸沼 『ロイヤル英文法』綿貫 陽 他著 旺文社 2000

丸沼 『公式 TOEIC L&R 問題集 Vol. 1~5』国際ビジネスコミュニケーション協会 2016~2019

◆**成績評価基準** Quiz (6 回) 20% + 平常点 (発表や課題提出などを含む授業参加度) 10% + (筆記試験) 60% + mini TOEIC test 10% による総合評価 (クラスのレベルを考慮し、一定の基準になるよう調整を加えることがあります。)

**注意** E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談 (連絡先) に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

# 講座内容（シラバス）

## 〔中国語Ⅰ・Ⅱ〕

坂江 徹

◆**授業概要** 難しいと言われる中国語の発音。せっかく中国語に興味をもって、発音でつまずき、あきらめてしまう人も少なくありません。この講義では発音指導を中心に、基礎となるピンインと声調を理解するところから課題文の暗唱ができるようになるまで、時間をかけて丁寧に学んでいきます。発音以外にも翻訳やクイズなどに挑戦していただき、さまざまな角度から中国語への興味を深めていただければと思います。

◆**学修到達目標** 発音の基礎となるピンインと声調をしっかりと学び、最終的に課題文を暗唱できるようになりましょう。また、グループワークなどの主体的な学びを通して、中国語に馴れ親しみましょう。

◆**授業方法** 発音指導を中心に、説明→全体練習→グループ練習および個別指導を繰り返し行い（履修者が多い場合、個別指導ができない可能性もありますが、極力実施したいと思います）、最後に三日間の集大成として、課題文の暗唱を発表してもらいます。また、翻訳やクイズにはグループで取り組み、教えたり教えられるりしながら中国語への理解を深めていきましょう。

◆**履修条件**

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1回	授業内容：ガイダンス、中国語について 事前学修：自分が中国語を学びたい理由を明確にしておく 事後学修：ガイダンスの内容を確認する
2回	授業内容：課題文の翻訳、翻訳発表 事前学修：課題文に目を通しておく 事後学修：他者の翻訳発表をふまえて翻訳の推敲をする
3回	授業内容：翻訳の講評と解説、中国語のドラマ鑑賞 事前学修：課題文に目を通しておく 事後学修：翻訳で間違っていたところがあれば直し、なぜ間違っていたのかを理解する
4回	授業内容：ピンインの発音練習（全体）、ピンインの書き方のルールを学ぶ 事前学修：ピンイン練習用の配布資料に目を通しておく 事後学修：ピンインの書き方のルールを復習する
5回	授業内容：ピンインの発音練習（グループ練習／個別指導） 事前学修：ピンイン練習用の配布資料を使って自分で発音してみる 事後学修：ピンイン練習用の配布資料を使って発音を復習する
6回	授業内容：声調の発音練習（全体）、声調変化のルール・声調記号のふり方を学ぶ 事前学修：声調練習用の配布資料に目を通しておく 事後学修：声調変化のルール・声調記号のふり方を復習する
7回	授業内容：声調の発音練習（グループ練習／個別指導） 事前学修：声調練習用の配布資料を使って自分で発音してみる 事後学修：声調練習用の配布資料を使って発音を復習する
8回	授業内容：辞書を引く練習、中国語のドラマ鑑賞 事前学修：本・電子・スマートフォンなど形態は問わないが辞書を用意し自分で引いてみる 事後学修：辞書を引いて授業中にわからなかった単語を調べてみる
9回	授業内容：課題文の発音練習（全体、グループ練習／個別指導） 事前学修：課題文に目を通して、これまでに習った内容を応用してみる 事後学修：課題文の発音を復習する
10回	授業内容：中間発表、ピンイン・声調の復習 事前学修：課題文の発音練習を行う 事後学修：ピンインのしくみ・声調の特徴を理解できているか確認する
11回	授業内容：ピンイン・声調・単語クイズ 事前学修：ピンイン・声調練習用の配布資料に目を通しておく 事後学修：クイズで間違っていたところがあれば直し、なぜ間違っていたのかを理解する
12回	授業内容：数字・金額の表し方 事前学修：辞書を利用し、一から十までの発音を予習しておく 事後学修：数字・金額の表し方を復習する
13回	授業内容：時刻の表し方、中国語のアニメ鑑賞 事前学修：一から十までの発音をできるようにしておく 事後学修：時刻の表し方を復習する
14回	授業内容：課題文の発音練習（全体、グループ練習／個別指導） 事前学修：課題文の発音練習を行う 事後学修：課題文の発音を復習する
15回	授業内容：課題文の発表、まとめ 事前学修：課題文の発音練習を行う 事後学修：課題文を実際に使ってみる

◆**教科書** 〔当日資料配布〕

◆**参考書** 使用しない（本・電子・スマートフォンなど形態は問わないが辞書の携帯が望ましい）

◆**成績評価基準** 平常点 40%（主にグループワークへの参加度、発音練習への取り組み姿勢で評価します）発表 60%（発音の発表を行っていただきます。発音には個人差がありますので、各人がスクーリングの3日間でどれだけ上達したかをともに評価します）

◆**授業相談（連絡先）**：sakaeban-laifu@js7.so-net.ne.jp

注意

# 講座内容（シラバス）

## 〔民法Ⅰ〕

野中 貴弘

◆**授業概要** この講座では、民法典の第1編「総則」に定められたルールについて学ぶ。具体的には、民法の適用場面をおさえた後、民法における登場人物についてのルール、納得のいかない意思表示をしてしまった場合の当事者間の利益調整のあり方、他者を使って取引等をする場合の代理制度、さらには永続した事実状態を尊重する制度としての時効制度を学ぶ。これらの説明にあたっては、担当教員の弁護士としての実務経験を踏まえ、実務事例なども採り上げる。

◆**学修到達目標** 私法の基本法たる民法の総則を通して、その後の物権法や債権法の学修に必要な法的知識を修得するとともに、法的思考方法を養成することを目的とする。本授業で扱った制度・論点について、自身で適宜具体例を挙げたうえで、そこでの法の考え方（仕組み）を他者に論理的に説明できるようになること、及び具体的事例（現代社会が直面している問題）の中から法的問題を発見できるようにすることを目指す。

◆**授業方法** パワーポイントに音声吹き込み動画により講義を進める。受講生は、講義視聴後、Google Classroomに設置した事後課題（全15回の授業で、選択肢問題全40問、論述式問題2問）に取り組むことになる。そして、第6回・10回・15回の講義はフィードバック回とし、それまでの事後課題について解説・フィードバックをしながら復習をし、理解を深める形をとる。また、本授業の事前学修・事後学修の時間は各2時間を目安としている。

◆**履修条件**

◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容 講義のテーマや内容、講義スケジュール、成績評価の方法、教科書や参考書の紹介を含めて、民法総則の学習方法について説明し、そのうえで受講生が民法をはじめとした法学を学ぶ意味を一緒に考える	事前学修 自分が「なぜ民法を学びたいのか」「なぜ学ぶ必要があると考えるのか」を整理してみる	事後学修 レジュメを読み直しておく
2回	授業内容 民法がどのような場面において適用される法律であるのかを理解したうえで、極めて広範囲に及ぶ民法につき、その全体像を概観する	事前学修 レジュメあるいは参考書の「第1章 民法とは何か」及び「第2章 私権」を読んでおくこと	事後学修 復習終了後、Google Classroomから事後課題に取り組んで提出する。
3回	授業内容 民法の全体像①（民法とは何か、民法の全体像） 民法における諸原則をはじめとし、善意・悪意や承継取得・原始取得といった法律用語の意味を学ぶ	事前学修 レジュメあるいは参考書の「第1章 民法とは何か」及び「第2章 私権」を読んでおくこと	事後学修 第3回講義は、第2回の講義内容の続きになるので、第2回レジュメを読み返してから講義に臨むこと 復習終了後、Google Classroomから事後課題に取り組んで提出する。
4回	授業内容 権利の主体（人）① 権利能力、意思能力、行為能力といった3つの能力概念を学び、それぞれどのような差があり、それぞれの能力を欠いてした法律行為の効力をおさえる。また、行為能力が十分でない者を保護する制度としての制限行為能力者制度についても学ぶ。	事前学修 レジュメあるいは参考書の「第3章 人」を読んでおくこと	事後学修 復習終了後、Google Classroomから事後課題に取り組んで提出する。
5回	授業内容 権利の主体（人）②・権利の客体（物） 権利の主体の続きとして、制限行為能力者と取引をした相手方保護の在り方や失踪宣告制度を学習したのち、最後に民法上の権利の客体となる物概念について学ぶ	事前学修 レジュメあるいは参考書の「第5章 物」を読んでおくこと	事後学修 復習終了後、Google Classroomから事後課題に取り組んで提出する。
6回	授業内容 第2回～第5回の事後課題の解説・フィードバックをしながら復習をする	事前学修 これまでの事後課題を見直し、自身の解答を思い出ししておく	事後学修 これまでのレジュメを整理するとともに、民法の全体像・権利の主体・権利の客体の総復習をする
7回	授業内容 法律行為と意思表示①（法律行為と意思表示の関係、意思表示の到達と受領、法律行為と意思表示の解釈） 隔地者間における意思表示はいつたいつ効力が生じるのか、契約をしたものの両当事者が表示に込めた意味にずれ違があった場合にはどのような内容で効力が生じるのかといったことを学ぶ	事前学修 レジュメあるいは参考書の「第6章 法律行為と意思表示」のうち、法律行為と意思表示の関係、意思表示の到達と受領、法律行為と意思表示の解釈の箇所を読んでおくこと	事後学修 復習終了後、Google Classroomから事後課題に取り組んで提出する。
8回	授業内容 法律行為と意思表示②（心裡留保、通謀虚偽表示） 一方当事者が相手をだますつもりで契約の申込みをして相手方が信じ切っている場合にその契約の効力は生じるのか、また、契約当事者が真に譲渡する意思がないにもかかわらず、示し合わせて形だけの契約がなされたとき、この契約にはどのような効力があるか、といった問題を扱う。	事前学修 レジュメあるいは参考書の「第6章 法律行為と意思表示」のうち、心裡留保と通謀虚偽表示の箇所を読んでおくこと	事後学修 復習終了後、Google Classroomから事後課題に取り組んで提出する。
9回	授業内容 法律行為と意思表示③（錯誤、詐欺・強迫） 契約締結にあたり一方当事者に勘違いがあった場合の法律行為の効力や、詐欺や強迫をめぐっては契約当事者以外の第三者が詐欺をしていた場合などについて学ぶ	事前学修 レジュメあるいは参考書の「第6章 法律行為と意思表示」のうち、錯誤と詐欺・強迫の箇所を読んでおくこと	事後学修 復習終了後、Google Classroomから事後課題に取り組んで提出する。
10回	授業内容 第7回～第9回の事後課題の解説・フィードバックをしながら復習をする	事前学修 これまでの事後課題を見直し、自身の解答を思い出ししておく	事後学修 これまでのレジュメを整理するとともに、法律行為論の総復習をする
11回	授業内容 法律行為の自由と制約、無効と取消し、条件と期限 取締規定に反する契約は全て効力が生じないか。そもそも無効と取消しは、どのような違いがあるのか。条件と期限にはどのような差があるか。	事前学修 レジュメあるいは参考書の「第7章 法律行為の自由と制約」「第8章 無効と取消し」「第9章 条件・期限」を読んでおくこと	事後学修 復習終了後、Google Classroomから事後課題に取り組んで提出する。
12回	授業内容 代理①（代理の基本的仕組みと機能、代理権、代理行為） 第三者を使って法律行為をする場面である代理制度につき、その効果が生じる要件を整理して学習する	事前学修 レジュメあるいは参考書の「第10章 代理」のうち、第1節から第3節までを読んでおくこと	事後学修 復習終了後、Google Classroomから事後課題に取り組んで提出する。
13回	授業内容 代理②（無権代理、表見代理） 代理行為の効果は本人に帰属するのが原則であるが、代理の要件を満たしていなかった場合には例外となる。そうした例外的局面における相手方保護の在り方について学ぶ	事前学修 レジュメあるいは参考書の「第10章 代理」のうち、第4節および第5節を読んでおくこと	事後学修 復習終了後、Google Classroomから事後課題に取り組んで提出する。
14回	授業内容 永続した事実状態を尊重する制度としての取得時効、および「権利の上に眠る者は保護に値しない」制度としての消滅時効、さらには双方に共通する原則や、時効制度と似た除斥期間制度についても学ぶ。	事前学修 レジュメあるいは参考書の「第12章 時効」を読んでおくこと	事後学修 復習終了後、Google Classroomから事後課題に取り組んで提出する。
15回	授業内容 第11回～第14回の事後課題の解説・フィードバックをしながら復習をする	事前学修 これまでの事後課題を見直し、自身の解答を思い出ししておく	事後学修 これまでのレジュメを整理するとともに、民法総則の総復習をする

◆**教科書** 〔当日資料配布〕動画で使用しているパワーポイントを、Google Classroom上にてPDFの形で配付する

◆**参考書** 〔丸沼〕『民法入門・総則 エssenシャル民法1』永田眞三郎ほか 第5版 有斐閣 2018年  
〔丸沼〕『リーガルベイス民法入門』道垣内弘人 第3版 日本経済新聞出版社 2019年

◆**成績評価基準** 上記「授業方法」で述べた「選択肢問題」および「論述式問題」への解答によって評価する。選択肢問題（80%）では、各回の基礎知識およびこれを前提とした問題発見能力が身につけているかを判定するのに対し、論述式問題（20%）では、（そうした基礎知識や問題発見能力を前提として）論理的思考力が身に付いているかを判定することが主となる。

◆**授業相談（連絡先）**：質問等ある場合には、次のメールアドレス宛に連絡いただきたい。nonaka.takahiro@nihon-u.ac.jp

注意

# 講座内容（シラバス）

## 〔商法Ⅱ〕

大久保 拓也

◆**授業概要** 現代社会で重要な役割を果たしている会社、特に株式会社に関する法知識は社会生活において必ず身に付けておくべきである。経済社会で重要な役割を担う会社について規律する会社法は、平成 17（2005）年に全面改正され、平成 26（2014）年・令和元（2019）年に重要な改正がなされた。同法が規律する会社は経済の主たる担い手であり、会社の活動は社会に与える影響が大きい。授業では、会社に関する法規制に関する法知識を身に付ける者を育成する。

◆**学修到達目標** 会社法の主要な論点に関する基本問題について講義形式で解説をし、学修者との間で講義内容について Classroom を用いて質疑応答を行うので、学修者一人一人が会社法の基本問題の内容を知り、それについて適切な解答を導き出すことができるようにする。Classroom を利用して小テスト等の問題を出し、その解説や講評も配信するため、それを入手し、課題を提出することができるようになる。

◆**授業方法** オンデマンド形式で行う。授業では、会社法の基本的問題を幅広く講義する。その理解のためには、事前に予習し、講義動画を視聴してから、テキストと六法をもとに講義ノートを作成することが必要である。また、ただ漫然と授業を視聴しているだけでは知識が身につかないと思うので、講義後に小テスト等により理解度をチェックする。

◆**履修条件**

◆**授業計画（各 90 分）**

1 回	授業内容 事前学修 事後学修	講義の進度に合わせて、以下の内容には変更がありうる。 会社の種類について学ぶ。会社の種類にはどのようなものがあるのか、授業のテーマや内容の紹介を含めて学習方法について解説する。 日刊新聞紙の経済面を読んでおくこと。教科書「第 1 講 会社の意義と会社法の目的」「第 28 講 持分会社の法規制」を予習する。 教科書の該当部分を読んで授業で取り扱われた事項をノートにまとめる。
2 回	授業内容 事前学修 事後学修	会社の意義と会社法の目的について学ぶ。会社の意義は何か、会社法の目的としてどういうものがあるのかについて解説する。 日刊新聞紙の経済面を読んでおくこと。教科書「第 2 講 会社の能力」を予習する。 教科書の該当部分を読んで授業で取り扱われた事項をノートにまとめる。
3 回	授業内容 事前学修 事後学修	会社の法人格とはどういう制度であるかについて学ぶ。会社の法人格、法人格否認の法理、株式と有限責任について解説する。 日刊新聞紙の経済面を読んでおくこと。教科書「第 3 講 会社の法人格、法人格否認の法理」を予習する。 教科書の該当部分を読んで授業で取り扱われた事項をノートにまとめる。
4 回	授業内容 事前学修 事後学修	株主平等の原則とその例外について学ぶ。株主平等の原則とはどういう制度か、その例外として属人的定めとは何かについて解説する。 日刊新聞紙の経済面を読んでおくこと。教科書「第 5 講 株主平等の原則とその例外」を予習する。 教科書の該当部分を読んで授業で取り扱われた事項をノートにまとめる。
5 回	授業内容 事前学修 事後学修	種類株式とはどういう制度であるかについて学ぶ。普通株式とは何か、種類株式はどのような制度か等について解説する。 日刊新聞紙の経済面を読んでおくこと。教科書「第 6 講 種類株式」を予習する。 教科書の該当部分を読んで授業で取り扱われた事項をノートにまとめる。
6 回	授業内容 事前学修 事後学修	新株発行はどのような制度であるかについて学ぶ。新株発行とは何か、新株発行手続きとはどのような制度か、新株発行の差止め等について解説する。 日刊新聞紙の経済面を読んでおくこと。教科書「第 7 章 新株発行の手続き」「第 8 講 新株発行の差止め、無効、不存在」を予習する。 教科書の該当部分を読んで授業で取り扱われた事項をノートにまとめる。
7 回	授業内容 事前学修 事後学修	株式譲渡とはどのような制度であるかについて学ぶ。株式譲渡とはどのような制度か、株式譲渡の制限という制度について解説する。 日刊新聞紙の経済面を読んでおくこと。教科書「第 9 講 株式譲渡」を予習する。 教科書の該当部分を読んで授業で取り扱われた事項をノートにまとめる。
8 回	授業内容 事前学修 事後学修	自己株式とはどのような制度であるかについて学ぶ。自己株式とは何か、自己株式取得規制はどのような制度かについて解説する。 日刊新聞紙の経済面を読んでおくこと。教科書「第 10 講 自己株式」を予習する。 教科書の該当部分を読んで授業で取り扱われた事項をノートにまとめる。
9 回	授業内容 事前学修 事後学修	機関とはどのような制度であるかについて学ぶ。機関総論の概要、株主総会運営の手続について解説する。 日刊新聞紙の経済面を読んでおくこと。教科書「第 13 講 機関総論、株主総会運営の手続」を予習する。 教科書の該当部分を読んで授業で取り扱われた事項をノートにまとめる。
10 回	授業内容 事前学修 事後学修	説明義務、株主提案権とはどのような制度であるかについて学ぶ。説明義務、株主提案権、株主総会決議の瑕疵について解説する。 日刊新聞紙の経済面を読んでおくこと。教科書「第 14 講 説明義務、株主提案権」「第 15 講 株主総会決議の瑕疵」を予習する。 教科書の該当部分を読んで授業で取り扱われた事項をノートにまとめる。
11 回	授業内容 事前学修 事後学修	取締役の資格や義務にはどのような規制があるかについて学ぶ。役員の資格・選解任手続、善管注意義務とは何か、忠実義務とはどのような制度かについて解説する。 日刊新聞紙の経済面を読んでおくこと。教科書「第 16 講 役員の資格・選解任手続」「第 17 講 善管注意義務と忠実義務」を予習する。 教科書の該当部分を読んで授業で取り扱われた事項をノートにまとめる。
12 回	授業内容 事前学修 事後学修	取締役にはどのような義務があるかについて学ぶ。善管注意義務とは何か、忠実義務とはどのような制度か、競業避止義務、利益相反取引について解説する。 日刊新聞紙の経済面を読んでおくこと。教科書「第 17 講 善管注意義務と忠実義務」「第 18 講 競業取引と利益相反取引」を予習する。 教科書の該当部分を読んで授業で取り扱われた事項をノートにまとめる。
13 回	授業内容 事前学修 事後学修	取締役会にはどのような規制があるかについて学ぶ。取締役会とはどのような役割をもつ制度か、解説する。 日刊新聞紙の経済面を読んでおくこと。教科書「第 19 講 取締役と取締役会の役割」を予習する。 教科書の該当部分を読んで授業で取り扱われた事項をノートにまとめる。
14 回	授業内容 事前学修 事後学修	取締役にはどのような報酬規制があるかについて学ぶ。取締役の報酬規制はどのような役割をもつ制度か解説する。 日刊新聞紙の経済面を読んでおくこと。教科書「第 20 講 報酬規制」を予習する。 教科書の該当部分を読んで授業で取り扱われた事項をノートにまとめる。
15 回	授業内容 事前学修 事後学修	取締役はどのような責任を負うかについて学ぶ。取締役の対会社責任、対第三者責任はどのような制度か解説する。 日刊新聞紙の経済面を読んでおくこと。教科書「第 22 講 取締役の対会社責任と株主代表訴訟」「第 23 講 取締役の対第三者責任」を予習する。 教科書の該当部分を読んで授業で取り扱われた事項をノートにまとめる。

◆**教科書** 丸沼 松嶋隆弘編著『会社法講義 30 講』（中央経済社、2015 年）3300 円＋税  
丸沼 六法を持参すること（民法（債権関係）改正が成立したため、最新版（2020（令和 2）年版）が望ましい）

◆**参考書**

◆**成績評価基準** 試験（70%）、平常評価（レポート・小テスト等の提出物）（30%）  
講義動画を視聴することを前提とする。

◆**授業相談（連絡先）：**

注意

# 講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔法哲学〕

高須 則行

◆**授業概要** 法哲学とは、法（法解釈学）を対象として、全体的、根源的に考察するものとされる。今回の講義は、法哲学のひとつの研究領域である法的思考（法解釈学方法論）を対象として、それがどのような思考方法であるかを、いくつかの具体的事例を取り上げて解説しようとする。

- ◆**学修到達目標**
- ①法的思考の構造を理解し、説明することができる。
  - ②法的思考における法の種類を理解し、説明することができる。
  - ③様々な法解釈の方法の特徴と機能を、およびその相互関係を理解し、説明することができる。
  - ④法的決定を導くときの理由づけ（推論）の構造を理解し、説明することができる。

◆**授業方法** 講義形式で行いますが、その都度、受講生の皆さんに質問し、自らの考えを述べてもらいたいと思っています。そのような双方向の授業を心掛けていきたいと思っています。  
受講者の人数にもよりますが、ゼミ形式で授業を進めることも考えています。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回	授業内容：法哲学へのいざない：法哲学と法解釈学 事前学修：資料の該当部分参照 事後学修：授業の内容をノートに整理し、授業内容を確認し理解しておくこと
2 回	授業内容：自然法と実定法、成文法と不文法 事前学修：資料の該当部分参照 事後学修：授業の内容をノートに整理し、授業内容を確認し理解しておくこと
3 回	授業内容：社会規範の種類（法・道徳・慣習・マナー・戒律）と制定法の種類（憲法・条約・法律・命令・規則・条例） 事前学修：資料の該当部分参照 事後学修：授業の内容をノートに整理し、授業内容を確認し理解しておくこと
4 回	授業内容：法と道徳の関係(1)：法の外面性と道徳の内面性 事前学修：資料の該当部分参照 事後学修：授業の内容をノートに整理し、授業内容を確認し理解しておくこと
5 回	授業内容：法と道徳の関係(2)：J.S. ミルの危害原理 事前学修：資料の該当部分参照 事後学修：授業の内容をノートに整理し、授業内容を確認し理解しておくこと
6 回	授業内容：法と道徳の関係(3)：法的モラリズム 事前学修：資料の該当部分参照 事後学修：授業の内容をノートに整理し、授業内容を確認し理解しておくこと
7 回	授業内容：法と道徳の関係(4)：法的パターンリズム 事前学修：資料の該当部分参照 事後学修：授業の内容をノートに整理し、授業内容を確認し理解しておくこと
8 回	授業内容：法的三段論法 事前学修：資料の該当部分参照 事後学修：授業の内容をノートに整理し、授業内容を確認し理解しておくこと
9 回	授業内容：言葉の構造（内包と外延） 事前学修：資料の該当部分参照 事後学修：授業の内容をノートに整理し、授業内容を確認し理解しておくこと
10 回	授業内容：文理解釈と拡張解釈 事前学修：資料の該当部分参照 事後学修：授業の内容をノートに整理し、授業内容を確認し理解しておくこと
11 回	授業内容：文理解釈と縮小解釈 事前学修：資料の該当部分参照 事後学修：授業の内容をノートに整理し、授業内容を確認し理解しておくこと
12 回	授業内容：文理解釈と反対解釈 事前学修：資料の該当部分参照 事後学修：授業の内容をノートに整理し、授業内容を確認し理解しておくこと
13 回	授業内容：文理解釈と類推解釈 事前学修：資料の該当部分参照 事後学修：授業の内容をノートに整理し、授業内容を確認し理解しておくこと
14 回	授業内容：目的論的解釈 事前学修：資料の該当部分参照 事後学修：授業の内容をノートに整理し、授業内容を確認し理解しておくこと
15 回	授業内容：法解釈の要請：法的安定性と具体的妥当性 事前学修：資料の該当部分参照 事後学修：授業の内容をノートに整理し、授業内容を確認し理解しておくこと

◆**教科書** 特になし。レジュメを配布する。

◆**参考書** 〔凡例〕「法哲学」 平野仁彦・亀本洋・服部高宏 有斐閣アルマ 2002

◆**成績評価基準** ①試験結果 (50%) ②授業参加度 (30%) ③レポート (20%)

### 注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。



# 講座内容（シラバス）

## 〔日本史概説 / 日本史概論〕

鍋本 由徳

◆**授業概要** 本科目では、①「日本史」とは何か、②原始・古代～現代までの歴史の変遷、③「歴史事実」の多様性への理解などを、世界のなかでの日本を意識しながら学び、「日本史」全体を考える技術と態度の修得をめざします。政治や経済の内容を中心に据えながら、社会や文化の背景への理解を深めます。また、史料専門調査員としての経験を活かし、各時代の史料を使った歴史復原や意義付けの方法について指導します。

◆**学修到達目標** 1. 日本史を知るため、全時代を通じた時代の流れを説明できるようにする。  
2. 各時代の主なできごとの背景や意義、着眼点について説明できるようにする。  
3. 各時代の歴史事実を裏づける歴史資料の読解や歴史学的考察の成果を理解できるようにする。  
4. 将来卒業論文を書く、あるいは教壇に立つ者としての必要な知識と姿勢を身につける。

◆**授業方法** 適宜高等学校の日本史Bの教科書内容、スクリーン投影資料、音声・映像資料、文献資料の原本、デジタル・アーカイブズなどを併用しながら、教科書の内容を掘り下げ、プリント内容を説明します。各回終了前に理解度チェック（小テスト）と理解度自己評価をおこないます。最終試験の前に小テストと自己評価を踏まえた講評をする予定です。

※2日目午後に実地巡見をおこなう場合がありますが、受講生多数（おおむね40名以上）の時は授業計画通りに通常講義となります（巡見費用は受講生負担）。なお、授業計画は「予定」であり、変更する場合があります。

◆**履修条件** 令和元年度昼間スクーリング（前期）・令和2年度昼間スクーリング（前期）「日本史概説」とは積み重ね不可

◆**授業計画**〔各90分〕

1回	授業内容：日本史概説の特性と学びの意味 事前学修：シラバスを熟読し、講義全体の流れをおさえておく。 事後学修：各回の意図を振り返り、今後の自身の学修目標を立てる。
2回	授業内容：先史時代の特徴 ～旧石器から弥生時代～ 事前学修：教科書の先史時代の範囲を読み、事前シートに取り組み。 事後学修：ノートと教科書を見返し、概説書を使って自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
3回	授業内容：ヤマト王権 ～倭王武から推古朝～ 事前学修：教科書の古墳～飛鳥時代の範囲を読み、事前シートに取り組み。 事後学修：ノートと教科書を見返し、概説書を使って自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
4回	授業内容：奈良時代の政治 ～政争～ 事前学修：教科書の奈良時代政治史の範囲を読み、事前シートに取り組み。 事後学修：ノートと教科書を見返し、概説書を使って自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
5回	授業内容：平安時代の政治 ～遷都と聖俗～ 事前学修：教科書の平安時代政治史を読み、事前シートに取り組み。 事後学修：ノートと教科書を見返し、概説書を使って自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
6回	授業内容：鎌倉幕府の成立 ～東国王権と西国王権～ 事前学修：教科書の鎌倉時代政治史の範囲を読み、事前シートに取り組み。 事後学修：ノートと教科書を見返し、概説書を使って自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
7回	授業内容：室町幕府の特徴 ～建武新政から観応の擾乱～ 事前学修：教科書の室町時代政治史の範囲を読み、事前シートに取り組み。 事後学修：ノートと教科書を見返し、概説書を使って自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
8回	授業内容：戦国時代の様相 ～統一政権への布石～ 事前学修：教科書の戦国・織田政権の範囲を読み、事前シートに取り組み。 事後学修：ノートと教科書を見返し、概説書を使って自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
9回	授業内容：天下統一と徳川政権 ～朝廷との関係～ 事前学修：教科書の近世朝廷に関わる範囲を読み、事前シートに取り組み。 事後学修：ノートと教科書を見返し、概説書を使って自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
10回	授業内容：明治新政府の施政方針 ～江戸幕府の遺制～ 事前学修：教科書の幕末維新期の範囲を読み、事前シートに取り組み。 事後学修：ノートと教科書を見返し、概説書を使って自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
11回	授業内容：条約改正問題と帝国議会 ～成果と課題～ 事前学修：教科書の幕末開国と条約改正の範囲を読み、事前シートに取り組み。 事後学修：ノートと教科書を見返し、概説書を使って自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
12回	授業内容：大正デモクラシー ～政変と普選～ 事前学修：教科書の大正政変に関わる範囲を読み、事前シートに取り組み。 事後学修：ノートと教科書を見返し、概説書を使って自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
13回	授業内容：太平洋戦争と国際関係 ～日本の対米英意識～ 事前学修：教科書の昭和外交と太平洋戦争の範囲を読み、事前シートに取り組み。 事後学修：ノートと教科書を見返し、概説書を使って自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
14回	授業内容：戦後日本の歩み ～戦後改革と歴史学～ 事前学修：教科書の戦後改革の範囲を読み、事前シートの課題に取り組み。 事後学修：ノートと教科書を見返し、概説書を使って自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
15回	授業内容：講義総括 日本史概説の振り返りと今後の課題 事前学修：第1回から第14回の学修内容の要点をまとめておく。 事後学修：当日配付されたプリントから自身の弱点を知り、重点復習箇所を確認する。

◆**教科書** **【前資料配付】**『概論 日本歴史 Q30200』通信教育教材（教材コード 000382）  
**【当日資料配布】** 参照プリントを1～2枚配付

◆**参考書** **【当日資料配布】** 授業中に適宜紹介します。

◆**成績評価基準** 最終試験（60%）、授業内小テスト（30%）、授業への参画度（10%）の総合評価  
※15回全出席を前提とした評価です。

◆**授業相談（連絡先）**：開講時に指示します。

**注意**

# 講座内容（シラバス）

## 〔財政学〕

金子 光

- ◆**授業概要** 本講義では、ミクロ経済学・マクロ経済学の理論を概説した上で、現在の日本が直面している様々な政策課題に焦点をあてながら、国や地方公共団体などの公共部門が果たす役割を理論面・制度面・政策面から考察を行います。
- ◆**学修到達目標** 財政の役割とその仕組みに関して理解を深めるとともに、政策論に必要な分析手法を重点的に修得することで、予算・税制・公債・社会保障・地方財政などの問題を分析し、政策形成に資する能力を身に着けることを目標とします。
- ◆**授業方法** ポストコロナの財政政策、東京五輪（2020）の政策課題、消費税の軽減税率、TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）などはすべて財政学の研究対象です。  
講義では、ミクロ経済学・マクロ経済学の理論を概説した上で、財政学が現実の政策課題へ如何に応用されるか考察します。政治・経済が重要な局面を迎えるなか、様々な政策課題を皆さんと共に考えていきたいと思えます。
- ◆**履修条件**
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1回	<b>授業内容</b> ：【財政学の潮流】 財政学の分析視角について説明した上で、「市場の失敗」と政府の役割、財政学と政策形成の関連について明らかにする。 <b>事前学修</b> ：「財政学の対象」について調べること <b>事後学修</b> ：レポートに取り組むこと
2回	<b>授業内容</b> ：【財政の3機能】「財政の3機能」の今日的課題として、「アベノミクス」、「格差社会と財政の役割」、「東日本大震災と財政の役割」を取り上げる。 <b>事前学修</b> ：「「財政の3機能」の今日的課題」について調べること <b>事後学修</b> ：レポートに取り組むこと
3回	<b>授業内容</b> ：【財政民主主義】 憲法の条文を踏まえて、財政民主主義と「政府の失敗」、会計検査院の役割などについて明らかにする。 <b>事前学修</b> ：「憲法における財政の条文」について調べること <b>事後学修</b> ：レポートに取り組むこと
4回	<b>授業内容</b> ：【予算論】 予算原則、予算の循環について説明した上で、増分主義的予算編成の課題を明らかにする。 <b>事前学修</b> ：「予算の循環における決算の位置づけ」について調べること <b>事後学修</b> ：レポートに取り組むこと
5回	<b>授業内容</b> ：【財政の持続可能性】 プライマリー・バランス論、ドーマーモデル、「利子率と成長率」論争など、財政規律に関する議論を検討する。 <b>事前学修</b> ：「プライマリー・バランスに関する議論」について調べること <b>事後学修</b> ：レポートに取り組むこと
6回	<b>授業内容</b> ：【政策評価】 政策評価に関する理論を概観し、PPBSの意義と問題点について検討する。 <b>事前学修</b> ：Evidence-based policy making について調べること <b>事後学修</b> ：レポートに取り組むこと
7回	<b>授業内容</b> ：【租税の理論】 租税の意義と原則、租税の転嫁と帰着、従価税と従量税などについて取り上げる。 <b>事前学修</b> ：「租税の意義と原則」について調べること <b>事後学修</b> ：レポートに取り組むこと
8回	<b>授業内容</b> ：【消費税】 一般売上税の特徴、付加価値税のメカニズムについて説明した上で、先進国の付加価値税について検討する。 <b>事前学修</b> ：「消費税増税後の課題」について調べること <b>事後学修</b> ：レポートに取り組むこと
9回	<b>授業内容</b> ：【社会保障】 社会保障の体系、社会保障の財源問題について説明した上で、マクロ経済スライドに関する議論を検討する。 <b>事前学修</b> ：「社会保障と税の一体改革」について調べること <b>事後学修</b> ：レポートに取り組むこと
10回	<b>授業内容</b> ：【グローバル化と財政】 開放経済下の財政政策、マクロ経済政策の国際協調などについて取り上げる。 <b>事前学修</b> ：「Sustainable Development Goals (SDGs) と ODA 改革」について調べること <b>事後学修</b> ：レポートに取り組むこと
11回	<b>授業内容</b> ：【地方財政】 オーツの分権化定理、ティプー仮説（足による投票）、ヤードスティック競争について概観した上で、平成の大合併について検討する。 <b>事前学修</b> ：「市町村合併の課題」について調べること <b>事後学修</b> ：レポートに取り組むこと
12回	<b>授業内容</b> ：【財政のマクロ経済分析】 財政のマクロ経済分析について、ケインズモデル、ハロッド＝ドーマーの成長理論、ソロー・モデルを取り上げる。 <b>事前学修</b> ：「ソロー・モデル」について調べること <b>事後学修</b> ：レポートに取り組むこと
13回	<b>授業内容</b> ：【公共選択論】 コンドルセのパラドックス、官僚制と予算最大化、コモンプール問題などを取り上げる。 <b>事前学修</b> ：「コンドルセのパラドックス」について調べること <b>事後学修</b> ：レポートに取り組むこと
14回	<b>授業内容</b> ：【日本の財政の未来】 日本の財政の課題として、「ポストコロナの財政政策」、「東京五輪（2020）と政策課題」、「財政再建と行政改革」について、検討する。 <b>事前学修</b> ：「ポストコロナの財政政策」について調べること <b>事後学修</b> ：レポートに取り組むこと
15回	<b>授業内容</b> ：【試験及び解説】 <b>事前学修</b> ：授業の内容の総括をすること <b>事後学修</b> ：日本の財政の将来像を明確にすること

- ◆**教科書**
- ◆**参考書** 講義の際、各回の内容に基づいて、適宜紹介します。
- ◆**成績評価基準** 政策課題を分析し政策を形成する能力について、テスト（60%）・レポート（40%）の様々な観点から総合的に評価します。
- ◆**授業相談（連絡先）**：初回授業時に案内します。

注意

## 講座内容（シラバス）

### 〔国文学基礎講義〕

近藤 健史

- ◆**授業概要** 基本的には、講義形式である。日本古典文学の中から代表的作品を取りあげ、時代的背景や社会的背景などを踏まえ、多様な視点から読解を行う。また、当時の建築様式や生活様式などについての映像を利用して理解を深める。
- ◆**学修到達目標** 日本古典文学の作品を読む基礎的な知識や方法を身につけ、専門科目の学修に対応できるようにする。また、「日本古典文学」の背景となる文化、作品の成立事情や内容などを説明できるようになる。
- ◆**授業方法** 基本的には、教科書に沿って、作品の時代背景、成立事情などを講義する。作品については、プリントで補足して読解し、内容や表現などの特色を学ぶ。また、理解を深めるため映像を利用して、社会的背景を学ぶ。
- ◆**履修条件**
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容：授業の進め方、日本古典文学の概要。 事前学修：各章の冒頭にある「本章のポイント」を読み、教科書の大まかな内容を把握しておくこと。 事後学修：各章末に付してある「理解を深めるための参考書」や「関連作品の案内」を読み、理解を深める。
2 回	授業内容：『記紀』と『風土記』を読み、「古代」を考える。 事前学修：第 1 章を読んで、各作品の成立事情などを理解しておくこと。 事後学修：第 1 章末「知識を確認しよう」の問題を解き、理解を深める。
3 回	授業内容：『記紀歌謡』と『万葉集』を読み、「古代の日本」を考える。 事前学修：第 2 章を読んで各作品の成立事情などを理解しておくこと。 事後学修：第 2 章末の「知識を確認しよう」の問題を解き、理解を深める。
4 回	授業内容：『源氏物語』の世界を読む。 事前学修：『源氏物語』の成立事情などについて調べておくこと。 事後学修：事前学修と授業内容について確認し、理解を深める。
5 回	授業内容：『源氏物語』の作品を読み解く。 事前学修：第 3 章にあげてある「帚木巻」「若紫巻」「藤壺巻」の作品について大意を把握しておくこと。 事後学修：第 3 章末の「知識を確認しよう」の問題を解き、理解を深める。
6 回	授業内容：『古今和歌集』を読む。 事前学修：『古今和歌集』の序文や成立などについて調べておくこと。 事後学修：事前学修と授業内容について確認し、理解を深める。
7 回	授業内容：『古今和歌集』の作品を読み解く。 事前学修：第 4 章にあげてある作品について大意を把握しておくこと。 事後学修：第 4 章末の「知識を確認しよう」の問題を解き、理解を深める。
8 回	授業内容：『方丈記』と『徒然草』が作られた時代背景を考える。 事前学修：第 5 章を読み、それぞれの作品の作者や時代背景について調べておくこと。 事後学修：事前学修と授業内容について確認し、理解を深める。
9 回	授業内容：『方丈記』と『徒然草』の作品を読み解く。 事前学修：第 5 章にあげてある作品について「無常」をポイントとして読んでおくこと。 事後学修：第 5 章末の「知識を確認しよう」の問題を解き、理解を深める。
10 回	授業内容：『新古今和歌集』の成立事情や特色を考える。 事前学修：中世の時代、文人たちの生活などについて調べておくこと。 事後学修：事前学修と授業内容を確認し、理解を深める。
11 回	授業内容：『新古今和歌集』の秀歌を読み解く。 事前学修：秀歌の鑑賞の仕方などについて調べておくこと。 事後学修：第 6 章末の「知識を確認しよう」の問題を解き、理解を深める。
12 回	授業内容：近世文学の時代的背景を学ぶ。 事前学修：中世から近世という時代の流れや時代的な特色について調べておくこと。 事後学修：事前学修と授業内容を確認して、理解を深める。
13 回	授業内容：井原西鶴の文学を学ぶ。 事前学修：西鶴の登場とその時代背景を調べておくこと。 事後学修：事前学修と授業内容を確認して、理解を深める。
14 回	授業内容：近松門左衛門の文学を学ぶ。 事前学修：近松の登場とその時代背景を調べておくこと。 事後学修：第 7 章末の「知識を確認しよう」の問題を解き、理解を深める。
15 回	授業内容：松尾芭蕉の文学を学ぶ。 事前学修：芭蕉の「不易流行」と「かるみ」という文学理念について調べておくこと。 事後学修：第 8 章末の「知識を確認しよう」の問題を解き、理解を深める。全体の授業内容を振り返る。

- ◆**教科書** 『国文学基礎講義 M20100』通信教育教材（教材コード 000519）3,350 円（送料込）この教材は市販の『日本古典文学』近藤健史編（弘文堂）と同一です。
- ◆**参考書** 教材の各章と『国文学基礎講義学修指導書』に記してある。
- ◆**成績評価基準** 試験 100%
- ◆**授業相談（連絡先）**：初回授業時に案内します。

注意

# 講座内容（シラバス）

## 〔国文学概論〕

武藤 純子

- ◆**授業概要** 国文学の一ジャンルである浮世草子、浄瑠璃、歌舞伎、黄表紙といった文学・文芸を考察する。江戸と上方（関西）を中心に誕生・発展したこれらは、江戸時代の風俗をいきいきと描いている。本授業では庶民風俗・遊里風俗に注目しつつ、それぞれのジャンルの文体と表現様式の特徴を理解できる事を心がける。
- ◆**学修到達目標** 浮世草子、浄瑠璃、歌舞伎、黄表紙の代表的作品を知り、文学史的意義、文体、表現様式の特徴などを説明できるようになることを、学修到達目標とする。
- ◆**授業方法** 受講者参加型の講義形式で進める。テキストの音読をはじめ、読み解きに関しても意見を求める。理解を深めるために、文楽・歌舞伎のDVDおよび浮世絵画像を利用する。
- ◆**履修条件**
- ◆**授業計画（各90分）**

1回	授業内容：授業の進め方およびガイダンス。次に近世文学のジャンルと歴史の変遷を説明する。 事前学修：「好色一代男」「曾根崎心中」「江戸生艶気樺焼」について調べ、ノートに概説をまとめておく。 事後学修：浮世草子、浄瑠璃、黄表紙の代表的作品と地域を確認し理解しておく。
2回	授業内容：浮世絵が描いた庶民風俗・遊里風俗について 事前学修：江戸時代の庶民風俗・遊里風俗について調べ、ノートに概説をまとめておく。 事後学修：三都の遊廓と遊女の階級について確認し理解しておく。
3回	授業内容：「好色一代男」「曾根崎心中」「江戸生艶気樺焼」の概要・特色について 事前学修：「好色一代男」「曾根崎心中」「江戸生艶気樺焼」についてのノートを補足充実させておく。 事後学修：「好色一代男」「曾根崎心中」「江戸生艶気樺焼」の作者・年代・地域を確認し理解しておく。
4回	授業内容：井原西鶴作「好色一代男」巻七（世之介）四十九歳のエピソードについて 事前学修：該当箇所を予め読んでおく。 事後学修：浮世草子の文体の特徴と島原の太夫の描かれ方を確認し理解しておく。
5回	授業内容：井原西鶴作「好色一代男」巻七（世之介）五十二歳のエピソードについて 事前学修：該当箇所を予め読んでおく。 事後学修：浮世草子の文体の特徴と遊里風俗を確認し理解しておく。
6回	授業内容：近松門左衛門作「曾根崎心中」上の巻について 事前学修：該当箇所を予め読んでおく。 事後学修：徳兵衛（職業・年代・経歴）と大坂の遊里について確認し理解しておく。
7回	授業内容：近松門左衛門作「曾根崎心中」中の巻について 事前学修：該当箇所を予め読んでおく。 事後学修：遊女お初（お初）の風俗と大坂の遊里について確認し理解しておく。
8回	授業内容：近松門左衛門作「曾根崎心中」下の巻について 事前学修：該当箇所を予め読んでおく。 事後学修：道行文について確認し理解しておく。
9回	授業内容：人形浄瑠璃（文楽）「曾根崎心中」の鑑賞 事前学修：「曾根崎心中」のあらすじ・展開をまとめておく。 事後学修：文楽（演劇）「曾根崎心中」の文学としての特色と演劇としての見どころ確認し理解しておく。
10回	授業内容：山東京伝作「江戸生艶気樺焼」の内容について 事前学修：艶二郎についての描写と行動を拾いあげてみる。 事後学修：艶二郎についての描写と行動をまとめてみる。
11回	授業内容：「江戸生艶気樺焼」北尾政演の挿絵と庶民風俗・遊里風俗について 事前学修：挿絵の疑問点を拾い上げてみる。 事後学修：文章と挿絵の関係および庶民風俗を確認し理解しておく。
12回	授業内容：山東京伝作「江戸生艶気樺焼」が描く遊里・遊女・芸子について 事前学修：江戸吉原についてノートにまとめておく。 事後学修：江戸の吉原と遊里風俗について確認し理解しておく。
13回	授業内容：歌舞伎の鑑賞—歌舞伎に登場する遊里・遊女— 事前学修：「好色一代男」「曾根崎心中」「江戸生艶気樺焼」に描かれた遊女について復習しておく。 事後学修：演劇に登場する三都の遊女の風俗や立ち居振る舞いを確認し理解しておく。
14回	授業内容：理解度の確認 事前学修：配布資料を熟読するとともに、ノートの補足充実を行う。 事後学修：要点について再確認する。
15回	授業内容：試験 事前学修：配布資料の熟読と要点についての再理解を行う。 事後学修：授業内容を再確認する。

- ◆**教科書** **〔当日資料配布〕** 当日資料を配布、参考資料は配布資料の中で指示。
- ◆**参考書**
- ◆**成績評価基準** 授業への取り組み（15%）、試験（85%）により総合的に評価します。
- ◆**授業相談（連絡先）**：初回授業時に案内します。

### 注意

# 講座内容（シラバス）

## 〔国文学講義Ⅳ〕

山崎 泉

◆**授業概要** 小説、俳諧、狂歌、川柳、浄瑠璃、歌舞伎、音曲等々、多種多様なジャンルが栄えた近世文学。本講義ではその中から、浄瑠璃について学んでいきます。はるか江戸の昔から今日まで脈々と伝承されてきた「生きた近世の文化遺産」を学ぶことにより、近世文学の多様性に触れることを目的とします。

◆**学修到達目標** 浄瑠璃の特徴とその歴史が説明できるようになります。  
浄瑠璃が近世文学においてどのような位置を占め、今日まで伝承されてきたのかが、理解できるようになります。  
古典作品を伝承していく重要性を再認識できます。

◆**授業方法** 主に講義形式で進めます。まず近世文学の特色について解説した後、浄瑠璃の歴史に関する講義を行います。その後、実際の作品を鑑賞し、その特徴を具体的な形で学んでいきます。また、毎日の締めくくり、その日の学修状況を確認するリアクションペーパーを課す予定です。

◆**履修条件**

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1回	授業内容 事前学修 事後学修	授業の進め方・オリエンテーション・近世文学の特色 まず、授業の進め方を説明した後、近世文学の特色について解説します。 シラバスの内容を確認しておいて下さい。 授業の内容をノートに整理し、近世文学の特色を理解して下さい。
2回	授業内容 事前学修 事後学修	人形浄瑠璃の歴史(1)浄瑠璃の発生から義太夫節の誕生までを学びます。 前回の授業の内容を確認しておいて下さい。 配布したレジュメを参照しながら、授業の内容をノートに整理して下さい。
3回	授業内容 事前学修 事後学修	人形浄瑠璃の歴史(2)近松門左衛門の時代から人形浄瑠璃の全盛時代までを学びます。 前回の授業の内容を確認しておいて下さい。 配布したレジュメを参照しながら、授業の内容をノートに整理して下さい。
4回	授業内容 事前学修 事後学修	人形浄瑠璃の歴史(3)近松半二の時代から江戸の人形浄瑠璃までを学びます。 前回の授業の内容を確認しておいて下さい。 配布したレジュメを参照しながら、授業の内容をノートに整理して下さい。
5回	授業内容 事前学修 事後学修	人形浄瑠璃の現在 人形浄瑠璃の現状について解説します。 前回の授業の内容を確認しておいて下さい。 配布したレジュメを参照しながら、授業の内容をノートに整理して下さい。
6回	授業内容 事前学修 事後学修	人形浄瑠璃『曾根崎心中』鑑賞(1)近松門左衛門の代表作である『曾根崎心中』を取り上げて、浄瑠璃とは何かを具体的に学んでいきます。 前回の授業の内容を確認しておいて下さい。 作品のあらすじをノートに整理し、『曾根崎心中』の内容について考察して下さい。
7回	授業内容 事前学修 事後学修	人形浄瑠璃『曾根崎心中』鑑賞(2)近松門左衛門の代表作である『曾根崎心中』を鑑賞、浄瑠璃とは何かを具体的に学びます。 前回の授業の内容を確認しておいて下さい。 作品の内容をノートに整理し、人形浄瑠璃の特徴について考察して下さい。
8回	授業内容 事前学修 事後学修	人形浄瑠璃『曾根崎心中』鑑賞(3)引き続き近松門左衛門の代表作である『曾根崎心中』を鑑賞、浄瑠璃とは何かを具体的に学びます。 前回の授業の内容を確認しておいて下さい。 作品の内容をノートに整理し、人形浄瑠璃について考察して下さい。
9回	授業内容 事前学修 事後学修	『心中天網島 大和屋の段』鑑賞。近松門左衛門晩年の代表作『心中天網島』の中から「大和屋の段」を素浄瑠璃で鑑賞します。人形浄瑠璃の舞台から離れた素浄瑠璃を鑑賞することにより、浄瑠璃の魅力を具体的に学びます。 前回の授業の内容を確認しておいて下さい。 作品の内容をノートに整理し、『心中天網島』のあらすじについて考察して下さい。
10回	授業内容 事前学修 事後学修	豊後系浄瑠璃の世界 人形芝居と結びつくことで発展してきた浄瑠璃である義太夫節以外にも、近世には様々な浄瑠璃が生まれました。ここでは主に歌舞伎舞踊と結びついて発展した豊後系浄瑠璃について学びます。 前回の授業の内容を確認しておいて下さい。 授業の内容をノートに整理して下さい。
11回	授業内容 事前学修 事後学修	江戸の浄瑠璃 江戸生まれの浄瑠璃である河東節について学びます。 前回の授業の内容を確認しておいて下さい。 授業の内容をノートに整理して下さい。
12回	授業内容 事前学修 事後学修	歌舞伎『助六所縁江戸桜』鑑賞(1)河東節を用いた歌舞伎作品である『助六所縁江戸桜』を鑑賞、江戸浄瑠璃の魅力を探ります。 前回の授業の内容を確認しておいて下さい。 作品の内容をノートに整理し、河東節がどのように活用されているかを考察して下さい。
13回	授業内容 事前学修 事後学修	歌舞伎『助六所縁江戸桜』鑑賞(2)引き続き、河東節を用いた歌舞伎作品である『助六所縁江戸桜』を鑑賞、江戸浄瑠璃の魅力を探ります。 作品の内容を確認しておいて下さい。 作品の内容をノートに整理し、河東節がどのように活用されているかを考察して下さい。
14回	授業内容 事前学修 事後学修	まとめ・理解度の確認 これまで学修してきた内容の総括を行い、試験に備えます。 配布したレジュメ及び鑑賞作品の内容をもう一度確認して下さい。 レジュメ及び鑑賞作品の内容を再確認し、ノートに整理して下さい。
15回	授業内容 事前学修 事後学修	試験（最終レポート） レジュメ及びノートに整理した内容をよく確認して下さい。 これまで学んだことをいま一度振り返りながら、レジュメ及びノートを再読して下さい。

◆**教科書** 〔当日資料配布〕 当日プリントを配布します。

◆**参考書** 〔凡例〕 授業時に紹介します。

◆**成績評価基準** 平常点（20%）、試験（80%）により、総合的に評価します。  
毎回出席することを前提として採点します。

◆**授業相談（連絡先）**：初回授業時に案内します。

**注意**

# 講座内容 (シラバス)

青木 隆

## 〔漢文学Ⅰ〕

- ◆**授業概要** 長編歴史小説『三国志演義』の名場面を漢文訓読法により鑑賞する。本授業が国語教員免許の必修科目であることに鑑み、漢文訓読文及び漢文読み下し文を作成する課題実習を通して、漢和辞典の使い方および漢文訓読法の仕組みを学ぶ。
- ◆**学修到達目標** ①漢文訓読法により中国古典文を読むときに用いる漢和辞典の特徴を把握し、使いこなすことができる。②返り点・送り仮名・漢文訓読文から漢文書き下し文を作成することができる。③漢文書き下し文から漢文訓読文を作成することができる。④漢文訓読法により『三国志演義』の名場面の本文を読んで楽しむことができる。
- ◆**授業方法** ①漢文訓読法の基礎的事項について演習をまじえて解説する。②各教材の中国古典文及び漢文訓読文の文法について講義する。③漢文読み下し文をもとに中国古典文に漢文訓読を施す方法を演習をまじえて解説する。④漢文訓読文に振り仮名を施す方法を演習をまじえて解説する。⑤漢文訓読文に振り仮名と送り仮名を施す方法を演習をまじえて解説する。⑥各場面につき歴代の版面挿絵、現代中国の大河テレビドラマを用いて『三国志演義』の魅力を解説する。

### ◆履修条件

### ◆授業計画 (各 90 分)

回数	授業内容	事前学修	事後学修
1回	授業内容 「漢文訓読の基礎知識」(1)中国古典文・漢文訓読文・書き下し文の三者の違いについて学び、次に新旧の漢字体の違いを漢和辞典で調べる方法を学ぶ。 事前学修 プリント教材及び、漢和辞典の凡例「漢辞海」第4版であればp 11-20「本辞典の構成と決まり」のうち漢字の字体・字形にかんする箇所を目を通しておく。 事後学修 訓読文と書き下し文の違いを説明できるようにしておくこと。授業でやった新旧の漢字体を調べる問題をもう一度やり直してみる。		
2回	授業内容 「漢文訓読の基礎知識」(2)漢字の字音と字訓とその語義について学び、次に漢和辞典を用いて漢字の字音と字訓を調べる方法について学ぶ。 事前学修 プリント教材及び、漢和辞典の凡例のうち漢字の字音・字訓・語義にかんする箇所を目を通しておく。 事後学修 授業でやった漢字の字音や字訓を調べる問題をもう一度やり直してみる。		
3回	授業内容 「漢文訓読の基礎知識」(3)返り点の指示にしたがって訓読文を読む方法と、漢字を読む順番をもとに返り点を打つ方法について、次に再読文字に振り仮名・送り仮名を付す方法を学ぶ。 事前学修 プリント教材に目を通して、次に「再読文字」の例文の書き下し文を朗読してなじんでおく。 事後学修 授業でやった漢字の字音や字訓を調べる問題をもう一度やり直してみる。		
4回	授業内容 書き下し文から訓読文へ(1)テキスト「呂布の丁原殺し」(『三国志演義』第三回)を用いて、旧かな旧漢字の書き下し文をもとに漢文訓読文を作成し、文の意味を解釈する(前半1/4まで)。併せて、テキストに含まれる字音・字訓・語義・句法・送り仮名・返り点にかかわる諸問題を解説する。 事前学修 旧かなによる書き下し文をもとに、テキスト「呂布の丁原殺し」(『三国志演義』第三回)の前半1/4までの範囲で漢文訓読文を作成する。わからない箇所をはっきりさせておくこと。『三国志演義』第三回の該当箇所の現代日本語訳プリントを読んでおく。事前学習で自分ができなかった箇所をできるようにしておく。次に、漢文訓読文の文体に慣れるため、作成した訓読文をすらすらと朗読できるようにしておく。 事後学修		
5回	授業内容 書き下し文から訓読文へ(2)テキスト「呂布の丁原殺し」(『三国志演義』第三回)を用いて、旧かな旧漢字の書き下し文をもとに漢文訓読文を作成し、文の意味を解釈する(前半1/4～1/2まで)。併せて、テキストに含まれる字音・字訓・語義・句法・送り仮名・返り点にかかわる諸問題を解説する。 事前学修 旧かなによる書き下し文をもとに、テキスト「呂布の丁原殺し」(『三国志演義』第三回)の前半1/4～1/2までの範囲で漢文訓読文を作成する。わからない箇所をはっきりさせておくこと。『三国志演義』第三回の該当箇所の現代日本語訳プリントを読んでおく。事前学習で自分ができなかった箇所をできるようにしておく。次に、漢文訓読文の文体に慣れるため、作成した訓読文をすらすらと朗読できるようにしておく。 事後学修		
6回	授業内容 書き下し文から訓読文へ(3)テキスト「呂布の丁原殺し」(『三国志演義』第三回)を用いて、旧かな旧漢字の書き下し文をもとに漢文訓読文を作成し、文の意味を解釈する(後半1/2～3/4まで)。併せて、テキストに含まれる字音・字訓・語義・句法・送り仮名・返り点にかかわる諸問題を解説する。 事前学修 旧かなによる書き下し文をもとに、テキスト「呂布の丁原殺し」(『三国志演義』第三回)の後半1/2～3/4までの範囲で漢文訓読文を作成する。わからない箇所をはっきりさせておくこと。『三国志演義』第三回の該当箇所の現代日本語訳プリントを読んでおく。事前学習で自分ができなかった箇所をできるようにしておく。次に、漢文訓読文の文体に慣れるため、作成した訓読文をすらすらと朗読できるようにしておく。 事後学修		
7回	授業内容 書き下し文から訓読文へ(4)テキスト「呂布の丁原殺し」(『三国志演義』第三回)を用いて、旧かな旧漢字の書き下し文をもとに漢文訓読文を作成し、文の意味を解釈する(後半1/4)。併せて、テキストに含まれる字音・字訓・語義・句法・送り仮名・返り点にかかわる諸問題を解説する。 事前学修 旧かなによる書き下し文をもとに、テキスト「呂布の丁原殺し」(『三国志演義』第三回)の後半1/4の範囲で漢文訓読文を作成する。わからない箇所をはっきりさせておくこと。『三国志演義』第三回の該当箇所の現代日本語訳プリントを読んでおく。事前学習で自分ができなかった箇所をできるようにしておく。次に、漢文訓読文の文体に慣れるため、作成した訓読文をすらすらと朗読できるようにしておく。テキスト「呂布の丁原殺し」全体の漢文訓読文を完成させ、期日までに提出すること。 事後学修		
8回	授業内容 訓読文から書き下し文へ(1)テキスト「虎牢関の戦い」(『三国志演義』第五回)を用いて、振り仮名なし訓読文をもとに書き下し文を作成し、文の意味を解釈する(前半1/4まで)。併せて、テキストに含まれる字音・字訓・語義・句法・送り仮名・返り点にかかわる諸問題を解説する。 事前学修 振り仮名なし訓読文をもとに、テキスト「虎牢関の戦い」(『三国志演義』第五回)の前半1/4までの範囲で書き下し文を作成する。書き下し文に用いる漢字にはすべて振り仮名を振ることとする。『三国志演義』第五回の該当箇所の現代日本語訳を読んでおく。事前学習で自分ができなかった箇所をできるようにしておく。次に、漢文訓読文の文体に慣れるため、作成した訓読文をすらすらと朗読できるようにしておく。 事後学修		
9回	授業内容 振り仮名なし訓読文をもとに、テキスト「虎牢関の戦い」(『三国志演義』第五回)の前半1/4～1/2までの範囲で書き下し文を作成する。書き下し文に用いる漢字にはすべて振り仮名を振ることとする。『三国志演義』第五回の該当箇所の現代日本語訳を読んでおく。事前学習で自分ができなかった箇所をできるようにしておく。次に、漢文訓読文の文体に慣れるため、作成した訓読文をすらすらと朗読できるようにしておく。 事後学修		
10回	授業内容 訓読文から書き下し文へ(2)テキスト「虎牢関の戦い」(『三国志演義』第五回)を用いて、振り仮名なし訓読文をもとに書き下し文を作成し、文の意味を解釈する(後半1/2～3/4まで)。併せて、テキストに含まれる字音・字訓・語義・句法・送り仮名・返り点にかかわる諸問題を解説する。 事前学修 振り仮名なし訓読文をもとに、テキスト「虎牢関の戦い」(『三国志演義』第五回)の前半1/2～3/4までの範囲で書き下し文を作成する。書き下し文に用いる漢字にはすべて振り仮名を振ることとする。『三国志演義』第五回の該当箇所の現代日本語訳を読んでおく。事前学習で自分ができなかった箇所を確認しておく。次に、漢文訓読文の文体に慣れるため、作成した訓読文をすらすらと朗読できるようにしておく。 事後学修		
11回	授業内容 訓読文から書き下し文へ(3)テキスト「虎牢関の戦い」(『三国志演義』第五回)を用いて、振り仮名なし訓読文をもとに書き下し文を作成し、文の意味を解釈する(後半1/4)。併せて、テキストに含まれる字音・字訓・語義・句法・送り仮名・返り点にかかわる諸問題を解説する。 事前学修 振り仮名なし訓読文をもとに、テキスト「虎牢関の戦い」(『三国志演義』第五回)の前半1/4の範囲で書き下し文を作成する。書き下し文に用いる漢字にはすべて振り仮名を振ることとする。『三国志演義』第五回の該当箇所の現代日本語訳を読んでおく。事前学習で自分ができなかった箇所を確認しておく。次に、漢文訓読文の文体に慣れるため、作成した訓読文をすらすらと朗読できるようにしておく。テキスト「虎牢関の戦い」全体の漢文訓読文を完成させ、期日までに提出すること。 事後学修		
12回	授業内容 一部送り仮名を省いた書き下し文から漢文訓読文へ(1)テキスト「呂布、貂蟬を待つ」(『三国志演義』第八回)を用いて、一部送り仮名・振り仮名を省いた書き下し文をもとに漢文訓読文を作成し、文の意味を解釈する(前半1/4)。併せて、テキストに含まれる字音・字訓・語義・句法・送り仮名・返り点にかかわる諸問題を解説する。 事前学修 一部送り仮名・振り仮名を省いた書き下し文をもとに、テキスト「呂布、貂蟬を待つ」(『三国志演義』第八回)の前半1/4の範囲で漢文訓読文を作成する。必要限り、漢字には送り仮名・振り仮名を施す。『三国志演義』第八回の該当箇所の現代日本語訳を読んでおく。事前学習で自分ができなかった箇所をできるようにしておく。次に、漢文訓読文の文体に慣れるため、作成した訓読文をすらすらと朗読できるようにしておく。 事後学修		
13回	授業内容 一部送り仮名を省いた書き下し文から漢文訓読文へ(2)テキスト「呂布、貂蟬を待つ」(『三国志演義』第八回)を用いて、一部送り仮名・振り仮名を省いた書き下し文をもとに漢文訓読文を作成し、文の意味を解釈する(前半1/4～1/2まで)。併せて、テキストに含まれる字音・字訓・語義・句法・送り仮名・返り点にかかわる諸問題を解説する。 事前学修 一部送り仮名・振り仮名を省いた書き下し文をもとに、テキスト「呂布、貂蟬を待つ」(『三国志演義』第八回)の前半1/4～1/2までの範囲で漢文訓読文を作成する。必要限り、漢字には送り仮名・振り仮名を施す。『三国志演義』第八回の該当箇所の現代日本語訳を読んでおく。事前学習で自分ができなかった箇所をできるようにしておく。次に、漢文訓読文の文体に慣れるため、作成した訓読文をすらすらと朗読できるようにしておく。 事後学修		
14回	授業内容 一部送り仮名を省いた書き下し文から漢文訓読文へ(3)テキスト「呂布、貂蟬を待つ」(『三国志演義』第八回)を用いて、一部送り仮名・振り仮名を省いた書き下し文をもとに漢文訓読文を作成し、文の意味を解釈する(後半1/2～3/4まで)。併せて、テキストに含まれる字音・字訓・語義・句法・送り仮名・返り点にかかわる諸問題を解説する。 事前学修 一部送り仮名・振り仮名を省いた書き下し文をもとに、テキスト「呂布、貂蟬を待つ」(『三国志演義』第八回)の後半1/2～3/4までの範囲で漢文訓読文を作成する。必要限り、漢字には送り仮名・振り仮名を施す。『三国志演義』第八回の該当箇所の現代日本語訳を読んでおく。事前学習で自分ができなかった箇所をできるようにしておく。次に、漢文訓読文の文体に慣れるため、作成した訓読文をすらすらと朗読できるようにしておく。 事後学修		
15回	授業内容 一部送り仮名を省いた書き下し文から漢文訓読文へ(4)テキスト「呂布、貂蟬を待つ」(『三国志演義』第八回)を用いて、一部送り仮名・振り仮名を省いた書き下し文をもとに漢文訓読文を作成し、文の意味を解釈する(後半1/4まで)。併せて、テキストに含まれる字音・字訓・語義・句法・送り仮名・返り点にかかわる諸問題を解説する。 事前学修 一部送り仮名・振り仮名を省いた書き下し文をもとに、テキスト「呂布、貂蟬を待つ」(『三国志演義』第八回)の前半1/4の範囲で漢文訓読文を作成する。必要限り、漢字には送り仮名・振り仮名を施す。『三国志演義』第八回の該当箇所の現代日本語訳を読んでおく。事前学習で自分ができなかった箇所をできるようにしておく。次に、漢文訓読文の文体に慣れるため、作成した訓読文をすらすらと朗読できるようにしておく。テキスト「呂布、貂蟬を待つ」全体の漢文訓読文を完成させ、期日までに提出すること。 事後学修		

◆**教科書** [当日資料配布] オンラインでPDFファイルを配信する。

◆**参考書** [五訂] 中国古典を読むための漢和辞典を必ず準備してください。授業では、戸川芳郎監修『漢辞海』第四版(三省堂2017年)を用います。

◆**成績評価基準** 第7回、第11回、第15回に課す課題レポートの評価により成績を判定する。

◆**授業相談 (連絡先):**

注意

# 講座内容（シラバス）

## 〔アメリカ文学史〕

鈴木 孝

◆**授業概要** アメリカ文学をより楽しむための基礎知識を養うために、16世紀後半の植民地時代から20世紀初頭のLost Generationまでのアメリカ文学の歴史を、アンソロジー形式でまとめられたテキスト、事前配付の文学史メモ、および参考資料を利用しながら概観し、その流れを的確に把握していくための講義・説明を中心とした授業をオンデマンド形式で行っていく。

◆**学習到達目標** 1. 授業を通じて、卒論で扱えるような興味深い作家を探し当てることができる。  
2. アメリカ文学の様々な作品を読む際に、ただ内容を楽しむだけでなく、歴史的な視点から解釈する力、批判的に読解できる力を身につけられる。  
3. 様々な作品を読み、そこに描かれた外国文化に触れることで異文化に対する理解を深め、高い教養を身につけられる。

◆**授業方法** テキストで扱われているそれぞれの作家について、「メモ」等の資料も利用しながら、その生い立ちや作品の特徴、文学史的立場・意味などに関する講義を行う。それぞれのおおまかな項目が終わった時点で、その項目に対する理解度を確かめるための小テスト（課題提出）を随時行う。テキストのしっかりした予習だけでなく、その読解から生まれる旺盛な好奇心を期待する。

◆**履修条件** 令和元年度東京スクーリング（5月期）第2期「アメリカ文学史」との積み重ね不可。

### ◆授業計画〔各90分〕

1回	授業内容：*ガイダンスおよび Native American Literature 事前学修：配付資料「アメリカ文学史メモ1」に前もって目を通しておくこと 事後学修：授業内容をまとめた「メモ1」、「アメリカ文学史資料(1)Smith から Franklin まで」を確認しておくこと
2回	授業内容：*植民地時代の文学(1) 2. [Captain] John Smith とボカホンタス 事前学修：「メモ1」に前もって目を通しておくこと 事後学修：授業内容をまとめた「メモ1」、「資料(1)」を確認しておくこと
3回	授業内容：*植民地時代の文学(2) 3. W. Bradford 事前学修：「メモ1」に前もって目を通しておくこと 事後学修：授業内容をまとめた「メモ1」、「資料(1)」を確認しておくこと
4回	授業内容：*植民地時代の文学(3) 4. A. Bradstreet の詩の特徴および 5. J. Edwards の宗教観 事前学修：「メモ1」に前もって目を通しておくこと 事後学修：授業内容をまとめた「メモ1」、「資料(1)」を確認しておくこと
5回	授業内容：*植民地時代の文学(4) 6. B. Franklin の宗教観 事前学修：「メモ1」に前もって目を通しておくこと 事後学修：授業内容をまとめた「メモ1」、「資料(1)」を確認しておくこと
6回	授業内容：*アメリカの独立と Nationalism Nationalism 作家(1) 7. C. B. Brown の特徴 事前学修：「メモ2」に前もって目を通しておくこと 事後学修：授業内容をまとめた「メモ2」、「資料(2)独立宣言書 から Cooper まで」を確認しておくこと
7回	授業内容：*アメリカの独立と Nationalism Nationalism 作家(2) 8. W. Irving の特徴 事前学修：資料「メモ2」に前もって目を通しておくこと 事後学修：授業内容をまとめた「メモ2」、「資料(2)」を確認しておくこと
8回	授業内容：*アメリカの独立と Nationalism Nationalism 作家(3) 9. J. F. Cooper の特徴 事前学修：資料「メモ2」に前もって目を通しておくこと 事後学修：授業内容をまとめた「メモ2」、「資料(2)」を確認しておくこと
9回	授業内容：* American Renaissance (1) 10. W. C. Bryant 詩の特徴 事前学修：資料「メモ3」に前もって目を通しておくこと 事後学修：授業内容をまとめた「メモ3」、「資料(3)Poe から Emerson まで」を確認しておくこと
10回	授業内容：* American Renaissance (2) 11. E. A. Poe の詩の特徴 事前学修：資料「メモ3」に前もって目を通しておくこと 事後学修：授業内容をまとめた「メモ3」、「資料(3)」を確認しておくこと
11回	授業内容：* American Renaissance (3) 12. R. W. Emerson の思想 13. H. D. Thoreau の思想 事前学修：資料「メモ3」に前もって目を通しておくこと 事後学修：授業内容をまとめた「メモ3」、「資料(3)」を確認しておくこと
12回	授業内容：* American Renaissance (4) 13. H. D. Thoreau の思想 14. N. Hawthorne の暗さ 事前学修：資料「メモ4」に前もって目を通しておくこと 事後学修：授業内容をまとめた「メモ4」、「資料(4)Thoreau から Hawthorne まで」を確認しておくこと
13回	授業内容：* American Renaissance (5) 14. N. Hawthorne の曖昧さ 事前学修：資料「メモ4」に前もって目を通しておくこと 事後学修：授業内容をまとめた「メモ4」、「資料(4)」を確認しておくこと
14回	授業内容：授業全体に関するフィードバック 事前学修：これまでの授業内容を復習し、不明点や疑問点を明らかにしておくこと 事後学修：授業内容を通じて、不明点や疑問点が解決したかどうかを確認すること
15回	授業内容：試験及び解説 事前学修：これまでの授業内容を理解し、復習しておくこと 事後学修：試験結果を踏まえ、理解度の不足を補うよう振り返りをする

◆**教科書** 丸沼 An Outline of American Literature (アメリカ文学概観) 井上謙治編著 南雲堂 2005  
\*『アメリカ文学史 0414』通信教育部教材とは別の教科書なので注意すること。

◆**参考書** **事前資料送付**

**当日資料配布**

教科書 47 ページ参照。その他授業中に紹介する。

◆**成績評価基準** 平常点 (50%)、試験 (50%) の総合評価とする。但し欠席、遅刻のない学生のみが対象となる。

◆**授業相談（連絡先）**：suzuki.takashi09@nihon-u.ac.jp

注意

# 講座内容 (シラバス)

## [英語史]

齊藤 雄介

- ◆**授業概要** 最初期 (5C) の英語である古英語から現在使用されている現代英語までには様々な変化があり、その結果、古英語と現代英語では全く別の言語となっています。そこで本科目ではその間に起こった「文法化」という現象に主眼を置いて古英語から現代英語に至る道筋を学びます。
- ◆**学修到達目標** 本科目を通して学生は文法化という面から英語の変化に関する基本的な知識を学び、英語の通時的変化の経緯を説明できるようになる。
- ◆**授業方法** 基本的には講義形式で行いますが、難解な用語もあると思われるので事前にテキストを読んでおいてください。
- ◆**履修条件**
- ◆**授業計画 [各 90 分]**

1 回	授業内容: 文法化と英語: 文法化と英語の関連性について学びます。 事前学修: テキストの 1 ページから 10 ページを読んでおくこと 事後学修: テキスト及びプリントを参考に、授業の内容をノートに整理し、該当箇所の内容を確認し、理解すること
2 回	授業内容: 冠詞の文法化: 冠詞の文法化について学びます。 事前学修: テキストの 11 ページから 16 ページを読んでおくこと 事後学修: テキスト及びプリントを参考に、授業の内容をノートに整理し、該当箇所の内容を確認し、理解すること
3 回	授業内容: 存在構文における there の文法化: 存在構文における there の文法化について学習します。 事前学修: テキストの 20 ページから 25 ページを読んでおくこと 事後学修: テキスト及びプリントを参考に、授業の内容をノートに整理し、該当箇所の内容を確認し、理解すること
4 回	授業内容: 所有格の標識 '-s の文法化: 所有格の標識 '-s の文法化について学びます。 事前学修: テキストの 29 ページから 34 ページを読んでおくこと 事後学修: テキスト及びプリントを参考に、授業の内容をノートに整理し、該当箇所の内容を確認し、理解すること
5 回	授業内容: 接続詞の文法化: 接続詞の文法化について学習します。 事前学修: テキストの 36 ページから 43 ページを読んでおくこと 事後学修: テキスト及びプリントを参考に、授業の内容をノートに整理し、該当箇所の内容を確認し、理解すること
6 回	授業内容: 関係代名詞の文法化: 関係代名詞の文法化について学びます。 事前学修: テキストの 49 ページから 55 ページを読んでおくこと 事後学修: テキスト及びプリントを参考に、授業の内容をノートに整理し、該当箇所の内容を確認し、理解すること
7 回	授業内容: 再帰代名詞の文法化: 再帰代名詞の文法化について学習します。 事前学修: テキストの 58 ページから 62 ページを読んでおくこと 事後学修: テキスト及びプリントを参考に、授業の内容をノートに整理し、該当箇所の内容を確認し、理解すること
8 回	授業内容: 助動詞 Do の文法化: 助動詞 Do の文法化について学びます。 事前学修: テキストの 67 ページから 70 ページを読んでおくこと 事後学修: テキスト及びプリントを参考に、授業の内容をノートに整理し、該当箇所の内容を確認し、理解すること
9 回	授業内容: 法助動詞の文法化: 法助動詞の文法化について学習します。 事前学修: テキストの 74 ページから 79 ページを読んでおくこと 事後学修: テキスト及びプリントを参考に、授業の内容をノートに整理し、該当箇所の内容を確認し、理解すること
10 回	授業内容: 不定詞標識 to の文法化と準助動詞の発達: 不定詞標識 to の文法化と準助動詞の発達について学びます。 事前学修: テキストの 86 ページから 97 ページを読んでおくこと 事後学修: テキスト及びプリントを参考に、授業の内容をノートに整理し、該当箇所の内容を確認し、理解すること
11 回	授業内容: 進行形の文法化: 進行形の文法化について学習します。 事前学修: テキストの 100 ページから 105 ページを読んでおくこと 事後学修: テキスト及びプリントを参考に、授業の内容をノートに整理し、該当箇所の内容を確認し、理解すること
12 回	授業内容: 完了形の文法化: 完了形の文法化について学びます。 事前学修: テキストの 109 ページから 113 ページを読んでおくこと 事後学修: テキスト及びプリントを参考に、授業の内容をノートに整理し、該当箇所の内容を確認し、理解すること
13 回	授業内容: 受動態の文法化: 受動態の文法化について学習します。 事前学修: テキストの 118 ページから 124 ページを読んでおくこと 事後学修: テキスト及びプリントを参考に、授業の内容をノートに整理し、該当箇所の内容を確認し、理解すること
14 回	授業内容: 形式主語 it の文法化: 形式主語 it の文法化について学習します。 事前学修: テキストの 128 ページから 132 ページを読んでおくこと 事後学修: テキスト及びプリントを参考に、授業の内容をノートに整理し、該当箇所の内容を確認し、理解すること
15 回	授業内容: 学習内容のまとめ及び最終試験 事前学修: 1 章から 14 章までの内容を復習しておくこと 事後学修: 授業の内容をノートに整理し、該当箇所の回答及び内容を確認し、理解すること。

- ◆**教科書** 関沼『文法化する英語』保坂道雄 開拓社 2014 年
- ◆**参考書** 英和辞典を持参してください  
(当日資料配布) 適宜プリントを配布します。
- ◆**成績評価基準** 授業参加度 (10%) 最終試験 (90%) \* 毎回出席していることを前提に評価します。
- ◆**授業相談 (連絡先)**: 初回授業時に案内します。

注意



# 講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔英語学演習〕

山岡 洋

◆**授業概要** 日本語で書かれた文法書を読みながら、英語の様々な表現について、主に意味的な側面から、細かいニュアンスの違いなどを含めて考察してゆく。例えば、一見奇妙な受動態に見える Have you ever been had? という文はどのような意味になるのか。受動態にすることができる場合、できない場合というのはどのように区別されるのか。このような英語の微妙な、しかしながら英語的な感覚を養うには非常に本質的な、違いについて学んでゆく。具体的には、テキスト『英文法解説』の第 11 章「受動態」と第 12 章「助動詞」を扱っていく。

◆**学修到達目標** 英語学の時間表現に関わる意味論的概念を、具体的な言語現象を通して理解する。具体的には、受動態・法助動詞の表す様々な意味を理解する。

◆**授業方法** テキストに沿った説明を基本として授業を進めてゆく。日本語で書かれたテキストではあるが、重要箇所を熟読し、必要に応じて教員側から説明を加えていく。但し、教員側からできるだけ頻繁に学生側に対して疑問を投げ掛け、極力「双方向的な」授業にしていく。予めテキストの該当箇所には目を通しておくこと。今回は第 11 章「受動態」と第 12 章「助動詞」を扱っていく。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回	授業内容: 受動態の基本形式・群動詞の受動態 事前学修: 教科書 § § 179-180 を読んでおく。 事後学修: 授業中にとったノートを、教科書 § § 179-180 を見ながら再確認する。
2 回	授業内容: S+V+O+ 不定詞・People/They say … など 事前学修: 教科書 § § 181-182 を読んでおく。 事後学修: 授業中にとったノートを、教科書 § § 181-182 を見ながら再確認する。
3 回	授業内容: 受動態が使われる理由・受動態と by ~ 事前学修: 教科書 § § 183-185 を読んでおく。 事後学修: 授業中にとったノートを、教科書 § § 183-185 を見ながら再確認する。
4 回	授業内容: 受動態を作れない動詞・受動態にしない文 事前学修: 教科書 § § 186-187 を読んでおく。 事後学修: 授業中にとったノートを、教科書 § § 186-187 を見ながら再確認する。
5 回	授業内容: 受動態についての補足事項・日本語では能動態、英語では受動態 事前学修: 教科書 § § 188-189 を読んでおく。 事後学修: 授業中にとったノートを、教科書 § § 188-189 を見ながら再確認する。
6 回	授業内容: 受動態に関連のある構文 事前学修: 教科書 § § 190-191 を読んでおく。 事後学修: 授業中にとったノートを、教科書 § § 190-191 を見ながら再確認する。
7 回	授業内容: Can 事前学修: 教科書 § § 192-193 を読んでおく。 事後学修: 授業中にとったノートを、教科書 § § 192-193 を見ながら再確認する。
8 回	授業内容: Could 事前学修: 教科書 § § 194-196 を読んでおく。 事後学修: 授業中にとったノートを、教科書 § § 194-196 を見ながら再確認する。
9 回	授業内容: May 事前学修: 教科書 § § 197-198 を読んでおく。 事後学修: 授業中にとったノートを、教科書 § § 197-198 を見ながら再確認する。
10 回	授業内容: Might, must 事前学修: 教科書 § § 199-202 を読んでおく。 事後学修: 授業中にとったノートを、教科書 § § 199-202 を見ながら再確認する。
11 回	授業内容: Should, Would 事前学修: 教科書 § § 203-206 を読んでおく。 事後学修: 授業中にとったノートを、教科書 § § 203-206 を見ながら再確認する。
12 回	授業内容: Ought to など 事前学修: 教科書 § § 207-210 を読んでおく。 事後学修: 授業中にとったノートを、教科書 § § 207-210 を見ながら再確認する。
13 回	授業内容: 理解度確認 事前学修: これまでの授業の内容を改めて見直し、特に日英語の共通点・相違点を確認する。 事後学修: 最終試験に備えて、持ち込む参考資料の整理を行う。
14 回	授業内容: 最終試験とその解説 事前学修: 最終試験に備えて、持ち込む参考資料のどこに何が書いてあるのかの確認をする。 事後学修: 自分の試験の答案を確認し、教科書の該当箇所と照合する。
15 回	授業内容: 最終試験の解説 事前学修: 自分の試験の答案を確認し、教科書の該当箇所と照合する。 事後学修: 授業内容を確認して、自分の意味論に関する理解が適切かどうかを再確認する。

◆**教科書** 凡沼『英文法解説』江川泰一郎 改訂三版 金子書房 1991 年  
〔当日資料配布〕当日配付資料あり

◆**参考書** 凡沼『新英文法概説』山岡洋 開拓社 2014 年  
凡沼『英文法総覧』安井稔 改訂版 開拓社 1996 年

◆**成績評価基準** 授業参加度: 20% (半日欠席につき 10 点マイナス。遅刻は 5 点マイナス)  
最終試験: 80% (教科書・参考図書・ノート・電子辞書持ち込み可)

### 注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談 (連絡先) に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

# 講座内容（シラバス）

## 〔英米文学演習Ⅰ～Ⅲ〕

新井 英夫

◆**授業概要** ノーベル文学賞受賞作家で日系英国人のカズオ・イシグロ (Kazuo Ishiguro 1954-) の『浮世の画家』(An Artist of the Floating World 1986) を読みます。作品を多面的な視点から読み、作品がどのように時代、政治、社会制度等と結びついているのかを考えます。また、読み方の多重性を意識することを通して、小説そのものの読み方の新たな方向性について考察するきっかけとします。

◆**学修到達目標** 現代英国において活躍している日系英国人作家カズオ・イシグロの『浮世の画家』を読み、次に掲げる各号の目標を達成しましょう。

- ①現代英国小説の読解に必要な英語力がどの程度ものであるかを知ることができるようになる。
- ②作品の構造、人物関係を明確に説明できるようになる。
- ③臨床社会学における「自己物語論」を作品解釈に応用できるようになる。
- ④作品のテーマについて説得力のある論を展開できるようになる。

◆**授業方法** 遠隔授業「オンデマンド型」（動画配信＋課題研究）で実施します。授業が単なる日本語訳及び感想の確認に終わることのないように、結論に至るプロセスを皆さんには大切にしてもらいたいと思っています。英語が苦手な方の受講も歓迎です。また「英文を読む」ことと「小説を理解する」ことの差異を学生たちに理解してもらおうべく、小説の読み方も丁寧に指導します。英文学科で学ぶ学生たちの「入門講座」となるように授業を展開できればと考えています。

◆**履修条件** 2016年度夏期スクーリング、2019年度地方スクーリングにおいて、新井が担当する英米文学演習を受講した者は、授業内容が同一のため、履修を認めないこととする。

### ◆授業計画〔各90分〕

1回	授業内容：【講義】カズオ・イシグロの人物像に迫る。 事前学修：カズオ・イシグロの『浮世の画家』を通読する。 事後学修：講義で解説したカズオ・イシグロの評価について復習する。
2回	授業内容：【講義】登場人物の確認 事前学修：カズオ・イシグロの『浮世の画家』を通読し、その感想をまとめる。 事後学修：授業前の感想と授業後の感想を比較する。
3回	授業内容：【演習&解説】「1948年10月」の範囲を当日配布資料に基づきすすめる。 事前学修：「1948年10月」の範囲の内容を把握する。 事後学修：講義で解説した「1948年10月」の内容を復習する。
4回	授業内容：【演習&解説】「1948年10月」の範囲を当日配布資料に基づきすすめる。 事前学修：「1948年10月」の範囲の内容を把握する。 事後学修：講義で解説した「1948年10月」の内容を復習する。
5回	授業内容：【演習&解説】「1948年10月」の範囲を当日配布資料に基づきすすめる。 事前学修：「1948年10月」の範囲の内容を把握する。 事後学修：講義で解説した「1948年10月」の内容を復習する。
6回	授業内容：【演習&解説】「1949年4月」の範囲を当日配布資料に基づきすすめる。 事前学修：「1949年4月」の範囲の内容を把握する。 事後学修：講義で解説した「1949年4月」の内容を復習する。
7回	授業内容：【演習&解説】「1949年4月」の範囲を当日配布資料に基づきすすめる。 事前学修：「1949年4月」の範囲の内容を把握する。 事後学修：講義で解説した「1949年4月」の内容を復習する。
8回	授業内容：【演習&解説】「1949年4月」の範囲を当日配布資料に基づきすすめる。 事前学修：「1949年4月」の範囲の内容を把握する。 事後学修：講義で解説した「1949年4月」の内容を復習する。
9回	授業内容：【演習&解説】「1949年11月」の範囲を当日配布資料に基づきすすめる。 事前学修：「1949年11月」の範囲の内容を把握する。 事後学修：講義で解説した「1949年11月」の内容を復習する。
10回	授業内容：【演習&解説】「1949年11月」の範囲を当日配布資料に基づきすすめる。 事前学修：「1949年11月」の範囲の内容を把握する。 事後学修：講義で解説した「1949年11月」の内容を復習する。
11回	授業内容：【演習&解説】「1949年11月」の範囲を当日配布資料に基づきすすめる。 事前学修：「1949年11月」の範囲の内容を把握する。 事後学修：講義で解説した「1949年11月」の内容を復習する。
12回	授業内容：【演習&解説】「1950年6月」の範囲を当日配布資料に基づきすすめる。 事前学修：「1950年6月」の範囲の内容を把握する。 事後学修：講義で解説した「1950年6月」の内容を復習する。
13回	授業内容：【演習&解説】「1950年6月」の範囲を当日配布資料に基づきすすめる。 事前学修：「1950年6月」の範囲の内容を把握する。 事後学修：講義で解説した「1950年6月」の内容を復習する。
14回	授業内容：【演習】小論文を作成する。 事前学修：これまでの授業をふりかえり、マズジの成長について考えをまとめる。 事後学修：担当教員の意見と自分の意見の違いを意識する。
15回	授業内容：【試験&まとめ】試験とこれまでの授業のまとめを行う。 事前学修：これまでの授業内容を復習する。 事後学修：『浮世の画家』以外のカズオ・イシグロの作品を1冊読む。

◆**教科書** 〔当日資料配布〕Google Classroomにて配信します。

◆**参考書** 〔丸沼〕『浮世の画家』カズオ・イシグロ、早川書房  
〔丸沼〕An Artist of the Floating World, Kazuo Ishiguro, Faber Fiction Classics

◆**成績評価基準** 課題1 (20%) + 課題2 (20%) + 課題3 (20%) + 課題4 (40%)

◆**授業相談（連絡先）：**

注意

# 講座内容（シラバス）

## 〔宗教学基礎講読〕

富田 真浩

- ◆**授業概要** 宗教学の一分野に、宗教史がある。宗教や哲学の思想が誕生した背景や変遷の過程に目を向けることで、見えてくるものがある。1つの時代の1つの思想にばかり目を向けていては、見えてこないものを世界規模の歴史の流れを通じて見ていくことで、異なる地域、異なる時代の宗教の共通点や相違点を明確化していく。
- ◆**学修到達目標** 様々な宗教思想誕生の背景や、宗教思想の変遷の過程に目を向けることで、通時的縦断的な研究分野である宗教史的な科学的研究の態度を身に付けることを第一の目標とします。基本的な宗教学に関する知識、世界の各宗教に関する知識を身に付けることを第二の目標とする。
- ◆**授業方法** テキストの該当箇所の輪読を行い、解説を必要とする箇所に解説を加えていく形式をとる。授業中の輪読箇所や、解説した内容に更に説明を求められれば、その場で回答する。また、初日から五日目のそれぞれの授業の終わりに、その日のテーマに関するリアクション・ペーパーの提出を求める。
- ◆**履修条件**
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1回	授業内容：宗教が誕生するまで 本授業の進め方を説明し、その後宗教の誕生に関する記述を輪読する。 事前学修：テキスト 31～39 ページを熟読しておくこと。 事後学修：授業内容を整理しておくこと。
2回	授業内容：世界最古の宗教ゾロアスター教がその後の宗教に残したこと マニ教とゾロアスター教の関係や、善悪二元論や最後の審判について輪読する。 事前学修：テキスト 41～46 ページを熟読しておくこと。 事後学修：授業内容を整理しておくこと。
3回	授業内容：世界最古の宗教ゾロアスター教がその後の宗教に残したこと 守護霊と洗礼、火を祀ることなどについて輪読する。 事前学修：テキスト 47～51 ページを熟読しておくこと。 事後学修：授業内容を整理しておくこと。
4回	授業内容：中国・インドの思想、知の爆発 古代中国・インドにおける知の爆発の概説的な内容について輪読する。 事前学修：テキスト 63～64, 104～110 ページを熟読しておくこと。 事後学修：授業内容を整理しておくこと。
5回	授業内容：孔子の思想 孔子の思想について輪読します。その後リアクション・ペーパーの提出を求める。 事前学修：テキスト 111～117 ページを熟読しておくこと。 事後学修：授業内容を整理しておくこと。
6回	授業内容：墨子の思想 墨子の思想を中心として輪読する。 事前学修：テキスト 117～122 ページを熟読しておくこと。 事後学修：授業内容を整理しておくこと。
7回	授業内容：墨子教団とインドの宗教家 墨子教団の消滅とインドにおけるバラモン中心の時代に現れた宗教家について輪読する。 事前学修：テキスト 122～128 ページを熟読しておくこと。 事後学修：授業内容を整理しておくこと。
8回	授業内容：ブッダとマハーヴィーラについて 二人の宗教思想家が説いた輪廻苦しみから逃れる方法について輪読する。 事前学修：テキスト 128～132 ページを熟読しておくこと。 事後学修：授業内容を整理しておくこと。
9回	授業内容：ヘレニズム時代のギリシャ哲学と宗教の変化(1) エピクロスの快楽主義に関する記述を中心として輪読する。 事前学修：テキスト 133～142 ページを熟読しておくこと。 事後学修：授業内容を整理しておくこと。
10回	授業内容：ヘレニズム時代のギリシャ哲学と宗教の変化(2) ストア派に関する記述を中心として輪読する。その後リアクション・ペーパーの提出を求める。 事前学修：テキスト 142～149 ページを熟読しておくこと。 事後学修：授業内容を整理しておくこと。
11回	授業内容：旧約聖書とユダヤ教の成立 旧約聖書の成立について輪読する。 事前学修：テキスト 177～183 ページを熟読しておくこと。 事後学修：授業内容を整理しておくこと。
12回	授業内容：仏教教団の分裂と仏教徒になったギリシアの王 ヘレニズム時代の仏教について輪読する。 事前学修：テキスト 183～190 ページを熟読しておくこと。 事後学修：授業内容を整理しておくこと。
13回	授業内容：新約聖書が成立するまで 新約聖書の成立について輪読する。 事前学修：テキスト 191～199 ページを熟読しておくこと。 事後学修：授業内容を整理しておくこと。
14回	授業内容：初期キリスト教の展開と公会議 初期キリスト教の布教戦術と公会議を召集させた三位一体説について輪読する。 事前学修：テキスト 199～203 ページを熟読しておくこと。 事後学修：授業内容を整理しておくこと。
15回	授業内容：これまでのまとめと授業内試験 事前学修：テキストの 31～51, 63～64, 104～149, 177～203 頁をあらかじめ、熟読しておくこと。 事後学修：試験も含め、授業全体の内容を整理しておくこと。

- ◆**教科書** 丸沼『哲学と宗教全史』出口治明 ダイアモンド社 2019
- ◆**参考書** 通材『宗教学基礎講読 P 30100』通信教育教材（教材コード 000044）
- ◆**成績評価基準** リアクション・ペーパー（50%）、最終日の試験（50%）とします。リアクション・ペーパーも試験も、ノート等の持ち込みはすべて認めますが、授業で扱った内容を中心として解答してください。
- ◆**授業相談（連絡先）**：授業実施期間中に質問を受け付けます。masairo18@yahoo.co.jp

注意

# 講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## (哲学概論)

齋藤 隆

◆**授業概要** 古代・中世の哲学者たちの思想を、存在論を中心に分かりやすく解説する。日本神話を例にとりミュートス的思考の特徴を理解する。それとある意味対照的なロゴスの思考の二つの形態、哲学と科学について、その異同を理解する。そのあとでソクラテス、プラトン、アリストテレスを中心に西洋古代哲学の展開を学び、さらにアウグステイヌス、トマス・アクイナスの偉大な中世哲学の体系の理解に努める。

◆**学修到達目標** 古代・中世の哲学者たちの思想を学ぶことにより、「哲学とは何か」を自分なりに感じ取り、その歴史的展開や体系的理解など、より一層の学習の旅を始める縁(よすが)となることを目指す。初めて哲学を学ぶ学生にとっては分かりにくい学術用語が多いと思われるが、何度も関連文献を読むことによって必ず理解の光が差し込んでくることを信じて努力してもらいたい。

◆**授業方法** テキストと印刷物を用いて、講義中心に授業を進める予定である。疑問や質問にはできるだけその場で答えるつもりであるが、それにはまずテキストと印刷物の当該箇所を読んだうえでの質問であることが望ましい。どの科目の学問を学ぶことにも共通なことであるが、予習復習は必要不可欠である。本授業の事前学習・事後学習の時間はそれぞれ1～2時間を目安としてください。

◆**履修条件** 平成 30 年と令和元年の5月の「東京スクーリング」の「哲学概論」との積み重ね不可。

### ◆授業計画 (各 90 分)

1 回	授業内容: ミュートスからロゴスへ、日本神話 事前学修: 事前送付の印刷物の当該箇所を 2～3 回読む。 事後学修: 講義ノートを見ながら授業内容を確認する。
2 回	授業内容: 哲学以前 事前学修: 事前送付の印刷物の当該箇所を 2～3 回読む。疑問点を確認する。 事後学修: 講義ノートを見ながら授業内容を確認する。
3 回	授業内容: ソクラテス以前の哲学者たちの思想(1) 事前学修: テキストの P.13～18 を 2～3 回読む。 事後学修: 講義ノートを見ながら授業内容を確認する。
4 回	授業内容: ソクラテス以前の哲学者たちの思想(2) 事前学修: テキストの P.19～23 を 2～3 回読む。 事後学修: 講義ノートを見ながら授業内容を確認する。
5 回	授業内容: ソクラテスとソフィストの思想 事前学修: テキストの P.24, P.96～99 を 2～3 回読む。 事後学修: 講義ノートを見ながら授業内容を確認する。
6 回	授業内容: プラトンの思想(1) アイデア論 事前学修: テキストの P.25～31 を 2～3 回読む。 事後学修: 講義ノートを見ながら授業内容を確認する。
7 回	授業内容: プラトンの思想(2) 倫理思想・理想国家論 事前学修: テキストの P.187～188 を 2～3 回読む。 事後学修: 講義ノートを見ながら授業内容を確認する。
8 回	授業内容: アリストテレスの思想(1) 存在論 事前学修: テキストの P.32～39 を 2～3 回読む。 事後学修: 講義ノートを見ながら授業内容を確認する。
9 回	授業内容: アリストテレスの思想(2) 学問の分類・倫理思想 事前学修: テキストの P.100～102, P.189～190 を 2～3 回読む。 事後学修: 講義ノートを見ながら授業内容を確認する。
10 回	授業内容: ヘレニズム期の哲学と新プラトン学派 事前学修: テキストの P.193～199 を 2～3 回読む。 事後学修: 講義ノートを見ながら授業内容を確認する。
11 回	授業内容: キリスト教と前期教父の思想 事前学修: テキストの P.42～46, P.200～204 を 2～3 回読む。 事後学修: 講義ノートを見ながら授業内容を確認する。
12 回	授業内容: アウグステイヌスの思想 事前学修: テキストの P.47～48, P.106～107 を 2～3 回読む。 事後学修: 講義ノートを見ながら授業内容を確認する。
13 回	授業内容: 前期スコラの哲学者たちの思想 事前学修: テキストの P.49～52 を 2～3 回読む。 事後学修: 講義ノートを見ながら授業内容を確認する。
14 回	授業内容: トマス・アクイナスの思想 事前学修: テキストの P.53～56, P.108～109 を 2～3 回読む。 事後学修: 講義ノートを見ながら授業内容を確認する。
15 回	授業内容: 存在論・形而上学についての概論的説明 事前学修: 事前送付の印刷物の当該箇所を 2～3 回読む。 事後学修: 講義ノートを見ながら授業内容を確認する。

◆**教科書** 教材【哲学 B10700】通信教育教材(教材コード 000404)

事前資料送付 事前配布資料

◆**参考書** 図説【西洋古代・中世哲学史】

図説 岩波文庫の関連図書

◆**成績評価基準** 全出席を前提とし、最終回に行う試験によって判断する。

### 注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

# 講座内容（シラバス）

## 〔科学哲学〕

江川 晃

- ◆**授業概要** 「科学とは何か」という問いに答えるには、歴史的・哲学的・社会的観点からのアプローチが必要である。科学の成立は、近代ヨーロッパに生じた「科学革命」と呼ばれる歴史的出来事である。そこで、前期は、科学の誕生・発展を明らかにするために、科学革命のプロセスをたどる「科学史」の知見を得ることを目標とする。
- ◆**学修到達目標** ヨーロッパにおける科学の成立過程について知り、どのようにして、科学と哲学と宗教が関係してきたかを説明することができる。さらには、21世紀の科学技術文明において、人類が未来に生き残るためには、いかに哲学的観点が必要であるかを理解し、説明することができる。
- ◆**授業方法** オンデマンド教材を13回、課題レポート作成（2回）
- ◆**履修条件**
- ◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容: ガイダンス「科学哲学とは何か」 事前学修: シラバスをよく読んでおくこと 事後学修: 授業内容を復習しておく
2回	授業内容: 1章 「科学」という言葉 事前学修: 教科書の第1章を読んでおくこと 事後学修: 「科学」という語の意味を把握すること
3回	授業内容: 2章 アリストテレス的自然観 (1)古代ギリシアのコスモロジー 事前学修: 教科書の第2章(1)を読んでおくこと 事後学修: 授業内容を復習しておく
4回	授業内容: (2)古代天文学のセントラル・ドグマ 事前学修: 教科書の第2章(2)を読んでおくこと 事後学修: 授業内容を復習しておく
5回	授業内容: (3)古代運動論のセントラル・ドグマ 事前学修: 2つのセントラル・ドグマを把握していく 事後学修: 授業内容を復習しておく
6回	授業内容: 3章 科学革命1 コスモスの崩壊 (1)12世紀ルネサンス 事前学修: 教科書の第3章(1)を読んでおくこと 事後学修: 授業内容を復習しておく
7回	授業内容: (2)コスモロジーの転換 コペルニクス 事前学修: 教科書の第3章(2)を読んでおくこと 事後学修: コペルニクスの功績についてまとめる
8回	授業内容: (3)円の魔力 ケプラー 事前学修: ケプラーの業績を理解しておく 事後学修: ケプラーの業績をまとめておく
9回	授業内容: 4章 科学革命2 自然の数学化(ガリレオ) (1)宇宙という書物 事前学修: 教科書の第4章(1)を読んでおくこと 事後学修: 授業内容を復習しておく
10回	授業内容: (2)ガリレオの運動論——論証と実験 事前学修: 教科書の第4章(2)を読んでおくこと 事後学修: ガリレオの功績をまとめておく
11回	授業内容: (3)天と地の統一 ニュートン 事前学修: 教科書の第4章(3)を読んでおくこと 事後学修: ニュートンの功績をまとめておく
12回	授業内容: 5章 科学革命3 機械論的自然観 (1)有機体的自然観と「実体形相」 事前学修: 教科書の第5章(1)を読んでおくこと 事後学修: 科学史におけるデカルトの功績について把握しておく
13回	授業内容: (2)デカルトの「物心二元論」、(3)心身問題と「心の哲学」 事前学修: 教科書の第5章(2)と(3)を読んでおくこと 事後学修: 科学史におけるデカルトの功績について把握しておく
14回	授業内容: 課題レポート学習1 事前学修: 課題問題を把握し、構想を練る 事後学修: ポイントが把握できているか考察
15回	授業内容: 課題レポート学習2 事前学修: 草稿を書き、推敲する 事後学修: 清書し、提出準備

- ◆**教科書** 教材 『科学哲学への招待』、野家啓一著（ちくま学芸文庫）、筑摩書房、2015年  
〔当日資料配布〕適宜、パワポによるオンデマンド教材を配布します。（13回）
- ◆**参考書**
- ◆**成績評価基準** 課題レポート提出（40点：1000字程度）、課題（10点×6回＝60点：各回200～300字）
- ◆**授業相談（連絡先）：**

注意

# 講座内容（シラバス）

## 〔史学概論〕

古川 隆久

- ◆**授業概要** 大学で学ぶ歴史学とは何を学ぶ学問なのか？高校までとどう違うのか？歴史は何の役にも立たないという人もいるが本当だろうか？大河ドラマや司馬遼太郎の小説は歴史を学ぶ手段になるのか？歴史学とは何か、歴史とは何かについて、様々な観点からの議論を通して考えていく。
- ◆**学修到達目標** 授業計画に示した14の問いについて予習してきた上で受講者の間で討論していただくことによって、歴史学の対象、方法、学問史、歴史認識についての問題の所在、歴史学や歴史の社会的役割を知り、歴史学とはどのような学問なのか、人類社会に對しどのような役割を担っているのかについて説明できるようにする。
- ◆**授業方法** 毎回、プリントと音声授業を配信し、それらを踏まえた課題を提出する遠隔授業。配布プリントをふまえ、教科書や参考書、その他自分で探した文献（インターネット情報は不可）を参考にしつつ、自分の考えと、考えた理由を、あらかじめ100字～200字で文章にまとめ、その上で、音声授業を受け、授業に対するコメントを100字～200字程度で追記し、両者を合わせてレポートとして提出する。
- ◆**履修条件** 史学概論という科目の特性上、扱う事例は異なっても、全体の趣旨は前年度と同じであることに留意されたい。
- ◆**授業計画（各90分）**

1回	授業内容：歴史という言葉の意味は何か？ 事前学修：国語辞典などを使って、上記の問いについて、意味（一つとは限らない）と用例（身近な例でも可）も含め100～200字程度で考えをまとめる。 事後学修：課題を作成提出し、授業での討論内容を整理して理解しておく。
2回	授業内容：史料批判とは何か？なぜ大事なのか？ 事前学修：配布プリント、教科書、参考書、その他の文献を使って上記の問いについて100～200字程度で考えをまとめる。 事後学修：課題を作成提出し、授業での討論内容を整理して理解しておく。
3回	授業内容：史料は文書だけか？ 事前学修：配布プリント、教科書、参考書、その他の文献を使って上記の問いについて100～200字程度で考えをまとめる。 事後学修：課題を作成提出し、授業での討論内容を整理して理解しておく。
4回	授業内容：史料館と図書館はどう違うか？ 事前学修：配布プリントやその他の文献を使って上記の問いについて100～200字程度で考えをまとめる。 事後学修：課題を作成提出し、授業での討論内容を整理して理解しておく。
5回	授業内容：研究テーマはどうやって決めるのか？ 事前学修：配布プリント、教科書、参考書、その他の文献を使って上記の問いについて100～200字程度で考えをまとめる。 事後学修：課題を作成提出し、授業での討論内容を整理して理解しておく。
6回	授業内容：どのように研究するのか？ 事前学修：配布プリント、教科書、参考書、その他の文献を使って上記の問いについて100～200字程度で考えをまとめる。 事後学修：課題を作成提出し、授業での討論内容を整理して理解しておく。
7回	授業内容：歴史の学問的研究で何がわかるか？ 事前学修：配布プリント、教科書、参考書、その他の文献を使って上記の問いについて100～200字程度で考えをまとめる。 事後学修：課題を作成提出し、授業での討論内容を整理して理解しておく。
8回	授業内容：歴史学の歴史から何が学べるか？ 事前学修：配布プリント、教科書、参考書、その他の文献を使って上記の問いについて100～200字程度で考えをまとめる。 事後学修：課題を作成提出し、授業での討論内容を整理して理解しておく。
9回	授業内容：学校で歴史を学ぶのはなぜか？ 事前学修：配布プリント、教科書、参考書、その他の文献を使って、上記の問いについて100～200字程度で考えをまとめる。 事後学修：課題を作成提出し、授業での討論内容を整理して理解しておく。
10回	授業内容：歴史小説で歴史を学べるか？ 事前学修：配布プリント、教科書、参考書、その他の文献を使って上記の問いについて100～200字程度で考えをまとめる。 事後学修：課題を作成提出し、授業での討論内容を整理して理解しておく。
11回	授業内容：娯楽と歴史学の関係とは？ 事前学修：配布プリント、教科書、参考書、その他の文献を使って上記の問いについて100～200字程度で考えをまとめる。 事後学修：課題を作成提出し、授業での討論内容を整理して理解しておく。
12回	授業内容：歴史はどのように社会の役に立っているのか？ 事前学修：配布プリント、教科書、参考書、その他の文献を使って上記の問いについて100～200字程度で考えをまとめる。 事後学修：授業での討論内容を整理して理解しておく。
13回	授業内容：歴史学はどのように社会の役に立つのか？ 事前学修：配布プリント、教科書、参考書、その他の文献を使って上記の問いについて100～200字程度で考えをまとめる。 事後学修：授業での討論内容を整理して理解しておく。
14回	授業内容：歴史学とはどのような学問か？ 事前学修：これまでの授業や配布プリント、教科書などをふまえ、上記の問いについて100～200字程度で考えをまとめる。 事後学修：授業での討論内容を整理して理解しておく。
15回	授業内容：歴史学や歴史とどう向き合ったらよいのか？ 事前学修：これまでの授業や教科書などをふまえ、上記の問いについて100～200字程度で考えをまとめる。 事後学修：授業での討論内容を整理して理解しておく。

- ◆**教科書** 丸岡『歴史学ってなんだ？』小田中直樹 PHP新書 2004年（通信教育教材、教材コード000574と同じもの）  
丸岡『歴史を社会に活かす』歴史学研究会編 東京大学出版会 2017年
- ◆**参考書** 丸岡 南塚信吾・小谷汪之編著『歴史的に考えるとどういうことか』ミネルヴァ書房 2019年  
丸岡 榊山紘一ほか編『歴史学事典』全16巻 弘文堂 1994～2009年（本学図書館、公共図書館等で利用すること）  
丸岡 浜林正夫・佐々木隆爾編『歴史学入門』有斐閣 1992年
- ◆**成績評価基準** 課題15回分を100点満点に換算して評価する。毎回出席することを前提として評価する。
- ◆**授業相談（連絡先）**：質問、相談がある場合は、以下のメールアドレスに授業名、氏名、学科、学年、学番などを明記の上、メールしてください。なお、パソコンメールのため、返信に時間がかかることがあります。  
furuokawa.takahisa@nihon-u.ac.jp

注意

# 講座内容（シラバス）

## 〔東洋史特講Ⅰ〕

須江 隆

◆**授業概要** 中国史上の宋代は、「唐宋変革」という概念から明らかなように、一大変革期であったことは間違いない。しかしこれまでは唐代との比較に重点が置かれ、300年間余り続いた宋代の時代性の把握が充分ではなかった。加えて、視点と史料の問題から地域史研究が不十分で、当時の生き生きとした地域性や日常性が殆ど解明されてこなかった。この授業では、「宋代中国の時代性・地域性・日常性」というテーマを設定し、地方志や碑文史料に加え、筆記史料『夷堅志』に着目し、それらの史料性を吟味した上で、宋代の時代性の推移や地域性・日常性の解明を目指す。

◆**学修到達目標** ①「唐宋変革」論と「両宋画期」論に関する理解を深め、宋代史研究の現状と課題を説明することができる。  
②地方志・碑文・筆記の史料としての特質を理解し、それらを具体的に説明することができる。  
③嘗ての中国地域社会の日常に関わる実態を学び、関連する現代社会が直面する問題を抽出し、歴史的視点から見つめ直すことができる。  
④宋代社会史研究を具体的事例とした中国史研究の視点や手法を学び、卒業論文の作成に向けた一連の研究方法を自ら参考にすることができる。

◆**授業方法** 遠隔授業をオンデマンド型で実施する。Google Classroom を用い、音声付きの PowerPoint 資料教材（1回につき20分程度×2本）や授業用資料を事前に配信する。受講者はそれらの教材を視聴・読解して学修し、課題1～課題3を期日までにまとめて所定の方法で提出する。課題1～3については、簡潔なコメントを付けてできるだけ速に返却する予定。なお、Classroom のコミュニケーションツールを使って質疑応答の機会を提供する。最終レポート課題については、14回目の授業時に解説する他、作成に向けた指導を Classroom のコミュニケーション機能などを活用して行い、15回目の授業実施終了後に提出してもらう。本授業の事前学修・事後学修の時間は各2時間を目安としています。

◆**履修条件**

◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容 事前学修 事後学修	授業ガイダンス、授業担当者の研究履歴（自己紹介を兼ねて）、受講に当たってのアンケート 授業の進め方や到達目標などを説明する。また授業担当者の自己紹介を兼ねて、これまでの研究履歴に言及する。 加えて、受講に当たってのアンケートを各受講者に記入してもらう。 シラバスを熟読して、授業概要や学修到達目標などを理解しておくこと。 配信教材を参照しながら授業の内容をノートに整理し、特に授業の到達目標への理解を深めておくこと。
2回	授業内容 事前学修 事後学修	中国史上の宋代 中国史上の宋代が、これまでどのような時代と捉えられてきたのかを、「唐宋変革論」や「両宋画期論」などに即して解説する。 「唐宋変革論」と「両宋画期論」の理解に向けて、テキスト3～22頁の解説の部分を読んでおくこと。 配信教材を参照しながら授業の内容をノートに整理し、「唐宋変革論」と「両宋画期論」についての概要や課題を説明できるようにしておくこと。
3回	授業内容 事前学修 事後学修	宋代地域史研究の視点 これまでの宋代地域史研究の視点と史料の問題について解説する。 アップロードした授業用資料の該当箇所に通目を通すこと。 配信教材を参照しながら授業の内容をノートに整理し、授業内容の理解に努めること。あわせて課題1を作成し提出すること。
4回	授業内容 事前学修 事後学修	宋代地域史料研究の現状と課題Ⅰ 地方志及び石刻史料について説明し、それら地域史料の活用の現状と課題に言及する。 アップロードした授業用資料の該当箇所に通目を通すこと。 配信教材を参照しながら授業の内容をノートに整理し、授業内容の理解に努めること。
5回	授業内容 事前学修 事後学修	宋代地域史料研究の現状と課題Ⅱ 筆記史料『夷堅志』とその著者洪邁について説明し、『夷堅志』研究の現状と課題に言及する。 アップロードした授業用資料の該当箇所に通目を通すこと。 配信教材を参照しながら授業の内容をノートに整理し、授業内容の理解に努めること。あわせて課題2を作成し提出すること。
6回	授業内容 事前学修 事後学修	寧波の地域性を探るⅠ 海港都市寧波を事例として、当地で編纂された地方志とそこに記載された言説を分析する。 アップロードした授業用資料の該当箇所に通目を通すこと。 配信教材を参照しながら授業の内容をノートに整理し、授業内容の理解に努めること。
7回	授業内容 事前学修 事後学修	寧波の地域性を探るⅡ 海港都市寧波を事例として、当地で語り継がれた記憶と地域性を探る。 アップロードした授業用資料の該当箇所に通目を通すこと。 配信教材を参照しながら授業の内容をノートに整理し、授業内容の理解に努めること。
8回	授業内容 事前学修 事後学修	寧波の地域性を探るⅢ 海港都市寧波を事例として、当地で刻石された地域の言説を分析する。 アップロードした授業用資料の該当箇所に通目を通すこと。 配信教材を参照しながら授業の内容をノートに整理し、授業内容の理解に努めること。
9回	授業内容 事前学修 事後学修	寧波の地域性を探るⅣ 海港都市寧波を事例として、当地で刻石された地域の言説を手掛かりにして寧波の民間信仰の世界を探る。 アップロードした授業用資料の該当箇所に通目を通すこと。 配信教材を参照しながら授業の内容をノートに整理し、授業内容の理解に努めること。
10回	授業内容 事前学修 事後学修	『夷堅志』の世界を探るⅠ 『夷堅志』とそれが書かれた時代について解説する。 『夷堅志』とその著者洪邁について下調べをしておくこと。 配信教材を参照しながら授業の内容をノートに整理し、授業内容の理解に努めること。
11回	授業内容 事前学修 事後学修	『夷堅志』の世界を探るⅡ 宋代中国の時代性・地域性・日常性の把握に向けた『夷堅志』活用の可能性について解説する。 アップロードした授業用資料の該当箇所に通目を通すこと。 配信教材を参照しながら授業の内容をノートに整理し、授業内容の理解に努めること。
12回	授業内容 事前学修 事後学修	『夷堅志』の世界を探るⅢ 『夷堅志』に見える占いに関する逸話を手掛かりに、当時の都市住民の信心の世界を探る。 アップロードした授業用資料の該当箇所に通目を通すこと。 配信教材を参照しながら授業の内容をノートに整理し、授業内容の理解に努めること。あわせて課題3を作成し提出すること。
13回	授業内容 事前学修 事後学修	最終レポート課題の作成に向けてⅠ 最終レポート課題を提示し、作成に向けたポイントや要領などを解説する。 全ての配信教材や授業ノートに通目を通し、これまでの全ての授業内容を振り返っておくこと。 最終レポート課題を確認し、その完成に向けた作業に着手すること。
14回	授業内容 事前学修 事後学修	最終レポート課題の作成に向けてⅡ Google Classroom のコミュニケーションツールなどを活用して、最終レポート課題作成に向けての質疑に 応じるなど、個別に指導を行う。 最終レポート課題の完成に向けた作業に従事し、質疑事項があれば抽出しておくこと。 質疑応答事項を整理し、最終レポート課題の完成に向けた作業を継続すること。
15回	授業内容 事前学修 事後学修	授業の総括 『宋代中国の時代性・地域性・日常性』の結論に言及し、授業全体を総括する。また全授業に対する自身の取り組みの姿勢を振り返り、「自己評価シート」を記入・提出する。 全ての配信教材や授業ノート一通り目を通し、これまでの自らの学びの姿勢を振り返っておくこと。 この授業で得られた学修成果と到達目標への達成度を自身で再確認すること。また最終レポートを完成させて提出する。

◆**教科書** 教材『東洋史特講Ⅰ Q31000』通信教育教材（教材コード000507）

事前資料送付 Google Classroom で音声付き PowerPoint 資料教材（1回につき20分程度×2本）や授業用資料を事前に配信する。

◆**参考書** 因沼『南宋の隠れたベストセラー『夷堅志』の世界』アジア遊学181 伊原 弘・静永 健編 勉誠出版

◆**成績評価基準** 課題1・2・3（50%）、最終レポート課題（40%）、自己評価シート（10%）により総合的に評価する。

◆**授業相談（連絡先）** : sue.takashi@nihon-u.ac.jp

注意

# 講座内容（シラバス）

## 〔経済史総論〕

飯島 正義

- ◆**授業概要** 近代資本主義に先立つ封建制社会の構造や特徴、封建制から資本制への移行期の西ヨーロッパ経済について学びます。
- ◆**学修到達目標** 1. 封建制社会の構造や特徴について説明することができるようになる。  
2. 封建制社会の崩壊過程と絶対王政の成立過程について説明することができるようになる。  
3. 市民革命の意義について説明することができるようになる。
- ◆**授業方法** 講義形式。授業は、当日配布するプリント資料を中心に進めていくが、理解を確認するために何回か「確認プリント」を実施する予定です。
- ◆**履修条件** 2019年度、2020年度昼間スクーリング（前期）「経済史総論」との積み重ね不可。
- ◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容：経済史で何を学ぶのか、西欧の封建制社会の成立過程 事前学修：シラバスで全体の授業内容を確認しておくこと。 事後学修：西欧の封建制社会の成立過程についてまとめておくこと。
2回	授業内容：西欧の封建制社会の成立とその構造－荘園制 事前学修：前回の授業内容を再度確認するとともに、参考図書等で今回の授業内容の関係するところを予め理解しておくこと。 事後学修：封建制社会における土地制度、農業、農村についてまとめておくこと。
3回	授業内容：中世ヨーロッパの商業(1) 地中海貿易と北海・バルト海貿易 事前学修：前回の授業内容を再度確認するとともに、プリント資料を中心に参考図書等で今回の授業内容の関係するところを予め理解しておくこと。 事後学修：中世ヨーロッパにおける地中海貿易と北海・バルト海貿易の内容についてまとめておくこと。
4回	授業内容：中世ヨーロッパの商業(2) 遠隔地商業と中世都市 事前学修：前回の授業内容を再度確認するとともに、プリント資料を中心に参考図書等で今回の授業内容の関係するところを予め理解しておくこと。 事後学修：中世ヨーロッパにおける地中海貿易、北海・バルト海貿易と中世都市との関係についてまとめておくこと。
5回	授業内容：封建制社会の動揺(1) 人口減少と領主制の危機 事前学修：前回の授業内容を再度確認するとともに、プリント資料を中心に参考図書等で今回の授業内容の関係するところを予め理解しておくこと。 事後学修：14世紀における「封建的危機」についてまとめておくこと。
6回	授業内容：封建制社会の動揺(2) 領主・農民関係の変化 事前学修：前回の授業内容を再度確認するとともに、プリント資料を中心に参考図書等で今回の授業内容の関係するところを予め理解しておくこと。 事後学修：14世紀の「封建的危機」の中で領主と農民との関係がどのように変化していったのかをまとめておくこと。
7回	授業内容：封建制社会の動揺(3) 農村工業の発展 事前学修：前回の授業内容を再度確認するとともに、プリント資料を中心に参考図書等で今回の授業内容の関係するところを予め理解しておくこと。 事後学修：封建制社会の中で農村工業がどのように発展してきたのかをまとめておくこと。
8回	授業内容：大航海時代の幕開け－大西洋貿易と東インド貿易 事前学修：前回の授業内容を再度確認するとともに、プリント資料を中心に参考図書等で今回の授業内容の関係するところを予め理解しておくこと。 事後学修：大航海時代に入り、大西洋貿易と東インド貿易が成立してくるが、その内容を整理しまとめておくこと。
9回	授業内容：世界市場の拡大とプロト工業化 事前学修：前回の授業内容を再度確認するとともに、プリント資料を中心に参考図書等で今回の授業内容の関係するところを予め理解しておくこと。 事後学修：プロト工業化の背景とその内容・特徴についてまとめておくこと。
10回	授業内容：プロト工業化の挫折 事前学修：前回の授業内容を再度確認するとともに、プリント資料を中心に参考図書等で今回の授業内容の関係するところを予め理解しておくこと。 事後学修：プロト工業化の発展の限界についてまとめておくこと。
11回	授業内容：絶対王政の成立 事前学修：前回の授業内容を再度確認するとともに、プリント資料を中心に参考図書等で今回の授業内容の関係するところを予め理解しておくこと。 事後学修：絶対王政の成立事情をまとめておくこと。
12回	授業内容：絶対王政の経済政策 事前学修：前回の授業内容を再度確認するとともに、プリント資料を中心に参考図書等で今回の授業内容の関係するところを予め理解しておくこと。 事後学修：絶対王政の経済政策の内容についてまとめておくこと。
13回	授業内容：市民革命の意義 事前学修：前回の授業内容を再度確認するとともに、プリント資料を中心に参考図書等で今回の授業内容の関係するところを予め理解しておくこと。 事後学修：市民革命が起こる経済的背景についてまとめておくこと。
14回	授業内容：市民革命後の経済政策 事前学修：前回の授業内容を再度確認するとともに、プリント資料を中心に参考図書等で今回の授業内容の関係するところを予め理解しておくこと。 事後学修：市民革命後の経済政策の内容と絶対王政下の経済政策の違いを整理しまとめておくこと。
15回	授業内容：試験及び解説 事前学修：これまでの授業内容のポイントを全体として再度確認しておくこと。 事後学修：設題に対して、重要事項を落とさず論理的な記述ができたかどうかを確認する。

- ◆**教科書** 〔当日資料配布〕 授業時にプリント資料を配布します。
- ◆**参考書** 〔教材〕『経済史総論 R 20200』 通信教育教材（教材コード000161）
- ◆**成績評価基準** 授業内における確認プリントの提出（40%）、試験（60%） \*全日出席することを前提として評価します。
- ◆**授業相談（連絡先）：**

注意



# 講座内容（シラバス）

【情報概論】 オープン受講：不可

荒関 仁志

◆**授業概要** 下記の項目について実習を進めていきます。

- 1) 文書作成
- 2) 表計算ソフトと統計処理
- 3) プレゼンテーション技術の基礎
- 4) インターネットとWWWの構造
- 5) インターネットとセキュリティ

◆**学修到達目標** 表計算ソフト、文書作成ソフト、プレゼンテーションソフト、インターネットの利用を通じて、コンピュータによる問題解決の方法の基礎を理解し、情報技術の基本的知識の説明をすることができる。  
また、昨今問題視されているネットワークセキュリティの理解の理解も目指す。

◆**授業方法** 基本的にはコンピュータを用いて実習しますが、表計算ソフトの必要な知識については必要に応じて講義形式で学習します。また、教科書にない資料などは授業で配布します。

◆**履修条件** 文書作成ソフト（Word）、表計算ソフト（Excel）、プレゼンテーションソフト（PowerPoint）、テキストエディタ（メモ帳）の基本的な使い方を理解していること。さらに、メールで課題提出を行うので Nu-Mail が使えることが望ましい。2019年度夏期スクーリング「情報概論」の前期、もしくは後期のみ受講も可能ですが、学修効果をあげるため、前期・後期の連続受講が望ましい。2019年度夏期スクーリング「情報概論」との積み重ね不可。

◆**授業計画**〔各 90 分〕

1回	授業内容：文書作成ソフト（MSワード）の基本操作の習得を目指します。 事前学修：文書作成ソフトの基本（文字入力、ファイル操作等）について確認しておくこと。 事後学修：配布資料に基づき文書作成ソフトの基本操作について理解すること。
2回	授業内容：文書作成ソフトでのヘッダー／フッター設定、目次作成、参考文献作成の習得を目指します。 事前学修：文書作成ソフトのヘッダー／フッター設定、目次作成、参考文献作成などを確認しておくこと。 事後学修：配布資料に基づき文書作成ソフトのヘッダー／フッター設定、目次作成、参考文献作成操作について理解すること。
3回	授業内容：表計算ソフトの基本操作の習得を目指します。 事前学修：表計算ソフトの基本（相対参照・絶対参照）について確認しておくこと。 事後学修：配布資料に基づき相対参照・絶対参照について理解すること。
4回	授業内容：表計算ソフトによるグラフの作成方法の習得を目指します。 事前学修：縦棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフの作成について理解しておくこと。 事後学修：配布資料に基づき各グラフの作成方法、ならびに用法について理解すること。
5回	授業内容：表計算ソフトと文章作成ソフトによるレポート作成方法の習得を目指します。 事前学修：文書作成ソフトの基本（文字入力やファイル操作）について再確認しておくこと。 事後学修：配布資料に基づきレポート作成方法について理解すること。
6回	授業内容：表計算ソフトの基本関数の習得を目指します。 事前学修：表計算ソフトの基本関数（平均、合計、順位等）について確認しておくこと。 事後学修：配布資料に基づき度数分布表・ヒストグラムの作成方法を理解すること。
7回	授業内容：表計算ソフトによる度数分布表・ヒストグラムの作成の習得を目指します。 事前学修：度数分布表とヒストグラムについて理解しておくこと。 事後学修：配布資料に基づき度数分布表・ヒストグラムの作成方法を理解すること。
8回	授業内容：表計算ソフトを用いて定義式に基づいた基本統計量（平均、合計、分散、標準偏差）の計算方法の習得を目指します。 事前学修：平均、合計、分散、標準偏差などの基本統計量の定義式を理解しておくこと。 事後学修：配布資料に基づき基本統計量の計算方法を理解すること。
9回	授業内容：表計算ソフトを用いて散布図の作成方法、ならびに定義式に基づいた相関係数の計算方法を習得します。 事前学修：散布図や相関係数について確認しておくこと。 事後学修：配布資料に基づき散布図の作成方法と定義式に基づいた相関係数の計算方法について理解すること。
10回	授業内容：プレゼンテーションソフトの基本的操作の習得を目指します。 事前学修：プレゼンテーションソフトの基本について確認しておくこと。 事後学修：配布資料に基づきプレゼンテーションソフトの基本操作について理解すること。
11回	授業内容：プレゼンテーションソフトを用いた発表資料の作成を行います。 事前学修：発表する時事問題を特定し、参考文献や論文、または Web を調べてくること。 事後学修：プレゼンテーションソフトを用いた発表資料の作成について理解すること。
12回	授業内容：WWW (world Wide Web) ページの基本構造を理解する。 事前学修：HTML の基本文法について確認しておくこと。 事後学修：配布資料に基づき HTML の基本文法について理解すること。
13回	授業内容：WWW (world Wide Web) ページの基本構造である HTML の基本文法を理解する。 事前学修：HTML の基本文法について確認しておくこと。 事後学修：配布資料に基づき HTML の基本文法について理解すること。
14回	授業内容：インターネット上の様々なアプリケーションについて理解すると共に、セキュリティについて理解する。 事前学修：様々な SNS について調査する。また、その SNS 上の問題点を確認しておく。 事後学修：配布資料に基づきインターネットのセキュリティ問題の理解と対策を習得する。
15回	授業内容：確認試験、および解説 事前学修：前回の授業内で指摘した基本的な事柄について確認しておくこと。 事後学修：授業内容を確認・理解し、表計算ソフトの活用法について再確認すること。

◆**教科書** 当日資料配布

◆**参考書** 丸沼『最新情報処理概論 改訂版』安藤 明之 実教出版；改訂版 2014年

◆**成績評価基準** 授業参加度（30%）、平常課題（50%）、授業内試験（20%）により総合的に評価します。  
※演習形式の授業なので、毎回出席することを前提に評価します。

◆**授業相談（連絡先）**：通信教育部3号館3階 302 研究室

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。  
例：「日本大学通信教育部 22183999 日大通子」

※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

注意

# 講座内容（シラバス）

〔商品学〕 オープン受講：不可

金崎 賢希

- ◆**授業概要** 技術だけでは商品足りえず、買い手が現れてはじめて商品となる。本講では、売買の対象となる商品について、何をどのようにデザインするのが検討する。従来は品質を中心に議論されてきたが、消費者の価値観が多様化している現代において、その評価軸も多様・複雑化している。とくに近年、商品のコモディティ化が進み、差別化要素を機能的価値以外にも求めなければならない。これら変化を踏まえ、商品デザインに新たな視座を取り入れる。
- ◆**学習到達目標** 商品設計の基本となるマーケティングおよび消費者行動に関わる諸理論を理解する。それに加えて、価値と知覚、ブランド、サービス、顧客体験、顧客との絆、社会的責任、グローバル化、デジタル・マーケティングといった諸概念について学び、売買の対象となる「商品」とは何か、その設計にはどのような要素を考慮する必要があるのか、理解を深める。内容は商・経営専攻の大学学部2,3年生レベルに相当する。
- ◆**授業方法** 講義およびケースメソッド形式で授業を行う。その際、下記に指定した教科書を用いる。なお、受講者は、下記の授業計画（事前学習欄）を参照のうえ、指示のある回については、教科書中該当ユニットの冒頭にあるケースを解き、その答えを各自1200 - 2400字程度にまとめ、授業に臨むこと。（提出する必要はありません）

◆履修条件

◆授業計画〔各90分〕

1回	授業内容：イントロダクション 商品学の概要について説明する 事前学修：教科書 Unit 1 を読んでおくこと 事後学修：授業内容を復習、整理することで理解を深めておくこと
2回	授業内容：消費者行動および購買意思決定に影響を与える諸要因を説明する 事前学修：教科書 Unit 2 と 3 を読み、Unit 2 と 3 のケースに答えること 事後学修：授業およびケースメソッドの内容を振り返り、事前課題をまとめ直す
3回	授業内容：マーケティング・リサーチの方法について説明する 事前学修：教科書 Unit 4 を読んでおくこと 事後学修：授業で紹介した事例を復習する
4回	授業内容：経営環境の把握と STP アプローチについて説明する 事前学修：教科書 Unit 5 と 6 を読み、Unit 5 のケースに答えること 事後学修：授業およびケースメソッドの内容を振り返り、事前課題をまとめ直す
5回	授業内容：新商品の開発プロセスについて説明する 事前学修：教科書 Unit 7 と 8 を読み、Unit 8 のケースに答えること 事後学修：授業およびケースメソッドの内容を振り返り、事前課題をまとめ直す
6回	授業内容：商品の価格政策について説明する 事前学修：教科書 Unit 9 と 10 を読んでおくこと 事後学修：授業の内容および紹介した事例を復習する
7回	授業内容：商品のプロモーション政策について説明する 事前学修：教科書 Unit 11 と 12 を読み、Unit 12 に答えること 事後学修：授業およびケースメソッドの内容を振り返り、事前課題をまとめ直す
8回	授業内容：商品の流通政策について説明する 事前学修：教科書 Unit 13 と 14 を読み、Unit 13 と 14 に答えること 事後学修：授業およびケースメソッドの内容を振り返り、事前課題をまとめ直す
9回	授業内容：商品のライフサイクル（とくに誕生期と成長期）について説明する 事前学修：教科書 Unit 16 を読み、Unit 16 冒頭のケースに答えること 事後学修：授業およびケースメソッドの内容を振り返り、事前課題をまとめ直す
10回	授業内容：商品のブランディングについて説明する 事前学修：教科書 Unit 20 を読み、Unit 20 冒頭のケースに答えること 事後学修：授業およびケースメソッドの内容を振り返り、事前課題をまとめ直す
11回	授業内容：継続的な購買を促す顧客との関係構築について説明する 事前学修：教科書 Unit 21 を読み、Unit 21 冒頭のケースに答えること 事後学修：授業およびケースメソッドの内容を振り返り、事前課題をまとめ直す
12回	授業内容：商品としてのサービスについて説明する 事前学修：教科書 Unit 22 を読み、Unit 22 冒頭のケースに答えること 事後学修：授業およびケースメソッドの内容を振り返り、事前課題をまとめ直す
13回	授業内容：グローバル化への対応について説明する 事前学修：教科書 Unit 24 を読み、Unit 24 冒頭のケースに答えること 事後学修：授業およびケースメソッドの内容を振り返り、事前課題をまとめ直す
14回	授業内容：商品を通じた社会的貢献について説明する 事前学修：教科書 Unit 25 を読み、Unit 25 冒頭のケースに答えること 事後学修：授業およびケースメソッドの内容を振り返り、事前課題をまとめ直す
15回	授業内容：総括と課題の作成 事前学修：14 回目までの内容を整理すると同時に、課題を作成する 事後学修：各授業内で学んだ内容を確認して、課題の政策に臨む

- ◆**教科書** 丸沼『マーケティングをつかむ 新版』黒岩健一郎・水越康介 有斐閣 2018年
- ◆**参考書** 丸沼『1からのマーケティング 第4版』石井淳蔵他 碩学舎 2019年  
丸沼『1からのデジタル・マーケティング』西川英彦他 碩学舎 2019年  
丸沼『1からの消費者行動』松井剛他 碩学舎 2016年  
丸沼『コトラー & ケラーのマーケティング・マネジメント 第12版』フィリップ・コトラー他 丸善出版 2014年  
丸沼『ゼミナール マーケティング入門 第2版』石井淳蔵他 日本経済新聞社 2014年
- ◆**成績評価基準** 課題の提出（100%）で評価する。課題内容はケースを解く形でのレポート課題（3000字程度、授業最終日の翌々日までに google classroom を通じて提出）。詳細は講義第1回目に指示する。
- ◆**授業相談（連絡先）：**

注意

# 講座内容（シラバス）

## 〔国際金融論〕

谷川 孝美

◆**授業概要** 国際収支や為替レートの変化が日々ニュースになっています。この講義では、国際的な金融取引が行われる国際金融市場、外国為替市場などの基礎的概念、外国為替レート決定理論や国際資本移動とマクロ経済の関係を示すマンデル・フレミング・モデルなどを中心に学び、理解することを通じて、国際金融の諸問題を考える上での基礎を養うことを目的とします。なお、この講義では経済学原論などによるマクロ経済学の基礎および金融論の基礎を理解していることが望ましい。

◆**学修到達目標** 本講義では、国際金融における基礎および基礎理論への理解を目指し、具体的には以下のことを目標とする。  
 1. 国際金融市場、外国為替取引などの国際金融の基礎を理解し、説明できるようになる。  
 2. 外国為替レートの決定理論を理解し、説明できるようになる。  
 3. 国際資本移動とマクロ経済の関係による国際金融におけるトリレンマ問題を理解し、説明できるようになる。

◆**授業方法** 授業計画にそって、パワーポイントを利用した講義形式で行います。講義では、基礎的な概念や理論について平易な解説をする予定です。授業計画は開講日数で分割しますが進行状況によって前後することもあります。また、理解度を確認するための小テストを実施する予定です。なお、国際金融の歴史や制度の詳細は取り扱いません。

◆**履修条件** 令和元年夏期スクーリング『国際金融論』（谷川孝美）との文重ね不可とはしませんが、同様の内容になります。

◆**授業計画**〔各 90 分〕

1 回	授業内容：授業の進め方・オリエンテーション・国際金融論の対象と課題 事前学修：テキストの「はしがき」および配付資料を読むこと。新聞などで国際金融における時事問題を確認すること。 事後学修：授業内で用いられた専門用語や説明を確認し、理解すること。
2 回	授業内容：外国為替、外国為替市場と国際決済 事前学修：テキスト第1章をよく読んでおくこと。 事後学修：配付資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
3 回	授業内容：名目為替レートと実質為替レート 事前学修：テキスト第2章をよく読んでおくこと。また、新聞などで為替レートの変化を調べておくこと。 事後学修：配付資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
4 回	授業内容：直物為替レート（対顧客市場における為替レート） 事前学修：テキスト第3章をよく読んでおくこと。 事後学修：配付資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。講義時に紹介した資料を調べること。
5 回	授業内容：外国為替市場と先物取引 事前学修：テキスト第3章をよく読んでおくこと。 事後学修：配付資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
6 回	授業内容：オプション・スワップ取引 事前学修：テキスト第3章をよく読んでおくこと。 事後学修：配付資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。また、実際に計算し確認すること。
7 回	授業内容：国際収支統計と外国為替レート 事前学修：テキスト第4章をよく読んでおくこと。また、事前に配布する資料を良く確認しておくこと。 事後学修：配付資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。また、講義時紹介する資料を確認すること。
8 回	授業内容：一物一価の法則と購買力平価 事前学修：テキスト第5章第1節をよく読んでおくこと。 事後学修：配付資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
9 回	授業内容：金利裁定取引と金利平価 事前学修：テキスト第5章第2節をよく読んでおくこと。 事後学修：配付資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。また、実際に計算して確認すること。
10 回	授業内容：外国為替レートの決定1（フローアプローチ） 事前学修：テキスト第5章第3節をよく読んでおくこと。 事後学修：配付資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
11 回	授業内容：外国為替レートの決定2（アセットアプローチ） 事前学修：テキスト第5章第4節をよく読んでおくこと。 事後学修：配付資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
12 回	授業内容：外国為替レートと開放マクロ経済政策 事前学修：テキスト第6章第1節をよく読んでおくこと。 事後学修：配付資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
13 回	授業内容：国際金融のトリレンマ問題 事前学修：テキスト第6章第2節をよく読んでおくこと。 事後学修：配付資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
14 回	授業内容：理解度の確認 事前学修：配布された資料を熟読し、内容を確認しておくこと。 事後学修：配付資料やテキスト、参考書などで、講義内容をよく確認し理解すること。
15 回	授業内容：試験および解説 事前学修：前回の講義時に説明した内容を良く確認し理解しておくこと。 事後学修：今回の授業内容を再確認し、理解を深めること。

◆**教科書** **【事前資料送付】**  
**【当日資料配布】** 必要に応じてプリント配布予定  
**【教材】**『国際金融論 R31200』通信教育教材（教材コード000432）

◆**参考書** **【丸沼】**『国際金融のしくみ 第4版（有斐閣アルマ）』 秦忠夫・本田敬吉・西村陽造編 有斐閣、2012年  
**【丸沼】**『はじめて学ぶ国際金融論』永易敦、江坂太郎、吉田裕司、有斐閣、2015年

◆**成績評価基準** 毎回出席することを前提として、最終試験を中心に、小テストや平常点などにより総合的に評価します。

◆**授業相談（連絡先）**：講義前後10分程度、講師室にて対応します。また、それ以外の時間ではメールにて対応します。  
 tanikawa.takayoshi@nihon-u.ac.jp

**注意**

# 講座内容（シラバス）

## 〔発達と学習〕

野村 康治

- ◆**授業概要** 乳幼児期から青年期にかけての運動・認知能力の発達、社会性の獲得や人格形成にかかわる代表的理論や諸問題を取り上げる。また、基本的な学習理論を紹介し、前述の心身発達に関する知見と絡めて様々な学習方法、教授法を概説する。
- ◆**学修到達目標** 教育に関わる発達と学習の諸問題に関する知識を獲得し、それらを有機的に関連づけて説明できるようになる。また、そうした知識を幼児、児童、生徒の学習を支援するために活用できるようにする。
- ◆**授業方法** 配布するプリントに沿って主に講義形式で行う。ただし、積極的な傾聴態度を促し、講義内容の理解を促すため、授業時に意見を求める場合もある。
- ◆**履修条件**
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1回	授業内容： 発達の概念の変遷。発達の基本原理を解説する。 事前学修： テキストの序章～第1章第2節を読んでおくこと。 事後学修： 授業内容をノートに整理し、テキストの関連箇所と授業内容とを対応づけて理解すること。
2回	授業内容： ピアジェ、ヴィゴツキー、ブルーナなどによる認知発達理論を解説する。 事前学修： プリントやテキスト（1章など）にあるピアジェやヴィゴツキーに関する記述を読んでおくこと。 事後学修： 授業内容をノートに整理し、テキストの関連箇所と授業内容とを対応づけて理解すること。
3回	授業内容： 人格発達に関する発達理論をエリクソンの理論を中心に解説する。 事前学修： プリントやテキスト（6章など）にあるエリクソンに関する記述を読んでおくこと。 事後学修： 授業内容をノートに整理し、テキストの関連箇所と授業内容とを対応づけて理解すること。
4回	授業内容： 乳児期における心身の発達（知覚能力の発達、言語の獲得、愛着行動など）を解説する。 事前学修： プリントやテキストの乳児期（2章など）に関する記述を読んでおくこと。 事後学修： 授業内容をノートに整理し、テキストの関連箇所と授業内容とを対応づけて理解すること。
5回	授業内容： 幼児期における心身の発達（身体能力、認知能力、情緒の発達など）を解説する。 事前学修： プリントやテキストの幼児期（3章など）に関する記述を読んでおくこと。 事後学修： 授業内容をノートに整理し、テキストの関連箇所と授業内容とを対応づけて理解すること。
6回	授業内容： 児童期における心身の発達（個性化と社会化の問題）について解説する。 事前学修： プリントやテキストの児童期（4章など）に関する記述を読んでおくこと。 事後学修： 授業内容をノートに整理し、テキストの関連箇所と授業内容とを対応づけて理解すること。
7回	授業内容： 青年期における心身の発達（特に青年期の心理的葛藤）について解説する。また生涯発達の観点に立ち、青年期以降の発達についても概説する。 事前学修： プリントやテキストの青年期（5章など）に関する記述を読んでおくこと。 事後学修： 授業内容をノートに整理し、テキストの関連箇所と授業内容とを対応づけて理解すること。
8回	授業内容： 学習の定義を示したうえで、連合理論に基づく学習理論（古典的条件づけや道具手条件づけなど）を解説する。 事前学修： プリントやテキストの学習概念、条件づけ（7章など）に関する記述を読んでおくこと。 事後学修： 授業内容をノートに整理し、テキストの関連箇所と授業内容とを対応づけて理解すること。
9回	授業内容： 洞察説やサイン・ゲシュタルト説など認知理論に基づく学習理論を解説する。また社会的学習についても説明する。 事前学修： プリントやテキストの認知学習（8章など）に関する記述を読んでおくこと。 事後学修： 授業内容をノートに整理し、テキストの関連箇所と授業内容とを対応づけて理解すること。
10回	授業内容： 学習方法の分類と学習時に生じる諸現、また学習成果の規定因について解説する。 事前学修： プリントの学習方法の分類と学習の規定因に関する記述（8、9章など）を読んでおくこと。 事後学修： 授業内容をノートに整理し、テキストの関連箇所と授業内容とを対応づけて理解すること。
11回	授業内容： 学習と動機づけとの関連、特に成長欲求に基づく動機づけとの関連について解説する。 事前学修： プリントやテキストの動機づけ（10章など）に関する記述を読んでおくこと。 事後学修： 授業内容をノートに整理し、テキストの関連箇所と授業内容とを対応づけて理解すること。
12回	授業内容： 集団づくりと集団学習について解説する。 事前学修： プリントやテキストの協同学習（12章など）に関する記述を読んでおくこと。 事後学修： 授業内容をノートに整理し、テキストの関連箇所と授業内容とを対応づけて理解すること。
13回	授業内容： 様々な教授法（学習者主体の教授法と教授者主導の教授法について）解説する。 事前学修： プリントやテキストの学習指導法（12章など）に関する記述を読んでおくこと。 事後学修： 授業内容をノートに整理し、テキストの関連箇所と授業内容とを対応づけて理解すること。
14回	授業内容： 学習の評価方法と評価時に生じる諸問題について解説する。 事前学修： プリントの教育評価に関する記述や障害に関する記載（13、14章）を読んでおくこと。 事後学修： 授業内容をノートに整理し、テキストの関連箇所と授業内容とを対応づけて理解すること。
15回	授業内容： 理解度の確認、試験 事前学修： プリントやノートを読み返し、授業内容の確認しておくこと。 事後学修： 授業内容の確認と知識の整理を行うこと。

- ◆**教科書** **〔当日資料配布〕** 当日プリント配付  
凡例『教職ベーシック 発達・学習の心理学』 柏崎秀子（編著） 北樹出版
- ◆**参考書** 凡例『発達と学習（現代の認知心理学5）』 市川伸一（編著） 北大路書房
- ◆**成績評価基準** 成績は主に試験の得点をもとに授業への積極的関与（発言）を加味して総合的に評価する。
- ◆**授業相談（連絡先）**： 初回授業時に案内する。

### 注意

# 講座内容（シラバス）

## 〔社会科・公民科教育法Ⅰ〕

宇内 一文

◆**授業概要** 中学校社会科及び高等学校公民科の授業の実際について、最新の教育動向を踏まえて学んでいく。中等学校教員として、自分が授業を担当する際、どのように教材研究をするのか、また生徒に対してどの学習方法をもって授業を展開していくのかについて学習する。実践に必要な知識・指導方法・指導技術について、具体的な討議や様々なグループワーク、模擬授業などを通して身につけることを目標とする。

◆**学習到達目標** 1. 学習指導要領に示された中学校社会科及び高等学校公民科の目標と内容を理解できる。  
2. 社会科・公民科の背景となる学問領域との関係を理解し教材研究に活用できるとともに、発展的な学習内容について探究し、それを学習指導に生かすことができる。  
3. 社会科・公民科の基礎的な学習指導理論を理解するとともに、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につけている。  
4. 社会科・公民科の実践研究の動向を知り、授業設計の向上に主体的に取り組むことができる。

◆**授業方法** 授業の2/3はオンラインにて実施し、社会科・公民科における教育目標、育成を目指す資質・能力などの内容についての社会科教育原理を解説する。後半は社会科・公民科の学習指導と授業設計の方法を修得し、主体的に取り組むことができるようになるために、1/3は対面にて実施し、受講者による模擬授業を行う。なお、模擬授業はグループによる20分程度を予定している。模擬授業の教科書には、『中学社会 公民 ともに生きる』（教育出版、2019年）を指定する。

◆**履修条件**

◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容 事前学修 事後学修	社会科の学びが変わる：社会科・公民科をめぐる現代的課題 指定した学習指導要領をよく読んでおくこと。 授業の内容をノートに整理し、授業にかかわる課題に取り組むことを通じて、「社会科・公民科をめぐる現代的課題」についての理解を深めていくこと。
2回	授業内容 事前学修 事後学修	社会科の目標と内容：「公民的資質・能力」の育成と「社会的な見方・考え方」を活用した社会科授業の構造化 前回の授業のノートと配布資料を確認し、指定した箇所をよく読んでおくこと。 授業の内容をノートに整理し、授業にかかわる課題に取り組むことを通じて、「社会科の目標と内容」についての理解を深めていくこと。
3回	授業内容 事前学修 事後学修	社会科の成り立ちとその歩み：学習指導要領の変遷 前回の授業のノートと配布資料を確認し、指定した箇所をよく読んでおくこと。 授業の内容をノートに整理し、授業にかかわる課題に取り組むことを通じて、「社会科の成り立ちとその歩み」についての理解を深めていくこと。
4回	授業内容 事前学修 事後学修	社会科の教育課程と教科書：学習指導要領と社会科・公民科のカリキュラム・マネジメント 前回の授業のノートと配布資料を確認し、指定した箇所をよく読んでおくこと。 授業の内容をノートに整理し、授業にかかわる課題に取り組むことを通じて、「社会科の教育課程と教科書」についての理解を深めていくこと。
5回	授業内容 事前学修 事後学修	社会科における憲法学習の役割と位置づけ 前回の授業のノートと配布資料を確認し、指定した箇所をよく読んでおくこと。 授業の内容をノートに整理し、授業にかかわる課題に取り組むことを通じて、「憲法学習の役割と位置づけ」についての理解を深めていくこと。
6回	授業内容 事前学修 事後学修	社会科における政治教育の役割と位置づけ 前回の授業のノートと配布資料を確認し、指定した箇所をよく読んでおくこと。 授業の内容をノートに整理し、授業にかかわる課題に取り組むことを通じて、「政治教育の役割と位置づけ」についての理解を深めていくこと。
7回	授業内容 事前学修 事後学修	社会科における人権学習の役割と位置づけ 前回の授業のノートと配布資料を確認し、指定した箇所をよく読んでおくこと。 授業の内容をノートに整理し、授業にかかわる課題に取り組むことを通じて、「人権学習の役割と位置づけ」についての理解を深めていくこと。
8回	授業内容 事前学修 事後学修	社会科における平和学習の役割と位置づけ 前回の授業のノートと配布資料を確認し、指定した箇所をよく読んでおくこと。 授業の内容をノートに整理し、授業にかかわる課題に取り組むことを通じて、「平和学習の役割と位置づけ」についての理解を深めていくこと。
9回	授業内容 事前学修 事後学修	社会科の授業をどうやればいいのか（社会科の授業技術）：「どのように学ぶか」と「何ができるようになるか」、学習指導案と新聞・情報機器の活用仕方・掲示物等の作成 前回の授業のノートと配布資料を確認し、指定した箇所をよく読んでおくこと。 授業の内容をノートに整理し、授業にかかわる課題に取り組むことを通じて、「社会科の授業技術」についての理解を深めていくこと。
10回	授業内容 事前学修 事後学修	社会科の学習指導と評価：「真正の学び」と「バックワード・デザイン」 前回の授業のノートと配布資料を確認し、指定した箇所をよく読んでおくこと。 授業の内容をノートに整理し、授業にかかわる課題に取り組むことを通じて、「社会科の学習指導と評価」についての理解を深めていくこと。
11回	授業内容 事前学修 事後学修	公民分野の教材研究・授業・実践例(1) A 私たちと現代社会／学習指導案の作成 公民的分野の目標(1)をねらいとした、「A 私たちと現代社会」の内容に関係する授業計画を構想し、その第1時限目の〔学習指導案〕と〔板書案〕を作成すること。 PDCAサイクルにもとづく学習指導案および模擬授業のふり返り(1)
12回	授業内容 事前学修 事後学修	公民分野の教材研究・授業・実践例(2) B 私たちと経済／模擬授業 公民的分野の目標(2)をねらいとした、「B 私たちと経済」の内容に関係する授業計画を構想し、その第1時限目の〔学習指導案〕と〔板書案〕を作成すること。 PDCAサイクルにもとづく学習指導案および模擬授業のふり返り(2)
13回	授業内容 事前学修 事後学修	公民分野の教材研究・授業・実践例(3) 私たちと政治／学習指導案の作成 公民的分野の目標(3)をねらいとした、「C 私たちと政治」の内容に関係する授業計画を構想し、その第1時限目の〔学習指導案〕と〔板書案〕を作成すること。 PDCAサイクルにもとづく学習指導案および模擬授業のふり返り(3)
14回	授業内容 事前学修 事後学修	公民分野の教材研究・授業・実践例(4) 私たちと国際社会の諸課題／模擬授業 公民的分野の目標(4)をねらいとした、「D 私たちと国際社会の諸課題」の内容に関係する授業計画を構想し、その第1時限目の〔学習指導案〕と〔板書案〕を作成すること。 PDCAサイクルにもとづく学習指導案および模擬授業のふり返り(4)
15回	授業内容 事前学修 事後学修	これからの社会科・公民科について考える 前回の授業のノートと配布資料を確認し、指定した箇所をよく読んでおくこと。 授業の内容をノートに整理し、授業にかかわる課題に取り組むことを通じて、「これからの社会科・公民科の方向性」についての理解を深めていくこと。

◆**教科書** 教材『社会科・公民科教育法Ⅰ』通信教育教材（教材コード●●●●●）

◆**参考書** 丸沼『中学社会 公民 ともに生きる』中村達也ほか 教育出版 平成31年（平成27年度検定済み、平成28年度採用）

事前資料送付

丸沼『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編』東洋館出版 平成30年

丸沼『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 公民編』東京書籍 平成31年

◆**成績評価基準** オンライン授業の課題への取り組み（40%）、模擬授業及び学習指導案（40%）、期末レポート（30%）。これらを総合的に判断し、評価する。

◆**授業相談（連絡先）**：unai.kazufumi@nihon-u.ac.jp

注意

# 講座内容（シラバス）

〔教育の方法・技術論〕 オープン受講：不可

古賀 徹

◆**授業概要** この授業は、教員としての授業実践力を修得することを目的としています。授業が成り立つ条件を理解するために、先ず歴史や諸外国の実践例を学ぶことから始めます。次には「読む・書く・きく・話す」等の技能を伸ばすための技術・指導法を学び、実際に活用できるレベルへ高めていく。カリキュラム構成の基礎を身につけ、指導計画をデザインできるようになるまでがゴールです。ICT活用の学習形態についても考え深めていきます。

◆**学修到達目標** 学修者は次の事項について理解を深め、技能・指導技術を身につけることができる。①教授法の歴史の変遷を理解する。②ヴィゴツキーの「発達最近接領域」等の最新の学習概念を理解する。③アクティブ・ラーニング形式の学習について理解し、実践するアイデアを出す。④カリキュラム構成の基礎を身につけ、学習目標に沿って学習内容・活動を展開するイメージをまとめることができる。⑤ICT活用やeラーニング等の学習形態について、その課題や可能性も含めて把握することができる。⑥教育評価の方法を身につける。①から⑥の知識・技能を身につけ、授業やカリキュラムをデザインすることができる。

◆**授業方法** 講義形式に加えて、ワークショップ形式、グループワーク、ロールプレイなどアクティブ・ラーニング型の方式をとり入れる。能動的学習の形式としては、単純グループワーク（バス学習）、ジグソー法、シミュレーション学習、プロジェクト学習、完全修得学習、模擬授業と相互評価、ウェビングを予定している。

◆**履修条件**

◆**授業計画**〔各90分〕

1回	授業内容：「教育方法」とは何か？「教える」と「学ぶ」こと。 事前学修：教職課程における学習内容（各科目）について意味を調べておく。 事後学修：新学習指導要領の「ねらい」について調べ、説明文としてまとめる。
2回	授業内容：教育方法論の歴史（西洋教育方法史）。 事前学修：コメニウス、ペスタロッチ、ヘルバルト、デュイについて文献を読む。 事後学修：本日の学修内容についてレポート作成（次回提出）。
3回	授業内容：教育方法論の歴史（日本の教育方法・内容論の変遷）。 事前学修：日本特有の教育方法について、イメージすることを複数メモしておく。 事後学修：日本と西洋の「近代化」の関係性について、短い文章でまとめる。
4回	授業内容：新しい「学習」概念（ヴィゴツキーの活動理論と現在の学習）。 事前学修：「PISA型学力」等の新しい学力観について資料を通読しておく。 事後学修：講義で体験的学習により学んだ内容を言語化して説明文としてまとめる。
5回	授業内容：授業形態を個別化に対応させる（バス学習、T・T、完全修得学習）。 事前学修：個別の差（個人）への対応という難しさについて意見をまとめておく。 事後学修：世界各国の地域差からくる教育観の違いについて説明文を書く。
6回	授業内容：問題解決学習と系統学習。 事前学修：自身の体験的な学びについて具体例をあげ、その効果について記す。 事後学修：自身の担当科目における能動的な学習を設計する。
7回	授業内容：指導技術：「はなす」ことと「きく」こと。 事前学修：自身のキャリア教育体験について他者に説明できるようまとめておく。 事後学修：ウェビング、KJ法等の可視化技能を高めるよう自身で練習する。
8回	授業内容：「はなす・きく・かく・まとめる」（言語活動・技能の習得）。 事前学修：各科目において必須とされる技能について調べ、まとめる。 事後学修：本を数冊読み、その内容をウェビングで記す。
9回	授業内容：カリキュラム構成の方法（「ねらい」のある学習をつくる）。 事前学修：学習指導要領でカリキュラムマネジメントの箇所を読んでメモしておく。 事後学修：カリキュラム構成方法を応用して「ある学校」のプランをつくる。
10回	授業内容：シミュレーション学習、プロジェクト学習。 事前学修：学校数校のホームページ等をみてカリキュラム構成を確認しておく。 事後学修：自身の科目においてどのようにプロジェクト学習が組めるか構想する。
11回	授業内容：一時間の学習指導案を構成する。 事前学修：自身の科目ごとに自由に範囲を選び、授業を構想しておく。 事後学修：指導案（学習指導計画）を複数構想する（次回提出）。
12回	授業内容：学習実践のロールプレイ。 事前学修：一冊以上の本を読み「朝読書」指導案を考案する。 事後学修：既習のウェビング、カリキュラム、指導案を組み合わせ授業設計を行う。
13回	授業内容：ICT機器を活用した新しい学習法。 事前学修：メディア授業を試験しレポートを用意する。 事後学修：新しい時代のメディア教材や、その功罪についてレポートをまとめる。
14回	授業内容：教材研究・教育評価の方法。 事前学修：これまでの授業内容について、自身でまとめる（授業で使用する）。 事後学修：逆向きの設計から「自身の科目で習得する力」を設定。
15回	授業内容：「主体的・対話的で深い学び」の構成方法。 事前学修：最終講義の課題について、自身で資料を集め、まとめておく。 事後学修：様々な授業形態により授業をデザインできるようトレーニングを継続する。

◆**教科書** 〔当日資料配布〕

◆**参考書** 〔教材〕『教育の方法・技術論 T21700』通信教育教材（教材コード000341）  
学習指導要領

◆**成績評価基準** この授業の評価は、授業への参加（グループ学習含む）、提出物・課題、試験成績の総合的評価とする。出席状況の悪いもの、課題未提出の場合は評価を行わない。

◆**授業相談（連絡先）**：授業の前後の時間およびオフィスアワーでも質問を受け付けている。メールアドレスは授業時に知らせる。

**注意**

# 講座内容 (シラバス)

## [文化人類学]

服部 慶巨

◆**授業概要** 人間についての総合的研究—それが文化人類学である。グローバル化が進む現代において「自分とは異なる現象」と対峙することは、すなわち自分自身を知ることにもつながる。担当者が外務省より JENESYS プロジェクトの特別講師として海外の学生と接した経験を踏まえ、「文化」と「コミュニケーション」について語源的に理解する基礎を3日間で身に付けられるのが、本講義の目標である。

◆**学修到達目標** 「大学で学んだことは、日常で役に立たない」という声を聞くが、本当にそうだろうか？

そんな疑問と対峙しつつ、学問が自分の日常生活や人生の現在・過去・未来と密接に関わっていることを理解し、文化人類学的な視点で自分自身をとらえる技術を身につける。

◆**授業方法** 教科書・プリント・板書（パワーポイント）などを用い、受講生自身も陥りがちな問題点を指摘・解説する。必要に応じて視聴覚資料（CD、DVD、マンガ、その他）を多用する。また、学生に質問を投げかけ、対話とシミュレーションを展開しながら講義を進めていく。講義を単に「聴く」のではなく、講義に「参加」する意欲が求められる。なお、本授業の事前学修・事後学修の時間は、各2時間を目安とする。

◆**履修条件**

◆**授業計画** [各 90 分]

1回	授業内容：初日① 本スクーリングに関するガイダンス（講義の方針、展開方法、目標などを確認する） 事前学修：シラバスを読んで、講義の目的・目標を理解する。 事後学修：テキストの「もくじ」に目を通しておく。
2回	授業内容：初日② 「文化」の本質① culture の本来的な意味 事前学修：前回の講義内容を確認しておく。 事後学修：講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
3回	授業内容：初日③ 「文化」の本質② colere - cultus 事前学修：前回までの講義内容を確認しておく。 事後学修：講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
4回	授業内容：初日④ 「文化」の本質③ culture の構造と機能 事前学修：前回までの講義内容を確認しておく。 事後学修：講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
5回	授業内容：初日⑤ 「文化」の本質④ 文化変容 事前学修：前回までの講義内容を確認しておく。 事後学修：講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
6回	授業内容：2日目① 「コミュニケーション」の本質① 語源 事前学修：初日の講義内容を確認しておく。 事後学修：講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
7回	授業内容：2日目② 「コミュニケーション」の本質② 自文化中心主義と文化相対主義 事前学修：前回の講義内容を確認しておく。 事後学修：講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
8回	授業内容：2日目③ 「コミュニケーション」の本質③ Globalization 事前学修：前回までの講義内容を確認しておく。 事後学修：講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
9回	授業内容：2日目④ 「コミュニケーション」の本質④ Localization 事前学修：前回までの講義内容を確認しておく。 事後学修：講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
10回	授業内容：2日目⑤ 「コミュニケーション」の本質⑤ Glocalization 事前学修：前回までの講義内容を確認しておく。 事後学修：講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
11回	授業内容：最終日① フィールドワークの手法① 思考の枠組 事前学修：2日目の講義内容を確認しておく。 事後学修：講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
12回	授業内容：最終日② フィールドワークの手法② フィールドワークの必要性 事前学修：前回の講義内容を確認しておく。 事後学修：講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
13回	授業内容：最終日③ フィールドワークの手法③ フィールドワークの実際 事前学修：前回までの講義内容を確認しておく。 事後学修：講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
14回	授業内容：理解度確認（まとめ） 事前学修：これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。 事後学修：試験に向けて、これまでの講義内容を復習しておく。
15回	授業内容：試験および解説 事前学修：これまでの講義内容について、テキストやノート、資料を読んで、自身でまとめておく。 事後学修：今後の受講、または日常生活改善に向けて、講義内容を再確認する。

◆**教科書** ①【文化人類学 Y 21300】通信教育教材（教材コード 000424）

②【補強版ストレス・スパイラル】服部慶巨 人間の科学社

（他の講座などでこの本を手済みの人は、それを使います。なお、再販時期が未定のため、未入手の人には後日指示します）

◆**参考書** ①【当日資料配布】必要に応じてプリント配布

◆**成績評価基準** 終講試験（70%）、授業参加度（20%）、レポート類（10%）で評価する。なお、全講義回数の3分の2以上の出席が原則（公欠などは申し出ること）。

◆**授業相談（連絡先）**：講義の前後、および hattori.yoshinobu11@nihon-u.ac.jp にて

### 注意

# 講座内容（シラバス）

## 〔総合科目（自主創造の基礎1）〕

鍋本 由徳

◆**授業概要** 「自主創造の基礎1」では、大学生としての基本的な資質を育成することをねらいとした、日本大学全ての学部で実施する共通科目として設定されました。この科目は、各学部・学科専攻の専門教育の前提となる基礎教育ではなく、社会人として学修することの意義やその在り方について理解できるようになること、「学び続けていく力」をつけるために設けられました。日本大学では、それを「自主創造型パーソン」と呼称しています。「自主創造型パーソン」を実現するために必要な知識・技能・姿勢を、グループ活動を通じて学びます。

◆**学修到達目標** 一般目標：日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して理解し、グループの一員として課題に取り組む能力を身に付ける。  
行動目標：①「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を説明できる、②予習の内容をもとにグループ討議で論理的・批判的に意見を述べ、解決策を討議できる、③コミュニケーションを通じて相互理解、相手を尊重できる、④自己・他者の評価をもとに振り返りができる、⑤効果的なプレゼンテーションができる。

◆**授業方法** 事前に指示された課題に取り組んで受講してください。授業では、講義形式のほか、アクティブ・ラーニングの形態を進めます。双方向かつ対話型でおこなう「学生参加型」ですので、受け身ではない能動的な活動となります。基本的には「個人ワーク」、「グループワーク」、「発表・共有」を繰り返します。初日午前中に1グループ4～5名を想定したグループ分けをします。欠席の受講生がいるとグループが成立せず、以後の学修が進められず、3日間全体の進行に影響が出ます。受講する場合は、必ず全ての授業に出席してください。

◆**履修条件** 以前に、「総合科目Ⅰ～Ⅳ」を「自主創造の基礎1」の内容で単位修得した人は、担当者・授業計画の異同を問わず、受講することはできません。

### ◆授業計画（各90分）

1回	授業内容：スタートアップ（この授業のねらい・展開・到達点） 事前学修：シラバスを熟読し、本講義の目的と授業展開をあらかじめ理解しておく。 事後学修：配付資料を読み直し、本講義での受講目的を再度確認する。
2回	授業内容：コミュニケーションの基本要素 事前学修：コミュニケーション力についての自己評価をまとめておく。 事後学修：配付資料とノート、当日の作業を振り返り、再度、自己評価する。
3回	授業内容：大学で学ぶとは 一日本大学とは一 事前学修：事前に指定されたメディアを視聴し、内容を把握しておく。 事後学修：配付資料とノートを読み直し、本講義の内容を振り返る。
4回	授業内容：大学で学ぶとは 一日本大学の通信教育部のあゆみ一 事前学修：事前に配付された資料を読み、概要を把握しておく。 事後学修：配付資料とノートを読み直し、本講義の内容を振り返る。
5回	授業内容：大学での学修で必要なこと 事前学修：[Learning Guide]を熟読しておく。 事後学修：大学での学修とは何かを改めて振り返り、用語の再確認をする。
6回	授業内容：大学での学修で必要なこと 一通信教育部での学修一 事前学修：[学修要覧]を熟読しておく。 事後学修：通信教育部独自の学び方を再確認し、自身の今後の学び方を考える。
7回	授業内容：図書館の効果的な利用と情報収集 事前学修：事前に配付された資料を読み、概要を把握しておく。 事後学修：配付資料とノートを読み直し、学んだ内容を実践する。
8回	授業内容：情報収集と整理・編集 一ノートテイク一 事前学修：過去の講義ノートをみて、自身のノートテイクの特徴を把握しておく。 事後学修：当日の講義ノート、過去の講義ノートを比較しながら、改善策を考える。
9回	授業内容：論理的な文章を書く 一文章を要約すること一 事前学修：事前に配付された資料を読み、事前課題に取り組んでおく。 事後学修：当日の講義をふまえて、事前課題をやり直し、練度を上げる。
10回	授業内容：レポート作成の基礎 一アウトラインの作成一 事前学修：事前に配付された資料を読み、レポート（または論文）の基本ルールを把握しておく。 事後学修：当日の自己点検をふまえて、再度レポートを書き直し、修正していく。
11回	授業内容：プレゼンテーションの方法 一発表の準備一 事前学修：事前に配付された資料を読み、プレゼン資料作成の基本ルールを把握しておく。 事後学修：自身が作成したプレゼン案を振り返り、より効果的な方法を考える。
12回	授業内容：グループ内プレゼンテーション 一発表の練習一 事前学修：事前に配付された資料を読み、「話す」時の基本姿勢を把握しておく。 事後学修：他者の評価を踏まえて、より効果的な話し方について考える。
13回	授業内容：グループワーク 一テーマの決定と討論一 事前学修：これまでに学んだ「学びの方法」を復習しておく。 事後学修：討論した結果を整理しておく。
14回	授業内容：グループワーク 一討論と準備一 事前学修：プレゼン準備に必要なものは何かをまとめておく。 事後学修：作成した準備資料をもとに、作成資料の成果と課題を考える。
15回	授業内容：成果の発表 一プレゼンテーション一 事前学修：自身に与えられた役割について、何ができるか、何をすべきかを考える。 事後学修：講義全体を振り返り、今後の自身の目標や学修方針を改めて考える。

◆**教科書** **事前資料配布** 事前作業する課題を記した用紙を送付します。  
**当日資料配布** 毎時間、作業シートを配付します。

◆**参考書** **当日資料配布** 授業中に適宜紹介します。

◆**成績評価基準** 課題設定、問題探究、グループ内における議論、成果のまとめなどを総合的に判断して評価を行います。事前学修での提出物（30%）、当日の作業シートやプロダクト・報告（50%）、相互評価や授業参画度（20%）で評価します。なお、全回出席を100%の評価の前提とします。

◆**授業相談（連絡先）**：開講時に指示します。

**注意**



# 講座内容 (シラバス)

〔英語〕

山下 登子

◆**授業概要** 英語学習に必要な4技能(聞く・読む・話す・書く)の総合的な向上を目指し、実際に日常生活で英語を活用できるようになることを目標とする。語彙力や文法事項などを演習形式で学ぶことで、英語学習の基礎作りを行う場となるように努める。

◆**学修到達目標** 英語学習において基礎となる語彙力と文法力を見直し、4技能の総合的な習得向上につなげることができる。

◆**授業方法** 初日にグループ分けを行い、グループ活動を中心とした演習形式である。単語や文法事項を確認した上で、グループで練習問題の答えあわせ・読み合わせ・板書・発表を行う。授業時に問題点を確認できるように、また円滑にグループ活動ができるように、必ず予習を行うこと。学習範囲は Unit 8～14 です。

◆**履修条件**

◆**授業計画**〔各 90 分〕

1回	授業内容	ガイダンス・授業の進め方について・グループ分け
	事前学修	教材の学習範囲の中で、発音や意味の分からない単語を確認し調べておく。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、確認しておく。配布資料を読み不明な点がないか理解を深める。
2回	授業内容	・単語の学習 ・Unit 8 (修飾 [3] 接触節) ※学習 Unit は順番が前後したり、レポート課題にすることもあります。
	事前学修	教材の学習範囲の中で、発音や意味の分からない単語を確認し調べておく。教科書の [Practice] と [Let's read] の問題は分かる範囲で解いておく。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、確認しておく。配布資料を読み不明な点がないか理解を深める。
3回	授業内容	・単語の学習 ・Unit 8 (修飾 [3] 接触節)
	事前学修	教材の学習範囲の中で、発音や意味の分からない単語を確認し調べておく。教科書の [Practice] と [Let's read] の問題は分かる範囲で解いておく。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、確認しておく。配布資料を読み不明な点がないか理解を深める。
4回	授業内容	・単語の学習 ・Unit 9 (関係詞節 [1] 関係代名詞)
	事前学修	教材の学習範囲の中で、発音や意味の分からない単語を確認し調べておく。教科書の [Practice] と [Let's read] の問題は分かる範囲で解いておく。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、確認しておく。配布資料を読み不明な点がないか理解を深める。
5回	授業内容	・単語の学習 ・Unit 9 (関係詞節 [1] 関係代名詞)
	事前学修	教材の学習範囲の中で、発音や意味の分からない単語を確認し調べておく。教科書の [Practice] と [Let's read] の問題は分かる範囲で解いておく。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、確認しておく。配布資料を読み不明な点がないか理解を深める。
6回	授業内容	・単語の学習 ・Unit 10 (関係詞節 [2] 関係副詞)
	事前学修	教材の学習範囲の中で、発音や意味の分からない単語を確認し調べておく。教科書の [Practice] と [Let's read] の問題は分かる範囲で解いておく。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、確認しておく。配布資料を読み不明な点がないか理解を深める。
7回	授業内容	・単語の学習 ・Unit 10 (関係詞節 [2] 関係副詞)
	事前学修	教材の学習範囲の中で、発音や意味の分からない単語を確認し調べておく。教科書の [Practice] と [Let's read] の問題は分かる範囲で解いておく。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、確認しておく。配布資料を読み不明な点がないか理解を深める。
8回	授業内容	・単語の学習 ・Unit 11 (比較)
	事前学修	教材の学習範囲の中で、発音や意味の分からない単語を確認し調べておく。教科書の [Practice] と [Let's read] の問題は分かる範囲で解いておく。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、確認しておく。配布資料を読み不明な点がないか理解を深める。
9回	授業内容	・単語の学習 ・Unit 11 (比較)
	事前学修	教材の学習範囲の中で、発音や意味の分からない単語を確認し調べておく。教科書の [Practice] と [Let's read] の問題は分かる範囲で解いておく。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、確認しておく。配布資料を読み不明な点がないか理解を深める。
10回	授業内容	・単語の学習 ・Unit 12 (助動詞)
	事前学修	教材の学習範囲の中で、発音や意味の分からない単語を確認し調べておく。教科書の [Practice] と [Let's read] の問題は分かる範囲で解いておく。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、確認しておく。配布資料を読み不明な点がないか理解を深める。
11回	授業内容	・単語の学習 ・Unit 12 (助動詞)
	事前学修	教材の学習範囲の中で、発音や意味の分からない単語を確認し調べておく。教科書の [Practice] と [Let's read] の問題は分かる範囲で解いておく。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、確認しておく。配布資料を読み不明な点がないか理解を深める。
12回	授業内容	Unit 13 (条件節/仮定法 [1])
	事前学修	教材の学習範囲の中で、発音や意味の分からない単語を確認し調べておく。教科書の [Practice] と [Let's read] の問題は分かる範囲で解いておく。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、確認しておく。配布資料を読み不明な点がないか理解を深める。
13回	授業内容	Unit 14 (仮定法 [2])
	事前学修	教材の学習範囲の中で、発音や意味の分からない単語を確認し調べておく。教科書の [Practice] と [Let's read] の問題は分かる範囲で解いておく。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、確認しておく。配布資料を読み不明な点がないか理解を深める。
14回	授業内容	発音テスト (グループごとにあらかじめ分担した箇所を音読する)
	事前学修	教材の学習範囲の中で、発音や意味の分からない単語を確認し調べておく。教科書の [Practice] と [Let's read] の問題は分かる範囲で解いておく。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、確認しておく。配布資料を読み不明な点がないか理解を深める。
15回	授業内容	試験及び質問・解説
	事前学修	学習した範囲全体の復習をし、分からない点がないか確認をする。
	事後学修	授業の内容及び試験の内容を確認し、間違えた点や分からなかった点を中心に何回か復習をする。

◆**教科書** 丸沼『English Quest-Plus [New Edition]』酒井志延ほか著 桐原書店

◆**参考書** 丸沼 中型以上の英和辞書 (電子辞書)

◆**成績評価基準** 予習・発表・グループワーク・発音テスト (50%)、試験 (50%)。毎回出席することを前提として評価する。

◆**授業相談 (連絡先)**: 初回授業時に伝える。

**注意**

# 講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔英語〕

齊藤 雄介

◆**授業概要** 本科目では、TOEICのReading Partを題材として基本的な英文法を学ぶことを目標とします。基本的な英文法を理解することは、英語の技能を全体的に向上させることにつながります。

◆**学修到達目標** 英語の基本的な文法を習得することを目標とします。

◆**授業方法** 受講者には一人一問ずつ問題に解答し、その英文の意味を考えてもらいます。ただし、受講者の力量に応じて授業方法を若干変更する可能性があります。

### ◆授業計画〔各90分〕

1回	授業内容：名詞：英語の名詞には可算名詞と不可算名詞があり、それらの差異について説明し、その区別について学びます。 事前学修：テキストのFile 1の部分に解答しておくこと 事後学修：授業の内容をノートに整理し、該当箇所の解答及び内容を確認し、理解すること
2回	授業内容：代名詞：英語の代名詞を扱い、それらが文中の何を受けているのかを見分けることを学びます。 事前学修：テキストのFile 2の部分に解答しておくこと 事後学修：授業の内容をノートに整理し、該当箇所の解答及び内容を確認し、理解すること
3回	授業内容：動詞：英語の動詞の時制について学びます。 事前学修：テキストのFile 3の部分に解答しておくこと 事後学修：授業の内容をノートに整理し、該当箇所の解答及び内容を確認し、理解すること
4回	授業内容：動詞句：主に動詞を用いた熟語表現について学びます。固定表現を覚えましょう。 事前学修：テキストのFile 4の部分に解答しておくこと 事後学修：授業の内容をノートに整理し、該当箇所の解答及び内容を確認し、理解すること
5回	授業内容：助動詞：一語の助動詞だけではなく2語以上のもも扱い、それぞれがどのような場合に使用されるのかを学びます。 事前学修：テキストのFile 5の部分に解答しておくこと 事後学修：授業の内容をノートに整理し、該当箇所の解答及び内容を確認し、理解すること
6回	授業内容：時制：今回は英語の相について学びます。過去形と完了形の区別を中心に取り上げます。 事前学修：テキストのFile 6の部分に解答しておくこと 事後学修：授業の内容をノートに整理し、該当箇所の解答及び内容を確認し、理解すること
7回	授業内容：冠詞：日本人には特に難関であると言われる冠詞について学びます。aとtheの区別について考えましょう。 事前学修：テキストのFile 7の部分に解答しておくこと 事後学修：授業の内容をノートに整理し、該当箇所の解答及び内容を確認し、理解すること
8回	授業内容：関係詞：英語の関係代名詞を扱い、先行氏と関係代名詞の格について学びます。 事前学修：テキストのFile 8の部分に解答しておくこと 事後学修：授業の内容をノートに整理し、該当箇所の解答及び内容を確認し、理解すること
9回	授業内容：不定詞と動名詞：一見同じに見える不定詞と動名詞の用法もありますが、それらには差異があります。今回は不定と動名詞の用法の差異について学んでいきます。 事前学修：テキストのFile 9の部分に解答しておくこと 事後学修：授業の内容をノートに整理し、該当箇所の解答及び内容を確認し、理解すること
10回	授業内容：受動態：日本語と同様であるかに見える英語の受動態の特徴について学びます。 事前学修：テキストのFile 10の部分に解答しておくこと 事後学修：授業の内容をノートに整理し、該当箇所の解答及び内容を確認し、理解すること
11回	授業内容：分詞：今回は現在分詞と過去分詞の特性について学びます。 事前学修：テキストのFile 11の部分に解答しておくこと 事後学修：授業の内容をノートに整理し、該当箇所の解答及び内容を確認し、理解すること
12回	授業内容：分詞構文：現在分詞を用いる分詞構文の様々な用法について学びます。 事前学修：テキストのFile 12の部分に解答しておくこと 事後学修：授業の内容をノートに整理し、該当箇所の解答及び内容を確認し、理解すること
13回	授業内容：名詞節：文において主語や補語になることのできるthat節を用いた表現について学びます。 事前学修：テキストのFile 13の部分に解答しておくこと 事後学修：授業の内容をノートに整理し、該当箇所の解答及び内容を確認し、理解すること
14回	授業内容：形容詞：同じ意味になる形容詞の使い分けを中心に、英語の形容詞について学んでいきます。 事前学修：テキストのFile 14の部分に解答しておくこと 事後学修：授業の内容をノートに整理し、該当箇所の解答及び内容を確認し、理解すること
15回	授業内容：学習内容のまとめ及び最終試験 事前学修：File 1からFile 14までの内容を復習しておくこと 事後学修：授業の内容をノートに整理し、該当箇所の解答及び内容を確認し、理解すること

◆**教科書** 汎用『Basic Reading for the TOEIC test』 Makoto Hayasawa・Laura MacGregor・Akio Yamamoto・Mami Okazaki・Kazuo Nakajima SEIBIDO 2004

◆**参考書** 英和辞典を持参してください。

◆**成績評価基準** 授業参加度（10%）、最終試験（90%）\*毎回出席していることを前提に評価します。

### 注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

# 講座内容 (シラバス)

## 〔民法V〕

矢田 尚子

- ◆**授業概要** この講義では、民法の中でも親族・相続（家族法）とよばれる分野を学習します。ここで扱う内容は、身近な法律問題ではありながら、検討すべき事柄の多い領域でもあります。そこで、この講義では、生殖補助医療・児童虐待・無戸籍児、事実婚といった新たなトピックにも言及するとともに、先ごろ大改正のあった改正相続法の内容を丁寧に解説し、わが国の家族の「今」について、皆さんと共に考えていきたいと思えます。
- ◆**学習到達目標** この講義では、民法の中でも親族・相続（家族法）とよばれる分野の基礎的・体系的な理解を身につけてもらうことを目的としています。具体的には、家族法の基礎的概念を正確に知り、説明することができることを到達目標とします。
- ◆**授業方法** 基本的には、レジュメを配布し、講義形式で進めていきます。講義に対する質問については、リアクションペーパーに記入してください。次の授業で回答します。  
なお、本講義の事前学修・事後学修の時間は各2時間を目安としています。

### ◆履修条件

### ◆授業計画〔各90分〕

1回	授業内容	オリエンテーション、家族法とは何か？ 親族法総論について扱います。家族法の意義と構成、親族・相続法の沿革や基本原則、さらに親族の範囲、親族関係の変動・効果、氏と戸籍といった基本的な事柄について学んでいきます。
	事前学修	テキストを購入し、目次に目を通すとともに、テキストの序論、第一章を読んでおくこと
	事後学修	テキストの該当部分と配布資料を読んで、授業内容を確認し、理解しておくこと
2回	授業内容	夫婦関係(1) 婚姻の成立、婚姻の一般的効果、財産的效果について解説していきます。
	事前学修	テキストの第2章(1-5)をよんでおくこと
	事後学修	テキストの該当部分と配布資料を読んで、授業内容を確認し、理解しておくこと
3回	授業内容	夫婦関係(2) 離婚の成立、効果について学んでいきます。
	事前学修	テキストの第2章(5-9)をよんでおくこと
	事後学修	テキストの該当部分と配布資料を読んで、授業内容を確認するとともに、理解を深めておくこと
4回	授業内容	婚外関係(婚約、内縁・事実婚)、無戸籍児問題など、最近、問題となっているテーマについて考えていきます。
	事前学修	テキストの第2章をよんでおくこと
	事後学修	テキストの該当部分と配布資料を読んで、授業内容を確認するとともに、夫婦関係全般の復習をし、理解を深めておくこと
5回	授業内容	親子関係(1) 実親子関係 実子の意義、嫡出子とは何かについて解説していきます。
	事前学修	テキストの第3章(1,2)をよんでおくこと
	事後学修	テキストの該当部分と配布資料を読んで、授業内容を整理・確認し、理解しておくこと
6回	授業内容	親子関係(2) 非嫡出子・準正、認知などについて扱います。
	事前学修	テキストの第3章(1,2)をよんでおくこと
	事後学修	テキストの該当部分と配布資料を読んで、授業内容を整理・確認し、理解しておくこと
7回	授業内容	親子関係(3) 養親子関係 養子の意義、特別養子制度についてみていきます。
	事前学修	テキストの第3章(3)をよんでおくこと
	事後学修	テキストの該当部分と配布資料を読んで、授業内容を復習し、理解を深めること
8回	授業内容	親子関係(4) 親権、児童虐待、生殖補助医療について解説するとともに、親子関係全般の復習をしていきます。
	事前学修	テキストの第4章をよんでおくこと
	事後学修	テキストの該当部分と配布資料を読んで、授業内容を確認するとともに、親子関係全般の復習をし、理解を深めておくこと
9回	授業内容	後見、保佐及び補助、扶養について解説するとともに、高齢者にまつわる最近の法的課題について考えていきます。
	事前学修	テキストの第5章、第6章、第7章をよんでおくこと
	事後学修	テキストの該当部分と配布資料を読んで、授業内容を確認し、理解しておくこと
10回	授業内容	相続法総論 改正相続法の概要について説明するとともに、相続法を学ぶ上で必須となる基礎的概念、基本用語について解説します。
	事前学修	テキストの第8章、第9章をよんでおくこと
	事後学修	テキストの該当部分と配布資料を読んで、授業内容を確認し、理解しておくこと
11回	授業内容	相続人と相続分について広く扱います。
	事前学修	テキストの第10章、第11章(1-3)をよんでおくこと
	事後学修	テキストの該当部分と配布資料を読んで、授業内容を確認し、理解しておくこと
12回	授業内容	配偶者居住権、寄与分、相続の効果、遺産分割といった、改正相続法の中でも重要な改正点について解説していきます。
	事前学修	テキストの第11章をよんでおくこと
	事後学修	テキストの該当部分と配布資料を読んで、授業内容を確認し、理解しておくこと
13回	授業内容	相続の承認・放棄、財産分離、相続人の不存在について解説するとともに、法定相続全般について復習します。
	事前学修	テキストの第12章、第13章、第14章をよんでおくこと
	事後学修	テキストの該当部分と配布資料を読んで、授業内容を確認し、理解しておくこと
14回	授業内容	改正相続法の中でも、重要な改正点のあった遺言・遺留分について解説していきます。
	事前学修	テキストの第15章、第16章をよんでおくこと
	事後学修	テキストの該当部分と配布資料を読んで、授業内容を確認し、理解するとともに、試験の準備をしておくこと
15回	授業内容	試験及び解説を行います。
	事前学修	テキスト及び配布資料を参考に、復習しておくこと
	事後学修	講義で十分に扱えなかったテキストの該当箇所を読み返しておくこと

- ◆**教科書** 丸沼『ユーリカ民法5 親族・相続』小川 富之編 法律文化社 2019年  
[当日資料配布]

- ◆**参考書** 特になし

- ◆**成績評価基準** 試験(100%)。毎回出席することを前提として評価します。

- ◆**授業相談(連絡先)**：初回授業時に案内します。

### 注意

# 講座内容（シラバス）

## 〔行政法Ⅰ〕

西原 雄二

- ◆**授業概要** 本授業では、行政法の理論や制度に関する基本的な知識や考え方について、重要な問題を取り上げながら、簡潔に説明する。国民にとって身近で重要な法律の1つである「行政法」に興味・関心を持ってもらえるようにする。
- ◆**学習到達目標** 行政法の全体像と主要な諸問題について学び、この授業を通じて行政法の基本構造、行政組織、行政活動等に関する主要な概念や論点を説明できるようになる。
- ◆**授業方法** 講義形式を基本とするが、適宜、質疑応答を行う。板書しながら、解説する。本授業の事前学修・事後学修の時間は、各2時間を目安としている。
- ◆**履修条件**
- ◆**授業計画**〔各90分〕

1回	<b>授業内容</b> ガイダンス（授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法等についてガイダンスを行った後、行政法の概要について学修する。） <b>事前学修</b> 教科書を事前にざっと目を通しておくこと。 <b>事後学修</b> 教科書を通して、これから学ぶことを確認すること。
2回	<b>授業内容</b> 行政法とは何か <b>事前学修</b> 教科書の該当箇所をよく読んでおくこと。 <b>事後学修</b> 授業内容を教科書とつき合わせて、さらに理解を深めること。
3回	<b>授業内容</b> 行政と法 <b>事前学修</b> 教科書の該当箇所をよく読んでおくこと。 <b>事後学修</b> 授業内容を教科書とつき合わせて、さらに理解を深めること。
4回	<b>授業内容</b> 行政法の法源 <b>事前学修</b> 教科書の該当箇所をよく読んでおくこと。 <b>事後学修</b> 授業内容を教科書とつき合わせて、さらに理解を深めること。
5回	<b>授業内容</b> 法律による行政の原理 <b>事前学修</b> 教科書の該当箇所をよく読んでおくこと。 <b>事後学修</b> 授業内容を教科書とつき合わせて、さらに理解を深めること。
6回	<b>授業内容</b> 行政活動の担い手 <b>事前学修</b> 教科書の該当箇所をよく読んでおくこと。 <b>事後学修</b> 授業内容を教科書とつき合わせて、さらに理解を深めること。
7回	<b>授業内容</b> 行政行為 <b>事前学修</b> 教科書の該当箇所をよく読んでおくこと。 <b>事後学修</b> 授業内容を教科書とつき合わせて、さらに理解を深めること。
8回	<b>授業内容</b> 行政裁量 <b>事前学修</b> 教科書の該当箇所をよく読んでおくこと。 <b>事後学修</b> 授業内容を教科書とつき合わせて、さらに理解を深めること。
9回	<b>授業内容</b> 行政立法 <b>事前学修</b> 教科書の該当箇所をよく読んでおくこと。 <b>事後学修</b> 授業内容を教科書とつき合わせて、さらに理解を深めること。
10回	<b>授業内容</b> 行政計画 <b>事前学修</b> 教科書の該当箇所をよく読んでおくこと。 <b>事後学修</b> 授業内容を教科書とつき合わせて、さらに理解を深めること。
11回	<b>授業内容</b> 行政指導 <b>事前学修</b> 教科書の該当箇所をよく読んでおくこと。 <b>事後学修</b> 授業内容を教科書とつき合わせて、さらに理解を深めること。
12回	<b>授業内容</b> 行政契約 <b>事前学修</b> 教科書の該当箇所をよく読んでおくこと。 <b>事後学修</b> 授業内容を教科書とつき合わせて、さらに理解を深めること。
13回	<b>授業内容</b> 行政上の義務履行の確保 <b>事前学修</b> 教科書の該当箇所をよく読んでおくこと。 <b>事後学修</b> 授業内容を教科書とつき合わせて、さらに理解を深めること。
14回	<b>授業内容</b> 行政救済 <b>事前学修</b> 教科書の該当箇所をよく読んでおくこと。 <b>事後学修</b> 授業内容を教科書とつき合わせて、さらに理解を深めること。
15回	<b>授業内容</b> 試験及び解説 <b>事前学修</b> これまで授業で学んだ内容を復習しておくこと。 <b>事後学修</b> 授業内容を再確認すること。

- ◆**教科書** 瓦沼『行政法（第3版）』池村正道編 弘文堂 2017年
- ◆**参考書** 授業中に紹介する。
- ◆**成績評価基準** 授業内テスト（80%）と授業参画度（20%）により総合的に評価する。
- ◆**授業相談（連絡先）**：初回授業時に案内する。

注意

# 講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔税法〕

本村 大輔

◆**授業概要** 昨今、我が国の税制は、経済の多様化とグローバル化により、めまぐるしく変化しています。この変化は、毎年の税制改正として現れ、我々納税義務者をとりまく環境は絶えず変化し、複雑化しています。ただ、税法の基礎理論や納税者の権利は、いかに経済社会が複雑化しようとも変化することはありません。そこで、本講義では、我が国が抱える税法問題を考え、税法の基礎理論を学習していきます。

◆**学修到達目標** 税法に関する具体的問題を考えながら、税法の基礎理論の修得を目指します。つまり、我が国が抱える税法の問題を理解した上で、問題の解決にどのようにアプローチできるのかを考えます。そこで、講義においては、各人が税法に関する問題を理解し、判断できるだけの基本的知識および考え方の修得を目指します。

◆**授業方法** 授業は、基本的に講義形式で行います。講義内容は、税に関する基礎知識の整理、税法をめぐる具体的問題について学習していきます。また、授業内で税法の問題に関する質問をしますので、回答はリアクション・ペーパーに記載していただきます。

### ◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容 事前学修 事後学修	ガイダンス・発展する現代社会と税法学の接点 我が国の税財政の課題を確認し、我が国が抱える税法問題を考える。 財務省のHPを確認し、我が国の税財政状況や税制改正の現状について事前に調べておくこと。 授業で配布した資料を復習しておくこと。
2回	授業内容 事前学修 事後学修	ビジネスモデルの発展と我が国の税制—シェアリングビジネスを題材として— IT技術の発達に伴うビジネスモデル発展に対して、我が国の税制と課税取扱いの問題を考察する。 インターネット等を利用し、シェアリングビジネスについて事前に調査しておくこと。 授業で配布した資料を復習しておくこと。
3回	授業内容 事前学修 事後学修	税法学の特質—税法学と隣接法学との関係および法認識論と法実践論の異同— 税法と隣接する近接する法領域すなわち行政法や民法ひいては財政学との関係を考察することにより、税法学の多角的検討の必要性を学ぶ。 教科書の該当箇所を熟読しておくこと。 法認識論と法実践論の違いをしっかりと理解した上で、税法学のあり方を考えること。
4回	授業内容 事前学修 事後学修	「租税」の法的概念(1)理論的背景 我が国の基本的税法に「租税」を定義した規定は存在しない。そこで、「租税」の従来の定義と日本国憲法下における定義とに分け、「租税」の特質について検討する。 教科書の該当箇所を熟読しておくこと。 教科書を読みながら、「租税」の要素をまとめておくこと。
5回	授業内容 事前学修 事後学修	「租税」の法的概念(2)事例研究 「租税」の定義に関わる裁判例を確認し、その定義づけの重要性を考察する。 教科書の該当箇所を熟読しておくこと。 裁判平成18年3月1日民集60巻2号587頁の論点を確認し、判示内容を理解しておくこと。
6回	授業内容 事前学修 事後学修	租税法律主義(1)—租税法律主義の憲法規定— 明治憲法と日本国憲法との異同に触れつつ、租税法律主義が導かれる憲法上の根拠を確認する。 教科書の該当箇所を熟読しておくこと。 日本国憲法が何故に税に関する規定を二つに分けているのかを確認し、授業内容をノートまとめておくこと。
7回	授業内容 事前学修 事後学修	租税法律主義(2)—租税法律主義の法理とその基本的機能— 租税法律主義における法理的要請について確認、検討を加えていく。 教科書の該当箇所を熟読しておくこと。 租税法律主義の法理的要請は、税法の基本的問題を理解する上で極めて重要であるので教科書及び授業内容をしっかりとノートにまとめておくこと。
8回	授業内容 事前学修 事後学修	租税法律主義(3)—基本的道具概念としての租税法律主義— 人々の経済社会が多様化し、税制が複雑化する中で、租税法律主義はどのような役割を有するのか、租税法律主義の現代的展開を検討する。 教科書の該当箇所を熟読しておくこと。 租税法律主義の役割は、税法の基本的問題を理解する上で極めて重要であるので、前回の授業内容も含めて教科書及び授業内容をしっかりとノートにまとめておくこと。
9回	授業内容 事前学修 事後学修	租税法律主義(4)事例研究—応用的法実践論— 租税法規不遡及の原則にかかる裁判例の法的問題を検討する。 授業で配布した資料を熟読し、裁判例の論点を確認しておくこと。 裁判例の論点を再確認し、憲法84条の意義をしっかりと理解しておくこと。
10回	授業内容 事前学修 事後学修	本来的租税条例主義—地方税の基礎原理とはなにか— 地方自治体の課税権にかかる基本原理を確認し、地方税法をめぐる問題を考察する。 教科書の該当箇所を熟読しておくこと（合わせて教科書の21章も読んでおくこと）。 教科書の該当箇所を読み、ノートを整理しておくこと。
11回	授業内容 事前学修 事後学修	実質課税の原則—実質課税の原則の指向とその虚構性— 実質課税の原則を租税法律主義の観点から検討することにより、現行法下で成立しうるのかを確認する。 教科書の該当箇所を熟読しておくこと。 教科書の該当箇所を読み、ノートを整理しておくこと。
12回	授業内容 事前学修 事後学修	租税回避行為とは何か—節税行為と脱税行為との違い— 租税回避行為の定義および要件を確認した上で、節税・脱税行為との異同を確認する。 教科書の該当箇所を熟読しておくこと。 租税回避行為の定義およびその問題点をまとめて、節税行為と脱税行為との違いを理解しておくこと。
13回	授業内容 事前学修 事後学修	国際的租税回避と何か—巨大IT企業の国際的租税回避とデジタル課税— 巨大IT企業は、インターネット上のプラットフォームを活用し世界中にサービスを提供する一方、新たな課税問題を創出している。このような現状に対して、どのような課税論が展開できるのかについて検討する。 インターネット等を利用し、巨大IT企業の国際的租税回避行為の手段につき調査しておくこと。 授業時に配布した資料を熟読し、理解しておくこと。
14回	授業内容 事前学修 事後学修	理解度の確認およびまとめ これまでの授業内容を復習し、各論点ごとのポイントをノートに整理しておくこと。 各論点と税法理論の結びつきを教科書とノートを使用し、再確認しておくこと。
15回	授業内容 事前学修 事後学修	試験及び解説 これまでの論点ごとのポイントを復習しておくこと。 税法理論と裁判例を相互的に復習し、税法に係る問題にどのようにアプローチするか考える。

◆**教科書** 〔税〕「税法 K31500」 通信教育教材（教材コード000410）

◆**参考書** 〔租〕「納税者の権利」 北野弘久 岩波新書 1981年  
〔現〕「現代税法入門塾」 石村耕治編 第10版 清文社 2020年4月刊行予定  
〔判〕「租税判例百選」 中里実ほか編 第6版 有斐閣 2016年

◆**成績評価基準** 成績の評価は、授業の最後に行う論述試験（80%）、これに平常点（20%）を加味します。なお、平常点は、リアクションペーパーが評価対象です。論述試験については、テキスト・自筆のノート・配布資料の持ち込みを許可します。当然、電子機器等の持ち込みは認められません。

### 注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

# 講座内容（シラバス）

## 〔法哲学〕

高須 則行

◆**授業概要** 法哲学とは、法を対象として、全体的、根源的に考察するものとされる。今回の講義は、法哲学のひとつの研究領域である法的価値論（正義論）を対象として、それがどのような事柄であるかを、いくつかの具体的事例を取り上げて解説しようとする。

◆**学修到達目標** ①正義の概念について理解し、説明することができる。

②ラードブルフの価値相対主義を理解し、説明することができる。

③ベンサム・ミルの功利主義を理解し、説明することができる。

④ロールズの公正としての正義を理解し、説明することができる。

⑤リバタリアニズムの正義論を理解し、説明することができる。

⑥共同体論の正義論を理解し、説明することができる。

◆**授業方法** 講義形式で行いますが、その都度、受講生の皆さんに質問し、自らの考えを述べてもらいたいと思っています。そのような双方向の授業を心掛けていきたいと思っています。

受講者の人数にもよりますが、ゼミ形式で授業を進めることも考えています。

◆**履修条件**

◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容：法哲学へのいざない 事前学修：資料の該当部分参照 事後学修：授業の内容をノートに整理し、授業内容を確認し理解しておくこと。
2回	授業内容：社会規範と法 事前学修：資料の該当部分参照 事後学修：授業の内容をノートに整理し、授業内容を確認し理解しておくこと。
3回	授業内容：法的思考：正義との関係性 事前学修：資料の該当部分参照 事後学修：授業の内容をノートに整理し、授業内容を確認し理解しておくこと。
4回	授業内容：実定法と自然法 事前学修：資料の該当部分参照 事後学修：授業の内容をノートに整理し、授業内容を確認し理解しておくこと。
5回	授業内容：正義の種類 事前学修：資料の該当部分参照 事後学修：授業の内容をノートに整理し、授業内容を確認し理解しておくこと。
6回	授業内容：ラードブルフの価値相対主義 事前学修：資料の該当部分参照 事後学修：授業の内容をノートに整理し、授業内容を確認し理解しておくこと。
7回	授業内容：古典的功利主義 事前学修：資料の該当部分参照 事後学修：授業の内容をノートに整理し、授業内容を確認し理解しておくこと。
8回	授業内容：現代的功利主義 事前学修：資料の該当部分参照 事後学修：授業の内容をノートに整理し、授業内容を確認し理解しておくこと。
9回	授業内容：ロールズの公正としての正義論(1)：功利主義批判 事前学修：資料の該当部分参照 事後学修：授業の内容をノートに整理し、授業内容を確認し理解しておくこと。
10回	授業内容：ロールズの公正としての正義論(2)：原初状態と無知のヴェール 事前学修：資料の該当部分参照 事後学修：授業の内容をノートに整理し、授業内容を確認し理解しておくこと。
11回	授業内容：ロールズの公正としての正義論(3)：正義の2原理 事前学修：資料の該当部分参照 事後学修：授業の内容をノートに整理し、授業内容を確認し理解しておくこと。
12回	授業内容：ドゥオーキンの正義論 事前学修：資料の該当部分参照 事後学修：授業の内容をノートに整理し、授業内容を確認し理解しておくこと。
13回	授業内容：リバタリアニズム 事前学修：資料の該当部分参照 事後学修：授業の内容をノートに整理し、授業内容を確認し理解しておくこと。
14回	授業内容：共同体論 事前学修：資料の該当部分参照 事後学修：授業の内容をノートに整理し、授業内容を確認し理解しておくこと。
15回	授業内容：ケアの倫理と正義 事前学修：資料の該当部分参照 事後学修：授業の内容をノートに整理し、授業内容を確認し理解しておくこと。

◆**教科書** 特になし。レジュメを配布する。

◆**参考書** 平野仁彦・亀本洋・服部高宏『法哲学』（有斐閣アルマ・2002）

◆**成績評価基準** ①試験結果（50%）②授業参加度（30%）③レポート（20%）

◆**授業相談（連絡先）**：

注意

# 講座内容（シラバス）

## 〔西洋史概説 / 西洋史概論〕

馬淵 彰

- ◆**授業概要** フランス革命からドイツ帝国成立に至るまでの人物や事件・思想・文化などを主に取り上げて、ヨーロッパにおける政治・経済・社会・宗教・文化などにわたる幅広い歴史像を講義する。
- ◆**学修到達目標** 西洋に関する歴史的な視野を広めるとともに、歴史問題を扱う際に求められる感覚を鋭くするために、フランス革命からドイツ統一に至るまでの人物や事件・思想・文化などを理解した上で、19世紀に新たに登場した歴史観とその歴史学上の諸問題を説明できる能力を修得する。
- ◆**授業方法** 具体的なイメージを受講者が持てるようビデオや絵画や写真などを用いて、講義をおこなう。
- ◆**履修条件**
- ◆**授業計画〔各90分〕**

1回	<p><b>授業内容</b> 西洋史と歴史観 西洋史と種々の進歩史観の関係について、その特徴と問題点を概観する。</p> <p><b>事前学修</b> シラバスに目を通し、講義の概要などを理解しておく。</p> <p><b>事後学修</b> 授業の視点がどのようなものかまとめる。</p>
2回	<p><b>授業内容</b> 近代歴史学の特殊性と課題 「近代歴史学」の特殊性と課題を概観する。</p> <p><b>事前学修</b> 歴史学も科学とだという主張が、どのようなことを根拠になされているかを調べてくる。</p> <p><b>事後学修</b> 近代歴史学に対する多くの批判があることをまとめる。授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。</p>
3回	<p><b>授業内容</b> 歴史学と他の学問との違い 近代歴史学でしか説明できない過去の世界はあるのかを考える。</p> <p><b>事前学修</b> 歴史学以外に過去を扱う学問にどのようなものがあるか、またそれらの学問と歴史学では過去の研究方法でどのように異なるかを調べたり考えたりしてくる。</p> <p><b>事後学修</b> 歴史学が過去を研究する手法において他の学問とは異なること点をまとめる。授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。</p>
4回	<p><b>授業内容</b> 歴史学の視点 自分の理想や価値観といった今日の世界観を通して、過去を物語っていいのかを考える。</p> <p><b>事前学修</b> 歴史研究において優れた研究とは何か、また劣った研究とは何かを考えてくる。</p> <p><b>事後学修</b> 過去をその内側から理解することがなぜ必要であるかまとめる。授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。</p>
5回	<p><b>授業内容</b> フランス革命 フランス革命と進歩史観について概観する。</p> <p><b>事前学修</b> フランス革命の経緯とフランス革命の政治的・社会的・文化的影響を調べてくる。</p> <p><b>事後学修</b> フランス革命と啓蒙主義や進歩史観との関係をまとめる。授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。</p>
6回	<p><b>授業内容</b> ナポレオン ナポレオンに対する二つの異なる歴史像と、フランス以外のナショナルな歴史観を概観する。</p> <p><b>事前学修</b> ナポレオン1世について、彼の功績や失脚の経緯などを調べてくる。</p> <p><b>事後学修</b> ナポレオンの登場によってなぜナショナルな歴史観がヨーロッパ各地に芽生えたのかをまとめる。授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。</p>
7回	<p><b>授業内容</b> 産業革命 「産業革命」の起源と社会的影響や、自由主義・急進主義・社会主義・階級意識に基づく歴史観を概観する。</p> <p><b>事前学修</b> 「産業革命」はどのような歴史現象だったのか、また社会構造をどのように姿容させる出来事だったのかを調べてくる。</p> <p><b>事後学修</b> 「産業革命」を一つの契機として、なぜ自由主義や急進主義、社会主義、階級論的な歴史観が芽生えたのかまとめる。授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。</p>
8回	<p><b>授業内容</b> ウィーン体制 ウィーン体制の起こりと、ウィーン体制に関連する超民族共同体的・漸進的保守主義の歴史観を概観する。</p> <p><b>事前学修</b> 「ウィーン体制」とは何かについて調べてくる。</p> <p><b>事後学修</b> メッテルニヒやウィーン体制によって、反ナショナリスティック、漸進的保守主義の歴史観が強められたことをまとめる。授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。</p>
9回	<p><b>授業内容</b> 1848年の革命 1848年の革命の起こりと発展、そしてこの革命で種々の歴史観の衝突したことを概観する。</p> <p><b>事前学修</b> ヨーロッパの革命とされる1848年に、どのような革命がどの地域で生じたのかを調べてくる。</p> <p><b>事後学修</b> フランス革命、ナポレオン、産業革命、ウィーン体制などによって生じた理想的社会像が1848年に衝突し、暴動や革命へと発展したことをまとめる。授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。</p>
10回	<p><b>授業内容</b> 東方問題 東方問題とヨーロッパ中心史観について概観する。</p> <p><b>事前学修</b> 東方問題がなぜ生じたのか、またヨーロッパ列強間でどのような対立構図が生じていたのかを調べてくる。</p> <p><b>事後学修</b> イスラム圏においてヨーロッパ列強間の対立が展開され、また帝国主義の時代の幕開けにつながることをまとめる。授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。</p>
11回	<p><b>授業内容</b> イタリア統一・ドイツ統一 イタリア統一・ドイツ統一と、民族主義に根差す歴史観の発展について概観する。</p> <p><b>事前学修</b> イタリアの統一とドイツの統一が、それぞれどのように達成されたのかを調べてくる。</p> <p><b>事後学修</b> 政府が展開した民族統一政策と、民族統一運動に貢献した民衆の民族意識についてまとめる。授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。</p>
12回	<p><b>授業内容</b> 進歩史観の根源と問題点 歴史研究において、歴史の発展法則や理論を発見したいという誘惑についてその根源と問題点を概観する。</p> <p><b>事前学修</b> 西洋の歴史のこの講義の5回から11回まで学習したことを復習しておく。</p> <p><b>事後学修</b> 西洋史の学びが西洋の過去の理解のためではなく、無意識のうちに別の目的のための道具にすり替えられていくカラクリについてまとめる。授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。</p>
13回	<p><b>授業内容</b> 歴史学の真の目的と社会貢献 歴史の学びは今日の現代社会に役に立つのかについて考える。</p> <p><b>事前学修</b> 西洋の歴史解釈が、特定の理想や信念に基づいて歪められていた実態を、これまでの講義内容を振り返ることで再確認する。</p> <p><b>事後学修</b> 学問としての歴史研究（近代歴史学）が、今日の社会に重要な役割を果たしていることをまとめる。授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。</p>
14回	<p><b>授業内容</b> 全体のまとめ 講義全体を貫いていたテーマと、各回の内容がどのように関連していたかを確認する。</p> <p><b>事前学修</b> これまでにこの授業で学んだことの要点を理解できるまで復習する。</p> <p><b>事後学修</b> 授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。</p>
15回	<p><b>授業内容</b> 「西洋史概説 / 西洋史概論」に関する講義総括、授業内試験</p> <p><b>事前学修</b> これまでの授業の中で理解しきれない箇所をまとめる。</p> <p><b>事後学修</b> 授業内において紹介された参考文献や配布された資料を読み、西洋史の知識や歴史学の手法を自分の研究に応用する能力を確かなものにしていく。</p>

- ◆**教科書** 〔当日資料配布〕 使用しない。必要に応じてプリントを配布する。
- ◆**参考書** 題名「西洋史概論 K32400 / 西洋史概説 Q30400」 通信教育教材（教材コード000147）  
 内容「西洋の歴史：近現代編」、木下 尚一ほか編集、ミネルヴァ書房、1998年  
 内容「世界史とヨーロッパ」、岡崎 勝世、講談社現代新書、2003年
- ◆**成績評価基準** 授業への取り組み、授業中の課題、試験などを総合評価する。
- ◆**授業相談（連絡先）**：講義期間中、授業の合間の休憩時間などに相談を受け付ける。

注意

# 講座内容（シラバス）

## 〔西洋政治史〕

渡邊 容一郎

- ◆**授業概要** 現在の政治社会の成り立ちについて考察し、それを人に説明できることは、21世紀を生きる社会人にとって不可欠な教養である。そこで本年度は、「市民的政治体制の形成と展開」をテーマとして、近代西洋政治史（テキストの第1～2章）を講義内容とする。その上で、現在の政治社会の成り立ちについて当時の国際情勢や政治思想あるいは世界経済の側面も踏まえた歴史的観点から理解・説明できるようにすることを心掛けたい。
- ◆**学修到達目標** ①近代の欧米政治の流れを掴み、現在の政治社会の基礎となる「市民的政治体制」が何故、どのような経緯で形成されていったのかを理解し、それを自分の言葉で説明できるようになること。②近代西洋政治史を学ぶことによって、世界経済と国内政治との因果関係、内政と外交との関連、そして政治的リーダーの思想と政策との関係性などが論理的に思考できるようにすること。以上の二つを学修到達目標とする。
- ◆**授業方法** 使用テキストの第1章および第2章の項目・内容に基づき、原則として講義形式で授業を行う。テキストとノートブックは必ず持参すること。必要に応じてレジュメや資料を配布する。なお、今年度から、1日目にアクティブ・ラーニング用の課題（ミニッツ・ペーパー）を提示し、課題報告用紙を2日目の授業終了時に提出してもらうことにする。提出されたミニッツ・ペーパーへのフィードバックは3日目（最終日）の授業時に行うこととしたい。

◆**履修条件**

◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容 絶対王政の意義：シラバスに基づいて授業計画等を説明した後、主要欧米諸国の政治体制と絶対王政について学習し、絶対主義国家の特質と意義を考察する。 事前学修 テキストのpp.1-10を予め読んでおくこと。 事後学修 授業で習った専門用語の概念定義をノートに整理しておくこと。
2回	授業内容 市民革命と市民社会：市民革命の基本的性格について学習し、近代市民社会との関係および市民的政治体制の特質を考察する。 事前学修 テキストのpp.11-14を予め読んでおくこと。 事後学修 授業で習った専門用語の概念定義をノートに整理しておくこと。
3回	授業内容 ピューリタン革命：イギリス革命の前半部分について学習し、クロムウェル共和制の問題点を考察する。 事前学修 テキストのpp.14-18を予め読んでおくこと。 事後学修 授業で習った専門用語の概念定義をノートに整理しておくこと。
4回	授業内容 王政復古と名譽革命：イギリス革命の後半部分について学習し、王政復古の意義と名譽革命の特質を考察する。 事前学修 テキストのpp.18-24を予め読んでおくこと。 事後学修 授業で習った専門用語の概念定義をノートに整理しておくこと。
5回	授業内容 アメリカ独立革命と合衆国の建国：アメリカ独立革命の展開について学習し、その特質と意義を考察する。 事前学修 テキストのpp.24-31を予め読んでおくこと。 事後学修 授業で習った専門用語の概念定義をノートに整理しておくこと。
6回	授業内容 フランス革命の展開と恐怖政治：フランス革命の前半部分について学習し、恐怖政治に陥った要因を考察する。 事前学修 テキストのpp.31-39を予め読んでおくこと。 事後学修 授業で習った専門用語の概念定義をノートに整理しておくこと。
7回	授業内容 フランス革命の展開とナポレオンの台頭：フランス革命の後半部分について学習し、ナポレオンが台頭した要因を考察する。 事前学修 テキストのpp.39-41を予め読んでおくこと。 事後学修 授業で習った専門用語の概念定義をノートに整理しておくこと。
8回	授業内容 ドイツ三月革命とドイツ帝国の成立：ドイツ三月革命とドイツ統一のプロセスについて学習し、ドイツの特殊性を考察する。 事前学修 テキストのpp.41-49を予め読んでおくこと。 事後学修 授業で習った専門用語の概念定義をノートに整理しておくこと。
9回	授業内容 ホイッグ寡頭制の展開とトーリー党の進化：イギリス革命後の二大政党の状況等について学習し、二党制の発展要因を考察する。 事前学修 テキストのpp.54-58を予め読んでおくこと。 事後学修 授業で習った専門用語の概念定義をノートに整理しておくこと。
10回	授業内容 イギリス議院内閣制の生成と展開：イギリスの議院内閣制発展プロセスについて学習し、日本の議院内閣制と比較・考察する。 事前学修 テキストのpp.59-62を予め読んでおくこと。 事後学修 授業で習った専門用語の概念定義をノートに整理しておくこと。
11回	授業内容 市民的政治体制への試練としての「ウィーン体制」：ウィーン体制の成立と展開について学習し、その特質と意義あるいは問題点を考察する。 事前学修 テキストのpp.62-66を予め読んでおくこと。 事後学修 授業で習った専門用語の概念定義をノートに整理しておくこと。
12回	授業内容 1848年の革命運動：フランス七月革命と二月革命、イギリスのチャーティスト運動について学習し、それらの特質と意義を考察する。 事前学修 テキストのpp.66-69を予め読んでおくこと。 事後学修 授業で習った専門用語の概念定義をノートに整理しておくこと。
13回	授業内容 イギリス議会政治の近代化と古典的展開：イギリスを事例とした選挙法改正と政党組織化のプロセスについて学習し、両者の因果関係を考察する。 事前学修 テキストのpp.70-71を予め読んでおくこと。 事後学修 授業で習った専門用語の概念定義をノートに整理しておくこと。
14回	授業内容 イギリス議会政治の近代化と大衆民主主義への変質：イギリスを事例とした大衆民主主義化プロセスについて学習し、その特質と意義を考察する。 事前学修 テキストのpp.71-73を予め読んでおくこと。 事後学修 指定された試験範囲を復習して、試験準備を行うこと。
15回	授業内容 アメリカ二大政党の成立とジャクソニアン・デモクラシー：アメリカ二大政党の起源と発展プロセスについて学習し、両党の違いを考察する。その後、最終試験を実施する。 事前学修 指定された試験範囲を復習して、試験準備を行うこと。 事後学修 三日間の授業内容全体を再確認して、学修到達目標に達したかどうか振り返りを行うこと。

- ◆**教科書** 図説『西洋政治史 L30500』通信教育教材（教材コード000503）2,950円（送料込）  
<この教材は市販の『Next 教科書シリーズ 西洋政治史』杉本稔編（弘文堂）と同一です。>

◆**参考書** 当日資料配布

- ◆**成績評価基準** 最終日に実施する試験の成績（80%）と、提出された課題に対する「ミニッツ・ペーパー」の内容・書き方（20%）による総合評価。毎回出席していることを前提として評価します。

**注意**



# 講座内容（シラバス）

## 〔経済学史 / 経済学説史〕

高橋 宏幸

- ◆**授業概要** 本講義では、各時代の経済学がどのような時代背景でどのような思想を持った経済学者によってどのように構築・展開されたかを学ぶ。経済学の形成期から19世紀初頭頃までを主たる対象とする。
- ◆**学修到達目標** 経済学の歴史の基本的内容や展開過程について説明できるようになること、そして各時代の経済学や現代経済学の土台となる思想や考え方に目を向け、経済学が時代制約性を有していること、様々な価値判断に立脚して組み立てられていることを考察できるようになることを到達目標とする。
- ◆**授業方法** 本講義は、基本的には板書やその解説を中心に進めます。補助資料としてプリントを使用することもあります。本講義は、専門科目ですので、基本的な歴史の概要、そして経済学と経済史についての基本的知識をすでに習得していることを前提として講義を進めます。
- ◆**履修条件**
- ◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容：講義における目標や方法、講義内容についての概説 事前学修：シラバスに目を通しておくこと 事後学修：今回の講義内容をノートやシラバス等で確認・復習しておくこと
2回	授業内容：経済学史とはどのような学問分野か。経済学史の学習目的・捉え方、研究方法等 事前学修：前回までの講義内容をノートや教科書の該当箇所等で確認・見直しを行っておくこと 事後学修：今回の講義内容をノートや教科書の該当箇所等で確認・復習しておくこと
3回	授業内容：重商主義の概念およびイギリス重商主義の政策体系 事前学修：前回までの講義内容をノートや教科書の該当箇所等で確認・見直しを行っておくこと 事後学修：今回の講義内容をノートや教科書の該当箇所等で確認・復習しておくこと
4回	授業内容：イギリス重商主義：その経済理論および経済政策 事前学修：前回までの講義内容をノートや教科書の該当箇所等で確認・見直しを行っておくこと 事後学修：今回の講義内容をノートや教科書の該当箇所等で確認・復習しておくこと
5回	授業内容：フランス重商主義：コルベール主義の政策体系 事前学修：前回までの講義内容をノートや教科書の該当箇所等で確認・見直しを行っておくこと 事後学修：今回の講義内容をノートや教科書の該当箇所等で確認・復習しておくこと
6回	授業内容：重農主義の社会的背景およびフランソワ・ケネーの哲学的基礎 事前学修：前回までの講義内容をノートや教科書の該当箇所等で確認・見直しを行っておくこと 事後学修：今回の講義内容をノートや教科書の該当箇所等で確認・復習しておくこと
7回	授業内容：フランソワ・ケネーとその「経済表」および経済政策論 事前学修：前回までの講義内容をノートや教科書の該当箇所等で確認・見直しを行っておくこと 事後学修：今回の講義内容をノートや教科書の該当箇所等で確認・復習しておくこと
8回	授業内容：アダム・スミスの経済学体系① 生涯と著作、富の概念、分業論 事前学修：前回までの講義内容をノートや教科書の該当箇所等で確認・見直しを行っておくこと 事後学修：今回の講義内容をノートや教科書の該当箇所等で確認・復習しておくこと
9回	授業内容：アダム・スミスの経済学体系② 価値論、自然価格論・市場価格論 事前学修：前回までの講義内容をノートや教科書の該当箇所等で確認・見直しを行っておくこと 事後学修：今回の講義内容をノートや教科書の該当箇所等で確認・復習しておくこと
10回	授業内容：アダム・スミスの経済学体系③ 分配論、資本蓄積論 事前学修：前回までの講義内容をノートや教科書の該当箇所等で確認・見直しを行っておくこと 事後学修：今回の講義内容をノートや教科書の該当箇所等で確認・復習しておくこと
11回	授業内容：アダム・スミスの経済学体系④ 投資の自然的順序、経済発展論 事前学修：前回までの講義内容をノートや教科書の該当箇所等で確認・見直しを行っておくこと 事後学修：今回の講義内容をノートや教科書の該当箇所等で確認・復習しておくこと
12回	授業内容：T・R・マルサスの人口論 事前学修：前回までの講義内容をノートや教科書の該当箇所等で確認・見直しを行っておくこと 事後学修：今回の講義内容をノートや教科書の該当箇所等で確認・復習しておくこと
13回	授業内容：T・R・マルサスとD・リカードの論争 事前学修：前回までの講義内容をノートや教科書の該当箇所等で確認・見直しを行っておくこと 事後学修：今回の講義内容をノートや教科書の該当箇所等で確認・復習しておくこと
14回	授業内容：T・R・マルサスとD・リカードの経済学の特徴 事前学修：前回までの講義内容をノートや教科書の該当箇所等で確認・見直しを行っておくこと 事後学修：今回の講義内容をノートや教科書の該当箇所等で確認・復習しておくこと
15回	授業内容：総括及び試験 事前学修：前回までの講義内容をノートや教科書の該当箇所等で確認・見直しを行っておくこと 事後学修：講義全体の内容をノートや教科書の該当箇所等で確認・復習しておくこと

- ◆**教科書** 教材【経済学史 R30100 / 経済学説史 L31300】 通信教育教材（教材コード000160）
- ◆**参考書** 丸沼【入門経済思想史 世俗的思想家たち】 ロバート・ハイルブローナー著 ちくま学芸文庫 2001年  
丸沼【経済学の歩み】 山口正春、川村哲章、高橋宏幸著 三恵社 2013年
- ◆**成績評価基準** 毎回出席することを前提として、単位認定試験（最終試験）100%で評価します。
- ◆**授業相談（連絡先）**：初回授業時にお知らせします。

注意

# 講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔国文学概論〕

近藤 健史

◆**授業概要** 大学のある千代田区番町麹町周辺は、江戸時代の旗本屋敷の面影がわずかながら残っている。このあたりには、かつて文人たちが多く住んでいた。本講義では、テキストに登場する主な「文人」スポットと関連のある作家・作品について講義する。内容的には、国文学のさまざまなジャンルにわたって概説する。

◆**学修到達目標** 国文学のさまざまなジャンルの作家や作品に触れ、それぞれの文学観を身に付けることを目標とする。また、そこから各自が個々の作品と向いあったとき、作品の読解力や国文学に対する理解を深めるようになることを目標とする。

◆**授業方法** 講義形式を中心に行う。映像やプリントを用意して、作品の理解を深める。

### ◆授業計画〔各90分〕

1回	授業内容：「国文学概論」について。「文人のまち番町麹町」について。 事前学修：御邸町・文人通りという土地柄について学んでおくこと。 事後学修：東京の真ん中に「幻の文人町」があったことを理解する。
2回	授業内容：有島家をめぐる「白樺派」の文人たち 事前学修：有島家の長男、次男、四男、白樺派について学んでおくこと。 事後学修：有島邸と大正リベラリズムの関わりについて理解する。
3回	授業内容：番町時代の泉鏡花 事前学修：泉鏡花について調べておくこと。 事後学修：番町時代の鏡花の作品を理解する。
4回	授業内容：島崎藤村と「明治女学校」 事前学修：佐藤輔子との恋について調べておくこと。 事後学修：島崎藤村の文学や雑誌「文学界」の文学者たちを理解する。
5回	授業内容：番町で産声をあげ武者小路実篤と女たち 事前学修：武者小路実篤について調べておくこと。 事後学修：番町時代の実篤と作品について理解する。
6回	授業内容：麹町と樋口一葉 事前学修：樋口一葉について調べておくこと。 事後学修：番町麹町界隈と一葉の文学との関わりを理解する。
7回	授業内容：「明星」創刊の地、番町 事前学修：与謝野鉄幹、晶子について調べておくこと。 事後学修：「明星派」の文学者と作品を理解する。
8回	授業内容：番町麹町界隈の詩人・歌人・俳人たち 事前学修：蒲原有明、高浜虚子、島木赤彦、吉井勇などについて調べておくこと。 事後学修：番町麹町が「詩人のまち」と呼ばれたことを理解する。
9回	授業内容：番町界隈で過ごした放蕩無頼の文人たち 事前学修：永井荷風、小山内薫、武林無想庵について調べておくこと。 事後学修：交友関係や文藝雑誌について理解する。
10回	授業内容：国木田独歩の恋と番町麹町界隈 事前学修：国木田独歩について調べておくこと。 事後学修：恋する女性をモデルとした作品を理解する。
11回	授業内容：吉行エイスケと内田百閒の見た番町 事前学修：吉行家の作家たち、内田百閒について調べておくこと。 事後学修：作品に記録された「戦争」などを理解する。
12回	授業内容：岡本綺堂の描いた番町麹町の風景 事前学修：岡本綺堂について調べておくこと。 事後学修：劇作家、小説家としての魅力を理解する。
13回	授業内容：番町麹町を愛した作家たち 事前学修：邦枝完二、坪内逍遙、寺田寅彦、大町桂月、武田麟太郎などについて調べておくこと。 事後学修：番町麹町が「文人町」たるゆえんを理解する。
14回	授業内容：気骨ある言論人たちの住んだ町 事前学修：中江兆民、島田三郎、三宅雪嶺、平塚らいてう、山川菊栄などについて調べておくこと。 事後学修：番町麹町ゆかりの明治期における作家、ジャーナリスト、評論家、思想家を理解する。
15回	授業内容：先進的な女性を多数輩出した「明治女学校」 事前学修：「明治女学校」の創立について調べておくこと。 事後学修：文学と関わる「明治女学校」教師と生徒たちを理解する。

◆**教科書** 『文人たちのまち 番町麹町』 新井巖 言視舎 2019年

◆**参考書** テキストの巻末にI「主な参考文献」がある。

◆**成績評価基準** 試験80%、授業への参加回数20%

### 注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

# 講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔国文学講義Ⅲ（中世）〕

鹿野 しのぶ

- ◆**授業概要** 王朝の、女房文学から隠者文学へと変遷した中世文学の特徴を考えます。作品としては、まず『無名草子』を取り上げ、中世において王朝文学をどのように捉えていたかを考えます。次に鴨長明の作品を取り上げ、中世という時代における長明の生き方、考え方を作品から読み解きます。その上で、中世文学の特徴を探究します。
- ◆**学修到達目標** 両作品を読み解くことにより、以下のことを学びます。1. 作品と執筆された時代背景を関連付けて説明できるようにします。2. 作品に登場するさまざまな人物の生き方について学び、作品が読み継がれている理由を説明できるようにします。3. 中世文学における美意識や思想、中世の人々の生き方を学び、現代に生きる私たちに通じる部分について、自らのことばで説明できるようにします。
- ◆**授業方法** 講義形式での授業を中心にを行います。テーマによっては感想や意見などを書いてもらい、次の時間にフィードバックします。また、和歌に関するテーマの際には、学んだ和歌技法を用いて表現してもらおうアクティブ・ラーニングを予定しています。質問はレビューシートに記入してください。次の時間に回答します。
- ◆**授業計画（各90分）**

1回	<b>授業内容</b> ：中世文学についての概論 <b>事前学修</b> ：参考書として学んだ通材『国文学講義Ⅲ（中世）』の85頁～94頁をよく読んでおきましょう。 <b>事後学修</b> ：中世文学の、区分や特徴について、学んだことをノートにまとめておきましょう。
2回	<b>授業内容</b> ：『無名草子』について①、その概論と作品の読解 <b>事前学修</b> ：『無名草子』について、日本文学辞典などでその概要を調べておくこととよいでしょう。さらに、前回の授業までに配布する資料をよく読んでおきましょう。 <b>事後学修</b> ：『無名草子』という作品の特徴について、ノートにまとめておきましょう。
3回	<b>授業内容</b> ：鴨長明の伝記について <b>事前学修</b> ：前回までに配付する資料をよく読んでおきましょう。 <b>事後学修</b> ：長明が育った環境・その人生について、ノートにまとめておきましょう。
4回	<b>授業内容</b> ：鴨長明の和歌について <b>事前学修</b> ：歌人としての長明について、和歌文学辞典などで調べて、ノートにまとめておきましょう。 <b>事後学修</b> ：長明の和歌の特徴について、ノートのまとめておきましょう。
5回	<b>授業内容</b> ：『無名抄』について① その概論と内容読解 <b>事前学修</b> ：『無名抄』とはどのような作品か、辞典などで調べておきましょう。 <b>事後学修</b> ：配付した資料を参考にして、『無名抄』の特徴についてノートにまとめておきましょう。
6回	<b>授業内容</b> ：『無名抄』について② 内容読解 <b>事前学修</b> ：前回の授業で配付する資料をよく読んでおきましょう。 <b>事後学修</b> ：『無名抄』に記される「予」に注目し、長明が自身をどのように記しているか、まとめておきましょう。
7回	<b>授業内容</b> ：『方丈記』について① 作品が書かれた時代背景と災害を描くジャーナリストとしての長明の表現力について <b>事前学修</b> ：前回までに配付する資料をよく読んでおきましょう。 <b>事後学修</b> ：『記』という作品について、ノートにまとめておきましょう。
8回	<b>授業内容</b> ：『方丈記』について② 内容読解 <b>事前学修</b> ：前回までに配付する資料をよく読んでおきましょう。 <b>事後学修</b> ：『方丈記』における長明の思想について、ノートのまとめておきましょう。
9回	<b>授業内容</b> ：『方丈記』について③ 内容読解 <b>事前学修</b> ：前回までに配付する資料をよく読んでおきましょう。 <b>事後学修</b> ：長明にとっての方丈の庵とはどのようなものか、ノートにまとめておきましょう。
10回	<b>授業内容</b> ：『方丈記』について④ 内容読解 <b>事前学修</b> ：前回までに配付する資料をよく読んでおきましょう。 <b>事後学修</b> ：長明が隠者としてどのように世の本質を見つめているか、ノートにまとめておきましょう。
11回	<b>授業内容</b> ：『方丈記』について⑤ 内容読解 <b>事前学修</b> ：前回までに配付する資料をよく読んでおきましょう。 <b>事後学修</b> ：長明が無常の世を如何に生きたかをノートにまとめておきましょう。
12回	<b>授業内容</b> ：『発心集』について① 説話集についての概論、内容読解 <b>事前学修</b> ：説話とは何か、辞典などで調べておきましょう。 <b>事後学修</b> ：作品の特徴をノートにまとめておきましょう。
13回	<b>授業内容</b> ：『発心集』について② 内容読解 <b>事前学修</b> ：前回までに配付する資料をよく読んでおきましょう。 <b>事後学修</b> ：『発心』とは何か、ノートにまとめておきましょう。
14回	<b>授業内容</b> ：理解度の確認 <b>事前学修</b> ：これまでの要点のまとめをしておきましょう。 <b>事後学修</b> ：配付した資料やノートを読み返しておきましょう。
15回	<b>授業内容</b> ：試験および解説 <b>事前学修</b> ：前回までの授業内容を振り返って、中世文学の特徴・個々の作品の特徴をまとめておきましょう。 <b>事後学修</b> ：配付資料を参考にして、中世文学作品を幅広く読んでみましょう。

- ◆**教科書** **事前資料送付** 担当者作成のプリント  
**当日資料配布** 担当者作成のプリント
- ◆**参考書** **題材**『国文学講義Ⅲ（中世）』通信教育教材（教材コード000091）
- ◆**成績評価基準** 試験（60%）、平常点（レビューシート、積極的な発言など授業への参画度）（40%）、毎回出席することを前提としています。

**注意** E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
 ※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆**授業概要** 大正期から昭和初期にかけての短編小説を題材として、文学テキストの基本的な分析方法を学ぶ。また文学テキストの読解と合わせて、歴史的背景やジェンダーの問題などについても考察する。

◆**学修到達目標** ・小説テキストの読解・分析の方法を学び、自ら考察できるようになる。  
・小説の物語内容と、歴史的・社会的背景とを関連づけて考察し、それぞれについての理解を深める。

◆**授業方法** 講義動画と合わせて、PDFで授業内容をまとめた資料を配布する。授業内で扱う小説作品についても、PDFで配付する。各日でコメントなどの小課題の提出を求める。最終日には授業の内容を踏まえてレポートの提出を求める。

◆**授業計画**

1回	授業内容	授業の進め方・オリエンテーション まずは、本授業の進め方を説明する。
	事前学修	可能であれば事前に挙げた対象テキストに目を通しておくこと。
	事後学修	当日配付資料を読んでこれからの授業内容の確認をすること。
2回	授業内容	文学テキストの分析方法について 文学テキストを分析するための批評理論の考え方について説明する。
	事前学修	可能であれば事前に挙げた対象テキストに目を通しておくこと。
	事後学修	当日配付資料を読んで批評理論の基本について確認をすること。
3回	授業内容	芥川龍之介「蜜柑」を読む① 芥川龍之介「蜜柑」を読んで、その内容を捉える
	事前学修	芥川龍之介「蜜柑」を読んでおくこと。
	事後学修	当日配付資料を読んで芥川龍之介「蜜柑」の内容を理解する。
4回	授業内容	芥川龍之介「蜜柑」を読む② 芥川龍之介「蜜柑」を読んで、構造的な特徴に注目する。
	事前学修	芥川龍之介「蜜柑」を読んでおくこと。
	事後学修	当日配付資料を読んで芥川龍之介「蜜柑」の構造的な特徴を理解する。
5回	授業内容	芥川龍之介「蜜柑」を読む③ 芥川龍之介「蜜柑」を読んで、視点の移動に注目する。
	事前学修	芥川龍之介「蜜柑」を読んでおくこと。
	事後学修	当日配付資料を読んで芥川龍之介「蜜柑」の視点の移動を理解する。
6回	授業内容	森鷗外「高瀬舟」を読む① 森鷗外「高瀬舟」を読んで、その内容を捉える。
	事前学修	森鷗外「高瀬舟」を読んでおくこと。
	事後学修	当日配付資料を読んで森鷗外「高瀬舟」の内容について理解をすること。
7回	授業内容	森鷗外「高瀬舟」を読む② 森鷗外「高瀬舟」を読んで、その語りの構造を捉える。
	事前学修	森鷗外「高瀬舟」を読んでおくこと。
	事後学修	当日配付資料を読んで森鷗外「高瀬舟」の語りの構造について理解をすること。
8回	授業内容	森鷗外「高瀬舟」を読む③ 森鷗外「高瀬舟」を読んで、喜助の発言について考える。
	事前学修	森鷗外「高瀬舟」を読んでおくこと。
	事後学修	当日配付資料を読んで森鷗外「高瀬舟」の喜助の発言にどのような捉え方があるのかを理解する。
9回	授業内容	太宰治「千代女」を読む① 太宰治「千代女」を読んで、その内容を捉える。
	事前学修	太宰治「千代女」を読んでおくこと。
	事後学修	当日配付資料を読んで太宰治「千代女」の内容について理解をすること。
10回	授業内容	太宰治「千代女」を読む② 太宰治「千代女」を読んで、時代背景について考察する。
	事前学修	太宰治「千代女」を読んでおくこと。
	事後学修	当日配付資料を読んで太宰治「千代女」の時代背景について理解をすること。
11回	授業内容	太宰治「千代女」を読む③ 太宰治「千代女」を読んで、少女の自意識のあり方について考察する。
	事前学修	太宰治「千代女」を読んでおくこと。
	事後学修	当日配付資料を読んで太宰治「千代女」の少女の自意識のあり方について理解をすること。
12回	授業内容	田山花袋「少女病」を読む① 田山花袋「少女病」を読んで、その内容を捉える。
	事前学修	田山花袋「少女病」を読んでおくこと。
	事後学修	当日配付資料を読んで田山花袋「少女病」の内容について理解をすること。
13回	授業内容	田山花袋「少女病」を読む② 田山花袋「少女病」を読んで、その時代背景(電車)について考察する。
	事前学修	田山花袋「少女病」を読んでおくこと。
	事後学修	当日配付資料を読んで田山花袋「少女病」の時代背景について理解をすること。
14回	授業内容	田山花袋「少女病」を読む③ 田山花袋「少女病」を読んで、その時代背景(恋愛論)について考察する。
	事前学修	田山花袋「少女病」を読んでおくこと。
	事後学修	当日配付資料を読んで田山花袋「少女病」の時代背景について理解をすること。
15回	授業内容	レポート
	事前学修	これまでの授業内容を確認しておくこと
	事後学修	授業内容を振り返って、自分の考えを整理すること

◆**教科書** 芥川龍之介「蜜柑」, 森鷗外「高瀬舟」, 太宰治「千代女」, 田山花袋「少女病」

◆**参考書(参考文献等)** 特になし

◆**成績評価基準** 授業への取り組み(コメントシートなど): 50% レポート: 50%

# 講座内容（シラバス）

## 〔イギリス文学史Ⅱ〕

鈴木 ふさ子

◆**授業概要** 文学とはその時代と社会を映し出す鏡である。この授業では18世紀後半から20世紀のイギリスの文学をイギリス史と社会との関係から概観する。具体的には指定したテキストの第5章から第9章までの各章における時代の特徴と社会について学び、各時代の文学を詩、小説・散文、戯曲のジャンルごとの代表的作家とその作品の内容を学び、イギリス文学を歴史の流れの中で広い視点から理解できる事を心がける。

◆**学修到達目標** 18世紀後半から20世紀のイギリスの歴史・社会と文学の関連性を説明できるようになる事を目的とする。それぞれの時代や社会の特徴について学び、それらが文学にどのような影響を与えたのかを考察し、理解できるようになる事を目的とする。その過程でイギリス文学に必要な基礎知識（代表的作家、代表的作品、文学用語など）を身につけ、文学を深く理解する土台を築く事を目的とする。

◆**授業方法** テキストに沿って第5章から第9章までの時代思潮と各ジャンル（詩、小説・散文、戯曲）の概説を学んだ上で、代表的な作家についての解説、代表作の内容についての解説を行う。重要な作品の原文を読む。詩は重要な作品を音声で聞く場合もある。

◆**履修条件**

◆**授業計画（各90分）**

1回	授業内容 事前学修 事後学修	ガイダンス、オリエンテーション、授業の進め方、講義内容に記載されている成績評価方法等の確認、5月期スクーリングで扱う作家や作品を紹介する。 自分が興味のある作家と作品を考えてくる。 5月期に学ぶ予定のイギリス文学ほどのような作品があるのか調べる。
2回	授業内容 事前学修 事後学修	テキスト第5章(1)新古典主義から想像力の詩へ 18世紀後半のイギリスの社会について解説する。この時代の詩の特徴を解説し、代表的詩人（James Thomson, Thomas Gray, Robert Burns, William Blake）を紹介し、代表作の概要を紹介する。 テキストの118-132頁を読み、18世紀後半のイギリス社会について調べ、代表的詩人について調べる。 授業時にとったノートを復習し、18世紀後半のイギリス社会とこの時代の代表的詩人についてまとめる。詩を朗読し、味わい、感想や批評を書く。
3回	授業内容 事前学修 事後学修	テキスト第5章(2)近代小説の成立、伝記 18世紀後半の小説・散文の特徴を解説し、代表的作家（Samuel Richardson, Henry Fielding, Laurence Sterne, Samuel Johnson, James Boswell）を紹介し、代表作の概要を紹介する。 テキストの132-148頁を読み、18世紀後半の小説家、散文家について調べ、時代との関連性を考える。 授業時にとったノートを復習し、18世紀後半のイギリス社会とこの時代の代表的作家についてまとめる。興味の沸いた作品を読んでみる。
4回	授業内容 事前学修 事後学修	テキスト第6章(1)前期ロマン派の詩人 19世紀初頭のイギリスの社会について解説する。この時代の詩の特徴を解説し、代表的詩人（William Wordsworth, Samuel Taylor Coleridge）を紹介し、代表作を読む。 テキストの150-159頁を読み、19世紀初頭のイギリス社会、この時代の代表的詩人について調べ、時代との関連性を考える。 授業時にとったノートを復習し、19世紀初頭のイギリス社会とこの時代の代表的詩人についてまとめる。興味の沸いた作品を読んでみる。
5回	授業内容 事前学修 事後学修	テキスト第6章(2)後期ロマン派の詩人 19世紀初頭の代表的詩人（George Gordon Byron, Percy Bysshe Shelley, John Keats）を紹介し、代表作を読む。 テキストの160-173頁を読み、19世紀初頭の代表的詩人について調べ、時代との関連性を考える。 授業時にとったノートを復習し、19世紀初頭の詩人についてまとめる。興味の沸いた作品を読んでみる。
6回	授業内容 事前学修 事後学修	テキスト第6章(3)歴史小説、写実主義の小説、エッセイ 19世紀初頭の小説とエッセイについて解説する。代表的作家（Walter Scott, Jane Austen, Charles Lamb）を紹介し、代表的作品の概要を紹介する。 テキストの173-182頁を読み、19世紀初頭の代表的作家について調べ、時代との関連性を考える。 授業時にとったノートを復習し、19世紀初頭の代表的作家についてまとめる。興味の沸いた作品を読んでみる。
7回	授業内容 事前学修 事後学修	テキスト第7章(1)ウィクトリア時代の詩人 19世紀中期のイギリスの社会について解説する。この時代の詩を解説し、代表的詩人（Alfred Tennyson, Robert Browning, Matthew Arnold, Dante Gabriel Rossetti）を紹介し、代表作を読む。 テキストの184-196頁を読み、19世紀中期のイギリス社会、この時代の代表的詩人について調べ、時代との関連性を考える。 授業時にとったノートを復習し、19世紀中期のイギリス社会とこの時代の代表的詩人についてまとめる。興味の沸いた作品を読んでみる。
8回	授業内容 事前学修 事後学修	テキスト第7章(2)ウィクトリア時代の小説家・批評家 19世紀中期の小説・散文について解説する。この時代の代表的作家（Charles Dickens, William Makepeace Thackeray, Charlotte Brontë, Emily Brontë, George Eliot, George Meredith, Lewis Carroll, Thomas Carlyle, John Ruskin）を紹介し、代表作を読む。 テキストの196-223頁を読み、19世紀中期のイギリス社会、この時代の代表的詩人について調べ、時代との関連性を考える。 授業時にとったノートを復習し、19世紀中期の代表的作家についてまとめる。興味の沸いた作品を読んでみる。
9回	授業内容 事前学修 事後学修	テキスト第8章(1)19世紀後半の文学 19世紀後半のイギリス社会について解説する。この時代の詩、小説、戯曲について解説する。代表的詩人（Gerard Manley Hopkins）、代表的作家（Samuel Butler, Thomas Hardy, Walter Pater）、代表的劇作家（Oscar Wilde）を紹介し、その代表作の概要を紹介する。 テキストの226-230、233-239、244-249頁を読み、19世紀後半のイギリス社会、この時代の代表的詩人、作家、劇作家について調べ、時代との関連性を考える。 授業時にとったノートを復習し、19世紀後半のイギリス社会と時代思潮と芸術、この時代の代表的詩人、作家、劇作家についてまとめる。興味の沸いた作品を読んでみる。
10回	授業内容 事前学修 事後学修	テキスト第8章(2)20世紀初頭の文学 20世紀初頭のイギリスの社会と時代思潮について解説する。その時代の詩、小説・散文、戯曲について解説する。代表的詩人（William Butler Yeats）、代表的作家（Joseph Conrad, John Galsworthy）、代表的劇作家（George Bernard Shaw）を紹介し、その代表作の概要を紹介する。 テキストの230-233、239-243、249-252頁を読み、20世紀初頭のイギリス社会、この時代の代表的詩人、作家、劇作家について調べ、時代との関連性を考える。 授業時にとったノートを復習し、20世紀初頭のイギリス社会とこの時代の代表的詩人、作家、劇作家についてまとめる。興味の沸いた作品を読んでみる。
11回	授業内容 事前学修 事後学修	テキスト第9章(1)20世紀の詩 20世紀のイギリス社会について解説する。その時代の代表的詩人（Wystan Hugh Auden, T. S. Eliot）を紹介し、その作品を読む。 テキストの254-261頁を読み、20世紀のイギリス社会、この時代の代表的詩人について調べ、時代との関連性を考える。 授業時にとったノートを復習し、20世紀のイギリス社会とこの時代の代表的詩人についてまとめる。興味の沸いた作品を読んでみる。
12回	授業内容 事前学修 事後学修	テキスト第9章(2)20世紀の小説・散文 20世紀の小説・散文について解説し、代表的作家（James Joyce, Virginia Woolf, D. H. Lawrence, Iris Murdoch）を紹介し、その作品の概要を紹介する。 テキストの261-275頁を読み、20世紀のイギリス社会、この時代の代表的作家について調べ、時代との関連性を考える。 授業時にとったノートを復習し、20世紀の代表的作家についてまとめる。興味の沸いた作品を読んでみる。
13回	授業内容 事前学修 事後学修	テキスト第9章(3)20世紀の戯曲 20世紀の戯曲について解説し、代表的劇作家（Samuel Beckett）を紹介し、その作品の概要を紹介する。 テキストの276-281頁を読み、20世紀初頭のイギリス社会、この時代の代表的詩人について調べ、時代との関連性を考える。 授業時にとったノートを復習し、20世紀のイギリス社会とこの時代の代表的劇作家についてまとめる。興味の沸いた作品を読んでみる。
14回	授業内容 事前学修 事後学修	スクーリングの総まとめをし、現代の文学との関連性を解説する。 スクーリングで学んだことをまとめ、現代の文学との関連性を考えてくる。 スクーリングの総復習を行い、第5章から第9章まで学んだことをまとめ、時代ごとの流れをつかみ、それらが文学にどのような影響を及ぼしているのかについて考察する。
15回	授業内容 事前学修 事後学修	試験とその解説を行う。 スクーリングで学んだことを総復習する。 スクーリングで学んだこと、読んだ英文を復習する。

◆**教科書** 関沼『はじめて学ぶイギリス文学史』ミネルヴァ書房

◆**参考書** 関沼『英語文学事典』ミネルヴァ書房

関沼『イギリス名詩選』岩波文庫

関沼『映画で英詩入門』平凡社

※参考文献は自習用であり、授業では使用しません。

◆**成績評価基準** 課題（60%）、テスト（40%）

授業には毎回出席することを前提として評価を行います。

◆**授業相談（連絡先）**：Google Classroomの限定コメントで対応します。

注意

# 講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 【英語学特殊講義】

山岡 洋

- ◆**授業概要** 日本の英語教育においては、従来より「5文型」が文構造理解の基本とされてきた。最近では5文型偏重の傾向は少なくなってきたが、それはあくまでも、学習指導要領の改訂によるところがおおいが、この講義では、5文型がどのようなものであるのかという基本から説明を始め、5文型を十分に理解した上で、5文型の功罪について考えていく。
- ◆**学修到達目標** 英語の文構造を理解していく上で、日本の英語教育で伝統的に活用されてきた5文型の基本を理解しながら、その5文型のどこに利点があり、どこに問題があるかを理解できるようになることを目標とする。その上で、5文型の欠点を補うべく提案されている7文型を理解し、さらにその7文型の問題点もどこにあるのかを理解できるようにする。
- ◆**授業方法** 原則として、教員側からの講義の形式で行っていく。但し、教員側からできるだけ頻繁に学生側に対して疑問を投げ掛け、極力「双方向的な」授業にしていく。質問は、授業中でもしてもらいたい。素朴な質問は、質問者本人だけでなく、他の受講生、ひいては担当教員のためにもなることが多い。なお、予めテキストの該当箇所には目を通しておくこと。
- ◆**授業計画** (各 90 分)

1回	授業内容: Course Introduction: The Difference Between Word Classes and Sentence Functions 事前学修: 教科書 pp. 2-12 を読んでおく。 事後学修: 授業中にとったノートを、教科書 pp. 2-12 を見ながら再確認する。
2回	授業内容: Course Introduction: Types of Sentences, Parts-of-Speech 事前学修: 教科書 pp. 65-87 と pp. 2-12 を読んでおく。 事後学修: 授業中にとったノートを、教科書 pp. 65-87 と pp. 2-12 を見ながら再確認する。
3回	授業内容: Course Introduction: Sentence Patterns, Sentence Functions 事前学修: 教科書第1章を読んでおく。 事後学修: 授業中にとったノートを、教科書 pp. 13-31 を見ながら再確認する。
4回	授業内容: 文型の理解を定着させるための初級英文分析 事前学修: 教科書第1章を読んでおく。 事後学修: 授業中にとったノートを、教科書第1章を見ながら再確認する。
5回	授業内容: 文型の理解を定着させるための初級英文分析 事前学修: 教科書第1章を読んでおく。 事後学修: 授業中にとったノートを、教科書第1章を見ながら再確認する。
6回	授業内容: 文型の理解を定着させるための初級英文分析 事前学修: 第3回目の授業の復習と教科書第1章を読んでおく。 事後学修: 第3回目の授業の復習と教科書第1章を見ながら再確認する。
7回	授業内容: 文型の理解を定着させるための初級英文分析 事前学修: 第4回目の授業の復習と教科書第1章を読んでおく。 事後学修: 第4回目の授業の復習と教科書第1章を見ながら再確認する。
8回	授業内容: Trial Quizzes とその解説 事前学修: 第1回目から第7回目までの内容を復習し、Trial Quizzes に備える。 事後学修: Trial Quizzes で理解度を確認し、最終試験に備えて理解不十分な部分を修正する。
9回	授業内容: 文型の理解を定着させるための中級英文分析 事前学修: 教科書第4章、第5章を読んでおく。 事後学修: 授業中の分析を、教科書第4章、第5章を見ながら再確認する。
10回	授業内容: 文型の理解を定着させるための中級英文分析 事前学修: 第3回目の授業の復習と教科書 pp. 13-31 を読んでおく。 事後学修: 授業中の分析を、教科書 pp. 13-31 を見ながら再確認する。
11回	授業内容: 文型の理解を定着させるための中級英文分析 事前学修: 第4回目の授業の復習と教科書第1章を読んでおく。 事後学修: 授業中の分析を、教科書第1章を見ながら再確認する。
12回	授業内容: 総合的な文型分析 事前学修: 第5回目から第11回目までの授業の復習をしておく。 事後学修: 授業中の分析を、第5回目から第11回目までの授業の復習を見ながら再確認する。
13回	授業内容: 理解度確認 事前学修: これまでの授業の内容を改めて見直し、特に文型分析を確認する。 事後学修: 試験に備えて、例文における文型分析を確認する。
14回	授業内容: 最終試験とその解説 事前学修: 前回の理解度確認を改めて読み直し、新たな英文で自分の理解度を再度確認する。 事後学修: 自分の試験の答案を確認し、教科書の該当箇所と照合する。
15回	授業内容: 最終試験の解説 事前学修: 自分の試験の答案を確認し、教科書の該当箇所と照合する。 事後学修: 授業内容を確認して、自分の単文の構造に関する理解が適切かどうかを再確認する。

- ◆**教科書** 丸沼『新英文法概説』山岡洋 開拓社 2014  
[当日資料配布] 当日配付資料あり
- ◆**参考書** 丸沼『英文法解説』江川泰一郎 金子書房 1991  
丸沼『ロイヤル英文法』綿貫陽・宮川幸久・須貝猛敏・高松尚弘・マークピーターセン 改訂新版 旺文社 2001  
丸沼『ジーニアス総合英語』中邑光男・山岡憲史・柏野健次 大修館 2017  
丸沼『英語の文型一文型がわかれば、英語がわかる』安藤貞雄 開拓社 2008  
丸沼『英文法総覧』安井稔 改訂版 開拓社 1996
- ◆**成績評価基準** 授業参加度: 20% (半日欠席につき10点マイナス。遅刻は5点マイナス)  
最終試験: 80% (教科書・参考図書・ノート・電子辞書持ち込み可)

### 注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談 (連絡先) に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

# 講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔新聞英語〕

桑山 啓子

◆**授業概要** 市販されているテキストを使用して英字新聞の英文を読む。英字新聞の構成や新聞英語の特徴などを説明しながら新聞記事を読んでいく。新聞記事に対する意見を個人、またはグループでまとめて用紙に書いたり発表したりする。また実際の英字新聞の記事を使い、新聞記事の構成、新聞英語の特徴を確認しながら内容をまとめる。

◆**学修到達目標** 英字新聞の記事の構造を理解して、英字新聞の英語の特徴を学び、Japan Times, Japan News, New York Times などの英字新聞を読めるようになる。また、辞書を使わずに新聞記事の内容を把握し、その記事に対する自分の意見を言うようになる。

◆**授業方法** 市販のテキストを用いて 1 課を 2 回の授業で読む。1 回目は Key Expressions 1 - Newspaper English までを答え合わせをしながら、授業で読む新聞記事に必要な情報を得る。その後で Reading の内容を確認する。2 回目は Reading の英文を新聞記事の構成 (Headline, Lead, Body) を確認してから段落ごとに英文の内容を確認して、重要な語句や、英文を和訳する。その後で Summary - Comprehension 2 の exercises の答え合わせをする。読んでいく Chapter は順番通りではないので、シラバスを確認しながら事前学修を進めること。

### ◆授業計画 [各 90 分]

1 回	授業内容 事前学修 事後学修	ガイダンス (授業の進め方、成績評価などについての説明)、英字新聞についての説明。 Chapter 1: Key Expressions 1 - Newspaper English の答え合わせ、Reading の英文を新聞記事の構成 (Headline, Lead, Body) を確認して、それぞれの内容を確認する。 Chapter 1: Key Expressions 1 - Newspaper English の問題を解く。Reading の英文を読み、全体的の内容をまとめる。Headline, Lead, Body に分け、それぞれの部分で書かれていることをまとめる。英文を読みながら分からない単語を辞書で調べて理解できない英文をチェックする。 事前学修で解いた Key Expressions 1 - Newspaper English の間違ったところを復習。Reading の英文で分からなかったところをチェックしておく。
2 回	授業内容 事前学修 事後学修	Chapter 1: 段落ごとに英文全体の内容を確認して英文を和訳する。Summary - Comprehension 2 の答え合わせ。 Chapter 1: Reading の新聞記事を読み直し、事前学修で分からなかったところを復習。事前学修で解いた Summary - Comprehension 2 の間違えたところを復習。
3 回	授業内容 事前学修 事後学修	Chapter 2: Key Expressions 1 - Newspaper English の答え合わせ、Reading の英文を新聞記事の構成 (Headline, Lead, Body) を確認して、それぞれの内容を確認する。 Chapter 2: Key Expressions 1 - Newspaper English の問題を解く。Reading の英文を読み、全体的の内容をまとめる。Headline, Lead, Body に分け、それぞれの部分で書かれていることをまとめる。英文を読みながら分からない単語を辞書で調べて理解できない英文をチェックする。 事前学修で解いた Key Expressions 1 - Newspaper English の間違ったところを復習。Reading の英文で分からなかったところをチェックしておく。
4 回	授業内容 事前学修 事後学修	Chapter 2: 段落ごとに英文全体の内容を確認して英文を和訳する。Summary - Comprehension 2 の答え合わせ。 Chapter 2: Reading の新聞記事を読み直し、事前学修で分からなかったところを復習。事前学修で解いた Summary - Comprehension 2 の間違えたところを復習。
5 回	授業内容 事前学修 事後学修	Chapter 5: Key Expressions 1 - Newspaper English の答え合わせ、Reading の英文を新聞記事の構成 (Headline, Lead, Body) を確認して、それぞれの内容を確認する。 Chapter 5: Key Expressions 1 - Newspaper English の問題を解く。Reading の英文を読み、全体的の内容をまとめる。Headline, Lead, Body に分け、それぞれの部分で書かれていることをまとめる。英文を読みながら分からない単語を辞書で調べて理解できない英文をチェックする。 事前学修で解いた Key Expressions 1 - Newspaper English の間違ったところを復習。Reading の英文で分からなかったところをチェックしておく。
6 回	授業内容 事前学修 事後学修	Chapter 5: 段落ごとに英文全体の内容を確認して英文を和訳する。Summary - Comprehension 2 の答え合わせ。 Chapter 5: Reading の新聞記事を読み直し、事前学修で分からなかったところを復習。事前学修で解いた Summary - Comprehension 2 の間違えたところを復習。
7 回	授業内容 事前学修 事後学修	Chapter 6: Key Expressions 1 - Newspaper English の答え合わせ、Reading の英文を新聞記事の構成 (Headline, Lead, Body) を確認して、それぞれの内容を確認する。 Chapter 6: Key Expressions 1 - Newspaper English の問題を解く。Reading の英文を読み、全体的の内容をまとめる。Headline, Lead, Body に分け、それぞれの部分で書かれていることをまとめる。英文を読みながら分からない単語を辞書で調べて理解できない英文をチェックする。 事前学修で解いた Key Expressions 1 - Newspaper English の間違ったところを復習。Reading の英文で分からなかったところをチェックしておく。
8 回	授業内容 事前学修 事後学修	Chapter 6: 段落ごとに英文全体の内容を確認して英文を和訳する。Summary - Comprehension 2 の答え合わせ。 Reading の新聞記事を読み直し、事前学修で分からなかったところを復習。事前学修で解いた Summary - Comprehension 2 の間違えたところを復習。
9 回	授業内容 事前学修 事後学修	Chapter 7: Key Expressions 1 - Newspaper English の答え合わせ、Reading の英文を新聞記事の構成 (Headline, Lead, Body) を確認して、それぞれの内容を確認する。 Chapter 7: Key Expressions 1 - Newspaper English の問題を解く。Reading の英文を読み、全体的の内容をまとめる。Headline, Lead, Body に分け、それぞれの部分で書かれていることをまとめる。英文を読みながら分からない単語を辞書で調べて理解できない英文をチェックする。 事前学修で解いた Key Expressions 1 - Newspaper English の間違ったところを復習。Reading の英文で分からなかったところをチェックしておく。
10 回	授業内容 事前学修 事後学修	Chapter 7: 段落ごとに英文全体の内容を確認して英文を和訳する。Summary - Comprehension 2 の答え合わせ。 Reading の新聞記事を読み直し、事前学修で分からなかったところを復習。事前学修で解いた Summary - Comprehension 2 の間違えたところを復習。
11 回	授業内容 事前学修 事後学修	Chapter 11: Key Expressions 1 - Newspaper English の答え合わせ、Reading の英文を新聞記事の構成 (Headline, Lead, Body) を確認して、それぞれの内容を確認する。 Chapter 11: Key Expressions 1 - Newspaper English の問題を解く。Reading の英文を読み、全体的の内容をまとめる。Headline, Lead, Body に分け、それぞれの部分で書かれていることをまとめる。英文を読みながら分からない単語を辞書で調べて理解できない英文をチェックする。 事前学修で解いた Key Expressions 1 - Newspaper English の間違ったところを復習。Reading の英文で分からなかったところをチェックしておく。
12 回	授業内容 事前学修 事後学修	Chapter 11: 段落ごとに英文全体の内容を確認して英文を和訳する。Summary - Comprehension 2 の答え合わせ。 Chapter 11: Reading の新聞記事を読み直し、事前学修で分からなかったところを復習。事前学修で解いた Summary - Comprehension 2 の間違えたところを復習。
13 回	授業内容 事前学修 事後学修	Chapter 14: Key Expressions 1 - Newspaper English の答え合わせ、Reading の英文を新聞記事の構成 (Headline, Lead, Body) を確認して、それぞれの内容を確認する。 Chapter 14: Key Expressions 1 - Newspaper English の問題を解く。Reading の英文を読み、全体的の内容をまとめる。Headline, Lead, Body に分け、それぞれの部分で書かれていることをまとめる。英文を読みながら分からない単語を辞書で調べて理解できない英文をチェックする。 事前学修で解いた Key Expressions 1 - Newspaper English の間違ったところを復習。Reading の英文で分からなかったところをチェックしておく。
14 回	授業内容 事前学修 事後学修	Chapter 14: 段落ごとに英文全体の内容を確認して英文を和訳する。Summary - Comprehension 2 の答え合わせ。 Chapter 14: Reading の新聞記事を読み直し、事前学修で分からなかったところを復習。事前学修で解いた Summary - Comprehension 2 の間違えたところを復習。
15 回	授業内容 事前学修 事後学修	試験と解説 第 1 回 - 第 14 回で読んだテキストの新聞記事を中心に exercises も含めて復習する。重要な単語、熟語を覚え、英文の内容を確認してテストに備える。 試験に出たところを再度見直す。

◆**教科書** 関関『Insights 2020』 村尾・深山他 2 名編著 金星堂

◆**参考書** 関関『英字新聞のリーディング』 水嶋いづみ編著 研究社

◆**成績評価基準** 4 日間出席をすることを前提として以下の様に評価します。出席することが前提となりますので成績に出席点が入りません。(授業内に行う小テストなど 20%、授業時の発表状況 20%、試験 60%)

### 注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談 (連絡先) に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

# 講座内容（シラバス）

## 〔英語学演習〕

佐藤 健児

◆**授業概要** G. N. Leech の Meaning and the English Verb の精読を通して、英語の未来表現の世界を探索します。Chapter 4 “The Expression of Future Time” の §98 (p.61) から読み進めていきます。予習をする際には、辞書や教科書の「研究課題」、参考書に挙げた文献等を参照しながら、丁寧に（語彙や文法の知識に基づいて）英文を「精読」するよう心がけてください。なお、必ず「和訳」をしてから授業に臨むこと。

◆**学修到達目標** 専門的な英文を読みこなす力を養成するとともに、個々の未来表現の微妙な意味の違いを理解し、説明できるようになること、それを本演習の目標とします。

◆**授業方法** 輪読形式で教科書を読み進めていきます。指名された学生には、教科書の音読と和訳をもらい、その後、教員が内容の確認、解説をしていきます。本授業の事前学修・事後学修の時間は各2時間を目安としています。

◆**履修条件**

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1回	授業内容：時（Time）と時制（Tense）について学ぶ。 事前学修：『英文法解説 一改訂三版一』の §141～3 を読んでおく。 事後学修：時（Time）と時制（Tense）の定義と種類について、説明できるようにしておく。
2回	授業内容：相（Aspect）について学ぶ。 事前学修：『英文法解説 一改訂三版一』の §141～3 を読んでおく。 事後学修：相（Aspect）の定義と種類について、説明できるようにしておく。
3回	授業内容：§98 の精読 事前学修：上記の範囲を精読し、ノートに和訳をしておく。 事後学修：予習の段階で不明だった点を中心に、授業内容の復習をしておく。
4回	授業内容：§99 の精読 事前学修：上記の範囲を精読し、ノートに和訳をしておく。 事後学修：予習の段階で不明だった点を中心に、授業内容の復習をしておく。
5回	授業内容：§100 の精読 事前学修：上記の範囲を精読し、ノートに和訳をしておく。 事後学修：予習の段階で不明だった点を中心に、授業内容の復習をしておく。
6回	授業内容：§101 の精読 事前学修：上記の範囲を精読し、ノートに和訳をしておく。 事後学修：予習の段階で不明だった点を中心に、授業内容の復習をしておく。
7回	授業内容：§103 の精読（§102 は扱いません） 事前学修：上記の範囲を精読し、ノートに和訳をしておく。 事後学修：予習の段階で不明だった点を中心に、授業内容の復習をしておく。
8回	授業内容：§104 の精読 事前学修：上記の範囲を精読し、ノートに和訳をしておく。 事後学修：予習の段階で不明だった点を中心に、授業内容の復習をしておく。
9回	授業内容：§106 の精読（§105 は扱いません） 事前学修：上記の範囲を精読し、ノートに和訳をしておく。 事後学修：予習の段階で不明だった点を中心に、授業内容の復習をしておく。
10回	授業内容：§107 の精読 事前学修：上記の範囲を精読し、ノートに和訳をしておく。 事後学修：予習の段階で不明だった点を中心に、授業内容の復習をしておく。
11回	授業内容：§108 の精読 事前学修：上記の範囲を精読し、ノートに和訳をしておく。 事後学修：予習の段階で不明だった点を中心に、授業内容の復習をしておく。
12回	授業内容：§109 の精読 事前学修：上記の範囲を精読し、ノートに和訳をしておく。 事後学修：予習の段階で不明だった点を中心に、授業内容の復習をしておく。
13回	授業内容：授業の前半の復習 事前学修：授業の前半部分の講義ノートを見直しておく。 事後学修：予習の段階で不明だった点を中心に、授業内容の復習をしておく。
14回	授業内容：授業の前半の復習 事前学修：授業の後半部分の講義ノートを見直しておく。 事後学修：予習の段階で不明だった点を中心に、授業内容の復習をしておく。
15回	授業内容：授業内試験と解説 事前学修：これまでの学習範囲を復習し、和訳、説明できるようにしておく。 事後学修：試験内容の復習をしておく。

◆**教科書** 凡例 『Meaning and the English Verb [Third Edition]』 Geoffrey Leech 著 澤田治美注釈 ひつじ書房 2011年  
凡例 『英文法解説 一改訂三版一』 江川泰一郎著 金子書房 1991年

◆**参考書** 凡例 『ことばの意味と使用 一日英語のダイナミズム』 澤田治美・高見健一著 鳳書房 2010年  
※授業では、（一部）コピーを配布します。

◆**成績評価基準** 予習状況・授業への取り組み（発表等）・試験等により総合的に評価します。予習をしていない場合は、大幅に限定します。

◆**授業相談（連絡先）**：初回授業時に案内します。

注意



# 講座内容（シラバス）

## 〔英語学演習〕

黒滝 真理子

- ◆**授業概要** 煩雑で混沌としたように捉えられる言語現象を理解するには、何らかの理論的枠組みが必要である。本講義では、物事の捉え方とことばの仕組みは密接に関連しているとみなす認知言語学（Cognitive Linguistics）の枠組みを通して、様々な日英語の言語現象について考えていく。その認知言語理論を基に文化と言語の関係を考察する力を養い、ことばに関する様々な現象への興味関心や洞察力を深めていく。
- ◆**学修到達目標** 文法と意味のメカニズムを明らかにするために、いかにして認知的作用が言語現象に反映されているかを考えながら、認知言語学の基本概念を体系的に身につける。その認知言語学が日英語の文法研究にどのような洞察を与えてくれるかを理解した上で、言語の本質と働きに関わる考察力を養うことを到達目標とする。さらに、専門的な文献を批判的に読むことによって、書評的能力を高め、論文作成への応用の仕方が体得できるようにする。
- ◆**授業方法** 事前学習で会得した先行知識をもとに、補足プリント教材も併用し、演習形式で授業を展開していく。各授業の後半で、その日の主な学びに対し、理解度を確認するためにリアクション・ペーパーの提出を求める。

### ◆履修条件

### ◆授業計画〔各90分〕

1回	授業内容	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介などを含めて英語学の学習方法や研究方法について理解し、授業の準備を具体的にこなすようにする。次に、認知言語学とは何かについて触れる。
	事前学修	シラバスを確認すると共に、教科書各章の冒頭にある導入説明を読み、講義全体を概観する。
	事後学修	講義ノートを確認して、卒論も見据えての自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。
2回	授業内容	言語理論の歴史における認知言語学の位置付けを概観し、何故認知言語学の重要性が高まってきたかを理解するために背景を捉える。
	事前学修	前回の授業内容を再読し、理解できた点とできなかった点を確認する。前もって教科書の該当部分と配布資料に目を通しておく。
	事後学修	学習項目を見直し、教科書の該当部分と配布資料を読みながら授業内容を確認・整理・理解し、疑問点があれば書き上げておく。また可能な場合は未習事項も読んでおく。
3回	授業内容	カテゴリー化・プロトタイプ・スキーマを学習する。
	事前学修	前回の授業内容を再読し、理解できた点とできなかった点を確認する。前もって教科書の該当部分と配布資料に目を通しておく。
	事後学修	学習項目を見直し、教科書の該当部分と配布資料を読みながら授業内容を確認・整理・理解し、疑問点があれば書き上げておく。また可能な場合は未習事項も読んでおく。
4回	授業内容	認知文法と構文について考察する。
	事前学修	前回の授業内容を再読し、理解できた点とできなかった点を確認する。前もって教科書の該当部分と配布資料に目を通しておく。
	事後学修	学習項目を見直し、教科書の該当部分と配布資料を読みながら授業内容を確認・整理・理解し、疑問点があれば書き上げておく。また可能な場合は未習事項も読んでおく。
5回	授業内容	意味拡張の仕組みと多義性を考察する。
	事前学修	前回の授業内容を再読し、理解できた点とできなかった点を確認する。前もって教科書の該当部分と配布資料に目を通しておく。
	事後学修	学習項目を見直し、教科書の該当部分と配布資料を読みながら授業内容を確認・整理・理解し、疑問点があれば書き上げておく。また可能な場合は未習事項も読んでおく。
6回	授業内容	認知能力としてのメタファーとメトニミーを学習し、具体例を考察する。
	事前学修	前回の授業内容を再読し、理解できた点とできなかった点を確認する。前もって教科書の該当部分と配布資料に目を通しておく。
	事後学修	学習項目を見直し、教科書の該当部分と配布資料を読みながら授業内容を確認・整理・理解し、疑問点があれば書き上げておく。また可能な場合は未習事項も読んでおく。
7回	授業内容	メタファーを応用した例文を解釈し、メタファーへの理解を深める。
	事前学修	前回の授業内容を再読し、理解できた点とできなかった点を確認する。前もって教科書の該当部分と配布資料に目を通しておく。
	事後学修	学習項目を見直し、教科書の該当部分と配布資料を読みながら授業内容を確認・整理・理解し、疑問点があれば書き上げておく。また可能な場合は未習事項も読んでおく。
8回	授業内容	日英語対照の観点から「ことばの意味変化」を考察する。
	事前学修	前回の授業内容を再読し、理解できた点とできなかった点を確認する。前もって教科書の該当部分と配布資料に目を通しておく。
	事後学修	学習項目を見直し、教科書の該当部分と配布資料を読みながら授業内容を確認・整理・理解し、疑問点があれば書き上げておく。また可能な場合は未習事項も読んでおく。
9回	授業内容	「文法化と主体化」について学習する。
	事前学修	前回の授業内容を再読し、理解できた点とできなかった点を確認する。前もって教科書の該当部分と配布資料に目を通しておく。
	事後学修	学習項目を見直し、教科書の該当部分と配布資料を読みながら授業内容を確認・整理・理解し、疑問点があれば書き上げておく。また可能な場合は未習事項も読んでおく。
10回	授業内容	対照研究の面白さと意義を考察する。
	事前学修	前回の授業内容を再読し、理解できた点とできなかった点を確認する。前もって教科書の該当部分と配布資料に目を通しておく。
	事後学修	学習項目を見直し、教科書の該当部分と配布資料を読みながら授業内容を確認・整理・理解し、疑問点があれば書き上げておく。また可能な場合は未習事項も読んでおく。
11回	授業内容	「日本語らしさ」と「英語らしさ」について分析し、整理する。
	事前学修	前回の授業内容を再読し、理解できた点とできなかった点を確認する。前もって教科書の該当部分と配布資料に目を通しておく。
	事後学修	学習項目を見直し、教科書の該当部分と配布資料を読みながら授業内容を確認・整理・理解し、疑問点があれば書き上げておく。また可能な場合は未習事項も読んでおく。
12回	授業内容	日英語の「事態把握」の相違を把握する。
	事前学修	前回の授業内容を再読し、理解できた点とできなかった点を確認する。前もって教科書の該当部分と配布資料に目を通しておく。
	事後学修	学習項目を見直し、教科書の該当部分と配布資料を読みながら授業内容を確認・整理・理解し、疑問点があれば書き上げておく。また可能な場合は未習事項も読んでおく。
13回	授業内容	認知言語学からみた「英語らしさ」「日本語らしさ」を考察する。
	事前学修	前回の授業内容を再読し、理解できた点とできなかった点を確認する。前もって教科書の該当部分と配布資料に目を通しておく。
	事後学修	学習項目を見直し、教科書の該当部分と配布資料を読みながら授業内容を確認・整理・理解し、疑問点があれば書き上げておく。また可能な場合は未習事項も読んでおく。
14回	授業内容	「認知言語学と文化学」を説き、「認知→言語→学」の流れをまとめる。本授業の総括及び理解度の確認をする。
	事前学修	授業内容をノートに整理し、今まで学習したことを復習し、疑問点を洗い出す。
	事後学修	最終試験に備えて、確認・理解を試みる。
15回	授業内容	最終試験及び講評
	事前学修	前回の授業内で指摘した重要箇所を確認し、最終試験に備える。
	事後学修	授業内容を復習・確認し、言語の本質と働きに関わる考察力を引き続き養っていく。

◆**教科書** 丸沼『事態の捉え方と述語のかたち—英語から見た日本語—』黒滝真理子著 開拓社 2019年

◆**参考書** 丸沼『新編 認知言語学キーワード事典』辻幸夫編 研究社 2013年  
丸沼『認知言語学大事典』辻幸夫編 朝倉書店 2019年

◆**成績評価基準** 授業参画度（40%）、課題と試験（60%）を総合的に評価する。

◆**授業相談（連絡先）**：授業の際にわからない箇所などがあった場合は臆せず授業前後に質問し、確実に身につけるようにすること。詳細は初回授業時に伝える。

## 注意

# 講座内容（シラバス）

## 〔英米文学演習〕

新井 英夫

◆**授業概要** シャーロット・ブロンテ (Charlotte Bronte 1816-55) の『ジェイン・エア』(Jane Eyre 1847) を読みます。作品を多面的な視点から読み、作品がどのように政治、社会制度等と結びついているのかを考えます。また、読み方の多重性を意識することを通して、小説そのものの読み方の新たな方向性について考察するきっかけとします。

◆**学修到達目標** ヴィクトリア朝と呼ばれる時代に活躍した女性作家シャーロット・ブロンテの代表作『ジェイン・エア』を読み、次に掲げる各号の目標を達成しましょう。

- ①近代英国小説の読解に必要な英語力がどの程度ものであるかを知ることができるようになる。
- ②大学入学までに学習してきた英語の基本事項を、小説の読解に活用することができるようになる。
- ③作品の構造、人物関係等を明確に説明できるようになる。
- ④作品のテーマについて説得力のある論を展開できるようになる。

◆**授業方法** 遠隔授業「オンデマンド型」(動画配信+課題研究)で実施します。授業が単なる日本語訳及び感想の確認に終わることのないように、結論に至るプロセスを皆さんには大切にしてもらいたいと思っています。英語が苦手な方の受講も歓迎です。また「英文を読む」と「小説を理解する」ことの差異を学生たちに理解してもらうべく、小説の読み方も丁寧に指導します。英文学科で学ぶ学生たちの「入門講座」となるように授業を展開できればと考えています。

◆**履修条件**

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1回	授業内容：【講義】 シャーロット・ブロンテの人物像に迫る。 事前学修：シャーロット・ブロンテの『ジェイン・エア』を通読する。 事後学修：講義で解説したシャーロット・ブロンテの評価について復習する。
2回	授業内容：【講義】 登場人物の確認 事前学修：カズオ・イシグロの『浮世の画家』を通読し、その感想をまとめる。 事後学修：授業前の感想と授業後の感想を比較する。
3回	授業内容：【演習&解説】 第1章から第3章までを当日配布資料に基づきすめる。 事前学修：第1章から第3章までの内容を把握する。 事後学修：講義で解説した第1章から第3章までの内容を復習する。
4回	授業内容：【演習&解説】 第4章から第6章までを当日配布資料に基づきすめる。 事前学修：第4章から第6章までの内容を把握する。 事後学修：講義で解説した第4章から第6章までの内容を復習する。
5回	授業内容：【演習&解説】 第7章から第9章までを当日配布資料に基づきすめる。 事前学修：第7章から第9章までの内容を把握する。 事後学修：講義で解説した第7章から第9章までの内容を復習する。
6回	授業内容：【演習&解説】 第10章から第12章までを当日配布資料に基づきすめる。 事前学修：第10章から第12章までの内容を把握する。 事後学修：講義で解説した第10章から第12章までの内容を復習する。
7回	授業内容：【演習&解説】 第13章から第15章までを当日配布資料に基づきすめる。 事前学修：第13章から第15章までの内容を把握する。 事後学修：講義で解説した第13章から第15章までの内容を復習する。
8回	授業内容：【演習&解説】 第16章から第18章までを当日配布資料に基づきすめる。 事前学修：第16章から第18章までの内容を把握する。 事後学修：講義で解説した第16章から第18章までの内容を復習する。
9回	授業内容：【演習&解説】 第19章から第21章までを当日配布資料に基づきすめる。 事前学修：第19章から第21章までの内容を把握する。 事後学修：講義で解説した第19章から第21章までの内容を復習する。
10回	授業内容：【演習&解説】 第22章から第25章までを当日配布資料に基づきすめる。 事前学修：第22章から第25章までの内容を把握する。 事後学修：講義で解説した第22章から第25章までの内容を復習する。
11回	授業内容：【演習&解説】 第26章から第29章までを当日配布資料に基づきすめる。 事前学修：第26章から第29章までの内容を把握する。 事後学修：講義で解説した第26章から第29章までの内容を復習する。
12回	授業内容：【演習&解説】 第30章から第33章までを当日配布資料に基づきすめる。 事前学修：第30章から第33章までの内容を把握する。 事後学修：講義で解説した第30章から第33章までの内容を復習する。
13回	授業内容：【演習&解説】 第34章から第38章までを当日配布資料に基づきすめる。 事前学修：第34章から第38章までの内容を把握する。 事後学修：講義で解説した第34章から第38章までの内容を復習する。
14回	授業内容：【演習】 小論文を作成し、グループ内で発表する。 事前学修：これまでの授業をふりかえり、ジェイン・エアの成長について考えをまとめる。 事後学修：担当教員の意見と自分の意見の違いを意識する。
15回	授業内容：【試験&まとめ】 試験とこれまでの授業のまとめを行う。 事前学修：これまでの授業内容を復習する。 事後学修：『ジェイン・エア』以外のシャーロット・ブロンテの作品を1冊読む。

◆**教科書** 【当日資料配布】 Google Classroom にて配信します。

◆**参考書** 丸沼『ジェイン・エア』(上) シャーロット・ブロンテ 光文社古典新訳文庫  
丸沼『ジェイン・エア』(下) シャーロット・ブロンテ 光文社古典新訳文庫  
丸沼『Jane Eyre』Charlotte Bronte London: Penguin 2006年

◆**成績評価基準** 課題1 (20%) + 課題2 (20%) + 課題3 (20%) + 課題4 (40%)

◆**授業相談 (連絡先) :**

注意

# 講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔英米文学演習〕

野口 肇

- ◆**授業概要** 単に英文を読んで日本語にするだけではなく、感性や想像力、人生経験などを働かせながら行間を読み、小説の楽しさ、面白さを味わってもらえたらと思います。
- ◆**学修到達目標** アメリカ南部作家のフラナリー・オコナーの“A Good Man Is Hard to Find”を読みますが、作品を通して英語の読み方を学ぶと同時に、合わせて南部の歴史や宗教、風土などについて学んで、異質な世界があることを知って欲しいと思います。
- ◆**授業方法** 予習を前提として、授業を進めていきます。受講生の数にもよりますが、テキストを音読して訳してもらい場合があります。
- ◆**履修条件** 令和元年度東京スクーリング（6月期）「英米文学演習 B」（野口肇）とは積み重ね不可。
- ◆**授業計画（各90分）**

1回	授業内容：フラナリー・オコナーについて 事前学修：アメリカぶんがくについて、予め調べておくこと 事後学修：フラナリー・オコナーについて思ったことをまとめておくこと
2回	授業内容：アメリカ南部の歴史 作品講読 pp.65-66 事前学修：アメリカ南部について、予め調べておくこと 事後学修：講読部分の復習 アメリカ南部の特殊性について、予め調べておくこと
3回	授業内容：アメリカ南部について 作品講読 pp.68-70 事前学修：アメリカ南部の文学について、予め調べておくこと 事後学修：講読部分の復習 アメリカ南部について、考えをまとめておくこと
4回	授業内容：フラナリー・オコナーが伝える聖書のイメージ 作品講読 pp.70-72 事前学修：アメリカ南部の宗教風土について、予め調べておくこと 事後学修：講読部分の復習 アメリカ南部の宗教風土について、考えをまとめておくこと
5回	授業内容：オコナーの世界と聖書 作品講読 pp.72-74 事前学修：聖書について、予め調べておくこと 事後学修：講読部分の復習 聖書について、考えをまとめておくこと
6回	授業内容：アメリカ南部の宗教風土について 作品講読 pp.75-78 事前学修：アメリカ南部の宗教について、予め調べておくこと 事後学修：講読部分の復習 アメリカ南部の宗教について、考えておくこと
7回	授業内容：作品に見られる音楽について 作品講読 事前学修：オコナーと音楽について、予め調べておくこと 事後学修：講読部分の復習 作品と音楽との関係について、考えをまとめておくこと
8回	授業内容：作品に見られる南部の貴族社会について 作品講読 事前学修：南部社会の貴族性について、予め調べておくこと 事後学修：講読部分の復習 南部の貴族社会について、考えをまとめておくこと
9回	授業内容：作品に見られる人種差別 作品講読 pp.85-87 事前学修：南部の人種差別について、予め調べておくこと 事後学修：講読部分の復習 南部の人種差別について、考えをまとめておくこと
10回	授業内容：作品に見られる人種差別 作品講読 pp.87-89 事前学修：人種差別の具体例について、予め調べておくこと 事後学修：講読部分の復習 新聞等から、人種差別の具体例を調べておくこと
11回	授業内容：作品にみられる南部英語 作品講読 pp.89-91 事前学修：南部英語について、予め調べておくこと 事後学修：講読部分の復習 南部英語の例を、フラナリー・オコナーの他の作品から探してみる
12回	授業内容：作品に見られる南部方言 作品講読 pp.91-92 事前学修：南部英語の源流の源流について、予め調べておくこと 作品講読 事後学修：講読部分の復習 他の南部作家から、南部英語を探してみる
13回	授業内容：南部文学とフラナリー・オコナー 作品講読 事前学修：南部文学について、調べておくこと 事後学修：講読部分の復習 南部文芸復興について、まとめておくこと
14回	授業内容：南部文芸復興について 作品講読 事前学修：南部文芸復興の作家について、調べておくこと 事後学修：講読部分の復習 南部文芸復興の作家の作品の一つ読んでおくこと
15回	授業内容：まとめ・筆記試験 事前学修：前回までの学修内容を復習しておくこと 事後学修：今まで学修した内容の復習、これからも英米文学の作品に親しんでください。

- ◆**教科書** 丸沼『Contemporary American Southern Writers』（現代アメリカ南部作家選） 中島時哉・小倉太一・田中保他編注 南雲堂
- ◆**参考書** 丸沼『フラナリー・オコナーの南部』 文化書房博文社  
丸沼『アメリカ南部の宗教風土』 文化書房博文社  
丸沼『見えるもから見えざるものへ——フラナリー・オコナーの小説世界』 文化書房博文社
- ◆**成績評価基準** 筆記試験の成績（70%）、予習及び授業への取り組み（30%）などにより、総合的に評価します。

### 注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

# 講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔倫理学概論〕

江川 晃

◆**授業概要** まず、古代ギリシアから現代に至る倫理学の基本的思想を学ぶ。さらに、現代の倫理的問題である環境倫理、生命倫理、技術倫理へと応用・発展させて、現代において何が問題であるのか、また、それはどこから生じているのか、深く、議論しながら皆さんと考察していく。

◆**学修到達目標** 科学・技術と人間社会との間に生じた摩擦が、新たな倫理的問題を惹き起こしている。そこで、現代の応用倫理である環境倫理、生命倫理、特に、クローン、ES 細胞、iPS 細胞におけるヒト胚、キメラの問題等、さらにはトランス・サイエンスについて具体的に考察・議論することで、「技術と社会の間に生じてきた倫理的問題」を深く洞察する批判的能力を養うことができる。

◆**授業方法** 毎回、皆さんの質問・感想・意見等を書いていただけます。次の授業で、それについてコメントし、討論をしましょう。

◆**授業計画 (各 90 分)**

1 回	授業内容: ガイダンス 1 倫理学とは何か 事前学修: シラバスと教科書の該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修: 配布プリントの倫理学の意味について復習すること。
2 回	授業内容: 2 倫理学の基本思想 (1)徳倫理学 ①ソクラテスの徳の定義 事前学修: 配布プリントのソクラテスをよく読んでおくこと。 事後学修: ソクラテスの徳の定義について復習しておくこと。
3 回	授業内容: ②プラトンの正義論と③アリストテレスの倫理的徳 事前学修: 配布プリントのプラトンとアリストテレスをよく読んでおくこと。 事後学修: 正義論と倫理的徳について説明できるようにしておくこと。
4 回	授業内容: (2)功利主義 (ベンサムとミル) 事前学修: 「功利主義のトロツク問題」について考えておこう。 事後学修: 功利主義の問題点を理解しておこう。
5 回	授業内容: (3)義務論 (カントの倫理学) 事前学修: 配布プリントの動機と善なる行為をよく理解しておくこと。 事後学修: 配布プリントの具体的問題を復習すること。
6 回	授業内容: (4)正義論とリパタリアニズム 事前学修: 配布プリントの該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修: ロールズとノージックの考えをまとめておこう。
7 回	授業内容: 3 環境倫理 (1)環境破壊と成長の限界 事前学修: 教科書と配布プリントの該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修: 配布プリントの具体的問題を復習すること。
8 回	授業内容: (2)世代間倫理と自然の権利 事前学修: 配布プリントの該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修: 配布プリントの具体的問題を復習すること。
9 回	授業内容: 4 生命倫理 (1)ヒトゲノム, AID, 代理母, 出生前診断 事前学修: 配布プリントの該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修: 配布プリントの具体的問題を復習すること。
10 回	授業内容: (2)脳死・臓器移植 事前学修: 教科書と配布プリントの該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修: 配布プリントの具体的問題を復習すること。
11 回	授業内容: (3)安楽死と緩和医療 事前学修: 教科書と配布プリントの該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修: 配布プリントの具体的問題を復習すること。
12 回	授業内容: (4)クローン, ES 細胞にけるヒト胚問題 事前学修: 教科書と配布プリントの該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修: 配布プリントの具体的問題を復習すること。
13 回	授業内容: (5) iPS 細胞におけるキメラ (ヒト動物集合胚) 問題 事前学修: 配布プリントの該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修: 配布プリントの具体的問題を復習すること。
14 回	授業内容: 5 トランス・サイエンスと技術倫理 事前学修: 配布プリントの該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修: 配布プリントの具体的問題を復習すること。
15 回	授業内容: 試験と解説 事前学修: 今までの重要箇所をまとめておくこと。 事後学修: 試験に出た箇所について復習しよう。

◆**教科書** 丸沼『生命倫理について考える』江川晃・嘉吉純夫・霞田光三著 文真堂  
〔当日資料配布〕パワポプリントを配布します。

◆**参考書** なし

◆**成績評価基準** 試験 (50%)、授業状況 (50%)

### 注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談 (連絡先) に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

# 講座内容（シラバス）

## 〔日本思想史Ⅰ〕

島田 健太郎

- ◆**授業概要** 今年度は、室町時代の思想について、主に室町時代前半の政道論と人間観を中心に検討します。当時の人々が何を「理想」とし、どのようなことを「良きこと」と考えたのか、「道」と「正直」をキーワードとして、中世の人々のものの考え方の一端に触れ、日本の文化の基底に流れる精神を考えてみたいと思っています。
- ◆**学修到達目標** 1. 室町時代の人々のものの考え方を学ぶことで、当時の思想的営為についての理解を深めるとともに、日本文化に対するより広い視野を獲得することができる。  
2. 当時の日本人の価値観について理解を深めることで、より普遍的な価値観・人間観を理解する1つの視点を得ることができる。  
3. 日本思想に対する自己の問題意識をより明確にし、それについて主体的に考察できるようになることを目標とする。
- ◆**授業方法** プリントとして配布する原典や史料を中心に、講義形式で行います。プリントには振り仮名と現代語訳を付けるので、古文・漢文の読解に自信がなくても構いません。質問は、授業後はもちろん、授業中でも大歓迎です。また適宜授業内容についての質疑応答の時間を設けたいと考えています。

◆**履修条件**

◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容：時代背景の概説(1) 事前学修：室町時代の歴史の流れについて一通り把握しておくこと。 事後学修：授業内容の整理、できた人物について一通り調べておく。
2回	授業内容：時代背景の概説(2) 事前学修：前回の復習に加え、室町時代の歴史の流れの把握に努める。 事後学修：授業内容を復習し、参考書などで用語を確認し、室町時代の自分なりのイメージを作っておく。
3回	授業内容：政道論(1)『太平記』に見られる政道論①……政道と仁政 事前学修：『太平記』について調べておく。 事後学修：授業内容の確認、「政道」、「天道」について、関連する参考書を読んで理解を深めるとよい。
4回	授業内容：政道論(2)『太平記』に見られる政道論②……儒学の徳治主義 事前学修：儒学の一通りの歴史、考え方について、参考書などで理解しておく。 事後学修：授業内容を復習し、徳治主義・『大学』の主張について理解を深める。
5回	授業内容：政道論(3)『神皇正統記』の政道論①……北畠親房について、執筆の動機 事前学修：北畠親房について一通り調べ、また南北朝の対立について復習しておく。 事後学修：授業内容を復習し、事前にプリントがある場合は読んでおくこと。
6回	授業内容：政道論(4)『神皇正統記』の政道論②……親房の考える仁政について 事前学修：『太平記』の仁政論を確認しておく。 事後学修：『正統記』と『太平記』の仁政について、相違点と共通点を理解する。
7回	授業内容：政道論(5)『神皇正統記』の政道論③……三種の神器論など 事前学修：「三種の神器」について調べておく。 事後学修：親房の主張の確認、できれば他の参考書を読んで親房の思想についてより理解を深めておく。
8回	授業内容：政道論(6)『難太平記』・『梅松論』に見られる政道論……仁政と天道 事前学修：『難太平記』、『梅松論』の辞書的な知識を得ておくこと。 事後学修：ここまでの内容を復習し、疑問点と共にノートにまとめておくこと。
9回	授業内容：『武家家訓』に見られる「良き」武士 事前学修：斯波義将について調べておく。 事後学修：ここまで見て来た政道論の考え方と比較して、より理解を深める。
10回	授業内容：『おとぎそうし』に見られる人間観 事前学修：『おとぎそうし』について一通り調べておく。室町時代の社会について確認しておく。 事後学修：授業内容を復習し、現代のわれわれの価値観と比較検討してみる。
11回	授業内容：『徒然草』の人間観(1)……吉田兼好について、『徒然草』について 事前学修：吉田兼好と『徒然草』について、一通り調べておく。 事後学修：兼好の考える理想的生き方を確認するとともに、同時代の他の思想との違いを認識しておく。
12回	授業内容：『徒然草』の人間観(2)……遁世者の心得、仏道と無常 事前学修：中世の「遁世」について、ある程度の知識があるとよい。 事後学修：「正直」、「自然」、「作為の否定」ということについて、自分なりに理解した所をまとめてみる
13回	授業内容：王朝憧憬の思想……兼好、親房、義経記 事前学修：『義経記』について調べておく。 事後学修：授業内容を確認し、疑問点を自分なりにまとめてみる。
14回	授業内容：冷えさびの美……兼好の美意識、世阿弥の冷え枯れ、心敬の連歌論 事前学修：世阿弥と心敬について、辞書などである程度の知識を得ておくこと。 事後学修：ここまでの内容を復習し、自分の問題意識を鮮明にしておくこと。
15回	授業内容：まとめと試験 事前学修：各自の問題意識に基づいて、自分の見解を考えておくこと。 事後学修：興味を持った事柄について、他の文献などを読み、問題関心と視野をさらに広げるようにする。

- ◆**教科書** 当日資料配布 教科書は使用しません。初日にプリントを配布します
- ◆**参考書** 授業中適宜指示します。
- ◆**成績評価基準** 試験の成績を基準に、授業への取り組みなどを勘案して、総合的に評価します。
- ◆**授業相談（連絡先）**：初回授業時に案内します。

注意

# 講座内容 (シラバス)

## 〔哲学演習〕

興津 香織

- ◆**授業概要** インド二元論哲学のテキストを講読する。インド思想について、その本流であるバラモン教系統の諸思想を中心にインド思想史を概観し各思想の特徴を説明した後、インドにおいて誕生した仏教との関係性にも着目して理解を深める。インド思想の根底にある基本的な考え方や専門用語も学び、インドにおける諸思想の理解に役立たせる。
- ◆**学修到達目標** インド諸思想を学び、インドにおいて正統と見なされているバラモン系統の思想を知ることが出来る。それにより仏教との思想的な違いを理解し、説明できる。現代のインドへの理解を深めることができる。インドにおける諸思想を思想史の中で理解し、インド思想を全体的に把握することにより、インドの人々が古来から共通的に有する思想や宗教を知り、仏教の位置付けをも確認することができる。
- ◆**授業方法** 基本的には講義形式で専門用語や思想史的背景、流れ、要点などを解説しながら教科書を読み進める。理解のために資料を配付することもある。受講生にも分担して読んでもらう(発表)。担当者以外にもコメントを求める。必要に応じて、映像資料も使用する。
- ◆**履修条件**
- ◆**授業計画 (各 90 分)**

1回	授業内容: 講義概要、講義の進め方、参考文献の紹介 事前学修: 通信教育教材『宗教学基礎講読』の第七章(インド人の宗教)と第八章(仏教)を読んでおく 事後学修: 配付資料を読んで、授業内容を確認する
2回	授業内容: インド思想史の流れと基本情報の解説 インダス文明からマウリヤ王朝まで 事前学修: 配付資料を読んでおく(読む箇所は前の回にて指定する) 事後学修: 授業の内容をノートに整理し、配付資料を読み返し、内容を整理・確認する
3回	授業内容: インド思想史の流れと基本情報の解説 仏教の消滅まで 事前学修: 配付資料を読んでおく(読む箇所は前の回にて指定する) 事後学修: 授業の内容をノートに整理し、配付資料を読み返し、内容を整理・確認する
4回	授業内容: 正統バラモン教系統の哲学概説Ⅰ: サーンキヤ学派とヨーガ学派 インド二元論について解説 事前学修: 配付資料を読んでおく(読む箇所は前の回にて指定する) 事後学修: 配付資料を読み返し、インド二元論の概要について整理・確認し説明できるようにする
5回	授業内容: 正統バラモン教系統の哲学概説Ⅱ: インド一元論、多元論について解説 事前学修: 配付資料を読んでおく(読む箇所は前の回にて指定する) 事後学修: 配付資料を読み返し、インド一元論および多元論の概要について整理・確認し説明できるようにする
6回	授業内容: 『古典サーンキヤ体系概説』 サーンキヤ・カーリカー(1)序説 人間を苦しめる三つの苦とそれを除去する方法について 事前学修: 配付資料を読んでおく(読む箇所は前の回にて指定する) 事後学修: 授業の内容をノートに整理し、配付資料を読み返し、内容を整理・確認する
7回	授業内容: 『古典サーンキヤ体系概説』 サーンキヤ・カーリカー(2)原質とそれの開展① 未開展のものおよびそれから開展したものについて 万物の“もと”とは 事前学修: 配付資料を読んでおく(読む箇所は前の回にて指定する) 事後学修: 授業の内容をノートに整理し、配付資料を読み返し、原質について整理・確認し説明できるようにする
8回	授業内容: 『古典サーンキヤ体系概説』 サーンキヤ・カーリカー(2)原質とそれの開展② 未開展のものおよびそれから開展したものについて 万物の“流出” 事前学修: 配付資料を読んでおく(読む箇所は前の回にて指定する) 事後学修: 授業の内容をノートに整理し、配付資料を読み返し、開展したものについて整理・確認し説明できるようにする
9回	授業内容: 『古典サーンキヤ体系概説』 サーンキヤ・カーリカー(3)精神原理 二元論の“要” 事前学修: 配付資料を読んでおく(読む箇所は前の回にて指定する) 事後学修: 授業の内容をノートに整理し、配付資料を読み返し、精神原理について整理・確認し説明できるようにする
10回	授業内容: 『古典サーンキヤ体系概説』 サーンキヤ・カーリカー(4)原質から開展した諸原理 理性、自我意識、十一器官、五素粒子、五元素とは 事前学修: 配付資料を読んでおく(読む箇所は前の回にて指定する) 事後学修: 授業の内容をノートに整理し、配付資料を読み返し、理性、自我意識、十一器官、五素粒子、五元素について整理・確認し説明できるようにする
11回	授業内容: 『古典サーンキヤ体系概説』 サーンキヤ・カーリカー(5)輪廻の主体 インド思想の重要概念である輪廻について検討する 事前学修: 配付資料を読んでおく(読む箇所は前の回にて指定する) 事後学修: 授業の内容をノートに整理し、配付資料を読み返し、輪廻について整理・確認し説明できるようにする
12回	授業内容: 『古典サーンキヤ体系概説』 サーンキヤ・カーリカー(6)輪廻の様相① 微細な有機体とは 事前学修: 配付資料を読んでおく(読む箇所は前の回にて指定する) 事後学修: 授業の内容をノートに整理し、配付資料を読み返し、内容を整理・確認する
13回	授業内容: 『古典サーンキヤ体系概説』 サーンキヤ・カーリカー(6)輪廻の様相② 解脱をめぐるサーンキヤ最大の課題点を検討する 事前学修: 配付資料を読んでおく(読む箇所は前の回にて指定する) 事後学修: 授業の内容をノートに整理し、配付資料を読み返し、解脱について整理・確認し説明できるようにする
14回	授業内容: 『古典サーンキヤ体系概説』 サーンキヤ・カーリカー(7)解脱 解脱について検討する 事前学修: 配付資料を読んでおく(読む箇所は前の回にて指定する) 事後学修: 配付資料を読み返し、これまで学んだインド諸思想について整理・確認し説明できるようにする
15回	授業内容: 試験および解説 事前学修: 14回までに学んだ内容を全体的に整理し、不明な言葉や項目などは調べる 事後学修: 授業内容を確認・理解し、定着させる

- ◆**教科書** 当日資料配布
- ◆**参考書** 講義内において指示します。
- ◆**成績評価基準** 平常点(50%)、試験(50%):発表やコメント状況などの授業参加の姿勢と最終回に実施する試験による総合評価。一定以上の出席回数(回数は公表しない)がなければ評価はつけない。
- ◆**授業相談(連絡先)**: 初回授業時に案内します。

### 注意

# 講座内容（シラバス）

## 〔日本史入門〕

小川 雄

◆**授業概要** 日本史の流れを通観する「日本史概説」に対し、日本史に関する論点の見つけ方の修得を目指します。今回は、とくの対外関係を通じた

◆**学修到達目標** 1 対外関係から、日本史の論点を見出すことができるようになる。  
2 日本史における「東アジア」「東ユーラシア」「アジア太平洋」などの地域概念の意味を説明できるようにする。

◆**授業方法** スクーリングの期間中に、プリントと解説動画を、1つの授業ごとに、3度に分けて配信します。受講者はその教材を閲覧・視聴して、時間内に要点を整理して投稿してください。質問は、チャット・掲示板などで適宜受け付けます。（詳細は、ガイダンス資料で説明します。8月31日（初日）にチャットによる補足もおこないますので、かならず参加してください）

◆**履修条件**

◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容：ガイダンス 事前学修：日本の対外関係史について、主要な論点をイメージする。 事後学修：第2回以降の授業に向け、自分が持つ対外関係史の基礎知識を確認しておく。
2回	授業内容：東アジアか、東ユーラシアか 事前学修：日本周辺の地域概念についての知識を整理しておく。 事後学修：授業の内容をノートに要約して、自分なりの論点をイメージする。
3回	授業内容：日本と韓半島（前近代） 事前学修：前近代の日韓関係についての知識を整理しておく。 事後学修：授業の内容をノートに要約して、自分なりの論点をイメージする。
4回	授業内容：日本と韓半島（近現代） 事前学修：近現代の日韓関係についての知識を整理しておく。 事後学修：授業の内容をノートに要約して、自分なりの論点をイメージする。
5回	授業内容：日本と「中華」（前近代） 事前学修：前近代の日中関係についての知識を整理しておく。 事後学修：授業の内容をノートに要約して、自分なりの論点をイメージする。
6回	授業内容：日本と「中華」（近現代） 事前学修：前近代の日中関係についての知識を整理しておく。 事後学修：授業の内容をノートに要約して、自分なりの論点をイメージする。
7回	授業内容：日本にとってのモンゴル・満洲（前近代） 事前学修：前近代のモンゴル・満洲についての知識を整理しておく。 事後学修：授業の内容をノートに要約して、自分なりの論点をイメージする。
8回	授業内容：日本にとってのモンゴル・満洲（近現代） 事前学修：近現代のモンゴル・満洲についての知識を整理しておく。 事後学修：授業の内容をノートに要約して、自分なりの論点をイメージする。
9回	授業内容：境界地域としての九州 事前学修：九州の歴史についての知識を整理しておく。 事後学修：授業の内容をノートに要約して、自分なりの論点をイメージする。
10回	授業内容：境界地域としての東北・北海道 事前学修：東北・北海道の歴史についての知識を整理しておく。 事後学修：授業の内容をノートに要約して、自分なりの論点をイメージする。
11回	授業内容：境界地域としての沖縄・台湾 事前学修：沖縄・台湾の歴史についての知識を整理しておく。 事後学修：授業の内容をノートに要約して、自分なりの論点をイメージする。
12回	授業内容：日本とヨーロッパ①（交易の時代） 事前学修：「鎖国」前後における日欧関係についての知識を整理しておく。 事後学修：授業の内容をノートに要約して、自分なりの論点をイメージする。
13回	授業内容：日本とヨーロッパ②（ロシア・アメリカによる転換） 事前学修：「開国」前後における日米関係・日露関係についての知識を整理しておく。 事後学修：授業の内容をノートに要約して、自分なりの論点をイメージする。
14回	授業内容：境界からみた日本史論（実習） 事前学修：第2回～第13回の内容を踏まえ、日本史における対外関係のイメージ整理しておく。 事後学修：授業の内容をノートに要約して、自分なりの論点をイメージする。
15回	授業内容：試験と解説 事前学修：これまでの授業内で説明した日本史（対外関係）の論点を整理する。 事後学修：授業内容を振り返り、日本史に関する自己の論点が適切かどうかを思索する。

◆**教科書** 〔当日資料配布〕

◆**参考書** 〔丸沼〕日本史について、自分が興味のあるテーマに合った書籍を1・2冊を任意に講読する。  
※判断に迷う場合は、『日本の歴史』全26巻（講談社〈学術文庫としても刊行〉）か『全集 日本の歴史』全17巻（小学館）の中から選んでください。また、購入義務はありませんので、図書館等を利用していただいても大丈夫です。

◆**成績評価基準** 試験（50%）  
⇒第1回～第14回全授業について、課題を提出した学生にのみ、最終試験の受験資格を認める。  
授業参画度（50%）  
⇒受講後に提出した要点整理で判断する。

◆**授業相談（連絡先）**：開講期間中に、チャット・掲示板などで質問を受け付けます。また、希望者には、メールアドレスも伝えます。

注意

# 講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔考古学概説〕

山本 孝文

- ◆**授業概要** 考古学は過去の人類が遺した様々な痕跡である遺構・遺跡から歴史の一片を復元する分野であり、文献史学や自然科学などの様々な分野を複合・応用することで多様な研究方法・解釈が提示できる総合的学問分野でもある。本講義では、まず考古学の学問的特徴についての理解を促し、考古学の学問としての歴史(考古学史)を紹介しながら、世界と日本において考古学がどのように発展してきたのかを概観する。また、日本の考古学の研究の歴史を個別に紐解きながら、旧石器時代、縄文時代、弥生時代などの考古学研究が扱う様々な時代的枠組みを解説する。
- ◆**学修到達目標** 歴史研究の様々な方法を理解し、その中で考古学の研究が果たしている役割について説明することができるようにする。考古学の研究法と研究対象を把握し、説明することができるようにする。過去の社会と現代社会を比較することで過去の人類の文化に触れ、その差を感じることができるようにする。考古学史を理解し、現在の日本考古学の枠組みがどのようにできあがってきたのかを理解できるようにする。
- ◆**授業方法** 講義はプロジェクトを用い、写真・図面などを見せながら進める。必要に応じてメモを取り、講義内容の骨子がつかめるようにしておくこと。リアクションペーパーの作成と同時に講義への質問事項も受け付ける。授業を受けながら内容を理解するとともに、疑問点などを提示できるようにする。個別テーマに即した発掘調査の事例なども随時紹介する。
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容 考古学とは何か 考古学と文献史学との違い、研究対象について解説する。	事前学修 考古学の理論と方法論に関する概説書を読んでおく。	事後学修 授業の内容をノートにまとめ直し、読み返して理解できるようにする。
2 回	授業内容 考古学の様々な種類 考古学研究の多様な方法について解説し、研究方法の多様性を学ぶ。	事前学修 考古学の理論と方法論に関する概説書を読んでおく。	事後学修 授業の内容をノートにまとめ直し、読み返して理解できるようにする。
3 回	授業内容 過去への関心のはじまり 考古学が近代学問として成立する以前の遺跡や遺物に対する関心、考古学的思考の芽生えについて理解する。	事前学修 各自が興味がある地域・時代の遺跡や発掘調査などの概要を調べてみる。	事後学修 授業の内容をノートにまとめ直し、読み返して理解できるようにする。
4 回	授業内容 近代考古学の成立 実証的学問への関心が芽生えた日本の江戸時代の歴史研究と、明治時代に考古学が成立した時代背景・状況を理解する。	事前学修 各自が興味がある地域・時代の遺跡や発掘調査などの概要を調べてみる。	事後学修 授業の内容をノートにまとめ直し、読み返して理解できるようにする。
5 回	授業内容 日本人の起源と人種・民族論争 明治時代の考古学・人類学界の大きな論点である日本人の起源と人種・民族に関する論争を知り、現時点での日本人起源論を理解する。	事前学修 各自が興味がある地域・時代の遺跡や発掘調査などの概要を調べてみる。	事後学修 授業の内容をノートにまとめ直し、読み返して理解できるようにする。
6 回	授業内容 考古学による時代区分と土器の役割 考古学で最も普遍的かつ重要な資料である土器の特性を知り、土器が考古学・歴史研究に果たした役割を理解する。	事前学修 各自が興味がある地域・時代の遺跡や発掘調査などの概要を調べてみる。	事後学修 授業の内容をノートにまとめ直し、読み返して理解できるようにする。
7 回	授業内容 旧石器時代の認識と研究の歴史 日本において旧石器時代の存在が認識されたときの状況とその後の研究の歴史と挫折を理解する。	事前学修 前回までの授業の内容から、補足説明が必要な点や疑問などをまとめておく。	事後学修 授業の内容をノートにまとめ直し、読み返して理解できるようにする。
8 回	授業内容 縄文土器研究とミネルヴァ論争 日本考古学の特徴である精緻な土器編年の研究と、土器編年に関わる論争について理解する。	事前学修 前回までの授業の内容から、補足説明が必要な点や疑問などをまとめておく。	事後学修 授業の内容をノートにまとめ直し、読み返して理解できるようにする。
9 回	授業内容 弥生集落の発掘とイメージ形成 弥生時代を主な例に挙げ、大規模発掘と研究によって各時代のイメージが変化する状況を理解する。	事前学修 前回までの授業の内容から、補足説明が必要な点や疑問などをまとめておく。	事後学修 授業の内容をノートにまとめ直し、読み返して理解できるようにする。
10 回	授業内容 高松塚古墳の発掘と古墳壁画の保存 1970年代以降の考古学ブームの火付け役となった高松塚古墳の調査とその後展開について理解する。	事前学修 前回までの授業の内容から、補足説明が必要な点や疑問などをまとめておく。	事後学修 授業の内容をノートにまとめ直し、読み返して理解できるようにする。
11 回	授業内容 装飾古墳研究の現状と課題 九州や関東・東北を中心に分布するいわゆる装飾古墳とは何かを知り、研究の現状と展望を理解する。	事前学修 前回までの授業の内容から、補足説明が必要な点や疑問などをまとめておく。	事後学修 授業の内容をノートにまとめ直し、読み返して理解できるようにする。
12 回	授業内容 須恵器編年と稲荷山鉄剣の発見 古墳時代研究の枠組みとなっている須恵器の研究状況を知り、古墳時代の年代観の基準資料について理解する。	事前学修 前回までの授業の内容から、補足説明が必要な点や疑問などをまとめておく。	事後学修 授業の内容をノートにまとめ直し、読み返して理解できるようにする。
13 回	授業内容 古代都城研究の現在① 飛鳥時代の歴史に大きく関わる都城遺跡と出土遺物に関する知識を得、古代における考古学研究の現状を理解する。	事前学修 前回までの授業の内容から、補足説明が必要な点や疑問などをまとめておく。	事後学修 授業の内容をノートにまとめ直し、読み返して理解できるようにする。
14 回	授業内容 古代都城研究の現在② 奈良時代の歴史に大きく関わる都城遺跡と出土遺物に関する知識を得、古代における考古学研究の現状を理解する。	事前学修 前回までの授業の内容から、補足説明が必要な点や疑問などをまとめておく。	事後学修 授業の内容をノートにまとめ直し、読み返して理解できるようにする。
15 回	授業内容 まとめと確認 授業を通して学んだ内容をまとめ、それぞれのトピックが現在の通史的な考古学研究のどの部分に位置付けられるのか確認する。	事前学修 前回までの内容をノートにまとめ直し、全体の授業の流れが理解できるようにしておく。	事後学修 授業の内容をノートにまとめ直し、読み返して理解できるようにする。

◆**教科書** 〔当日資料配布〕

◆**参考書** 〔図〕『日本考古学のあゆみ』 勅使河原彰 名著出版 1995年

◆**成績評価基準** 試験 60%、リアクションペーパー 30%、授業参画度 10%

### 注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。



# 講座内容 (シラバス)

## 〔西洋史演習Ⅰ・Ⅱ〕

伊藤 雅之

◆**授業概要** 西洋古代史に関連する史料や歴史家を題材としつつ、対象とする人間や事件などについての事実関係、およびそれらの様々な側面を明らかにするための学問としての歴史学に触れ、具体的事例の検討を行いながらその技術を磨いていく。授業は概ね、過去の歴史家たちがどのようにこれらに取り組んだのかといった点などへの解説と、受講者自身による報告により進めていくことを予定している。

◆**学修到達目標** 歴史的、あるいはまた現代社会的事象を、関連情報を多角的に検討しつつ自分なりに分析し、かつそれを他者に論理的に説明し、また異なる見解を持つ他者と理性的に、そして一定のルールを踏まえながらディスカッションする術を身につける。また、自身を取り巻く様々な出来事の中に自分なりの問いを見出し、それを適切な形に整えつつ、しばしば他者に発し、また自分としての解答を作り上げるといった作業に親しむ。

◆**授業方法** 講義、受講者自身による史料分析および議論のための各種準備作業、そして受講者それぞれの見解の提示とディスカッションという3段階構成を、3日にわたり続ける。また、教科書は特に指定しないが、参考書として挙げた2冊のうちの少なくとも1冊を事前に読んでおくこと。加えて、ディスカッションやディベートに関する何らかの書籍(初心者向けでよい)に目を通しておくことを推奨する。

◆**履修条件**

◆**授業計画〔各90分〕**

1回	<p><b>授業内容</b> 古代ギリシアにおける歴史学の勃興と、それに関わった人々がどのような意図や問題意識を持ちつつそれぞれの作品執筆に向かったのかを講義する。</p> <p><b>事前学修</b> 参考書として挙げた文献を熟読しておく。〔「歴史とは何か」のⅠ-Ⅱ章くらいを想定〕。</p> <p><b>事後学修</b> 講義の中で取り上げた歴史家およびその作品について、日本語に翻訳されたものやそれと併せて収録されている解説などを利用しつつ調べる。</p>
2回	<p><b>授業内容</b> ヘレニズム時代にも視野を広げつつ、古代ギリシアにおける歴史学の展開について、引き続き講義する。</p> <p><b>事前学修</b> 参考書として挙げた文献を熟読しておく。〔「歴史とは何か」のⅢ-Ⅳ章くらいを想定〕。</p> <p><b>事後学修</b> 講義の中で取り上げた歴史家およびその作品について、日本語に翻訳されたものやそれと併せて収録されている解説などを利用しつつ調べる。</p>
3回	<p><b>授業内容</b> 教員が用意した史料を読み、また解説を受けつつ、そこからどのような情報、そして状況が読み取れるかを受講者各自が考える。</p> <p><b>事前学修</b> 参考書として挙げた文献を熟読しておく。〔「歴史とは何か」のⅤ-Ⅵ章くらいを想定〕。</p> <p><b>事後学修</b> 取り上げられた史料に関連する情報を、教員が用意した史料・文献目録を利用しつつ収集する。</p>
4回	<p><b>授業内容</b> 教員が用意した史料を読み、また解説を受けつつ、そこからどのような情報、そして状況が読み取れるかを受講者各自が考える。さらに、それを他者に説明するための準備をする。</p> <p><b>事前学修</b> 高校世界史の教科書などを用いて、古代ギリシアの歴史について復習しておく。</p> <p><b>事後学修</b> 取り上げられた史料に関連する情報を、教員が用意した史料・文献目録を利用しつつ収集し、後日レポートにまとめる。</p>
5回	<p><b>授業内容</b> 教員が用意した史料から読み取れる情報や状況について受講者各人が考えるところを述べ、また他の受講者の述べるところについてコメントや質問をする。</p> <p><b>事前学修</b> ディスカッションやディベートに関する参考書の類に目を通しておく(特にこれではなければならないということはないが、中井浩一「正しく読み、深く考える日本語論理トレーニング」(講談社、2009年)の第1章・第2章くらいを想定)。</p> <p><b>事後学修</b> 授業内で行った自身の見解の発表やそれに付随する質疑応答の内容を踏まえつつ、取り上げられた史料に関する自身の分析を後日レポートにまとめる。</p>
6回	<p><b>授業内容</b> 古代ローマの共和政末期における歴史叙述と、これに携わった人々の問題意識、および彼らがそれにどう取り組んだかについて講義する。</p> <p><b>事前学修</b> 参考書として挙げた文献を熟読しておく。〔「歴史を逆なでに読む」の第1章くらいを想定〕。</p> <p><b>事後学修</b> 講義の中で取り上げた歴史家およびその作品について、日本語に翻訳されたものやそれと併せて収録されている解説などを利用しつつ調べる。</p>
7回	<p><b>授業内容</b> 帝政期にも視野を広げつつ、古代ローマにおける歴史学の展開について、引き続き講義する。</p> <p><b>事前学修</b> 参考書として挙げた文献を熟読しておく。〔「歴史を逆なでに読む」の第2章くらいを想定〕。</p> <p><b>事後学修</b> 講義の中で取り上げた歴史家およびその作品について、日本語に翻訳されたものやそれと併せて収録されている解説などを利用しつつ調べる。</p>
8回	<p><b>授業内容</b> 教員が用意した史料を読み、また解説を受けつつ、そこからどのような情報、そして状況が読み取れるかを受講者各自が考える。</p> <p><b>事前学修</b> 参考書として挙げた文献を熟読しておく。〔「歴史を逆なでに読む」の第3章くらいを想定〕。</p> <p><b>事後学修</b> 取り上げられた史料に関連する情報を、教員が用意した史料・文献目録を利用しつつ収集する。</p>
9回	<p><b>授業内容</b> 教員が用意した史料を読み、また解説を受けつつ、そこからどのような情報、そして状況が読み取れるかを受講者各自が考える。さらに、それを他者に説明するための準備をする。</p> <p><b>事前学修</b> 高校世界史の教科書などを用いて、古代ローマの歴史について復習しておく。</p> <p><b>事後学修</b> 取り上げられた史料に関連する情報を、教員が用意した史料・文献目録を利用しつつ収集し、後日レポートにまとめる。</p>
10回	<p><b>授業内容</b> 教員が用意した史料から読み取れる情報や状況について受講者各人が考えるところを述べ、また他の受講者の述べるところについてコメントや質問をする。</p> <p><b>事前学修</b> レポートや論文の作成方法に関する参考書の類に目を通しておく(第5回のところで挙げた中井浩一「正しく読み、深く考える日本語論理トレーニング」(講談社、2009年)の第3章・第4章などでもよい)。</p> <p><b>事後学修</b> 授業内で行った自身の見解の発表やそれに付随する質疑応答の内容を踏まえつつ、取り上げられた史料に関する自身の分析を後日レポートにまとめる。</p>
11回	<p><b>授業内容</b> 古代ギリシアの碑文史料について講義する。</p> <p><b>事前学修</b> 参考書として挙げた文献を熟読しておく。〔「歴史を逆なでに読む」の第4章くらいを想定〕。</p> <p><b>事後学修</b> 講義の中で取り上げた史料を再読し、そこからどのような情報、そして状況が読み取れるかを考え、文章にまとめる。</p>
12回	<p><b>授業内容</b> ローマにも視野を広げつつ、古代地中海世界における碑文史料について講義する。</p> <p><b>事前学修</b> 参考書として挙げた文献を熟読しておく。〔「歴史を逆なでに読む」の第5章くらいを想定〕。</p> <p><b>事後学修</b> 講義の中で取り上げた史料を再読し、そこからどのような情報、そして状況が読み取れるかを考え、文章にまとめる。</p>
13回	<p><b>授業内容</b> 教員が用意した史料を読み、また解説を受けつつ、そこからどのような情報、そして状況が読み取れるかを受講者各自が考える。</p> <p><b>事前学修</b> 高校世界史の教科書などを用いて、キリスト教の始まりや他のギリシア・ローマの宗教・哲学について復習しておく。</p> <p><b>事後学修</b> 取り上げられた史料に関連する情報を、教員が用意した史料・文献目録を利用しつつ収集する。</p>
14回	<p><b>授業内容</b> 教員が用意した史料を読み、また解説を受けつつ、そこからどのような情報、そして状況が読み取れるかを受講者各自が考える。さらに、それを他者に説明するための準備をする。</p> <p><b>事前学修</b> ディスカッションやディベートに関する参考書の類に目を通しておく(前掲「正しく読み、深く考える日本語論理トレーニング」の第5章・第6章くらいを想定)。</p> <p><b>事後学修</b> 取り上げられた史料に関連する情報を、教員が用意した史料・文献目録を利用しつつ収集し、後日レポートにまとめる。</p>
15回	<p><b>授業内容</b> 教員が用意した史料から読み取れる情報や状況について受講者各人が考えるところを述べ、また他の受講者の述べるところについてコメントや質問をする。</p> <p><b>事前学修</b> レポートや論文の作成方法に関する参考書の類に目を通しておく(前掲「正しく読み、深く考える日本語論理トレーニング」の第7章・第8章などでもよい)。</p> <p><b>事後学修</b> 授業内で行った自身の見解の発表やそれに付随する質疑応答の内容を反芻しつつ、自身の見解を修正する必要性への考察と、その内容をより質の高いプレゼンテーションや文章により説明する方法を考える。</p>

◆**教科書** 〔当日資料配布〕

◆**参考書** 〔5選〕『歴史とは何か』E・H・カー(清水幾太郎訳、岩波書店、1962年)  
〔5選〕『歴史を逆なでに読む』C・ギンズブルク(上村忠男訳、みすず書房、2003年)

◆**成績評価基準** レポート1回(40%) + 報告(60%)

レポートは授業終了から概ね1週間後を提出締め切りとする予定  
報告に関しては授業内で作成してもらった報告用レジュメも評価対象とする

◆**授業相談(連絡先)**: 初回授業時に案内します。

**注意**

# 講座内容（シラバス）

## 〔西洋経済史〕

上村 能弘

◆**授業概要** この授業では、主に 1870 年までの世界資本主義の歴史的展開を扱う。すなわち、16-18 世紀のいわば前史と、イギリス・ランカシアの綿工業を主導産業とする世界「産業革命」が、議論の中心である。単なる史実の羅列ではなく、それらのもつ意義を考究することとする。

また、「経済史」は経済学の基礎的科目のひとつであることから、この授業が受講生諸君の本格的な経済学研究の出発点となるよう特に留意したい。

- ◆**学修到達目標**
1. 世界資本主義経済の歴史的な成立過程を説明することができる。
  2. 特に 1870 年代までの世界商品市場の歴史的な展開を説明することができる。
  3. 特に 1870 年代までの世界金融市場の歴史的な展開を説明することができる。
  4. 上記を総合し、世界資本主義経済の歴史的な本質や特徴を説明することができる。

◆**授業方法** 講義形式。適宜、質問と討論を行う予定である。また、観念的な理解に陥ることがないように、可能な限り具体的な史料によりながら講義を進めるつもりである。講義の進捗に合わせ、参考図書や補足的な史料を紹介するので、教科書とあわせ、これらを図書館等で大いに利用されたい。

◆**履修条件**

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	「経済史」とはどんな学問か 経済学における「経済史」の位置づけを明らかにする。
	事前学修	テキストの 23～42 ページを読んで、要点をメモしておくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の当該部分とあわせ、授業内容を確認し理解しておくこと。
2 回	授業内容	商品経済の浸透 商品経済の歴史的契機を説明するとともに、準備的諸概念の整理を行う。
	事前学修	テキストの 43～46 ページを読んで、要点をメモしておくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の当該部分とあわせ、授業内容を確認し理解しておくこと。
3 回	授業内容	「拡張の 16 世紀」 16 世紀のヨーロッパにおける人口増加と農業生産の拡大について説明し、それを基礎としたヨーロッパの「拡張」の経済史的意義を明らかにする。
	事前学修	テキストの 46～49 ページを読んで、要点をメモしておくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の当該部分とあわせ、授業内容を確認し理解しておくこと。
4 回	授業内容	「危機の 17 世紀」 17 世紀の「危機」の本質と、特にフランドルとイングランドにおける「危機」への対応を説明する。
	事前学修	テキストの 46～49 ページを読んで、要点をメモしておくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の当該部分とあわせ、授業内容を確認し理解しておくこと。
5 回	授業内容	大西洋地域における奴隷貿易の展開 Staple の生産における社会的分業システムの形成過程について説明する。
	事前学修	テキストの 49～53 ページを読んで、要点をメモしておくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の当該部分とあわせ、授業内容を確認し理解しておくこと。
6 回	授業内容	「世界の綿工業」「産業革命」の歴史的意義を主に労働力の商品化の観点から考察する。
	事前学修	テキストの 57～65 ページを読んで、要点をメモしておくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の当該部分とあわせ、授業内容を確認し理解しておくこと。
7 回	授業内容	世界商品市場の成立と展開 綿製品と棉花、アヘンと茶と絹の交易を事例として取り上げながら、世界商品市場の成立と展開の経済史的意義について考察する。
	事前学修	テキストの 65～68 ページを読んで、要点をメモしておくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の当該部分とあわせ、授業内容を確認し理解しておくこと。
8 回	授業内容	まとめ〔Ⅰ〕
	事前学修	これまでに作成したメモを整理しておくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の当該部分とあわせ、授業内容を確認し理解しておくこと。
9 回	授業内容	世界通商の仕組み〔Ⅰ〕 冒険取引の仕組みと、その歴史的特徴について考察する。
	事前学修	テキストの 68～70 ページを読んで、要点をメモしておくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の当該部分とあわせ、授業内容を確認し理解しておくこと。
10 回	授業内容	世界通商の仕組み〔Ⅱ〕 コムエンダ同士で資金融通をする仕組みと、その歴史的特徴について考察する。
	事前学修	テキストの 70～72 ページを読んで、要点をメモしておくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の当該部分とあわせ、授業内容を確認し理解しておくこと。
11 回	授業内容	世界通商の仕組み〔Ⅲ〕 ファクター制度の仕組みと、その歴史的特徴について考察する。
	事前学修	テキストの 72～74 ページを読んで、要点をメモしておくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の当該部分とあわせ、授業内容を確認し理解しておくこと。
12 回	授業内容	世界金融市場の成立と展開 世界金融市場の成立と展開の経済史的意義を、それを主導したマーチャント・バンカーの活動とともに考察する。
	事前学修	テキストの 74～84 ページを読んで、要点をメモしておくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の当該部分とあわせ、授業内容を確認し理解しておくこと。
13 回	授業内容	鉄道建設の世界的進展 「鉄道建設の第 1 期」におけるイギリス、ヨーロッパ大陸、東インド、北アメリカの鉄道建設の事例を概説する。
	事前学修	テキストの 84～99 ページを読んで、要点をメモしておくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の当該部分とあわせ、授業内容を確認し理解しておくこと。
14 回	授業内容	鉄工業の発展 「世界の鉄工所」からの鉄道建設用資材が供給されたことを説明し、鉄工業の主導産業としての特徴を考察する。
	事前学修	テキストの 101～124 ページを読んで、要点をメモしておくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の当該部分とあわせ、授業内容を確認し理解しておくこと。
15 回	授業内容	まとめ〔Ⅱ〕
	事前学修	テキストの 124～130 ページを読んで、要点をメモしておくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の当該部分とあわせ、授業内容を確認し理解しておくこと。

◆**教科書** 丸沼『世界経済史の方法と展開——経済史の新しいパラダイム（1820-1914 年）』入江節次郎 藤原書店 2002 年

◆**参考書** 特になし

◆**成績評価基準** レポート（2 回、50%ずつ、計 100%）。

◆**授業相談（連絡先）**：初回授業時に案内します。

注意

# 講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔金融機関論〕

谷川 孝美

◆**授業概要** 金融取引が行われる金融市場では、銀行などの金融機関が重要な役割を果たしています。この講義では金融機関の役割、機能などに焦点をあて、金融取引およびその基礎理論等を解説します。具体的には貨幣の機能、金利などの金融論の基礎および金融機関の基本的な機能などを概説します。さらに、フィンテックなどの技術革新や規制緩和などの環境変化が金融機関に与える影響などを考察することで、金融機関、金融制度の今後を考える基礎を養うことを目的としています。なお、この講義では金融論の基礎を理解していることが望ましい。

◆**学習到達目標** 日常生活では決済、貯蓄や投資、借入等の金融取引が行われています。決済や金融取引には銀行、証券会社等の多様な金融機関が関係しています。また、近年では、フィンテック等の技術革新など金融機関の環境が変化しています。金融機関論では、以上を踏まえ次のことを目標とします。

1. 貨幣の定義、金利等の金融の基本的な事柄などを学び、説明できるようになる。
2. 銀行、証券会社等の金融機関が果たしている機能、役割を理解し、説明できるようになる。
3. さまざまな金融機関、金融市場を含めた我が国の金融システムなどを理解し、考察できるようになる。

◆**授業方法** 授業計画にそって、パワーポイントを利用した講義形式で行います。講義では、基本的な事柄を中心に、全体的かつ平易な解説をする予定です。授業計画を開講日数にあわせて分けますが、講義の進行状況によっては前後することもあります。また、理解度を確保するための小テストを実施する予定です。

### ◆授業計画〔各90分〕

1回	<p>授業内容：授業の進め方・オリエンテーション・金融機関論で学ぶことやその対象を解説する。</p> <p>事前学修：テキスト「金融論」の「はじめに」、事前配付資料、シラバスをよく読んでおくこと。</p> <p>事後学修：授業内で用いられた専門用語や説明を確認し、理解すること。</p>
2回	<p>授業内容：金融機関を理解するための金融取引、貨幣の定義</p> <p>事前学修：テキスト第1章をよく読んでおくこと。</p> <p>事後学修：講義内容の確認として、貨幣の定義、金融取引を再確認すること。</p>
3回	<p>授業内容：長期、短期の指標金利およびその決定</p> <p>事前学修：テキスト第2章をよく読んでおくこと。</p> <p>事後学修：講義内容や講義で紹介する事例などを確認すること。</p>
4回	<p>授業内容：情報の非対称性問題、逆選択、モラルハザード、金融機関の情報生産を考える。</p> <p>事前学修：テキスト第3章をよく読んでおくこと。</p> <p>事後学修：配付資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。</p>
5回	<p>授業内容：日本の資金の流れ、資金循環</p> <p>事前学修：テキスト第6章をよく読むこと。</p> <p>事後学修：配付資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。また、講義時に紹介する資料を確認し理解を深めること。</p>
6回	<p>授業内容：直接金融、間接金融、市場型間接金融</p> <p>事前学修：テキスト第6章をよく読んでおくこと。</p> <p>事後学修：配付資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。</p>
7回	<p>授業内容：預金取扱金融機関としての銀行の機能と役割</p> <p>事前学修：テキスト第7章第1節および配付資料をよく読んでおくこと。</p> <p>事後学修：講義で紹介する銀行など、預金取扱金融機関について参考文献などで確認すること。</p>
8回	<p>授業内容：直接金融における証券会社の機能と役割</p> <p>事前学修：テキスト第7章第2節および配付資料をよく読んでおくこと。</p> <p>事後学修：講義時に紹介するウェブサイト、参考文献などで証券会社の現状等を確認すること。</p>
9回	<p>授業内容：保険会社の機能と役割</p> <p>事前学修：テキスト第7章第3節および配付資料をよく読んでおくこと。</p> <p>事後学修：生命保険会社、損害保険会社を参考文献および講義時に紹介する資料などで確認すること。</p>
10回	<p>授業内容：消費者金融、リース会社などノンバンクの機能と役割</p> <p>事前学修：配付資料をよく読んでおくこと。</p> <p>事後学修：講義時に紹介する資料などで、ノンバンクの現状等を確認すること。</p>
11回	<p>授業内容：公的金融機関の機能と役割</p> <p>事前学修：配付資料をよく読んでおくこと。</p> <p>事後学修：講義時に紹介する資料などで、公的金融機関の現状等を確認すること。</p>
12回	<p>授業内容：金融機関に対する規制、監督</p> <p>事前学修：配付資料をよく読んでおくこと。</p> <p>事後学修：配付資料や講義時に紹介する資料などで、講義内容を確認すること。</p>
13回	<p>授業内容：FinTechなどの金融機関を取り巻く環境変化</p> <p>事前学修：配付資料をよく読んでおくこと。</p> <p>事後学修：配付資料や講義時に紹介する資料などで、講義内容を確認すること。</p>
14回	<p>授業内容：理解度の確認</p> <p>事前学修：配布された資料を熟読し、内容を確認しておくこと。</p> <p>事後学修：配付資料やテキスト、参考書などで、講義内容をよく確認し理解すること。</p>
15回	<p>授業内容：試験および解説</p> <p>事前学修：前回の講義時に説明した内容を良く確認し理解しておくこと。</p> <p>事後学修：今回の授業内容を再確認し、理解を深めること。</p>

◆**教科書** 通財【金融論 R31800】通信教育教材（教材コード000540）

【事前資料送付】

【当日資料配布】必要に応じてプリントを配布予定

◆**参考書** 瓦沼【ベーシックプラス 金融論 第2版】家森信善 中央経済社 2018年  
講義時に適宜紹介します。

◆**成績評価基準** 毎回出席することを前提として、最終試験を中心に授業への取り組み、小テストや平常点などにより総合的に評価します。

### 注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

# 講座内容（シラバス）

## 〔中小企業論〕

山本 篤民

◆**授業概要** 日本の企業数の99%以上は、「中小企業」です。個々の中小企業の規模は小さいながらも、中小企業を1つの層として捉えた場合、日本の経済や産業において大きな位置を占めています。また、戦前・戦後の各時代において中小企業は、日本の経済の発展や人々の暮らしを支える役割を果たしてきました。  
本授業では、中小企業が日本の経済や社会において果たしている役割を理論的・歴史的な視点から分析する能力を身につけます。

◆**学修到達目標** (1)中小企業を日本の経済や産業構造のなかに位置づけ、その役割を説明することができる。  
(2)日本経済の発展過程のなかに中小企業の果たしてきた役割を説明することができる。  
(3)「中小企業研究」の問題視点を説明できる。

◆**授業方法** Google Classroom にパワーポイントの資料・解説の動画などを掲載します。Google Classroom のストリームや Google フォームにて質問や意見交換をします。

◆**履修条件**

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容: 授業の概要、到達目標、授業の進め方、成績評価について説明する。 事前学修: テキストの序文を確認しておくこと。 事後学修: 授業の説明資料にもとづき、中小企業論研究の意義について理解する。
2 回	授業内容: 中小企業の定義と構成—中小企業の定義や中小企業の数・割合、従業員数・割合について把握する。 事前学修: テキスト第3章を参照し中小企業の定義等を確認しておくこと。 事後学修: 授業の説明資料にもとづき、中小企業の定義と数量を理解する。
3 回	授業内容: 中小企業の存立形態—産業集積 産業集積に中小企業が立地するメリットなどを取り上げる。 事前学修: テキスト第6章3節を参照し産業集積の種類などを確認しておくこと。 事後学修: 授業の説明資料にもとづき、産業集積の種類や立地するメリットを理解する。
4 回	授業内容: 中小企業の存立形態—下請 下請取引の定義や特徴を取り上げる。レポートを予定。 事前学修: テキスト第6章2節を参照し下請取引をめぐる諸議論を確認しておくこと。 事後学修: 授業の説明資料にもとづき、下請取引にもとづく諸問題を理解する。
5 回	授業内容: 中小企業問題の推移①—戦後復興期の中小企業問題 1940年代後半から1940年代後半の日本の経済と中小企業の課題を取り上げる。 事前学修: テキスト第4章第1節を参照し戦後復興期における中小企業問題を確認しておくこと。 事後学修: 授業の説明資料にもとづき、戦後復興期の経済状況と中小企業の課題を理解する。
6 回	授業内容: 中小企業問題の推移②—二重構造問題 1950年代はじめに顕在化した二重構造問題の現象と背景を取り上げる。 事前学修: テキスト第4章第1節を参照して二重構造問題とは何かを確認しておくこと。 事後学修: 授業の説明資料にもとづき、1950年代はじめの二重構造問題を理解する。
7 回	授業内容: 中小企業問題の推移③—高度経済成長期 高度経済成長期の中小企業問題を取り上げる。 事前学修: テキスト第4章第2節を参照して高度経済成長期の状況を確認しておくこと。 事後学修: 授業の説明資料にもとづき、二重構造問題が解消したという論点を理解する。
8 回	授業内容: 中小企業問題の推移④—安定成長期への移行 1970年代の中小企業問題を取り上げる。 事前学修: テキスト第4章第3節を参照してオイルショック後の経済の状況を確認しておくこと。 事後学修: 授業の説明資料にもとづき、1970年代の中小企業の課題を理解する。
9 回	授業内容: 中小企業問題の推移⑤—安定成長期・円高不況 1980年代の円高不況期の中小企業問題を取り上げる。 事前学修: テキスト第4章第3節を参照して円高不況時の経済の状況を確認しておくこと。 事後学修: 授業の説明資料にもとづき、円高不況期の中小企業の課題を理解する。
10 回	授業内容: 中小企業問題の推移⑥—バブル崩壊 1990年代はじめのバブル崩壊と中小企業問題を取り上げる。 事前学修: テキスト第4章第4節を参照してバブル崩壊後の経済の状況を確認しておくこと。 事後学修: 授業の説明資料にもとづき、バブル崩壊の影響と中小企業の課題を理解する。
11 回	授業内容: 中小企業問題の推移⑦—グローバル経済の進展 2000年代のグローバル化と中小企業問題を取り上げる。レポートを予定。 事前学修: テキスト第4章第4節を参照して経済のグローバル化の状況を確認しておくこと。 事後学修: 授業の説明資料にもとづき、リーマンショックやコロナショックが中小企業に与えた影響を理解する。
12 回	授業内容: 「中小企業研究」の展開①—中小企業存立条件論 中小規模の企業が存立する理由や根拠を論じた研究を解説する。 事前学修: テキスト第2章を参照し中小企業の存立の条件等について確認しておくこと。 事後学修: 授業の説明資料にもとづき、存立条件論の諸議論を理解する。
13 回	授業内容: 「中小企業研究」の展開②—「二重構造論」 「二重構造論」をめぐる学説や論争を解説する。 事前学修: テキスト第4章第1・2節を参照し「二重構造論」とは何かを確認しておくこと。 事後学修: 授業の説明資料にもとづき、「二重構造論」の諸議論を理解する。
14 回	授業内容: 「中小企業研究」の展開③—「中堅企業論・ベンチャービジネス論」 「中堅企業論」や「ベンチャービジネス論」が唱えられるようになった背景や理論を解説する。レポートを予定。 事前学修: テキスト第5章第2節を参照し「中堅企業・ベンチャービジネス」とは何かを確認しておくこと。 事後学修: 授業の説明資料にもとづき、「中堅企業論・ベンチャービジネス論」の諸議論を理解する。
15 回	授業内容: まとめ 14回の授業の内容を整理する。 事前学修: 授業で取り上げたテーマの該当箇所を教科書で確認しておくこと。 事後学修: 授業の説明資料および教科書を読んでこれまでの授業内容を理解する。

◆**教科書** 丸沼『21世紀中小企業論 第3版』渡辺幸男他編著 有斐閣  
〔当日資料配布〕 Google Classroom に資料を掲載します。

◆**参考書** 丸沼『よくわかる中小企業』関智宏編著 ミネルヴァ書房 2020年

◆**成績評価基準** レポートを実施します。授業ごとにパワーポイントや解説動画をもとに学修したかを確認します。

◆**授業相談（連絡先）:**

注意

# 講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔教育原論 / 教育の思想〕

宮島 健次

◆**授業概要** 周知のとおり、2020年の学習指導要領の改訂から、従来の「学校教育」が大きく変わります。しかし、そもそもなぜそのような変革が必要なのでしょう。本授業では、まずこのような問いから始め、現代教育にそのような変革が必要になった理由を、そもそも「教育」とは何か、という側面と「学校教育制度」の成立という側面から考えていくと同時に、21世紀を迎えた知識基盤社会における教育のあり方をアクティブ・ラーニングの手法を使って考えていきます。

◆**学習到達目標** 本授業の学習到達目標は以下の5点です。

- ①「教育」の本質及び目標を理解して自分のことばで説明することができる。
- ②現代教育の系譜として近代教育思想を理解して自分のことばで説明することができる。
- ③「教育」「学習」の本質的な意味を理解して自分のことばで説明することができる。
- ④「近代教育制度」の成立やその意味、影響を理解して自分のことばで説明することができる。
- ⑤以上の4点をふまえて、現代教育学科帰りの問題の本質を理解して自分のことばで説明することができる。

◆**授業方法** 授業は2部構成とします。第1部では、基本的にテキストやサブノートを活用した講義形式で授業を進めていきます。第2部は、受講生を中心としたディスカッションやグループ発表形式で授業を進めていくつもりです。ただし、受講人数によっては、多少の変更があります。それぞれ、ひとまとまりの内容を終えた後には、内容理解を深めるためにまとめレポートを課します。

◆**授業計画 (各90分)**

1回	授業内容 ガイダンス、授業のテーマ・内容・方法・評価について説明する。事前学習、事後学習、質問などがある場合の連絡方法など。
	事前学修 指定教科書の精読(序章・1章・2章)
	事後学修 指定教科書の精読(3章・4章・5章)
2回	授業内容 現代教育の課題と教育思想を学ぶ意味と課題
	事前学修 指定教科書の精読(6章・7章・8章)
	事後学修 授業内容を自分なりに整理し、教科書の内容と配布資料をよく読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
3回	授業内容 教育の思想や歴史から見た教育思想の系譜(1)古代を中心に
	事前学修 指定教科書の精読(9章・10章・11章)
	事後学修 授業内容を自分なりに整理し、教科書の内容と配布資料をよく読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
4回	授業内容 教育の思想や歴史から見た教育思想の系譜(2)中世を中心に
	事前学修 指定教科書の精読(12章・終章)
	事後学修 授業内容を自分なりに整理し、教科書の内容と配布資料をよく読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
5回	授業内容 教育の思想や歴史から見た教育思想の系譜(3)近代を中心に
	事前学修 これまでに配布した資料を確認し、授業で問いかけられた「問い」について自分なりの意見や見解をもっておくこと。
	事後学修 授業内容を自分なりに整理し、教科書の内容と配布資料をよく読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
6回	授業内容 現代教育の課題(1)近代子ども観の功罪
	事前学修 これまでに配布した資料を確認し、授業で問いかけられた「問い」について自分なりの意見や見解をもっておくこと。
	事後学修 授業内容を自分なりに整理し、教科書の内容と配布資料をよく読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
7回	授業内容 現代教育の課題(2)近代学校制度の功罪
	事前学修 これまでに配布した資料を確認し、授業で問いかけられた「問い」について自分なりの意見や見解をもっておくこと。
	事後学修 授業内容を自分なりに整理し、教科書の内容と配布資料をよく読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
8回	授業内容 現代教育の課題(3)知識基盤社会の功罪
	事前学修 これまでに配布した資料を確認し、授業で問いかけられた「問い」について自分なりの意見や見解をもっておくこと。
	事後学修 授業内容を自分なりに整理し、教科書の内容と配布資料をよく読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
9回	授業内容 グループディスカッション—現代教育の課題を紐解く(1)
	事前学修 これまでに配布した資料を確認し、授業で問いかけられた「問い」について自分なりの意見や見解をもっておくこと。
	事後学修 グループディスカッションを通して得られた新たな気づきを整理し、課題解決のための方策について考え、必要に応じて調査しておくこと。
10回	授業内容 グループディスカッション—現代教育の課題を紐解く(2)
	事前学修 これまでのグループディスカッションで得られたグループおよび個人としての知見を整理し、さらなるディスカッションのための準備をしておくこと。
	事後学修 グループディスカッションを通して得られた新たな気づきを整理し、課題解決のための方策について考え、必要に応じて調査しておくこと。
11回	授業内容 グループディスカッション—現代教育の課題を紐解く(3)
	事前学修 これまでのグループディスカッションで得られたグループおよび個人としての知見を整理し、さらなるディスカッションのための準備をしておくこと。
	事後学修 グループディスカッションを通して得られた新たな気づきを整理し、課題解決のための方策について考え、必要に応じて調査しておくこと。
12回	授業内容 グループディスカッション—現代教育の課題を紐解く(4)
	事前学修 これまでのグループディスカッションで得られたグループおよび個人としての知見を整理し、さらなるディスカッションのための準備をしておくこと。
	事後学修 グループディスカッションを通して得られた新たな気づきを整理し、課題解決のための方策について考え、必要に応じて調査しておくこと。
13回	授業内容 グループディスカッション—現代教育の課題を紐解く(5)グループ発表
	事前学修 これまでのグループディスカッションで得られたグループおよび個人としての知見を整理し、クラスでの発表に備えておくこと。
	事後学修 クラス発表を通して得られた気づきをふりかえり、グループおよび個人としてのさらなる課題を理解すること。
14回	授業内容 授業の総括(1)現代教育の課題と教育思想
	事前学修 これまでに配布した資料を確認し、グループ発表等を通じて得られた自分なりの意見や見解を整理しておくこと。
	事後学修 授業内容を自分なりに整理し、確認・理解しておくこと。
15回	授業内容 授業の総括(2)現代教育の課題と教育思想
	事前学修 これまでに配布した資料を確認し、グループ発表等を通じて得られた自分なりの意見や見解を整理しておくこと。
	事後学修 授業内容を自分なりに整理し、確認・理解しておくこと。

◆**教科書** 〔丸〕「教育思想のルーツを求めて—近代教育論の展開と課題」 関川悦雄・北野秋男 啓明出版

◆**参考書** なし

◆**成績評価基準** 授業への参画度(50%)、第1部まとめレポート(20%)、第2部まとめレポート(30%)により総合的に評価します。レポートの形式については、授業開始後、改めて受講生に伝えます。

**注意** E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

# 講座内容（シラバス）

## 〔教育制度論〕

北野 秋男

◆**授業概要** 現現代の学校教育を取り巻く様々な問題への理解を確実なものとするために、以下のトピックを取り上げ、多角的な授業を展開する。トピックの内容は、近代公教育制度の成立（教育の権利と義務）、現代の学校を取り巻く制度改革や地域との連携、教師職務と専門性、学力と評価制度、教育委員会制度改革の改革、学校と地域の連携（コミュニティ・スクール）、学校安全への対応などである。現代の教育制度改革の理念や背景を理解したい。

◆**学修到達目標** 現代の国内外の学校制度改革の様々な動向を、基礎的事項や用語を中心に、学生自身が理解し、説明できるようにする。その際に、社会の状況や歴史的背景を理解し、その変化が現代の学校教育にもたらす影響や課題が検討できるように配慮する。また、現代の学校教育を取り巻く様々な問題への理解を確実なものとするために、政治・経済・福祉・文化などの社会的観点からのアプローチも取り入れ、受講学生の教育に関する広範囲で深い視野を育成しつつ、教育への基礎的・基本的な視座を養うことを目標にする。

◆**授業方法** 講義・グループ学習と討論・課題発表・レポート作成を組み合わせた多角的な授業を展開する。テキストを事前に丁寧に読んでおくこと。その際には、日本の教育制度の特徴や問題点を念頭に置きながら読み進めること。新自由主義的な方向へと進む、我が国の教育制度改革の全体像を大まかに理解しておくこと。テスト問題の作成では、学生自身が問題作成を行い、相互に解答し、教育評価への理解を深める。

◆**履修条件**

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容：ガイダンス、全体の授業構成、課題の説明、評価方法など 事前学修：シラバスをよく読み、テキストを購入し、「はじめに」を読んでおくこと。 事後学修：授業の要点と課題をノートにまとめること。
2 回	授業内容：欧米と日本における近代公教育制度の成立と展開 事前学修：テキストの序章を中心に予め読んでおくこと。 事後学修：授業の要点と課題をノートにまとめること。
3 回	授業内容：教育の権利と義務、学習権思想、「憲法」や「教育基本法」の理解 事前学修：テキストの序章を中心に予め読んでおくこと。 事後学修：授業の要点と課題をノートにまとめること。
4 回	授業内容：アメリカの学校選択制度、日本における学校選択制度導入の経緯と課題 事前学修：テキストの第 1 章を中心に予め読んでおくこと。 事後学修：授業の要点と課題をノートにまとめること。
5 回	授業内容：学級の運営と経営、生徒指導のあり方 事前学修：テキストの第 2 章を中心に予め読んでおくこと。 事後学修：授業の要点と課題をノートにまとめること。
6 回	授業内容：教師の職務内容と教師の専門性（研修制度） 事前学修：テキストの第 5 章を中心に予め読んでおくこと。 事後学修：授業の要点と課題をノートにまとめること。
7 回	授業内容：学習指導要領の変遷と学力観の推移 事前学修：テキストの第 3 章を中心に予め読んでおくこと。 事後学修：授業の要点と課題をノートにまとめること。
8 回	授業内容：育委員会制度の歴史と課題、改正教育委員会制度の課題 事前学修：テキストの第 4 章を中心に予め読んでおくこと。 事後学修：授業の要点と課題をノートにまとめること。
9 回	授業内容：学校・教師と地域連携（コミュニティ・スクール設置の経緯） 事前学修：テキストの第 5 章を中心に予め読んでおくこと。 事後学修：授業の要点と課題をノートにまとめること。
10 回	授業内容：コミュニティ・スクールの全国的動向と事例 事前学修：参考書を使って、全国的な動向や実態を調べておくこと。 事後学修：授業の要点と課題をノートにまとめること。
11 回	授業内容：学力評価とテスト（学校・地域・家庭の連携） 事前学修：テキストの第 6 章を中心に予め読んでおくこと。 事後学修：授業の要点と課題をノートにまとめること。
12 回	授業内容：テスト問題の作成と反省 事前学修：テキストの第 6 章を中心に予め読んでおくこと。 事後学修：授業の要点と課題をノートにまとめること。
13 回	授業内容：日米の格差社会の現状、格差と教育・学力への影響 事前学修：テキストの第 7 章を中心に予め読んでおくこと。 事後学修：授業の要点と課題をノートにまとめること。
14 回	授業内容：学校の事件・事故・災害と学校安全への取り組み 事前学修：去の自然災害、学校内のいじめや暴力など、学校の安全に関する問題を調べる。 事後学修：授業の要点と課題をノートにまとめること。
15 回	授業内容：最終試験、授業の総括 事前学修：テキスト、授業用のノートを丁寧に復習しておくこと。 事後学修：解答できなかった不明な箇所を確認し、復習しておくこと。

◆**教科書** 凡沼『教育学へのアプローチ～教育と社会を考える 18 の課題～』北野秋男編著 啓明出版

◆**参考書** 凡沼『地域運営学校成功への道しるべ』北野秋男編著 ぎょうせい

◆**成績評価基準** 平常点（20%）、授業内の課題（30%）、最終試験（50%）で総合的に判断します。

◆**授業相談（連絡先）**：授業の開始前、終了後なども行う。メールでも可。kitano@chs.nihon-u.ac.jp

注意

# 講座内容（シラバス）

## 〔哲学〕

成田 正人

◆**授業概要** 代表的な哲学者の思想や議論を学習するだけでなく、自分たち自身で対話や論述を通して哲学を実践します。もちろん、哲学の基本的なやり方を学ぶには、哲学史上の有名な問題や学説の理解に努めなければなりません。しかし、それだけでは哲学する力は育たないので、本授業では実際に哲学することが求められます。他の人と哲学的な対話を重ね、自ら批判的に思考を続けることで、自分で世界や人生を哲学する力が養われるでしょう。

◆**学修到達目標** 本授業の目標は、第一に、哲学史上の有名な問題や議論を、歴史的な背景や論理的な構造まで含めて、しっかり理解し考察することです。また、第二に、各人が惹かれる世界や人生の問題を哲学的に対話し論述することで、哲学の基本的なやり方が身に付き、自ら哲学することの楽しさを実感することです。

◆**授業方法** 初めに、配布する資料を皆で輪読し、哲学を代表する問題や学説を概観します。また、議論に対する理解を深めるために、専門的な用語や歴史的な背景を必要に応じて説明します。次に、理解した問題（の解決案）や学説（の問題点）をグループで話し合います。このときに、皆の思考の展開が見て取れるように、対話の経過を描き出してください。さらに、それぞれが自らの哲学的な思考を論述できるよう準備を進めてください。

◆**履修条件**

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1回	授業内容	概説と導入：本授業の内容と目的を説明します。また、哲学的な対話と論述の仕方を解説し、授業方法と評価基準を確認します。哲学の歴史と主題についても簡単に話します。
	事前学修	何かで調べる必要はないので、哲学とは何かを自分で考えて、考えたことを書き出してみてください。
	事後学修	自分が気になる世界や人生の謎を考え、それをできるだけ正確に言語で表現してみましょう。
2回	授業内容	1-(1)なぜ哲学するのか？哲学者は何をどのように探求するのか？
	事前学修	プラトンのイデア論や探求のパラドックスについて調べてください。また、哲学とは何か、自分でよく考えてみてください。
	事後学修	授業で学んだことを踏まえ、さらに哲学とは何かを考えてみてください。もちろん考えたことは書き留めておきましょう。
3回	授業内容	1-(2)哲学的な真理とは何か？なぜ哲学は言語を用いるのか？
	事前学修	中世スコラ哲学の普遍論争を調べておいてください。また、似ているとはどういうことなのか、考えてみてください。
	事後学修	授業で得たことを活かして、哲学（的な真理）における言語と経験の関係について考えてみましょう。
4回	授業内容	2-(1)よい人生とは？そもそも何がよいのか？
	事前学修	どんな人生がよいのか、自分で考え書き出してみましょう。また、カントの義務論やミルの功利主義について調べてください。
	事後学修	授業で話し合ったことから、さらに人生や幸福について考えてください。考えたことはきちんと書いておきましょう。
5回	授業内容	2-(2)人生に意味はあるのか？私たちは自由なのか？
	事前学修	ニーチェのニヒリズムについて調べておいてください。また、自由について独力で考えたことを書き出してください。
	事後学修	授業で学習したことを使って、人生や価値の問題を正確に言葉で論じてみましょう。
6回	授業内容	3-(1)神は存在するのか？それはどのような存在なのか？
	事前学修	アンセルムスやデカルトの神の存在証明について調べておいてください。また、神とは何かを自分でよく考えてください。
	事後学修	授業で学んだことを踏まえ、さらに神の問題を掘り下げて論じてみてください。
7回	授業内容	3-(2)なぜ何かが存在するのか？なぜ世界はこのようであるのか？
	事前学修	ライプニッツやルイスの可能世界について調べておいてください。また、現実とは何か、自分で考えてみてください。
	事後学修	授業で得たことを使って、さらに存在や現実について考えてください。もちろん考えたことは書き留めておきましょう。
8回	授業内容	4-(1)心とは何か？私には心か？他人の心とは？
	事前学修	デカルトのコギトについて調べ、私とは何かを考えください。また、独我論や他我問題を調べておいてください。
	事後学修	授業で話し合ったことを活かして、さらに心や私の問題をよく考えてみてください。考えたことは書き出しておきましょう。
9回	授業内容	4-(2)心の外に物はあるのか？物と心はどう関係するのか？
	事前学修	デカルトの心身二元論やカントの超越論的統覚について調べてください。また、なぜ心と独立に物が在るといえるのか、考えてください。
	事後学修	授業で得たことを活かして、さらに心と脳の関係や外界の物について考えてください。考えたことは書き出してください。
10回	授業内容	問題の発見と対話の実践：自分が惹かれる世界や人生の謎を哲学の問題として言語で表現します。また、それを深く鋭く論じるために、それを主題として他の人との対話を実践します。
	事前学修	自分が惹かれる世界や人生の謎を考えておいてください。それを対話の主題として他の人と共有できるように準備しておいてください。
	事後学修	授業で話し合ったことを活かして、自分が惹かれる哲学的な問題を言葉できちんと論じてみましょう。
11回	授業内容	5-(1)時間で変わらないもの？同一性とは？
	事前学修	同じとはどのようなことなのか、自分で考えてみてください。また、変化や時間についても考えてみてください。
	事後学修	授業で学習したことを手掛かりに、さらに同一性について考えてみてください。もちろん考えたことは書き出してください。
12回	授業内容	5-(2)そもそも時間とは？過去はどこに行ったのか？今とは何か？
	事前学修	マクダガーラのA系列とB系列について調べてください。また、現在とは何なのか、自力でよく考えてください。
	事後学修	授業で論じたことを活かして、そもそも時間とは何なのかを引き続き考えてみてください。
13回	授業内容	6-(1)因果性とは何か？因果法則は帰納できるのか？
	事前学修	アリストテレスの四原因を調べておいてください。また、帰納とは何かを調べ、帰納の問題について考えてください。
	事後学修	授業で学んだことを踏まえ、さらに因果と帰納の問題をしっかりと考えてください。
14回	授業内容	6-(2)そもそも規則性とは？未来は帰納できるのか？
	事前学修	グッドマンのグルーやクリプキのクワスについて調べてください。また、規則性とは何かを自分で考えておいてください。
	事後学修	授業で得たことを使って、さらに規則と帰納の問題を掘り下げてください。また、帰納と未来の問題も考えてみてください。
15回	授業内容	試験と解説：本授業の総括と論述試験を行います。
	事前学修	試験に備えて自らの哲学的な問題と議論を言葉で正確に論述できるように準備しておいてください。
	事後学修	授業で考えたことを活かして、自分が惹かれる問題をさらに哲学的に思考し続けてください。

◆**教科書** 〔当日資料配布〕当日プリントを配布します。

◆**参考書** 特に指定しませんが、授業内で適宜紹介します。

◆**成績評価基準** 論述試験（70%）と授業参加度（30%）で総合的に評価します。毎回出席することを前提としています。

◆**授業相談（連絡先）**：初回の授業時に案内します。

**注意**

# 講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔経済学〕

大塚 友美

- ◆**授業概要** 本授業では、①経済学の歴史的発展にそってミクロ経済理論とマクロ経済理論を概説し、また②各時代の経済状況や経済政策などを概観することを通じて、③各自が経済学の大枠を把握し、今日の経済問題を自ら考察する力を涵養することを目指す。
- ◆**学修到達目標** 本授業は、①ミクロ経済・マクロ経済の基本理論を習得することを通して、②人間の経済活動に関する理解を深め、③これをもとに現代の経済問題を各自が自ら考察できるようになることを、を目標としている。
- ◆**授業方法** 本授業は、原則、講義形式を中心に行うが、必要に応じて、①現実の経済問題の事例研究、②シミュレーション（模擬実験）の紹介、③ディスカッション、などを行うこととする。
- ◆**授業計画〔各90分〕**

1回	<p>授業内容：市場の仕組・働きと市場経済：市場経済の中核を理解する。</p> <p>事前学修：指定した教科書の第1章を読み、疑問点などをまとめておくこと。</p> <p>事後学修：講義内容を踏まえた上で、第1章の実験編の市場モデルに関するプログラムを動かすこと。</p>
2回	<p>授業内容：市場経済の問題点：市場経済の問題点を理解する。</p> <p>事前学修：指定した教科書の第1章を読み、疑問点などをまとめておくこと。</p> <p>事後学修：講義内容を踏まえた上で、市場経済の要点をまとめること。</p>
3回	<p>授業内容：家計の消費行動：家計の消費行動について概説する。</p> <p>事前学修：指定した教科書の第2章を読み、疑問点などをまとめておくこと。</p> <p>事後学修：講義内容を踏まえた上で、第2章の実験編の消費行動に関するプログラムを動かすこと。</p>
4回	<p>授業内容：家計の労働供給：家計の労働供給について概説する。</p> <p>事前学修：指定した教科書の第2章を読み、疑問点などをまとめておくこと。</p> <p>事後学修：講義内容を踏まえた上で、第2章の実験編の家計の労働供給に関するプログラムを動かすこと。</p>
5回	<p>授業内容：完全競争企業の行動：完全競争企業の行動を概観する。</p> <p>事前学修：指定した教科書の第3章を読み、疑問点などをまとめておくこと。</p> <p>事後学修：講義内容を踏まえた上で、第3章の実験編の完全競争企業の行動に関するプログラムを動かすこと。</p>
6回	<p>授業内容：独占企業の行動：独占企業の行動を概観する。</p> <p>事前学修：指定した教科書の第4章を読み、疑問点などをまとめておくこと。</p> <p>事後学修：講義内容を踏まえた上で、第4章の実験編の独占企業の行動に関するプログラムを動かすこと。</p>
7回	<p>授業内容：景気変動：市場経済について回る景気変動の要因を考察する。</p> <p>事前学修：指定した教科書の第7章を読み、疑問点などをまとめておくこと。</p> <p>事後学修：講義内容を踏まえた上で、第7章の実験編の景気変動に関するプログラムを動かすこと。</p>
8回	<p>授業内容：有効需要の原理：不況対策として出発したケインズ理論を概観する。</p> <p>事前学修：指定した教科書の第5章を読み、疑問点などをまとめておくこと。</p> <p>事後学修：講義内容を踏まえた上で、第5章の実験編の有効需要の原理に関するプログラムを動かすこと。</p>
9回	<p>授業内容：有効需要の原理の利害得失：ケインズ理論の問題点を紹介する。</p> <p>事前学修：指定した教科書の第5章を読み、疑問点などをまとめておくこと。</p> <p>事後学修：日本経済の現状を、講義内容に基づいて自ら考察してみる。</p>
10回	<p>授業内容：有効需要の原理の効果：近年、ケインズ政策の効果が弱まった要因を概観する。</p> <p>事前学修：指定した教科書の第5章を読み、疑問点などをまとめておくこと。</p> <p>事後学修：サプライサイド・エコノミクスの台頭との関連を考慮しておくこと。</p>
11回	<p>授業内容：サプライサイド・エコノミクス：サプライサイド・エコノミクスの基本を概観する。</p> <p>事前学修：サプライサイド・エコノミクスに関して、疑問点などをまとめておくこと。</p> <p>事後学修：サプライサイド・エコノミクスに対する、日本と欧米の対応の違いを考察してみる。</p>
12回	<p>授業内容：経済の成長と発展：経済の成長と発展の原動力を考察する。</p> <p>事前学修：指定した教科書の第8章を読み、疑問点などをまとめておくこと。</p> <p>事後学修：講義内容を踏まえた上で、第8章の実験編の経済成長に関するプログラムを動かすこと。</p>
13回	<p>授業内容：経済発展と人口変動：人口転換理論の概要を論ずる。</p> <p>事前学修：指定した教科書の第9章を読み、疑問点などをまとめておくこと。</p> <p>事後学修：講義内容を踏まえた上で、第9章の実験編の人口モデルに関するプログラムを動かすこと。</p>
14回	<p>授業内容：人口と経済発展：ヘーゲン・モデル（経済発展とモデル）を用いて、人口と経済発展の関係を論ずる。</p> <p>事前学修：指定した教科書の第9章を読み、疑問点などをまとめておくこと。</p> <p>事後学修：日本経済の現状を、講義内容に基づいて自ら考察してみる。</p>
15回	<p>授業内容：日本経済の将来像：これまでの授業を踏まえて、日本経済の将来を考える。</p> <p>事前学修：これまでの授業を踏まえて、各自、日本経済の将来を考えておくこと。</p> <p>事後学修：各自が考えた、日本経済の将来像の精緻化を図ること。</p>

◆**教科書** 岡田 実『実験で学ぶ経済学』大塚友美 創成社 2005

◆**参考書** なし

◆**成績評価基準** 毎回出席することを前提として評価する。最低限、総授業回数の3分の2は出席すること。これ以下の場合には失格とする。ただし、出席状況は評価には含めない。評価は、平常点（20%）、レポート等（80%）とする。

### 注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。



# 講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## (英語)

桑山 啓子

◆**授業概要** 語学を学習する上で言語の4技能 (reading, listening, writing, speaking) 全ての力がバランスよく習得出来るよう語学力が向上することである。この授業では4技能のうち Reading の力を付けることで小説、新聞、書類などを正確に読めるようになる。また英文を正確に読めるようになるために必要な文法事項も説明していく。

◆**学修到達目標** 英文を読むのに必要となる基礎的な文法知識を身につけ、reading の力を向上させて、英文を正確に読めるようになる。

◆**授業方法** 昨年度用いたテキストの後半部分 (Unit 7-Unit 12) を授業で読む。Exercise の答えを確認しながら本文の内容全体を確認する。その後で本文の英文を一文ずつ和訳する。本文の和訳と Exercise の答えは学生が発表して、間違えたところの訂正と説明を教師が行う。クラスの数と受講した学生の実力に応じて授業方法を変更することもある。その場合には必ず前もって授業の中で知らせる予定である。本授業の事前学修、事後学修は各2時間を目安とする。

### ◆授業計画 [各 90 分]

1回	授業内容	ガイダンス：スクーリング期間に行うこと、授業の進め方、成績評価などの説明、シャーロックホームズについての説明 Unit 7- 1: 本文を英文和訳する。その上で内容の確認、重要な語句、英文等の意味の確認、Exercise の答え合わせ
	事前学修	Unit 7- 1: Exercise の問題を解きながら本文の内容を捉える。分からない語 (句) を辞書で調べて本文を和訳する。
	事後学修	事前学修した内容を授業で確認して間違っていたところをもう一度見直す。本文の英文をもう一度読み、内容を確認して、解釈を間違えたところを復習する。
2回	授業内容	Unit 7- 2: 本文の内容の確認と Exercise の答え合わせ。重要な語 (句) や英文の説明。7- 3の Listening Script (p.51) の CD を聴いて英文の内容を確認したうえで p.49 の質問の答え合わせ。Preparation for the next story! の答え合わせと英文の内容の確認。
	事前学修	Unit 7- 2の英文を和訳して Exercise を解く。Preparation for the next story! の英文の①～⑩に語群から選んだ語を入れて、英文を和訳する。Listening Script の下線部分に入る語 (句) を予想する。英文の分からない語を辞書で調べる。
	事後学修	事前学修した内容を授業で確認して間違っていたところをもう一度見直す。本文、Preparation for the next story! と Listening Script の英文をもう一度読み直す。
3回	授業内容	Unit 7の本文の内容を確認。Unit 8- 1の本文の内容の確認と和訳。Exercise の表に入る答えを確認。Unit 8- 2の英文を和訳。
	事前学修	Unit 8- 1と2の本文を和訳する。8- 1の英文の内容を確認して p.53 の Exercise の表を完成させる。8- 2の英文を和訳する。
	事後学修	事前学修した Unit 8- 1, 2の本文の和訳と Exercise で間違えたところを復習。単語、語句、英文の復習する。
4回	授業内容	Unit 8- 2の英文の内容を確認。Exercise の答え合わせ。P.57の Listening Script の CD を聴いて穴埋め問題を解いた後、答え合わせをする。Preparation for the next story! の答え合わせと英文の内容の確認。
	事前学修	Unit 8- 2の英文を再度読み、Exercise の問題を解く。Listening Script (p.19) の分からない単語を辞書で調べる。Preparation for the next story! の英文の①～⑩に語群から選んだ語を入れて英文を完成させ、英文を和訳する。
	事後学修	Unit 8- 2の英文を再度読み、Exercise と Preparation for the next story! の復習。Listening Script の内容を確認して音読練習する。
5回	授業内容	Unit 9- 1の本文の和訳。P.59の Exercise の答え合わせ。9- 2 (p.63) の Listening Script を聴いて下線部分に入る語の答え合わせと内容の確認。その後で9- 2 (p.60) の質問の答え合わせをする。
	事前学修	Unit 9- 1の本文の和訳。P.59の Exercise を解いて、p.63の Listening Script の英文の分からない語を辞書で調べる。
	事後学修	事前学修した Unit 9- 1の本文の和訳と Exercise の間違えたところを中心に復習する。Listening Script を音読練習。
6回	授業内容	Unit 9- 3の本文の和訳と Exercise の答え合わせ。Preparation for the next story! の答え合わせと英文の内容の確認。(時間があれば p.63の Listening Script の音読練習)
	事前学修	Unit 9- 3の本文を和訳して Exercise を解く。Preparation for the next story! の英文の①～⑩に語群から選んだ語を入れて英文を完成させて、英文を和訳する。
	事後学修	Unit 9- 3の本文、Exercise、Preparation for the next story! を事後学修で間違えたところ、分からないところを中心に復習する。
7回	授業内容	Unit 10- 1の本文の和訳と Exercise の答え合わせ。10- 2の英文を和訳して、時間があれば Exercise の答え合わせをする。
	事前学修	Unit 10- 1と10- 2の本文を和訳して Exercise を解く。
	事後学修	Unit 10- 1と10- 2の本文と Exercise を分からない英文や事前学修で間違えたところを中心に復習する。
8回	授業内容	Unit 10- 2の本文と Exercise の内容の確認。Exercise の答え合わせ。10- 3の Listening Script の CD を聴いて穴埋め部分と p.67の質問の答え合わせ。Preparation for the next story! の①～⑩に入る語を答え合わせして英文の内容の確認。
	事前学修	Unit 10- 3 Listening Script の本文の分からない語を辞書で調べる。Preparation for the next story! の英文の①～⑩に語群から選んだ語を入れて英文を完成させて英文を和訳する。
	事後学修	授業で学んだ部分を復習する。特に事前学修で分からなかった部分、間違えたところを中心に音読をしながら復習。
9回	授業内容	Unit 11- 1の本文の和訳。P.59の Exercise の答え合わせ。11- 2の本文の和訳。11- 1, 2の重要な語句や英文の確認。
	事前学修	Unit 11- 1, 2の英文の分からない語 (句) を調べて和訳する。
	事後学修	Unit 11- 1と11- 2の本文と Exercise を分からない英文や事前学修で間違えたところを中心に復習する。
10回	授業内容	11- 2の本文の内容を確認して Exercise の答え合わせ。11- 3の Listening Script の CD を聴いて穴埋め部分と p.73の質問の答え合わせ。Preparation for the next story! の①～⑩に入る語を答え合わせして英文の内容の確認。
	事前学修	Unit 11- 3 Listening Script の本文の分からない語を辞書で調べる。Preparation for the next story! の英文の①～⑩に語群から選んだ語を入れて英文を完成させて英文を和訳する。
	事後学修	11- 2の本文、11- 3の Listening Script、Preparation for the next story! の英文を音読しながら復習する。
11回	授業内容	Unit 12- 1の本文の和訳と Exercise の答え合わせ。12- 2の本文の和訳。12- 1, 2の重要な語句や英文の確認。
	事前学修	Unit 12- 1と2の英文の分からない語 (句) を調べて和訳する。
	事後学修	Unit 12- 1と12- 2の本文と Exercise を分からない英文や事前学修で間違えたところを中心に復習する。
12回	授業内容	12- 2の本文の復習をしてから Exercise の答え合わせ。12- 3の Listening Script の CD を聴いて穴埋め部分と p.79の質問の答え合わせ。Preparation for the next story! の①～⑩に入る語を答え合わせして英文の内容の確認。
	事前学修	12- 2の本文の復習をしてから Exercise を解く。Listening Script の本文の分からない語を辞書で調べる。Preparation for the next story! の英文の①～⑩に語群から選んだ語を入れて英文を完成させて英文を和訳する。
	事後学修	Unit 12- 2の英文、Exercise、Listening Script、Preparation for the next story! の英文を事前学修で分からなかったところや間違えたところを中心に復習。
13回	授業内容	Unit 12- 1, 2の本文、Listening Script の英文の内容の確認。シャーロックホームズ「ぶな屋敷の怪事件」の DVD を見てテキストで読んだ内容を確認する。
	事前学修	Unit 12- 1, 2の本文、Listening Script の英文を再度読み直す。
	事後学修	Unit 12 全体を復習
14回	授業内容	Unit 7- Unit 12 の復習。
	事前学修	Unit 7- Unit 12 の重要な英文、語 (句) をテキストから書き出して和訳する。重要な語句を覚える。
	事後学修	Unit 7- Unit 12 の授業で学んだことを復習する。
15回	授業内容	試験及び解説
	事前学修	Unit 1- Unit 6 までの英文、Exercises、Preparation for the next story!、Listening Script の英文を見なおして分からないところは再度和訳する。覚えていない単語、熟語は覚えて試験に備える。
	事後学修	試験に出題された問題を中心にテキストを再度見直す。

◆**教科書** 英訳『Mystery Tour with Sherlock Holmes』上村・山科共著 第9刷 センジャー・ラーニング 2017年

◆**参考書** 英訳『英文法解説』江川泰一郎著 金子書房

英訳『総合英語 Forest』石黒昭博監修 桐原書店

◆**成績評価基準** 3日間出席することを前提に評価します。(評価内容：授業への取り組みや授業時に行う予習確認や復習の小テスト等 20%、授業時の発表状況 20%、試験 60%)

### 注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談 (連絡先) に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

# 講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔英語Ⅴ〕 オープン受講：不可

水野 隆之

◆**授業概要** 英語Ⅴは英文学専攻の学生を対象とした、専門科目で必要となる英語力の完成を目指す授業です。下記に記載したイギリス現代文化の様々な側面を取り扱ったテキストを精読することで、時には日本文化との比較を視野に入れながら、イギリス文化への理解を深めていきます。また、英語と日本語の発想の違いや英語でものを考える際の適切な表現なども併せて学んでいきます。

◆**学修到達目標** 下記に記載のテキストを精読することで、次のことができるようになる。

1. イギリス文化について理解し、その特質や日本文化との違いについて説明できる。
2. 様々な英文を読むのに必要な語彙力と基本的文法知識を習得することで、平易な英語を正確に読むことができる。
3. 英語独特の発想を理解し、英語で考えることができる。

◆**授業方法** 毎時間テキストの精読を中心に進めていきます。毎回学生を指名して内容の確認をしていきます。必ず事前にテキストに目を通し、分からない単語は辞書を引いて調べ、疑問点を明確にした上で授業に臨んでください。授業計画に従って、2回の授業で1章分を読了することを目安に、テキストに沿って進めていきますが、受講学生の理解度に応じて進度は調整していきます。本授業の事前学修・事後学修の時間は各2時間を目安としています。

◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容：ガイダンス。授業の進め方の説明。第1章前半の精読。 事前学修：第1章の前半部分を読んでくる。 事後学修：テキストを再読し、単語、文法事項等の確認をする。
2回	授業内容：第1章後半の精読。 事前学修：第1章の後半部分を読んでくる。 事後学修：テキストを再読し、単語、文法事項等の確認をする。
3回	授業内容：第2章前半の精読。 事前学修：第2章の前半部分を読んでくる。 事後学修：テキストを再読し、単語、文法事項等の確認をする。
4回	授業内容：第2章後半の精読。 事前学修：第2章の後半部分を読んでくる。 事後学修：テキストを再読し、単語、文法事項等の確認をする。
5回	授業内容：第3章前半の精読。 事前学修：第3章の前半部分を読んでくる。 事後学修：テキストを再読し、単語、文法事項等の確認をする。
6回	授業内容：第3章後半の精読。 事前学修：第3章の後半部分を読んでくる。 事後学修：テキストを再読し、単語、文法事項等の確認をする。
7回	授業内容：第4章前半の精読。 事前学修：第4章の前半部分を読んでくる。 事後学修：テキストを再読し、単語、文法事項等の確認をする。
8回	授業内容：第4章後半の精読。 事前学修：第4章の後半部分を読んでくる。 事後学修：テキストを再読し、単語、文法事項等の確認をする。
9回	授業内容：第5章前半の精読。 事前学修：第5章の前半部分を読んでくる。 事後学修：テキストを再読し、単語、文法事項等の確認をする。
10回	授業内容：第5章後半の精読。 事前学修：第5章の後半部分を読んでくる。 事後学修：テキストを再読し、単語、文法事項等の確認をする。
11回	授業内容：第6章前半の精読。 事前学修：第6章の前半部分を読んでくる。 事後学修：テキストを再読し、単語、文法事項等の確認をする。
12回	授業内容：第6章後半の精読。 事前学修：第6章の後半部分を読んでくる。 事後学修：テキストを再読し、単語、文法事項等の確認をする。
13回	授業内容：第7章前半の精読。 事前学修：第7章の前半部分を読んでくる。 事後学修：テキストを再読し、単語、文法事項等の確認をする。
14回	授業内容：第7章後半の精読。 事前学修：第7章の後半部分を読んでくる。 事後学修：テキストを再読し、単語、文法事項等の確認をする。
15回	授業内容：試験とまとめ。 事前学修：これまで学習した内容を確認する。 事後学修：テキストを再読し、単語、文法事項等の確認をする。

◆**教科書** 凡沼『Realise Britain』Colin Joyce 著・真野泰編注 金星堂 2014年

◆**参考書** 指定しない

◆**成績評価基準** 試験（70%）、授業時の発言、予習、復習など授業への取り組み（30%）。毎回出席することを前提として評価します。

## 注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

# 講座内容（シラバス）

## 〔中国語Ⅲ・Ⅳ〕

稲葉 明子

- ◆**授業概要** 講読とリスニングの二本立てです。『論説体中国語読解力養成講座』は「書面語（文章体中国語）」のバイブルであり、長く座右に置いて用いていくものですが、最初はどこから取り組んでいいかわからないかもしれません。初級文法を確認しながら読んでいく訓練を行います。リスニングでは、中国語検定4級リスニング問題を解き、次にシートを用いて単語を音で把握した後、場面と音声から自力で内容をつかんでいく訓練を行います。初日に学習方法を示すので、今後につなげる自分なりの効果的な学習方法を確立してください。
- ◆**学修到達目標** 自宅学習が困難な発音を完成させながら、将来にわたって中国語を自律的に吸収し、自力で学習していくための能力を確立しましょう。正しい発音は即ち確固たるリスニング力を意味します。漢字や日本語訳に頼らず音声のみから文と文脈を自力で捉えていく力をつけます。
- ◆**授業方法** まずは講義動画を見て中国語の発音理論を完全にしてください。そしてそれを踏まえて一日一課題の中国語検定4級長文聴解問題を素材に訓練を行います。長文読解については日本語訳をノートの上でじっくり練ってください。その後、PC入力し、「質問」に投稿することで、他の受講生の訳も参考に論点を考えるということを一週間行います。辞書の他、時事問題についてはインターネット検索も活用しましょう。適宜初級文法をまとめながら進めます。
- ◆**履修条件** 中国語Ⅰ既習相当の基礎が必要です。中国語Ⅱは習得中であっても差し支えありません。
- ◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容：ガイダンス（学習の進め方）発音1（声調） 事前学修：プリントを準備し、音声提出のためにPCの録音環境を確認する 事後学修：声調のポイントをまとめ、質問に提出する
2回	授業内容：中国語検定4級リスニング問題「自己紹介」 事前学修：指示されたサイトを見て、PC・スマホによる中国語入力に習熟しておく 事後学修：解答を課題に入力する
3回	授業内容：動画・論説文の攻略1 事前学修：指示されたサイトを見て、PC・スマホによる中国語入力に習熟しておく 事後学修：課題文の訳を仕上げ、入力して質問に提出する
4回	授業内容：発音2（韻母） 事前学修：プリントを準備し、音節総表を下敷きで養生する 事後学修：韻母のポイントをまとめ、質問に提出する
5回	授業内容：中国語検定4級リスニング問題「趣味」 事前学修：指示されたサイトを見て、PC・スマホによる中国語入力に習熟しておく 事後学修：解答を課題に入力する
6回	授業内容：動画・論説文の攻略2 事前学修：指示されたサイトを見て、PC・スマホによる中国語入力に習熟しておく 事後学修：課題文の訳を仕上げ、入力して質問に提出する
7回	授業内容：発音3（声母） 事前学修：音節総表を見て前回の内容を位置付ける 事後学修：声母のポイントをまとめ、質問に提出する
8回	授業内容：中国語検定4級リスニング問題「買い物」 事前学修：指示されたサイトを見て、PC・スマホによる中国語入力に習熟しておく 事後学修：解答を課題に入力する
9回	授業内容：動画・論説文の攻略3 事前学修：指示されたサイトを見て、PC・スマホによる中国語入力に習熟しておく 事後学修：課題文の訳を仕上げ、入力して質問に提出する
10回	授業内容：発音4（子音2・総合） 事前学修：音節総表を見て前回の内容を位置付ける 事後学修：今回の内容で注意すべき点をまとめ、入力して質問に提出する
11回	授業内容：リスニング問題4「日常生活」等 事前学修：家庭での復習用に、WEBサイト（YouTube）視聴可能なよう準備しておく 事後学修：WEBサイトを用いて多角的に復習する
12回	授業内容：動画・論説文の攻略4 事前学修：指示されたサイトを見て、PC・スマホによる中国語入力に習熟しておく 事後学修：課題文の訳を仕上げ、入力して質問に提出する
13回	授業内容：時量と時点、日時の言い方 事前学修：指示されたサイトを見て、PC・スマホによる中国語入力に習熟しておく 事後学修：中国語の時刻」と数字全般のポイントをまとめ、質問に提出する
14回	授業内容：リスニング問題5「日常生活」等 事前学修：家庭での復習用に、WEBサイト（YouTube）視聴可能なよう準備しておく 事後学修：WEBサイトを用いて多角的に復習する
15回	授業内容：動画・論説文の攻略4 事前学修：指示されたサイトを見て、PC・スマホによる中国語入力に習熟しておく 事後学修：課題文の訳を仕上げ、入力して質問に提出する

- ◆**教科書** 『論説体中国語読解力養成講座』三瀧正道 東方書店  
家庭学習指示プリント・授業内プリント（PDF）
- ◆**参考書**
- ◆**成績評価基準** 成績評価は提出された毎日の課題内容から総合的に評価します。
- ◆**授業相談（連絡先）**：質問や問題点はClassroomのストリームや限定コメントなどを利用してください。

注意

# 講座内容（シラバス）

## 〔刑法Ⅰ〕

西貝 吉晃

- ◆**授業概要** 犯罪論のうちの、刑法総論という、一般的な犯罪の成立要件に関する議論を学ぶ。
- ◆**学修到達目標** 刑法総論の基本的な考え方を具体的な事案に対する裁判所の判断（判例）を読みながら学ぶ。判例を読むことで、実際の事案の解決方法を知り、これを説明することができるようになる。
- ◆**授業方法** 基本的には教科書の叙述にしたがって進める。同時に、教科書に書かれている難解な概念の理解を促進するために、判例を実際に一緒に読んでいく（読む時間を授業内で与える）。
- ◆**履修条件**
- ◆**授業計画（各90分）**

1回	授業内容：犯罪論の基礎 犯罪の定義，罪刑法定主義 事前学修：教科書の第1編，及び第2編第1章を読んでおく。 事後学修：三段階説に基づく犯罪の定義を確実にいえるようにする。
2回	授業内容：構成要件論1 構成要件の内容，行為論，犯罪類型（危険犯等） 事前学修：教科書の第2編第2章第1節～第3節を読んでおく。 事後学修：法益の概念を用いた解釈の方法論について説明できるようになっているか確認する。
3回	授業内容：構成要件論2 刑法上の因果関係，間接正犯 事前学修：教科書の第2編第2章第4節，及び第5節を読んでおく。 事後学修：刑法特有の議論を含む因果関係の議論の方法を事案に応じて説明できるようにする。
4回	授業内容：構成要件論3 不作為犯論 事前学修：教科書の第2編第2章第6節を読んでおく。 事後学修：不真正不作為犯における作為義務の要件を説明できるようにする。
5回	授業内容：違法性1 違法性阻却事由の議論としての違法性論 正当防衛論 事前学修：教科書の第2編第3章第1節，及び第3節を読んでおく。 事後学修：正当防衛の成否について各要件の機能を考えつつ事案に応じて説明できるようにする。
6回	授業内容：違法性2 被害者の同意論 事前学修：教科書の第2編第3章第5節を読んでおく。 事後学修：被害者の同意によって犯罪にならない場合の範囲を説明できるようになる。
7回	授業内容：違法性3 その他の違法性阻却事由（緊急避難，可罰的違法性等） 事前学修：教科書の第2編第3章第2節，第4節，及び第6節を読んでおく。 事後学修：その他の違法性が阻却される場合を説明できるようにする。
8回	授業内容：責任論1 責任総論，及び故意・過失総論 事前学修：教科書の第2編第4章第1節，及び第2節を読んでおく。 事後学修：故意・過失の基本的な定義とその内容を説明できるようにする。
9回	授業内容：責任論1 故意論 錯誤論 事前学修：教科書の第2編第4章第3節を読んでおく。 事後学修：錯誤論について事案に応じて説明できるようになる。
10回	授業内容：責任論2 過失犯論，及びその他の責任論 事前学修：教科書の第2編第4章第4節を読んでおく。 事後学修：過失犯論について事案に応じて説明できるようになる。
11回	授業内容：構成要件の拡張1 未遂犯論（中止犯を含む） 事前学修：教科書の第2編第5章を読んでおく。 事後学修：未遂犯論について事案に応じて説明できるようになる。
12回	授業内容：構成要件の拡張2 共犯論 総論（共犯の処罰根拠，共同正犯の成立要件） 事前学修：教科書の第2編第6章第1節，及び第2節を読んでおく。 事後学修：共同正犯の成立範囲を説明できるようになる。
13回	授業内容：構成要件の拡張2 共犯論 各論（教唆・幫助，共犯と身分，共犯関係の解消，承継的共犯） 事前学修：教科書の第2編第6章第3節を読んでおく。 事後学修：各論的な共犯に関する議論について知る。
14回	授業内容：罪数と科刑処理 事前学修：教科書の第2編第7章を読んでおく。 事後学修：犯罪の個数について処理の方法を説明できるようになる。
15回	授業内容：確認テストを行う。（教科書を見ながら解いてよい。） 事前学修：教科書の刑法総論の部分の復習を行う。 事後学修：刑法総論についての理解が足りなかったところを重点的に復習し，刑法各論の予習とする。

- ◆**教科書** 凡例『刑法 第3版』山口厚
- ◆**参考書** 凡例『判例刑法総論 第7版』西田典之ほか編
- ◆**成績評価基準** 最終授業時に実施する筆記試験に平常評価を加味して評価を行う。評価の基準は，上の学修到達目標を，完璧に達成した場合をSとし，以下，十分に達成とA，概ね達成をB，最低限達成をC，不達成をDとする。
- ◆**授業相談（連絡先）**：初回授業時に案内します。

注意

# 講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔国際法〕

渡部 茂己

◆**授業概要** 「国際社会」を規律する法規範としての「国際法」（国際公法）は、どのような形で存在しているのか（法源の意義と種類）、どのようにして定立されるのか（立法）、もし守らない場合にはどのような制裁を受けるのか（適用・執行）、また、国際法主体（当事者）としての国家や国際社会の裁判所である国際司法裁判所などの基本的な事項を学び、国内法や国際私法との違いを理解する。国際法や国際機構の教材や研究書を出版し本講義の教科書として用いており、国連決議・翻訳校閲チームとして決議や規則の翻訳を担当した経験も踏まえて授業を進める。

◆**学修到達目標** 「国際法」はどのような形で存在しているか（法源）、だれがどのようにして定立するのか、また、国際法の適用や執行について説明できる。そして、国際法主体としての国家や国際社会の裁判所について要点を説明できる。

◆**授業方法** 教科書や配付プリント、パワーポイントを用いた講義を中心に、課題についての小論文作成、討議も併用する。視聴覚教材も用いることがある。

### ◆授業計画〔各90分〕

1回	授業内容：国際法（国際公法）と国際私法（国際取引における準拠法決定）、国際法の起源（および沿革）と国際私法の起源 事前学修：教科書第1章5～7頁を読み理解する。 事後学修：同上の箇所およびその前後を復習する。
2回	授業内容：国際法の意義・基本原理と諸分野、国際社会の特質、国内社会（の法）との違い 事前学修：教科書第1章2～5頁を読んで理解する。 事後学修：同上の箇所およびその前後を復習する。
3回	授業内容：国際法の法源の意義と種類（形式的法源と実質的法源、条約と国際慣習法） 事前学修：教科書第2章を熟読する。 事後学修：同上の箇所およびその前後を復習する。
4回	授業内容：国際法と国家Ⅰ（国家の成立、国家承認の理論と実際の事例） 事前学修：教科書第3章を精読する。 事後学修：同上の箇所およびその前後を復習する。
5回	授業内容：国際法と国家Ⅱ（国家の国際交渉機関、国家の国際責任） 事前学修：教科書第4章、5章を読み理解する。 事後学修：同上の箇所およびその前後を復習する。
6回	授業内容：国家の領域、海洋法 事前学修：教科書第6章、7章を読み理解する。 事後学修：同上の箇所およびその前後を復習する。
7回	授業内容：国際公域（南極、深海底、宇宙） 事前学修：教科書第8章を読み理解する。 事後学修：同上の箇所およびその前後を復習する。
8回	授業内容：国際紛争の平和的解決 事前学修：教科書第14章を一読する。 事後学修：同上の箇所およびその前後を復習する。
9回	授業内容：国際裁判法（国際司法裁判所）、視聴覚教材 事前学修：教科書第14章の202頁以降を読み理解する。 事後学修：同上の箇所およびその前後を復習する。
10回	授業内容：国際安全保障（人間の安全保障、国際人道法を含む） 事前学修：教科書第15章を一読する。 事後学修：同上の箇所およびその前後を復習する。
11回	授業内容：国家以外の国際法主体、国際法と個人 事前学修：教科書第1章9頁、第9章を読み理解する。 事後学修：同上の箇所およびその前後を復習する。
12回	授業内容：基本的人権の国際的保護（国際人権法） 事前学修：教科書第9章に目を読み理解する。 事後学修：同上の箇所およびその前後を復習する。
13回	授業内容：国際法と地球環境（国際環境法） 事前学修：教科書第10章を読み理解する。 事後学修：同上の箇所およびその前後を復習する。
14回	授業内容：国際法と国際経済（国際経済法） 事前学修：教科書第11章を読み理解する。 事後学修：同上の箇所およびその前後を復習する。
15回	授業内容：国際法と国際機構・国連（国際機構法と国際組織法）、条約の締結手続と効力（条約法） 事前学修：教科書第12章、13章を読み理解する。 事後学修：同上の箇所およびその前後を復習する。

◆**教科書** 題材【国際法 第2版】通信教育教材（教材コード000462）  
（市販の『国際法・第3版』渡部茂己・喜多義人編（弘文堂）と同じ。第2版でもかまいません。）

◆**参考書** なし

◆**成績評価基準** 授業内で作成する課題についての小論文や質疑を含む授業参画度（50%）、論述試験（50%）

### 注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆**授業概要** 本科目では、①「日本史」とは何か、②原始・古代から現代に至るまでの歴史の変遷、③「歴史事実」の多様性への理解などを、世界の中での日本という地理的・歴史的な位置付けを意識しながら学修し、政治・経済を中心として、それを背景とした社会・文化への理解を深めていきます。

◆**学修到達目標** ①日本の全時代を通じた時代の流れを辿る説明できるようにする。  
②日本の各時代の主な出来事と、その背景や意義、注目点について知り、説明できるようにする。  
③日本の歴史を通じて、現在の物事や課題を考える姿勢を身につける。

◆**授業方法** 事前に教科書や関連文献などで、時代概要を把握していることを前提として、配信動画で授業を進行します。本授業の事前学修・事後学修の時間は各2時間を目安としています。

◆**履修条件** 令和2年度昼間前期「日本史概説／日本史概論」との積み重ね不可

◆**授業計画**

1回	授業内容	"講義についての説明、先史時代について"
	事前学修	授業の進め方や成績評価について説明します。旧石器時代から弥生時代の日本について学びます。"
	事後学修	"シラバスの内容を十分に確認し、講義全体の流れを把握しておく。"
2回	授業内容	教科書 p 3～7 を熟読しておくこと"
	事前学修	授業内の不明な点や疑問点について、ノートや教科書、または関連する文献で復習し、理解を深めておくこと
	事後学修	"ヤマト王権の成立と展開"
3回	授業内容	古墳の出現とヤマト王権の成立から展開について学びます"
	事前学修	教科書 p 7～16 を熟読しておくこと
	事後学修	授業内の不明な点や疑問点について、ノートや教科書、または関連する文献で復習し、理解を深めておくこと
4回	授業内容	"律令国家の成立と展開"
	事前学修	律令国家が形成される奈良時代に関する諸事項について学びます"
	事後学修	教科書 p 17～32 を熟読しておくこと
5回	授業内容	授業内の不明な点や疑問点について、ノートや教科書、または関連する文献で復習し、理解を深めておくこと
	事前学修	"王朝国家の展開と武士の台頭"
	事後学修	律令体制の崩壊と荘園・武士の発生について学びます。"
6回	授業内容	教科書 p 33～55 を熟読しておくこと
	事前学修	授業内の不明な点や疑問点について、ノートや教科書、または関連する文献で復習し、理解を深めておくこと
	事後学修	"鎌倉幕府の成立と展開"
7回	授業内容	武士が築いた政権である鎌倉幕府に関する諸事項について学びます。"
	事前学修	教科書 p 55～67 を熟読しておくこと
	事後学修	授業内の不明な点や疑問点について、ノートや教科書、または関連する文献で復習し、理解を深めておくこと
8回	授業内容	"室町幕府の成立と展開"
	事前学修	足利氏が築いた室町幕府の成立と展開に関する諸事項について学びます。"
	事後学修	教科書 p 68～77 を熟読しておくこと
9回	授業内容	授業内の不明な点や疑問点について、ノートや教科書、または関連する文献で復習し、理解を深めておくこと
	事前学修	"領域権力の割拠から統一へ"
	事後学修	各地の「戦国大名」が活躍した戦国時代に関する諸事項について学びます。"
10回	授業内容	教科書 p 77～89 を熟読しておくこと
	事前学修	授業内の不明な点や疑問点について、ノートや教科書、または関連する文献で復習し、理解を深めておくこと
	事後学修	"幕藩体制の成立"
11回	授業内容	徳川氏による全国統一体制が成立する江戸時代前期の政治と社会を中心に学びます。"
	事前学修	教科書 p 115～124 を熟読しておくこと
	事後学修	授業内の不明な点や疑問点について、ノートや教科書、または関連する文献で復習し、理解を深めておくこと
12回	授業内容	"幕藩体制の展開"
	事前学修	幕藩体制が確立していく江戸時代中期の政治と社会を中心に学びます。"
	事後学修	教科書 p 124～137 を熟読しておくこと
13回	授業内容	授業内の不明な点や疑問点について、ノートや教科書、または関連する文献で復習し、理解を深めておくこと
	事前学修	"幕藩体制の崩壊"
	事後学修	幕府体制が動揺と崩壊を迎える江戸時代後期の政治と社会を中心に学びます。"
14回	授業内容	教科書 p 138～161 を熟読しておくこと
	事前学修	授業内の不明な点や疑問点について、ノートや教科書、または関連する文献で復習し、理解を深めておくこと
	事後学修	"近代国家の建設と展開"
15回	授業内容	立憲国家の形成過程と展開について学びます。"
	事前学修	教科書 p 189～220 を熟読しておくこと
	事後学修	授業内の不明な点や疑問点について、ノートや教科書、または関連する文献で復習し、理解を深めておくこと

◆**教科書** 『概論 日本歴史』 通信教育教材 (教材コード000382)

◆**参考書(参考文献等)** 特になし

◆**成績評価基準** 授業内容に対するリアクションペーパー (50%)、レポート (50%) を実施して、総合的に評価します。  
※全ての授業に出席することが前提です。

◆**授業概要** 本講義では、近代日本において展開された政治を通史のかたちで学んでいく。歴史的な文脈を正しく把握するためには、時代ごとに区切って学ぶことは必ずしも得策ではないが、便宜上、本講義では幕末から明治前期を対象とする。史料に基づいて通説を批判的に検証しながら、日本における近代国家の形成過程に対する理解を深める。【※注意※ 例年と異なり、2020年度の夏期スクーリングは「幕末・明治前期」を扱います】

◆**学修到達目標** 歴史を考察するための基本的な方法を理解し、批判的に史料を読むことができる。  
幕藩体制が崩壊した過程を、内的要因と外的要因を踏まえて説明することができる。  
明治新政府が進めた集権化政策・近代化政策について、具体的に説明することができる。  
当時の国際情勢を踏まえて日本が抱えていた条約問題を理解し、条約改正運動の展開を説明することができる。

◆**授業方法** Google ClassroomとYoutubeを使用する。基本的には、通信教育教材（教科書）の章立てに沿うかたちで、史料や最新の研究成果を紹介しながら講義を進める。授業の内容は、あくまでも初学者を対象として構成しているが、高校までの歴史科目で扱われている基本的な出来事や人物に関しては、おおむね理解していることを前提に話を進める。受講にあたっては、かならずノートを用意すること。

◆**履修条件** 令和2年度昼間スクーリング（前期）『日本政治史』との積み重ね不可。

◆**授業計画**

1回	授業内容	イントロダクション
	事前学修	シラバスを読んでくること。
	事後学修	ノートの取り方を確認する。
2回	授業内容	政党政治の隆盛と国際的孤立①
	事前学修	教科書第8章第1節第1項～第2項を読んでおくこと。
	事後学修	ノートを整理し、金融恐慌や昭恐慌の過程を理解する。
3回	授業内容	政党政治の隆盛と国際的孤立②
	事前学修	教科書第8章第1節第3項～第5項を読んでおくこと。
	事後学修	ノートを整理し、満洲事変や五・一五事件の歴史的意義を理解する。
4回	授業内容	戦争とファシズムへの道①
	事前学修	教科書第8章第2節第1項～第2項を読んでおくこと。
	事後学修	ノートを整理し、皇道派と統制派の論理と陸軍の派閥抗争の展開を理解する。
5回	授業内容	戦争とファシズムへの道①
	事前学修	教科書第8章第2節第3項～第4項を読んでおくこと。
	事後学修	ノートを整理し、二・二六事件の歴史的意義を理解する。
6回	授業内容	小括：軍部支配と戦争への歩み
	事前学修	ここまでのノートを見返し、教科書や参考文献などで補う。
	事後学修	政党政治が失墜し、軍部が台頭した理由を考える。
7回	授業内容	補論：新聞記事から捉える昭和前期の政治①
	事前学修	ここまでのノートを見返し、教科書や参考文献などで補う。
	事後学修	1日目で扱われていた出来事が当時の新聞でどのように扱われていたのかを理解する。
8回	授業内容	日中戦争①
	事前学修	教科書第8章第3節第1項～第2項を読んでおくこと。
	事後学修	ノートを整理し、「庶政一新」「広義国防」の論理と軍部が専横する過程を理解する。
9回	授業内容	日中戦争②
	事前学修	教科書第8章第3節第3項～第4項を読んでおくこと。
	事後学修	ノートを整理し、盧溝橋事件の展開と、国家総動員法や近衛声明の歴史的意義を理解する。
10回	授業内容	戦争への道①
	事前学修	教科書第9章第1節第1項～第3項を読んでおくこと。
	事後学修	ノートを整理し、「東亜新秩序建設」の論理や、日独伊三国同盟の歴史的意義を理解する。
11回	授業内容	小括：大日本帝国の崩壊へ
	事前学修	ここまでのノートを見返し、教科書や参考文献などで補う。
	事後学修	日中戦争が泥沼化した理由を考える。
12回	授業内容	補論：新聞記事から捉える昭和前期の政治②
	事前学修	ここまでのノートを見返し、教科書や参考文献などで補う。
	事後学修	2日目で扱われていた出来事が当時の新聞でどのように扱われていたのかを理解する。
13回	授業内容	戦争への道②
	事前学修	教科書第9章第1節第4項～第5項を読んでおくこと。
	事後学修	ノートを整理し、対米交渉の過程と「ハル・ノート」の歴史的意義を理解する。
14回	授業内容	大東亜戦争（アジア・太平洋戦争）①
	事前学修	教科書第9章第2節第1項～第2項を読んでおくこと。
	事後学修	ノートを整理し、大東亜会議の歴史的意義や、緒戦勝利から戦局悪化の過程を理解する。
15回	授業内容	大東亜戦争（アジア・太平洋戦争）②／総括 ※なお、進捗状況によっては第10章の一部を扱う場合もある。
	事前学修	教科書第9章第2節第3項を読んでおくこと。ここまでのノートを見返ししておくこと。
	事後学修	現代に生きる私たちが、昭和前期の政治から何を学び得るか考える。

◆**教科書** 『日本政治史 L30400』 通信教育教材

◆**参考書(参考文献等)** ※参考書は適宜、授業で紹介する

◆**成績評価基準** 毎回の講義ごとにGoogleフォームを用いたリアクションペーパーで形成評価を行う（5%）。受講が授業総数の3分の2に満たない者は評価対象外とする。成績は、2回の小テストと最終テストの計3回のオンライン試験（筆記試験）で評価する（95%）。

# 講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔国文学史Ⅰ〕

加藤 清

- ◆**授業概要** 上代文学から中古文学までの文学の流れを概観したうえで、各時代の文学様式や作品発生と展開について講義します。
- ◆**学修到達目標** 奈良から平安までの時代を概観しながら、日本文学の歴史の変遷・展開の基礎的な知識をもつことを目標としています。また、そのような展望から、特に韻文（歌謡・和歌）を中心に各作品の特質を考察することにより、自らが興味をもつ個々の文学作品についても、それらが有する諸問題の基礎的な知識が得られるようになることを目標としています。
- ◆**授業方法** 講義形式での授業となります。文学史ではあるが、授業ではできるだけ作品にふれ講読（解釈と解説）を加えながら、その特色と変遷を考えます。
- ◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容	「文学史の立場（はじめに）。文学史とはどのような学問であるかを考えます。各作品と時代との関わりはどのように捉えられるかについて講義します。
	事前学修	国文学のおおまかな流れを確認しておくこと。
	事後学修	文学史を学ぶことの意義を確認しておくこと。
2回	授業内容	「文学史の視点」。文学史的視点の基礎となる、「ジャンル」と「様式」について講義します。
	事前学修	「韻文」「散文」の概観について確認しておくこと。
	事後学修	各作品の関係性をどう捉えるか整理しておくこと。
3回	授業内容	「ウタの発生」。記紀歌謡を参考に定型和歌以前の韻文について概観します。文学発生論の諸説を理解し、文学ジャンルの展開の基礎を学びます。
	事前学修	「古事記」「日本書紀」に記載されている歌謡の概観を確認しておくこと。
	事後学修	
4回	授業内容	「歌体の成立」。定型和歌の確立とそこに内在する「叙事」と「抒情」の問題について講義します。
	事前学修	定型和歌とくに「旋頭歌」の歌体について理解しておくこと。
	事後学修	「景」がひらく「心」という問題について理解しておくこと。
5回	授業内容	「文字と文学の交流」。文字の獲得による文学の変質について考えます。口承文学から記載文学へと展開する過程の諸問題を理解し、古典文学の基礎的留意点を学びます。
	事前学修	上代文学の特色として「仮名文字」以前であることを理解しておくこと。
	事後学修	ウタを聞くことから読むことへ、その変質を整理しておくこと。
6回	授業内容	「万葉集とその時代①」。150年の上代和歌の流れを概観します。和歌の変遷を、「万葉集」から具体的にとりあげて理解することにより、文学史の視点を習得します。
	事前学修	「万葉集」の概観を確認しておくこと。
	事後学修	時代の変遷と和歌の変遷との関係について理解しておくこと。
7回	授業内容	「万葉集とその時代②」。柿本人麻呂の歌を取り上げ、その時代性と特色について講義します。
	事前学修	歴史事項として「壬申の乱」について調べておくこと。
	事後学修	時代の要請が文学としてどう成立しているか理解しておくこと。
8回	授業内容	「様式の展開①」。『万葉集』『風土記』のなどにみられる、国見様式の特色とその展開について講義します。
	事前学修	「風土記」の概観を調べておくこと。
	事後学修	「韻文」「散文」が共通する「様式」のうえにあることを確認しておくこと。
9回	授業内容	「様式の展開②」。『万葉集』『古事記』などにみられる、英雄伝承の特色とその展開について講義します。
	事前学修	「ヤマトタケル」「雄略天皇」の歴史的事項を確認しておくこと。
	事後学修	作品における人物造形と「様式」の関わりについて理解しておくこと。
10回	授業内容	「大伴家持と万葉の終焉」。家持とその「時代思潮」にふれます。作家の個と時代という問題から、歴史と文学作品との関わりをどのように捉えるかを講義します。
	事前学修	「律令制度」とはどのような歴史事項であるか調べておくこと。
	事後学修	「時代思潮」と個性との相克がその後の文学史とどう関わるか理解しておくこと。
11回	授業内容	「菅原道真と中国文学」。『国風暗黒時代』といわれる時代と漢詩文についてみます。ジャンルをこえ、作家の個と時代という問題から歴史と文学作品の関わりについて講義します。
	事前学修	平安時代の文学作品の概観を調べておくこと。
	事後学修	「律令制度」と漢詩文の関わりについて理解しておくこと。
12回	授業内容	「紀貫之と古今集」。新たな文学としての和歌の台頭とその特色について概観します。
	事前学修	「勅撰和歌集」について概観を調べておくこと。
	事後学修	新たな「文学思潮」の展開が平安文学にどのように関わっているかを理解します。
13回	授業内容	「紀貫之と土佐日記」。『土佐日記』における貫之の手法とその特色について講義します。
	事前学修	紀貫之の生涯について概観しておくこと。
	事後学修	「土佐日記」の成立とその時代性について理解しておくこと。
14回	授業内容	「日記文学の成立と展開」。仮名文字の普及による「女流文学」の展開と特色について講義します。
	事前学修	平安時代の女流作家の作品について概観しておくこと。
	事後学修	「日記文学」の特色と「自省」という時代性について理解しておくこと。
15回	授業内容	まとめ。試験。
	事前学修	授業内容や配付資料を整理して、試験に備えておくこと。
	事後学修	自身が興味を持っている文学作品に対して文学史の視点から理解すること。

- ◆**教科書** **〔当日資料配布〕** プリントを配布します。
- ◆**参考書** 必要があれば紹介します。
- ◆**成績評価基準** 皆出席を前提とします。試験（100%）で評価します。

### 注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
 ※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。



# 講座内容（シラバス）

〔漢文学Ⅰ〕 オープン受講：不可

本問 直人

◆**授業概要** 漢文学の内容は極めて深淵です。授業で取り上げる書物は、中国古代の哲学思想において、極めて重要な思惟を展開しています。漢文学読解に必要な基礎知識を学ぶとともに、常に問題意識を持って中国の古典文献を読む態度を身につけます。授業では、高等学校の教員としての実務経験、また教員免許状更新講習における講師の経験などを踏まえて、中等教育における漢文教育の現状と課題についても説明します。

◆**学修到達目標** 漢文を正確に理解できる能力を身につけることを目標とします。また、中国古代の哲学思想について、孔子、孟子、荀子の思想を中心に理解を深めます。中国古代の哲学者・思想家たちの言葉は国を超え、時代を超え、現代に生きる我々に、生きる上でのヒントを与えてくれることでしょう。さらに、研究の意義、必要性などについても学びます。

◆**授業方法** 上記の「学修到達目標」を達成することに留意しながら、発表形式で授業を行います。具体的には、テキストの文章、または配布した資料の文章を1人ずつ読んでいただきます。さらに、レポートのまとめ方についても指導します。なお、授業内で小テスト、作文などを課すこともあります。本授業の事前学修・事後学修の時間は各2時間を目安としています。

◆**履修条件**

◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容：ガイダンス（研究の意義、必要性について） 事前学修：テキストの「はじめに」の部分をよく読んでおくこと。 事後学修：テキストを再読し、配布された資料とノートをよく見直しておくこと。
2回	授業内容：漢文学とは何か 事前学修：テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修：テキストを再読し、配布された資料とノートをよく見直しておくこと。
3回	授業内容：訓点について 事前学修：テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修：テキストを再読し、配布された資料とノートをよく見直しておくこと。
4回	授業内容：書き下し文（訓読）・漢文の基本文型・中等教育における漢文教育の現状と課題について 事前学修：テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修：テキストを再読し、配布された資料とノートをよく見直しておくこと。
5回	授業内容：『論語』（孔子の生涯） 事前学修：テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修：テキストを再読し、配布された資料とノートをよく見直しておくこと。
6回	授業内容：『論語』（孔子の宗教観①殷周革命） 事前学修：テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修：テキストを再読し、配布された資料とノートをよく見直しておくこと。
7回	授業内容：『論語』（孔子の宗教観②孔子思想の宗教性） 事前学修：テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修：テキストを再読し、配布された資料とノートをよく見直しておくこと。
8回	授業内容：『論語』（儒教—孔子思想の学統） 事前学修：テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修：テキスト、ノート、プリントなどで孔子の思想についてまとめておくこと。
9回	授業内容：『孟子』（孟子の生涯、孟子の思想） 事前学修：テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修：テキストを再読し、配布された資料とノートをよく見直しておくこと。
10回	授業内容：『孟子』（孟子の運命論） 事前学修：テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修：テキスト、ノート、プリントなどで孟子の思想についてまとめておくこと。
11回	授業内容：『荀子』（荀子の人物・生涯、荀子の思想） 事前学修：テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修：テキストを再読し、配布された資料とノートをよく見直しておくこと。
12回	授業内容：『荀子』（荀子の定命論、荀子の〈礼〉について） 事前学修：テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修：テキスト、ノート、プリントなどで荀子の思想についてまとめておくこと。
13回	授業内容：レポートの書き方について①（全体指導） 事前学修：1回目の授業で配布されたプリントをよく読んでおくこと。 事後学修：配布された資料とノートをよく見直しておくこと。
14回	授業内容：レポートの書き方について②（個別指導） 事前学修：前回の授業で配布されたプリントをよく読んでおくこと。 事後学修：個別指導で指摘された点を中心にレポートをまとめること。
15回	授業内容：試験及び解説 事前学修：漢文学とは何か、また孔子、孟子、荀子の思想について再確認すること。 事後学修：改めて、漢文学を学ぶ意義について考えてみること。

◆**教科書** 選定『漢文学Ⅰ M31500』通信教育教材（教材コード000437）  
 当日資料配布 当日プリント配布 漢和辞典を用意してください。

◆**参考書** 特になし

◆**成績評価基準** 授業への取り組み（発表など）・レポート・テストにより総合的に評価します。

◆**授業相談（連絡先）**：初回授業時に案内します。

注意

# 講座内容（シラバス）

〔国文学演習〕 オープン受講：不可

長谷川 正江

◆**授業概要** 井原西鶴の浮世草子作品の中から初期好色物と称される『好色一代男』『諸艶大鑑』『好色五人女』『好色一代女』の数章を読み、浮世草子に描かれた風俗や人間像について学ぶ。『好色一代男』は談林俳諧師として出発した西鶴の浮世草子初作であり、これをもって浮世草子の第一作とする文学史上画期的な書である。俳諧師西鶴の言語感覚が浮世草子の文体にも発揮されており、表現面にもこだわって読解することを目指す。

◆**学修到達目標** 作品の翻刻・注釈を複数調査し比較対照した上で、各自が問題意識をもって発表の準備ができるようになることを目標とする。各自が発表資料を最低 A 4 サイズ一枚は用意し、教員と受講者全員に配布することで自分の発表内容を充実させることを修得する。各自が研究史を踏まえつつ、担当する一章からテーマを絞り（必ずしも作品の主題にこだわらなくてよい）説明することができる。

◆**授業方法** 受講者決定後に、テキストに収録されている作品（俳諧の場合もある）を適宜割り振り、全員に通知する。最初に長谷川が近世前期の出版文化の概略について講義するが、各作品については個々の学生の発表と質疑応答による演習形式で行う。リアクションペーパーを課した場合は、翌日講評する。欠席する発表担当者が出ることが予想されるが、その時間をテキスト影印の読解作業に充て、正解を確認の上で答案用紙を回収する。

◆**履修条件**

◆**授業計画（各 90 分）**

1 回	授業内容：近世前期の出版文化の概略について講義 事前学修：テキストの「解説Ⅰ」と「西鶴略年譜」を読んでおくこと。 事後学修：当時の大坂の出版事情について理解しておくこと。
2 回	授業内容：西鶴と談林俳諧 事前学修：テキストの「解題」を読んでおくこと。 事後学修：矢数俳諧など談林俳諧の特徴や西鶴周辺の俳人について理解しておくこと。
3 回	授業内容：『好色一代男』 1-1 「けした所が恋のはじまり」 事前学修：テキストの「解題」を読んでおくこと。 事後学修：先行する古典文学のパロディになっている箇所を理解しておくこと。
4 回	授業内容：同 4-2 「形見の水櫛」 事前学修：テキストの「解題」を読んでおくこと。 事後学修：先行する古典文学のパロディになっている箇所を理解しておくこと。
5 回	授業内容：同 5-1 「後は様つけて呼」 事前学修：テキストの「解題」を読んでおくこと。 事後学修：『色道大鑑』に見える吉野像を理解しておくこと。
6 回	授業内容：『諸艶大鑑』 2-5 「百物語に恨が出る」 事前学修：テキストの「解題」を読んでおくこと。 事後学修：百物語という習俗を理解しておくこと。
7 回	授業内容：同 5-3 「死ば諸共の木刀」 事前学修：テキストの「解題」を読んでおくこと。 事後学修：遊廓における男女の美学について理解しておくこと。
8 回	授業内容：『好色五人女』 1-1 「恋は闇夜を昼の国」 事前学修：テキストの「解題」を読んでおくこと。 事後学修：室津の遊廓にまつわる伝承について理解しておくこと。
9 回	授業内容：同 1-2 「くけ帯よりあらはるゝ文」 事前学修：テキストの「解題」を読んでおくこと。 事後学修：お夏の描写や性格について理解しておくこと。
10 回	授業内容：同 1-3 「太鼓による獅子舞」 事前学修：テキストの「解題」を読んでおくこと。 事後学修：当時の花見の風俗や獅子舞について理解しておくこと。
11 回	授業内容：同 1-4 「状箱は宿に置て来た男」 事前学修：テキストの「解題」を読んでおくこと。 事後学修：室の明神のお告げの意味について理解しておくこと。
12 回	授業内容：同 1-5 「命のうちの七百両のかね」 事前学修：テキストの「解題」を読んでおくこと。 事後学修：お夏をめぐる巷説について理解しておくこと。
13 回	授業内容：『好色一代女』 1-3 「国主の艶妾」 事前学修：テキストの「解題」を読んでおくこと。 事後学修：呉服所の役割について理解しておくこと。
14 回	授業内容：同 4-2 「墨絵浮気袖」 事前学修：テキストの「解題」を読んでおくこと。 事後学修：越後屋三井家について理解しておくこと。
15 回	授業内容：試験（影印によるくすし字読解試験・記述試験）および解説 事前学修：各自の担当箇所につき、テーマを絞ってまとめておき試験に臨むこと。 事後学修：影印読解の正解を配布するので確認しておくこと。

◆**教科書** 丸沼『影印版頭注付 西鶴の世界Ⅰ』雲英末雄・谷協理史他編 新典社 2001

◆**参考書** 変体仮名手引書（出版社は指定しない / 字母別に編集されているものがよい）

◆**成績評価基準** 配布資料と発表内容の充実度（45%）、質疑など授業への参加度・影印読解への取り組み姿勢（20%）、レポート形式の試験の達成度（35%）で評価。変体仮名の読解が出来なくても、それを理由に不合格となることはない。

◆**授業相談（連絡先）**：受講者決定後に事前に通知する。近年発表準備の仕方が分からないという者がいるが、事前に質問や相談を寄せることは全く差し支えない。個々の作品によって、参照すべき文献が異なる場合は当然ながらあり得る。

注意

# 講座内容（シラバス）

## 〔英語文学概説 / 英米文学概説〕

新井 英夫

- ◆**授業概要** 英米文学にはどのような特徴があり、またどのような分析が可能なのかを考える。
- ◆**学修到達目標** 英米小説の特徴をよりよく理解し、多様かつ有効な文学形式における読みの可能性を感じ取るために、次に掲げる目標を達成しましょう。
  - ①英米小説の読解に必要な英語力がどの程度ものであるかを知ることができるようになる。
  - ②大学入学までに学習してきた英語の基本事項を、小説の読解に活用することができるようになる。
  - ③小説の形式を理解することで、作品のテーマについて説得力ある論を展開できるようになる。
- ◆**授業方法** 遠隔授業「オンデマンド型」（動画配信＋課題研究）で実施します。授業が単なる日本語訳及び感想の確認に終わることのないように、結論に至るプロセスを皆さんには大切にしたいと思います。英語が苦手な方の受講も歓迎です。また「英文を読む」ことと「小説を理解する」ことの差異を学生たちに理解してもらうべく、小説の読み方も丁寧に指導します。英文学科で学ぶ学生たちの「入門講座」となるように授業を展開できればと考えています。
- ◆**履修条件** 平成30年度夏期スクーリング『英米文学概説』（新井英夫）及び令和元年度夏期スクーリング『英語文学概説 / 英米文学概説』（新井英夫）とは積み重ね不可。
- ◆**授業計画（各90分）**

1回	授業内容：【演習&解説】 J. K. ローリングの『ハリー・ポッターと賢者の石』の一節を読む。 事前学修：J. K. ローリングについて調べる。 事後学修：講義で解説した内容を復習する。
2回	授業内容：【演習&解説】 ジェイン・オースティンの『高慢と偏見』の一節を読む。 事前学修：ジェイン・オースティンについて調べる。 事後学修：講義で解説した内容を復習する。
3回	授業内容：【演習&解説】 E. M. フォースターの『ハワーズ・エンド』の一節を読む。 事前学修：E. M. フォースターについて調べる。 事後学修：講義で解説した内容を復習する。
4回	授業内容：【演習&解説】 F. S. フィッツジェラルドの『グレート・ギャツビー』の一節を読む。 事前学修：F. S. フィッツジェラルドについて調べる。 事後学修：講義で解説した内容を復習する。
5回	授業内容：【演習&解説】 シャーロット・ブロンテの『ヴィレット』の一節を読む。 事前学修：シャーロット・ブロンテについて調べる。 事後学修：講義で解説した内容を復習する。
6回	授業内容：【演習&解説】 クリストファー・イシャウッドの『ベルリンよさらば』の一節を読む。 事前学修：クリストファー・イシャウッドについて調べる。 事後学修：講義で解説した内容を復習する。
7回	授業内容：【演習&解説】 ミュリエル・スパークの『ミス・プロウディの青春』の一節を読む。 事前学修：ミュリエル・スパークについて調べる。 事後学修：講義で解説した内容を復習する。
8回	授業内容：【演習&解説】 ジェイン・オースティンの『エマ』の一節を読む。 事前学修：ジェイン・オースティンについて調べる。 事後学修：講義で解説した内容を復習する。
9回	授業内容：【演習&解説】 ジョージ・オーウェルの『一九八四』の一節を読む。 事前学修：ジョージ・オーウェルについて調べる。 事後学修：講義で解説した内容を復習する。
10回	授業内容：【演習&解説】 D. H. ロレンスの『恋する女たち』の一節を読む。 事前学修：D. H. ロレンスについて調べる。 事後学修：講義で解説した内容を復習する。
11回	授業内容：【演習&解説】 シャーロット・ブロンテの『ジェイン・エア』の一節を読む。 事前学修：シャーロット・ブロンテについて調べる。 事後学修：講義で解説した内容を復習する。
12回	授業内容：【演習&解説】 カズオ・イシグロの『日の名残り』の一節を読む。 事前学修：カズオ・イシグロについて調べる。 事後学修：講義で解説した内容を復習する。
13回	授業内容：【演習&解説】 グレアム・グリーンの『事件の核心』の一節を読む。 事前学修：グレアム・グリーンについて調べる。 事後学修：講義で解説した内容を復習する。
14回	授業内容：【演習&解説】 ジェイン・オースティンの『ノーサンガー・アベイ』の一節を読む。 事前学修：ジェイン・オースティンについて調べる。 事後学修：講義で解説した内容を復習する。
15回	授業内容：【試験&まとめ】 試験とこれまでの授業のまとめを行う。 事前学修：これまでの授業内容を復習する。 事後学修：授業で扱った作品をいずれか1冊読む。

- ◆**教科書** **事前資料送付**  
(当日資料配布)
- ◆**参考書** 特になし
- ◆**成績評価基準** 課題1 (20%) + 課題2 (20%) + 課題3 (20%) + 課題4 (40%)
- ◆**授業相談（連絡先）**：

注意

# 講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔放送英語〕

マイケル ギルロイ

- ◆**授業概要** An informative, thought-provoking course centering on topics of current interest, including themes such as the environment, health, technology, the arts and entertainment.
- ◆**学修到達目標** To build up student's English language skills through active, even passionate learning, enhancing reading, listening comprehension, writing skills, enlarge vocabulary, and boost general knowledge and self confidence. Leading towards a final presentation.
- ◆**授業方法** Students will work alternatively individually, in pairs and in groups to complete in-class activities. Exercises include reading, writing, role plays and discussions. A final pair presentation will be performed.
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容 : Introductions ¥ Getting to know each other / your teacher. 事前学修 : Enthusiasm, dictionary, notebook, pens, etc. 事後学修 : Be prepared with textbook, dictionary, etc.
2 回	授業内容 : "Music and the Mind" 事前学修 : Text or photocopy. 事後学修 : Review Lesson.
3 回	授業内容 : "Body Language across Cultures" 事前学修 : Preview this chapter / unit. 事後学修 : Review Lesson.
4 回	授業内容 : "Turning Waste into Wealth" 事前学修 : Preview this unit. 事後学修 : Review Lesson 1 2+3.
5 回	授業内容 : "The Search for other Worlds" 事前学修 : Preview this unit. 事後学修 : Review Lesson.
6 回	授業内容 : "Crowdsourcing" 事前学修 : Preview this Lesson. 事後学修 : Review Lesson.
7 回	授業内容 : "Urban Landmarks" 事前学修 : Preview this unit. 事後学修 : Review lesson.
8 回	授業内容 : "Spending a Fortune" 事前学修 : Preview this unit. 事後学修 : Review today's 3 units.
9 回	授業内容 : "Wonders of the Deep" 事前学修 : Preview this unit. 事後学修 : Review Lesson.
10 回	授業内容 : "Product Placement" 事前学修 : Preview this unit. 事後学修 : Review Lessons.
11 回	授業内容 : "White collar Crime" 事前学修 : Preview this unit. 事後学修 : Review Lesson.
12 回	授業内容 : Consolidation of today's units 事前学修 : Pre-read all material. 事後学修 : Review all of today's units.
13 回	授業内容 : "Working Disabled" 事前学修 : Preview this unit. 事後学修 : review unit.
14 回	授業内容 : Presentation Preparation 事前学修 : Ideas / materials for presentation 事後学修 : final preparation for presentation
15 回	授業内容 : Presentation. 事前学修 : Poster and notes for presentation. 事後学修 : Enjoy Summer

- ◆**教科書** "Reading Fusion 1" Nan Un Do. Andrew E. Beuett
- ◆**参考書** なし
- ◆**成績評価基準** Grades will be allocated on the basis of attendance, participation and completed assignments including a final presentation.

### 注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

# 講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔英語学演習〕

吉良 文孝

◆**授業概要** 英語法助動詞に関する基礎的な知識を身につけ、そこからさらに一步踏み込んだ内容を、使用するテキストを熟読することによって修得します。本講座を通して、関係領域の英語学知識を修得すると同時に、英語の文献（テキスト）をしっかりと読みこなす力を養成することにもなります。

◆**学修到達目標** 当該領域において定評のあるテキストを熟読することによって、英語を精読することの意味合いを理解・実感するとともに、英語法助動詞の基本的、かつ重要な意味特徴を理解し、個々の法助動詞の振る舞いの違い、ならびに、法助動詞の意味体系全体における個々の法助動詞の相補的な意味役割を理解し、（人）説明することができます。

◆**授業方法** 講座の冒頭、テキストの精読に役立つように英語法助動詞の意味特徴についての俯瞰的な話をします。そのあとで、G. Leech 著の *Meaning and the English Verb* を論読します。アトランダムに指名しますので、指名された人は音読のあと、和訳をします（なお、和訳は、紙に書いておくことをお勧めします）。それに続いて、教員が内容の確認、解説をします。具体的には、テキストの第5章「英語法助動詞」（p. 72）から読み進めていきます。

### ◆授業計画〔各90分〕

1回	授業内容：授業の進め方・オリエンテーション。 事前学修：§114の第1段落を熟読する。 事後学修：授業内容を整理し、自らのことばでそれを説明解説できるようにする。
2回	授業内容：英語法助動詞の意味特徴(1)—J. Coates (1983) の「曖昧集合理論」について。 事前学修：§114の第1段落以降を熟読する。 事後学修：授業内容を整理し、自らのことばでそれを説明解説できるようにする。
3回	授業内容：英語法助動詞の意味特徴(2)—E. Stweetser (1990) の「比喩的写像」について。 事前学修：§114の第1段落以降（最後まで）を熟読する。 事後学修：授業内容を整理し、自らのことばでそれを説明解説できるようにする。
4回	授業内容：英語法助動詞の意味特徴(3)—英語法助動詞の意味的相補分布について。 事前学修：§114の最後までを熟読する。 事後学修：授業内容を整理し、自らのことばでそれを説明解説できるようにする。
5回	授業内容：Can (1)— possibility 事前学修：§115Aの熟読。 事後学修：授業内容を整理し、自らのことばでそれを説明解説できるようにする。
6回	授業内容：Can (2)— ability 事前学修：§115Bの熟読。 事後学修：授業内容を整理し、自らのことばでそれを説明解説できるようにする。
7回	授業内容：Can (3)— permission 事前学修：§115Cの熟読。 事後学修：授業内容を整理し、自らのことばでそれを説明解説できるようにする。
8回	授業内容：May (1)— possibility 事前学修：§116Aの熟読。 事後学修：授業内容を整理し、自らのことばでそれを説明解説できるようにする。
9回	授業内容：May (2)— permission 事前学修：§116Bの熟読。 事後学修：授業内容を整理し、自らのことばでそれを説明解説できるようにする。
10回	授業内容：May (3)— quasi-subjunctive uses 事前学修：§116Cの熟読。 事後学修：授業内容を整理し、自らのことばでそれを説明解説できるようにする。
11回	授業内容：Must (1)— obligation/requirement 事前学修：§117A/Bの熟読。 事後学修：授業内容を整理し、自らのことばでそれを説明解説できるようにする。
12回	授業内容：Must (2)— logical necessity 事前学修：§117Cの熟読。 事後学修：授業内容を整理し、自らのことばでそれを説明解説できるようにする。
13回	授業内容：Have to (1)— obligation/requirement 事前学修：§118A/Bの熟読。 事後学修：授業内容を整理し、自らのことばでそれを説明解説できるようにする。
14回	授業内容：Have to (2)— logical necessity 事前学修：§118Cの熟読。 事後学修：授業内容を整理し、自らのことばでそれを説明解説できるようにする。
15回	授業内容：試験、及びその解説。 事前学修：学修内容全体を整理・暗記し、試験に備える。 事後学修：試験解説による自身の学修度の再確認。

◆**教科書** 丸沼『Meaning and the English Verb』（第3版）G. Leech 著・澤田治美注釈 ひつじ書房 2004年

◆**参考書** 丸沼『英文法解説（改訂3版）』江川泰一郎著 金子書房 1991年

◆**成績評価基準** 試験（60%）、授業への参画度（40%）により総合的に判断します。

### 注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

# 講座内容（シラバス）

## 〔英米文学演習〕

堀切 大史

- ◆**授業概要** ハーマン・メルヴィル「代書人バートルビー：ウォール街の物語」を読み、その多様な英語表現および作品に描かれている多様な文化について学修することによって、文学作品の読解力および批評力を高めます。
- ◆**学修到達目標** 英語文学作品を、その多様な英語表現および作品に描かれている多様な文化に触れながら読解できるようになるとともに、批評できるようにすることも目標とします。
- ◆**授業方法** 演習形式。受講生のみなさんには、輪読形式によるテキストの音読および担当部分に関する質問ないしコメントをしてもらい、それをふまえて、クラス全体でディスカッションをします。スクーリング終了後にレポート提出あり。本授業の事前学修・事後学修の時間は各2時間を目安とします。
- ◆**履修条件**
- ◆**授業計画（各90分）**

1回	授業内容：1850年代のアメリカ 事前学修：テキストの精読 事後学修：ノートの整理および授業内容の確認
2回	授業内容：「代書人バートルビー：ウォール街の物語」 1・2ページ目 事前学修：テキストの精読 事後学修：ノートの整理および授業内容の確認
3回	授業内容：「代書人バートルビー：ウォール街の物語」 3・4ページ目 事前学修：テキストの精読 事後学修：ノートの整理および授業内容の確認
4回	授業内容：「代書人バートルビー：ウォール街の物語」 5・6ページ目 事前学修：テキストの精読 事後学修：ノートの整理および授業内容の確認
5回	授業内容：「代書人バートルビー：ウォール街の物語」 7・8ページ目 事前学修：テキストの精読 事後学修：ノートの整理および授業内容の確認
6回	授業内容：「代書人バートルビー：ウォール街の物語」 9・10ページ目 事前学修：テキストの精読 事後学修：ノートの整理および授業内容の確認
7回	授業内容：「代書人バートルビー：ウォール街の物語」 11・12ページ目 事前学修：テキストの精読 事後学修：ノートの整理および授業内容の確認
8回	授業内容：「代書人バートルビー：ウォール街の物語」 13・14ページ目 事前学修：テキストの精読 事後学修：ノートの整理および授業内容の確認
9回	授業内容：「代書人バートルビー：ウォール街の物語」 15・16ページ目 事前学修：テキストの精読 事後学修：ノートの整理および授業内容の確認
10回	授業内容：「代書人バートルビー：ウォール街の物語」 17～19ページ目 事前学修：テキストの精読 事後学修：ノートの整理および授業内容の確認
11回	授業内容：「代書人バートルビー：ウォール街の物語」 20～22ページ目 事前学修：テキストの精読 事後学修：ノートの整理および授業内容の確認
12回	授業内容：「代書人バートルビー：ウォール街の物語」 23～25ページ目 事前学修：テキストの精読 事後学修：ノートの整理および授業内容の確認
13回	授業内容：「代書人バートルビー：ウォール街の物語」 26～28ページ目 事前学修：テキストの精読 事後学修：ノートの整理および授業内容の確認
14回	授業内容：「代書人バートルビー：ウォール街の物語」 29～31ページ目 事前学修：テキストの精読 事後学修：ノートの整理および授業内容の確認
15回	授業内容：「代書人バートルビー：ウォール街の物語」 32～34ページ目 事前学修：テキストの精読 事後学修：ノートの整理、授業内容の確認、レポートの作成！

- ◆**教科書** **事前資料送付** ハンドアウト
- ◆**参考書** 英語辞典、その他の事典や辞典など
- ◆**成績評価基準** 授業参加（50%）、レポート（50%） 毎回出席することを前提として評価します。
- ◆**授業相談（連絡先）**：horikiri@chs.nihon-u.ac.jp

### 注意

# 講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔哲学概論〕

江川 晃

◆**授業概要** 私たちの生活世界は、科学・技術により支えられている。問題は、科学・技術が人類の幸福に役立つという本来の目的を忘れ、我が物顔で幅を利かしていることにある。私たちは、経済至上主義に基づく科学・技術崇拝に偏らず、科学・技術を社会的かつ個人的にコントロールする哲学力を養う必要がある。そのためには現代哲学を知ることが重要である。

◆**学修到達目標** 近世哲学と現代哲学の中から、合理論、経験論、ドイツ観念論、実存主義、プラグマティズム、分析哲学に焦点を当て、哲学と科学の発展の深い関係を把握し、絶えず現代の科学技術に含まれる問題を考察する。この授業では、AIに依拠する現代文明に振り回されずに、創造的に生き抜く視点（哲学力）を開発することができる。

◆**授業方法** 具体的には、デカルト、ベーコン、ロック、カント、ヘーゲル、キルケゴール、パース、ウィトゲンシュタインについて、参考書とパワポを使い講義し、現代との関連に言及する。また、適宜リアクションペーパーに意見・感想・質問等を書いて頂き、討論する予定である。

### ◆授業計画〔各90分〕

1回	授業内容：ガイダンス：哲学とは何か（「哲学」の語源と意味） 事前学修：シラバスをよく読んでおくこと。 事後学修：配布プリントを復習しておくこと。
2回	授業内容：古代ギリシアから中世の哲学史 事前学修：配布プリントを予習しておくこと。 事後学修：中世哲学までの流れを把握しておくこと。
3回	授業内容：近世哲学と科学革命 事前学修：配布プリントを予習しておくこと。 事後学修：配布プリントを復習しておくこと。
4回	授業内容：デカルトの哲学 事前学修：参考書でデカルトについて調べていくこと。 事後学修：配布プリントを復習しておくこと。
5回	授業内容：ベーコンのイドラ 事前学修：参考書、配布プリントを予習しておくこと。 事後学修：配布プリントを復習しておくこと。
6回	授業内容：ロックの経験論 事前学修：参考書、配布プリントを予習しておくこと。 事後学修：参考書、配布プリントを復習しておくこと。
7回	授業内容：カントの理性批判 事前学修：参考書、配布プリントを予習しておくこと。 事後学修：参考書、配布プリントを復習しておくこと。
8回	授業内容：ヘーゲルの弁証法 事前学修：参考書、配布プリントを予習しておくこと。 事後学修：参考書、配布プリントを復習しておくこと。
9回	授業内容：現代哲学：キルケゴールの実存主義 事前学修：参考書、配布プリントを予習しておくこと。 事後学修：参考書、配布プリントを復習しておくこと。
10回	授業内容：パースの探究の理論 事前学修：配布プリントを予習しておくこと。 事後学修：配布プリントを復習しておくこと。
11回	授業内容：パースのプラグマティズム 事前学修：参考書、配布プリントを予習しておくこと。 事後学修：参考書、配布プリントを復習しておくこと。
12回	授業内容：科学哲学：ウィトゲンシュタインの写像理論 事前学修：配布プリントを予習しておくこと。 事後学修：配布プリントを復習しておくこと。
13回	授業内容：論理実証主義とその崩壊 事前学修：配布プリントを予習しておくこと。 事後学修：配布プリントを復習しておくこと。
14回	授業内容：言語ゲームから言語行為論へ 事前学修：配布プリントを予習しておくこと。 事後学修：配布プリントを復習しておくこと。
15回	授業内容：試験と解説 事前学修：総復習しておくこと。 事後学修：不明確な点を把握しておくこと。

◆**教科書** 当日資料配布 パワポの教材を配布します。

◆**参考書** 電子 『哲学 B10700』 通信教育教材（教材コード000404）

◆**成績評価基準** 試験（50%）、授業参画度〔発言・リアクションペーパー等〕（50%）

**注意** E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

# 講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔東洋思想史Ⅱ〕

梅川 純代

◆**授業概要** 文化・風俗という親しみやすいものを切り口に、思想・宗教という堅苦しいものを紐解いていきます。特に、文化・風俗・思想・宗教の根底に、人間の生活から切り離せない「性」というものがどのように関わっているのかをみていきます。また、各授業の最後5分を使い、授業内容を各自でまとめて頂きます。

◆**学修到達目標** 誰でも聞いたことがあるような伝説や有名な文学作品、絵画資料を使って、その根底に流れる思想・宗教を探っていきます。中国の思想と宗教を主軸におきますが、日本やインドにおける発展・展開をも考察することで、比較文化的、人類学的な角度からもアプローチを行います。さらに、「性」という忌避されがちなものにフォーカスすることで、思想や宗教、または文化風俗を、通常とは異なるレイヤーから読み解くことを目指します。また、各授業で行う「授業内容のまとめ」では、ノートテイキング力、要約力の向上を狙います。

◆**授業方法** 基本的には講義形式で行います。部分的に、討論やグループワークを取り入れます。最終授業はレポート提出にあてます。

### ◆授業計画〔各90分〕

1回	授業内容：イントロダクション 講義の進め方の説明、ノートテイキング法の紹介、レポートの書き方の解説 事前学修：特になし 事後学修：ノートテイキングの方法とレポートの書き方を確認する
2回	授業内容：性と生 事前学修：可能であれば、参考資料に目を通しておく 事後学修：授業内容のまとめを確認
3回	授業内容：『春望』に見る気と祖霊概念 事前学修：杜甫の『春望』を一読しておく 事後学修：授業内容のまとめを確認
4回	授業内容：神仙バカその1 秦の始皇帝 徐福伝説―方士と神仙 事前学修：徐福伝説について簡単に知っておく 事後学修：授業内容のまとめを確認
5回	授業内容：得仙と性 事前学修：西王母について簡単に知っておく 事後学修：授業内容のまとめを確認
6回	授業内容：感生帝説と始祖 事前学修：特になし 事後学修：授業内容のまとめを確認
7回	授業内容：神仙バカその2 漢の武帝「漢武内伝」にみる武帝と神仙 事前学修：漢の武帝について簡単に情報を集めておく 事後学修：授業内容のまとめを確認
8回	授業内容：仏教の発生 事前学修：釈迦について簡単に知っておく 事後学修：授業内容のまとめを確認
9回	授業内容：仏教の展開 事前学修：日本仏教の流れを簡単に把握しておく 事後学修：授業内容のまとめを確認
10回	授業内容：善書と宝巻 事前学修：特になし 事後学修：授業内容のまとめを確認
11回	授業内容：文化と思想1 『金瓶梅』に見る明代の女性観 事前学修：『金瓶梅』のあらすじを簡単に把握しておく 事後学修：授業内容のまとめを確認
12回	授業内容：文化と思想2 春宮画と春画 事前学修：特になし 事後学修：授業内容のまとめを確認
13回	授業内容：文化と思想3 日中ジェンダー比較 理想の異性観 事前学修：特になし 事後学修：特になし
14回	授業内容：日中比較『夜船閑話』に見る仏教と道教 事前学修：特になし 事後学修：特になし
15回	授業内容：レポート執筆 事前学修：レポート執筆に必要な資料等を収集しておくことが望ましい 事後学修：特になし

◆**教科書** 〔当日資料配布〕

◆**参考書** 〔図〕『気』の思想からみる道教の房中術 坂出祥伸・梅川純代 五曜書房

◆**成績評価基準** 出席とレポートで評価いたします。

### 注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。



# 講座内容（シラバス）

## 〔倫理学特殊講義〕

金子 佳司

- ◆**授業概要** 私たちは社会の中で生きています。では、どんな社会であれば、私たちはよい人生を生きることができるのでしょうか。もし正しい社会でなければよい人生を生きることができないとしたら、誰にとっても正義は重大な問題です。そこで、正義とは何かという問題を、アリストテレス、ロック、ベンサム、ミル、ロールズ、ノージック、サンデルらの議論を踏まえながら検討してみます。
- ◆**学修到達目標** 自分の人生を社会のあり方との関係の中で考えることができるようになることがこの授業の目標です。この目標を達成するために、人々がよい人生を生きることができる社会とはどのような社会であるのか、それは多くの人が幸福になれる社会か、個人の自由が尊重される社会か、それとも、悪徳を許さない社会なのかという問題を、過去の哲学者たちの議論を踏まえながら、自分の頭で考えてみてほしい。
- ◆**授業方法** 授業は基本的には講義形式で行ないますが、できるだけ学生の皆さんとの議論を交えながら進めていきたいと思ひます。また、授業中に小テストを行なって、授業内容の理解と自分自身の到達した考えを確認してもらいながら授業を進めていきますが、皆さんが到達した考えも、できるだけ授業に反映させていきたいと思ひています。

◆履修条件

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回	授業内容	正義についての三つの考え方を学ぶ。(1)できるだけ多くの人を幸福にすること、(2)個人の自由を尊重すること、(3)悪徳を許さず徳(美德)を広めること。
	事前学修	テキスト第1章(p.13~p.37)を読んでおくこと。
	事後学修	テキスト第1章(p.13~p.37)の内容を授業を踏まえて整理すること。
2 回	授業内容	正義についての三つの考え方を検討する。
	事前学修	テキスト第1章(p.37~p.55)を読んでおくこと。
	事後学修	テキスト第1章(p.37~p.55)の内容を授業を踏まえて整理すること。
3 回	授業内容	功利主義の最大幸福原理を学び、この考え方を検討する。
	事前学修	テキスト第2章(p.56~p.96)を読んでおくこと。
	事後学修	テキスト第2章(p.56~p.96)の内容を授業を踏まえて整理すること。
4 回	授業内容	自由至上主義(リバタリアニズムlibertarianism)の自由論を学び、この考え方を検討する。
	事前学修	テキスト第3章(p.97~p.123)を読んでおくこと。
	事後学修	テキスト第3章(p.97~p.123)の内容を授業を踏まえて整理すること。
5 回	授業内容	自由市場の正しさについての功利主義と自由至上主義の主張を学び、それらの主張を検討する。
	事前学修	テキスト第4章(p.124~p.166)を読んでおくこと。
	事後学修	テキスト第4章(p.124~p.166)の内容を授業を踏まえて整理すること。
6 回	授業内容	カントの道徳論を学ぶ。
	事前学修	テキスト第5章(p.167~p.199)を読んでおくこと。
	事後学修	テキスト第5章(p.167~p.199)の内容を授業を踏まえて整理すること。
7 回	授業内容	カントの道徳論を検討する。
	事前学修	テキスト第5章(p.199~p.223)を読んでおくこと。
	事後学修	テキスト第5章(p.199~p.223)の内容を授業を踏まえて整理すること。
8 回	授業内容	ロールズの正義論を学び、この考え方を検討する。
	事前学修	テキスト第6章(p.224~p.263)を読んでおくこと。
	事後学修	テキスト第6章(p.224~p.263)の内容を授業を踏まえて整理すること。
9 回	授業内容	差別是正のための積極的措置(アファーマティブ・アクション Affirmative Action)をめぐる議論を学び、この議論について検討する。
	事前学修	テキスト第7章(p.264~p.289)を読んでおくこと。
	事後学修	テキスト第7章(p.264~p.289)の内容を授業を踏まえて整理すること。
10 回	授業内容	アリストテレスの正義論を学び、この考え方を検討する。
	事前学修	テキスト第8章(p.290~p.327)を読んでおくこと。
	事後学修	テキスト第8章(p.290~p.327)の内容を授業を踏まえて整理すること。
11 回	授業内容	共同体に連帯責任があるかどうかという議論を学び、この議論について検討する。
	事前学修	テキスト第9章(p.328~p.381)を読んでおくこと。
	事後学修	テキスト第9章(p.328~p.381)の内容を授業を踏まえて整理すること。
12 回	授業内容	正義(権利)と善のどちらが大切かという議論を学び、この議論について検討する。
	事前学修	テキスト第10章(p.382~p.408)を読んでおくこと。
	事後学修	テキスト第10章(p.382~p.408)の内容を授業を踏まえて整理すること。
13 回	授業内容	共通善に基づく政治とはどういうものかという議論(共同体主義〔コミュニタリアニズム Communitarianism〕)を学び、この議論について検討する。
	事前学修	テキスト第10章(p.408~p.419)を読んでおくこと。
	事後学修	テキスト第10章(p.408~p.419)の内容を授業を踏まえて整理すること。
14 回	授業内容	これまでの授業内容全体のまとめ
	事前学修	これまでの授業内容全体を見直しておくこと。
	事後学修	これまでの授業内容の重要な論点についての自分の理解を確認すること。
15 回	授業内容	これまでの授業内容の重要な論点の理解度の確認(期末試験)。
	事前学修	これまでの授業内容の重要な論点を理解すること。
	事後学修	これまでの授業内容の重要な論点のうちで自分が理解できていなかったところを見直すこと。

◆**教科書** 〔凡例〕「これからの「正義」の話しよう」マイケル・サンデル著 早川書房(ハヤカワ文庫)

◆**参考書** 〔凡例〕「ハーバード白熱教室講義録」(上)(下)マイケル・サンデル著 早川書房(ハヤカワ文庫)

◆**成績評価基準** 期末試験 70%、平常点 30%(平常点は授業中に行なう小テスト〔5回行なう予定〕によって評価します。)詳しくは、1日目の授業の初めに説明します。

◆**授業相談(連絡先)**: 相談は授業が終わってから(短時間で済む相談なら休み時間にも)教室などで受け付けます。

**注意**

# 講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## (哲学演習 I・II)

小山 英一

- ◆**授業概要** ハイデガーの『存在と時間』は哲学を学ぶ者としてぜひ読んでおきたい著作である。『存在と時間』は現代哲学、現代思想の出発点であり、源流でもある。自分の日常的なあり方とその乗り越えを考える上で、さらに自分の人生と死を考える上でも重要である。ハイデガーの独特で、難解な用語・概念を乗りこえながら理解していただく。
- ◆**学修到達目標** 現代哲学、現代思想の一つの大きな思潮であるハイデガーの考え方(『存在と時間』)の基本を理解し、自身の内に取り込み、哲学的な思考をする際の道具の一つとすることができる。ハイデガーの用語・概念を使って、自分のあり方、自分との(世界)との関係、自分の日常とその超克、他者のあり方、自分と他者の関係を深く考えることができるようになる。
- ◆**授業方法** 授業は演習形式。演習参加者に下記の教科書・テキストの一部をあらかじめ割り振り、担当者を定める。担当者は、指定された箇所(梗概と注解も含む)を読み、まとめ(簡単なレジュメ)と説明(発表)を行う。その後、意見交換を行う。(受講すると決めた学生は早めに、振込用紙を郵送しなくても、下記のアドレスにアクセスしてください。担当箇所を指定されて発表しない、単位は取得できません。)なお、ネットにアクセスできない人は教務課に問い合わせてください。担当箇所を指定されて発表しない、単位は取得できません。・担当部分については、「担当箇所を適宜音読→レジュメ(要旨と図解)→説明・解説→自分の意見の発表→自分が司会となって全体的意見の交換」の流れを想定して学習しておくこと。・難しいと思っても、精一杯挑戦してみてください。
- ◆**授業計画** (各 90 分)

回数	授業内容	事前学修	事後学修
1回	存在の意味への問いを呈示することとは。存在の問いには必然性があり、それなりの構造があり、その問いには優位性がある。存在への問いを明示的に反復することには必然性があるとは。	教科書・テキストの 71 頁～82 頁を読んでおくこと。	存在への問いを明示的に反復することには必然性があるかを押さえておくこと。該当箇所の発表者の内容を整理しておくこと。自分の見解、考えをまとめておくこと。
2回	存在の意味への問いを呈示することとは。存在の問いには必然性があり、それなりの構造があり、その問いには優位性がある(2)。存在への問いの形式的な構造とは。	教科書・テキストの 82 頁～100 頁を読んでおくこと。	存在への問いの形式的な構造とはどのようなものなのかを押さえておくこと。該当箇所の発表者の内容を整理しておくこと。自分の見解、考えをまとめておくこと。
3回	存在の意味への問いを呈示することとは。存在の問いには必然性があり、それなりの構造があり、その問いには優位性がある(3)。なぜ存在への問いには存在論的な優位があるのか。	教科書・テキストの 100 頁～111 頁を読んでおくこと。	存在への問いに存在論的な優位があるとはどういうことかを押さえておくこと。該当箇所の発表者の内容を整理しておくこと。自分の見解、考えをまとめておくこと。
4回	存在の意味への問いを呈示することとは。存在の問いには必然性があり、それなりの構造があり、その問いには優位性がある(4)。なぜ存在への問いには存在論的な優位もあるのか。	教科書・テキストの 111 頁～125 頁を読んでおくこと。	存在への問いには存在論的な優位があるとはどういうことかを押さえておくこと。該当箇所の発表者の内容を整理しておくこと。自分の見解、考えをまとめておくこと。
5回	存在の問いを仕上げるさいに二重の課題があり、その探求方法とは(概略) 存在一般の意味を解釈するための地平を築くこととは、現存在の存在論的分析に繋がることについて。	教科書・テキストの 126 頁～143 頁を読んでおくこと。	なぜ存在一般の意味を解釈するための地平を築くことが、現存在の存在論的分析に繋がるのかについて押さえておくこと。該当箇所の発表者の内容を整理しておくこと。自分の見解、考えをまとめておくこと。
6回	存在の問いを仕上げるさいに二重の課題があり、その探求方法とは(概略)(2) 存在論の歴史を破壊するという課題とは。	教科書・テキストの 143 頁～171 頁を読んでおくこと。	存在論の歴史を破壊することによってどんな意味があるのかを押さえておくこと。該当箇所の発表者の内容を整理しておくこと。自分の見解、考えをまとめておくこと。
7回	存在の問いを仕上げるさいに二重の課題があり、その探求方法とは(概略)(3) 存在への問いの探究に現象学的方法を使う意義とは。	教科書・テキストの 171 頁～220 頁を読んでおくこと。	存在への問いの探究に現象学的方法を使うにはどのような意義があるのかを押さえておくこと。該当箇所の発表者の内容を整理しておくこと。自分の見解、考えをまとめておくこと。
8回	時間性へと向け現存在を解釈することとは。また存在への問いの超越論的な地平として時間を解明することとは。そのための現存在の予備的な基礎的分析とはどのような分析か。現存在の予備的分析の課題を示すこと。そして現存在の分析論の主題とは何か。	教科書・テキストの 221 頁～238 頁を読んでおくこと。	現存在の分析論の主題とは何かを押さえておくこと。該当箇所の発表者の内容を整理しておくこと。自分の見解、考えをまとめておくこと。
9回	時間性へと向け現存在を解釈することとは。また存在への問いの超越論的な地平として時間を解明することとは。そのための現存在の予備的な基礎的分析とはどのような分析か。現存在の予備的分析の課題を示すこと。(2) 人間学、心理学、生物学に対して、現存在の分析論を境界づけることとは。	教科書・テキストの 239 頁～257 頁を読んでおくこと。	人間学、心理学、生物学に対して、現存在の分析論を境界づけることとはどういうことかを押さえておくこと。該当箇所の発表者の内容を整理しておくこと。自分の見解、考えをまとめておくこと。
10回	時間性へと向け現存在を解釈することとは。また存在への問いの超越論的な地平として時間を解明することとは。そのための現存在の予備的な基礎的分析とはどのような分析か。現存在の予備的分析の課題を提示すること。(3) 実存論的分析論と未開の現存在解釈とは違うこと。「自然的世界概念」を獲得するのは困難なこと。	教科書・テキストの 258 頁～264 頁を読んでおくこと。	どのように実存論的分析と未開の現存在解釈とは違うのか、なぜ「自然的世界概念」を獲得するのは困難なのか、を押さえておくこと。該当箇所の発表者の内容を整理しておくこと。自分の見解、考えをまとめておくこと。
11回	現存在の根本体制としての世界内存在一般とは何か。内存在そのものに方向づけることにもついて、世界内存在をあらかじめ素描することとは。	教科書・テキストの 264 頁～294 頁を読んでおくこと。	内存在そのものに方向づけることにもついて、世界内存在をあらかじめ素描することとは一体どういうことか、を押さえておくこと。該当箇所の発表者の内容を整理しておくこと。自分の見解、考えをまとめておくこと。
12回	現存在の根本体制としての世界内存在一般とは何か。(2) 或る基底づけられた様態による、内存在を範例化とは。そこで捉えられる世界認識とは。	教科書・テキストの 294 頁～308 頁を読んでおくこと。	内存在の範例化によって捉えられる世界認識とはどのような認識なのかを押さえておくこと。該当箇所の発表者の内容を整理しておくこと。自分の見解、考えをまとめておくこと。
13回	世界が世界であることとは。そこで、世界一般の世界性の理念とは。	教科書・テキストの 309 頁～324 頁を読んでおくこと。	世界一般の世界性の理念とはどのような理念なのかを押さえておくこと。該当箇所の発表者の内容を整理しておくこと。自分の見解、考えをまとめておくこと。
14回	世界が世界であることとは。(2) 周囲世界性と世界一般とを分析することとは。周囲世界のうちで出会う存在者の存在とは。	教科書・テキストの 324 頁～349 頁を読んでおくこと。	周囲世界のうちで出会う存在者の存在とはどのようなものなのかを押さえておくこと。該当箇所の発表者の内容を整理しておくこと。自分の見解、考えをまとめておくこと。
15回	演習で行われた議論の理解度を測るための試験とその試験の解説をする。	1 回から 14 回までの演習内容を整理しておくこと。教科書・テキストの 349 頁～354 頁を読んでおくこと。	試験を自分の見解をまとめておくこと。試験の結果を振り返り、深めること。

- ◆**教科書** 丸沼『存在と時間(一)』ハイデガー著(熊野純彦訳)岩波文庫(33-651-1)、岩波書店 2013
- ◆**参考書** 丸沼『存在と時間(二)～(四)』ハイデガー著(熊野純彦訳)岩波文庫(33-651-2, 3, 4)、岩波書店
- 丸沼『ハイデガー哲学入門——『存在と時間』を読む』伸正昌樹 講談社現代新書
- 丸沼『ハイデガー『存在と時間』入門』轟孝夫 講談社現代新書
- 丸沼『文学部唯野教授・最終講義 誰にでもわかるハイデガー』筒井康隆 河出書房新社
- ◆**成績評価基準** 試験(80%、記述式2問、発表、レジュメ作成、授業参画度(20%)により総合的に評価する。

### 注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

# 講座内容（シラバス）

## 〔考古学演習〕

山本 孝文

- ◆**授業概要** 考古学の研究における基本情報の資料収集および公開資料である発掘調査とデータ作成（報告書作成）の基礎的な方法を学ぶ。考古学の資料の大部分は遺跡から出土した遺構や遺物であるが、それが研究に供されるためには特定の記録化作業が必要である。本講義では考古学研究に必要な文献の種類や収集法、発掘調査・整理作業の概要を学び、遺跡発掘調査報告書とはどのようなものかを理解し、実際に簡易実測を通じてその方法を習得する。
- ◆**学修到達目標**
  1. 考古学の基礎文献により各時代の概要や研究を理解できるようにする。
  2. 考古学の基礎作業であるフィールドワークや遺物の整理作業の種類と過程を理解できるようにする。
  3. 発掘調査報告書の読み方・利用のしかたがわかり、その中に含まれる実測図を読みとってそこから実際の遺構・遺物の姿を復元できるようにする。また、実測図の基礎的な描き方を理解し、簡易図が描けるようにする。
- ◆**授業方法** 前半は発掘調査および遺物整理作業に関する解説や文献収集の方法、文献の種類や解説を講義形式で行う。また受講生各自が調べた文献から各時代の遺跡の概要や研究をまとめて発表する。後半は発掘調査報告書の構成や読み方を解説し、遺物の実測の方法を指導する。また、実際に報告書に掲載された図面を模写することからはじめ、各自が選定した器物を簡易実測する。
- ◆**履修条件** 実測道具として2H鉛筆（鉛筆削り）ないしシャープペン、消しゴム、15cmものさし、三角定規、コンパスを各自準備し、実測のための小型器物としてご飯茶碗・碗・湯のみ・猪口などのうち一つを準備すること。  
履修期間中の授業終了後、文献検索などのため自宅などでインターネットを利用できること。
- ◆**授業計画**〔各90分〕

1回	授業内容 ガイダンス：考古学とはどのような学問か まず考古学の学問としての基礎的な概要を説明する。その上で、考古学にとって資料のデータ化とその活用がいかに重要か説明する。	事前学修 考古学に関連する概説書を事前に読んでおく。	事後学修 授業の内容をノートに整理し、読み直して理解できるようにする。
2回	授業内容 考古学で論文を書くための前提 考古学論文の基礎的な構成などを説明し、書誌情報の提示のしかたなどを紹介する。	事前学修 論文の書き方に関する書籍などを読む。	事後学修 自分が書こうとしているテーマで論文のアウトラインを作ってみる。
3回	授業内容 考古学における基礎資料の種類 考古学の研究・論文作成に用いられる文献の種類を紹介し、それぞれの特性や利用のしかたを説明する。	事前学修 関心テーマに関する書籍、論文を探してみる。	事後学修 実際に自分の関心テーマの基礎資料を探してみる。
4回	授業内容 考古学基礎文献の探し方 考古学関連の文献をどのように探るか、またどこに行けば目的の文献を閲覧することができるかを説明する。	事前学修 関心テーマに関する書籍、論文を探してみる。	事後学修 実際に自分の関心テーマの基礎資料を探してみる。
5回	授業内容 考古学における研究史のまとめ方 収集した各テーマの学術論文を読み、それをまとめる方法を事例を挙げながら説明する。	事前学修 前回学習した文献検索方法で学術誌掲載の論文を検索してみる。	事後学修 関心テーマの研究論文をリストアップしてみる。
6回	授業内容 調べた文献と内容の発表 各受講生が調べてまとめた概要と、各テーマの問題点を発表する。	事前学修 検索した文献と内容をまとめておく。	事後学修 授業の内容をノートに整理し、読み直して理解できるようにする。
7回	授業内容 考古学における調査とは①：地表調査とトレンチ調査 考古学の調査の種類と、地表調査・トレンチ調査の意義と方法を説明する。	事前学修 自身が居住する地域（市区町村）にある遺跡の情報を調べておく。	事後学修 授業の内容をノートに整理し、読み直して理解できるようにする。
8回	授業内容 考古学における調査とは②：発掘調査 遺跡の種類とそれに応じた発掘調査の方法を説明する。	事前学修 自身が居住する地域（市区町村）にある遺跡の情報を調べておく。	事後学修 授業の内容をノートに整理し、読み直して理解できるようにする。
9回	授業内容 出土遺物の資料化：遺跡発掘調査報告書作成のための整理作業 出土遺物の整理の手順と各工程の意味、報告書作成の意義について説明する。	事前学修 自身が居住する地域（市区町村）にある博物館・資料館の情報を調べておく。	事後学修 授業の内容をノートに整理し、読み直して理解できるようにする。
10回	授業内容 遺跡発掘調査報告書に記録された図面の見方 発掘調査報告書に掲載されている様々な種類の遺構・遺物の図面を見、そこからどのような情報を読み取るかについて説明する。	事前学修 配布された調査報告書の実測図をよく見ておく。	事後学修 配布された調査報告書の実測図の解説文を作ってみる。
11回	授業内容 遺跡発掘調査報告書に記録された文章の読み方 遺構・遺物の図面に付された説明文を読み、資料の特性を読み取る方法を解説する。受講生各自が図面を見てその内容を文章化する。	事前学修 配布された調査報告書の実測図をよく見ておく。	事後学修 配布された調査報告書の実測図の解説文を作ってみる。
12回	授業内容 実測の原理と方法① 遺構の実測 実測の原理と方法を説明し、受講生各自が簡易実測を実践する。	事前学修 実測対象を選定し、準備しておく。	事後学修 実測図を作成する。
13回	授業内容 実測の原理と方法② 遺物の実測 実測の原理と方法を説明し、受講生各自が簡易実測を実践する。	事前学修 実測対象を選定し、準備しておく。	事後学修 実測図を仕上げる。
14回	授業内容 実測調査の実践と発表① 各自が実測した図面をもとに、添削と評価を行う。	事前学修 簡易実測図を仕上げておく。	事後学修 実測図を仕上げる。
15回	授業内容 実測調査の実践と発表② 各自が実測した図面をもとに、添削と評価を行う。	事前学修 簡易実測図を仕上げておくこと。	事後学修 実測図を仕上げる。

◆**教科書** 〔当日資料配布〕

◆**参考書** 〔凡例〕『考古学の方法 調査と分析』 藤本強 東京大学出版会 2000年

◆**成績評価基準** 授業内課題（40%）、授業外課題（10%）、リアクションペーパー（10%）、発表・授業参画度（40%）などによって総合的に評価する。

◆**授業相談**（連絡先）：初回授業時に案内する。

**注意**

# 講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

## 〔経済学概論〕

続橋 孝行

- ◆**授業概要** この授業の目的は、「デジタル経済」の進展にともなって急速に変化している経済を「ミクロ経済学」の分析用具を使って考察することにあります。具体的には、所得格差問題、環境、競争が激しい「外食業界」、企業倒産などを取り上げる予定です。
- ◆**学修到達目標** 経済主体の合理的行動をしっかりと理解し、ミクロ経済学の分析用具を使い、経済現象を正確に分析することができるようにすることです。
- ◆**授業方法** 板書を中心とした授業になりますが、教員が一方的に説明し続けることは避けたいと思っております。ときおり、学生から質問を受けますし、逆に教員のほうからも学生に質問いたします。
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容：経済の仕組みを説明する。具体的には、家計、企業、政府を取り上げる。 事前学修：テキスト 1-5 ページを読んでおくこと。 事後学修：各経済主体の合理的行動を覚え、理解しておくこと。
2 回	授業内容：市場とは何かを説明する。具体的には、財・サービス市場、労働市場、金融市場を取り上げる。 事前学修：テキスト 6-12 ページを読んでおくこと。 事後学修：各マーケットの特徴を理解しておくこと。
3 回	授業内容：需要曲線について学ぶ。 事前学修：テキスト 54 ページを読んでおくこと。 事後学修：需要曲線が、なぜ右下がりの曲線になることを理解しておくこと。
4 回	授業内容：供給曲線について学ぶ。 事前学修：テキスト 55-56 ページを読んでおくこと。 事後学修：供給曲線が、なぜ右上がりの曲線になるのか理解しておくこと。
5 回	授業内容：市場価格および完全競争市場について説明する。 事前学修：テキスト 56-59 ページを読んでおくこと。 事後学修：市場価格で取引が行われると、パレート最適が実現するということを理解しておくこと。
6 回	授業内容：消費者行動について説明する。 事前学修：前回の授業を確認し、配布資料に目を通しておくこと。 事後学修：基数的効用の特徴について理解しておくこと。
7 回	授業内容：基数的効用を使って所得格差問題を考察する。 事前学修：配布資料に目を通しておくこと。 事後学修：期待効用および期待所得について理解しておくこと。
8 回	授業内容：デジタル経済と所得格差問題を説明する。 事前学修：配布資料に目を通しておくこと。 事後学修：労働生産性について理解しておくこと。
9 回	授業内容：生産者行動理論について学ぶ。 事前学修：テキスト 43-44 ページを読んでおくこと。 事後学修：生産者の合理的行動について理解しておくこと。
10 回	授業内容：「費用」について学ぶ。 事前学修：テキスト 44-46 ページを読んでおくこと。 事後学修：総費用は「固定費用」と「変動費用」で構成されるということを見え、理解しておくこと。
11 回	授業内容：「利益の最大化」について考察する。 事前学修：テキスト 44-46 ページを読んでおくこと。 事後学修：限界収入と限界費用が一致したとき、生産者の利益が最大になる、ということを理解しておくこと。
12 回	授業内容：損益分岐点と外食業界について学ぶ。 事前学修：テキスト 47 ページを読んでおくこと。 事後学修：損益分岐点では企業の利潤がゼロになるということを理解しておくこと。
13 回	授業内容：企業倒産について考察する。 事前学修：配布資料に目を通しておくこと。 事後学修：「債務超過」になれば、倒産の確率が高まるということを理解しておくこと。
14 回	授業内容：環境問題について考える 事前学修：配布資料に目を通しておくこと。 事後学修：環境問題を解決する際、政府が重要な役割を果たすということを理解しておくこと。
15 回	授業内容：これまでの授業の「まとめ」と理解度の確認 事前学修：自筆のノートを整理しておくこと。 事後学修：分析の要具、専門用語をしっかりと覚え、理解しておくこと。

- ◆**教科書** 関沼『Next 教科書シリーズ経済学入門』山口正春・楠谷清編 弘文堂 2019 年
- ◆**参考書** 資料を必要に応じて配布します。
- ◆**成績評価基準** 筆記試験 70%、「授業の取り組み」30% で評価します。

**注意** E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

# 講座内容（シラバス）

## 〔日本経済史〕

飯島 正義

- ◆**授業概要** 1900年代の日本資本主義の確立期から第2次世界大戦までの日本経済を構造論的な視点から見ていきます。まず確立期の日本資本主義の構造論的特徴を理解し、その後それがどのようになっていったのか、また戦時経済体制の構築にあたって、こうした構造がどのような問題を惹起し、さらに戦争経済力にどのような影響を及ぼしていったのかを学んでいきます。
- ◆**学修到達目標** 1900年代の日本資本主義の確立期から第2次世界大戦までの日本経済の構造的特徴とその問題点、そして、そうした構造が戦争経済力にどのように影響したのかについて説明することができるようになる。
- ◆**授業方法** 講義形式。授業は、当日配布するプリント資料を中心に進めていくが、理解を確認するために何回か「確認プリント」を実施する予定です。「確認プリント」を実施した場合には、プリントは翌日返却します。
- ◆**履修条件**
- ◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容: 日本経済史をなぜ学ぶのか、確立期日本資本主義の構造的特徴 事前学修: シラバスで全体の授業内容を確認しておくこと。 事後学修: 確立期日本資本主義の構造的特徴についてまとめておくこと。
2回	授業内容: 日清・日露の「戦後経営」と日本経済 事前学修: 前回の授業内容を再度確認するとともに、プリント資料を中心に参考図書等で今回の授業内容の関係するところを予め理解しておくこと。 事後学修: 日清・日露の「戦後経営」が日本経済に与えた影響についてまとめておくこと。
3回	授業内容: 産業の発展と財閥 事前学修: 前回の授業内容を再度確認するとともに、プリント資料を中心に参考図書等で今回の授業内容の関係するところを予め理解しておくこと。 事後学修: 日清・日露の「戦後経営」の時期の日本の軽工業・重工業の発展についてまとめておくこと。
4回	授業内容: 第1次世界大戦と日本経済 事前学修: 前回の授業内容を再度確認するとともに、プリント資料を中心に参考図書等で今回の授業内容の関係するところを予め理解しておくこと。 事後学修: 日清・日露の「戦後経営」で国民経済の危機に瀕した日本経済と第1次世界大戦が日本経済にもたらした影響についてまとめておくこと。
5回	授業内容: 1920年代の日本経済 事前学修: 前回の授業内容を再度確認するとともに、プリント資料を中心に参考図書等で今回の授業内容の関係するところを予め理解しておくこと。 事後学修: 1920年代の日本経済の状況についてまとめておくこと。
6回	授業内容: 重化学工業の発展 事前学修: 前回の授業内容を再度確認するとともに、プリント資料を中心に参考図書等で今回の授業内容の関係するところを予め理解しておくこと。 事後学修: 日本の重化学工業の発展と独占の形成についてまとめておくこと。
7回	授業内容: 労働運動・小作争議の高揚 事前学修: 前回の授業内容を再度確認するとともに、プリント資料を中心に参考図書等で今回の授業内容の関係するところを予め理解しておくこと。 事後学修: 第1次世界大戦以降の労働運動・小作争議の高揚についてまとめておくこと。
8回	授業内容: 金解禁と井上財政 事前学修: 前回の授業内容を再度確認するとともに、プリント資料を中心に参考図書等で今回の授業内容の関係するところを予め理解しておくこと。 事後学修: 金解禁の背景と井上財政の内容についてまとめておくこと。
9回	授業内容: 昭和恐慌と高橋財政 事前学修: 前回の授業内容を再度確認するとともに、プリント資料を中心に参考図書等で今回の授業内容の関係するところを予め理解しておくこと。 事後学修: 昭和恐慌の内容と高橋財政についてまとめておくこと。
10回	授業内容: 戦時経済体制の構築 事前学修: 前回の授業内容を再度確認するとともに、プリント資料を中心に参考図書等で今回の授業内容の関係するところを予め理解しておくこと。 事後学修: 戦時経済体制の構築の背景と課題についてまとめておくこと。
11回	授業内容: 戦時経済体制の崩壊(1) 統制経済の再編・強化 事前学修: 前回の授業内容を再度確認するとともに、プリント資料を中心に参考図書等で今回の授業内容の関係するところを予め理解しておくこと。 事後学修: 戦時経済体制の構築上の問題点と経済統制強化の過程についてまとめておくこと。
12回	授業内容: 戦時経済体制の崩壊(2) 戦争経済力の崩壊 事前学修: 前回の授業内容を再度確認するとともに、プリント資料を中心に参考図書等で今回の授業内容の関係するところを予め理解しておくこと。 事後学修: 戦時経済体制の構造的問題点が戦争経済力にどのように影響したのかをまとめておくこと。
13回	授業内容: 戦時経済体制の帰結 事前学修: 前回の授業内容を再度確認するとともに、プリント資料を中心に参考図書等で今回の授業内容の関係するところを予め理解しておくこと。 事後学修: 戦時経済体制の構築から崩壊までをまとめておくこと。
14回	授業内容: 戦時経済体制と戦後の日本経済 事前学修: 前回の授業内容を再度確認するとともに、プリント資料を中心に参考図書等で今回の授業内容の関係するところを予め理解しておくこと。 事後学修: 戦時体制と戦後の日本経済との関係についてまとめておくこと。
15回	授業内容: 総まとめと試験 事前学修: これまでの内容のポイントを再度確認しておくこと。 事後学修: 設問に対して、重要事項を落とさず論理的に記述できたかどうかを確認する。

- ◆**教科書** 〔当日資料配布〕 授業時にプリント資料を配布します。
- ◆**参考書** 〔図説〕『概説日本経済史 近現代 第3版』 三和良一著 東京大学出版会 2012年
- ◆**成績評価基準** 授業内における確認プリントの提出（40%）、試験（60%） \*全日出席することを前提とした評価です。
- ◆**授業相談（連絡先）**: 初回授業時に案内します。

### 注意

◆**授業概要** 法学入門、商法～会社法改正の歴史、株式会社の設立(機関全般を含む)、株式等を講義する。会社法制定後の改正及び令和元年12月4日に成立した改正法に基づいた講義を行う為、通信教材は内容が古すぎ、六法は一部対応していない部分があるので指定の教科書を使用の事。教科書記載の内容だけではなく、実務体験に基づいた講義や検索等の実演、パワーポイントによる要点整理を行う。

◆**学修到達目標** 会社法は経済活動と密接に関わり、厳しすぎる規制は起業減少・倒産増加・拠点の移転等により、緩すぎる規制は悪徳商法の蔓延・企業不祥事・労働環境悪化等により、ともに経済の衰退や社会不安をもたらす。こうした観点から会社法の規制を捉え、バランス感覚を養えるとともに、商慣習や例外規定にも留意する習慣を身に着けることで、実務やリスクマネジメントを適法・適正に行えるようになる。

◆**授業方法** パワーポイントで要点整理及び教科書未掲載の内容を示し、教科書に基づいた講義を行う。会社法の条文や実務は条文順に勉強しても理解でくなく、教科書にアンダーラインを引いたり、タックを貼ったりすることで、テストや実務に役立つようになる。レポートはネットや書籍利用又は体験による調査レポートである。

◆**授業計画**

1回	授業内容	初学者の為の法学入門、商法制定～会社法制定に至る歴史
	事前学修	教科書3頁～21頁を中心に教科書の歴史該当部分を勉強する。
	事後学修	パワーポイントによる講義(特に教科書に掲載していない部分)を反映して事前学習の内容とすり合わせる。
2回	授業内容	商法制定～会社法制定に至る歴史(特に平成以前に生まれた人の知識・常識を刷新する為の法律改正の歴史)
	事前学修	教科書3頁～21頁を中心に教科書の該当部分を勉強しておく。
	事後学修	講義を反映して事前学習の内容とすり合わせる。
3回	授業内容	会社の種類※レポート課題(選択肢)
	事前学修	教科書の該当部分を勉強しておく。
	事後学修	講義を反映して事前学習の内容とすり合わせる。
4回	授業内容	株式会社・有限会社の機関設計※レポート課題(選択肢)
	事前学修	教科書(機関)の該当部分を勉強しておくとともに、改正の歴史の部分も復習しておく。
	事後学修	講義を反映して事前学習の内容とすり合わせる。
5回	授業内容	株式会社の設立(発起人・定款等)
	事前学修	教科書の該当部分を勉強しておく。
	事後学修	パワーポイントによる講義(特に教科書に掲載していない部分)を反映して事前学習の内容とすり合わせる。
6回	授業内容	株式会社の設立(変態設立・検査役の調査等)
	事前学修	教科書の該当部分を勉強しておく。
	事後学修	パワーポイントによる講義を反映して事前学習の内容とすり合わせる。
7回	授業内容	株式会社の設立(役員を選任・仮払込み・発起人の責任等)
	事前学修	教科書の該当部分を勉強しておく。
	事後学修	講義を反映して事前学習の内容とすり合わせる。
8回	授業内容	株式(基本的な知識、株券等)
	事前学修	株式についての基本的な知識、株式の種類について教科書の該当部分を勉強しておく。
	事後学修	講義を反映して事前学習の内容とすり合わせる。
9回	授業内容	株式(株式の種類)※レポート課題(選択肢)
	事前学修	教科書の該当部分を勉強する。
	事後学修	講義を反映して事前学習の内容とすり合わせる。
10回	授業内容	株式(株主名簿・株主総会)※レポート課題(選択肢)
	事前学修	教科書の該当部分を勉強する。
	事後学修	パワーポイントによる講義(特に教科書に掲載していない部分)を反映して事前学習の内容とすり合わせる。
11回	授業内容	株式(株式の譲渡)※ここまでの所のWEBテスト範囲
	事前学修	教科書の該当部分を勉強する。
	事後学修	パワーポイントによる講義(特に教科書に掲載していない部分)を反映して事前学習の内容とすり合わせる。
12回	授業内容	株式(相続人等に対する株式売渡請求、株主の権利行使に関する利益供与)※レポート課題(選択肢)
	事前学修	教科書の該当部分を勉強する。
	事後学修	パワーポイントによる講義(特に教科書に掲載していない部分)を反映して事前学習の内容とすり合わせる。
13回	授業内容	株式(募集株式の発行等)
	事前学修	教科書の該当部分を勉強する。
	事後学修	講義を反映して事前学習の内容とすり合わせる。
14回	授業内容	株式等買取請求権(総論)
	事前学修	教科書の該当部分を勉強する。
	事後学修	パワーポイントによる講義を反映して事前学習の内容とすり合わせる。
15回	授業内容	授業まとめ(質問・テスト解答フィード・バック)
	事前学修	教科書の該当部分を勉強する
	事後学修	授業内容のまとめ及びフィードバックを反映してWEBテスト自己採点(厳しめに採点して間違った所を復習)

◆**教科書** 「会社法講義 令和元年改正対応増補版」酒巻俊之著 桜門書房(2020. 7. 30)

◆**参考書(参考文献等)** 令和2年版 六法(出版社の指定なし、判例付き可)※ただし、令和元年改正未対応。

◆**成績評価基準** 出席チェック&アンケート(20%)、レポート(40%)、WEBテスト(40%)※レポート・WEBテストとも当日ではないので、ネット・教科書等を参照してじっくり作成・解答することができます(出席のみ当日チェックをお願いします)。

# 講座内容（シラバス）

## 〔保険総論〕

岡田 太

- ◆**授業概要** 少子高齢化が進む日本において、政府の財政負担の制約なども重なり、社会保障の中核を担う社会保険制度改革が課題となっている。授業を通じて、年金、医療、介護、労働の各社会保険について、持続可能な制度をデザインする考え方や基礎知識を習得する一方、それをふまえて民間保険の役割を理解し、ライフプランを作成する力を養う。
- ◆**学修到達目標**
  - ・ 保険の基礎理論を理解し、それをもとに、保険に関する諸問題を分析、考察し、改善することができる。
  - ・ 社会保険の歴史、制度および課題を理解できるようになる。
  - ・ グループ・ワークを通じて、具体的な保険の課題に対する問題設定、仮説論証を行うことができる。
- ◆**授業方法** 講義とグループワークの2本立てで実施する。講義はスライドによる説明に加え、演習問題を随時織り交ぜ知識の定着を目指す。グループワークは3～4人でグループを結成してから、テーマを決定し計画書を作成する。その後、レポート作成、発表、ディスカッション、レポート提出の順序で進める。最後に、授業のまとめと復習を行い、テストを実施する。レポートは1人2000字程度を目安とする。なお、文献・資料調査を行うため、インターネットに接続できるノートPCがあると便利である。
- ◆**履修条件** グループワークは各社会保険から関心のテーマを選んで作成するため、テキストの社会保険に該当する章を精読すること。スクーリング期間内に1人2000字程度のレポートを作成する。準備に相応の時間が必要なことを理解して履修すること。インターネットに接続できるノートPCがあると便利である。
- ◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容：ガイダンス、保険の存在意義・リスクとは何かから紐解き、保険の果たす役割を学ぶ 事前学修：教科書の第1章と第2章を精読し、キーワードを理解する 事後学修：講義内容と配布資料（演習問題）を確認し、ポイントを理解する
2回	授業内容：保険の仕組み－保険の原理・原則を学び、保険の機能・経済効果を理解する 事前学修：教科書の第3章を精読し、キーワードを理解する 事後学修：講義内容と配布資料（演習問題）を確認し、ポイントを理解する
3回	授業内容：保険の機能を制約する逆選択とモラルハザードを理解する 事前学修：教科書の第6章を精読し、キーワードを理解する 事後学修：講義内容と配布資料（演習問題）を確認し、理解する
4回	授業内容：グループ・ミーティング：グループ毎にテーマ決定、計画書の完成 事前学修：グループワークの進め方を理解し、参加するための準備を行う 事後学修：計画書に従い、レポート作成を開始する
5回	授業内容：年金保険制度をリ・デザインする 事前学修：教科書の第25章を精読し、キーワードを理解する 事後学修：教科書、配布資料を確認して、公的年金保険の歴史・制度・課題を理解する
6回	授業内容：医療保険制度をリ・デザインする 事前学修：教科書の第26章を精読し、キーワードを理解する 事後学修：教科書、配布資料を確認して、公的医療保険の歴史・制度・課題を理解する
7回	授業内容：介護保険制度をリ・デザインする 事前学修：教科書の第27章を精読し、キーワードを理解する 事後学修：教科書、配布資料を確認して、公的介護保険の歴史・制度・課題を理解する
8回	授業内容：労働保険制度をリ・デザインする 事前学修：教科書の第28章を精読し、キーワードを理解する 事後学修：教科書、配布資料を確認して、労働保険の歴史・制度・課題を理解する
9回	授業内容：社会保険と民間保険の役割分担を考える 事前学修：教科書の第24章を精読し、キーワードを理解する 事後学修：教科書、配布資料を確認して、生活保障システムの役割を理解する
10回	授業内容：グループ・ミーティング：レポート作成、プレゼンに向けた打ち合わせ 事前学修：レポートの草稿（完成度80%程度）を作成する 事後学修：レポートの完成稿を作成し、プレゼンの役割分担の確認と準備を行う
11回	授業内容：社会保険の将来展望－持続可能な制度デザインを考える 事前学修：教科書の第24章から第28章、配布資料およびウェブサイトを活用して論点を整理する 事後学修：論点を整理して持続可能な社会保険制度のデザインを構想する
12回	授業内容：課題に対するプレゼンテーション（グループ毎に評価を行う） 事前学修：作成したレポートをもとにプレゼンの準備を行う 事後学修：プレゼンテーションのふりかえりを行う
13回	授業内容：課題に対するグループ・ディスカッション（ワークシートに記入） 事前学修：レポート、プレゼンをふまえてディスカッションの準備を行う 事後学修：ディスカッションのふりかえりを行う
14回	授業内容：まとめと確認・質疑応答 事前学修：テキストと講義資料を熟読し、疑問点を整理する 事後学修：ポイントを確認し、内容を整理すること
15回	授業内容：テストと解説 事前学修：授業内容で示したポイントを中心にテストの準備を行う 事後学修：テストを通じて理解不足な事項を確認し、理解できるようにする

- ◆**教科書** 関沼『はじめて学ぶリスクと保険』下和田功、他著、第4版、有斐閣、2014年
- ◆**参考書** 〔当日資料配布〕スライド表示するものと同じ資料を配布
- ◆**成績評価基準** 試験（50%）、レポート（25%）、プレゼンテーション・ディスカッション（15%）および授業参加度（10%）により、総合的に判断する。授業参加度は、演習問題に対する議論やグループワークに対する取り組みを指す。
- ◆**授業相談（連絡先）**：質問などについては、メール（okada.futoshi@nihon-u.ac.jp）で対応する。

注意

# 講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

【会計学】 オープン受講：不可

青木 隆

- ◆**授業概要** この授業は、会計学の入門編として財務会計の基礎を学修します。財務会計とは、企業外部の利害関係者（株主・債権者等）を報告対象とする会計領域であり、その報告内容は、主に貸借対照表や損益計算書といった財務諸表です。この財務諸表の作成過程が複式簿記です。そのため、会計学の理論的な側面だけでなく、複式簿記における実際の仕訳例なども示しながら、計算的な側面でも理解できるように授業を進めていきます。簿記論Ⅰを履修済みまたは履修中であることが望ましい。
- ◆**学修到達目標** 1. 財務会計に関する基本的な考え方が理解できるとともに、それを説明できるようになる。  
2. 財務会計の理論的な側面と計算的な側面を相互に関連させて説明できるようになる。  
3. 財務諸表の種類およびその内容について説明できるようになる。
- ◆**授業方法** まずテキストおよび当日配布資料をもとに、財務会計の基本的な考え方を具体的な仕訳例なども用いながら解説します。次に、各単元終了後、出欠の確認のため、当日の講義内容に基づく確認テストを行います。講義最終日に試験を実施します。
- ◆**履修条件** 簿記論Ⅰを履修済みまたは履修中であることが望ましい。
- ◆**授業計画** 【各90分】

1回	授業内容 ガイダンス 財務会計の概要と基礎的前提 財務会計とは何か、また財務会計を学修するうえで必要不可欠な基礎的な前提を説明します。 事前学修 (テキスト) 3～13ページを通読 事後学修 テキストおよびレジュメの内容を整理し、確認テストの内容を復習
2回	授業内容 財務諸表の種類とその概要 複式簿記の基礎 貸借対照表や損益計算書といった主要財務諸表の概要を説明し、その作成プロセスとなる複式簿記の概要を説明します。 事前学修 (テキスト) 13～40ページを通読 事後学修 テキストおよびレジュメの内容を整理し、確認テストの内容を復習
3回	授業内容 貸借対照表の様式と分類基準 貸借対照表の能力と評価 貸借対照表の表示の仕方や分類を説明したうえで、貸借対照表に表示される項目や金額の要件などを説明します。 事前学修 (テキスト) 41～56ページを通読 事後学修 テキストおよびレジュメの内容を整理し、確認テストの内容を復習
4回	授業内容 流動資産の会計 貸借対照表の資産のうちで比較的短期間に現金化される流動資産の会計について説明します。 事前学修 (テキスト) 56～70ページを通読 事後学修 テキストおよびレジュメの内容を整理し、確認テストの内容を復習
5回	授業内容 有形固定資産の会計 貸借対照表の資産のうちで使用や投資に用いる固定資産の中で、具体的な存在形態を有する有形固定資産の会計について説明します。 事前学修 (テキスト) 70～84ページを通読 事後学修 テキストおよびレジュメの内容を整理し、確認テストの内容を復習
6回	授業内容 無形固定資産・投資その他の資産と繰延資産の会計 貸借対照表の資産のうちで使用や投資に用いる固定資産の中で、具体的な存在形態を有しない無形固定資産や投資その他の資産、さらに資産の中では異質な特徴を有する繰延資産の会計について説明します。 事前学修 (テキスト) 84～96ページを通読 事後学修 テキストおよびレジュメの内容を整理し、確認テストの内容を復習
7回	授業内容 流動負債と固定負債の会計 貸借対照表の負債のうち、引当金を除く流動負債および固定負債の会計について説明します。 事前学修 (テキスト) 96～103ページを通読 事後学修 テキストおよびレジュメの内容を整理し、確認テストの内容を復習
8回	授業内容 引当金の会計 引当金の要件や根拠、各種引当金の概要について説明します。 事前学修 (テキスト) 103～115ページを通読 事後学修 テキストおよびレジュメの内容を整理し、確認テストの内容を復習
9回	授業内容 純資産の会計(1)ー資本金と資本剰余金の会計 貸借対照表の純資産の中で、株主に帰属する株主資本のうち、株主が払い込んだ部分を構成する資本金および資本剰余金の会計について説明します。 事前学修 (テキスト) 115～133ページを通読 事後学修 テキストおよびレジュメの内容を整理し、確認テストの内容を復習
10回	授業内容 純資産の会計(2)ー利益剰余金等の会計 貸借対照表の純資産の中で、株主に帰属する株主資本のうち、過去の利益の蓄積額である利益剰余金、また株主資本以外の純資産を構成する評価・換算差額等、新株予約権の会計について説明します。 事前学修 (テキスト) 133～152ページを通読 事後学修 テキストおよびレジュメの内容を整理し、確認テストの内容を復習
11回	授業内容 損益計算書の分類と営業損益の計算 損益計算書の分類を概観したうえで、主たる営業活動から生じる損益である営業損益の計算について説明します。 事前学修 (テキスト) 153～174ページを通読 事後学修 テキストおよびレジュメの内容を整理し、確認テストの内容を復習
12回	授業内容 営業外損益・特別損益・当期純損益の計算 主たる営業活動以外の活動から生じる損益である営業外損益、特別損益および当期純利益の計算について説明します。 事前学修 (テキスト) 174～183ページを通読 事後学修 テキストおよびレジュメの内容を整理し、確認テストの内容を復習
13回	授業内容 損益計算に対する基本思考 損益計算に対する基本的考え方について説明します。 事前学修 (テキスト) 183～190ページを通読 事後学修 テキストおよびレジュメの内容を整理し、確認テストの内容を復習
14回	授業内容 企業会計原則における一般原則 財務諸表の作成指針となる一般原則としての立場を有する、企業会計原則における一般原則について説明します。 事前学修 (テキスト) 203～207ページを通読 事後学修 テキストおよびレジュメの内容を整理し、確認テストの内容を復習
15回	授業内容 授業のまとめおよび試験 これまでの講義の総括を行った後に試験を行います。 事前学修 これまでの講義内容を整理しておいてください。 事後学修 試験の内容を整理してください。

◆**教科書** 丸沼『基礎財務会計（最新版）』五十嵐邦正 森山書店  
【事前資料配布】

◆**参考書** 丸沼『演習財務会計（最新版）』五十嵐邦正 森山書店  
丸沼『会計法規集（最新版）』中央経済社

◆**成績評価基準** 毎回出席することを前提に確認テスト（30%）と試験（70%）により総合的に評価します。

## 注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。



# 講座内容（シラバス）

## 〔英語科教育法Ⅱ〕

隅田 朗彦

- ◆**授業概要** 中学校・高等学校における3つの資質・能力および外国語の5つの領域の指導と各領域を支える言葉の要素の指導について概要を理解し、基本的な知識と技能を身につける。また、複数の領域を統合した言語活動の方法論を実践できるようにする。さらに、教材やICTの活用、英語による授業展開、チームティーチング、生徒の個人差に応じた指導など、今求められている英語教育についての知識を得る。加えて、担当者の中学校・高等学校現場での教職経験に関わる話に基づき、理論や概念と現場の状況とのを比較する。
- ◆**学修到達目標**
  1. 3つの資質・能力および5つの領域の指導について、教師として行うべきことを知る。
  2. 上記の資質・能力の養成および各領域および複数の領域を統合した技能の向上を狙った教材や教授法を知り、作成や実施ができる。
  3. 現在の英語科教育に係る諸問題点を把握し、改善案を考えることができる。
- ◆**授業方法** 教科書の内容について担当教員が講義形式で補足解説を加えたのち、ディスカッション課題あるいは教科指導に関わる実践課題を提示する。提示された課題の趣旨に応じ、教科書等の資料を踏まえたディスカッションや教材の作成等を行い、成果をまとめること。また、検定教科書に準じた言語活動を考え、模擬授業としての実践も行う。

### ◆履修条件

### ◆授業計画〔各90分〕

1回	授業内容：学習指導要領とカリキュラム・マネジメント 事前学修：シラバスおよび教科書目次の確認 事後学修：年次カリキュラムの策定演習課題に取り組む
2回	授業内容：リスニング（聞くこと）の指導 事前学修：教科書第6章（pp. 68-80）を読む 事後学修：リスニングから発表活動に移行する活動を考える小課題に取り組む
3回	授業内容：リーディング（読むこと）の指導 事前学修：教科書第7章（pp. 81-91）を読む 事後学修：リーディングから発表活動に移行する活動を考える小課題に取り組む
4回	授業内容：スピーキング（やり取り・発表）の指導 事前学修：教科書第8章（pp. 92-106）を読む 事後学修：受容活動からスピーキングに移行する活動を考える小課題に取り組む
5回	授業内容：ライティング（書くこと）の指導 事前学修：教科書第9章（pp. 107-119）を読む 事後学修：受容活動からライティングに移行する活動を考える小課題に取り組む
6回	授業内容：領域統合型の言語活動の指導 事前学修：教科書第10章（pp. 120-132）を読む 事後学修：5領域統合型の言語活動を考える小課題に取り組む
7回	授業内容：音声と文字の指導 事前学修：自己の受けた教育における音声、文字指導と学習指導要領の記述を比較する 事後学修：音声・文字指導についての確認課題に取り組む
8回	授業内容：文法指導・語彙・表現指導 事前学修：教科書第11～12章（pp. 133-148）を読む 事後学修：フォーカス・オン・フォームに基づく指導法を考える小課題に取り組む
9回	授業内容：異文化間理解の指導 事前学修：教科書第13章（pp. 149-160）を読む 事後学修：異文化間理解の具体的な方法を考える小課題に取り組む
10回	授業内容：授業の準備と計画：教材研究、ICTの活用、生徒の特性に応じた指導 事前学修：教科書第4章（pp. 43-55）を読む 事後学修：配布された教材の教材研究の観点を考える小課題に取り組む
11回	授業内容：授業の形態：英語でのインタラクティブ、チームティーチング 事前学修：教科書 pp. 220-234 を読む 事後学修：英語で授業することの意義に関する確認課題に取り組む
12回	授業内容：指導案の準備と作成(1)：目標と計画について 事前学修：教科書第14～15章（pp. 162-190）を読む 事後学修：模擬授業を行う授業の全体像を再考確認する
13回	授業内容：指導案の準備と作成(2)：教材研究等について 事前学修：模擬授業用の教材を確認、教科書第16章（pp. 191-201）を読む 事後学修：授業中に考えて観点を基に教材研究をさらに詰める
14回	授業内容：指導案の準備と作成(3)：言語活動の準備 事前学修：配布教材の教材研究をさらに突き詰める 事後学修：作成した言語活動に問題がないかを確認し、模擬授業に備える
15回	授業内容：到達度の確認：模擬指導 事前学修：模擬指導のリハーサル 事後学修：模擬指導に対する他の受講生からのコメントを参照する

- ◆**教科書** 関国『行動志向の英語科教育の基礎と実践』JACET 教育問題研究会 三修社 2017年 ISBN: 978-4384058765
- ◆**参考書** 小学校学習指導要領（文科省ホームページよりダウンロード可）  
中学校学習指導要領（文科省ホームページよりダウンロード可）  
高等学校学習指導要領（文科省ホームページよりダウンロード可）
- ◆**成績評価基準** 指導実践演習（40%）、授業内課題（60%）によって評価します。
- ◆**授業相談（連絡先）**：メールにて受け付けます。sumida.akihiko@nihon-u.ac.jp

### 注意

◆**授業概要** 本授業を通じ、中学・高等学校で地誌学分野を取り扱う際に必要な知識と考え方を得ることを目標とします。地誌分野を教える際に必要な基本的概念を学び、地図を用いて地域を読み解く力をつけることを目指します。

◆**学修到達目標** ・地域を地誌的な視点から分析することができる。  
 ・地形図の読み方を習得し、地域の地理的特徴を読解することができる。

◆**授業方法** ・授業はパワーポイントと配布資料を用いておこないます。  
 ・3日間の授業内で、地図を用いた読図実習をおこない、授業内で課題を提出してもらいます。  
 ・3日間ともに色鉛筆(5色程度)、携帯用の小型鉛筆削り、15~30cm程度の定規を必ず持参すること。(等高線の読み取りをおこないますが、読み取りにくい場合は虫眼鏡等を準備して下さい。)  
 ・質問は、授業開始時に配布するフィードバックペーパーを活用して下さい。

◆**履修条件** 教職課程履修者の受講を推奨します。

◆**授業計画**

1回	授業内容	ガイダンスおよび「地理学」の見方・考え方
	事前学修	高校地理の学習範囲を見直しておくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、地理学的な地域の見方を確認しておくこと。
2回	授業内容	「地誌学」の見方・考え方
	事前学修	地誌学とは何か、予習しておくこと。
	事後学修	地誌学的な地域の見方を復習しておくこと。
3回	授業内容	ゲストスピーカーによる講義(予定)
	事前学修	教科書に書かれた内容を見直しておくこと。
	事後学修	講義で紹介された地域の地誌について、各自でさらなる学習をおこなうこと。
4回	授業内容	地形図の読み方 i) 縮尺、地図記号
	事前学修	準備した地形図を見て、縮尺と地図記号の種類を確認しておくこと。
	事後学修	授業で配布したプリントをもとに、準備した地形図の土地利用を確認しておくこと。
5回	授業内容	地形図の読み方 ii) 等高線
	事前学修	等高線とは何か、参考書やインターネット等で調べておくこと。
	事後学修	準備した地形図中の等高線を読み、その地域の地形的特徴をまとめておくこと。
6回	授業内容	地形図の読み方 iii) 地形断面図
	事前学修	準備した地形図を見て、地形の特徴を確認しておくこと。
	事後学修	準備した地形図中の断面図から読み取れる地形的特徴をまとめておくこと。
7回	授業内容	琉球列島を地図から読み解くー喜界島編ー i) 隆起サンゴ礁の地形
	事前学修	2万5千分の1地形図「喜界島北部・南部」の地形的特徴を確認しておくこと。
	事後学修	授業で紹介された専門用語について復習しておくこと。
8回	授業内容	琉球列島を地図から読み解くー喜界島編ー ii) 隆起サンゴ礁が作る段丘地形判読
	事前学修	地形図中にみられる海成段丘の分布について、予察を進めておくこと。
	事後学修	段丘区分図を完成させること。
9回	授業内容	琉球列島を地図から読み解くー喜界島編ー iii) 他の隆起サンゴ礁の島との比較
	事前学修	地理院地図で他の琉球列島の島の地形的特徴を確認しておくこと。
	事後学修	授業で紹介した島の地形図を地理院地図で確認しておくこと。
10回	授業内容	琉球列島を地図から読み解くー喜界島編ー iv) 石垣が作る気候景観
	事前学修	気候景観とは何か、調べておくこと。
	事後学修	喜界島の気候景観の特徴についてまとめておくこと。
11回	授業内容	災害を地図から読み解く i) 地理学と災害
	事前学修	J-STAGE(電子ジャーナル)で地理学者による災害の先行研究を検索し、いくつかの論文を読んでおくこと。
	事後学修	災害研究における地理学の役割について、自分の考えをまとめておくこと。
12回	授業内容	災害を地図から読み解く ii) 火山地形の形成プロセス
	事前学修	雲仙普賢岳の噴火史を調べておくこと。
	事後学修	地形図を読み、雲仙普賢岳の噴火の痕跡を判読しておくこと。
13回	授業内容	災害を地図から読み解く iii) 新旧地形図の判読
	事前学修	2万5千分の1地形図「島原」、「雲仙」から読み取れる地形的特徴を確認しておくこと。
	事後学修	新旧地形図の判読から読み取れた事項をまとめておくこと。
14回	授業内容	災害を地図から読み解く iv) 人びとの暮らしと防災
	事前学修	島原市のハザードマップをインターネットで閲覧しておくこと。
	事後学修	自分の身近な地域の地形図とハザードマップを見て、起こり得る災害と防災のあり方についてまとめておくこと。
15回	授業内容	総括
	事前学修	これまでの授業資料をもとに、復習をしておくこと。
	事後学修	地誌学的アプローチによる地域の見方をまとめておくこと。

◆**教科書** 『地誌学/地誌学概論/地理学概論(地誌を含む)』 通信教育教材(永野征男・羽田麻美著)  
 プリントは当日配布しますが、地形図(計4枚)は必ず事前に購入して初日の授業に持参して下さい。

【重要】地形図について(要事前購入)

国土地理院発行の地形図(以下の計4枚)をあらかじめ購入し、スクーリングに持参すること。これらの地形図は本授業を進める上で必須の教材です。今年度より、地形図を準備していない受講生は成績評価基準の「授業内におこなう読図課題」の配点を減点します。

- 1) 2万5千分の1地形図「島原」(H30.3.1発行,多色刷)税込435円
- 2) 2万5千分の1地形図「雲仙」(H28.12.1発行,多色刷)税込435円
- 3) 2万5千分の1地形図「喜界島北部」(H20.3.1発行,3色刷)税込356円
- 4) 2万5千分の1地形図「喜界島南部」(H20.3.1発行,3色刷)税込356円

※購入後は、1)と2)、3)と4)の地形図をそれぞれ糊で貼付し、1枚の連続する地形図にしておいて下さい。

\*\*\*\*\*

《地形図の購入方法》 以下の①or②を推奨します。

- ①日本地図センター (<http://www.jmc.or.jp/buy.html>) のネットショッピングで購入。送料は、ネコポスを選択すると全国一律360円です。
- ②日本地図センターウェブサイト内の地図販売店一覧 (<http://www.jmc.or.jp/hanbai.html>) を参照し、販売店で直接購入。売り切れの場合があるため、事前に電話で確認した方が良いでしょう。

注意事項1：購入する地形図の縮尺は、「2万5千分の1」です。5万分の1地形図と間違えないよう注意して下さい。

注意事項2：地形図の発行年は、シラバス作成時（2020年3月）に販売している地形図の発行年になります。購入時に最新版に更新されている場合は、その時に販売されている最新版の地形図を購入して下さい。

\*\*\*\*\*

- ◆**参考書(参考文献等)** 『建設技術者のための地形図読図入門1～4』，鈴木 隆介，古今書院  
『大学テキスト 地図読解入門 追補版』，籠瀬良明（著）・ト部勝彦（追補），古今書院  
『読みたくなる「地図」 東日本編/西日本編：日本の都市はどう変わったか』，平岡 昭利，海青社  
※参考書はスクーリングに持参する必要はありません。

- ◆**成績評価基準** 授業内におこなう読図課題（50%），試験（50%）。全ての授業に出席することを前提として、総合的に評価します。課題未提出者は、単位取得が不可能です。  
※試験は最終日の5時限目（17：30終了）に実施します。

# 講座内容（シラバス）

## 〔生涯学習論〕

三輪 建二

◆**授業概要** 生涯学習は1965年のユネスコ国際委員会で提唱され、日本でもその理論化と実践化が進められている。今回の講義では、主に以下の2点について講義する。

- ①生涯学習の視点が個人の自発的な学習から、学習成果を社会に生かす「共生」の視点へ移っている点を理解する。
- ②成人学習者の特性を生かした学習理論（自己決定性、経験の尊重、省察など）について検討する。

◆**学修到達目標** ①生涯学習について理論的な把握だけでなく、自分の生活や仕事と結び付けながら説明することができる。

- ②自己にとっての生涯学習から他者、社会を生かす生涯学習への視点の転換を説明することができる。
- ③自己決定性、経験の尊重、省察（リフレクション）などのキーワードを理解し、説明することができる。
- ④自らの生涯学習について、諸概念を用いながら他者に語るができる。

◆**授業方法** 毎回、パワーポイントで基本的な概念を説明する。

次に、事例検討（ケーススタディ）を行い、事例および自分に即した具体的な理解が深まるようにする。  
DVD・映像を上映することもある。

◆**履修条件**

◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容：テキスト「はじめに」と本講座の説明 事前学修：テキストの「はじめに」を予習しておくこと 事後学修：「自分にとっての生涯学習」について考える
2回	授業内容：テキスト第1章「日本社会がかかえる問題ととな」の検討とケーススタディの解説 事前学修：テキスト第1章を予習し、ケーススタディ「ヨウカン事件」を解説を読まないで考えておくこと 事後学修：授業で印象に残ったことを振り返る（振り返りシート）
3回	授業内容：テキスト第2章「成熟と共生をめざすおとなの学び」の検討とケーススタディ「ことわざと仏教の両行」の解説 事前学修：テキスト第2章を予習し、ケーススタディ「ことわざと仏教の両行」の問いを解説を読まないで考えておくこと 事後学修：授業で印象に残ったことを振り返る（振り返りシート）
4回	授業内容：テキスト第3章「おとなの学びの語られ方—生涯学習」の検討とケーススタディ「生涯学習をめぐる新聞投稿」の解説 事前学修：テキスト第3章を予習し、ケーススタディ「生涯学習をめぐる新聞投稿」の問いを解説を読まないで考えておくこと 事後学修：授業で印象に残ったことを振り返る（振り返りシート）
5回	授業内容：テキスト第4章「おとなが学ぶとはⅠ：経験の尊重と問題の設定」のうち1～3を検討、ケーススタディ「映画『学校』」の解説 事前学修：テキスト第4章1～3を予習し、ケーススタディ「映画『学校』」の問1・2・4を解説を読まないで考えておくこと（むずかしければ当日の解説を聴くので良い） 事後学修：授業で印象に残ったことを振り返る（振り返りシート）
6回	授業内容：テキスト第4章「おとなが学ぶとはⅠ：経験の尊重と問題の設定」のうち4を検討、ケーススタディ「映画『学校』」の再解説 事前学修：テキスト第4章4を予習し、ケーススタディ「映画『学校』」の問3を解説を読まないで考えておくこと（むずかしければ当日の解説を聴くので良い） 事後学修：授業で印象に残ったことを振り返る（振り返りシート）
7回	授業内容：テキスト第5章「おとなが学ぶとはⅡ：省察的实践」のうち1～4を検討 事前学修：テキスト第5章1～4を予習する 事後学修：授業で印象に残ったことを振り返る（振り返りシート）
8回	授業内容：テキスト第5章「おとなが学ぶとはⅡ：省察的实践」のうち5のケーススタディ「アトム共同保育所」の上映・解説 事前学修：テキスト第5章5のケーススタディ「アトム共同保育所」を読んでおく（映像と解説をふまえて）授業で印象に残ったことを振り返る（振り返りシート）
9回	授業内容：テキスト第6章「おとなが学ぶとはⅢ：意識変容の学習」の検討とケーススタディ「中高年に演劇集団」上映・解説 事前学修：テキスト第6章を予習し、ケーススタディ「中高年の演劇集団」の問いを解説を読まないで考えておくこと（むずかしければ当日の解説を聴くので良い） 事後学修：授業で印象に残ったことを振り返る（振り返りシート）
10回	授業内容：テキスト第7章「学びあいを創造する」の検討とケーススタディ「コミュニティ開発と同時者の学びあい」の解説 事前学修：テキスト第7章を予習し、ケーススタディ「コミュニティ開発と同時者の学びあい」の問いを解説を読まないで考えておくこと（むずかしければ当日の解説を聴くので良い） 事後学修：授業で印象に残ったことを振り返る（振り返りシート）
11回	授業内容：テキスト第8章「高等教育機関での学びあい」の検討とケーススタディ「専門知と経験知とのあいだ」の解説 事前学修：テキスト第8章を予習し、ケーススタディ「専門知と経験知とのあいだ」の問いを解説を読まないで考えておくこと 事後学修：授業で印象に残ったことを振り返る（振り返りシート）
12回	授業内容：テキスト第9章「教師の学び合い」の検討とケーススタディ「学び合う教師の授業研究」の解説 事前学修：テキスト第9章を予習し、ケーススタディ「学び合う教師の授業研究」の問いを解説を読まないで考えておくこと 事後学修：授業で印象に残ったことを振り返る（振り返りシート）
13回	授業内容：テキスト第10章「看護専門職の学び合い」の検討とケーススタディ「学び合う地域の保健師たち」の解説 事前学修：テキスト第10章を予習し、ケーススタディ「学び合う地域の保健師たち」の問いを解説を読まないで考えておくこと 事後学修：授業で印象に残ったことを振り返る（振り返りシート）
14回	授業内容：第11章「企業での学び合い」の検討とケーススタディ「センゲの学習する組織論」の解説 事前学修：第11章を予習し、ケーススタディ「センゲの学習する組織論」の問いを解説を読まないで考えておくこと 事後学修：授業で印象に残ったことを振り返る（振り返りシート）
15回	授業内容：授業のまとめ 事前学修：1回目の事後学修と同じ「自分にとっての生涯学習」について考えをまとめておく（1回目との違いを意識する） 事後学修：レポート「自分にとっての生涯学習」を1回目との違いをふまえてまとめる

◆**教科書** 『おとなの学びとは何か：学びあいの共生社会』三輪建二 鳳書房 2018  
教科書は、提携の丸沼書店よりご購入下さい（Amazonでは購入できません）。

◆**参考書** 『教師の能力開発：省察とアクションリサーチ』ナンシー&キース・アップルヤード著、三輪建二訳、鳳書房 2018  
参考書は、提携の丸沼書店よりご購入下さい（Amazonでは購入できません）。  
『教師の省察的实践：』I・ラシュトン、M・スター著、三輪建二訳、鳳書房 2018  
参考書は、提携の丸沼書店よりご購入下さい（Amazonでは購入できません）。

◆**成績評価基準** 毎回の振り返りシート（A4一枚以内）50% 授業への参加姿勢20%、終了時のレポート「自分にとっての生涯学習」30%

◆**授業相談（連絡先）**：k-miwa@gred.seisa.ac.jp

注意